

大宰府政庁周辺官衙跡Ⅺ

— 広丸地区 遺物編 —

2018

九州歴史資料館

序

当館では、平成14年3月に大宰府政庁跡の正式報告書を刊行して以来、順次大宰府史跡の発掘調査の正式報告書を刊行してきました。これまでに水城跡、観世音寺などを刊行しており、平成21年度からは大宰府政庁の周囲に広がる官衙域の調査報告書を刊行してきました。今年度は、昨年度より引き続き、大宰府政庁前面官衙域広丸地区の調査報告を発刊します。

広丸地区は、政庁周辺官衙跡のなかでももっとも西側に位置します。昭和48年度に初めて調査が行われて以来、現在までに計23回の調査を蓄積しており、奈良時代から平安時代に至る建物群や区画施設などが見つかっています。その機能や性格については他の政庁周辺官衙跡の調査成果も併せて検討する必要がありますが、大宰府に関わる官衙域の範囲や時期変遷を考察する上で、重要な所見を得ることができました。本書の発刊により、当該地区の歴史的重要性が、地域住民や研究者などに、さらに広く知っていただくこととなれば、望外の喜びでございます。

最後になりましたが、大宰府政庁周辺官衙跡の発掘調査に際しましては、日頃より大宰府史跡調査研究指導委員会をはじめ、文化庁・大宰府市教育委員会や地元の関係者各位から、多大の御指導と御協力をいただいております。ここに記して、深く感謝申し上げます。

さらに今後とも、大宰府史跡の保存・整備・活用に際しましても、関係者の皆さまと連携を密に図りながら、万全を期したいと存じております。

平成30年3月31日

九州歴史資料館

館長 杉光 誠

例 言

- 1 本書は、昭和 48 年度（1973）から福岡県が国庫補助を受け、福岡県教育委員会及び九州歴史資料館が発掘調査を実施した、大宰府政庁周辺官衙跡・広丸地区の正式報告書であり、大宰府政庁周辺官衙跡発掘調査報告書の第 11 集にあたる。
- 2 本書には、大宰府政庁周辺官衙跡の解明及び整備にかかる資料を得ることを目的として発掘調査を実施した、大宰府史跡第 29 次・95 次・96 次・96 次補足・132 次・133 次・137 次・142 次・148 次・157 次・165 次・166 次・167 次・175 次・186 次・186 次補足・193 次・202 次・202-2 次・211 次・214 次・223 次・224 次調査の成果を掲載した。
- 3 発掘調査は、大宰府史跡調査研究指導委員会の指導と承認のもとに実施した。検出遺構及び出土遺物については、各指導委員の御指導と御教示を得た。
- 4 本書掲載の写真は、当館整理指導員北岡伸一が撮影したものである。
- 5 出土遺物の整理・復元、図化・浄書は、調査概要報告時の調査員及び補助員、並びに平成 30 年度報告書作成関係者で行った。
- 6 出土遺物及び図面・写真等の記録類は、九州歴史資料館において保管する。
- 7 目次と要旨の英訳は、小澤が行った。
- 8 本書の執筆は小田・小澤・大庭・下原が行った。編集は、大庭・下原の助力を得て、小澤が行った。

目次

	頁
第I章 出土遺物	1
(1) 瓦磚類	
1) 軒先瓦類	1
2) 道具瓦類	4
3) 文字瓦	5
4) 丸・平瓦	6
(2) 土器・陶磁器類	11
1) 掘立柱建物	11
2) 柵	23
3) 竪穴住居	24
4) 溝	25
5) 土坑	52
6) 土壙墓	65
7) 井戸	66
8) 採土遺構	74
9) その他の遺構	80
(3) 木製品	106
(4) 金属製品	109
(5) 石器・石製品	111
(6) 土製品	114
(7) 文字関連資料	117
1) 定形硯	117
2) 転用硯	121
3) 墨書・刻書・墨痕土器	126
(8) その他の遺物	129
1) 製塩土器	129
2) 漆附着土器	133
3) 鍛冶・鑄造関連遺物	139
4) 白色物質附着土器	143
第IV章 総括	145
(1) 遺構とその変遷	145
(2) 出土遺物からみた広丸地区官衙の特質	151
(3) まとめ—成果と課題	152
英文目次	185
英文要旨	186

表目次

	頁
Tab. 1 軒丸瓦型式分類表	3
Tab. 2 軒丸瓦出土点数表	3
Tab. 3 軒平瓦型式分類表	4
Tab. 4 軒平瓦出土点数表	4
Tab. 5 文字瓦出土点数表	6
Tab. 6 出土瓦一覧表	154
Tab. 7 掘立柱建物出土土器等一覧	154
Tab. 8 柵出土土器等一覧	156
Tab. 9 竪穴住居出土土器等一覧	156
Tab.10 溝出土土器等一覧	157
Tab.11 自然流路出土土器等一覧	162
Tab.12 土坑出土土器等一覧	164
Tab.13 土壙墓出土土器等一覧	167
Tab.14 井戸出土土器等一覧	168
Tab.15 採土遺構出土土器等一覧	170
Tab.16 落ち込み状遺構出土土器等一覧	172
Tab.17 鑄造関連遺構出土土器等一覧	173
Tab.18 その他のピット出土土器等一覧	173
Tab.19 遺物包含層等出土土器等一覧	174
Tab.20 出土木製品一覧	179
Tab.21 出土金属器・金属製品一覧	179
Tab.22 出土石器・石製品一覧	179
Tab.23 出土土製品一覧	180
Tab.24 出土硯(定形硯・転用硯)一覧	181
Tab.25 出土墨書・刻書土器一覧	182
Tab.26 出土製塩土器一覧	182
Tab.27 出土漆付着土器一覧	183
Tab.28 出土鍛冶・鑄造関連遺物一覧	184
Tab.29 出土白色物質付着土器一覧	184

挿図目次

	頁
Fig. 1 軒丸瓦・軒平瓦実測図(1/4)	2
Fig. 2 道具瓦実測図(1/4)	5
Fig. 3 文字瓦型式拓影(1/4)	6
Fig. 4 丸瓦実測図(1/6)	8

Fig. 5	平瓦実測図 (1/6)	10
Fig. 6	掘立柱建物出土土器実測図① (2は1/6, ほかは1/3)	12
Fig. 7	掘立柱建物出土土器実測図② (1/3)	14
Fig. 8	掘立柱建物出土土器実測図③ (1/3)	16
Fig. 9	掘立柱建物出土土器実測図④ (1/3)	18
Fig.10	掘立柱建物出土土器実測図⑤ (1/3)	21
Fig.11	掘立柱建物出土土器実測図⑥ (1/3)	22
Fig.12	柵出土土器実測図 (1/3)	24
Fig.13	竪穴住居出土土器実測図 (1/3)	24
Fig.14	区画溝出土土器実測図 (1/3)	26
Fig.15	その他の区画溝出土土器実測図① (1/3)	28
Fig.16	その他の区画溝出土土器実測図② (1/3)	29
Fig.17	その他の溝出土土器実測図① (1/3)	31
Fig.18	その他の溝出土土器実測図② (1/3)	33
Fig.19	その他の溝出土土器実測図③ (1/3)	34
Fig.20	その他の溝出土土器実測図④ (1/3)	36
Fig.21	その他の溝出土土器実測図⑤ (1/3)	38
Fig.22	その他の溝出土土器実測図⑥ (1/3)	40
Fig.23	その他の溝出土土器実測図⑦ (1/3)	41
Fig.24	その他の溝出土土器実測図⑧ (1/3)	42
Fig.25	その他の溝出土土器実測図⑨ (1/3)	43
Fig.26	自然流路出土土器実測図① (1/3)	45
Fig.27	自然流路出土土器実測図② (1/3)	46
Fig.28	自然流路出土土器実測図③ (1/3)	48
Fig.29	自然流路出土土器実測図④ (1/3)	50
Fig.30	土坑出土土器実測図① (1/3)	53
Fig.31	土坑出土土器実測図② (1/3)	55
Fig.32	土坑出土土器実測図③ (1/3)	58
Fig.33	土坑出土土器実測図④ (1/3)	60
Fig.34	土坑出土土器実測図⑤ (1/3)	62
Fig.35	土坑出土土器実測図⑥ (1/3)	63
Fig.36	土壙墓出土土器実測図 (1/3)	65
Fig.37	井戸出土土器実測図① (1/3)	67
Fig.38	井戸出土土器実測図② (1/3)	69
Fig.39	井戸出土土器実測図③ (1/3)	71
Fig.40	井戸出土土器実測図④ (1/3)	73
Fig.41	採土遺構出土土器実測図① (1/3)	75
Fig.42	採土遺構出土土器実測図② (1/3)	78
Fig.43	採土遺構出土土器実測図③ (1/3)	79
Fig.44	落ち込み状遺構出土土器実測図① (1/3)	81
Fig.45	落ち込み状遺構出土土器実測図② (1/3)	82
Fig.46	鑄造関連遺構出土土器実測図 (1/3)	83

Fig.47	土器埋納ピット出土土器実測図 (1/3)	83
Fig.48	その他のピット出土土器実測図 (1/3)	85
Fig.49	遺物包含層等出土土器実測図① (1/3)	86
Fig.50	遺物包含層等出土土器実測図② (1/3)	87
Fig.51	遺物包含層等出土土器実測図③ (1/3)	89
Fig.52	遺物包含層等出土土器実測図④ (1/3)	90
Fig.53	遺物包含層等出土土器実測図⑤ (1/3)	92
Fig.54	遺物包含層等出土土器実測図⑥ (1/3)	94
Fig.55	遺物包含層等出土土器実測図⑦ (1/3)	96
Fig.56	遺物包含層等出土土器実測図⑧ (1/3)	97
Fig.57	遺物包含層等出土土器実測図⑨ (1/3)	98
Fig.58	遺物包含層等出土土器実測図⑩ (1/3)	100
Fig.59	遺物包含層等出土土器実測図⑪ (1/3)	102
Fig.60	遺物包含層等出土土器実測図⑫ (1/3)	104
Fig.61	出土木製品実測図① (1/3)	106
Fig.62	出土木製品実測図② (1/6)	107
Fig.63	出土金属製品実測図 (1/2)	109
Fig.64	出土石器実測図 (2/3)	112
Fig.65	出土石器・石製品実測図 (19～22は2/3, 23は1/2, ほかは1/3)	113
Fig.66	出土土製品実測図 (1/3)	115
Fig.67	出土壁土状土製品実測図 (1/3)	116
Fig.68	定形硯分類図 (1/6)	117
Fig.69	定形硯実測図① (1/3)	118
Fig.70	定形硯実測図② (1/3)	119
Fig.71	定形硯実測図③ (1/3)	121
Fig.72	転用硯実測図① (1/3)	122
Fig.73	転用硯実測図② (1/3)	124
Fig.74	転用硯実測図③ (1/3)	125
Fig.75	墨書・刻書・墨痕土器実測図 (1/3)	127
Fig.76	製塩土器分類図 (1/6)	129
Fig.77	製塩土器実測図① (1/3)	130
Fig.78	製塩土器実測図② (1/3)	132
Fig.79	漆付着土器分類図 (1/6)	133
Fig.80	漆付着土器実測図① (1/3)	135
Fig.81	漆付着土器実測図② (1/3)	137
Fig.82	鍛冶・鑄造関連遺物実測図① (1/3)	138
Fig.83	鍛冶・鑄造関連遺物実測図② (1/3)	141
Fig.84	白色物質付着土器実測図 (1は1/4, ほかは1/3)	144
Fig.85	広丸地区官衙跡変遷図① (1/1,500)	149
Fig.86	広丸地区官衙跡変遷図② (1/1,500)	150
写真1	横櫛	108

図版目次

PL.1	出土瓦①	PL.2	出土瓦②
PL.3	出土瓦③	PL.4	出土瓦④
PL.5	掘立柱建物出土土器①	PL.6	掘立柱建物出土土器②， 柵出土土器
PL.7	溝出土土器①	PL.8	溝出土土器②
PL.9	溝出土土器③	PL.10	溝出土土器④
PL.11	溝出土土器⑤	PL.12	溝出土土器⑥
PL.13	溝出土土器⑦	PL.14	溝出土土器⑧
PL.15	溝出土土器⑨	PL.16	溝出土土器⑩， 土坑出土土器①
PL.17	土坑出土土器②	PL.18	土坑出土土器③
PL.19	土坑出土土器④， 土壙墓出土土器①		
PL.20	土壙墓出土土器②， 井戸出土土器①		
PL.21	井戸出土土器②	PL.22	井戸出土土器③
PL.23	採土遺構出土土器， 落ち込み状遺構出土土器①		
PL.24	落ち込み状遺構出土土器②， その他のピット出土土器， 遺物包含層等出土土器①		
PL.25	遺物包含層等出土土器②	PL.26	遺物包含層等出土土器③
PL.27	遺物包含層等出土土器④	PL.28	遺物包含層等出土土器⑤
PL.29	遺物包含層等出土土器⑥	PL.30	出土木器・木製品
PL.31	出土金属器・金属製品	PL.32	出土石器・石製品
PL.33	出土土製品	PL.34	出土定形硯①
PL.35	出土定形硯②	PL.36	出土定形硯③， 転用硯①
PL.37	出土転用硯②	PL.38	出土転用硯③
PL.39	出土墨書土器・刻書土器①	PL.40	出土墨書土器・刻書土器②
PL.41	出土製塩土器①	PL.42	出土製塩土器②
PL.43	出土漆付着土器①	PL.44	出土漆付着土器②
PL.45	出土鍛冶・鑄造関連遺物①	PL.46	出土鍛冶・鑄造関連遺物②
PL.47	出土白色物質付着土器		

凡 例

1 遺構番号の頭に付した記号は、以下の遺構を示す。

※ SA：柵，SB：建物，SD：溝，SE：井戸，SK：土坑，SX：その他の遺構

2 掲載図面中，土器の断面を黒塗りしたものは須恵器，断面に網をかけたものは瓦器，内外面に網かけしたものは黒色土器及び丹塗り土器であることを示す。

3 土師器・陶磁器・瓦等の報告においては、以下の文献の型式分類・名称等に準じる。

・土 師 器：九州歴史資料館 1981『大宰府史跡 昭和 55 年度発掘調査概報』

・黒色土器：田中琢 1967「古代・中世における手工業生産の発達（4）畿内」『日本の考古学』IV

・陶 磁 器：森田勉・横田賢次郎 1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について一型式分類と編年を中心にして一」『九州歴史資料館研究論集』4

太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡XV（陶磁器分類編）』太宰府市の文化財 49 集

・古 代 瓦：九州歴史資料館 2000『大宰府史跡出土軒瓦・叩打痕文字瓦型式一覧』

九州歴史資料館 2007『観世音寺一遺物編 2一』（新形式の追加）

九州歴史資料館 2009『水城跡一下巻一』（新形式の追加）

九州歴史資料館 2013『大宰府史跡発掘調査報告書Ⅷ一平成 24・25 年度一』（新形式の追加・訂正）

下原幸裕 2017「鴻臚館式軒瓦の再検討」『九州歴史資料館研究論集 42』（形式の整理）

第 I 章 出土遺物

(1) 瓦塼類

広丸地区官衙の調査では、掘立柱建物・柵・溝・土坑・Pit等の遺構が検出され、パンケース90箱余りの瓦塼類が出土した。その大半を平瓦・丸瓦が占めるが、軒丸瓦・軒平瓦、熨斗瓦などの道具瓦もみられる。また、平瓦・丸瓦の大半は縄目タタキ・格子目タタキなどの一般的なタタキ目文様をもつが、中には少量ながら叩打痕文字瓦もみられる。

ここでは、上記のうち特徴的な瓦類を中心に報告し、一般的な平・丸瓦類については残りのよい資料のみ抽出して報告することとする。

1) 軒先瓦類

① 軒丸瓦 (Fig.1,Tab.1・2・6, PL.1・2)

軒丸瓦

大宰府史跡において、古代軒丸瓦の型式は現在60型式93種類に分類されている(型式設定は凡例の文献参照)。広丸地区では、そのうち6型式6種類11点、型式不明1点の合計12点が出土している。政庁跡で1,733点、政庁前面広場地区で196点、日吉地区で57点、不丁地区で597点、大楠地区で75点と比較すると、極端に少ない。以下、型式ごとに説明する。066型式：蓮弁はやや平板な単弁表現で、外区内縁に巴文に似た尾のある珠文が左回りに反転してめぐる。これまでの大宰府史跡の調査でも、ごく少量しか出土していない型式で、政庁跡や周辺官衙域のほか、観世音寺や筑前国分寺跡での出土が認められる。当地区ではわずか1点の出土であるが、Fig.1-1は貴重な完形資料である。

145型式：内区にはやや不揃いな菊花状の単弁がめぐるもので、範傷の進行とともに瓦範の彫り直しが行われ、本来の文様よりも線が太くなり、弁の先端も丸いものから一部尖る先端へと変化する。彫り直し以前のをa型式、彫り直し以後のをb型式としているが、このうちb型式の丸瓦部凸面には901D型式の文字銘(左字の「平井瓦」銘)が叩打された資料も確認されている。当地区ではb型式の破片が1点出土している(Fig.1-2)。

223型式：いわゆる「鴻臚館式軒丸瓦」と呼ばれるものである。端整な複弁八葉蓮華文で、外区内縁の珠文も含め、精緻な割り付けがなされている。ほぼ同文であるが一般的に出土している型式よりも一回り大きな類があり、これをL型式としている。一般的な223型式は従来、範傷の進行や瓦範の磨滅を基準にa型式からb型式への変化が設定されてきた。しかし、再検討の結果、少なくとも2種の瓦範の存在が確認できたことから、従来の223型式(a・b)をA型式、もう1種の瓦範による資料をB型式とする(下原2017)。大宰府史跡では最も主要な軒丸瓦の1つであるが、当地区ではわずかに2点が出土したのみである(Fig.1-3)。破片ながら珠文の大きさなどから、いずれも223A型式と考えられる。

鴻臚館式

275型式：いわゆる「老司式軒丸瓦」と呼ばれるものである。内区は均整のとれた複弁八葉蓮華文で、外区外縁に陽起鋸歯文をめぐらせる。中房の蓮子が1+5+10で、外区内縁の珠文と外区外縁の鋸歯文がともに31個ずつ配するA型式(老司I式)と、中房の蓮子が1+5+9で、珠文・鋸歯文とも32個ずつ配するB型式(老司II式)に細分される。前者は観世音寺の創建に伴い生産された型式で、軒平瓦560A型式と組み合わせることが判明しているが、政庁周

老司式

辺官衙域では日吉地区でわずかに1点が出土したのみであった。しかし、Fig.1-4は平成7年概報ではB型式とされていたが、外区の鋸歯文と珠文との配置からA型式であることは確実であり、ここで訂正しておきたい。なお、他の4点はいずれもB型式である。

285型式：外区が内区よりも一段高い平坦縁であるのが特徴で、文様は均整がとれている。瓦当裏面下半に突帯状の高まりを有している。中房の蓮子が1+5+9で、外区内縁の珠文が38個、外縁の鋸歯文が37個のA型式と、蓮子が1+4+8で、珠文が32個、鋸歯文が32個となり、瓦当径が一回り小さいB型式がある。当地区では、A型式が1点出土している。

290型式：内区の蓮弁は複弁八葉であるが、弁の形状が単弁状をなすのが特徴である。中房の蓮子が1+6+12で、弁の先端が方頭形になるA型式と、蓮子が1+6+10で、弁に丸突があり円形に近いB型式に分類され、前者は瓦範の磨滅等によりaとbに細分される。当地区からはA型式が1点出土している。

巴文軒丸瓦：186次調査床土から1点出土したもので、古代大宰府との関わりはないが、官衙域の土地利用の変遷を考える上で参考になるため、ここで併せて報告する (Fig.1-7)。

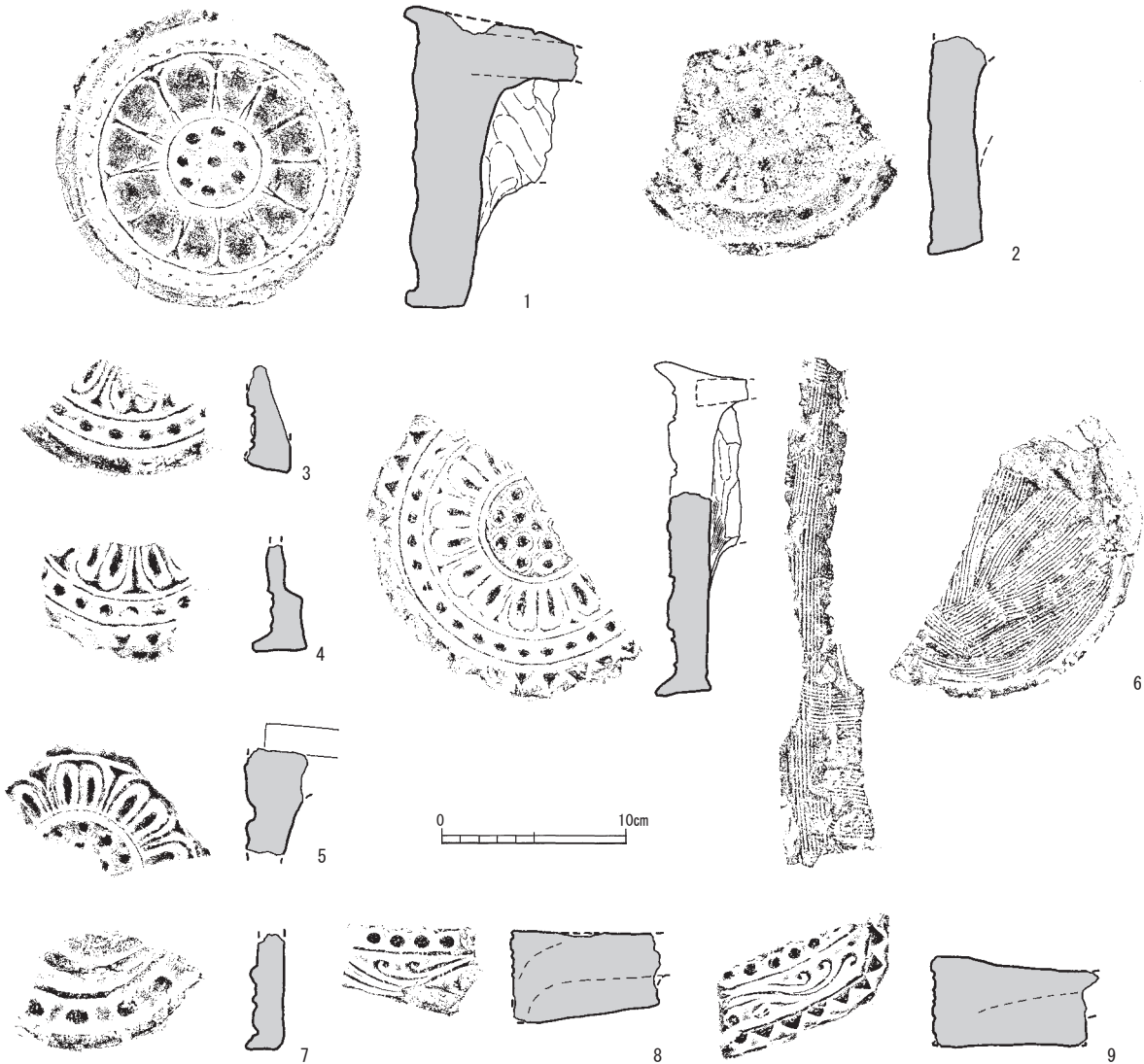


Fig. 1 軒丸瓦・軒平瓦実測図 (1/4)

Tab. 1 軒丸瓦型式分類表

形式番号	直径	内区					外区					全長	外縁形態	
		中房径	蓮子数	内区径	弁幅	弁数	外区広	内縁		外縁				
								幅	文様	幅	高			文様
066	163	50	1 + 7	121	26	T12	21	10	S36	11	8	—	—	直立縁
145b	169	50	1 + 6	123	22	T14	23	15	S25	8	3	—	—	直立縁
223A	163	51	1 + 4 + 8	111	28	F8	26	13	S24	13	5	—	—	傾斜縁
275A	176	59	1 + 5 + 10	123	27	F8	27	14	S31	13	13	RV 31	—	傾斜縁
275B	187	65	1 + 5 + 9	127	37	F8	30	14	S32	16	11	RV 32	—	傾斜縁
285A	165	54	1 + 5 + 9	111	28	F8	27	14	S38	13	2	RV 37	—	平坦縁
290A	180	67	1 + 6 + 12	122	36	F8	29	14	S38	15	21	RV 30	—	傾斜縁

Tab. 2 軒丸瓦出土点数表

型式名	点数	29次	95次	96次	142次	157次	165次	166次	175次	186次	合計	百分比 %
066	1			1							1	8.33
145 b	1			1							1	8.33
223	2		2								2	16.68
275	A	1						1			1	8.33
	B	4	1	2		1					4	33.34
285 A	1			1							1	8.33
290 A	1			1							1	8.33
型式不明	1					1					1	8.33
合計	12	0	3	6	0	2	0	1	0	0	12	100.00
巴文	1									1	1	

② 軒平瓦 (Fig.1,Tab.3・4・6, PL.2)


軒平瓦

大宰府史跡において、軒平瓦の型式分類は、現在 65 型式 104 種類に分類されている (型式設定は凡例の文献参照)。広丸地区では、そのうち 1 型式 5 点が出土しているが、政庁跡で 1688 点、政庁前面広場地区で 194 点、日吉地区で 30 点、不丁地区で 711 点、大楠地区で 63 点が出土している状況に比べると極めて少量である。

560 型式：いわゆる「老司式軒平瓦」。当地区ではこの型式しか出土していない。内区に右から左へと流れる偏行唐草文、上外区に珠文、下外区と両脇区に鋸歯文を配し、波形の違いや文様細部の差異により 6 型式 11 種類 (Aa・Ab・Aa'・Ba・Bb・Bc・E・F・G・G'・H) に分類

老司式

Tab. 3 軒平瓦型式分類表

形式番号	瓦当面												全長	顎形態		
	上弦幅	弧深	下弦幅	厚さ	内区厚さ	内区文様	上外区厚さ	上外区文様	下外区厚さ	下外区文様	脇区幅	脇区文様			外縁高	
560B		326	82	330	54	26	HK	14	S25	14	△ RV31	右16 左14	RV	2	375	段顎

Tab. 4 軒平瓦出土点数表

型式名	点数	29次	95次	96次	142次	157次	165次	166次	175次	186次	合計	百分比 %
560	560	1	1								1	20.00
	B	3		3							4	80.00
	Bb~c	1		1								
合計	5	1	3	1	0	0	0	0	0	0	5	100.00

される。A型式は老司Ⅰ式，B・G・H型式は老司Ⅱ式と呼ばれる。当地区ではB型式が4点，細分型式不明が1点出土しており，B型式のうち1点は範傷からBb～c型式と認定できる。

2) 道具瓦類

広丸地区では道具瓦の出土点数は非常に少ない。熨斗瓦2点，無文埴1点のみである。

熨斗瓦 ① 熨斗瓦 (Fig.2- 1・2, Tab.6, PL.4)

1は平瓦を横に3分割した熨斗瓦で，長さは不明，幅は11.4cmを測る。焼成はやや甘い須恵質で，色調は明灰色を呈する。凸面には縄目タタキが行われ，凹面には布目痕と模骨痕が残る。布目は3cmあたり経糸25本，緯糸29本である。右側面はへら切り1面とへらケズリ2面の面取りが行われ，左側面はへら切り面のみである。したがって，右側面は平瓦としての分割面，左側面は熨斗瓦への分割面である。95次の床土出土。

2は平瓦を横に3分割したものと推定され，それをさらに縦方向に細かく分割したもので，恐らく平瓦の狭端側右端に相当する個体である。横幅10.3cm以上，縦幅5.7cmを測る。焼成は須恵質で，色調は明灰色を呈する。凸面は縄目タタキを行うが糸切り痕も残り，凹面には糸切り痕，布目痕，模骨痕がみられる。布目はごく一部にしか残っていないが，細かい。右側面はへら切りにより2面の面取りが行われている。狭端面はへら切りされているが粘土板の合わせ目が残っており，粘土板桶巻作りであることが窺える。広端側の面は分割のための截面と破面の双方が認められる。175次の溝SD4345出土。

埴 ② 無文埴 (Fig.2- 3, Tab.6, PL.4)

既報告の前面広場・日吉・不丁・大楠の各地区では文様埴や無文埴が多数出土しているが，広丸地区では図示した1点のみの出土である。3は無文埴の小片で，全体像は不明であるが，他地区の出土状況からすると長方形埴の可能性が考えられる。厚さは7.5cmである。29次の土坑SK533・534（黒褐色土）出土である。

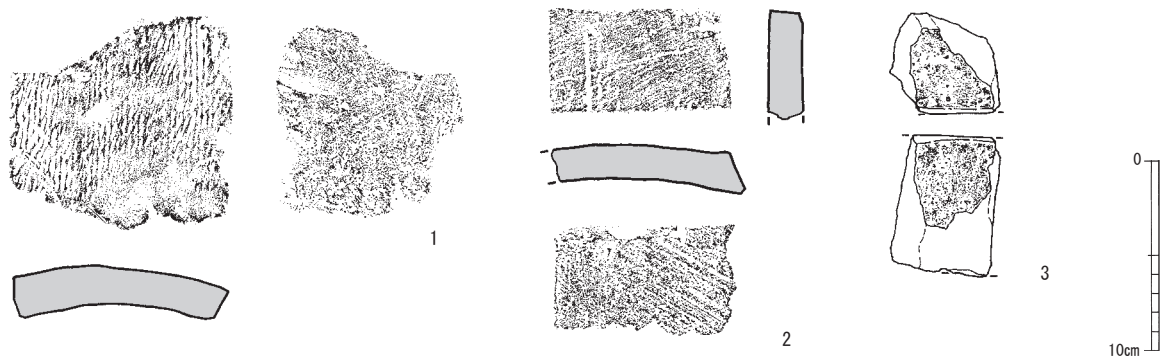


Fig. 2 道具瓦実測図 (1/4)

3) 文字瓦 (Fig.3, Tab.5・6)

丸・平瓦の凸面に、格子目や斜格子目の中に文字銘を刻んだ木製の長手叩打具で押捺することで刻印される叩打痕文字瓦は、大宰府史跡では現在 23 型式 83 種類が報告されている（文献は凡例参照）。広丸地区では 5 型式 8 種類 53 点が出土していて、多くは 9 世紀代に属すると考えられる。

901 型式：「平井瓦屋」・「平井瓦」・「平井」銘の文字瓦で、19 種類が確認されており、当地区「平井」瓦では B (17 点)・C (5 点)・D (2 点) の 3 種が出土している。B は陰刻による「平井瓦」銘、C・D は左字で陽刻の「平井瓦」銘である。17 点が出土した B は、当地区の文字瓦の約 32% を占め、最も多く出土した型式である。

910 型式：左字の「小□瓦」銘の文字瓦で、不規則な斜格子文を伴う。線の太い文字銘の A 型「小□」瓦式と細身で縦長の B 型式に分類できる。当地区では A が 14 点、B が 5 点出土しており、A は 901A 型式に次いで出土量が多い。

915 型式：斜格子の中に正字の「大」銘を入れる文字瓦である。縦書きと横書きの「大」字を「大」瓦に入れる A、横文字の「大」と十字文を持つ B、B よりも整った格子に「大」字を入れる D、細かい斜格子の中に「大」字を横に二桁続けて入れる E に細分される。当地区では、A のみが 8 点出土している。

917 型式：左字の「八年」銘の文字瓦で、比較的整った格子を地紋とする。当地区では 1 点の「八年」瓦み出土している。

918 型式：「四王」銘の文字瓦である。斜格子文にやや太字の「四王」銘の A と、細かな斜格子文に細い字で省略したような文字の「四王」銘とする B に細分できる。当地区では B が 1 点出土している。

その他：上記の諸型式のほかに、文字銘ではないが、格子文とともに記号等を伴う類の資料があるので、ここで報告する。1 つは、やや大きい斜格子の中に平仮名の「し」に似た鍵状の文様を入れるものである。当地区では 1 点だけの出土であるが、『大宰府政庁跡』の Fig.258-4 として掲載されている鍵状文と同一とみられる。もう 1 つは、正方形に近い格子文を地紋とし、格子の対角を結ぶように入る十字文を縦に 2 つ並べるもので、『大宰府政庁跡』の Fig.258-10 として報告されているものである。当地区では 10 点が出土している。

記号状
文字瓦

Tab. 5 文字瓦出土点数表

型式名	点数	29次	95次	96次	142次	157次	165次	166次	175次	186次	合計	百分比 %	
901	B	17		6	3				8		17	32.08	
	C	5		4					1		5	9.43	
	D	2		2							2	3.77	
910	A	14		6	2	1			5		14	26.42	
	B	5		2					3		5	9.43	
915	A	8		4	2	1			1		8	15.09	
917		1							1		1	1.89	
918	B	1		1							1	1.89	
合計		53	0	0	25	7	2	0	0	19	0	53	100.00
鍵状文		1		1							1		
十字文		10		1			1	1		7			

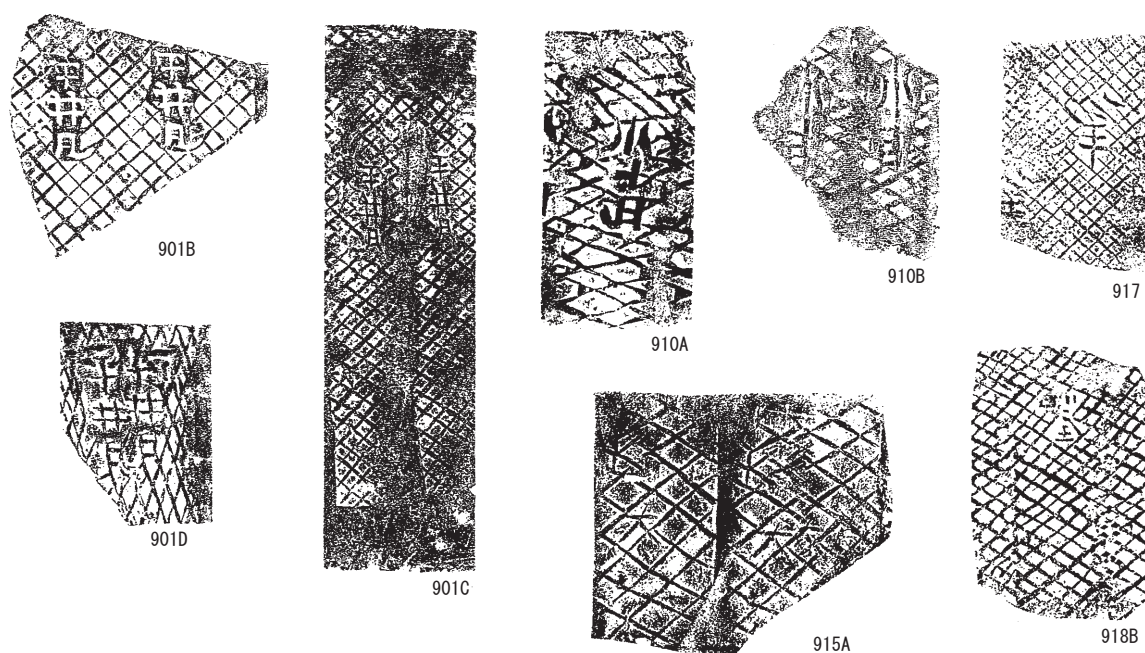


Fig. 3 文字瓦型式拓影 (1/4)

4) 丸・平瓦

当地区では、丸・平瓦がパンケース 89 箱分出土しているが、ほとんど破片資料であるため全容を知り得る資料は非常に限られる。また、丸・平瓦の凸面には多様な叩打痕が認められるが、紙幅の都合もあり、ここでは遺存状態の良好な資料等を抽出して報告を行いたい。

丸瓦 ① 丸瓦 (Fig.4, Tab.6, PL.2・3)

いずれも玉縁式丸瓦で、1～3は凸面に縄目タタキを行う丸瓦、4～9は凸面に格子タタキを行う丸瓦である。

1は、長さ 43.4cm、幅 16.5cmを測る。焼成が甘く土師質で、色調は淡褐色～淡灰褐色を呈する。凸面には縄目タタキを行うが、ほとんどナデ消している。凹面にはやや細かな布目が残る。布目は 3cmあたり経糸 23 本、緯糸 24 本である。側面はヘラ切りによって整えられているが、円筒を 2 分割したものと推定される。一部にわずかながら粘土紐の接合痕とみられる痕跡が認められる。193 次の落ち込み SX4617 出土。

2は、長さ31.7cm、幅14.8cmを測る。焼成は須恵質で、色調は淡灰色～灰色を呈する。凸面には長手の叩打具により縄目タタキを行った後、工具により粗くナデを行う。凹面にはやや細かな布目痕のほか左側面付近に粘土板の合わせ目が残る。布目は3cmあたり経糸22本、緯糸23本である。側面は分割破面が残る、凹面側にヘラ切り痕が残るが、ヘラ切りの角度が浅く、分割は少し失敗気味である。96次の井戸SE2845出土。

3は長さ31.7cm、幅14.5cmを測るが、下端側が少し歪む。焼成は須恵質で、色調は灰色を呈する。凸面はナデ調整であるが、縄目タタキとみられる痕跡がわずかに残る。凹面は布目痕が残る、布目は3cmあたり経糸18本、緯糸20本である。側面には分割に伴う断面と破面がみられる。粘土板作りとみられるが、接合面はみられない。96-2次の井戸SE2845出土。

4は、長さ34.5cm、幅16.9cmを測る。焼成は須恵質で、色調は淡灰色である。凸面にはやや大きな斜格子目タタキが行われ、少しナデ消す。凹面には布目痕が明瞭に残り、下端側のみ工具で粗くナデ仕上げする。布目は3cmあたり経糸21本、緯糸14本で少し粗い。側面には分割に伴う断面と破面が残る、右側面付近に粘土板の合わせ目が認められる。96次出土。

5は、長さ35.4cm、幅16.6cmを測る。焼成は須恵質で、色調は淡灰色を呈する。凸面にはやや大きな斜格子目タタキを行った後、工具で粗くナデする。凹面は布目痕がみられ、布目は3cmあたり経糸14本、緯糸15本と粗い。側面には分割に伴う断面と破面が認められる。96-2次の井戸SE2845中層出土。

6は、長さ36.2cm、幅18cmを測る。焼成は須恵質で、色調は灰白色～灰色を呈する。凸面には斜格子目のタタキが行われるが、格子は玉縁に近い側ほど目が細くなっていく。凹面は布目痕が残る、布目は3cmあたり経糸15本、緯糸16本と粗い。側面には分割に伴う断面と破面が残る、右側面の位置と粘土板の合わせ目の位置が一致している。157次の区画溝SD4123と土坑SK4120の出土資料が接合した。

7は、長さ34.2cm、幅17cmを測る。焼成は須恵質で、色調は灰色を呈する。凸面にはやや大きな斜格子目タタキを行うが、格子目の中には木目が浮き出ている。凹面には糸切り痕と布目痕が認められ、粘土板作りとみられる。布目は3cmあたり経糸16本、緯糸21本とやや粗い印象を受ける。側面には分割に伴う断面と破面が残る。96-2次のSD2828出土。

8は、長さ36cm、幅17.8cmを測る。全体に厚手で、焼成はやや甘く土師質、色調は淡褐色を呈する。凸面には大きな斜格子目のタタキを行うが、ほとんどナデ消している。凹面には布目痕がみられ、布目は3cmあたり経糸15本、緯糸22本である。側面には分割に伴う断面と破面が見られる。157次の区画溝SD4123と土坑SK4120の出土資料が接合した。

9は長さ27.7cm以上、幅16.4cmを測る。須恵質で、色調は淡灰～淡茶灰色を呈する。凸面に大きな斜格子目タタキを行う。凹面には布目痕がみられ、布目は3cmあたり経糸15本、緯糸14本と粗い。側面は分割に伴う断面と破面がある。175次採土遺構SX4337灰褐色土出土。

② 平瓦 (Fig.5, Tab.6, PL.3・4)

平 瓦

1～4は凸面に縄目タタキを行うものである。

1は一部欠損しているものの、全形を知りうる貴重な資料である。焼成は須恵質で、色調は灰色～暗灰色を呈する。長さ37cm、広端側幅29.8cmで、狭端側の幅は24.0cmと推定される。側面はヘラ切りによって整えられるが、凹面に模骨痕と糸切り痕が認められることから、粘土



Fig. 4 丸瓦実測図 (1/6)

板桶巻作りによるとみられる。凸面は長手の叩打具による縄目タタキが全面に行われ、凹面は側面や広端、狭端の縁をヘラケズリで仕上げる。凹面の布目痕は細かく、3cmあたり経糸 27 本、緯糸 28 本である。193 次の黒褐色砂質土からの出土。

2 は狭端側の半分が遺存した資料で、中央部で幅 27cm を測る。焼成は土師質で、色調は淡橙色を呈する。凸面は長手の縄目タタキを行い、凹面の縁は側面側のみヘラケズリを行う。なお、凹面には糸切り痕のほか、やや不明瞭ではあるが模骨痕がみられ、側面に分割断面が残ることから粘土板桶巻作りであろう。凹面の布目は比較的細かく、3cm あたり経糸 27 本、緯糸 20 本である。133 次の建物 SB3925 (S-27) からの出土。

3 は全体の 4 分の 1 程度が残る資料である。焼成は須恵質で、色調は淡灰色を呈する。凸面は長手の縄目タタキを行う。凹面は糸切り痕と布目痕が残り、一部縦方向のナデ調整を粗く行う。側面はヘラ切りされ、凹面側の縁をヘラケズリする。凹面に模骨痕が認められないこと、側面がほぼ垂直になっていることから、一枚作りと推定される。なお、凹面に残る布目は、3cm あたり経糸 19 本、緯糸 21 本である。175 次の溝 SD4345 上層黒色土からの出土。

4 は左側面側の 3 分の 1 が残る資料で、長さ 37.5cm を測る。焼成は土師質で、色調は灰白色～淡褐色を呈し、全体にやや厚手である。凸面には長手の縄目タタキを行うが、広端側には及んでいない。側面はほぼ垂直にヘラ切りされているが、凹面にはやや不明瞭ながら模骨痕と考えられる痕跡がみられること、凸面の縄目タタキが広端側に及ばない状況などから、桶巻作りないしは円筒桶作りとみられる。凹面の布目は、3cm あたり経糸 20 本、緯糸 20 本である。96-2 次の溝 SD2800 出土。

5～7 は凸面に格子目タタキを行うものである。

5 は広端側 2 分の 1 の資料で、左側面を欠損する。広端側の左右幅は 28.3cm 程度か。焼成は須恵質で、色調は淡灰色を呈する。凸面は長手の斜格子タタキを行うが、広端側までは及ばない。凹面には糸切痕、布目痕、模骨痕がみられ、右側面に分割に伴う断面・破面が残る。また、右側面に沿って粘土板の合わせ目がみられ、粘土板桶巻作りである。凹面に残る布目は、3cm あたり経糸 20 本、緯糸 20 本である。96 次出土。

6 は右半分の資料で、長さ 30.1cm を測る。焼成は土師質で、色調は淡灰色を呈する。凸面は長手の叩打具でやや大きい斜格子を打捺するが、その範囲は狭端側 2 分の 1 程度にとどまる。凹面にはわずかに糸切り痕がみられ、布目痕もよく残る。側面は分割に伴う断面と破面が残るため、桶巻作りとみられるが、模骨痕が明瞭ではないことから円筒桶製であろうか。凹面の布目は、3cm あたり経糸 15 本、緯糸 10 本と他の資料に比べると粗い。175 次の採土遺構 SX4334 出土。

7 は略完形品で、長さ 32.7cm、広端側幅 27.1cm、狭端側幅 25.2cm を測る。焼成は土師質で、色調は淡褐色を呈する。凸面には斜格子タタキを行うが、ほとんど狭端側 3 分の 1 程度に収まる。凹面には布目痕がみられ、部分的に模骨痕らしき痕跡もあるが明確ではない。左側面側に粘土板の合わせ目が残り、側面には分割断面と、分割破面をヘラ切り整形した面が残る。そのため、桶巻作りの可能性もあるが、模骨痕が顕著ではない点や広端と狭端の差がない点などから円筒桶製の可能性も考えられる。凹面の布目は、3cm あたり経糸 11 本、緯糸 12 本と非常に粗い。96-2 次の井戸 SE2845 出土。

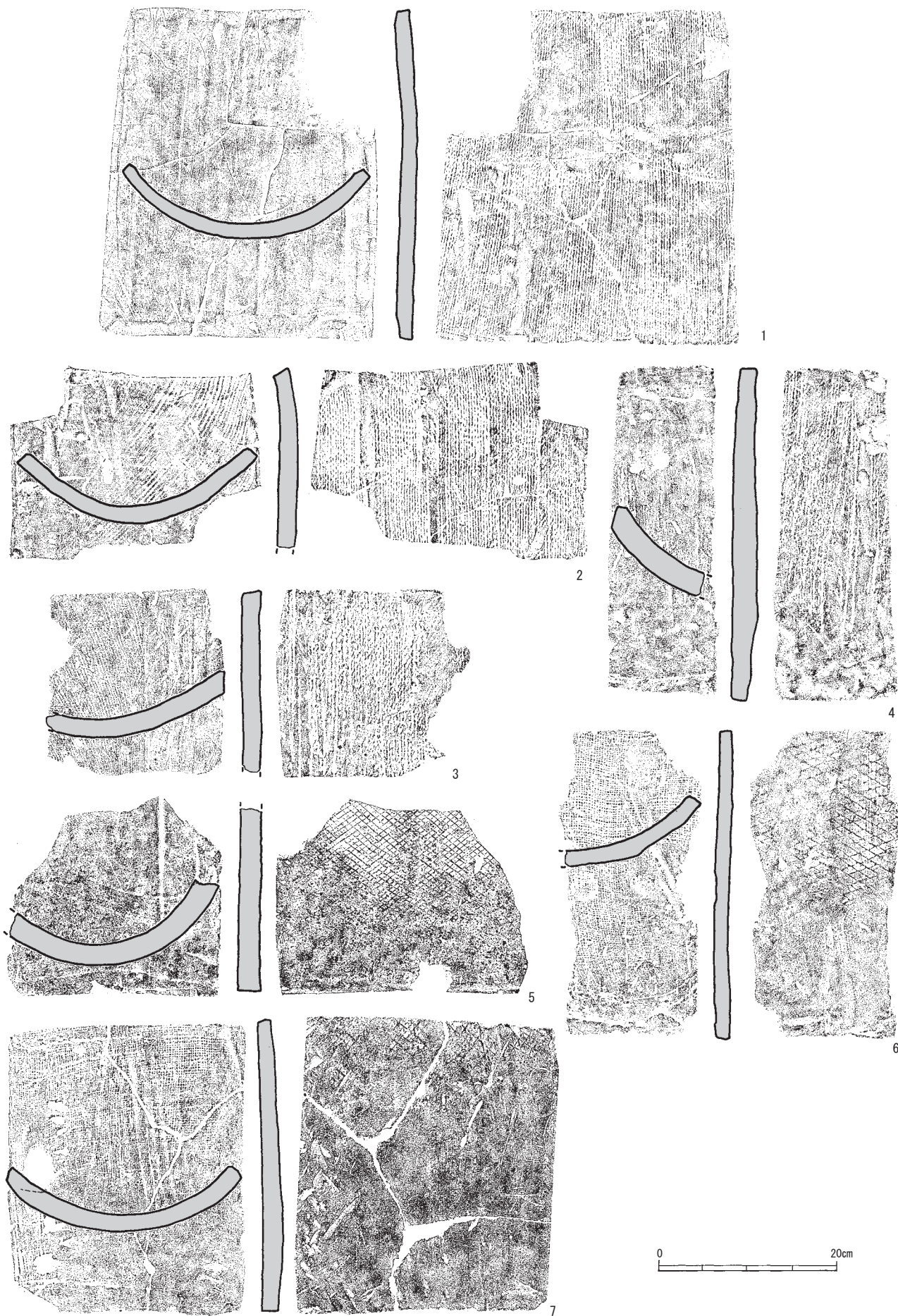


Fig. 5 平瓦实测图 (1/6)

(2) 土器・陶磁器類

広丸地区官衙の調査では、前冊で報告したように掘立柱建物・柵・溝・土坑・pit等の遺構を検出した。遺構などからはパンケース 140 箱余りの土器・陶磁器類が出土している。大半を須恵器・土師器が占めるが、黒色土器及び緑釉陶器・灰釉陶器・青白磁等の陶磁器もみられる。本項では、遺構出土品を主体に層位出土品、遺構検出時及び表採資料を報告する。

1) 掘立柱建物

土器類は、建物の柱掘方及び柱穴（柱痕跡）内から出土しているが、遺構の性格上、出土点数は少なく、図示に耐え得る 190 点余りを掲載した。なお、出土柱掘方の表記は、基準となる柱掘方を含め北・南あるいは西・東に○番目の柱掘方・柱穴（柱痕跡）と記している。

SB2825 出土土器 (Fig.6, Tab.7, PL.5)

須恵器蓋 (1) 口縁部小破片で、口径は 14.0cm に復元した。口縁端部に平坦面を有し、篋先による沈線を 1 条巡らす。

須恵器鉢 (2) 復元口径 45.0cm を測る大型の鉢で、口縁部を折り曲げて肥厚させる。口縁部ヨコナデ、外面カキ目 (8 条 /cm) で、内面には同心円当て具痕がみられる。また、胴部外面中位には篋先による沈線を 2 条施す。焼成は堅緻で、暗青灰色を呈する。

土師器甕 (3) 口縁部小破片で、大きく外反する。口縁部ヨコナデ、外面ハケ目、内面ヘラケズリによる。

1 は南西隅柱から北に 6 番目の柱掘方、2 は南東隅柱穴から北に 4 番目の柱掘方、3 は南西隅の柱掘方出土。

SB2830 出土土器 (Fig.6, Tab.7, PL.5)

土師器甕 (4) 4 は口縁部～肩部にかけての破片で、口径は 23.5cm に復元した。頸部はよく締まり、口縁部は鉤形に屈曲する。口縁部ヨコナデ、外面ハケ目 (8 条 /cm)、内面ヘラケズリによる。また、外面にはススが付着している。南東隅柱から北に 3 番目の柱掘方出土。

SB2835 出土土器 (Fig.6, Tab.7, PL.5)

土師器皿 (5～7) 5 は小皿で、器高 1.4cm、口径 7.9cm、底径 6.0cm を測る。口唇部はシャープな作り。底部はヘラ切りによる。6・7 は口縁部を欠く。底部切り離しはヘラ切りにより、底径は 6 が 5.8cm、7 が 7.2cm に復元した。

土師器杯 (8・9) 8 の口縁部は内湾し、口唇部を丸く納める。内外面とも回転ナデによる。9 の口縁部は若干外反し、端部が肥厚する。口径は 8 が 12.4cm、9 は 11.9cm に復元した。

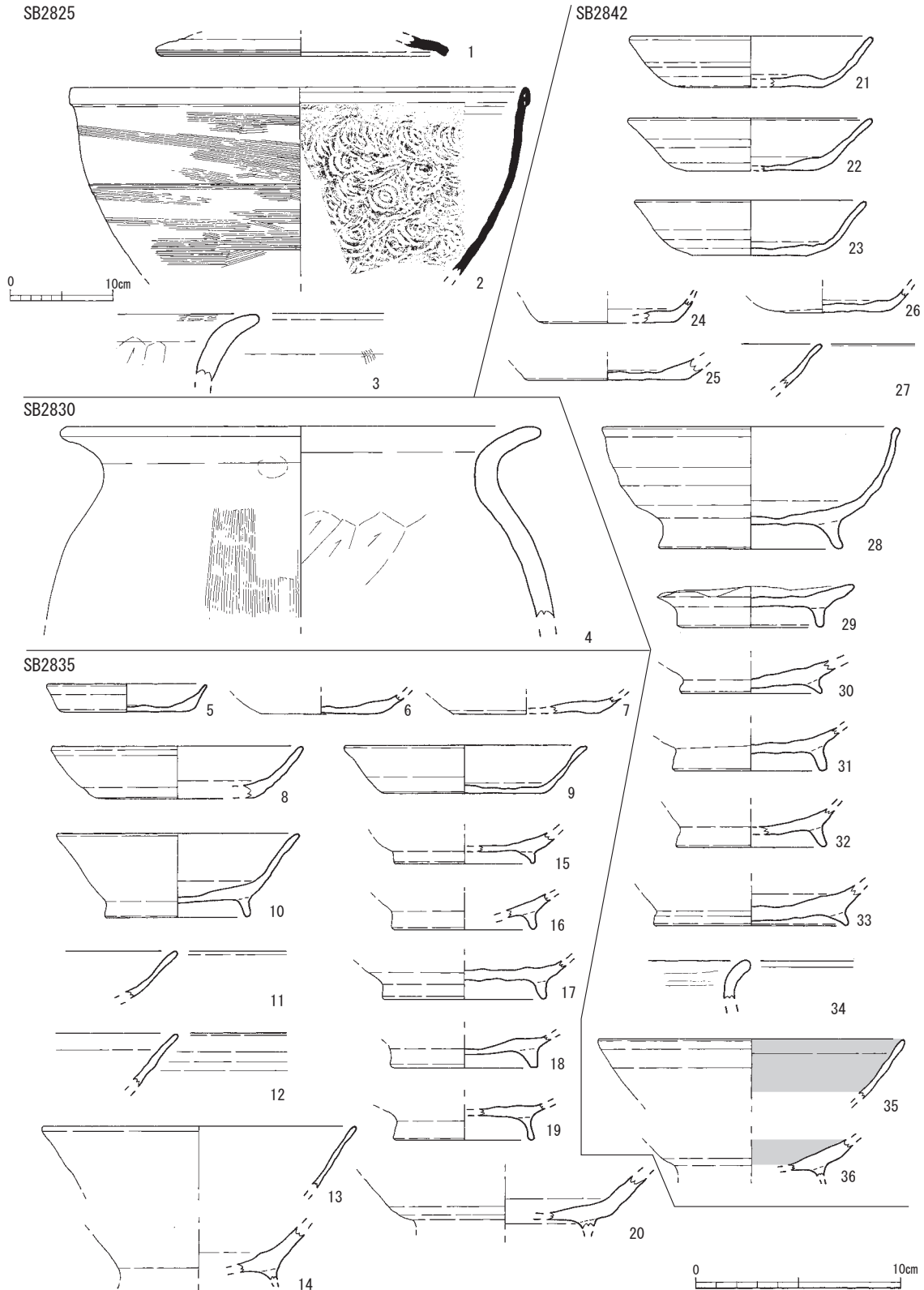
土師器碗 (10～20) 10 は口縁部が斜め上方に開く碗で、高台部は「八」字状を呈する。器面調整はヨコナデにより、内面には赤色顔料を塗布している。器高 4.1cm、口径 12.0cm、高台径 7.2cm を測る。11～13 は口縁部の小破片。いずれもシャープな作りで、11・12 は口唇部を丸く納めるが、13 は肥厚させている。13 の口径は 15.4cm に復元した。14～20 は底部破片で、15～17 はシャープな高台、19 は細目でやや高い高台、18 は太めの高台を貼付する。高台径は 15 が 6.9cm、16 が 7.1cm、17 が 8.1cm、18 が 7.2cm、19 が 7.0cm にそれぞれ復元した。20 は前者に比してやや大型の器形を呈する。

5・7・9・13・18 は身舎の南西隅柱から東に 3 番目の柱掘方、6・11・17 は廂の南西隅柱

から東に3番目の柱掘方, 8・16は身舎の南西隅柱から東に2番目の柱掘方, 1・20は身舎の南東隅柱から西に3番目の柱掘方, 12・14・15・19は身舎の南東隅柱から西に2番目の柱掘方の出土。

SB2842 出土土器 (Fig.6, Tab.7, PL.5)

土師器坏 (21 ~ 26) 21は口縁部が斜め上方に立ち上がり, 22・23の口縁部は若干外反



する。いずれもヨコナデを基調とし、底部はヘラ切りによる。器高は 21 が 2.5cm, 22 が 2.6cm, 23 は 2.7cm で、復元口径は 21 が 12cm, 22 が 12.1cm, 23 は 11.4cm を測る。24 ~ 26 は底部破片で、いずれもヘラ切りによる。底径は 24 が 6.7cm, 25 が 8.0cm, 26 は 5.4cm に復元した。

土師器椀 (27 ~ 33) 27 は口縁部の小破片で、口唇部を丸く納める。28 は丸底の椀で、器高 6.0cm, 口径 14.6cm, 高台径 9.0cm を測る。口縁部は小さく外反し、口唇部を丸く納める。高台は高めで、底部端寄りに貼付する。29 は体部を打ち欠いて台付皿としている。30 ~ 33 は底部破片で、30・33 の高台は小さめで、31・32 はやや高めの高台を貼付する。高台径は 30 が 7.0cm, 31 が 7.7cm, 32 が 7.5cm, 33 が 9.6cm に復元した。

土師器甕 (34) 口縁部小破片で、端部を丸く納める。内面はヘラミガキによる。

黒色土器椀 (35・36) 35・36 は内面を燻した A 類椀で、35 が口縁部~体部破片で、36 は底部破片。35 の復元口径は 15.0cm を測る。36 の内面はミガキによる。

21 ~ 23・28・31 は北東隅柱掘方、24・34 は身舎の北東隅柱掘方、25 ~ 27・35・36 は身舎の北東隅柱から南に 2 番目の柱掘方、29・30・32・33 は北東隅柱から東に 2 番目の柱掘方出土。

SB3905 出土土器 (Fig.7, Tab.7)

須恵器蓋 (1) 蓋の口縁部破片で、端部は鳥嘴状を呈する。内外面ともナデによる。

須恵器環 (2) 口縁部小破片で、器壁が薄くシャープな作り。口唇部は丸く納める。焼成は堅緻で、灰色を呈する。

土師器皿 (3) 皿の口縁部小破片。口縁部を引き出し、口唇部は丸く納める。磨滅が著しく、底部切り離しは不明。ヘラ切りか。いずれも南東隅柱掘方から出土した。

SB3925 出土土器 (Fig.7, Tab.7, PL.5・6)

小規模な建物であるが、比較的多くの土器が出土している。

須恵器環 (4) 有高台環の底部破片。高台は断面沓形をなし、高台径は 10.0cm に復元した。内外面ともナデによる。焼成は堅緻で、淡灰色を呈する。

土師器環 (5 ~ 7) 5・6 は平底の環で、7 は丸底の環。5 は器高 2.3cm で、口径 11.6cm, 底径 7.4cm に復元した。口縁部ヨコナデで、底部はヘラ切りによる。6 は 5 に比して深めの器形で、口唇部を丸く納める。器高 3.4cm, 口径 10.8cm, 底径 7.2cm。内外面ともナデで、底部はヘラ切りによる。7 は器高 4.3cm, 口径 15.8cm を測る。磨滅が著しいが、ヘラミガキによるか。口縁の内面には重ね焼きによる黒変がみられる。

土師器椀 (8 ~ 12) 8 は体部が直線的に開くもので、底部端にやや高めの高台を貼付する。調整はナデによる。器高 5.0cm, 口径 12.9cm, 高台径 6.9cm を測る。9・10 は丸底の環に高めの高台を貼付している。9 は器面の磨滅が著しいが、ミガキの痕跡がみられる。器高 6.1cm, 口径 12.6cm, 高台径 7.1cm を測る。10 は口縁部を欠く。高台径は 8.2cm に復元した。内面には黒変がみられる。11・12 は底部破片で、11 の高台は低い。復元高台径は 11 が 6.6cm, 12 が 7.6cm を測る。

土師器鉢 (13) 口頸部を欠くが、寸胴な器形を呈するか。底部は平底で、底径は 13.0cm を測る。内外面ともナデで、底部付近の外表面はヘラケズリによる。

土師器甕 (14 ~ 16) 14 は小型の甕で、復元口径 12.0cm を測る。口縁部は「く」字状に屈曲し、

口唇部を丸く納める。口縁部ヨコナデ、外面ハケ目、内面ヘラケズリにより、頸部内面にはス
 スが付着している。15は中型の甕で、器高17.2cm、復元口径19.6cmを測る。頸部の締まりは
 悪く、体部は球形をなす。口縁部はヨコナデで、外面は磨滅が著しいが底部付近にハケ目が見
 られる。内面はヘラケズリによる。また、外面にはススが付着している。16の頸部は締まり
 があり、口径は25.0cmに復元した。口縁端部に平坦面を有し、口唇部を摘み上げている。口縁
 部ヨコナデ、内外面ハケ目（5～6条/cm）による。

黒色土器碗（17～19） 17・18は内面を燻したA類碗で、19が内外面を燻したB類碗。
 17は器高5.5cm、口径16.2cm、高台径8.0cmを測る。口縁部は内湾気味に立ち上がり、口唇
 部を丸く納める。高台は断面方形を呈し、底部端に貼付する。磨滅が顕著であるが、ヘラミガ
 SB3905

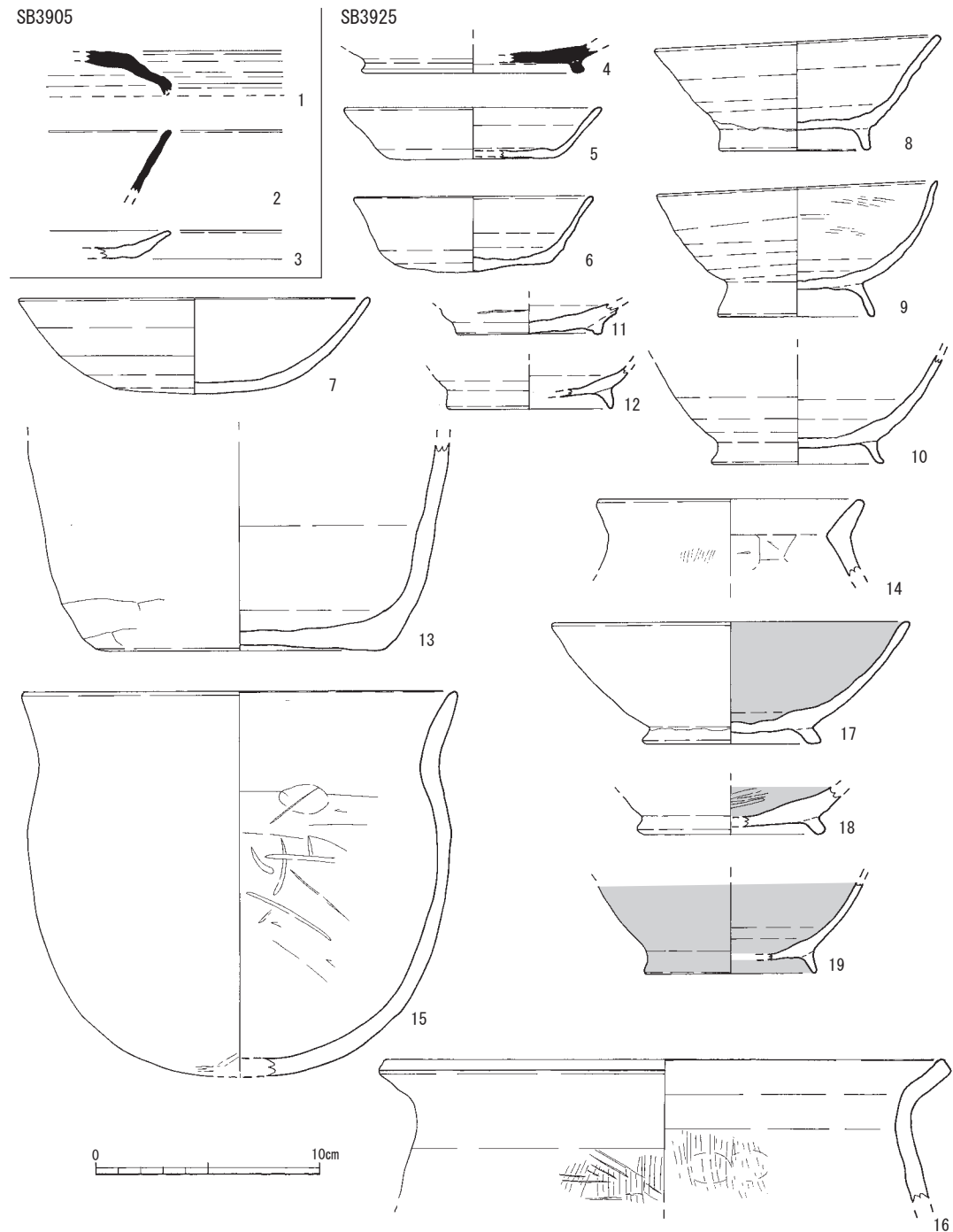


Fig. 7 掘立柱建物出土土器実測図②（1/3）

キの痕跡がみられる。18は肉厚の底部破片で、断面方形の高台を貼付する。内面は細かいヘラミガキによる。高台径は8.4cmに復元した。19は器壁が薄くシャープな作り。高台は断面三角形を呈し、復元高台径は7.8cmを測る。磨滅が著しいが、ヘラミガキによる。

4・15・16は北東隅柱から西に2番目の柱掘方、5～14・17～19は南西隅柱から西に2番目の柱掘方から出土した。

SB3940 出土土器 (Fig.8, Tab.7, PL.6)

須恵器蓋(1) 天井部が丸い蓋であるが、天井部中央付近を欠くため摘みを付していたかは不明。口縁端部の立ち上がりは不明瞭で、口唇部は丸く納める。口縁部ヨコナデ、外天井部回転ヘラケズリによる。口径は13.8cmに復元した。焼成は良好で、淡灰色を呈する。

須恵器坏(2・3) 2は口縁部小破片で、器壁が薄くシャープな作り。内外面ともヨコナデによる。口径は13.0cmに復元した。3は有高台坏の底部破片で、断面台形の高台を底部端に貼付する。復元高台径は9.4cmを測り、内端部で接地する。

須恵器壺(4) 口縁部小破片で、口径は11.2cmに復元した。口縁部平坦面に篋先による沈線を1条巡らせている。焼成は堅緻で、暗灰色を呈する。

須恵器甕(5) 口頸部の破片で、大きく外反する。口縁端部を肥厚させ、口唇部を上方に摘み上げている。調整はヨコナデによる。焼成は堅緻で、灰色を呈する。

土師器坏(6) 6は底部破片で、高台は断面方形を呈し、接地面は丸い。高台径は7.5cmに復元した。焼成は軟質で、淡橙色を呈する。

土師器椀(7) 底部破片で、低めの高台を貼付している。端部は丸く納める。高台径は10.2cmに復元した。焼成はやや軟質で、灰褐色を呈する。

土師器鉢(8) 口縁部は、球形の胴部から「く」字状に屈曲し、口唇部を丸く納める。口縁部はヨコナデで、内外面はヘラケズリによるが、外面の胴部中位には工具による擦過痕がみられる。焼成は良好で、赤橙色を呈する。口径は17.6cmに復元した。

土師器甕(9) 肉厚の頸部破片で、「く」字状をなす。内面はヘラケズリで、外面にはススが付着している。

土師器甗(10) 現状で把手がみられないが、甗とした。体部が直線的に開くもので、口唇部は丸く納める。内外面とも粗いハケ目(5条/cm)による。内面には黒斑がみられる。口径は17.6cmに復元した。

3・6・7は北東隅柱掘方、1・4は北東隅柱から南に2番目の柱掘方、2は北東隅柱から南に3番目の柱掘方、9は北東隅柱から南に4番目の柱掘方、5は東側桁行南端から2番目の柱掘方、8は東側桁行南端から3番目の柱掘方、10は北西隅柱から南に2番目の柱掘方から出土した。

SB3945 出土土器 (Fig.8, Tab.7, PL.6)

比較的多くの土器が出土しているが、SB3940と重複しているため、本来SB3940に伴う土器も混入している可能性がある。

須恵器蓋(11～15) 11は口縁部を、12～15は天井部を欠く。11は扁平な擬宝珠形摘みを貼付する。12・13は身受けのカエリを有する蓋で、13のカエリは12に比して大きい。口径は12が13.4cm、13が14.2cmに復元した。口縁部ヨコナデ、外天井部回転ヘラケズリに

ヘラ記号より、12の外にはM字を重ねたヘラ記号がみられる。14・15は口縁端部が鳥嘴状を呈する蓋。
 15の口唇部はシャープな作りで、口縁部はヨコナデ。口径は14が13.8cm、15が14.6cm。

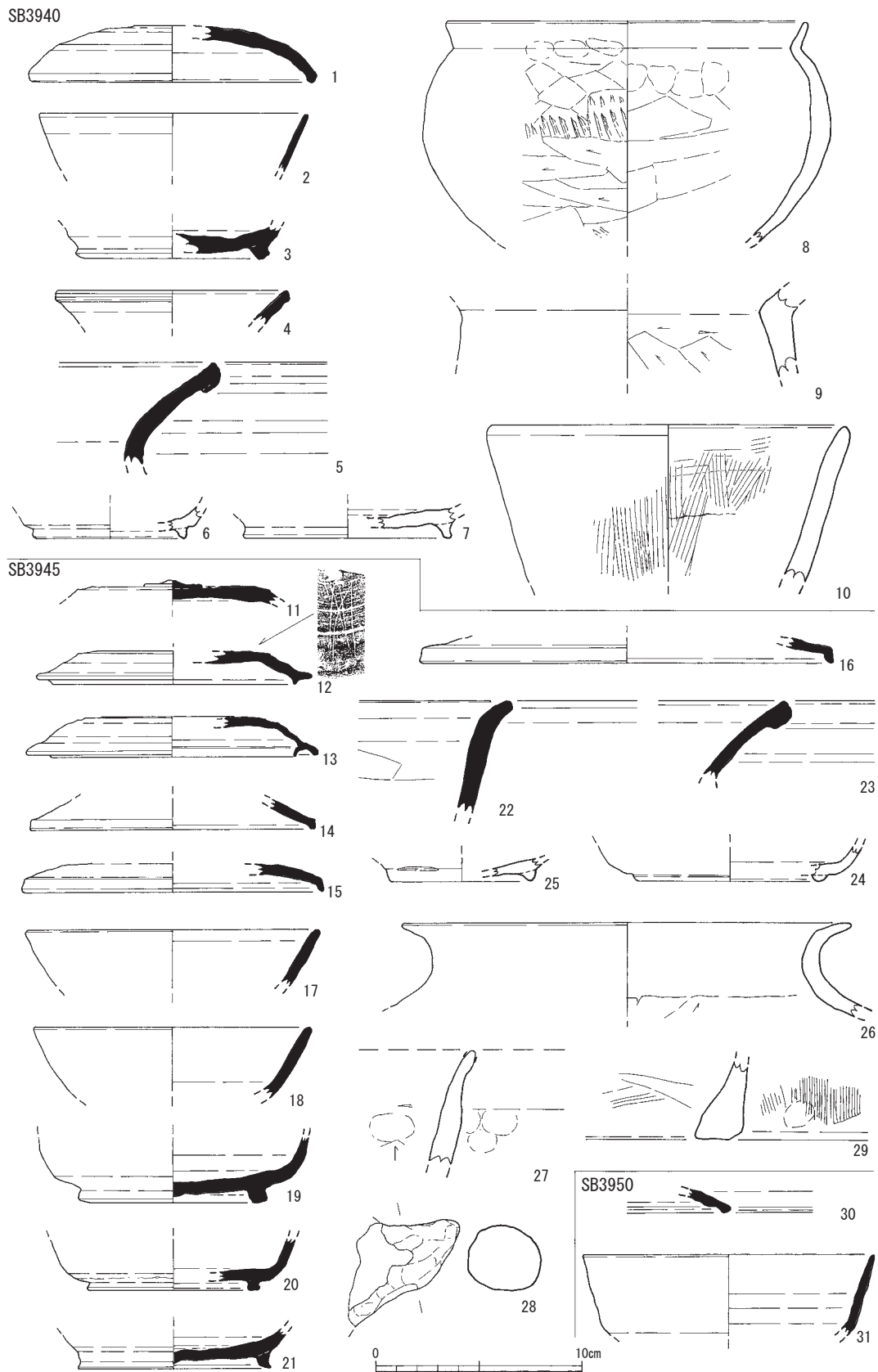


Fig. 8 掘立柱建物出土土器実測図③ (1/3)

須恵器壺蓋 (16) 16 は復元口径が 20.2cm を測る大型のものであることから壺蓋とした。口縁端部は鳥嘴状をなすが、立ち上がりは 0.5cm と低い。ヨコナデによる。

須恵器坏 (17～21) 17・18 が口縁部、19～21 が体部～底部にかけての破片。17・18 の口縁部は斜め上方に立ち上がり、口唇部を丸く納める。口径は 17 が 14.2cm、18 が 14.5cm。19・20 の高台は断面方形を呈し、18 はやや太め。21 は断面沓形を呈し、爪先立つ。高台径は 19 が 9.1cm、20 が 8.4cm、21 が 9.4cm に復元した。

須恵器鉢 (22) 口縁部小片で、端部は如意形に屈曲する。口縁部ヨコナデ、内面工具ナデによる。焼成は堅緻で、黒灰色を呈する。

須恵器甕 (23) 口頸部小片で、直線的に外反する。端部を折り返し、肥厚させる。内外面ともナデによる。焼成は堅緻で、暗青灰色を呈する。

土師器坏 (24・25) 24・25 は底部破片で、24 の高台は断面蒲鋒形、25 は断面三角形を呈する。高台径は 24 が 8.9cm、25 は 6.8cm に復元した。

土師器甕 (26) 甕の口頸部破片で、復元口径は 21.8cm を測る。頸部はよく締まり、口縁部は鉤形に屈曲する。口縁部ヨコナデ、内面ヘラケズリによる。

土師器甕 (27・28) 27 は口縁部小片で、端部のやや下位を強く撫でることにより頸部としている。胎土に砂粒を多く含み、雑な作り。28 は把手の破片で、ユビオサエによる。

土師器甕 (29) 甕の底部破片で、接地面は平坦をなす。外面ハケ目 (7 条/cm)、内面ヘラケズリによる。外面には黒斑がみられる。

13・15・18・29 は南西隅柱から北に 2 番目の柱掘方、11・28 は南西隅柱から北に 3 番目の柱掘方、12・14・22・25 は北西隅柱から南に 2 番目の柱掘方、20 は北西隅柱から南に 3 番目の柱掘方、16 は北東隅柱から南に 2 番目の柱掘方、17・24 は北東隅柱から南に 3 番目の柱掘方、19・23・26・27 は南東隅柱穴から北に 2 番目の柱掘方、21 は南梁行中央の柱掘方から出土した。

SB3950 出土土器 (Fig.8, Tab.7)

須恵器蓋 (30) 口縁部小破片で、口縁端部の内側を強く撫でることによって立ち上がりとしている。焼成は軟質で、灰白色を呈する。

須恵器坏 (31) シャープな作りの口縁部破片で、口径は 14.1cm に復元した。内外面ともナデによる。30 が北側柱列中央の柱掘方出土で、31 は東桁行中央の柱掘方から出土した。

SB3996 出土土器 (Fig.9, Tab.7, PL.6)

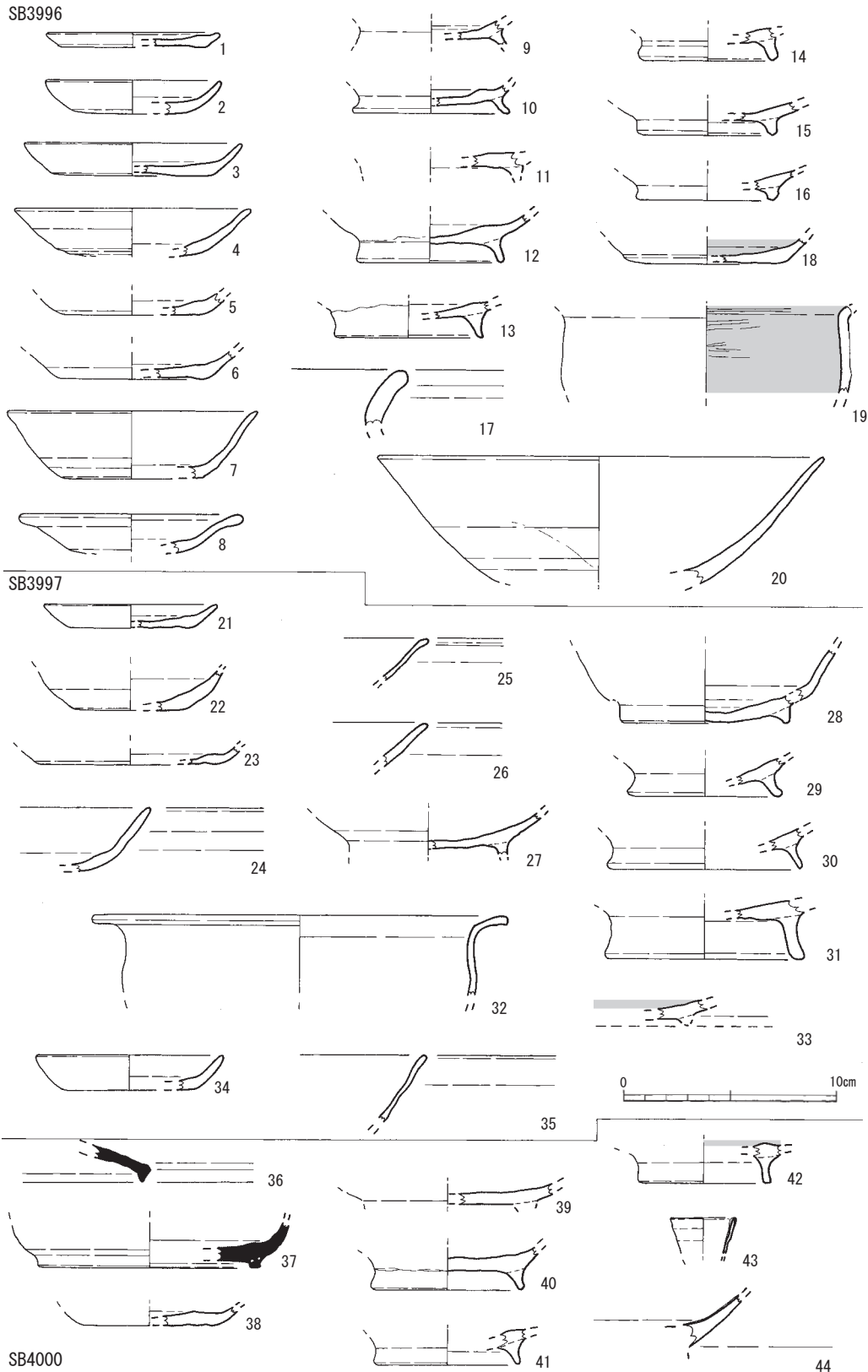
小規模な建物であるが、比較的多くの土器が出土している。

土師器皿 (1～3) 1・2 は小皿で、1 は器高 0.7cm、復元口径 8.2cm、復元底径 7.0cm を測り、口唇部は二次的に研磨している。底部切り離しはヘラ切りによる。2 は器高 1.6cm、復元口径 8.3cm、復元底径 4.9cm で、底部は丸みを帯びる。底部はヘラ切り。3 の口縁部は斜め上方に立ち上がる。口径 10.3cm、底径 7.8cm に復元した。

土師器坏 (4～8) 4・7 は口縁～体部破片で、底部を欠く。口径は 4 が 11.2cm、7 が 11.8cm に復元した。ともに体部はナデ調整により、底部切り離しはヘラ切り。5・6 は底部破片で、底径は 5 が 6.6cm、6 が 6.7cm に復元した。5 の底部はヘラ切りによるが、6 は高台をすり切ったような痕跡があり、椀の高台を打欠き・研磨し、坏としたものとみられる。8 は底部

を欠く資料。口縁部は緩やかに外反し、口唇部を肥厚させる。

土師器碗(9～16) 9～16は底部破片で、9・10・12～14は高台部が断面「八」字状を呈し、10・12・13はシャープなもの。15・16の高台は短く直立する。高台径は10が7.4cm, 12が7.0cm, 13が7.0cm, 14～16が6.6cmに復元した。



土師器甕(17) 口縁部の小破片で、端部は丸く納める。

黒色土器坏(18) 内面を燻したA類坏の底部破片で、底径は7.8cmに復元した。底部切り離しはヘラ切りによる。

黒色土器甕(19) 甕の胴部上位破片で、頸部径が13.4cmの小型のもの。外面は器面の剥落が著しいが、内面は横方向のヘラミガキによる。

青磁鉢(20) 越州窯系青磁で、口径が21.0cmを測る鉢の破片で、底部を欠く。口縁部は底部から緩やかに立ち上がり、口唇部は丸く納める。灰色の胎に、緑味を帯びた釉をかけるが、体部下半は露胎。また、貫入が著しい。

1・14は廂部南東隅柱穴、2・4・16・17は北側柱列中央柱穴、3・8～10・18は身舎南東隅柱穴、5・7は身舎南西隅柱穴、6・11・13は北西隅柱穴、12・15・19は北東隅柱穴、20は身舎東側柱列中央の柱穴から出土している。

SB3997 出土土器 (Fig.9, Tab.7)

小規模な建物であるが、比較的多くの土器が出土した。

土師器皿(21・22) 21は小皿で、器高1.1cm、口径は8.2cm、底径は5.6cmに復元した。口唇部は二次的に研磨しており、切り離しはヘラ切りによる。22は口縁端部と底部を欠く。やや深めの器形で、底径は5.4cmに復元したが、もう少し大きくなるかも知れない。

土師器坏(23・24) 23は糸切りによる底部破片で、復元底径は8.2cm。混入品とみられる。24は口縁～体部破片で、底部を欠く。口唇部は丸く納める。口縁部ヨコナデ、外面ヘラケズリによる。焼成は良好で、灰褐色を呈する。

土師器碗(25～31) 25・26は口縁部小破片で、25の口唇部は肥厚する。26は口縁部と体部の器壁がほぼ同じ厚さで、口唇部を丸く納める。27・28は体部～底部にかけての破片で、ナデ調整による。28の体部と底部は接合しないが、胎土・色調から同一個体として実測した。高台は断面三角形を呈し、8.0cmに復元した。29～31は底部破片で、高台部は断面「八」字状を呈する。30の高台はシャープで、31の高台は2cmと高い。高台径は29が7.4cm、30が9.2cm、31が9.4cmに復元した。

土師器甕(32) 口頸部破片で、口縁部は鉤形に外反する。器壁は3mmと薄く、シャープな作り。口径は19.5cmに復元した。口縁部外面にはススの付着がみられる。

黒色土器碗(33) 内面を燻したA類碗の底部小片。内面はミガキによる。

土師器皿(34) 小皿の破片で、器高1.7cm、復元口径8.8cm、復元底径5.8cmを測る。口唇部は丸く納める。底部切り離しは磨滅により不明。

土師器碗(35) 口縁部小破片で、体部から直線的に立ち上がる。内外面ともナデによる。

21・26・27・30・32は身舎の南東隅柱穴、22は北西隅柱穴、23～25は身舎の南柱列中央柱穴、28・31は西側柱列の北西隅柱から2番目の柱穴、29は廂部の中央柱穴、33は北側柱列中央の柱穴から出土し、34・35は柱穴と重複するピットから出土した。

SB4000 出土土器 (Fig.9, Tab.7, PL.6)

須恵器蓋(36) 蓋の口縁部小破片で、端部は鳥嘴状をなす。立ち上がりも高く、しっかりしている。生焼け品で、灰褐色を呈する。

須恵器坏(37) 有高台坏の底部破片で、高台径は10.5cmに復元した。高台は断面方形を呈

し、底部端寄りに貼付している。焼成は良好で、内外面とも灰褐色を呈する。

土師器皿(38) 底部小破片で、切り離しはヘラ切りによる。底径は6.0cmに復元した。

土師器椀(39～41) 39～41は椀の底部破片で、39の高台は剥離している。40・41の高台部は断面「八」字状を呈し、端部は丸く納める。高台径は40が7.2cm、41が6.9cmに復元した。

黒色土器椀(42) 内面を燻したA類椀の底部破片。高台は細目でシャープである。復元高台径は6.3cmを測る。

青白磁瓶(43) 43は口縁部小片で、口径3.1cmに復元した。灰白色の胎にやや青味がかった釉を施す。瓶になろう。

青磁碗(44) 越州窯系碗の底部小破片。灰青色の胎に緑がかった釉を施す。外面は露胎で、内面には目跡がみられる。

36・37は梁行中央の柱掘方出土で、38～43は身舎の東隅柱から2番目の柱掘方から出土した。

SB4130 出土土器 (Fig.10, Tab.7)

土師器皿(1) 小皿の底部破片で、ヘラ切りによる。底径は5.6cmに復元した。

土師器椀(2～6) 2は口縁部小片で、口縁端部はわずかに外反する。3～6は底部破片で、高台部は断面「八」字状を呈し、端部を丸く納める。高台径は3が7.1cm、4が5.4cm、5が6.7cm、6が7.9cmに復元した。1は北桁行中央、2・4・5が北東隅柱、3・6が南桁行中央柱穴の出土。

SB4200 出土土器 (Fig.10, Tab.7)

土師器坏(7) 丸みを帯びた平底の底部破片で、切り離しはヘラ切りによる。磨滅が著しいが、ナデによるか。北西隅柱柱穴から出土した。

SB4340 出土土器 (Fig.10, Tab.7, PL.6)

須恵器蓋(8) 天井部が低平な器形で、口縁端部の立ち上がりも低い。口縁部は回転ナデによる。口径は19.4cmに復元した。生焼けで、内外面とも灰白色を呈する。

土師器皿(10) 底部破片で、切り離しはヘラ切りによる。混入品とみられる。

土師器坏(9・11) 9は丸底の坏としたが、高坏の坏部の可能性を有する。肉厚で、野暮ったい印象を受ける。外面ナデ、内面は横方向のヘラミガキによる。11は底部破片で、口縁端部を欠く。底部切り離しは糸切りであり、混入品とみられる。

8は身舎の北隅柱から西に3番目の柱掘方出土で、10は西梁行廂部の柱掘方出土、11は身舎の南西隅柱出土、9は廂の柱掘方出土であるが、柱穴を特定できない。

SB4550A 出土土器 (Fig.10, Tab.7)

土師器甕(12) 口縁部小片で、鉤形に外反する。磨滅が著しいが、口縁部はヨコナデによる。焼成は軟質で、黄橙色を呈する。梁行中央の柱掘方から出土した。

SB4550B 出土土器 (Fig.10, Tab.7)

須恵器蓋(13～15) 13は天井部を欠くが丸みを帯びて立ち上がる。復元口径は11.6cmを測る。14・15は口縁部小破片で、14の口縁端部は鳥嘴状を呈し、15は外方に突出する。ともに低平な器形になろう。ヨコナデを基調とするが、15の外天井部はヘラケズリによる。

須恵器坏(16～19) 16は口縁部～体部下半にかけての破片で、17・18が口縁部、19は

底部の破片。16の体部は丸みを帯び、口唇部も丸く納める。内外面とも回転ナデによる。口径は11.4cmに復元した。17の口縁部は外反し、18は内湾する。また、17の外表面は工具を用いたナデにより、5条ほどの沈線状の段がみられる。口唇部はシャープで、復元口径は12.6cmを測る。19は有高台坏で、高台は断面逆台形を呈し、畳付は平坦である。

須恵器壺(20・21)ともに体部破片で、算盤玉形をなす。体部上位の稜はシャープである。内外面ともナデによる。焼成は20が堅緻、21はやや軟質で、色調は20が灰色、21は灰白色を呈する。20の肩部外面には灰が被る。

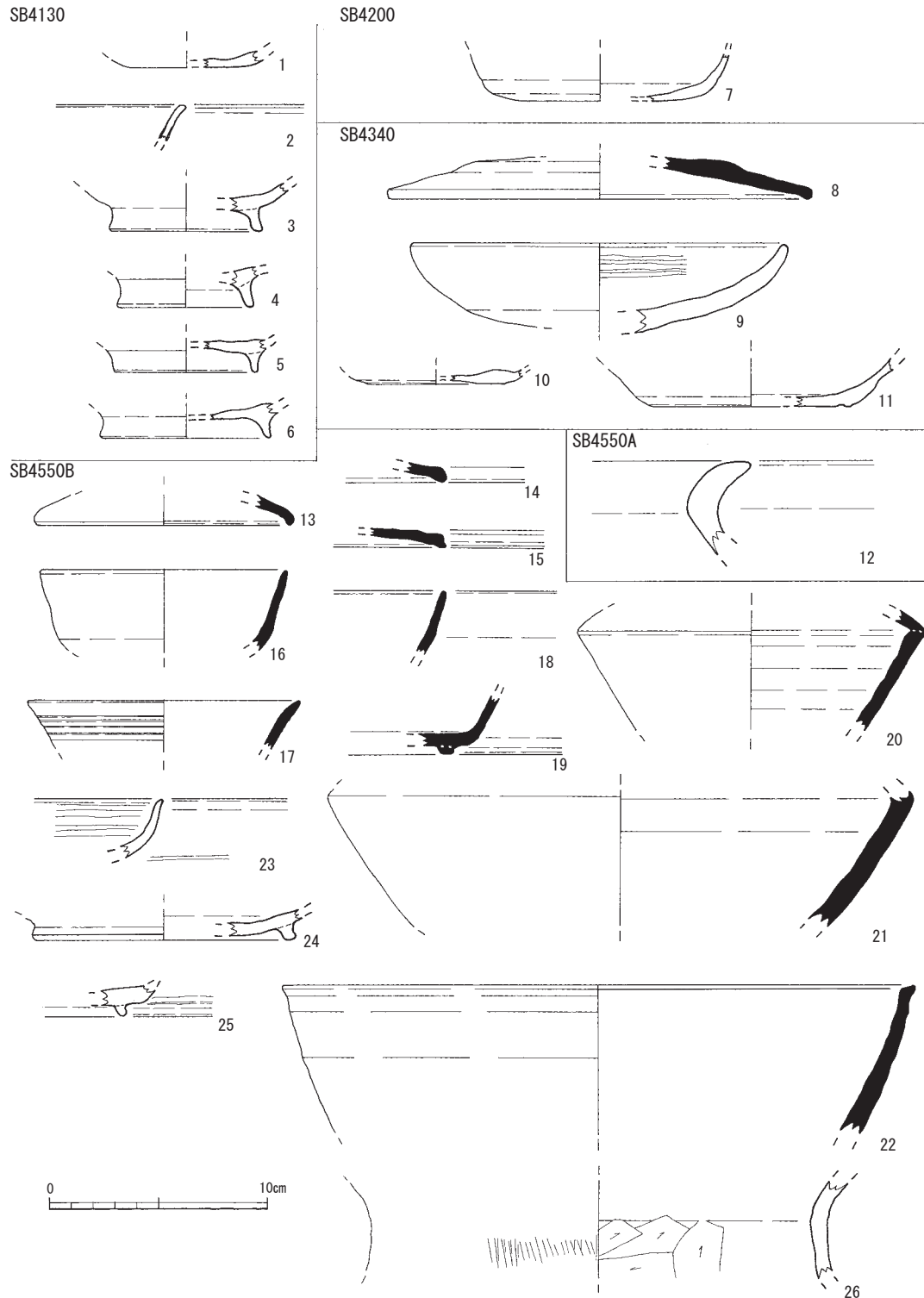


Fig.10 掘立柱建物出土土器実測図⑤ (1/3)

須恵器鉢（22） 口縁～体部上位の破片で、口径は 24.0cmに復元した。口縁端部正面に平坦面を有し、口唇部を外方に引き出している。内外面ともナデによる。生焼け品で、黒色を呈し、一見瓦質土器の印象を受ける。

土師器坏（23～25） 23は口縁～体部小片で、体部は丸く、口縁端部は小さく外反する。内面は横方向のヘラミガキによる。焼成は良好で、橙色を呈する。24・25は有高台坏の底部破片であるが、24の高台は太めで、25は低く細い。24の高台径は 12.2cmに復元した。

土師器甕（26） 頸部破片で、外面粗いハケ目（4条/cm）、内面ヘラケズリによる。

13・26・19が南隅柱掘方、14・22・23が梁行中央掘方、15～18・21・25が北隅柱掘方で、20・24は南隅柱抜き取り穴から出土した。

SB4551 出土土器 (Fig.11, Tab.7, PL.6)

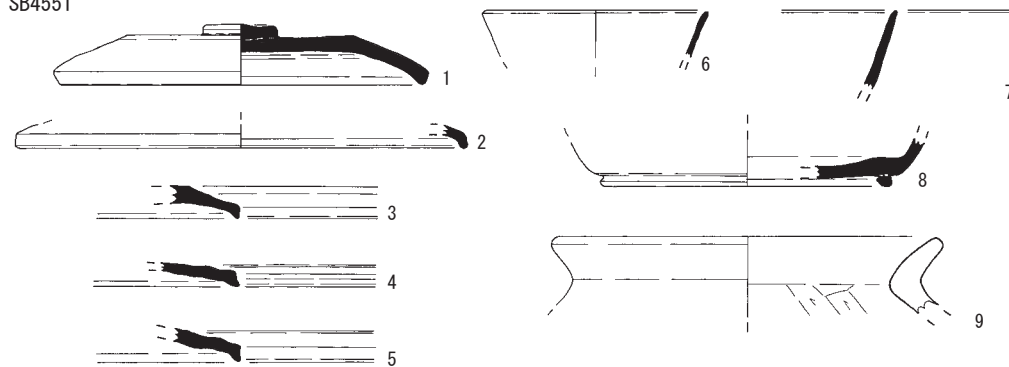
須恵器蓋（1～5） 1は1/4程残存し、器高 2.5cm、復元口径 14.2cm、摘み径 2.9cmを測る。口縁端部は鳥嘴状を呈し、天井は低平で、中央に扁平な擬宝珠形の摘みを貼付する。口縁部ヨコナデ、外天井部回転ヘラケズリによる。焼成は堅緻で、灰青色を呈する。2～5は口縁部小片で、2は口径 18cmに復元したが、小片であるため自信がない。2・3とも立ち上がりは低い。4・5の口縁端部はシャープで、外方に摘み出している。いずれも低平な器形になろう。

須恵器坏（6～8） 6・7が口縁部、8は有高台坏の底部破片。6・7ともに薄手で、シャープな作り。6の口径は 9.0cmに復元した。8の高台は断面蒲鉾形で、底部の外側寄りに貼付している。高台径は 11.6cmに復元した。焼成は軟質で、内外面とも灰色を呈する。

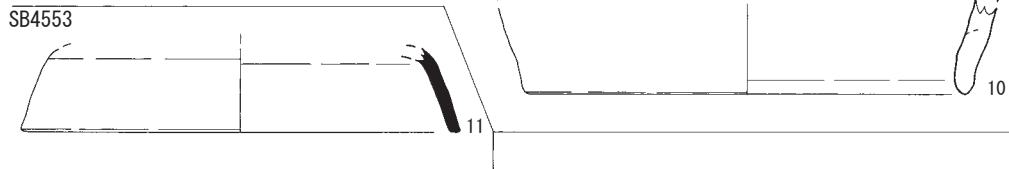
土師器甕（9） 口頸部破片で、「く」字状を呈する。口縁部ヨコナデ、内面ヘラケズリにより、外面から口縁部の内側にかけて赤色顔料を塗布している。口径は 15.6cmに復元した。

土師器甕（10） 底部破片で、底径は 17.2cmに復元した。ヨコナデにより、外面には黒斑がみられる。3～5・7・8が北隅柱掘方、2・6・9・10が中央の掘方、1が南隅柱掘方の出土。

SB4551



SB4553



SB4555

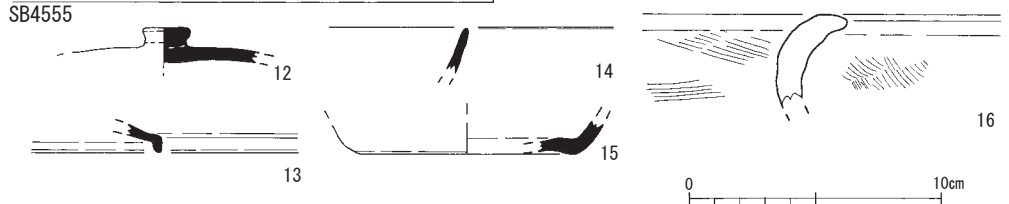


Fig.11 掘立柱建物出土土器実測図⑥ (1/3)

SB4553 出土土器 (Fig.11, Tab.7)

須恵器壺蓋(11) 11は口縁部破片で、口径は17.4cmに復元した。口唇部に平坦面を有し、器肉も口縁端部まで変わらない厚さであること、また外面が灰被りであることから壺蓋として実測した。口縁部はヨコナデによる。焼成は堅緻で、内外面とも青灰色を呈する。南西隅柱掘方から出土している。

SB4555 出土土器 (Fig.11, Tab.7)

須恵器蓋(12・13) 12が天井部、13は口縁部の破片。12は高めのボタン形摘みを貼付する。焼成は軟質で、色調は灰白色を呈する。13の端部は直立し、口唇部を丸く納める。

須恵器坏(14・15) 14は口縁部小片で、シャープな作り。15は底部の破片であるが、残存部に高台を貼付した痕跡がみられないことから無高台の坏になる。底径は8.6cmに復元した。焼成は堅緻で、暗灰色を呈する。

土師器甕(16) 口縁部の小破片で、大きく外反する。内外面ともハケ目(6条/cm)による。

12～14が北隅柱から西に2番目の柱掘方出土、15が同じく西に3番目の柱掘方出土、16は南隅柱から西に3番目の柱掘方から出土した。

2) 柵

広丸地区官衙跡では、調査時点及び当報告書作成時の図面検討において23列の柵を確認した。なお、古い次数の調査においては、一群のピットをまとめてS番を付して遺物を取り上げているため、報告段階で柵と認定したピットであっても土器が出土したピットを特定できず、結果として15点を報告するに留まる。

SA2822 出土土器 (Fig.12, Tab.8)

須恵器蓋(1・3・4) 1はドーム状をなす蓋で、天井部は高く、口唇部はシャープである。口縁部ヨコナデ、外天井部回転ヘラケズリによる。焼成は堅緻で、灰色を呈する。器高は4.7cmで、口径は14.6cmに復元した。3は天井部の小片で、ボタン形の摘みを貼付する。摘み径は2.1cm。4は天井部を欠く。口縁端部は鳥嘴状をなし、立ち上がりも高い。口縁部ヨコナデ、外天井部回転ヘラケズリによる。口径は14.0cmに復元した。1・4は北端から2番目の柱穴出土で、3は4番目の柱穴出土であるが、1は混入品とみられる。

須恵器坏(2・5) 2は口縁部～体部にかけての破片で、受け部を欠く。口縁部は斜め上方に立ち上がるが、シャープなもの。口縁部ヨコナデ、体部外面回転ヘラケズリによる。5は口縁部の破片で、口径は12.6cmに復元した。底部を欠くため、高台が付くのかは不明。ともに北端から2番目の柱穴出土で、2の坏は1の蓋とセット関係をなすものであろう。

SA2831 出土土器 (Fig.12, Tab.8)

土師器甕(6) 口縁部の小破片で、頸部から大きく外反する。中央の柱穴出土。

SA2869 出土土器 (Fig.12, Tab.8)

土師器皿(7・8) ともに口縁部を欠く底部破片で、底径は7が6.8cm、8は6.0cmに復元した。底部切り離しは、7がヘラ切り、8は磨滅により不明。いずれも最南端の柱穴出土。

土師器碗(9) 高台部の破片で、復元高台径は7.0cm。高台端部は外方に突出する。南端から2番目の柱穴から出土した。

SA4116 出土土器 (Fig.12, Tab.8, PL.6)

土師器碗 (10～13) 10が口縁部, 11～13は底部の破片。10の口縁部は肥厚し, 端部を丸く納める。11・13の高台は細目で, 11はシャープな作り。ともに端部は丸い。12の高台は前者に比して太めで, 端部は丸く納める。高台径は11が7.0cm, 12は7.1cmに復元した。10・13は西端部の柱穴, 11・12は西端部柱穴から東に2番目の柱穴から出土した。

SA4211 出土土器 (Fig.12, Tab.8)

須恵器环 (14) 有高台环の高台部小破片。高台端部を欠くが, 断面は逆台形を呈するか。北端の柱穴 (P3) 出土。

SA4558 出土土器 (Fig.12, Tab.8)

須恵器蓋 (15) 身受けのカエリを有する口縁部小片で, カエリの突出は弱い。また, 器壁は薄く, シャープな作り。口縁部はヨコナデで, 天井部にわずかにヘラケズリがみられる。

須恵器环 (16) 口縁部の小破片で, シャープな作り。15は東端から2番目, 16は西端の柱穴から出土した。

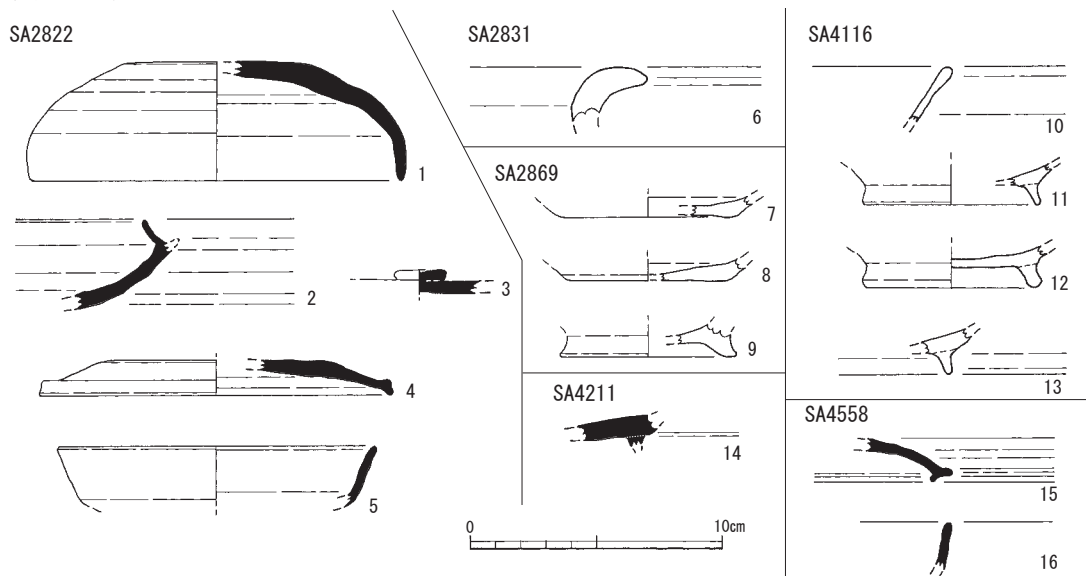


Fig.12 柵出土土器実測図 (1/3)

3) 竪穴住居

SI4220 出土土器 (Fig.13, Tab.9)

須恵器蓋 (1) 蓋の口縁部小片で, 端部は鳥嘴状をなし, やや肉厚のものである。器面調整はヨコナデによるが, 天井部外面はヘラケズリによる。焼成は堅緻で, 灰色を呈する。

土師器环 (2) 有高台环の底部片。高台は断面方形を呈する。焼成は良好で, 黄橙色を呈する。

土師器甕 (3) 口唇部を若干欠くが, 口径は17.2cmに復元した。頸部の締めりは悪く, 口縁部は如意状に外反する。磨滅が著しいが, 内面はヘラケズリによる。

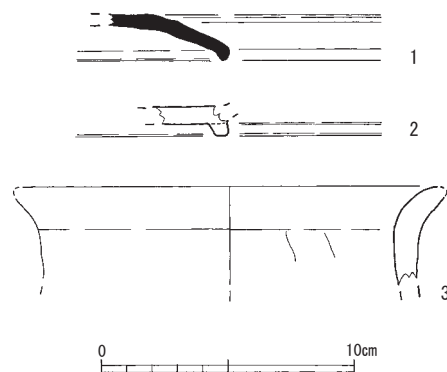


Fig.13 竪穴住居出土土器実測図 (1/3)

4) 溝

①区画溝

SD540 出土土器 (Fig.14, Tab.10)

須恵器坏身 (1) 高台を付す坏身の底部片。高台は底・胴部境よりかなり内側にあり、やや幅太の断面を持つ。

土師器坏身 (2・3) いずれも底部を欠失するが、ともに平底で明瞭に屈曲する器形を持つものか。

SD2832 出土土器 (Fig.14, Tab.10)

弥生土器甕 (4～6) 4は板付式甕の口縁部片。5は同じく底部片で小型の土器。6は後期末～古墳時代前期の大型の甕。

SD3939 出土土器 (Fig.14, Tab.10)

須恵器坏蓋 (7・8) 口縁端部を嘴状に仕上げる坏蓋。ともに小片で、摘みの有無は不明。

坏身 (9・10) 9は平底で高台を付す坏身。高台は剥離していて接合痕跡が残る。10は坏身の口縁部片として示したがゆがみがありやや疑問も残る。

土師器碗 (11) 大型の碗と思われるが小片で径を復元できない。高台を付す。内外を丁寧な平行ミガキで調整している。

土師器皿 (12) 全体にゆるやかに湾曲する皿。器壁内面に暗文状のヘラミガキを施す。

畿内系か

SD3953 出土土器 (Fig.14, Tab.10)

須恵器高坏 (13) 坏部と口縁端部を欠失する。脚は低く、強く開く。

SD4118 出土土器 (Fig.14, Tab.10)

須恵器坏蓋 (14) 口縁内側にカエリを有する坏蓋。カエリはやや退化して短く、口縁端部は横に伸びる。小片で摘みの有無は不明。

土師器坏身 (15) 平底で高台を付さない坏身の底部片。小片で全形は復元できない。

土師器碗 (16・17) 外に長く開く高台を持つ坏身または皿の小片で高台部付近が遺存する。

SD4123 出土土器 (Fig.14, Tab.10, PL.7)

土師器坏身 (18～33) いずれも、平底から明瞭に屈曲して直線的に開き口縁部に至る坏身である。18～26はおおよそ全形が判明する資料。口径はおおよそ12cm内外をはかり比較的そろいが、18・26がやや小型で10cm内外をはかる。全体に丁寧なナデ調整を施し、底部外面にはしばしば板状圧痕が残される。20の内面には一部油煙由来とみられるススが附着する。27・28は同じ器形を持つとみられる坏身の口縁部片、29～33は同じく底部片である。

油煙スス

土師器碗 (34～47) いずれも、断面が「八」字状に開く高台を持つ坏身。小片ばかりで全形を復元できる資料はない。44・45は口縁部片、ほかは底部付近の小片である。全体に丁寧なナデ調整を施して仕上げる資料群である。37は底部の外面に植物圧痕が遺存する。

植物圧痕

土師器高台付皿 (48・49) 上述の高台付の碗と特に底部付近の器形が類似するため、底部付近の資料では器種の判断がやや難しい。この2点は底部から口縁部に向けての開き方から皿の可能性があると判断したが、碗となるかもしれない。

黒色土器坏身・碗 (50・51) 50は坏身の底部片。内側をナデ調整で仕上げ、黒色に焼成する。51は坏身または碗の口縁部片。器壁調整は摩耗により不明だが内側を黒色に焼成する。

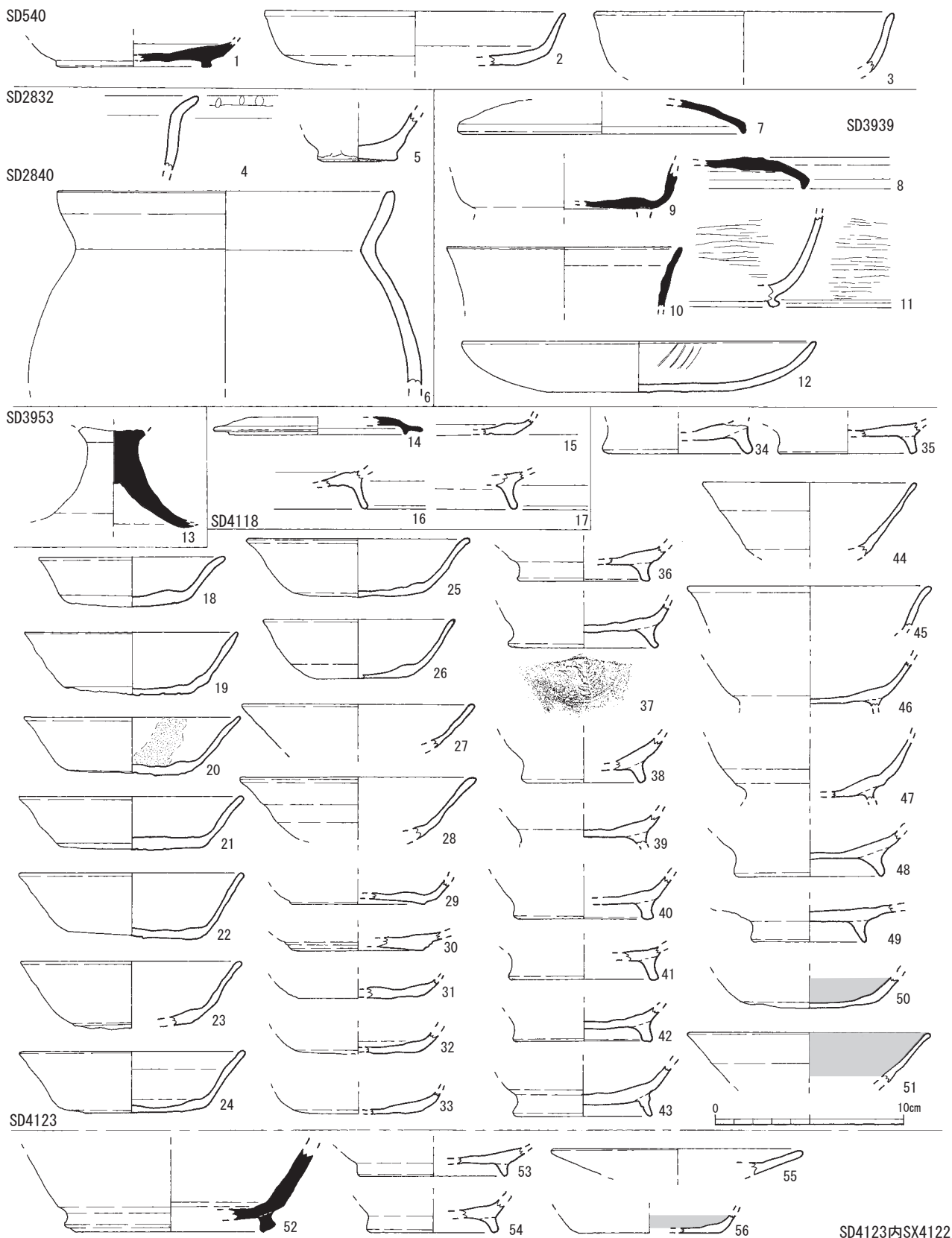


Fig.14 区画溝出土土器实测图 (1/3)

SD4123 内瓦組暗渠 SX4122 出土土器 (Fig.14, Tab.10)

SD4123 内から検出された瓦組暗渠遺構の付近で出土した遺物を別に掲載する。

須恵器壺 (52) 大型の坏身の可能性もあるが、器壁の厚さや高台の形状などから壺の底部と判断した。平底で、底一体部境は明瞭に屈曲する。高台はやや高く、外に少し開く。

土師器坏身・皿 (53～55) 高台の断面形状が「八」字状に開く坏身または皿。53 は皿の底部片、54 は椀の底部片、55 は皿の口縁部片か。

黒色土器坏身 (56) 内面を黒色に焼成する坏身。高台を付さない。

②その他の区画溝

SD2785 出土土器 (Fig.15, Tab.10)

須恵器坏身 (1) 1 は平底で高台を付さない坏身として示すが、器壁が厚く大型の壺などの底部の可能性もある。

土師器甕 (2・3) いずれも口縁部付近の小片で、径は復元できないが、大型品であろう。2 は如意状に湾曲しながら開き、3 はあまり屈曲せずに上に伸びる。

SD2786 出土土器 (Fig.15, Tab.10)

須恵器坏蓋 (4～6) 平坦な天井部からわずかに屈曲して斜めに伸び口縁部に至る坏蓋。口縁端部が欠失する 6 以外、端部を下方に折り曲げる。摘みの有無は不明。

SD2791 出土土器 (Fig.15, Tab.10)

土師器甕 (7) 中型の甕で、口縁端部と胴部中位以下が欠失する。頸部の締まりは弱く、口縁部は湾曲しながら開く。胴部外面にケズリ痕跡が認められる。

須恵器坏蓋 (8) 口縁端部を下方に折り曲げる坏蓋の小片。天井部は遺存しない。

須恵器坏身 (9・10) いずれも平底で高台を持つ坏身。高台はしっかりとしておりやや外に開く。

SD3921 出土土器 (Fig.15, Tab.10)

須恵器坏身 (11・12) 平底で、屈曲して口縁部が斜めに開く坏身の小片。11 は口縁部が、12 は底部から屈曲部までが遺存する。12 は高台がつかないことが明らかである。

土師器甕 (13) 直線的に開く口縁部のみ残る大型の土器。ここでは甕とするが、鉢などの可能性もある。器壁調整は摩耗により不明。

SD3954 出土土器 (Fig.15, Tab.10)

須恵器坏蓋 (14) 口縁端部を下方に折り曲げる坏蓋の口縁部付近の小片。天井部は遺存せず摘みの有無は不明。

SD3957 出土土器 (Fig.15, Tab.10)

須恵器坏蓋 (15・16) とともに口縁部付近の小片で径は復元できないが、端部を下方に折り曲げる坏蓋。

須恵器壺 (17) 肩部がやや強く張る壺型土器。頸部の締まりはやや緩い。

須恵器坏身 (18・19) 18 は口縁部が直立気味に立ち上がるもの。幅が太く低い高台を付す。19 は底一体部の屈曲以上が斜めに強く開くもので、壺型土器の可能性もあろう。

SD4215 出土土器 (Fig.15, Tab.10, PL.7)

須恵器坏身 (20・21) 20 は小型の坏身。高台を付さない。底部外面は調整が十分でなく

ヘラ記号 凹凸をよく残し、ヘラ記号が認められる。21 は器高の低い坏身で高台を付す。

土師器椀 (22・23) 22 は高台を付す土師器椀で大略全形を提示できる。高台はややしっ
かりとしたつくりで、口縁部が直線的に開く。23 も同じ器種の口縁部片としたが、高台を付
さない坏身の可能性もある。

油煙スス 土師器坏身 (24) 高台を付さない坏身。平底で、口縁部は直線的に開く。内面に油煙由来
のススが付着する。

土師器甕(25) やや大きめの甕の胴上位片。頸部の締まりはやや弱く、口縁部は遺存しない。
器壁が分厚い。内面にケズリ調整、外面にハケ目調整痕が残る。

SD4335 出土土器 (Fig.16, Tab.10, PL.7)

須恵器坏蓋 (1～8) 平坦な天井部から、屈曲して、あるいは緩やかに湾曲して下がりな
がら口縁部に至る坏蓋。口縁端部を下方に折り曲げて嘴状に成型するものが多い。ほとんどが
口縁部のみ残る小片で天井部の形状や摘みの有無は不明。8 だけは全形を提示できる。

須恵器皿 (9・10) 平底で、短く開く口縁部を持つ皿。10 は口縁部径がかなり大きく 19.4

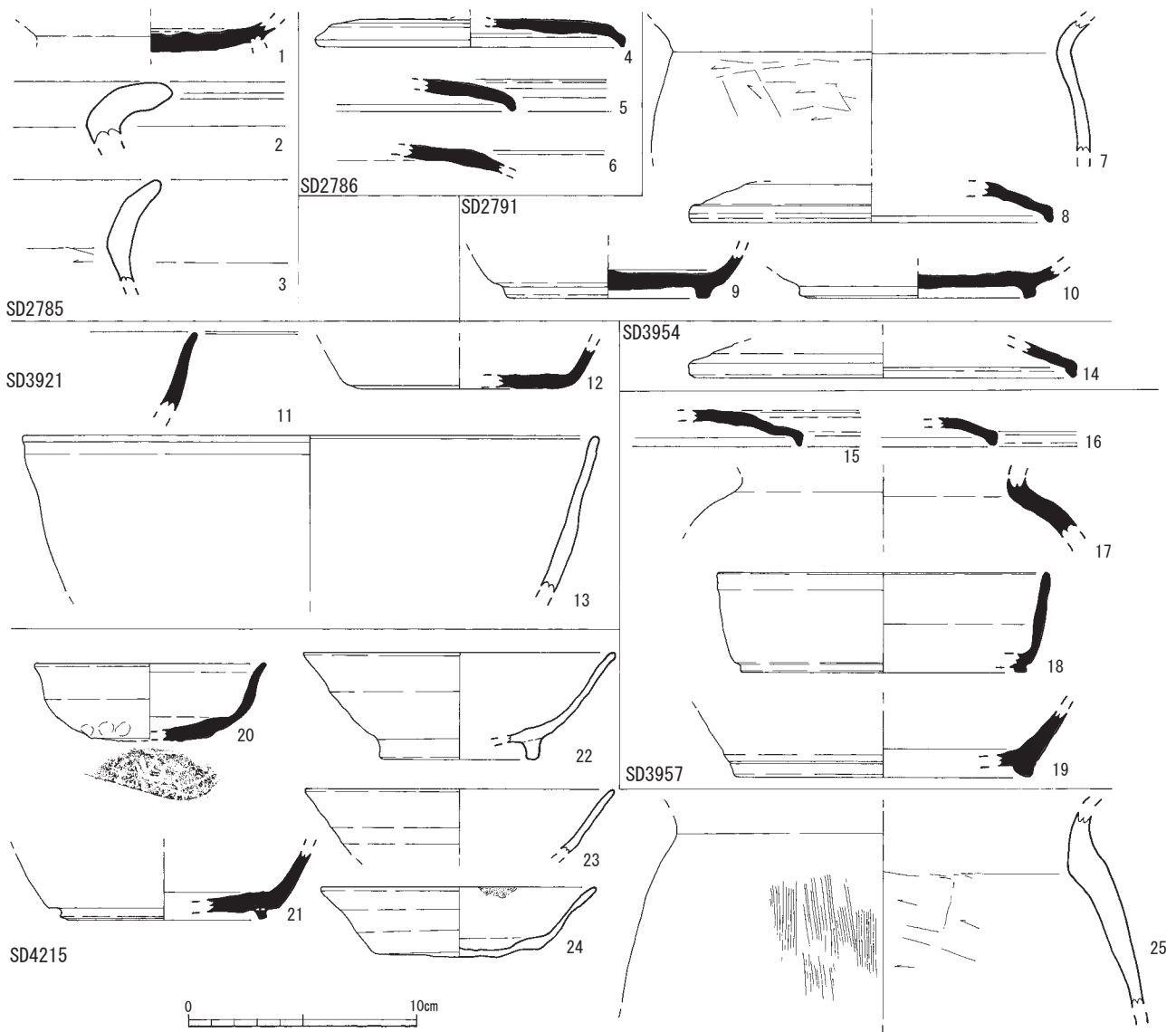


Fig.15 その他の区画溝出土土器実測図① (1/3)

cmをはかる。

須恵器坏身 (11～19) 11は口縁部内側にカエリを有する坏身。底部から胴部にかけては緩やかに湾曲する。12～19は高台を有する坏身。いずれも平底で、口縁部は直線的に開き、端部をわずかに外湾させるものが多い。高台は底一体部境よりかなり内側につき、低くて太いものが多い。

土師器蓋 (20) 口径 23.6cmをはかる大型の蓋。天井部が遺存せず、摘みの有無は不明。

土師器碗 (21) 高台を持つ碗の小片。他の資料群と比べやや新相を呈し、混入か。

土師器坏身 (22・23) 平底で高台を付さない坏身の底部片。22は口縁部が欠失し全形は

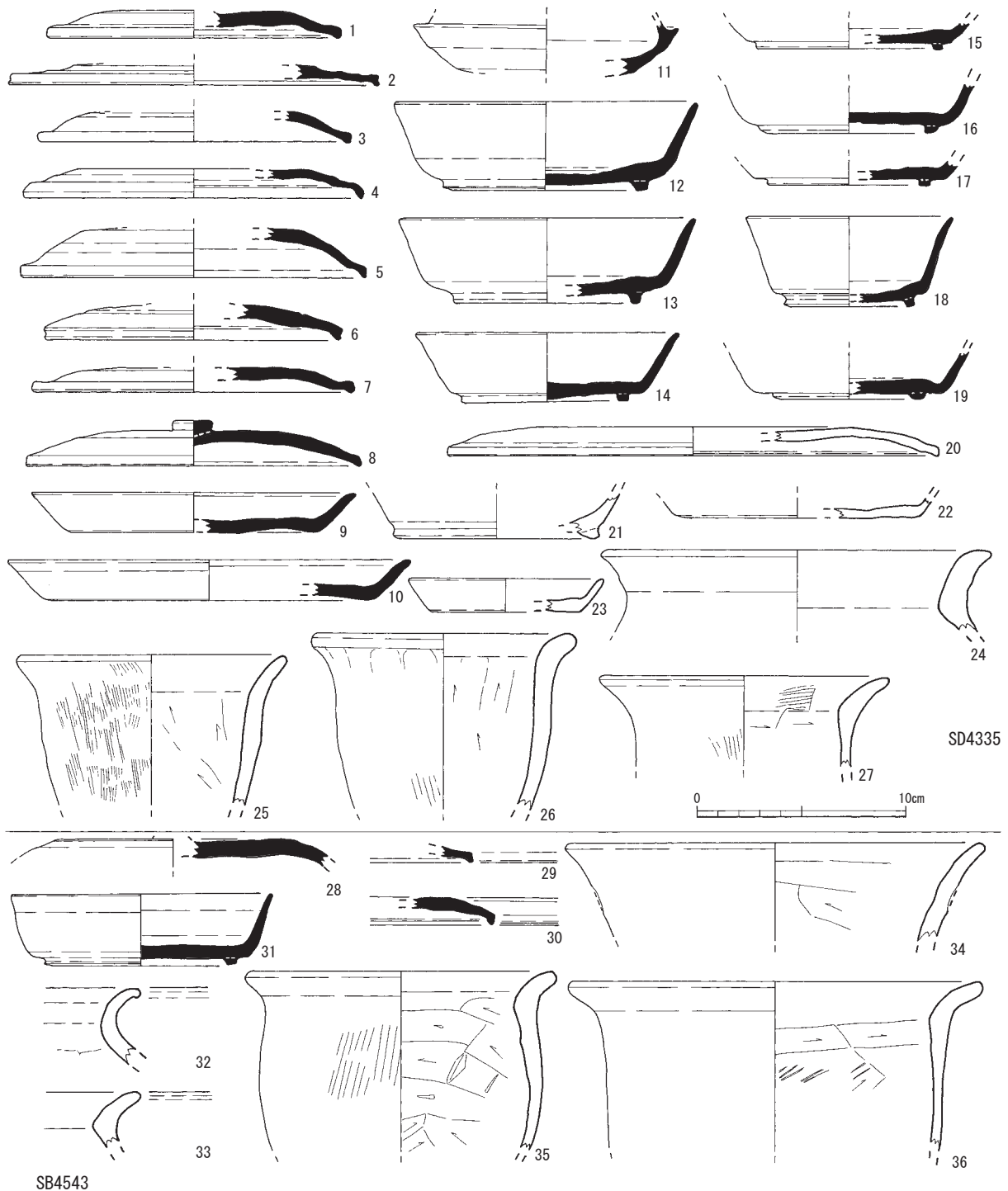


Fig.16 その他の区画溝出土土器実測図② (1/3)

不明。23は器高が低い小型品で新しいものか。

土師器甕(24～27) 24は中型の甕。頸部は明瞭に屈曲し肥厚する。口縁部は緩やかに外湾しながら開く。25～27は小型の甕。いずれもバケツ状の器形を持ち、25・26は頸部屈曲が不明瞭、27は頸部が明瞭に屈曲し内面に稜を持つ。

SD4543 出土土器 (Fig.16, Tab.10, PL.8)

須恵器坏蓋(28～30) 28は平坦な天井部が遺存する。29・30は口縁部のみが残る。いずれも小片で全形は復元できず、摘みの有無などは不明。

須恵器坏身(31) 平底で高台を持つ坏身。器高がやや低く、口縁部は直線的に直立する。

土師器甕(32～36) 32・33は口縁部の小片で口径を復元できない資料。32は強く湾曲し、33は屈曲する。34～36は小～中型の甕で、いずれもバケツ状の器形を持つものか。34は口縁部に向かって緩やかに湾曲しながら開き頸部は屈曲を持たない。35・36は頸部に屈曲を持ち内面に稜を形成する。

③その他の溝

SD2818 出土土器 (Fig.17, Tab.10)

須恵器托(1) 1は高台の外側に平坦面を持つ土器の小片。椀などを載せる「托」と考え、図化した。図で上とした側の器表の一部に自然釉がかかることから、少なくとも焼成時にはこの面が上となっていたことがわかる。

土師器坏身(2) 平底で高台を持たない坏身。底一体部境の屈曲はやや緩い。

土師器椀(3・4) いずれも、「八」字状に開く断面形状の高台を持つ椀型土器の底部片。小片で全形は図示できない。

黒色土器甕(5・6) 内面をミガキ調整で仕上げ、黒色に焼成する甕の小片。頸部の締まりはごく緩く口縁部は短く外湾する。

黒色土器坏身(7) 全体に緩やかに湾曲する器形を持つ浅い坏身で高台を付さない。内・外面にミガキ調整を施し内面を黒色に焼成する。

黒色土器椀(8) 半球状の器形を持ち高台を付す椀型土器。内面を黒色に焼成する。器壁調整は摩耗により不明。

青磁碗(9) 越州窯系青磁の碗。内面に目跡が残る。高台は低く、内側を削り抜かない特徴的な器形。

SD2819 出土土器 (Fig.17, Tab.10, PL.8)

土師器坏身(10～14) 10～12は高台を付さない坏身。平底で口縁部が直線的に開く。13も同様の器形だが器高が低く、「皿」としてもよい。

土師器椀(15～18) 断面が「八」字状に開く高台を持つ椀。底部が平底のものと、底部を含め全体の器形が半球状に湾曲するものがある。

黒色土器椀(19) 有高台椀で内面を黒色に焼成するもの。高台断面形状は「八」字状に開き、黒色に焼成しないものと共通する。

緑釉陶器皿(20) 20は緑釉陶器の段皿の小片。直径は復元できない。胎土はやや黄色味を帯びた灰色で均質、やや軟質の印象を受ける。釉は比較的残る。

土師器鉢(21) 直線的に開く上半部のみが残る資料。全形は不明だが鉢型土器か。

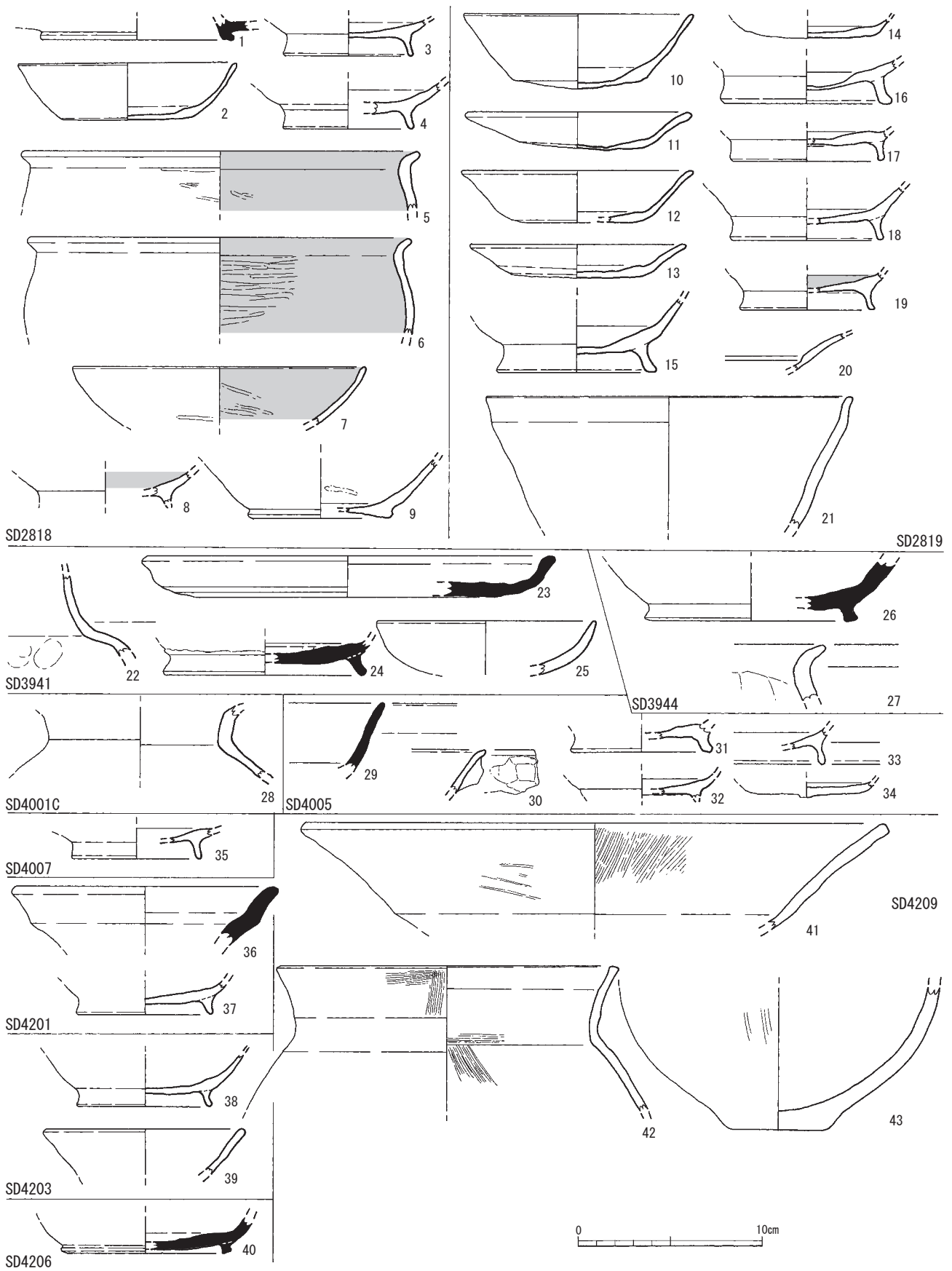


Fig.17 その他の溝出土土器実測図① (1/3)

SD3941 出土土器 (Fig.17, Tab.10)

弥生土器壺 (22) 板付式の壺型土器の胴上位～頸部片か。肩が強く張り、頸部は強くくびれる。

須恵器皿 (23) 口径が 22.6cmをはかる皿型の器種。高坏の坏部の可能性もある。また、壺の蓋などの可能性もあるが、ここでは皿としておく。

須恵器坏身 (24) 断面「八」字状に開く高台を持つ坏身。全体に大きく湾曲する器形を持つ。

縁釉陶器碗 (25) 浅い碗型の器形を持つ小型の土器の底部片。釉の残りは悪く、底部外面は露胎。小片で、器壁はやや摩滅している。

SD3944 出土土器 (Fig.17, Tab.10)

須恵器壺 (26) 平底で高台を付す壺の底部片。小片で全形は不明。高台は太く、外に力強く踏ん張る。

土師器甕 (27) 強い如意状に湾曲しながら開く口縁部の小片。

SD4001C 出土土器 (Fig.17, Tab.10)

土師器壺 (28) 頸部が強く締まり、口縁部は反転して外湾する器形を持つ。古墳時代後期頃の資料か。

SD4005 出土土器 (Fig.17, Tab.10)

須恵器坏身 (29) 高台を持つ坏身か。口縁部のみが残る小片で、口径も復元できない。

土師器把手 (30) 斜めに開く口縁部直下に、平面略方形、断面台形状の把手がつく資料。全形は不明。

土師器碗 (31～33) いずれも外に開く高い高台を持つ碗の底部片。31 は特に高台が太く特徴的である。

土師器坏身 (34) 平底で高台を付さない坏の底部片。外面に板状圧痕を持つ。

SD4007 出土土器 (Fig.17, Tab.10)

土師器碗 (35) 外に開く高い高台を持つ碗または皿の底部片。小片で全形は不明。

SD4201 出土土器 (Fig.17, Tab.10)

須恵器壺 (36) 二重口縁壺の口縁部片。口縁部は丸みを帯び、全体に鋭さを持たない形状である。

土師器碗 (37) 外に開く高い高台を持つ碗または皿の底部片。小片で全形は不明。

SD4203 出土土器 (Fig.17, Tab.10)

土師器碗 (38・39) 38 は断面が「八」字状に開く高台を持つ坏身の底部片。全体に半球状に湾曲する器形を持つ。39 は同様の器形を持つ碗あるいは、高台を持たない平底の坏身の口縁部片か。

SD4206 出土土器 (Fig.17, Tab.10)

須恵器坏身 (40) 高台を付す坏身の底部片。底部から体部にかけて緩やかに湾曲し、明瞭な屈曲を持たない。

SD4209 出土土器 (Fig.17, Tab.10, PL.8)

弥生土器高坏 (41) 41 は後期後葉～末頃の高坏の坏口縁部片。内面にハケ目調整痕、外面にはミガキ調整痕が認められるが摩耗により不明瞭。

弥生土器甕(42) 後期末～古墳時代前期頃の在り系の甕型土器の口縁部片。口縁部が緩やかに湾曲しやや新相を呈する。

弥生土器壺(43) 後期後葉頃の壺の底部片。略球形の胴部下半から、わずかにレンズ状を呈し小型化した底部までが残る。

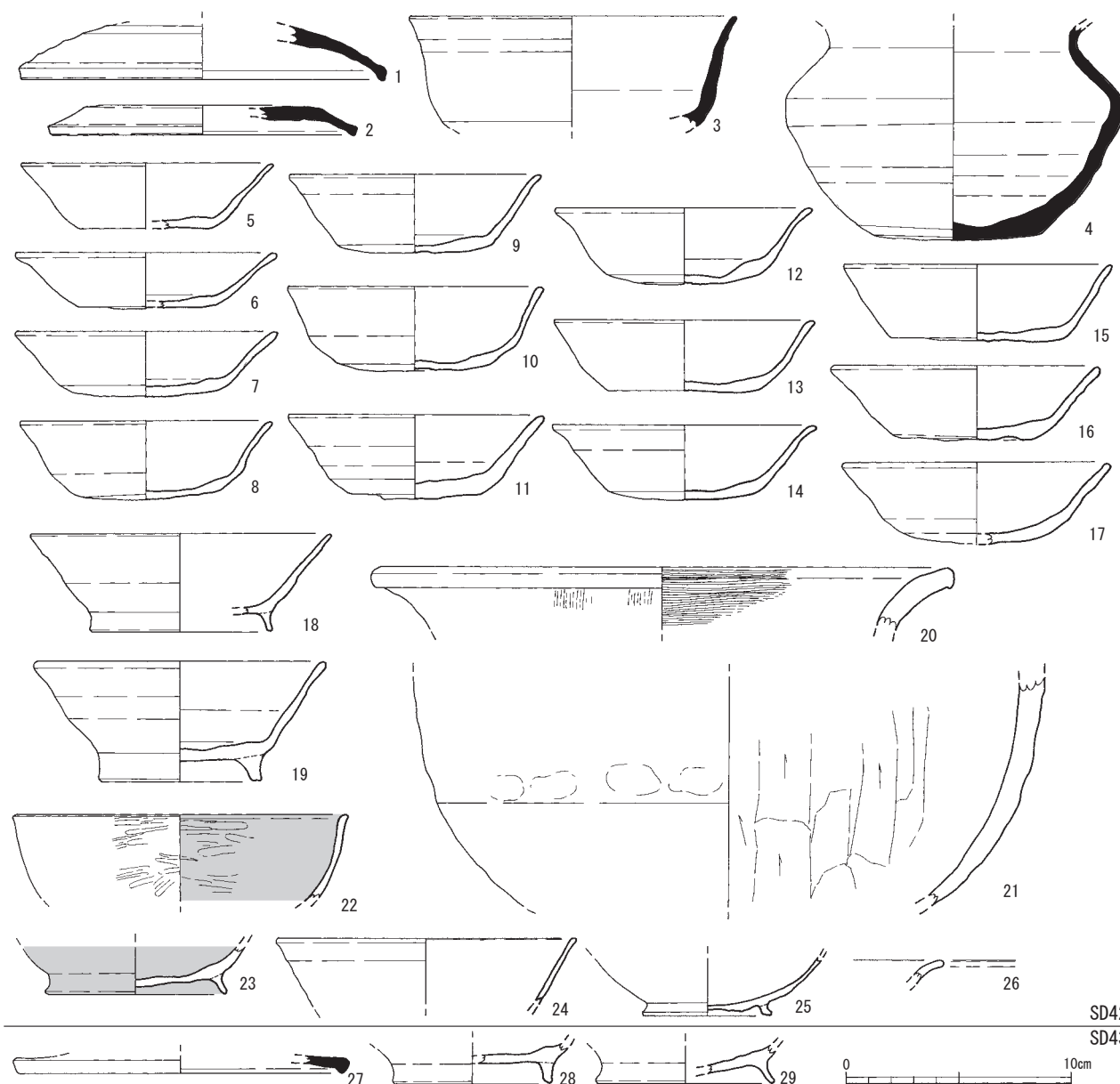
SD4210 出土土器 (Fig.18, Tab.10, PL.8・9)

須恵器坏蓋(1・2) いずれも口縁部付近の小片で天井部は欠失し、全形や摘みの有無は不明。口縁端部を下方に突き出し嘴状に仕上げる。

須恵器坏身(3) おそらく高台を有する坏身とみられるが底部が欠損する。体部は緩やかに外湾しながら上方に伸び、口縁部へといたる。

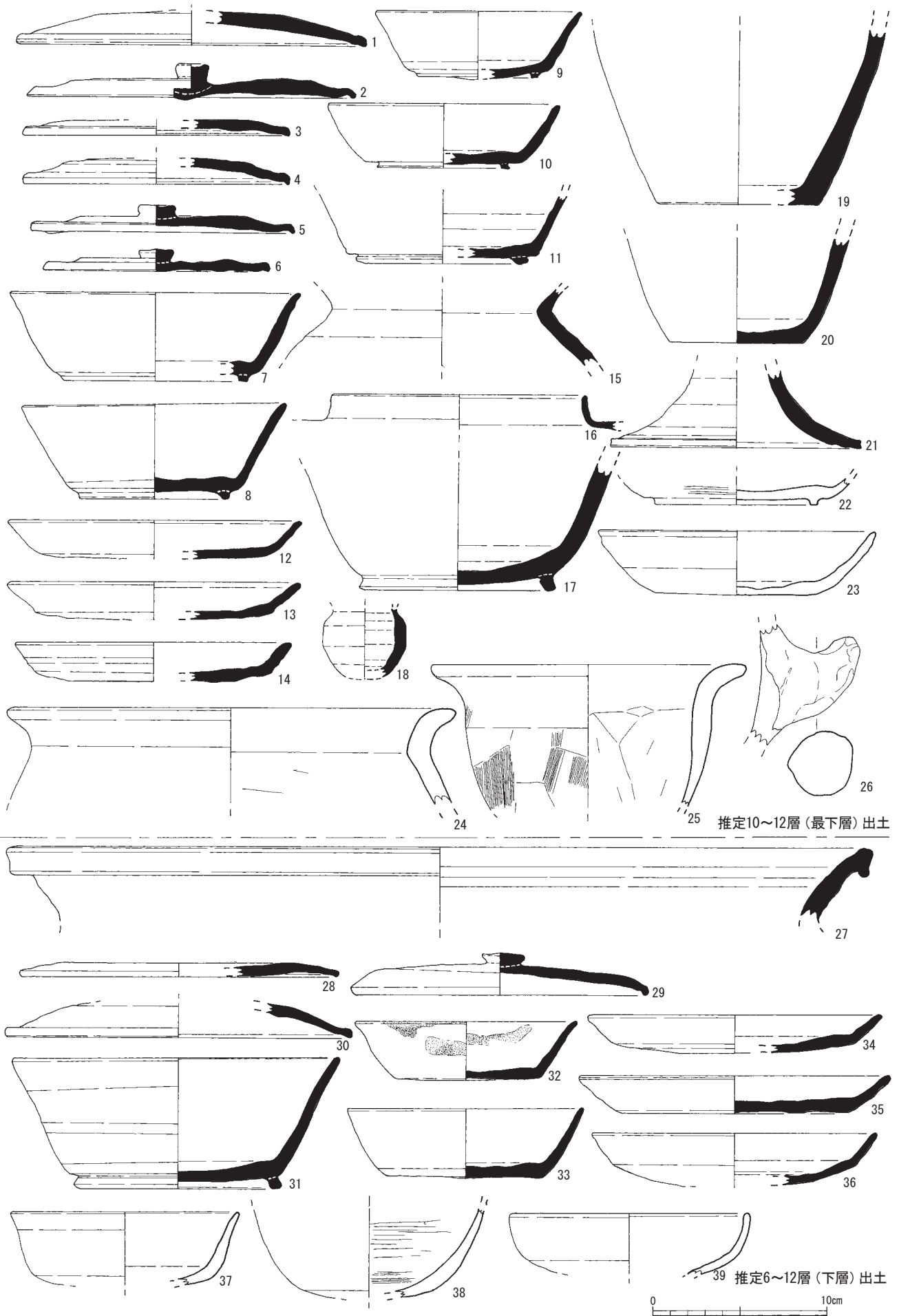
須恵器壺(4) 胴部上位が強く張り屈曲する器形を持つ小型の壺。頸部の締めりは強くない。口縁部は欠失する。

土師器坏身(5～17) いずれも、平底で高台を持たない坏身。底部はやや湾曲するものと



SD4210
SD4330

Fig.18 その他の溝出土土器実測図② (1/3)



平底のものがあり、前者が多い。口縁端部はまっすぐ伸びるものと外湾するものがあり、後者が多い。

土師器碗（18・19） いずれも細く高い高台を有する碗。底部は平底で、底・体部境の屈曲は明瞭、口縁部は直線的に開く。

土師器甕（20・21） 20は甕の口縁部片か。緩やかに外湾する口縁端部のみが遺存する。21は胴部中位の破片。やや長胴気味になるものか。

黒色土器碗（22・23） 22は半球形の碗の上位のみが残る。全形は不明だが丸底を呈するか。内・外面をやや単位の短いミガキ調整で仕上げ、内面を黒色に焼成する。23は底部付近のみが残る。外に強く開く高台を持つ。器壁調整は摩耗により不明瞭。内外両面を黒色に焼成する。

緑釉陶器碗（24・25） 24は口縁部片で、直線的に開く器形を持つ。25は底部片で、外に短く踏ん張る高台を持つ。ともに器壁がごく薄い優品。

青磁碗（26） 越州窯系青磁碗の口縁部片。小片で部分的にしか図示できない。

SD4330 出土土器 (Fig.18, Tab.10)

須恵器坏蓋（27） 口縁部のみ的小片で径には自信がない。口縁端部を下方に突出させる。

土師器碗（28・29） いずれも細く高い高台を持つ碗の底部片。28は高台が下方に伸び、29はやや開く。

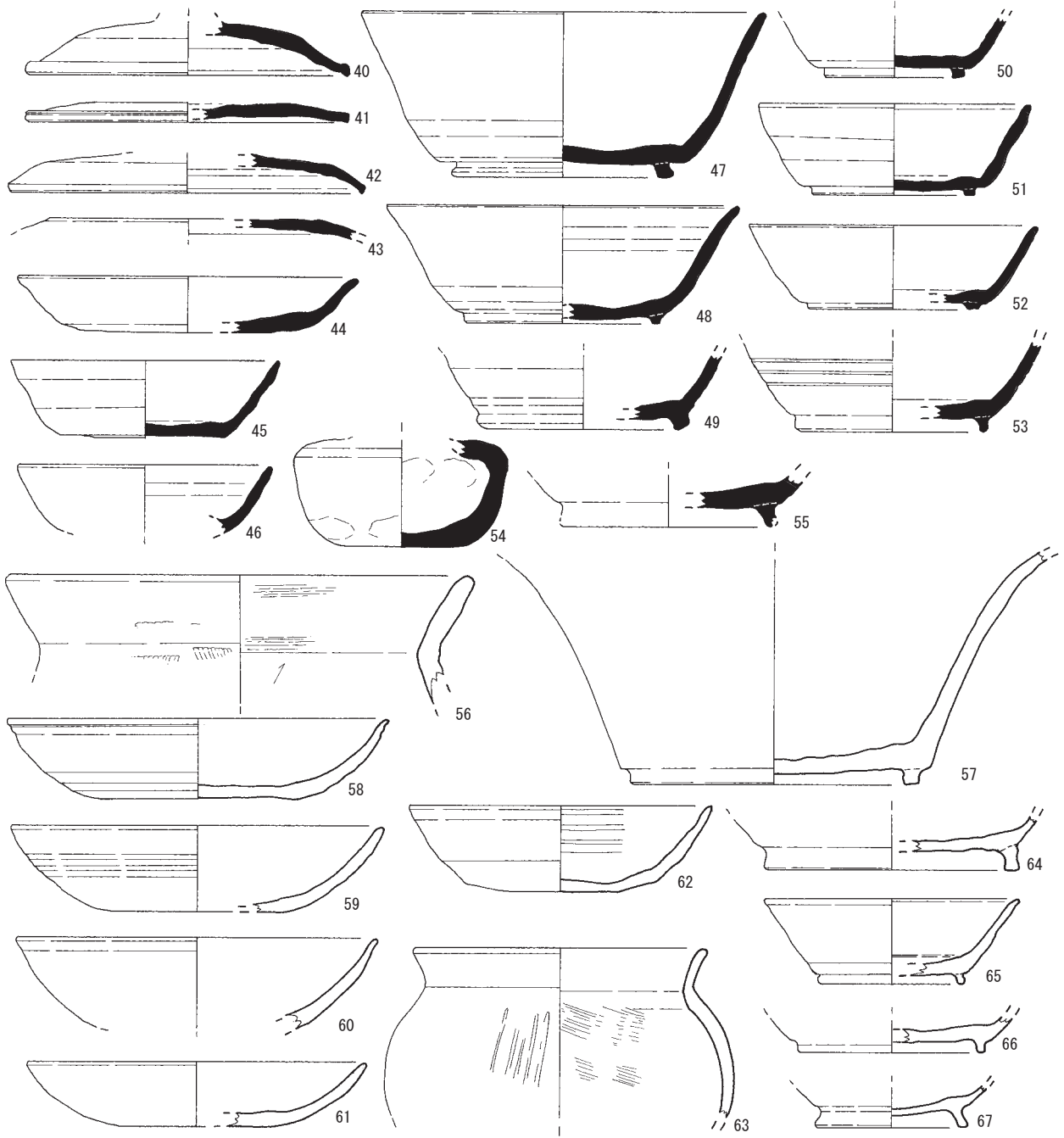
SD4345 出土土器 (Fig.19～25, Tab.10, PL.9～15)

SD4345 出土土器は、取り上げ時に出土層位が記入されているものが多く存在した。ただし、その記述は土層図作成時の層位の記述と一致しない。よって、個別の土器の出土層位を特定することは不可能である。しかし、出土時の注記には調査時の所見を反映した一定の意味を持つものと考え、できる限り出土層位を限定して出土層位ごとに報告することを心がけた。その結果、SD4345 出土土器は大きく、層位別の4群と出土層位の記入のない1群に分けられることになった。なお、この注記の分類と解釈については考え方を個別に記しているので参照されたい。以下では、この群ごとにまとめて報告を行っていく。掲載順は基本的に下層より上層へと進める。

最下層出土土器（1～26）

注記に「最下層」、「下層灰色砂」、「灰色砂」と書かれた一群をまとめて、最下層出土土器として報告する。「最下層」について言葉通りに解釈すれば、前書に掲載した土層図の12層出土ということになる。ただし、12層は溝の一部のみに堆積する層であり、溝の最下部の大半を占めるのは11層である。この11層は場所によっては5cm程度の厚みしかないため、その上位の層との調査時点での正確な弁別は難しいこともあったであろう。そこでここでは、「最下層」について10～12層とやや幅を広げて理解することとした。また、「灰色砂」の記述が最も当てはまるのは12層の「灰白色粗砂層」である。7層の「暗灰色粗砂層」の可能性もあるが、「下層灰色砂」と「灰色砂」の注記における取り上げの日付が近いことを重視し、「灰色砂」についても12層を示すものと解釈した。

須恵器坏蓋（1～6） いずれも、平坦な天井部を持ち、口縁部は緩やかに下がる器形を持つ坏蓋。口縁端部はわずかに下方に屈曲させる。天井部が遺存する2・5・6に平坦なボタン状の摘みがつく。



SD4345推定4層出土

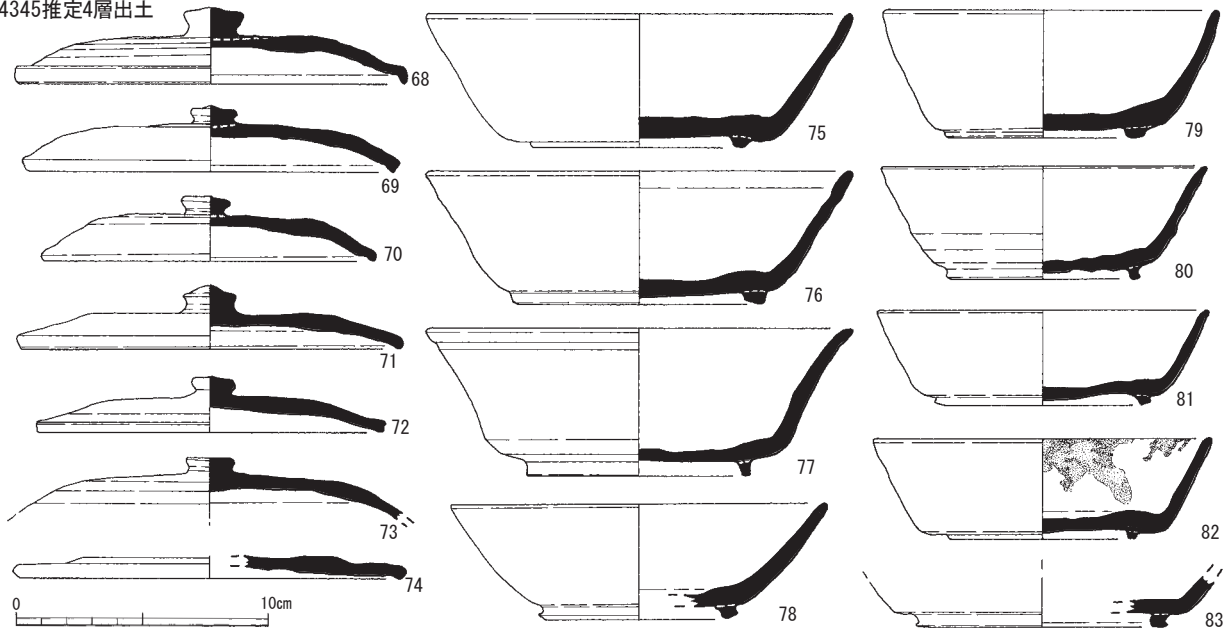


Fig.20 その他の溝出土土器実測図④ (1/3)

須恵器坏身（7～11） 平底で高台を持つ坏身である。口縁部が遺存しない11を除き、大略全形を提示している。体部はわずかに内湾する10を除き直線的に開く。高台はやや小さく、断面が逆台形状を呈する7～9と外に張る10・11がみられる。

須恵器皿（12～14） 平底で短い口縁部を持つ。全体にナデ調整を施し、13の底部外面には回転ヘラケズリ痕が認められる。

須恵器壺（15～20） 15は肩が張らず頸部の締まりが弱い器形を持つ。16は短頸壺で肩が強く張り口縁部は短く直立する。17は平底で高台を付す壺の底部片。18はミニチュアの壺で器壁に凹凸が残る。19・20は平底で高台を付さない壺の底部片。

須恵器高坏（21） 高坏の脚部片。「八」字状に強く開く。

土師器坏身（22・23） 22は平底で高台を付す坏身の底部片。外面にミガキ痕跡が認められる。23は高台を付さない坏身。屈曲部から口縁部にかけてやや丸みを帯びた器形を持つ。

土師器甕（24・25） 24は大型の甕。口縁部はやや締まり、体部はおそらく長卵形になるものか。25は小型の甕で、バケツ状の器形を持つものであろう。

土師器把手（26） やや大型の把手で甕や鉢にともなうものか。湾曲しながら短くななめに伸びる。断面は略円形で表面にナデ痕跡をよく残す。

下層出土土器（27～39）

注記に「下層」と記された土器群である。概報では特に記述はないが、溝の土層を見ると上層と下層で埋没の過程が大きく分けると解釈できる。これを踏まえ、前回の正報告では溝の埋土を大きく上下に分け、境界を太線で表記した。この太線はおおよそ土層の中位を横断しており、調査時に、この付近から「下層」としてもおかしくない。よってここでは、溝の埋没単位を大きく二分する内の下層にあたる6～12層を、土器取り上げ時の注記における「下層」と解釈した。

須恵器甕（27） 大型の甕の口縁部片。口縁端部を下方に折り曲げ肥厚させる。

須恵器坏蓋（28～30） 29は全形が図示できるもので、天井部外面に摺みを有する。28・30は天井部を復元できないものである。いずれも口縁端下方を下に突き出して嘴状に成型する器形。

須恵器坏身（31～33） 31は大型品で、平底に高台を付す。32・33は中・小型品で、平底で高台を持たない。32は内・外面に油煙由来とみられるススが付着する。

油煙スス

須恵器皿（34～36） 平底で短く開く口縁部を持つ皿。34・36は底部外面に回転ヘラケズリ痕跡をよく残す。

土師器碗（37～39） いずれも底部が丸みを帯びた平底で、口縁部に向かい湾曲しながら立ち上がる器形を持つ。38は内面にミガキ調整を施す。

上層出土土器（40～67）

注記に「上層」と書かれた一群である。上記のように、溝の埋土は埋没の過程を反映して大きく上層と下層に分けられる。よって、注記における「上層」はおおよそ埋土の上半部を占める層序を指し、具体的には4・5層を指すものと考えた。

須恵器坏蓋（40～43） いずれも小片で天井部を欠失する。口縁端部を下方に突出させる資料である。

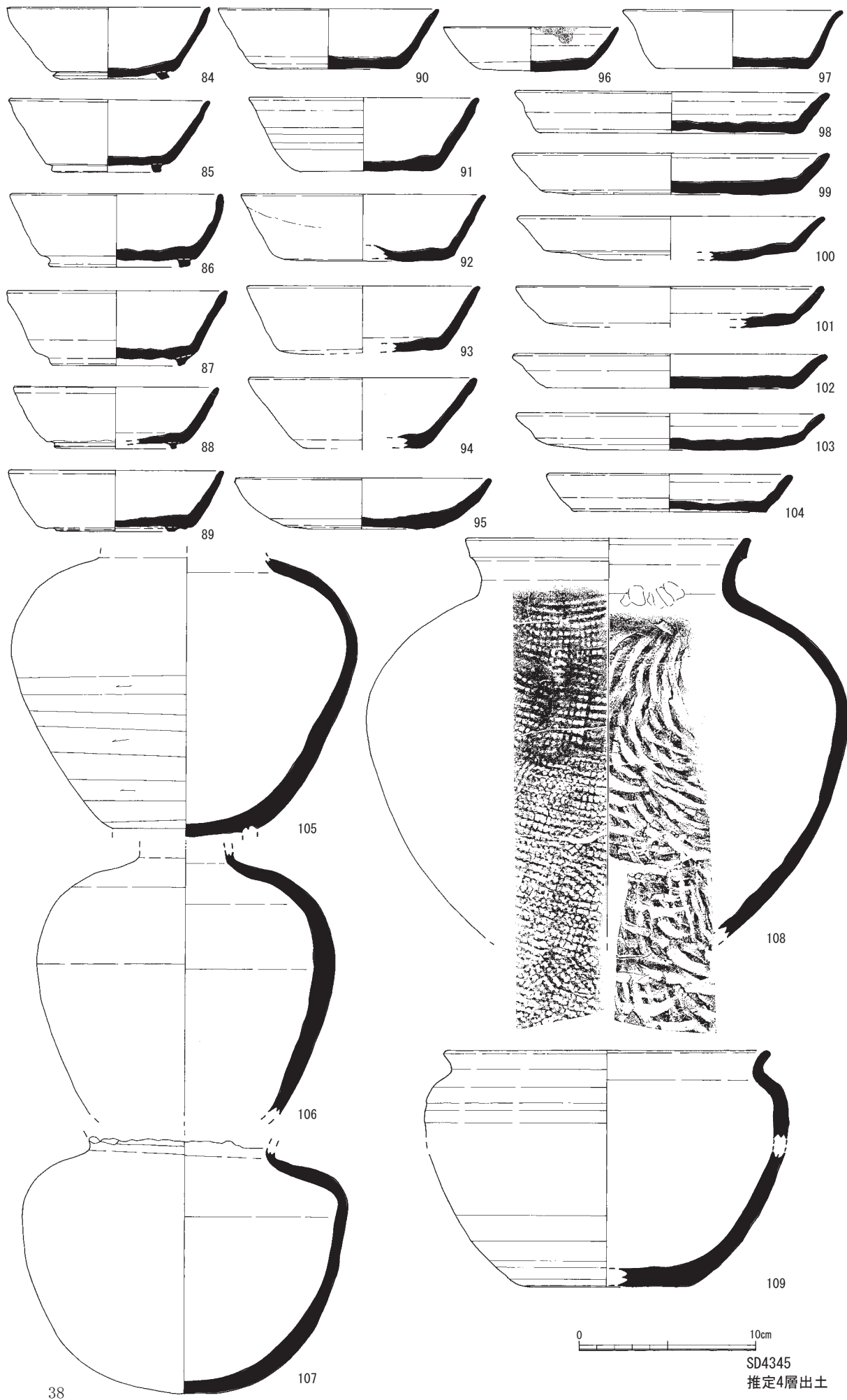


Fig.21 その他の溝出土土器実測図⑤ (1/3)

須恵器坏身(44～53) 44・45は平底で高台を付さないもの。44は器高が低く「皿」としてもよい。46は底部が欠損するため高台の有無が判断できない。47～53は平底で高台を付す坏身。大型の47・48から小型の50までサイズは変異の幅がある。

須恵器壺(54・55) 54は小型の壺型土器の胴部片。器種は特定できない。平底で肩が強く張り頸部が締まる器形を持つ。器壁が厚く、指頭圧痕を随所に残す。55は坏身にしては器壁が分厚いので、平底で高台を持つ壺の可能性があると考えた。

土師器甕(56) 古墳時代前期の在地系の長胴甕の口縁部片であろう。

土師器鉢(57) 平底で高台を持つ鉢。体部はやや強く外湾しながら開く。

土師器碗(58～62) 平底で、底・体部の境界が明瞭ではないものから、丸底気味に仕上げるものまで、全体につぶれた半球状を呈する一群である。内・外面にミガキ調整を施すものが散見される。

土師器甕(63) 球胴で頸部がやや強く締まるもの。口縁部は短く直立気味に開く。

土師器坏身(64～67) 平底で、底部外面に高台を付す坏身。64はやや大型品で高台もしっかりしている。

推定4層出土土器(68～138)

「上層黒色土」・「黒色土」と注記に記された一群である。溝土層の注記の中で「黒色土」に該当するものとして埋土の上位に位置する4層の「黒灰色砂質土」がある。これを上層黒色土に比定した。出土遺物が非常に多く、大片も多い。このため提示する資料は、器種ごとに特に数が多いものについては略完形で提示できるものを中心に示している。

須恵器坏蓋(68～74) 68～74は平坦な天井部から口縁部にかけて降りてきて、口縁端部を下方に引き出すもの。摘みがつくものはやや平坦な宝珠型のものが多い。

須恵器坏身(75～97) 75～89は平底で高台を付す坏身。高台の断面形はやや細めで外に張るものが主体を占める。90～97は高台を付さない資料。95は底部から口縁にかけて緩やかに湾曲するやや特異な資料。96は小型品。82・91・96の内面には油煙由来とみられる油煙ススが附着する。

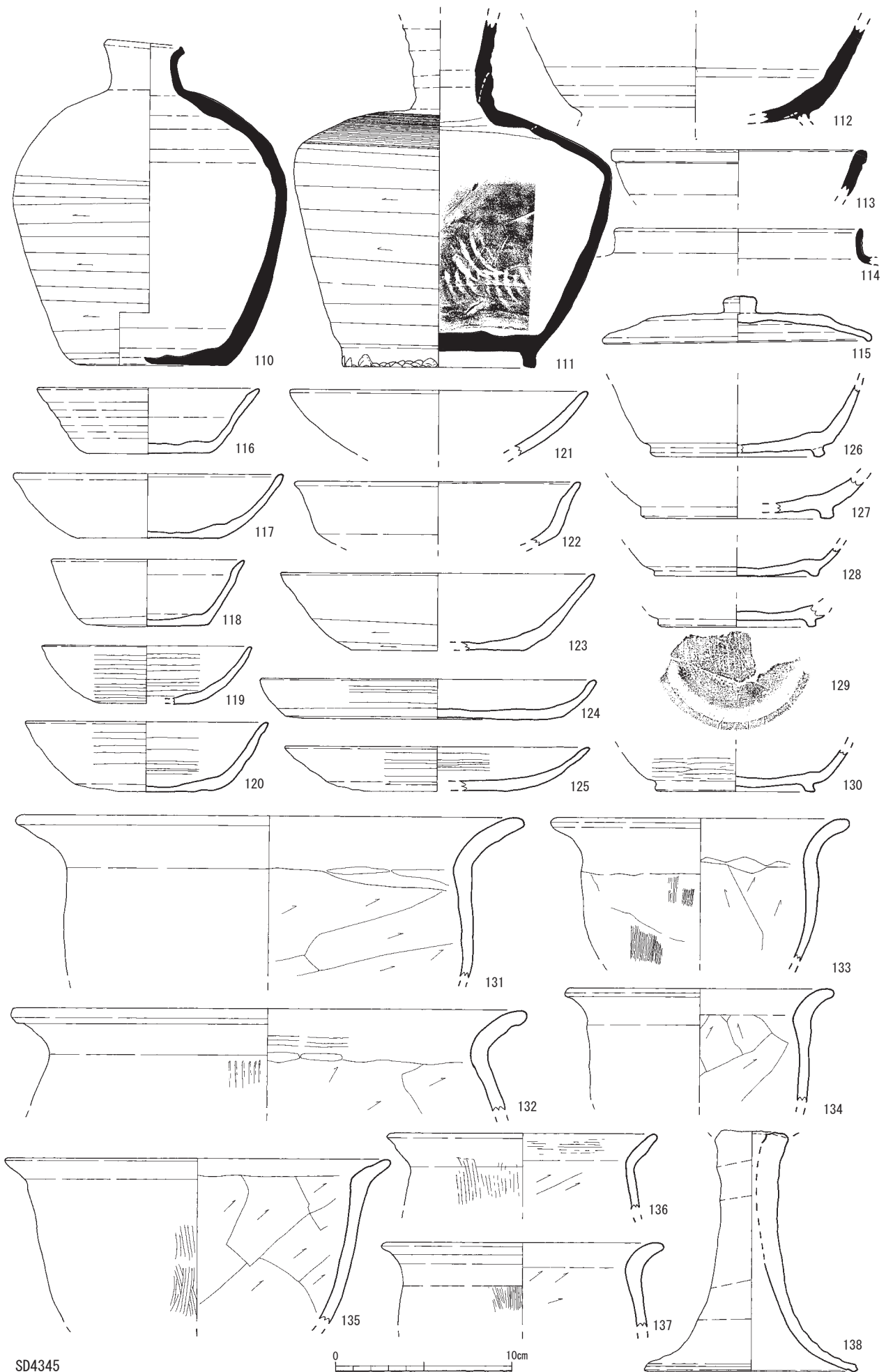
須恵器皿(98～104) いずれも平底で、ごく短く開く口縁部を持つ。底部外面にヘラケズリ痕跡を残す資料が散見される。

須恵器壺(105～114) 105～107は肩がやや強く張り頸部が締まるもの。丸底で高台を付さない。108は球胴で口縁外面を段状に肥厚させ二重口縁状に成型する。109は短頸壺または甕。平底で肩が強く張り頸部は締まらない。口縁部は短く外反する。110・111は平底で肩が張り細い頸部を持つもの。111は高台を持ち頸部が長い。112は高台を持つ壺の底部片。113は壺または甕の口縁部片。114は短頸壺の口縁部片。

土師器坏蓋(115) 摘みを付す坏蓋。天井部から口縁部まで緩やかに広がる器形を持ち、摘みはやや背の高いボタン状を呈する。

土師器坏身(116～123) 平底で、斜めに開く体部を持つ。底・体部境は明瞭に屈曲する116などと緩やかに湾曲する117などに分かれ、後者が多い。内・外面をミガキ調整により仕上げるものとして119・120がある。

土師器皿(124・125) 平底で、口縁部は短く開く。高台を付さない。底部と体部が直線



SD4345
推定4層出土

Fig.22 その他の溝出土土器実測図⑥ (1/3)

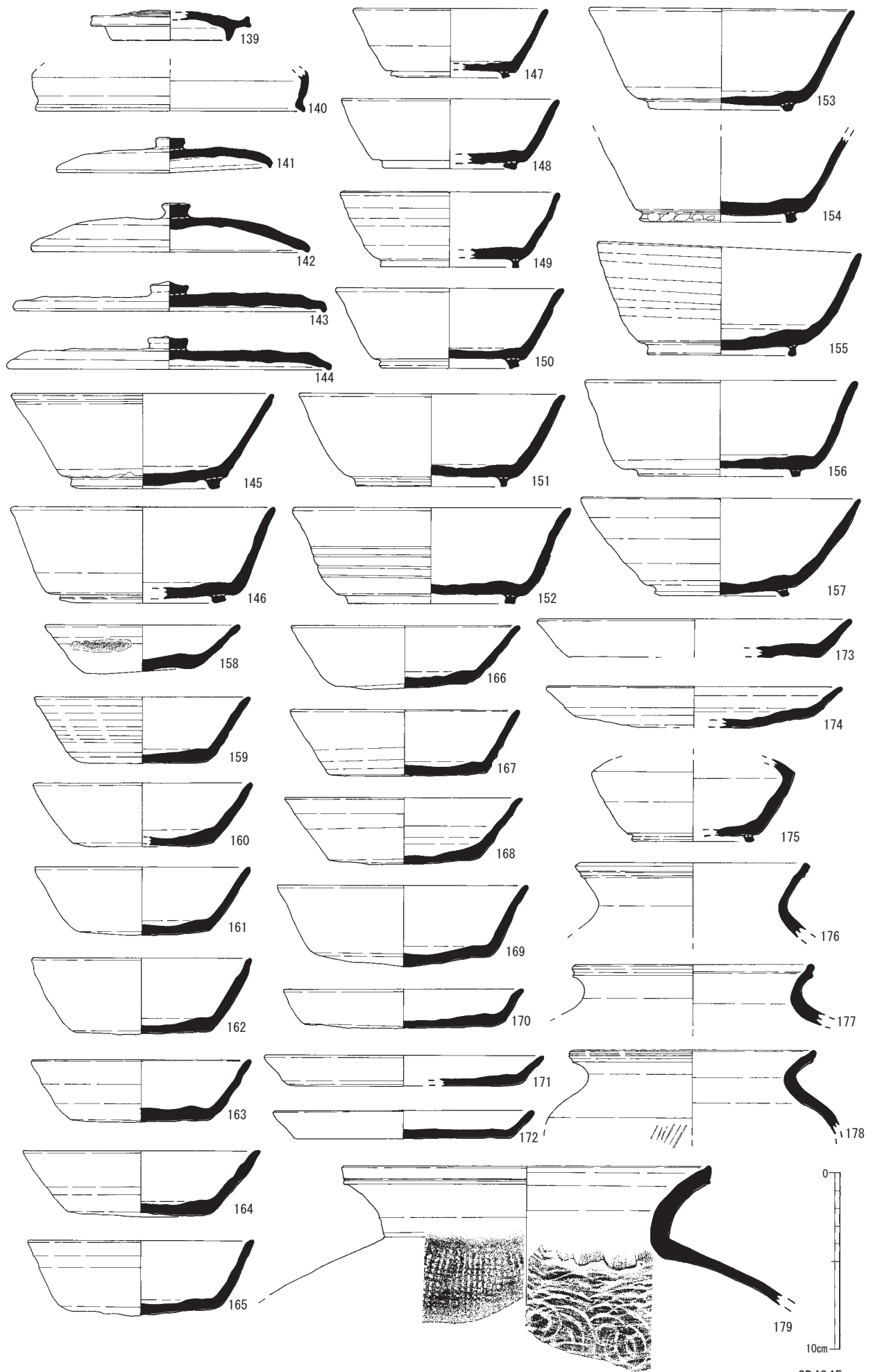
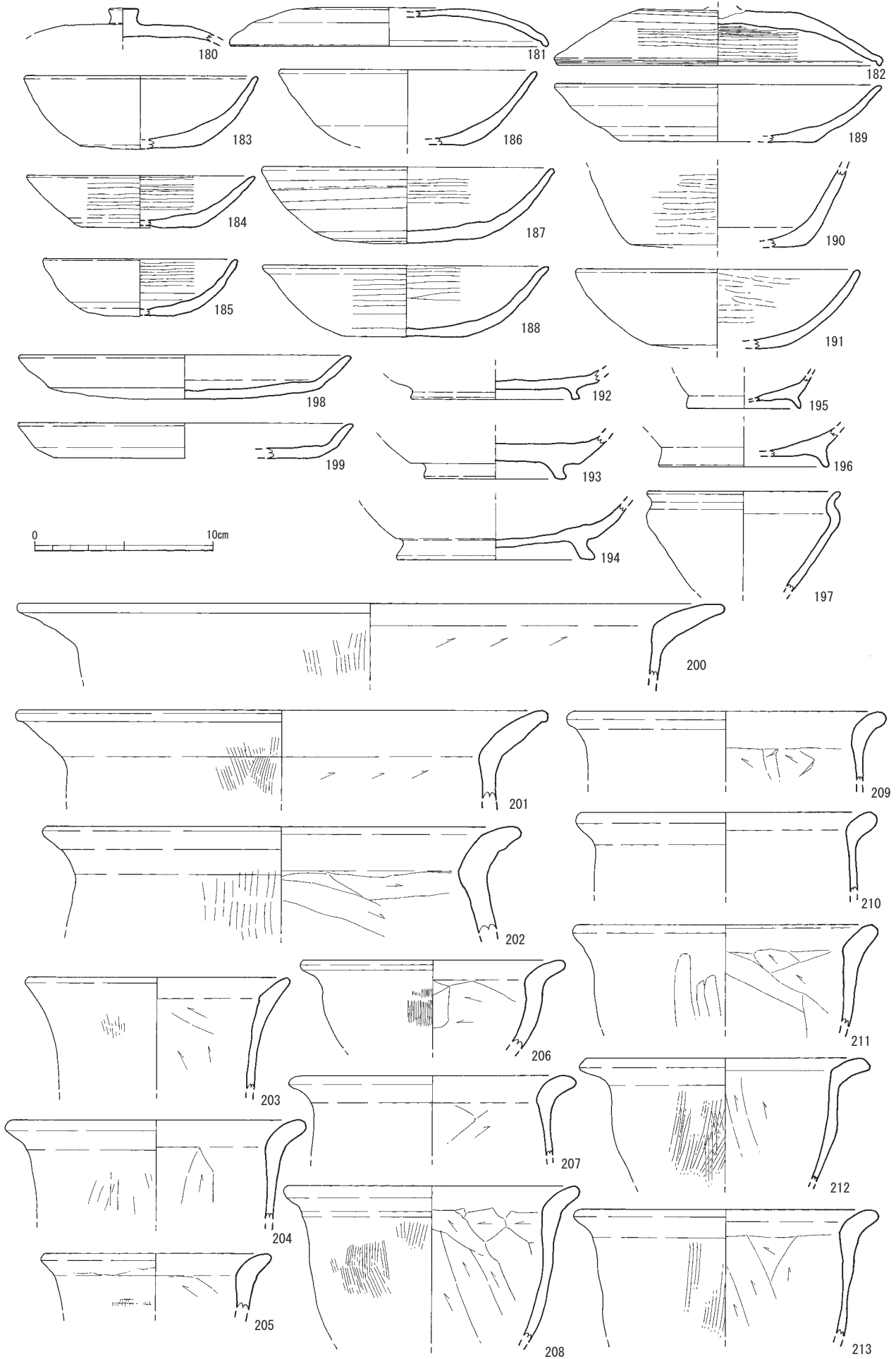


Fig.23 その他の溝出土土器実測図⑦ (1/3)



的に伸びる 124 と全体に緩やかに湾曲する 125 の差がある。ともに、内・外面にミガキ痕跡が認められる。

土師器坏身（126～130）高台付の坏身である。いずれも底部片で全形は不明。129の底部外面，高台の内側にはすだれ状の板状圧痕が観察される。

土師器甕（131～137）いずれも頸部の締まりが弱く，バケツ状の器形を有する甕か。131・132は大型品，135は中型品，ほかは小型品である。器壁調整はいずれも，内面ケズリ，外面ハケ目調整。

土師器高坏（138）脚のやや長い高坏の脚部片。坏部は欠損する。

その他のSD4345出土土器（139～221）

SD4345出土資料の中で，注記に特に出土層位や出土位置などの記入がないものをまとめて報告する。なお，資料が多量のため，同一器種で数量の多いものは全形が提示できる資料を優先して提示し，小片は多くを省略している。

須恵器蓋（139・140）1は内面にカエリを有する蓋。径が小さい。壺・甕などの蓋か。2は平坦な天井部から直角に折れ曲がって，短く下方に伸びる器形を持つ蓋。壺などの蓋か。

須恵器坏蓋（141～144）平坦な天井部からわずかに垂れ下がり口縁部に至る器形を持つ蓋。摘みはボタン状を呈する。

須恵器坏身（145～169）145～157は平底で高台を付す坏身。底部から体部にかけてわずかに内湾し，底・体部境が強く湾曲して屈曲しないものと，平底と直線的な体部を有し明瞭に底・体部境が屈曲するものとがみられる。高台はやや太いものが散見される。158～169は平底で高台を付さない坏身。小型の158を除きサイズや器形に統一感がある。158は外面 油煙スス中位に油煙に由来すると思われるススが附着する。

須恵器皿（170～174）平底で，短く開く口縁部がつく。口径が16～18cmをはかり大きい。

須恵器壺（175～178）175は平底で高台がつき肩が強く張る小型壺。長頸壺か。176～178は頸部があまり締まらない壺型土器。口縁部は外に開く。

須恵器甕（179）中型の甕型土器。頸部は強く締まり，はっきりと屈曲する。口縁部は短く外湾する。胴部外面に格子目タタキ，内面に青海波紋を残す。内面の頸・胴部境に，ヘラ状工具による接合時の調整痕跡と思われるものが認められる。

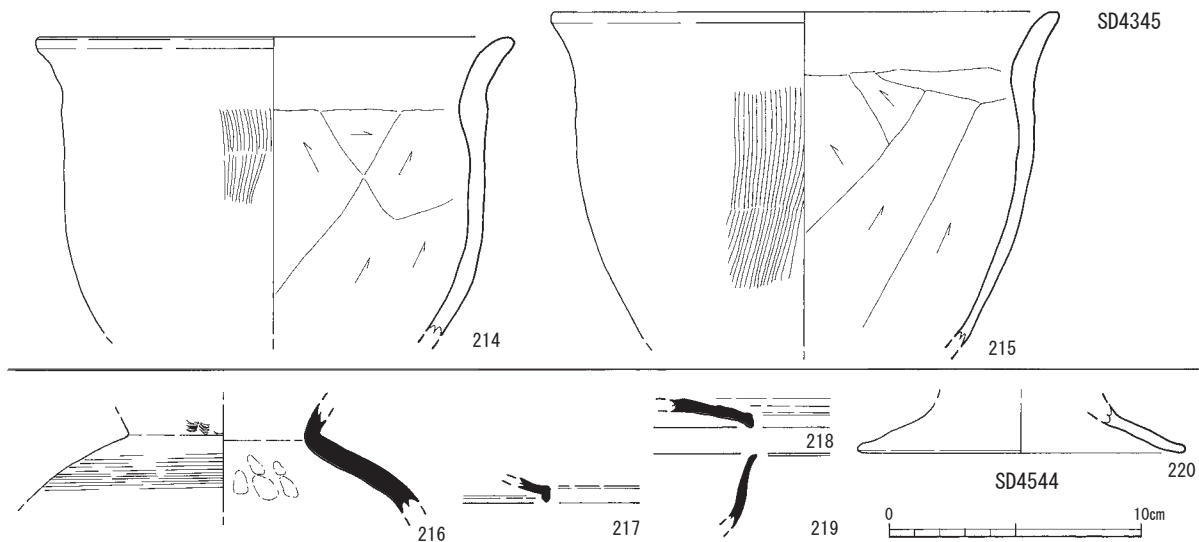


Fig.25 その他の溝出土土器実測図⑨（1/3）

土師器坏蓋（180～182） 180は口縁部を欠失する資料。天井部から緩やかに湾曲しつつ伸びる。摘みは背が高くやや小さい。181・182は天井部を欠失する資料。おそらく摘みを付すものか。

土師器椀（183～196） 183～191は底部から口縁部にかけて緩やかに内湾しながら開く器形を持ち、高台を付さない椀。190はやや器形が異なり、平底と明瞭に屈曲する体部を持つ。器壁調整にミガキを用いる資料が多い特徴がある。192～196は底部に高台を付す椀。193・194は大型で、壺などほかの器種の可能性もある。また192は高台付皿の可能性もある。195・196は高台が斜めに開くもので、やや新相を呈する。小片であり、混入の可能性も否定できない。

土師器鉢（197） 小型の鉢型土器。底部は欠損する。口縁部直下で一度内側に湾曲し、口縁部は短く開く。

土師器皿（198・199） 平底で口径が大きな皿。口縁部は短く斜めに開く。

土師器甕（200～215） 200は特大型の資料。小片でやや不安が残るが口径40cm程度で復元図示した。200・201は大型品。214・215は中型品。他は小型品。いずれも頸部の締まりがほとんどなく、バケツ状の器形を持つ。頸部屈曲部が肥厚し、短く外湾する口縁部へと至る。胴部内面にケズリ痕跡、外面にハケ目痕跡が残る資料が大半を占める。211は胴部外面にヘラ状工具によるナデ痕跡を残す。

SD4544 出土土器 (Fig.25, Tab.10)

須恵器壺（216） 頸部が強く締まる壺。胴部は球状丸底を呈するものか。小さめの品で、内面に指頭圧痕を残す。

須恵器坏蓋（217・218） いずれも口縁部のみの小片で、径は復元できない。端部を下方に折り曲げるまたは突き出して、嘴状に仕上げる。

須恵器坏身（219） おそらく平底で高台を持つ坏身であろう。口縁部の小片であり径を復元できない。

土師器高坏（220） 強く開く脚端部のみが残る資料。残存部端より上方に屈曲するものであろう。

④自然流路

SD2760 出土土器 (Fig.26・27, Tab.11, PL.16)

SD2760 出土土器には、「下層」・「最下層」・「下層腐植土」・「下層砂」・「下層黒色土」・「下層粗砂」・「上層」の出土層位が記された一群と、出土層位の注記を持たない一群がある。概報ではSD2760の層位と出土遺物について、大きく上・下層に2分できるとしたうえで、下層については中央最下層にあたる15層からのみ遺物が出土するとされている。15層の土質は「暗灰色砂質土（細～粗砂を含む）」となっており、「下層」出土とされる注記を持つ遺物の一群の中で「下層腐植土」・「下層黒色土」を除く注記は、おおよその層位の内容に合致するものと考えてよいものと思われる。一方、合致しない2つについては、下層の中で注記に合致しそうな特徴を持つ層位を探すと14層の「淡黒色シルト質土」が最も近いと考えられ、この層位より出土した可能性が高い。ここではこれらを一括して「下層」出土遺物として報告する。これらの資料群の大半は弥生時代のものであり、下層の埋没はおおよそ弥生時代の中で起きたもの

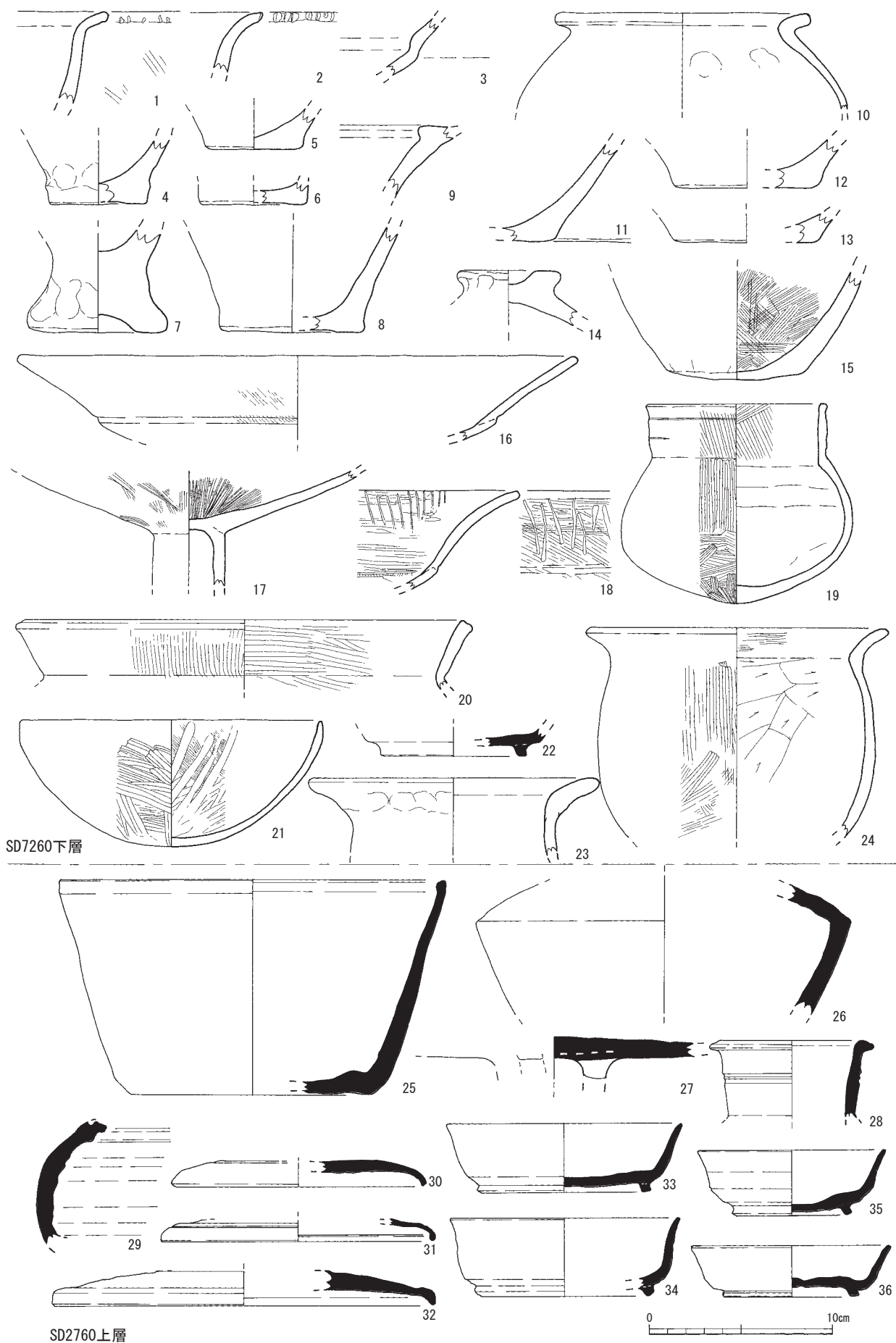


Fig.26 自然流路出土土器実測図① (1/3)

と判断できる。一部に新しい遺物もあるが、量の少なさから見て上層より混入した可能性が高いものと考えられよう。

一方、「上層」と注記される遺物についてはそれ以上の出土層位の注記がないため一括して「上層出土土器」として報告する。

下層出土土器（1～24）

弥生土器甕（1・2・4～8・15・20） 1・2は板付式甕の口縁部片。如意状に外反する口縁部のみが遺存する。口縁端部に刻み目を付す。4はおそらく前期の甕の底部片であろう。7は中期初頭城ノ越期頃の甕の底部片。5・6・8は中期須玖式土器の甕の底部片か。15は後期中葉頃の甕の底部片か。20は後期末頃の甕の口縁部片。

弥生土器高坏（3・16～18） 3は板付式の高坏の坏部片か。屈曲部のみが残る。小片で径は復元できない。16～18は後期後葉～末葉頃の高坏の坏部片。16は器壁が摩耗しており調整痕がよくわからないが、17・18は内・外面にミガキの痕跡がよく残り、18は坏部上位の内・外面に暗文状のミガキを施す。

弥生土器壺（9～13・19） 9は須玖式土器の広口壺の口縁部片、10は中期頃の短頸壺か。11～13は中期須玖式土器の壺の底部片。19は後期末葉頃の短頸壺。図上で全形を示すことができる。やや尖底気味の底部が特徴的な資料。

弥生土器蓋（14） 14は中期頃の蓋の天井部片として図示している。小片でやや自信がない。

弥生土器椀（21） 21は丸底で半球状の器形を持つ椀型土器。器壁全面をハケ目調整後ヘラミガキにて仕上げる。

須恵器坏身（22） 平底で高台を持つ坏身の高台部付近の小片。8世紀頃の資料で混入品か。

土師器甕（23・24） 23は口縁部を強く肥厚させながら外湾させる中型の甕の口縁部片。24は胴部がやや膨らみ、頸部が明瞭に屈曲する甕。内面のヘラケズリ痕跡と外面のタタキ痕跡が特徴的である。やはり混入品であろう。

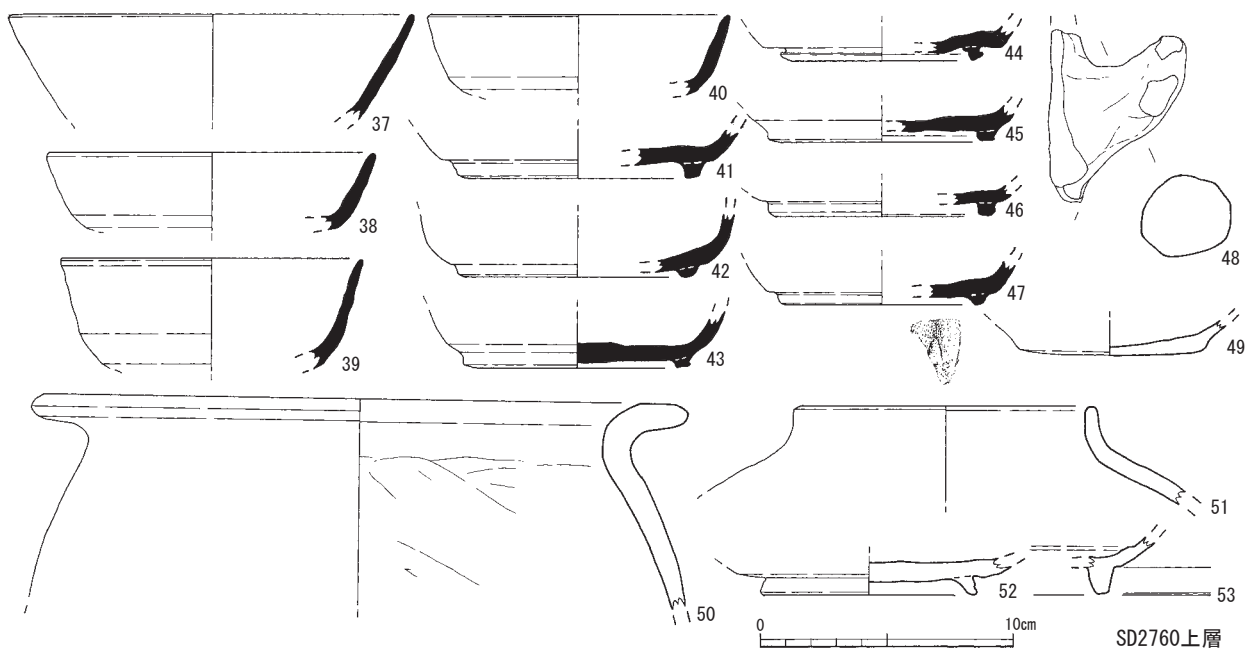


Fig.27 自然流路出土土器実測図②（1/3）

上層出土土器 (25 ~ 53)

須恵器鉢 (25) 平底の鉢型土器。底・体部境で明瞭に屈曲し、体部はわずかに内湾しながら長く伸びる。口縁部はわずかに肥厚させ端部を丸く収める。

須恵器壺 (26・28) 26は肩部が明瞭に屈曲する壺の胴上位～肩部片。残りは悪く全形は復元できない。内・外面をナデ調整にて仕上げる。28は壺の口縁部片。頸部より上位が残る。長胴平底の壺か。

須恵器高坏 (27) 27は高坏の坏底部片。外面に脚上位がわずかに残る。坏底部は平坦に広がっており、器壁が厚いことから大型の品か。

須恵器甕 (29) 29は甕の口縁部片。小片で径は復元できないが中型品とみられる。

須恵器坏蓋 (30 ~ 32) いずれも口縁部付近の小片資料。口縁端部を下方に屈曲させ、30・32は端部下端を下に突き出し嘴状に処理する。

須恵器坏身 (33 ~ 47) 平底で高台を持つ坏身とみられる資料。33 ~ 36は図上でほぼ完形に復元できる。高台は外にやや張るものが多い。37 ~ 40は体部～口縁部が遺存する資料。高台の有無は不明だが器形より高台を持つ可能性が高いものと考えて一括して掲載する。41 ~ 47は高台部付近のみが残る資料群。高台は断面がややつぶれた方形状を呈するものを基本とし、逆台形のものやや外に張るものなどがみられる。47の底部外面にはハケ目状の工具痕が残る。

土師器把手 (48) 大型の把手。甑などにつくものか。

土師器坏身 (49) 高台を持たない坏の底部片。小片で全形は不明。

土師器甕 (50) 大型の甕の口縁部片。頸部はやや強く締まり、胴部上半がやや膨らみを持つ資料。口縁部は強く湾曲しながら開く。

土師器壺 (51) 無頸壺としておくが全体の形状は不明。肩部がやや張り、頸部は緩やかながら強く締まり、口縁部は短く直立する。

土師器高台付皿 (52) 断面が「八」字状に開く高台を持つ皿であろうか。

青磁碗 (53) 龍泉窯系青磁碗の高台部付近の小片資料。径は復元できない。

SD2800 (Fig.28, Tab.11)

土師器碗 (1) 断面が「八」字状に開く高台を持つ坏身。底部は平坦で底径がやや大きい。高台は高く細長い。

SD2817 出土土器 (Fig.28, Tab.11)

土師器甕 (2) 2は布留式土器の甕の胴上位～頸部片。頸部は強く締まり外反する。口縁部は遺存しない。胴部は内面にケズリ調整を施して器壁を薄く仕上げる。

須恵器鉢 (3) 体部が逆「八」字状に開く鉢の口縁部片。口縁部直下で内側に屈曲して直立する。口縁端部は肥厚させ扁平に仕上げる。

土師器壺 (4・5) 高台部付近のみの資料で全形が復元できないため器種の提示は難しいがここでは一応高台付の壺としておく。平底の底部を持ち、胴部下半は湾曲しながら開くものとみられる。器壁が分厚く大型品か。

土師器碗 (6 ~ 18) 断面形状が「八」字状に開く高台を持つ碗。いずれも底部付近のみしか遺存せず全形は提示できないが、残存部位から見る限り緩やかに湾曲しながら立ち上がる半

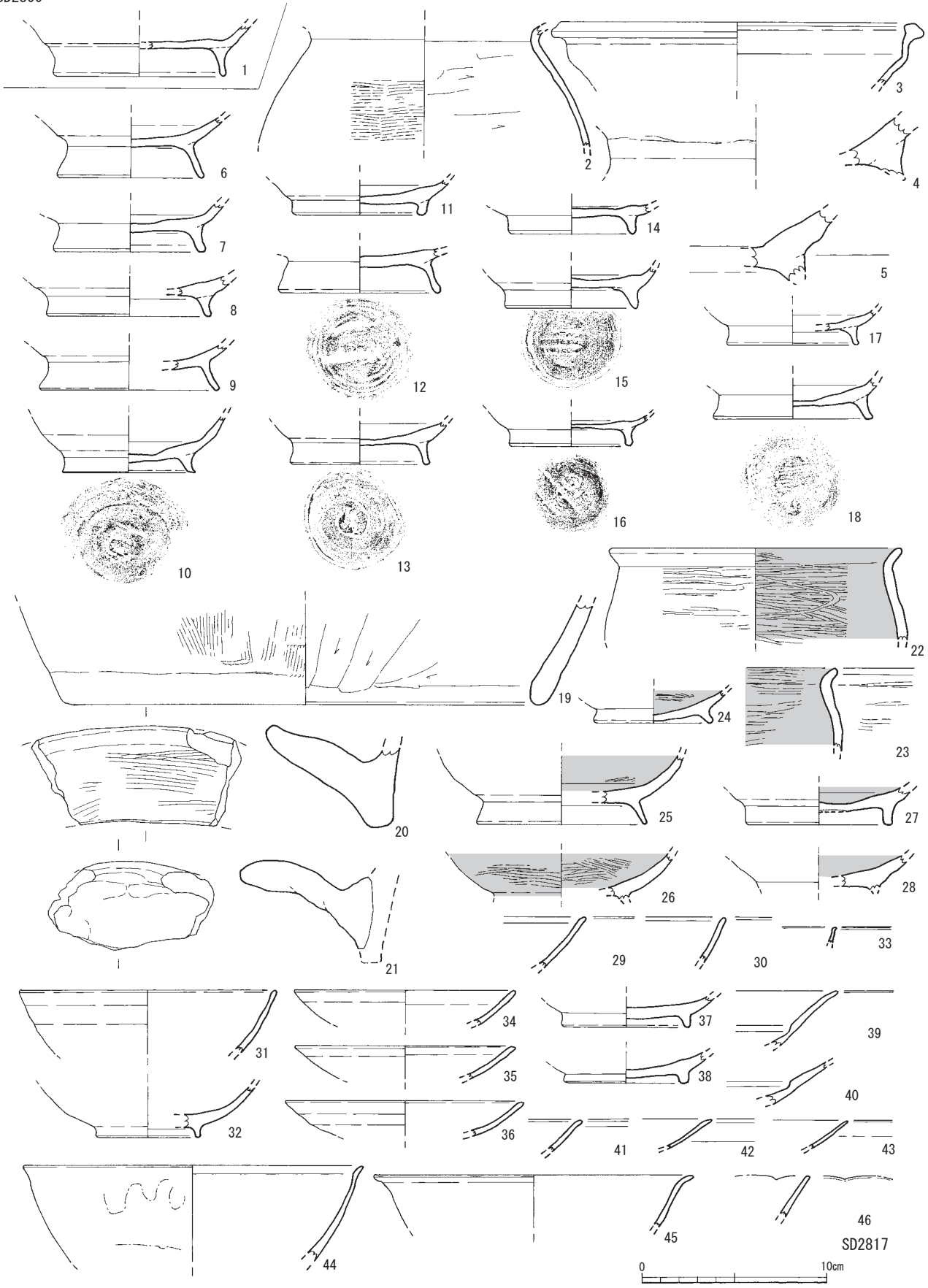


Fig.28 自然流路出土土器実測図③ (1/3)

球状の器形を持つものが大半を占めるか。底部外面，高台を付す前の状態の器表面に板状圧痕を残す資料が多い。

土師器甑（19） 19は甑の底部片として報告するが、底径が非常に大きく疑問も残る。

移動式カマド（20・21） いずれも焚口上位の廂部が遺存する。手づくねで器壁の凹凸が著しい。20は一部にハケ目調整痕跡を残す。20の下面には広くススが付着するが21には付着しない。

黒色土器甕（22・23） 内面を黒色に焼成する甕。頸部の締めりはやや緩く、口縁部は短く外反する。器壁調整は内・外面ともに横方向のミガキ。

黒色土器椀（24～28） 断面が「八」字状に開く高台を持ち、器壁を黒色に焼成する椀。26は内・外面にミガキ調整を施し黒色に焼成する黒色土器B類。他は内面をミガキ、外面をナデで仕上げ内面のみ黒色に焼成する黒色土器A類。

緑釉陶器碗（29～32） 31は口縁部が遺存する資料で口径を復元できるもの。32は高台部が遺存する資料。他は口縁部のみ的小片資料。胎土は黄色味を帯び、釉はやや透明な緑色を呈する。33は口縁端部を小さく外に折り曲げる。

緑釉陶器皿（34～43） 34～36は口縁部が遺存し、径が復元できる資料。37・38は底部～高台部が遺存する資料。41～43は口縁部のみが遺存し径が復元できない資料。39・40は段皿。

青磁碗（44～46） いずれも越州窯系青磁碗の口縁部片。

SD2828 出土土器 (Fig.29, Tab.11, PL.16)

須恵器壺（1） 筒状の胴部下半が残る資料。全形は不明だが平底の壺として報告しておく。高台は付さない。胴部外面に格子目タタキ、内面には青海波紋を残す。

須恵器皿（2） 底径が非常に大きい皿状の器形を持つ須恵器。

須恵器坏身（3・4） 3は平底で高台を付さない坏身の底部片。4はカエリを持つ坏身の口縁部片。

土師器坏身（5～11） 平底で高台を付さない坏身。底・体部境で屈曲し、口縁部は直線的に開く。11は底部外面に板状圧痕を残す。

土師器高台付皿（12） 断面が「八」字状に開く高台を持つ皿。高台の端部が外にやや張りだす。

土師器椀（13） 全体が半球形の器形を持ち高台を有する椀。口縁端部以外が残る。

黒色土器椀（14） 半球状の器形を持つ椀。内面にミガキ調整を施し、黒色に焼成する。高台はやや低く、外に強く張りだす。

青磁碗（15～19） いずれも越州窯系青磁の碗。15～18は口縁部が遺存する。直線的に開く形状を持つ。15は大型品。19は底部が遺存する。

灰釉陶器壺（20） 高台を有する壺の底部片。平底と、やや湾曲しながら開く胴部の下位がごく一部残る。高台の断面形はつぶれた三角形のような特異な形状を持つ。

SD4121 出土土器 (Fig.29, Tab.11)

須恵器壺（21） 壺の肩部から頸部屈曲部までが遺存する資料。ごく小片で全形は不明だが、肩部がやや強く張る球状の胴部を持つものか。

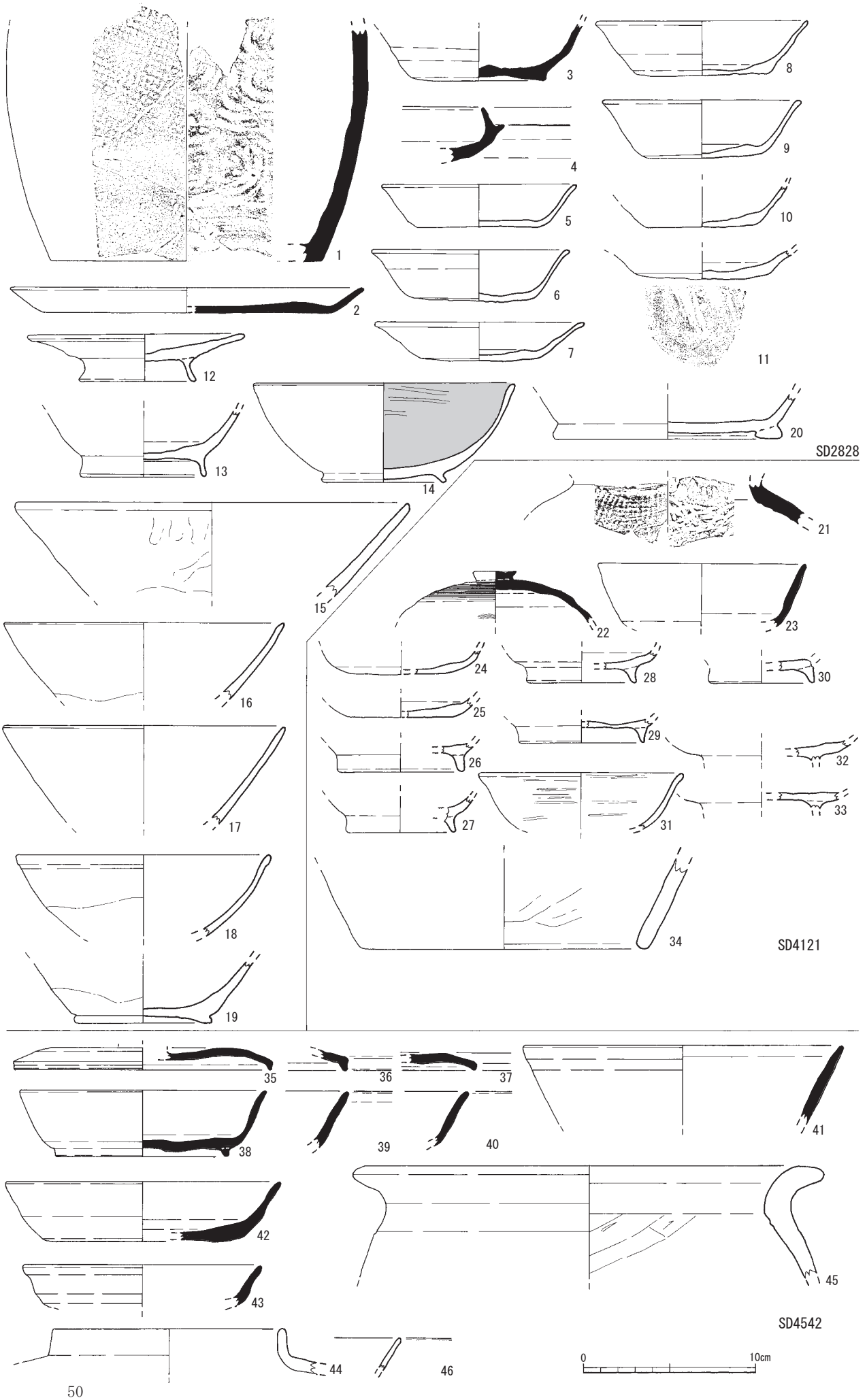


Fig.29 自然流路出土土器実測図④ (1/3)

須恵器坏蓋（22） 全体に大きく湾曲しながら開く器形を持つ蓋。高坏に対応するものか。天井部外面にはカキ目が残る。

須恵器坏身（23） 直線的に開く口縁部を持つ坏身。ごく小片で径には自信がない。

土師器坏身（24・25） いずれも緩やかに湾曲する器形を持つ坏身とみられる。底部片で全形は復元できない。

土師器碗（26～31） 高台を持つ碗。小片で全形は復元できない。26～30は高台部付近のみの小片。31は底部以外が図示できる小片。31の内・外面にはヘラミガキ調整が看取され特徴的である。

土師器高台付皿（32・33） とともに平坦な底部を持つ皿。高台部は欠損していて形状は不明だが、「八」字状に開く断面形状を示すものであろう。

土師器甑（34） ごく小片で全形が不明だが、ここでは甑として報告する。内面にはケズリ調整が確認される。全体にナデ調整を施していねいに仕上げる。

SD4542 出土土器 (Fig.29, Tab.11, PL.16)

須恵器坏蓋（35～37） 天井部が平坦で、口縁部に向けてやや下がり、端部を下方に屈曲させて嘴状に成型する坏蓋。いずれも小片で全形は提示できず、摘みの有無も不明。

須恵器坏身（38～43） 38は底部に高台を付す坏身。口径はやや大きい。高台の断面形状はやや細めで外に若干開く。39～41・43は口縁部付近の小片で全形は提示できず、高台がつくかどうか不明。41は大型の資料。42は底部が遺存し高台がつかないことがはっきりしている。

土師器壺（44） 44は短頸壺の口縁部片。肩が強く張り、頸部は強く締まる。口縁部は短く直立する。

土師器甕（45） 大型の甕の口縁部片。頸部はやや強く締まり、口縁部は如意状に外反する。体部は丸底で繭形を呈するか。

白磁碗（46） 口縁部の小片で、口径は復元できない。傾きにも不安が残る。器壁は薄く精美なつくり。

5) 土坑

SK533・534 出土土器 (Fig.30, Tab.12, PL.17)

29次調査Cトレンチでは、調査区南側にあたるCA-1区において概報の段階ではSK533が報告されているが、この遺構が今回SK533として報告する掘り込みを示すものなのか、その東に隣接する掘り込みで今回新たに土坑として遺構番号を付与したところのSK534を示すのかが、記録上においてははっきりとしない状態となっていた。そこで、今回の報告においてはやむを得ず、2基並ぶ掘り込みのうち西側のものをSK533、東のものをSK534とした。

ところが、調査時において二つの掘り込みに明確な遺構番号が付与されておらず、出土土器の取り上げにあたっては調査グリッドであるCA-4と「土坑」という文字が記録されるのみの状態で処理されていた。この結果、「CA-4 土坑」と注記された土器が今回報告するSK533・534のいずれより出土したものがわからない状態となっている。

ここでは、SK533またはSK534から出土した遺物として一括して報告するが、やむを得ないものとして御理解いただきたい。

須恵器甕(1) 大型の甕の口縁部片である。頸部の締まりは緩く、口縁部はやや外湾しながら開く。口縁端部を内側に屈曲させる。

須恵器坏蓋(2～5) 2～5は坏蓋の口縁部片である。2～4は天井部の中央が遺存しておらず摘みがつかどうか不明だが、5は天井部のほとんどが遺存しており、摘みがつかない資料であることが明らかである。4は口径が大きく、大型の器種に対応するもの。

須恵器坏身(6～9) いずれも平底で、底部・体部境が明瞭に屈曲する資料。口縁部の形状が判明するものは9のみで、わずかに内湾しながら直線的に開く。

土師器甕(10～13) 10・11は大型の甕。10は口縁部片、11は胴部～口縁部が残る。形状は類似していて、頸部はやや締まっており、胴部はやや張る。12・13は小型の甕。頸部の締まりがほとんどなく胴部がバケツ状に開くもの。

須恵器碗(14) 底・胴部境の屈曲が不明瞭で全体的に半球状の器形をなすもの。底部にヘラ切り痕が残るほかは全体にいいいなナデ調整で仕上げる。焼きがやや悪く軟質。

SK535 出土土器 (Fig.30, Tab.12, PL.17)

須恵器坏蓋(15) 坏蓋の口縁部片。小片で全形は不明。径にはやや自信がない。

須恵器皿(16) 16は高台を付さない資料。口径が18cmと大きく、皿とした。やや器壁の摩耗が進んでいる。

須恵器坏身(17～19) 17は高台を付す坏身の高台部付近が残る小片。18・19は口縁部のみが残る資料だが、形状から坏身とした。

須恵器鉢(20) 20はややつぶれた半球状の器形を持つ須恵器の鉢。口縁部片のみが残る。器壁が薄い優品。

土師器甕(21～24) 21～23は大型の甕。21は胴部以上が残り、22・23は口縁部のみが残るが、おそらくすべて類似の形状を持つものであろう。頸部がやや締まり胴部上位が多少膨らみを持つ。頸部屈曲は、21がやや不明瞭な一方、22・23は明瞭で内面に稜が形成される。24は中型の甕の口縁部片。頸部の締まりはやや強いが屈曲は不明瞭。

土師器甗(25) 口縁部のみの資料だが直線的に開く器形から甗と判断した。器壁がやや厚

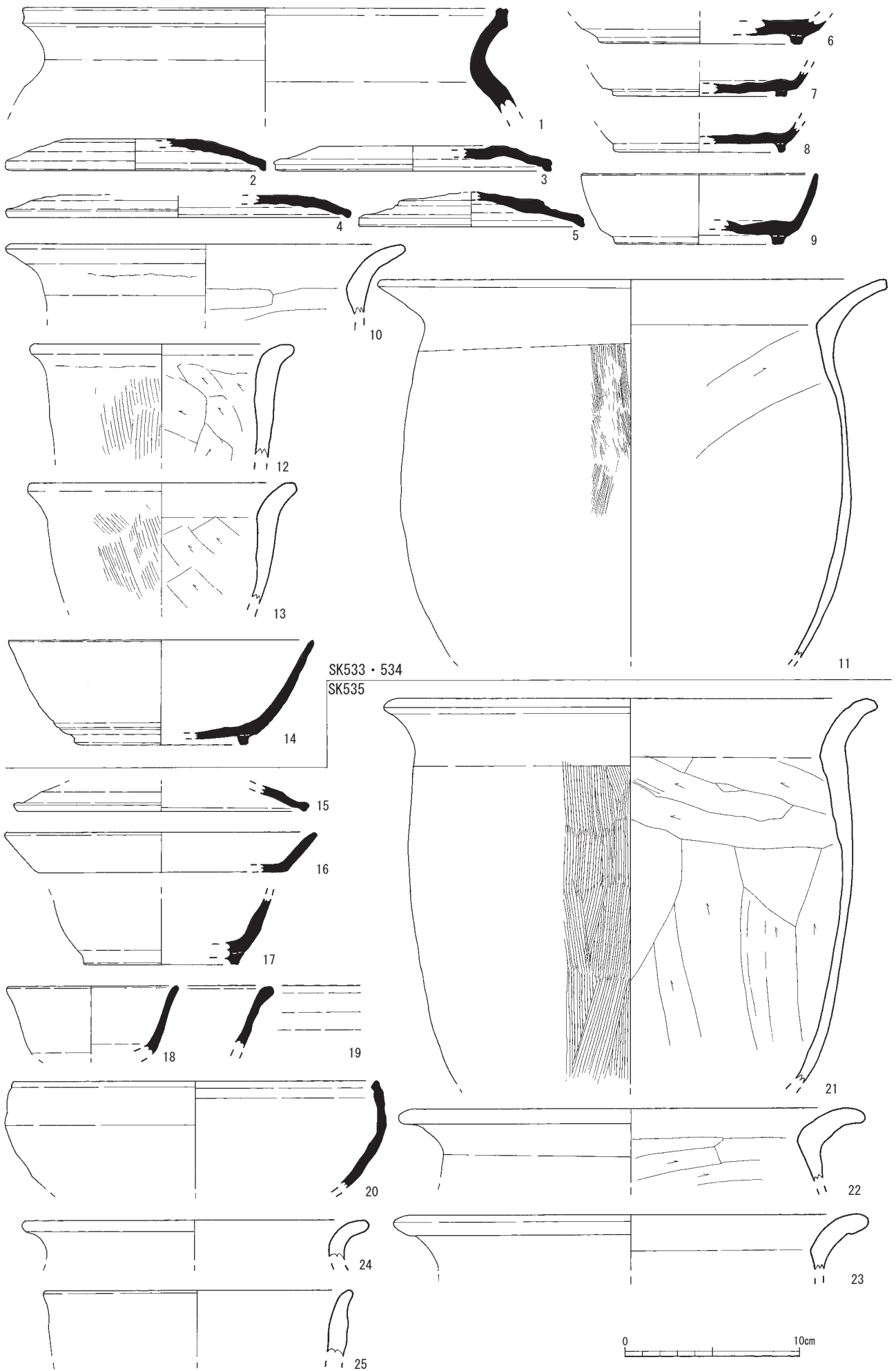


Fig.30 土坑出土土器实测图① (1/3)

い。器壁調整は丁寧なナデ仕上げ。

SK2780 出土土器 (Fig.31, Tab.12, PL.17)

須恵器坏蓋 (1) 1は坏蓋の肩部片である。小片で径は復元できない。肩の屈曲部上位にわずかに回転ヘラケズリ痕が残るほかは前面にナデ調整を施す。

須恵器坏身 (2・3) 2は高台付きの坏身, 3は高台を付さない坏身である。いずれも図上で全形が復元できる。平底から明瞭に屈曲して口縁部が直線的に開く器形を持つ。

土師器甕 (4) 丸底球胴で背が低い甕である。頸部はやや強く締まり内面に明瞭な稜を形成する。口縁部は外湾しながら開く。内面にはヘラケズリ痕跡をよく残す。

SK2782 出土土器 (Fig.31, Tab.12)

須恵器甕 (5) 大型の甕の胴部片。外面に格子目タタキ, 内面に青海波紋をよく残す。

須恵器坏蓋 (6) 坏蓋の小片である。径は復元できない。口縁端部を下方におり曲げる。

土師器甕 (7) 大型の甕の口縁部片。頸部の屈曲は不明瞭で大きく湾曲しながら口縁部へと開く器形を持つ。

SK2784 出土土器 (Fig.31, Tab.12, PL.17)

須恵器坏身 (8) 高台を持つ坏身で, 図上でほぼ完形に復元できる。底部は平坦で, 底・体部境に明瞭な屈曲を持つ。口縁部は直線的に開き, 端部をやや外湾させる。高台の断面形はほぼ正形状を呈する。

SK2795 出土土器 (Fig.31, Tab.12)

須恵器甕 (9) 大甕の胴部片である。径・傾きは判明しない。外面全体に格子目タタキ痕が, 内面全体に青海波紋がよく残る。

SK2807 出土土器 (Fig.31, Tab.12, PL.17)

須恵器坏身 (10) 丸底で口縁部にカエリを有する坏身である。6世紀代の資料である。

SK2813 出土土器 (Fig.31, Tab.12, PL.17)

土師器坏身 (11～13) 平底から屈曲して斜めに開き口縁に至る器形を持つ。屈曲部が明瞭な11, やや不明瞭で湾曲気味に曲がる12・13がある。

土師器碗 (14～18) 断面が「八」字状に開く高台を付す碗型土器である。底部が平底で底・胴部境が明瞭に屈曲する14と, 底部が丸みを帯び全体の器形が半球形に近い18があるほか, それらの中間的な様相を持つ資料が多くみられる。底部外面に板状圧痕を残す資料がみられる。いずれも小片で, 全体形状が判明するのは18のみである。

土師器甕 (19) 小型の甕の口縁部片である。器壁が薄い。頸部の締まりは弱く, 全体にバケツ状の器形を有するものか。

緑釉陶器皿 (20) 底部から口縁部にかけてごく緩やかに内湾しながら広がり, 口縁端部をわずかに外湾させる。低い高台を持つ。

SK2827 出土土器 (Fig.31, Tab.12)

土師器碗 (21～25) 21・22は口縁部だけの資料。坏身の可能性もあるが, 全体がわずかに内湾し, 22はさらに口縁端部が緩やかに外湾する器形より, 高台を持つ碗の可能性が高いと考えた。23～25は底部片でいずれも高台を持つ。25は高台が低く底径が大きい点が23・24などと異なり, 大型の碗か盤状の土器で所属時期もやや降る可能性を考えておきたい。

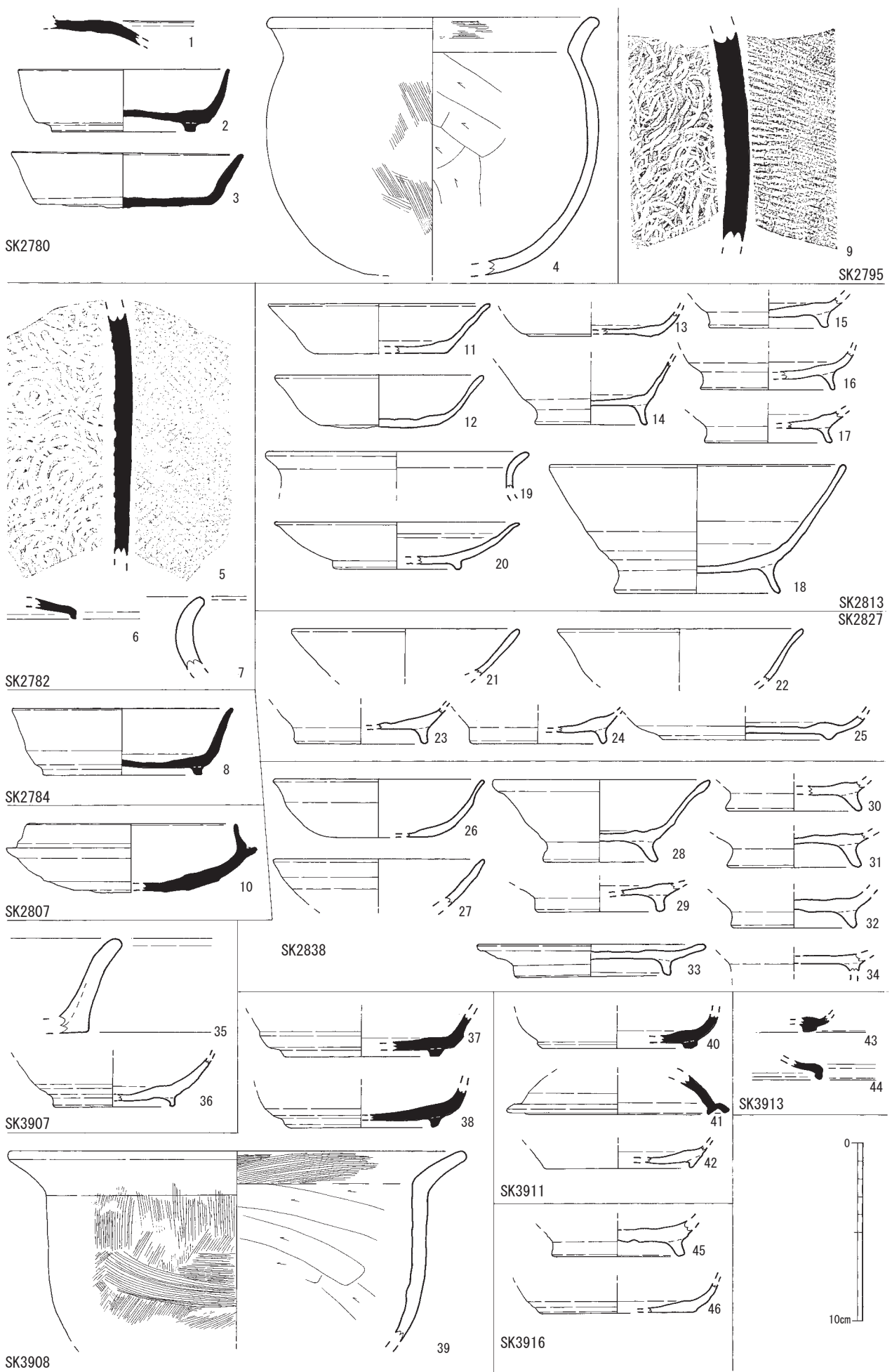


Fig.31 土坑出土土器実測図② (1/3)

SK2838 出土土器 (Fig.31, Tab.12, PL.17)

土師器坏身 (26・27) 26 は底部中央以外が図上で復元できる資料。27 は口縁部のみで、椀型土器の可能性も残る。

土師器椀 (28～32) 平底で、底・体部境が明瞭に屈曲する椀型土器の一群である。高台は断面形が「八」字状に開く。いずれも小片で、全形が図上復元できるのは 28 のみである。

土師器高台付皿 (33・34) 断面が「八」字状に開く高台を持つ皿。33 は全形が図上復元できる資料、34 は小片だが高台より外側の器形を勘案して皿と判断した。椀の可能性もある。

SK3907 出土土器 (Fig.31, Tab.12)

土師器坏身 (35) 土師器坏身として報告してよいものかやや迷う特異な形状の土器。底部は平底で、底・体部境が明瞭に屈曲し、口縁部にかけて緩やかに外湾しながら開く。器壁がごく厚い点が通有の土師器坏身と大きく異なる。図上では示せていないが直径はそれほど大きくなく、通有の土師器坏身に近いと推測される。

土師器椀 (36) 底部～体部が緩やかに内湾しながら広がる椀。高台はやや細く低い。

SK3908 出土土器 (Fig.31, Tab.12)

須恵器坏身 (37・38) とともに平底で断面逆台形の高台を持つ坏身。37 は底・体部境の屈曲が明瞭だが 38 はやや緩やかに湾曲する。いずれも小片で全形は復元できない。

土師器甕 (39) 大型の甕型土器の体部上半～口縁部片。頸部のくびれは全くなく、バケツ状の器形を持つ。口縁部下で屈曲して外に大きく開く。胴部内面には明瞭なケズリ調整痕跡が残り、外面と口縁部内面にはハケ目調整を施す。

SK3911 出土土器 (Fig.31, Tab.12)

須恵器坏身 (40) 40 は坏身の底・体部境付近の小片。屈曲はやや緩やか。高台は太く低い。

須恵器坏蓋 (41) カエリを持つ坏蓋の口縁部片。口径は 12.6cmをはかる。

土師器椀 (42) 小片で全形は不明だが、全体的に緩やかに内湾する器形を持つ椀と思われる。高台は短く、やや内側に倒れる。

SK3913 出土土器 (Fig.31, Tab.12)

須恵器坏身 (43) 高台を持つ坏身の高台部付近のみの資料。小片で、径は復元できない。高台はやや幅太で低くしっかりとしたもの。

須恵器坏蓋 (44) 坏蓋の口縁部のみが残る小片。径は復元できない。

SK3916 出土土器 (Fig.31, Tab.12)

土師器椀 (45) 断面が「八」字状に開く高台を持つ椀型土器の底部片。高台はやや太くしっかりしている。底部も分厚い器壁を持つ。

土師器坏身 (46) 高台を持たない坏身の底部片。底・体部境は屈曲し、その後湾曲する。

SK3920 出土土器 (Fig.32, Tab.12, PL.18)

須恵器蓋 (1) 口径が 20.8cmをはかる大型の蓋。盤などの蓋か。小片で、天井部を欠失していて全形を復元できず、摘みの有無などは不明。

須恵器坏身 (2～6) 平底で高台を有する坏身。底・体部境が明瞭に屈曲し、口縁端部が 5 を除いてわずかに外反し、高台断面形状は 6 を除き太くて低いなど、器形の共通性が高い。

土師器甕 (7～9) 中型の甕の胴部上半～口縁部片。頸部の締めりはあまりなく、7 が体部

上半がやや張るほかはバケツ状の器形を持つ。体部内面にケズリ調整痕跡が残る。

SK3924 出土土器 (Fig.32, Tab.12)

須恵器坏蓋 (10) 天井部が平坦な蓋。肩は丸みを帯び、口縁部はとがらない。

須恵器坏身 (11・12) 11 はやや丸みを帯びた底部, 12 は平底で、高台を付す。

須恵器高坏 (13) 口縁部にカエリを持つ高坏坏部の口縁部片であろう。口径が大きい。

土師器坏身 (14) 平底で高台を付さない坏身。図上でほぼ完形で提示できる。

黒色土器碗 (15) 断面「八」字状に開く高台を持つ碗。内面をミガいて黒色に焼成する。

SK3942 出土土器 (Fig.32, Tab.12, PL.18)

須恵器甕 (16) 大型の甕の胴部～口縁部片。頸部の締まりが緩く、口縁部の外反度合いも弱い。体部上半のふくらみは小さい。全体的な器高が低く、鉢型土器に近い形状となるか。体部外面に平行タタキ痕、内面に青海波紋をよく残す。

土師器甕 (17・18) 17 は小型の甕。頸部の締まりと湾曲が強く、口縁部は大きく外湾する。胴部上位のふくらみがやや強い。18 はやや大型の甕。頸部の締まりはやや弱く胴部上半はわずかに張る。全体にバケツ状の器形に近い資料。

SK3951 出土土器 (Fig.32, Tab.12)

青磁碗 (19) 龍泉窯系青磁碗の底部片。高台は太くやや短い。釉はやや厚く、貫入が全体に認められる。畳付と底部外面は露胎。

SK4003 出土土器 (Fig.32, Tab.12)

土師器坏身 (20) 高台を持たない坏身の底部片。小片で全形は不明だが平底で底・体部境の屈曲が緩やかなものか。

SK4006 出土土器 (Fig.32, Tab.12)

土師器坏身 (21・22) 平底で高台を付さない坏身の底部片。いずれも小片で全形は不明。21 の底部外面には板状圧痕が観察される。

土師器高台付皿 (23) 断面が「八」字状に開く高台を持つ皿か。小片であり全形は不明。

土師器碗 (24～26) 24・26 は碗または坏の口縁部片。25 は断面が「八」字状に開く高台を持つ碗の高台部片。いずれも小片で全形は不明。

黒色土器鉢 (27) 鉢型土器の口縁部片か。小片で詳細は不明。内面を横方向のミガキで調整し黒色に焼成する黒色土器 A 類。

SK4008 出土土器 (Fig.32, Tab.12)

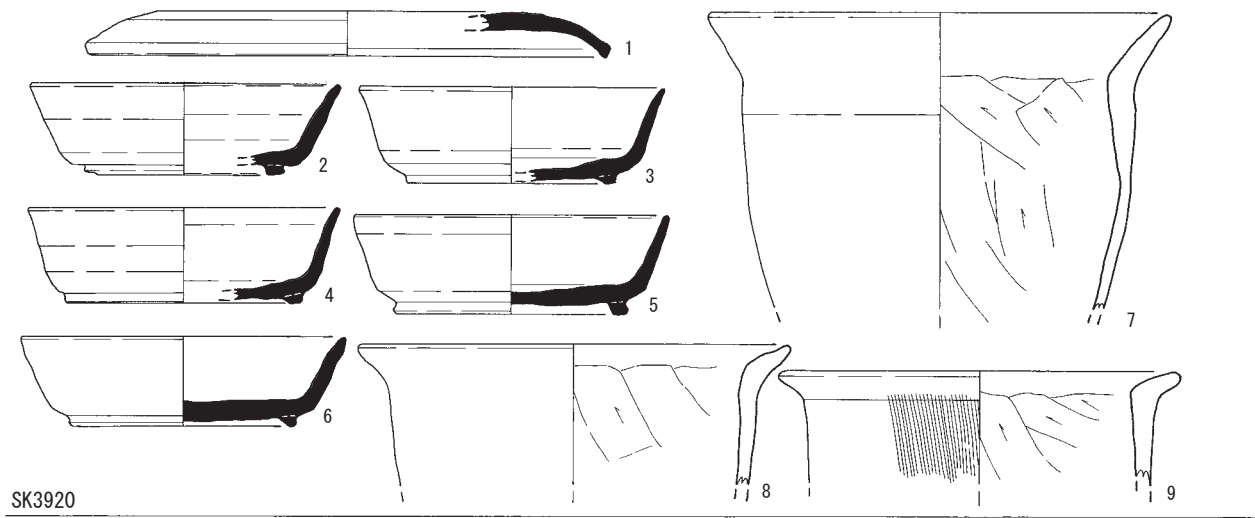
土師器甕 (28) 大型の甕の口縁部片。小片で全形は不明だが、頸部のくびれがほとんどないものか。口縁部は比較的まっすぐ開く。

SK4119 出土土器 (Fig.33, Tab.12, PL.18)

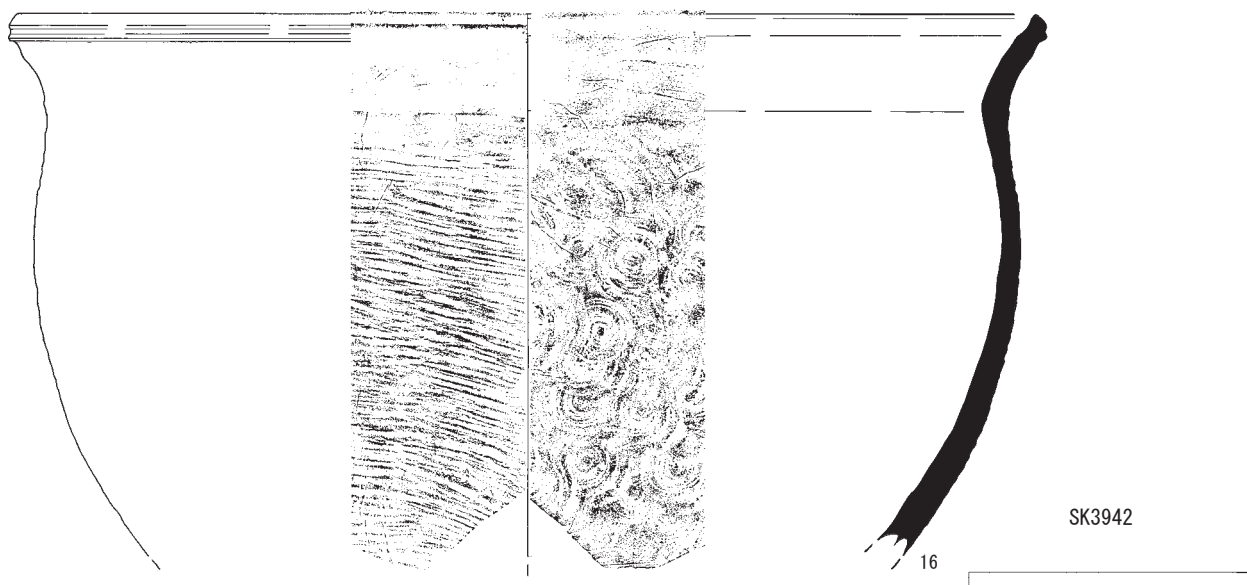
須恵器坏身 (1) 坏身の底部片。小片で全形は復元できない。表面の摩耗が進んでいる。

土師器碗 (2～9) 断面が「八」字状に開く高台を持つ碗型土器の一群である。いずれも小片で全体の器形がわかるものはなく、一部に高台付の皿が含まれる可能性もある。

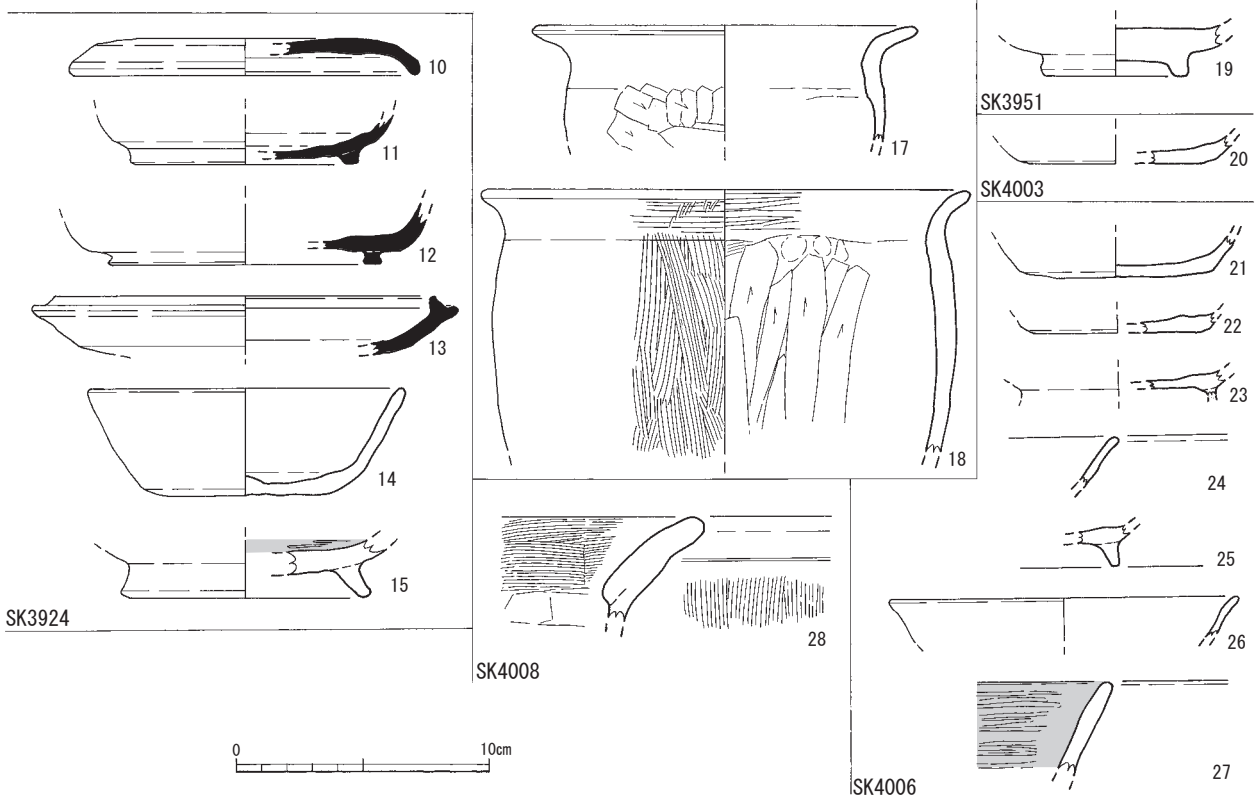
土師器小皿 (10・11) 11 は全形が判明する資料で、平坦な底部と小さく立ち上がる口縁部からなる。10 は口縁部が欠失するが 11 と同様の器形を持つか。12 はこれらよりわずかに大きく、高台を持たない坏身となる可能性もあろう。



SK3920



SK3942



SK3924

SK4008

SK3951

SK4003

SK4006

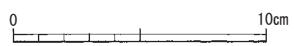


Fig.32 土坑出土土器实测图③ (1/3)

土師器高台付皿（13～16） 高台がやや高い15・16と、高台が低く断面が三角形を呈する13・14がある。後者が新相を示すものであろう。

緑釉陶器碗（17） ごく小片で径は復元できないが、碗型土器の口縁部片として提示した。

SK4120 出土土器（Fig.33, Tab.12, PL.18）

土師器坏身（18～27） 平坦な底部を持ち、底部・体部の境に屈曲を有する坏身。屈曲部が明瞭に屈曲するものと、底部を含め緩やかに湾曲するものがある。全体的に器形やサイズなどがよくそろった一群だが、完形の資料はない。

SK4124 出土土器（Fig.33, Tab.12）

土師器高台付皿（28） 高台付皿としたが、碗の可能性もある。高台はごく低く断面三角形を呈する。底部は緩やかに湾曲する。

SK4125 出土土器（Fig.33, Tab.12）

土師器坏身（29） 断面が「八」字状に開く高台を持つ坏身の底部片。底部は緩やかに湾曲しており全体に半球形の器形を持つものか。

SK4129 出土土器（Fig.33, Tab.12）

土師器坏身（30・31） 平底から緩やかに湾曲しつつ低い口縁部へと至る坏身として提示するが、口縁部は遺存しておらず確実ではない。ごく小片で径も不安が残る。

SK4199 出土土器（Fig.33, Tab.12, PL.19）

土師器坏身（32・33） 32・33は高台を付さない土師器の坏身である。平底で、底・体部境の屈曲が明瞭である。口縁部はごくわずかに内湾しながら開く。

土師器碗（34～45） 高台を付す碗。34は底部が遺存しないため高台がつくかどうか不明だが、器形から見て碗の可能性が高い。35は底部から口縁部にかけてわずかに内湾しながら開く。ほかは底部付近のみが遺存する。いずれも小片で全形が確認できるものはないが、高台の形状は断面「八」字状に開くもので共通性が高い。底部外面にはしばしば板状圧痕がつく。

土師器高台付皿（46～70） 46は底部が大きく欠損しており高台が付されるかどうか不明だが、形状から高台付皿としておく。47～52は図上で（ほぼ）全形が復元できる資料である。いずれも全体の器形やごく緩やかに内湾し、高台は断面「八」字状に広がる。52は口径がやや小さい資料であるが、高台径は他の資料と大差はなく、これを見る限り例外的な事例を除き高台径から器形の大小を判断することが難しいか。53～70はいずれも底部付近が遺存し口縁部が欠失する。うち69は特に高台径が大きい。小片でありやや不安が残るが、少なくとも先に小型品とした52の口径と69の底部径がほぼ一致していることから、これは小型品ではないことが確実といえる。いずれも、高台の断面形状において共通性が高い一群である。

SK4329 出土土器（Fig.33, Tab.12）

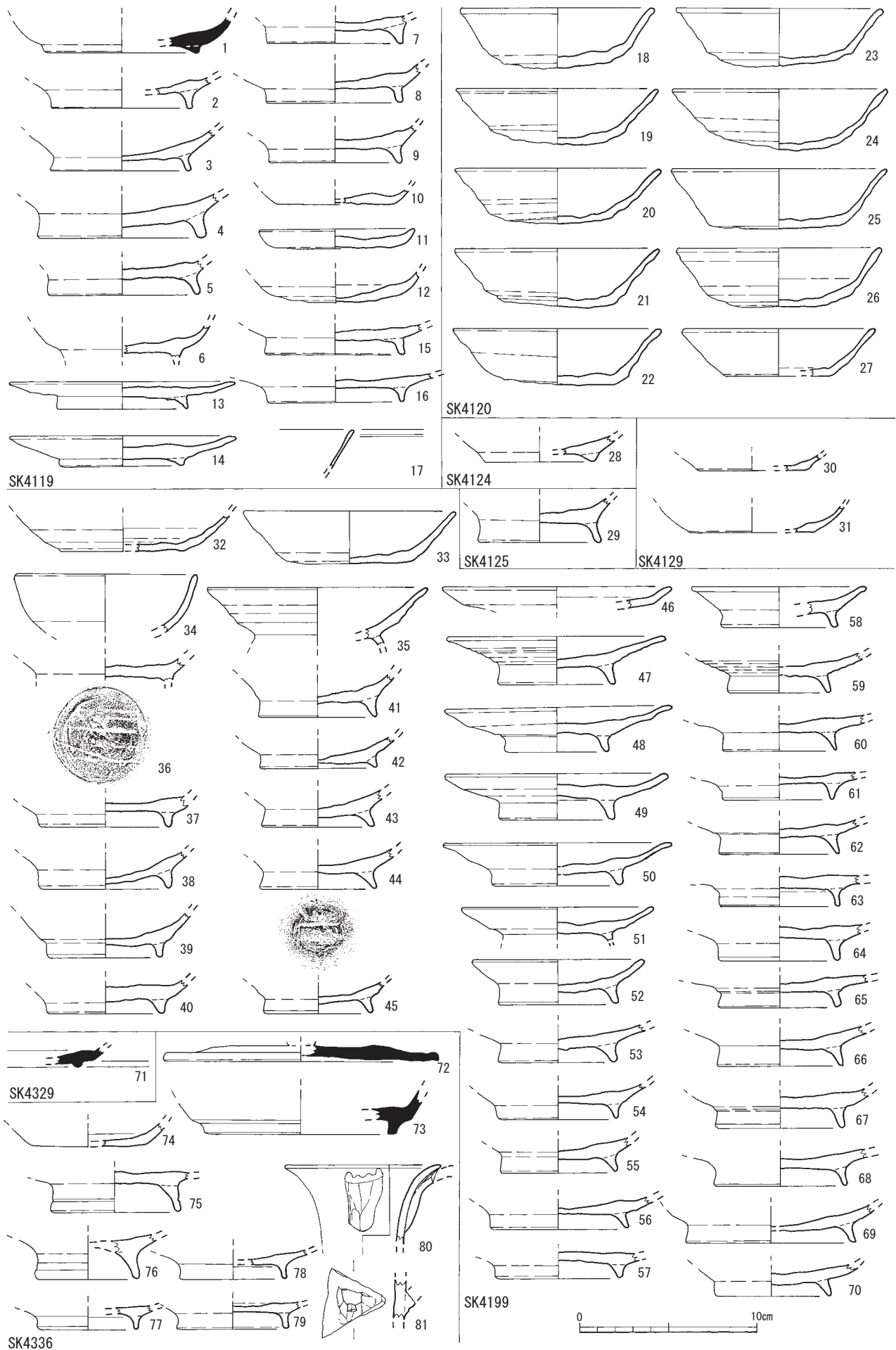
須恵器坏身（71） 71は須恵器坏身の小片で、高台部付近が残る。高台はやや細身で低い。

SK4336 出土土器（Fig.33, Tab.12, PL.19）

須恵器坏蓋（72） 口径が15.6cmとやや大きめの坏蓋である。天井部は欠失しており摘みがつくかどうかは不明。

須恵器坏身（73） 高台を有する坏身の高台部付近のみが残る小片。径にはやや不安が残る。

土師器坏身（74） 平底で高台を付さない坏身の底部付近の小片。径にはやや不安が残る。



土師器碗または高台付皿（75～79） いずれも断面が「八」字状に開く高台部付近のみが残る資料で、碗か皿かは残存部分からは判断しがたい。高台が外にやや長く開くもの（75・76）と、下方に伸びるもの（77）、その中間的様相を示すもの（78・79）に分けられる。

青磁水注（80） 越州窯系青磁の水注の口縁部片である。把手の一部が残る部分の小片。

青磁水注

灰釉陶器（81） 器種不明の灰釉陶器の把手部分である。器壁はやや厚めで中～大型品か。

SK4338 出土土器（Fig.34, Tab.12, PL.19）

土師器坏身（1・2） 1は底部片である。平坦な底部とやや湾曲気味に屈曲する体部が遺存する。2は口縁部片である。小片で器種は断定できないがここでは一応坏身としておく。

土師器碗（3～8） 断面が「八」字状に開く高台を持つ碗型土器の一群。底・体部境が明瞭に屈曲する6・8と、緩やかに湾曲する3、中間的な様相を示す5・7がみられる。いずれも小片で全形は復元できない。4も一応碗としているが、高台付皿の可能性もあろう。なお、8は口縁部下位で円形に打ち欠いて欠損面を磨っている。小型の皿として再利用したものか。

土師器鍋（9） 9は三足鍋の脚部である。脚部のみを遺存で全形は不明。

SK4339 出土土器（Fig.34, Tab.12, PL.19）

土師器碗（10） やや湾曲する底部と、断面「八」字状に開く高台部が遺存する。形状から、高台付皿である可能性もある。

把手（11） ごく細く小さな把手として報告するが、三足鍋の脚部の可能性も排除できない。断面形状が円形のためここでは把手としておく。

青磁碗（12・13） とともに越州窯系青磁碗の口縁部片。小片で径は復元できない。

その他陶磁器（14） 染付の碗の口縁部片か。白色の胎土を持つ。口縁部外面に青色の顔料で細かい水平線を描き、わずかに青みがかかった透明釉をかける。

染付

須恵器甕（15） 大型の甕の頸部片。強く締まり、直角に近く立ち上がる頸部のみが遺存する。

SK4342 出土土器（Fig.34, Tab.12）

須恵器坏身（16） 16は坏身の高台部付近の小片である。やや大型に復元して図示しているが小片のため径には不安が残る。

土師器坏身（17・18） 17は高台を付す土師器の坏身の口縁部片である。高台は低くて幅広い。小片で径は復元できない。18は高台の断面形状が「八」字状に広がる坏身である。

土師器大碗（19） 19は大型の碗の小片である。高台部径を約12cmで復元している。小片で厳密な径については自信がないが、おおよそは間違っていないものとみられる。器壁も分厚く、通常の坏身とは異なる大型品であることから大碗とした。

土師器甕（20） 頸部の締まりが全くない甕の口縁部片である。バケツ状の器形を有するか。

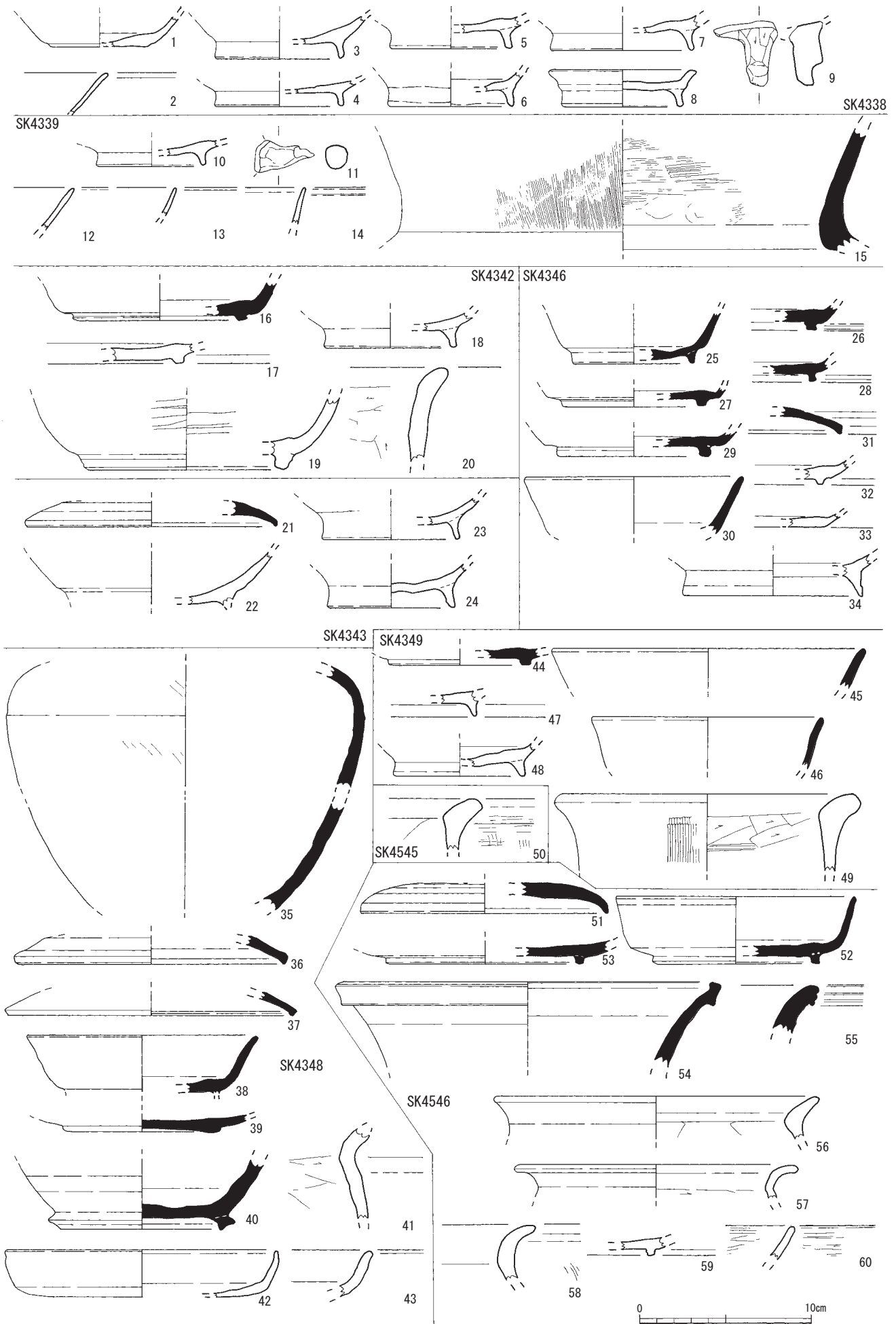
SK4343 出土土器（Fig.34, Tab.12）

須恵器坏蓋（21） 21は坏蓋の口縁部付近の小片である。天井部付近は遺存せず摘みの有無など全体形状は不明。

土師器碗（22～24） いずれも底部が大きく湾曲する碗の高台部付近の破片資料である。半球形の全体形状を持つものか。

SK4346（Fig.34, Tab.12）

須恵器坏身（25～29） 25は底部から体部上半までを復元できる。30は口縁部付近のみ



が残る。他はいずれも底部付近が遺存するのみで、特に 26・28 は小片で径が復元できない。

須恵器坏蓋 (31) 坏蓋の口縁部片。天井部付近は欠損し、小片で径が復元できない。

土師器坏身 (32・33) 32 は断面形状が低く小さな高台を持つ坏身の高台部付近の小片。33 は高台を持たない坏身の小片。ともに径は復元できない。

土師器碗 (34) 断面が「八」字状に開く高台を持つ坏身の、高台部付近の小片資料。やや高台が高く、底径も大きい。

SK4348 出土土器 (Fig.34, Tab.12, PL.19)

須恵器壺 (35・40) 35 は壺の胴部片である。肩部が強く張る器形で、肩部片と底部片は接合しないが、胎土や調整、焼成状態などの特徴より同一資料の破片として提示している。内・外面は丁寧なナデを施しタタキ痕跡をよく消している。ナデ調整時に使用したであろう工具の痕跡が筋状に残る。40 は高台を持つ壺の底部片。高台は外に強く張る。

須恵器坏蓋 (36・37) とともに端部が嘴状に下がる坏蓋の口縁部付近の小片。径にはやや不安が残る。天井部は遺存せず摘みの有無などは不明。

須恵器坏身 (38・39) 38 は高台を付す坏身である。高台部は根元を残し折損する。39 は高台の痕跡が認められないので、高台を持たない坏身として報告する。

土師器甕 (41) 41 は甕の頸部付近の小片。傾きにはやや不安が残る。内面にケズリ調整痕をよく残す。

土師器皿 (42・43) 平底で、体部は緩やかに内湾しながら立ち上がる皿状の器形を持つ資料。43 は小片で全形は提示できないが 42 と同様の器形を持つものであろう。

SK4349 出土土器 (Fig.34, Tab.12)

須恵器坏身 (44 ~ 48) 44 は高台を有する坏身の高台部付近の小片である。45・46 は坏身の口縁部片。45 は径がやや大きいが小片で自信はない。

土師器碗 (47・48) とともに断面が「八」字状に開く高台を持つ碗の底部片。47 は小片で径は復元できない。48 もいちおう径を復元しているが自信はない。

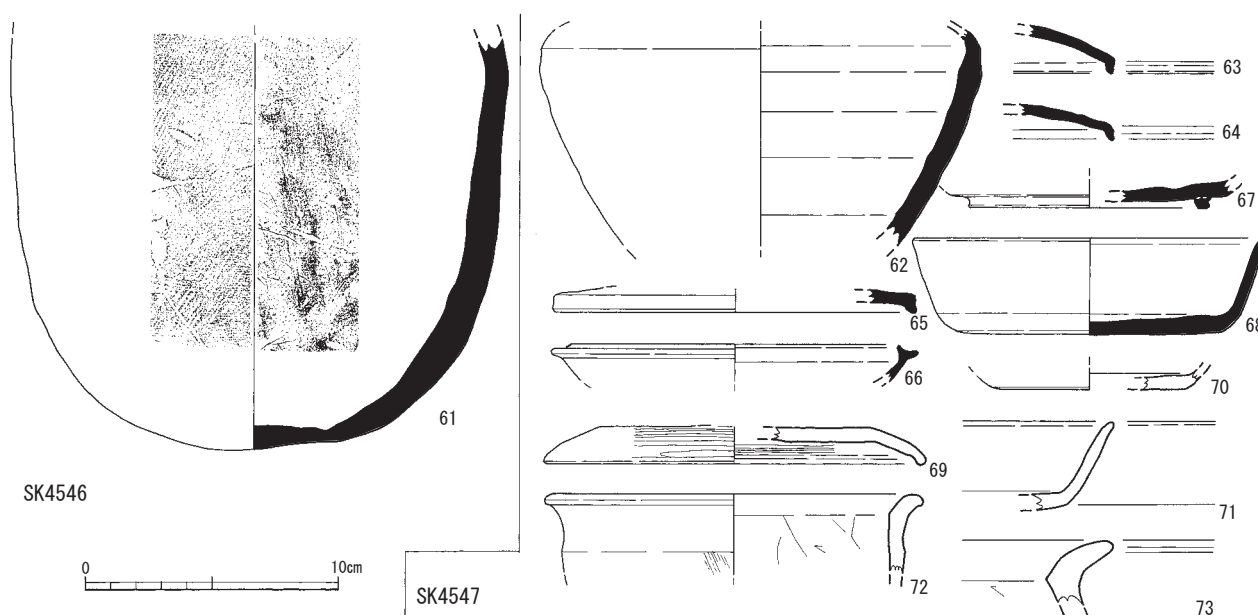


Fig.35 土坑出土土器実測図⑥ (1/3)

土師器甕(49) 中型の甕の口縁部片。バケツ状の器形を持ち、頸部のくびれがほとんど認められないものであろう。口縁部は強く肥厚し短く収める。

SK4545 出土土器 (Fig.34, Tab.12)

土師器甕(50) 中型の甕の口縁部片か。小片で径や全形は提示できない。

SK4546 出土土器 (Fig.34・35, Tab.12, PL.19)

須恵器坏蓋(51) 全体に緩やかな丸みを帯びた器形を持つ坏蓋である。肩部より上位の外面には回転ヘラケズリの単位がよく観察できる。

須恵器坏身(52) ほぼ全形を図示できる坏身である。平底で、やや細身の高台を持つ。口縁部は直線的に開きやや短い。

須恵器盤(53) 平底で高台を持つ器形で、坏身に類似するが、高台部より外側に底部がさらに伸びており、盤として報告する。高台径も通常の坏身より大きい。

須恵器甕(54・55・61) 54・55はともに甕の口縁部片である。54は直径が復元でき22.6cmほどをはかる。頸部の締めりがやや強いものであろう。55はごく小片で直径は復元できない。口縁部が短く、頸部の締めりがさほどないものであろう。61はやや長胴気味の甕の底～胴部片。底部は丸底、胴部の器壁が分厚い。外面には平行タタキ痕をよく残すが内面のタタキ痕跡は工具を用いた縦方向のナデによりよく消している。

土師器甕(56～58) 56は中型の甕の口縁部片。頸部の締めりは緩い。口縁部はごく短い。57は器壁が薄い甕。口縁部は大きく湾曲しながら広がる。58は小片で直径が復元できない。

土師器坏身(59) 高台を持つ坏身の高台部付近の小片である。径は復元できない。高台は断面正形状を呈する。

土師器椀(60) 口縁部の小片。内・外面にていねいなミガキをほどこす。

SK4547 出土土器 (Fig.35, Tab.12, PL.19)

須恵器壺(62) 肩が強く張る壺の胴下位～肩部片。径にはやや不安が残る。肩部に把手がつく可能性があるが残りが悪く確実ではない。

須恵器蓋(63～65) いずれも端部を嘴状に下方に折り曲げる蓋の口縁部片。ごく小片で径が復元できないものが多く、天井部の形状は不明。

須恵器坏身(66～68) 66は口縁部にカエリを有する坏身として示す。カエリ部は退化していて小さい。67は平底で高台を付す坏身。口縁部は遺存しない。68は平底で高台を付さない坏身。口縁部は直線的に立ち上がる。

土師器蓋(69) 内・外面にミガキ調整を施した蓋。天井部が欠失し、摘みの有無は不明。外面にはミガキ調整を施す前の回転ヘラケズリ調整痕跡がわずかに看取される。

土師器坏身(70・71) 高台を付さない平底の坏身。70は小片で径には不安が残る。口縁部形状は不明。底部内面にミガキを施す。71は屈曲部より上位が口縁部付近まで遺存する。

土師器甕(72・73) 72は小型の甕。73は器壁がやや厚く、中型以上の大きさになるか。ともに口縁部はごく短い。頸部の締めりが悪くバケツ状の器形を持つものであろう。

6) 土壙墓

SX2762 出土土器 (Fig.36, Tab.13)

須恵器坏身 (1) 高台付の坏身の底部片である。高台は低く断面が幅広い形状でやや外に踏ん張る。ごく小片である。

土師器甕 (2) 甕型土器の口縁部片である。小片で全体形状は不明。口径も復元できないが比較的大型品とみられる。

SX2763 出土土器 (Fig.36, Tab.13)

土師器皿 (3) ごく小片で復元径は確実ではなく、全体形状も不明だが、皿の底部片か。底部外面に糸切り痕跡が認められる。

SX2764 出土土器 (Fig.36, Tab.13)

須恵器坏蓋 (4) ごく小片で径は復元できない。外面上位は回転ケズリ, 下位は回転ナデにより成形する。

SX2767 出土土器 (Fig.36, Tab.13)

須恵器坏身 (5) 底部が平坦で底部・口縁部境が明瞭に屈曲する坏身の底部片。小片で径には自信がない。

SX2768 出土土器 (Fig.36, Tab.13)

土師器甕 (6) 大型の甕の口縁部片である。胴部内面はケズリにより整形し, 頸部は明瞭に屈曲して如意状に開く。

須恵器坏蓋 (7) 坏蓋の口縁部付近の小片である。全形は復元できない。外面調整は上位が

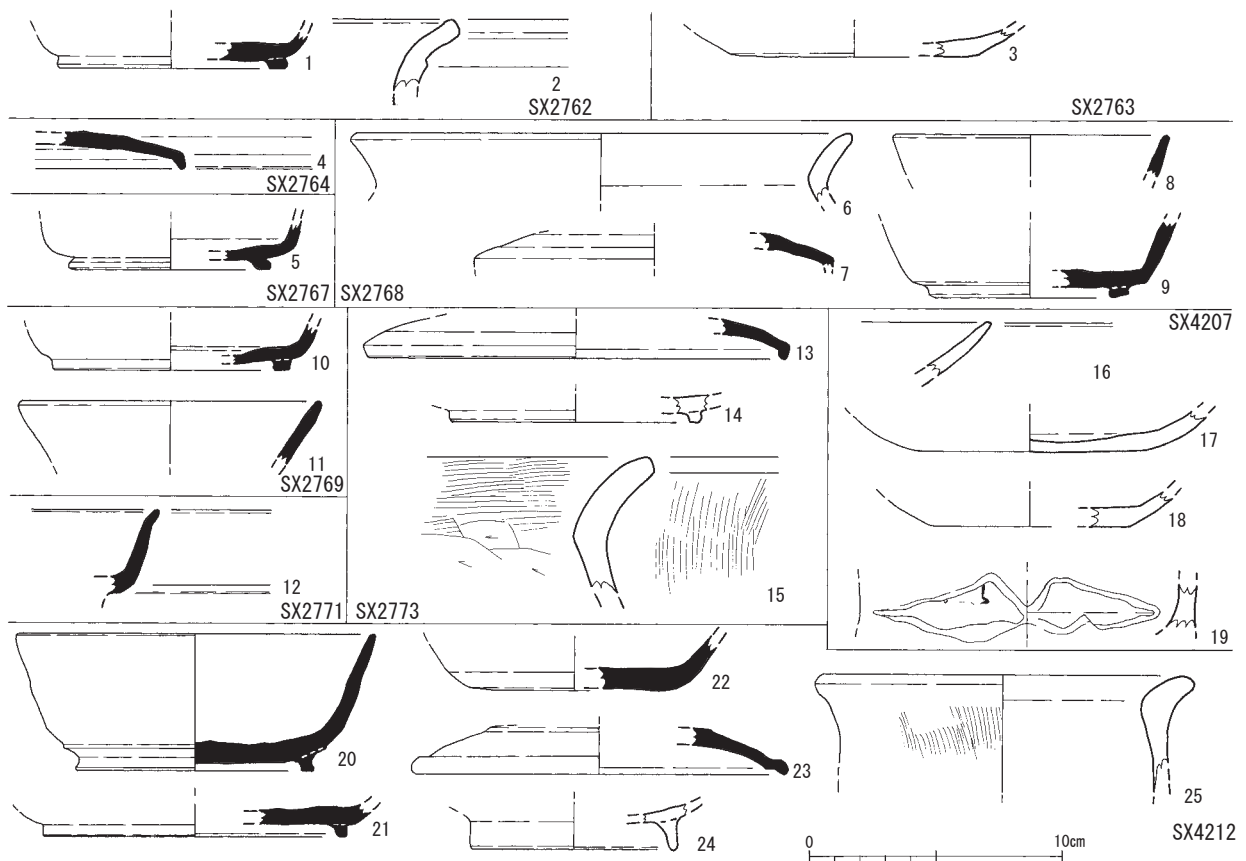


Fig.36 土壙墓出土土器実測図 (1/3)

回転ケズリ、下位が回転ナデである。

須恵器坏身(8・9) いずれも小片で全形は復元できない。8は口縁部のみ、9は底部・口縁部境の屈曲部周辺の資料である。

SX2769 出土土器 (Fig.36, Tab.13)

須恵器坏身(10・11) いずれも小片で全形は復元できない。10は底部から口縁部下半まで、11は口縁部の資料である。

SX2771 出土土器 (Fig.36, Tab.13)

須恵器坏身(12) ごく小片で径は復元できず全形が不明である。口縁部から底部直上までの資料である。

SX2773 出土土器 (Fig.36, Tab.13)

須恵器坏身(13) 口縁部付近の資料である。復元口径は16.4cmで図示したが自信はない。遺存部はすべて回転ナデにより整形される。

土師器坏身(14) 高台付の坏身の高台部付近の小片である。高台断面形状は長方形を呈する。

土師器甕(15) 口縁部付近の小片である。径は復元できないが比較的大型品とみられる。胴部内面にケズリ痕跡、口縁部内面と外面全体にハケ目調整痕跡が残る。

SX4207 出土土器 (Fig.36, Tab.13, PL.19)

土師器坏身または皿(16～18) いずれも小片で全形は復元できないが、平底から緩やかに湾曲して低い口縁部へと至る皿状の器形を持つものとみられる。

緑釉陶器壺(19) ごく小片で全形は復元できないが、おそらく平底の壺型土器とみられる。底部にごく近い胴下半部の小片である。外面に釉垂れが認められる。

SX4212 出土土器 (Fig.36, Tab.13, PL.20)

須恵器坏身(20～22) 20・21は高台付の坏身である。20は全形が図上で復元できる資料、21は高台部付近の小片である。21は復元径が大きい。22は高台を付さない坏身の小片。

須恵器坏蓋(23) 坏蓋の口縁部付近の小片である。全体的に回転ナデにより調整する。

土師器椀(24) おそらく半球状の器形を持つ椀の高台部付近の小片である。

土師器甕(25) 小型の甕の口縁部片である。口径は15.2cmをはかる。全体的に摩耗しているが外面にハケ目調整痕跡が認められる。

7) 井戸

SE2845 出土土器 (Fig.37・38, Tab.14, PL.20～22)

SE2845 出土遺物は、取り上げ時に「下層」または「中層」と注記がつけられた一群と、それ以外の一群からなる。調査時の記録には土層図がないが、図面への注記には遺構埋土は大きく上層と下層に2分されることが記されている。概報の記載では、出土遺物より下層が古代の埋没と理解される一方、上層は中世の遺物を含んでいることから、井戸の廃棄に伴って一時的な埋め戻しが行われて下層が堆積し、その後自然沈下により形成されたくぼみに上層が堆積したと理解されている。出土遺物を見ると、「下層」と注記された一群はおおよそ9世紀代のもので占められる一方、「中層」または出土層位の記録がないものは古代～中世の遺物より構成

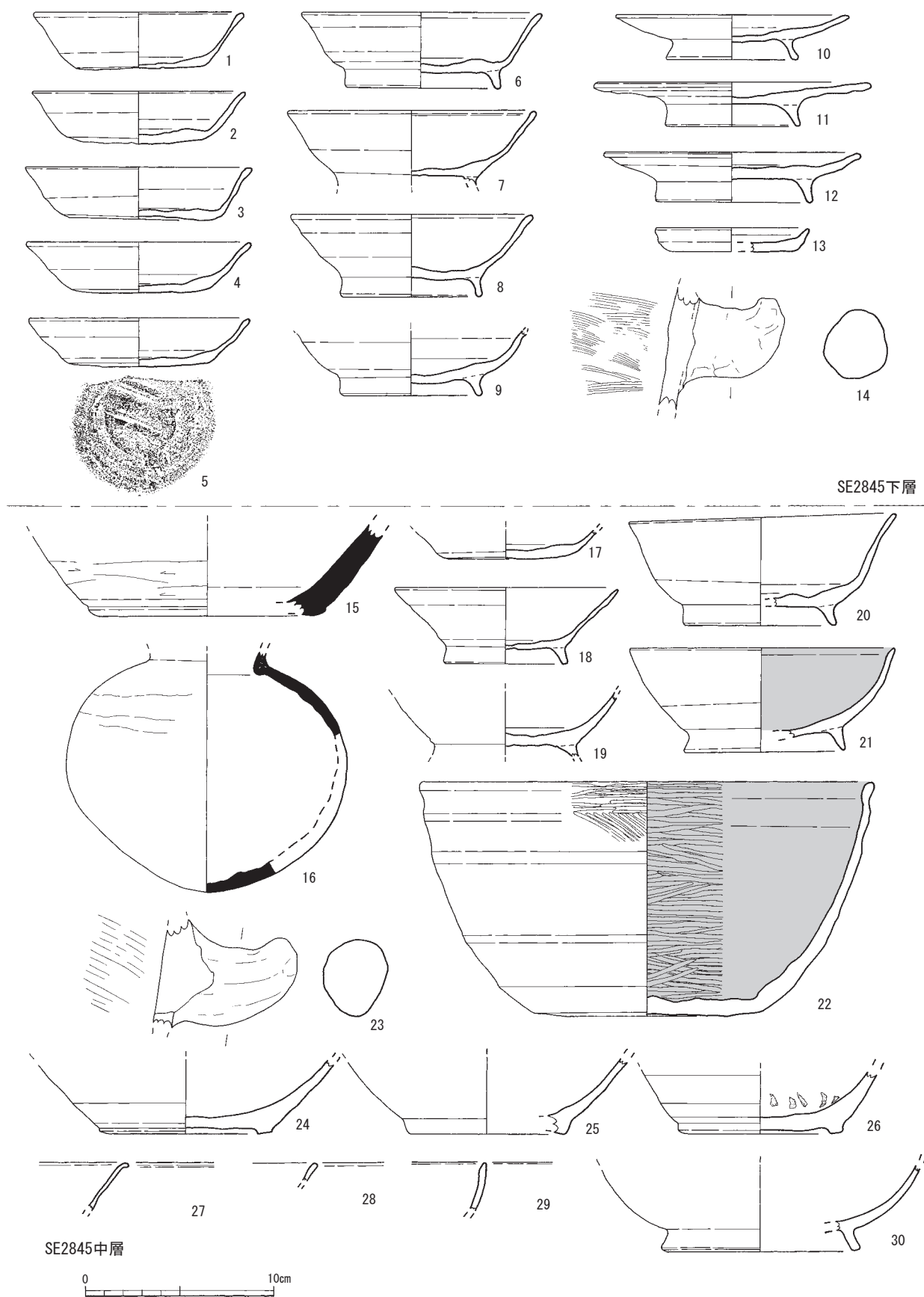


Fig.37 井戸出土土器実測図① (1/3)

される。このことから、「中層」も1次埋没後の自然堆積土の一部と推測される。ここでは念のため、「下層」・「中層」・それ以外に分けて出土遺物を報告する。

下層出土土器（1～14）

土師器坏身（1～5） 平底から明瞭に屈曲して口縁部が斜め上方に直線的に伸びるもの。2・5はやや底部が湾曲している。底部外面に板状圧痕が観察できるものが多い。

土師器椀（6～9） 断面形状が短く「八」字状に開く高台を持つ。底部が平坦で、底部と口縁部の境界が明瞭に屈曲し、口縁部にかけて直線的に開く6と、底部と口縁部がいずれも緩やかに湾曲し、境の屈曲が明瞭でない7・9、両者の中庸的な形状である8がみられる。高台の高さはおよそ1cm内外で形状もよく共通する。

土師器高台付皿（10～12） 断面形状が短く「八」字状に開く高台を持つ皿である。10は全体に緩やかに湾曲し、11は底部の中心より直線的に開くものとともに底部・口縁部境の屈曲は明瞭ではない。一方、12は底部が平坦に広がり口縁部境でやや屈曲する器形を持つ。

土師器皿（13） 小皿である。口縁部がごく短い。中世の遺物であり、上層からの混入品であろう。

土師器把手（14） やや大型の把手。断面形状はおおよそ円形で比較的短い。外面にナデ調整痕跡をよく残す。把手接合部の内面にはハケ目調整が観察される。甑や鉢などに伴うものか。

中層出土土器（15～30）

須恵器甕（15） 平底の大型器種の底部片。外面にはケズリ調整痕跡が観察される。全体形状は不明。

須恵器壺（16） 丸底でやや扁平な球形の胴部を持ち、頸部が強く締まり、口縁部に向かって開く器形を持つ壺の胴部片。体部の内・外面に粘土紐巻き上げ成型時の継ぎ目痕跡が残るほか、内面には指頭圧痕も多く認められる。

土師器坏身（17） わずかに内湾する平底の底部と、口縁部の過半が残る資料。底部外面に薄く板状圧痕が残る。

土師器椀（18～20） いずれも断面形状が「八」字状に開く高台を持つ椀型土器である。底部が平坦で高台との境に屈曲部を有する18と、全体が緩やかに湾曲する19・20がある。

黒色土器椀（21） 内面を黒色に仕上げる黒色土器A類の椀である。断面形状が「八」字状に開く高台を持ち、全体が緩やかに湾曲して半球状を呈する体部を持つ。摩耗により調整は観察しづらいが内面に部分的にミガキ調整痕が残る。

黒色土器鉢（22） 黒色土器B類で、平底の大型鉢である。体部～口縁部は緩やかに内湾しながら立ち上がり、口縁部を丸く収める。内・外面を丁寧な横方向のミガキで仕上げる。

土師器把手（23） やや大型の把手。断面形状はやや縦長の円形。外面にナデ調整痕跡をよく残す。把手接合部の内面にはハケ目調整が観察される。甑や鉢などに伴うものか。

青磁碗（24～29） いずれも越州窯系の青磁碗である。24～26は底部～胴部下半が遺存するものである。体部下半以下は無施釉で、高台は低い。内面に目跡を残す。27～29は口縁部片である。いずれも小片で径は復元できない。直線的に開き端部がわずかに外反するもの（27・28）と、内湾しながら開くもの（29）がみられる。

緑釉陶器碗（30） 大型の碗型土器である。高台は高く、強く開く。釉の残りは極めて悪い。

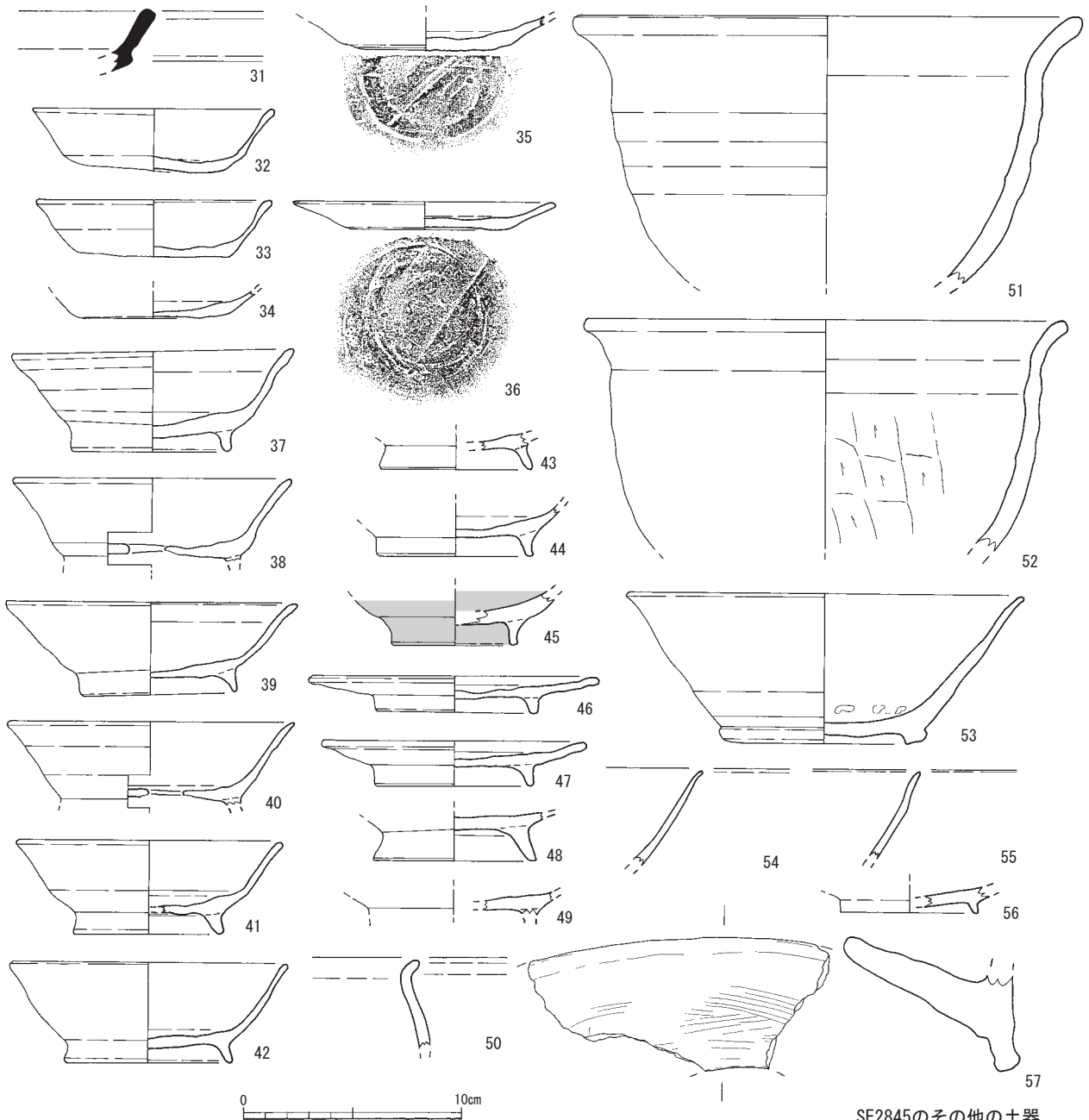
その他の SE2845 出土土器 (31 ~ 57)

須恵器壺 (31) 二重口縁の壺の口縁部片であろう。小片で径は復元できないが比較的大型のものであろう。

土師器坏身 (32 ~ 34) 平底で、底部と体部の境界に明瞭な屈曲を持つ坏身の一群である。底部外面にヘラ切りの痕跡を残し、板状圧痕を持つものを含む。

土師器皿 (35・36) 平底で、底・体部境の屈曲角度が大きいものである。ともに底部外面にヘラ切り痕・板状圧痕を残す。

土師器碗 (37 ~ 45) 断面「八」字状に開く高台を持つ碗の一群である。37 ~ 42 は図上で完形に復元できる資料、43 ~ 45 は底部付近の資料である。底部が平坦で底部・口縁部境に明瞭な屈曲を持つ一群 (38・40・42) と、底部~口縁部にかけて緩やかに湾曲し明瞭な屈



SE2845のその他の土器

Fig.38 井戸出土土器実測図② (1/3)

曲部を持たない資料(39)、それらの中間に位置する一群がみられる。器壁調整は全体的にナデ仕上げで、一部の資料の底部外面にヘラ切り痕が認められる。38・40は底部中央に内面より打ち欠いた(おそらく意図的な)穿孔が認められる。

土師器高台付皿(46～49) 断面「八」字状に開く高台を持つ皿である。底部から口縁部にかけてわずかに内湾しながら直線的に開く。

土師器甕(50) 小型の甕型土器の口縁部片である。小片で径は復元できない。黒色土器A類の可能性もあるが器壁にミガキ調整の痕跡は看取できない。

土師器鉢(51・52) 体部が緩やかに内湾しながら開き、口縁部は外湾する鉢型土器。いずれも底部は遺存しないが丸底をなすものか。ともに内面にケズリ調整痕跡がよく残る。52は外面にコゲ・ススが付着する。

青磁碗(53～55) いずれも越州窯系青磁碗である。53は全形が判明する資料である。底部はわずかに内湾しつつ平坦で、底部・口縁部境は強く湾曲する。口縁部は直線的に開いて端部がわずかに外湾する。底部内面に目跡を残す。54・55は口縁部のみ残る資料で、いずれも小片で径が復元できない。54は外面に鎬蓮弁を施す。

緑釉陶器碗(56) 緑釉陶器碗の底部片である。高台は細く、接地部を含め全面に施釉する。

土師器移動式カマド(57) 移動式カマドの焚口上部の廂部片である。下面にススが付着するが部分的にとどまる。

SE3910 出土土器 (Fig.39・40, Tab.14, PL.22)

SE3910 出土遺物は、取り上げ時に「上層」または「上層(砂質土)」と注記がつけられた一群と、それ以外の一群からなる。調査時の記録には土層図がないが、概報の記載によれば上面には土師器・瓦を多量に含む黒褐色土が掘り方を覆うように広がっていたとのことで、廃棄・埋め戻し後の自然沈下により形成されたくぼみに黒褐色土を中心とする堆積が形成されたことが推測されている。「上層(砂質土)」の注記についてはやや判断に迷うところであるが、「上層」から出土していることを重視して、ここでは「上層」・「上層(砂質土)」を一括して上層出土遺物として報告することとする。概報にあるように、上層出土遺物はほぼすべて10世紀代に下る資料より構成される。一方、出土位置・層位の注記がない遺物をSE3910のその他の出土土器として報告するが、この中には8～9世紀代にまでさかのぼるような資料が散見される。出土層位がわからない状態で判断を下すのは難しいところであるが、概報にあるように廃棄・1次埋没がこのころにさかのぼる可能性は十分考えられよう。

上層出土土器(1～46)

須恵器壺(1) 1は大型の高台付平底壺の底部片である。外面は手持ちヘラケズリ調整、内面は回転ナデにより仕上げられている。

土師器坏身(2～9) 2・3は口縁部のみ残る資料だが口径や口縁部の角度などから高台のない坏身の可能性が高いと判断した。また6～9は口縁部が欠失する資料だが、9を除いては残存部位より高台を持たない坏身と判断できる。9は皿の可能性も残るが屈曲部より上位の立ち上がり角度から坏身として示す。4は全形が判明する資料、5は器壁が分厚く歪みが大きい特徴的な資料である。

土師器碗(10～25) 断面形状が「八」字状に開く高台を持つ碗型土器の一群である。全

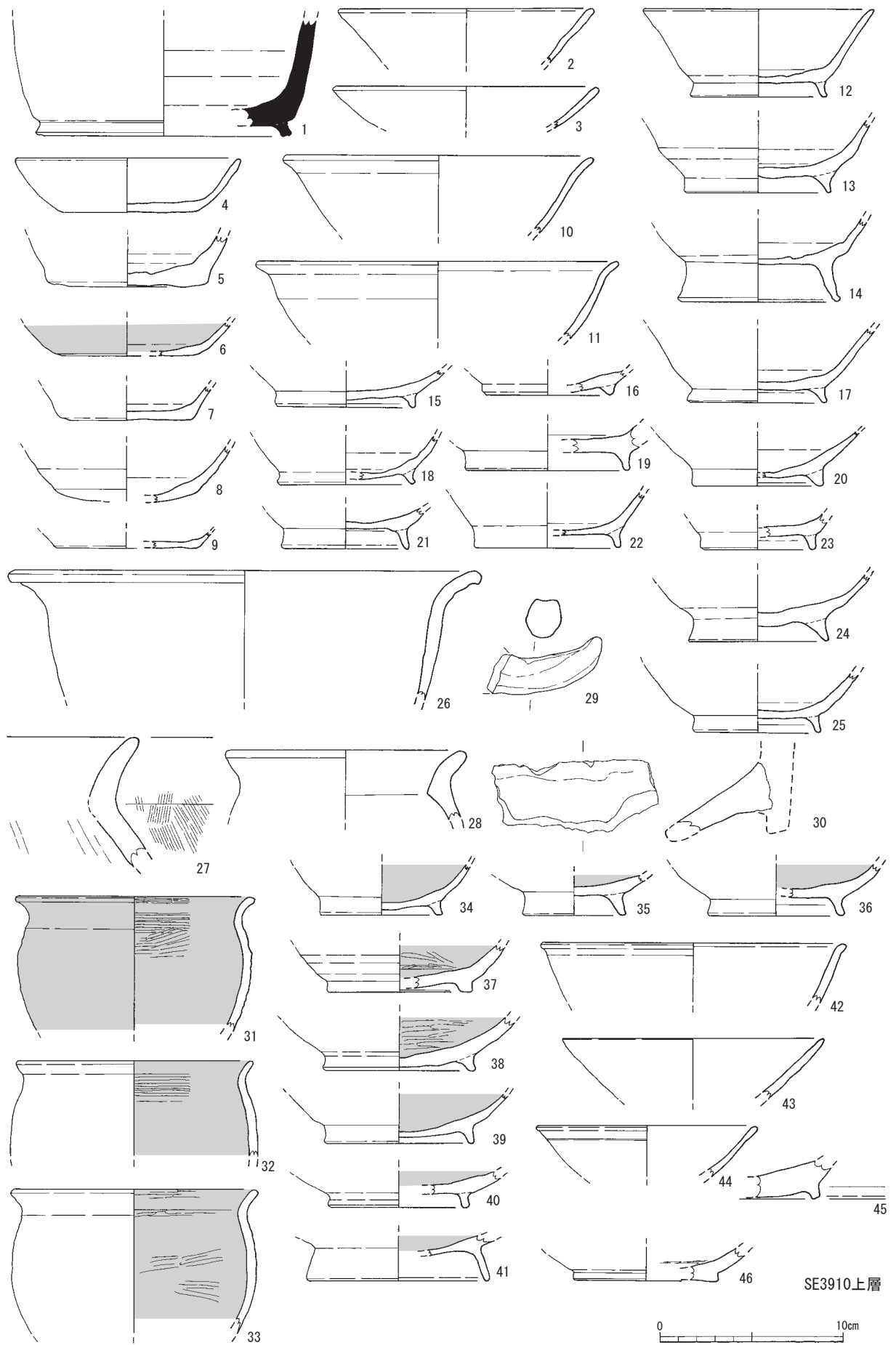


Fig.39 井戸出土土器実測図③ (1/3)

形が提示できる資料としては 12 があるのみで、10・11 は体部上半～口縁部の資料、ほかは底部を中心とする資料である。平底で、底・体部境の屈曲が明瞭な 12・19・22、底部から体部にかけて緩やかに湾曲する 18・20・24、これらの中間的な形状を持つ資料群に分けられる。高台の高さは全体的に 1cm 内外に収まるものが大半を占めるが、特に高台が高い資料として 14 が、また高台が低く断面形状が三角形状を呈する 16 などみられる。

土師器甕 (26～28) 26 は大型の甕の口縁部片である。頸部のくびれがほとんどない。27 も大型の甕、29 は小型の甕である。ともに頸部のくびれがやや強い資料である。

土師器把手 (29) 細くやや長く伸びる把手である。断面形状は上面に平坦面が形成される。

土師器移動式カマド (30) 30 は移動式カマドの焚口片である。大半が欠損しているが焚口上部にあたる資料か。

黒色土器甕 (31～33) いずれもほぼ同型同大の資料である。球胴でやや頸部が縮まり、口縁部は短く外湾する。31 は黒色土器 B 類、32・33 は黒色土器 A 類である。すべて内面はミガキ調整、外面は 31 がタタキのちミガキ、ほかはナデ仕上げ。

黒色土器椀 (34～41) 断面が「八」字状に開く高台を持つ椀型土器で、すべて黒色土器 A 類である。底部がやや湾曲しながらスムーズに体部へと移行しており、全体形状は半球形状になるものであろう。黒色となる内面はミガキ調整、外面はナデ調整により仕上げられる。

灰釉陶器碗 (42) 42 は灰釉陶器の碗の口縁部片である。小片で全形は提示できず、口径についても疑問が残る。釉の遺存状態は悪い。

青磁碗 (43・45) 43 は越州窯系青磁碗の口縁部片である。小片で径と傾きには不安が残る。体部から直線的に開き口縁部へと至る。45 は龍泉窯系青磁の碗か。底部付近のみが残り全形は提示できない。

白磁碗 (44) 白磁の小椀の口縁部片である。刑窯系か。小片で口径については不安が残る。

緑釉陶器碗 (46) 46 は緑釉陶器の碗の底部片である。円盤状の高台を持つ。

その他の SE3910 出土土器 (47～62)

須恵器甕 (47) 中型の甕の口縁部片である。頸部は強く縮まり、外湾しながら短く伸びる。体部外面に格子目タタキ、内面に青海波文が残る。

土師器坏身 (48～53) 平底から明瞭に屈曲して斜めに直線的に開く口縁部を持つ坏身の一群である。器高が 3.5cm 内外、口縁部径が 11～12cm と比較的形狀が類似する。底部外面は回転ヘラ切りにより形成され、しばしば板状圧痕が観察される。

黒色土器椀 (54) 半球状の器型をもつ黒色土器 A 類の椀。高台ははがれており形状は不明。

土師器椀 (55) 断面「八」字状の高台を持つ椀。平底から明瞭に屈曲し体部は直線的に開く。

土師器甕 (56・57) ともに大型の甕である。56 は底部が欠失する。胴部は緩やかに湾曲しながら開き、頸部の縮まりは極めて緩い。口縁部は緩やかに外湾する。57 は口縁部のみの資料である。頸部の縮まりはほとんどなく、口縁部は屈曲部を肥厚させて短く開く。

土師器高坏 (58) 58 は高坏の脚部上半である。直線的な筒状を呈する。坏底部との接合部は坏底面が一部残存する。

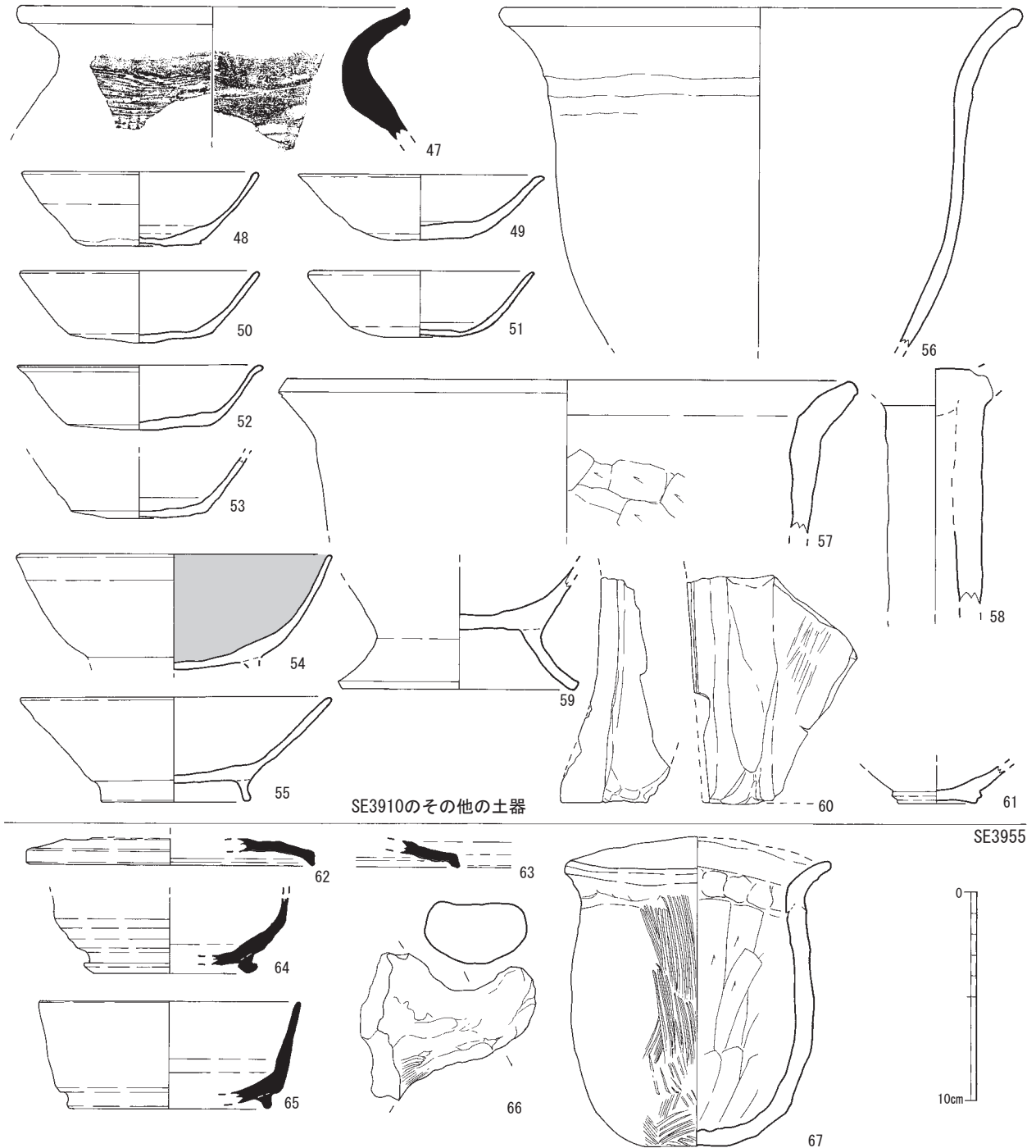
土師器脚付甕 (59) 断面「八」字状に大きく開きながら伸びる脚を持つ甕型土器の底部片か。あるいは椀型土器や小型の壺の可能性もある。

土師器移動式カマド (60) 移動式カマドの接地部片。焚口に向かって右側が遺存する。

黒色土器碗 (54) 半球状の器形を持つ碗。高台は意図的に剥離させた可能性がある。内面をナデ調整で仕上げ黒色に焼成する。

青磁碗 (61) 越州窯系青磁碗の底部片である。底部はわずかな上げ底状を呈し小型である。
SE3955 出土土器 (Fig.40, Tab.14, PL.23)

須恵器坏蓋 (62・63) 62・63は須恵器の坏蓋である。ともに小片で天井部は遺存しない。
復元口径もやや自信がない。



SE3910のその他の土器

SE3955

Fig.40 井戸出土土器実測図④ (1/3)

須恵器坏身(64・65) 高台を持つ坏身である。65は歪みが大きく傾きや口径にはやや不安なところも残る。高台断面形状は外に強く張る特徴的な形状を持つ。66は平底で口縁部に向かって直線的に立ち上がり、体部境の屈曲が明瞭な資料である。

土師器把手(66) 大型の把手である。断面形状はやや平べったい。外面には指ナデの痕跡をしっかりと残すほか、接合部付近にはハケ目痕跡も残る。

土師器甕(67) 井戸の底部に接して出土した資料である。概報では井戸廃絶に伴う祭祀との関連性が指摘されており、井戸廃絶時を示す可能性がある。小型の甕で、底部は平底にやや近い丸底で、体部のふくらみはあまりなく、頸部はほとんど締まらない。

8) 採土遺構

SX2837 出土土器 (Fig.41, Tab.15, PL.23)

須恵器坏身(1) 高台を持つ坏身。底部はやや湾曲し、底・体部境の屈曲は明瞭な稜を形成しない。口縁部は斜めに直線的に開く。高台の断面形はわずかに外に踏ん張る。全体に土師器の椀にやや近い形状ともいえる。

土師器坏身(2～4) いずれも、高台を持たない平底の坏身の底部片。小片で径にはやや不安が残るが、2が小型品、4はやや大きなもの。

土師器椀(5～8) いずれも断面が「八」字状に開く高台を持つ椀の底部片。8は底部上面が高台より外側にさらに平坦に伸びるような器形にも見え、高台付の皿の可能性もあろう。

黒色土器壺(9) 9は短頸で扁平な胴部を持つ壺の口縁部片。頸部の締めりはやや弱く、口縁部は短く直線的に伸びる。内面にミガキ調整を施し黒色に焼成する。

青磁碗(10・11) いずれも越州窯系青磁碗で、10は口縁部片、11は底部片。高台はごく浅く、平底気味で、わずかに内湾しながら開く器形を持つものであろう。

SX4333 (Fig.41, Tab.15)

須恵器壺(12) 壺の頸部片であろう。胴部との接合部分付近から上が残る。口縁部は欠失する。形状より、頸部が強く締まる器形を持つものであろう。

須恵器坏蓋(13) 13は坏蓋の口縁部片。小片で径は復元できない。

須恵器坏身(14) 14は坏身の口縁部片。これも小片で径が復元できない。

土師器坏身(15) 平底で高台を持たない坏の底部片。外面はやや凹凸が激しい。

SX4334 出土土器 (Fig.41, Tab.15, PL.23)

SX4334の調査においては土層の詳細な記録は残されていないが、出土した土器には大きく「最下層」、「下層」、「下層(灰色土)」、「上層」、その他(出土層位の注記なし)の5種類の出土層位記録がみられる。これらのうち、「下層」と「下層(灰色土)」は、出土層位が異なるのかどうかを判断する材料がないため、ここではこれらを一括して報告する。また、それ以外についてはそれぞれ細分して報告する。したがって、以下ではSX4334出土土器について「最下層」、「下層」、「上層」、「その他」の4項目に分けて報告することとなる。ただし、出土した土器の様相を見ると大きな時期差があるようには見えない。

最下層出土土器(12～19)

土師器椀(16～19) 断面形状が「八」字状を呈する椀の底部片。全体に緩やかに内湾し

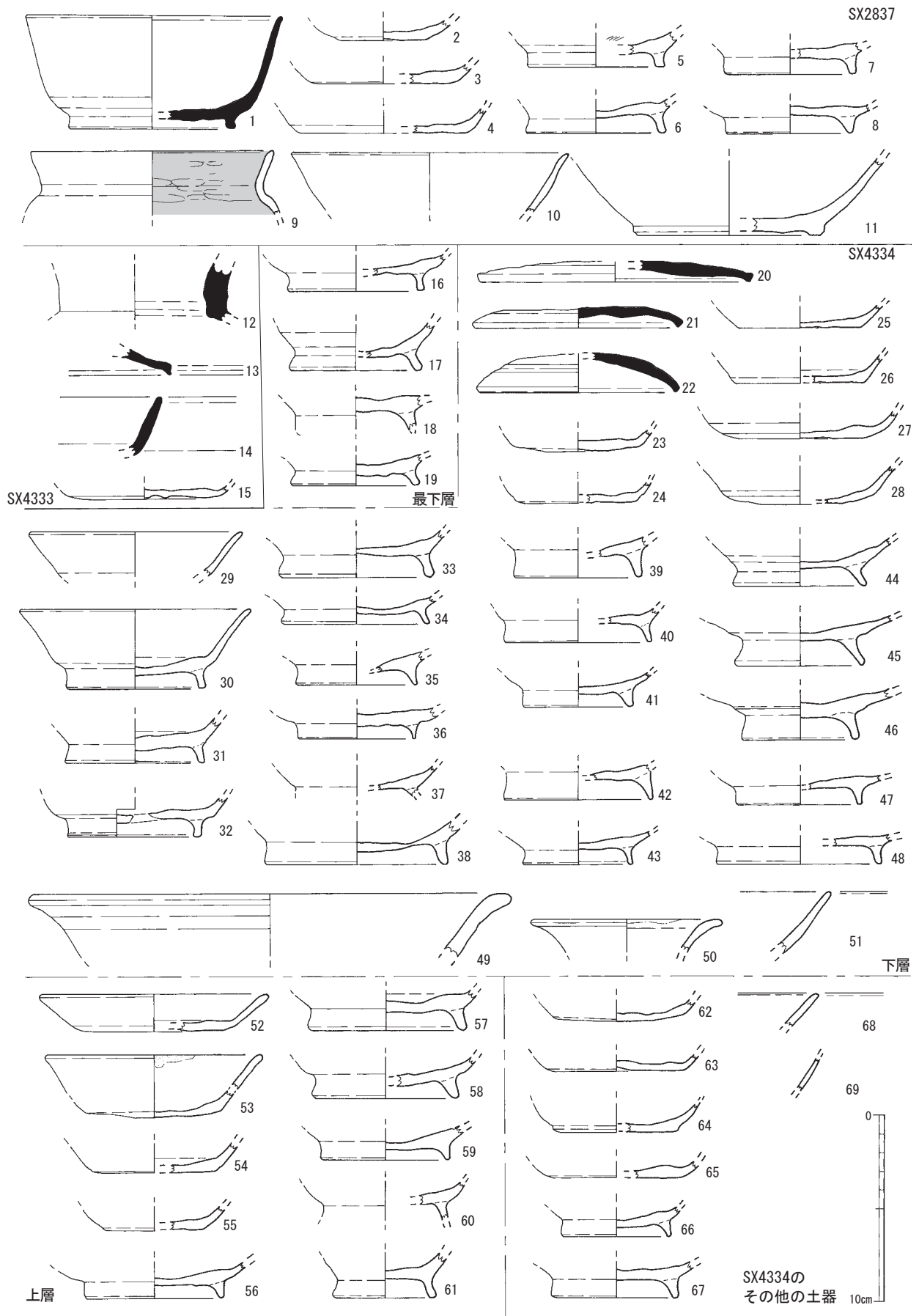


Fig.41 採土遺構出土土器実測図① (1/3)

ながら底部より口縁部へと至る器形を持つものと推測されるが、特に 17 は内湾度合いが強い。逆に 18 はあまり湾曲せず、皿の可能性も残される。

下層出土土器 (20 ~ 51)

須恵器坏蓋 (20 ~ 22) 20 は口径が 15.0cmをはかるものでほかの 2 つと比べて大きい。21・22 は口径が 11cm前後で、やや小型の資料である。21 は天井部外面に摘みが見つからないことが明らかである。他の 2 例は天井部が欠損して摘みの有無は不明。

土師器坏身 (23 ~ 28) 平底で高台を持たず、体部との境が屈曲し、口縁部は斜めに開く坏身。23・24 はやや小型品か。底部外面にヘラ切り痕跡や板状圧痕が観察できる資料を含む。

土師器椀 (29 ~ 44) 29 は口縁部のみの資料で、高台を持たない坏身の可能性もある。30 は図上で完形に復元できる資料。そのほかはいずれも底部～高台部付近を中心に遺存する資料。底部が平底で、口縁部にかけて直線的に開くものと、底部から口縁部まで全体に緩やかに湾曲しながら開くものがある。

土師器高台付皿 (45 ~ 48) いずれも断面が「八」字状に開く高台を持つ皿。底部～高台部付近が遺存する資料ばかりで口縁部の残るものはない。45 のように全体に緩やかに湾曲しながら開くものと、48 のように底部が平坦で広いものがみられる。

土師器甕 (49) 49 は甕の口縁部としたが、器形にはやや違和感も残る。

緑釉陶器 水注

緑釉陶器水注 (50) 緑釉陶器の水注の口縁部片。強く外湾しながら開く。類似の器形の資料が同じ調査区の土坑 SK4336 から出土している。

青磁碗 (51) 越州窯系青磁碗の口縁部片。小片で径が復元できない。全体に緩やかに内湾しながら開く器形を持つ。

上層出土土器 (52 ~ 61)

土師器坏身 (52 ~ 55) 平底で、底・体部境が明瞭に屈曲し、口縁部は直線的に開く。高台を持たない。52 は器高が低くやや皿に近い形状を呈する。

土師器椀 (56 ~ 61) 断面が「八」字状に開く高台を持つ椀。底部が平底状になるもの (57 など) と、全体に湾曲しながら開くもの (59 など) がある。61 は底径が小さく、小型品か。

その他の SX4334 出土土器 (62 ~ 69)

土師器坏身 (62 ~ 65) 平底で高台を付さない坏身の一群。いずれも底部片で口縁部が遺存する資料はない。

土師器椀 (66・67) 高台の断面形状が「八」字状に広がる椀型土器。いずれも底部片で、口縁が遺存する資料はない。

緑釉陶器碗 (68・69) 緑釉陶器の碗。ごく小片で傾きには不安が残る。径は復元できない。SX4337 出土土器 (Fig.42, Tab.15, PL.23)

須恵器鉢 (1) 1 は須恵器の鉢の口縁部片である。断面を三角形状にとがらせる。

須恵器坏身 (2・3) 2 は底部に高台を持つ坏身の底部片である。高台は幅が太く低い。3 は高台を付さない坏身である。底部は平底で外面にヘラ切り調整痕を有する。

土師器坏身 (4) 平底の底部が残る。全体に摩耗しており調整は不明。

土師器椀 (5 ~ 7) いずれも断面形状が「八」字状に開く高台を持つ椀型土器の底部片。底・体部境の屈曲は不明瞭で全体に大きく湾曲する器形を持つ。

土師器高台付皿（8～12） 断面形状が「八」字状に開く高台を持つ皿。8・9は碗の可能性もあろう。小片で全体形状は不明。

土師器小皿（13） 口縁部がごく短い小皿。歪みが認められる。

緑釉陶器碗（14） 斜めに立ち上がる口縁部のみが残る。小片で径は不明、傾きもやや自信がない。釉の残りは悪い。

SX4341 出土土器 (Fig.42, Tab.15, PL.23)

須恵器壺（15・16） 15は高台を持たない須恵器の壺の底部片。平底で、略円筒形に立ち上がる胴部下位を伴う。器壁は分厚い。内面には丁寧な回転ナデを施す。外面には自然釉がかかり調整は不明。16は高台を持つ壺の底部片であろうか。ごく小片で全体形状は不明。

須恵器環蓋（17） ごく小片で径は復元できない。端部をわずかに肥厚させ下方に尖らせる。

土師器坏身（18～20） 平底で口縁部が強く開く坏身か。20は底径がやや大きく器壁も分厚い。大型品か。

土師器碗または皿（21～28） 断面形状が「八」字状を呈する高台を持つ碗または皿。いずれも高台部付近のみ残る小片で全体形状は不明。

土師器鍋（29） 三足鍋の脚部片か。貼り付け部に擬口縁が観察される。

SX4344 出土土器 (Fig.42, Tab.15)

須恵器壺（30） 大型の壺の底部片か。高台部と、やや直線的に強く開く胴部下位が遺存する。器壁が分厚く、比較的大型の品か。

須恵器環蓋（31） 口縁端部をわずかに下方に突き出させる環蓋。小片で径は復元できない。天井部も欠失して摘みの有無は不明。

須恵器坏身（32～34） 平底で、高台を有する坏身の高台部付近の小片。32はやや径が大きい。大型の坏身か。33は底・体部境の屈曲が緩やか。

土師器碗（35～40） いずれも、高台部断面形状が「八」字状に開く碗。平底のもの、全体に大きく湾曲する器形を持つものがある。

土師器高台付皿（41） 41は高台付の皿の底部片か。皿部がほぼ水平に広がる。

土師器坏身（42～44） 42は土師器坏身の口縁部を割り欠き、破断部を研磨して円形に再加工したもの。43・44は小片だが高台を持たない土師器坏身の底部片。 皿に再加工

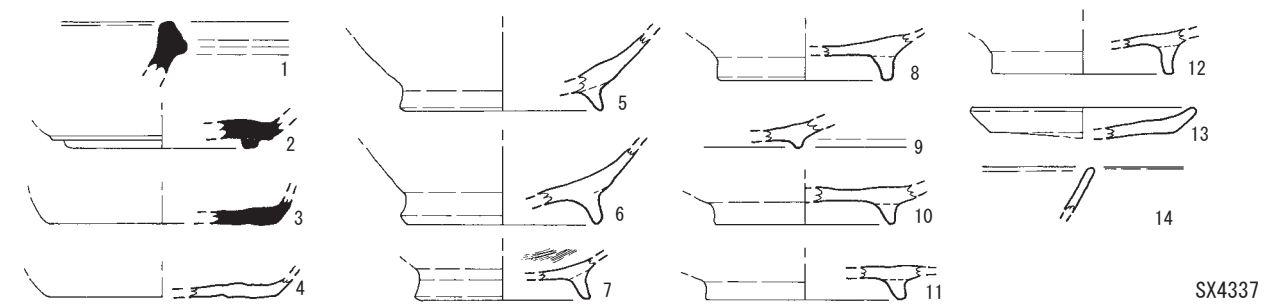
SX4347 出土土器 (Fig.42・43, Tab.15, PL.23)

須恵器壺ほか（45～49） 45・46は、類似した器形を持つ壺。肩部がやや張り、頸が強く締まる。器壁はナデ調整でタタキ痕を残さない。47は頸部の締まりがない器形で、甕に近い。48は全体の器形が不明だが鉢または甕状の器形になるものか。肩部に把手を付す。49は高台を付さない壺と考えたが、大型の坏身となる可能性もあろう。

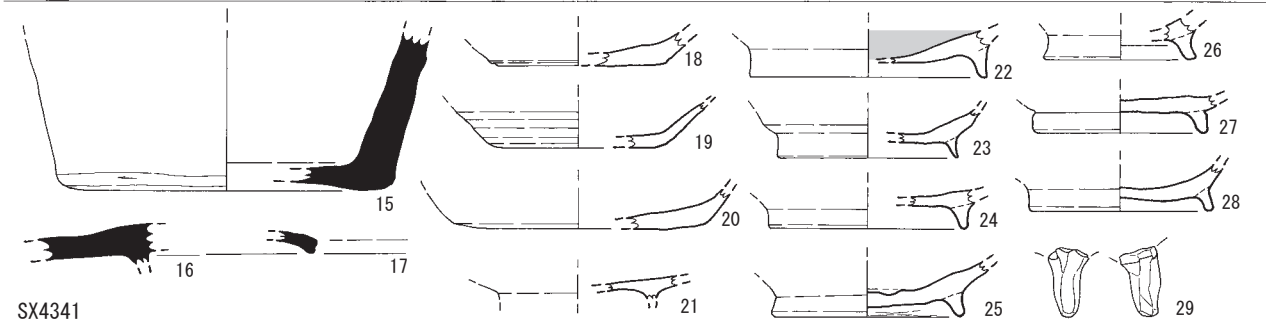
須恵器環蓋（50～52） いずれも、口縁端部を下方に屈曲させ嘴状に仕上げる環蓋の口縁部片。天井部は遺存しない。

須恵器坏身（53～57） 平底で高台を有する坏身の高台部付近の小片。高台は低くやや幅広である。57は高台の位置が外側による新しい様相を持つ。

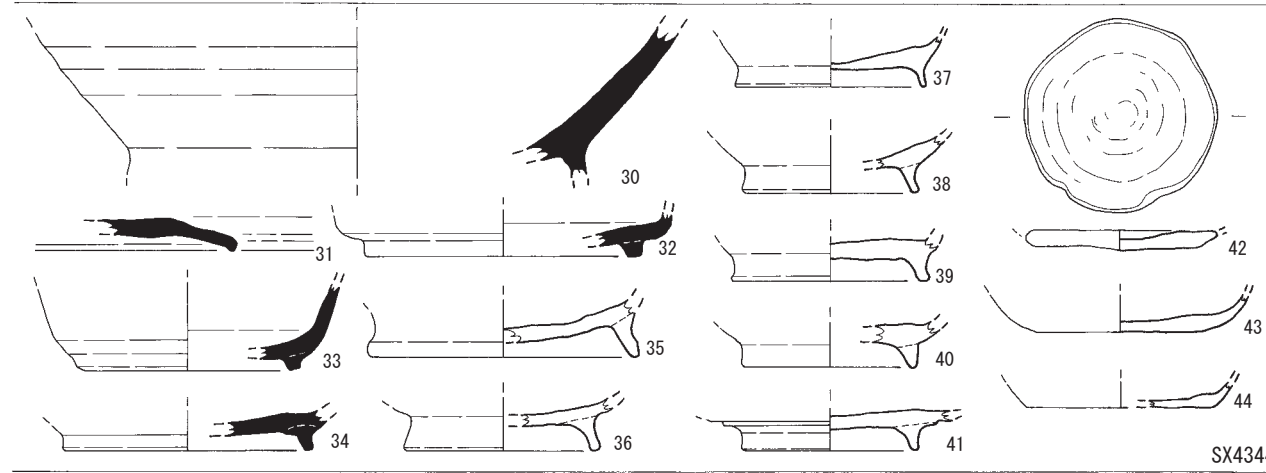
土師器坏身（58～60） 平底で、短く直線的に開く口縁部を持つ坏身または皿状の資料である。小片で全体形状は不明。58はやや大きく、59・60は小さい。



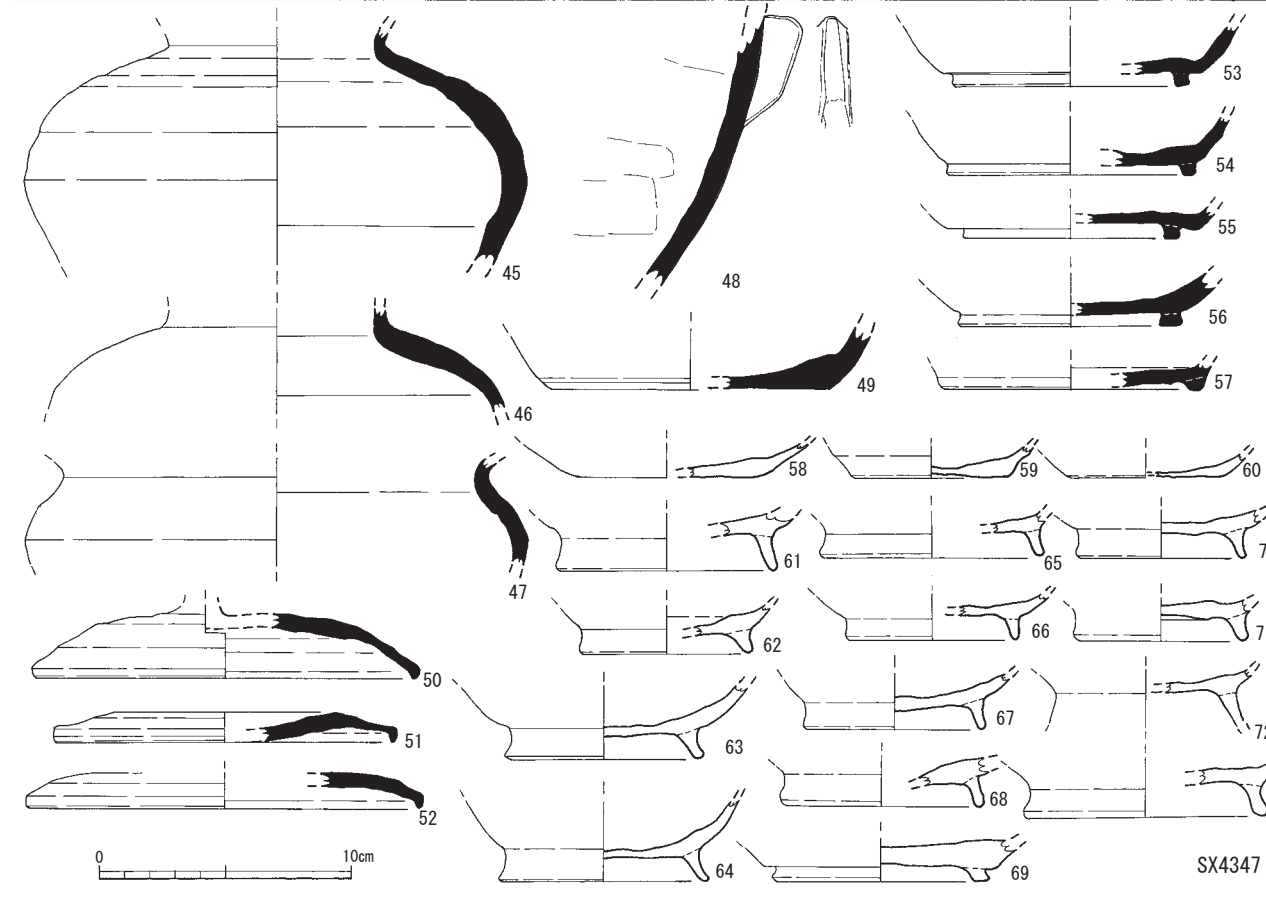
SX4337



SX4341



SX4344



SX4347

土師器碗または高台付皿（61～73） 断面形状が「八」字状を呈する高台を持つ坏身あるいは皿の一群。ほとんどが高台部付近のみしか遺存せず、全体形状が不明なため、器種が特定できない資料が散見される。中でも70・71は皿の可能性があろう。

土師器移動式カマド（74） 74は移動式カマドの向かって右側の接地部付近の小片である。底部が一部欠損するものの遺存する。全体に指頭圧痕がよく残り凹凸がみられる。

土師器甕（75） 内面をミガキ調整で仕上げ、黒色に焼成する甕型土器の胴上位～口縁部片。頸部の締めりは緩く、口縁部はやや湾曲しながら開く。

黒色土器壺（76） 扁平な胴部を持つ短頸壺であろう。頸部は明瞭に屈曲し、斜め上方に開く。端部をやや外湾させる。内外両面を黒色に焼成する黒色土器B類。

黒色土器碗または皿（77～79） 高台を持つ碗または皿型土器。小片で全体の器形が復元できず器種が特定できない。79は、全体の湾曲度合いから碗とみられる。77・78は皿の可能性もある。78は高台が低くて小さい。

黒色土器（80） 86は甕の口縁部片。ほぼ直立する器形。内外をミガキ調整で仕上げ黒色に焼成する黒色土器B類。

緑釉陶器皿（81・82） 81は口縁部片、82は底部片。全体に平坦な器形で、底部から口縁部までごく緩やかに湾曲しながら開く器形を持つものであろう。

緑釉陶器碗（83） 皿よりもやや器形が深みを持ち碗と判断したが、小片で径は復元できず、傾きにもやや自信がない。

灰釉陶器壺（84） 平底から斜め上方に立ち上がり、肩部を強く張って頸部が締まる壺であろう。器壁が厚い。 灰釉陶器壺

青磁碗（85・86） 越州窯系青磁の碗。85は胴部付近の小片である。径は復元できない。86は低い高台部付近が遺存する。

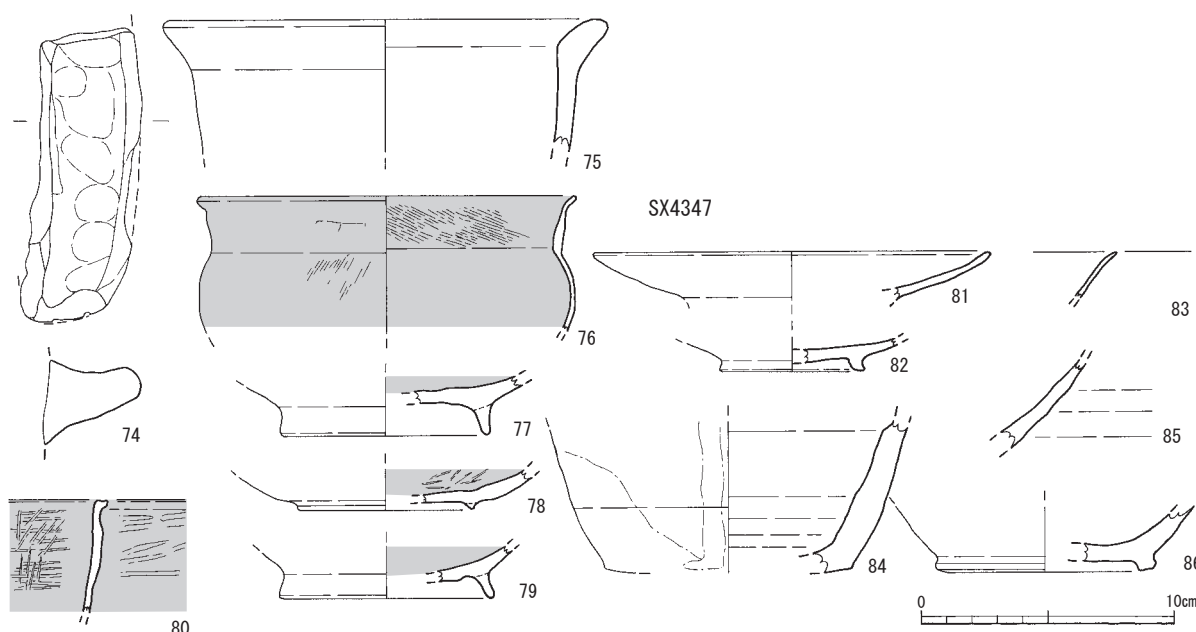


Fig.43 採土遺構出土土器実測図③（1/3）

9) その他の遺構

① 落ち込み状遺構

SX539 出土土器 (Fig.44, Tab.16, PL.23)

須恵器鉢 (1) 底部から直線的に強く開く鉢型土器の口縁部片。端部を肥厚させ、内側を上
に引き上げて断面を三角形状に仕上げる。

須恵器坏蓋 (2) 小片で径が不明だが、端部を下方に折り曲げて嘴状に仕上げる坏蓋。

土師器坏身 (3・4) いずれも平底から屈曲して短く開く口縁部を持つ坏身。底部付近の小
片で、径は復元できない。

SX2781 出土土器 (Fig.44, Tab.16)

須恵器坏身 (5～11) 平底で高台を付す坏身。5は底部の中央を除き全形が復元できる資料。
ほか高台部付近のみが残る小片。10は底部径が広く大型品か。11が高台部が剥離するが底
部外面に擬口縁が確認される。椀形の器形を持ち他とはやや異なる。

SX3919 出土土器 (Fig.44, Tab.16, PL.23)

須恵器坏蓋 (12～15) 12は口縁部にカエリを持つ坏蓋、13・14は口縁端部を下方に折
り曲げ嘴状に仕上げる坏蓋の、いずれも口縁部片。小片で全形は復元できない。15は天井部
片で摘み部が残る。口縁部形状は不明。

須恵器坏身 (16～18) 16・17は高台部付近のみ残る小片。底部から緩やかに湾曲する。
18はほぼ全形が図示できる。平底で、底・胴部境の屈曲が明瞭。口縁部は直線的に伸びなが
ら開く。

土師器坏身 (19～23) 平底で高台を持たない坏身。いずれも底部付近のみ残る小片。摩
耗により器壁調整には不明な点も多いが全体をナデ調整で仕上げるものがほとんどである。

土師器甕 (24～26) 口縁部のみが残る資料。ともに頸部のしまりがほとんどなく口縁部
は強く外湾しながら開く。24・25は大型。26は径が復元できないが大型以上であろう。

土師器椀 (27～30) 27は口縁部～体部が遺存する。直線的に開く口縁部は高台を付さな
い坏身とも共通するが、体部が深いため椀と判断した。28～30は高台部付近が遺存する資料。
高台が高いもの (28) と低いもの (30) が混在する。

土師器皿 (31～35) 平底で、口縁部が斜めに開く高台を持たない土器の中で、「坏」とす
るには器高が低く底径が広いものを「皿」として報告する。31は底部がやや丸みを帯びる。

黒色土器椀 (36～40) 内面を黒色に焼成する黒色土器 A 類の椀。36は口縁部付近が残る。
直線的に開き口縁端部をわずかに外湾させる。他はいずれも高台部付近が残る資料。いずれも
湾曲する底部を持つ。黒色に焼成する内面をミガキ調整により仕上げる資料が多い。

黒色土器甕 (41) 扁平な体部を持つ甕型土器で、内面を黒色に焼成する。器壁調整は全面
にナデ仕上げでミガキ痕跡が確認できない。

白磁碗 (42) 42は白磁の小碗。器壁外面のうち体部下半～底部を露胎とする。

SX4205 出土土器 (Fig.44, Tab.16, PL.23・24)

須恵器鉢 (43) 口縁部を強く内湾させる鉢型土器の口縁部片。底部が遺存せず全形は不明。

須恵器坏身 (44・45) 44はやや小型の資料。高台は低くやや幅が広い。45はやや大型の
資料。高台断面形状が外に強く踏ん張る。

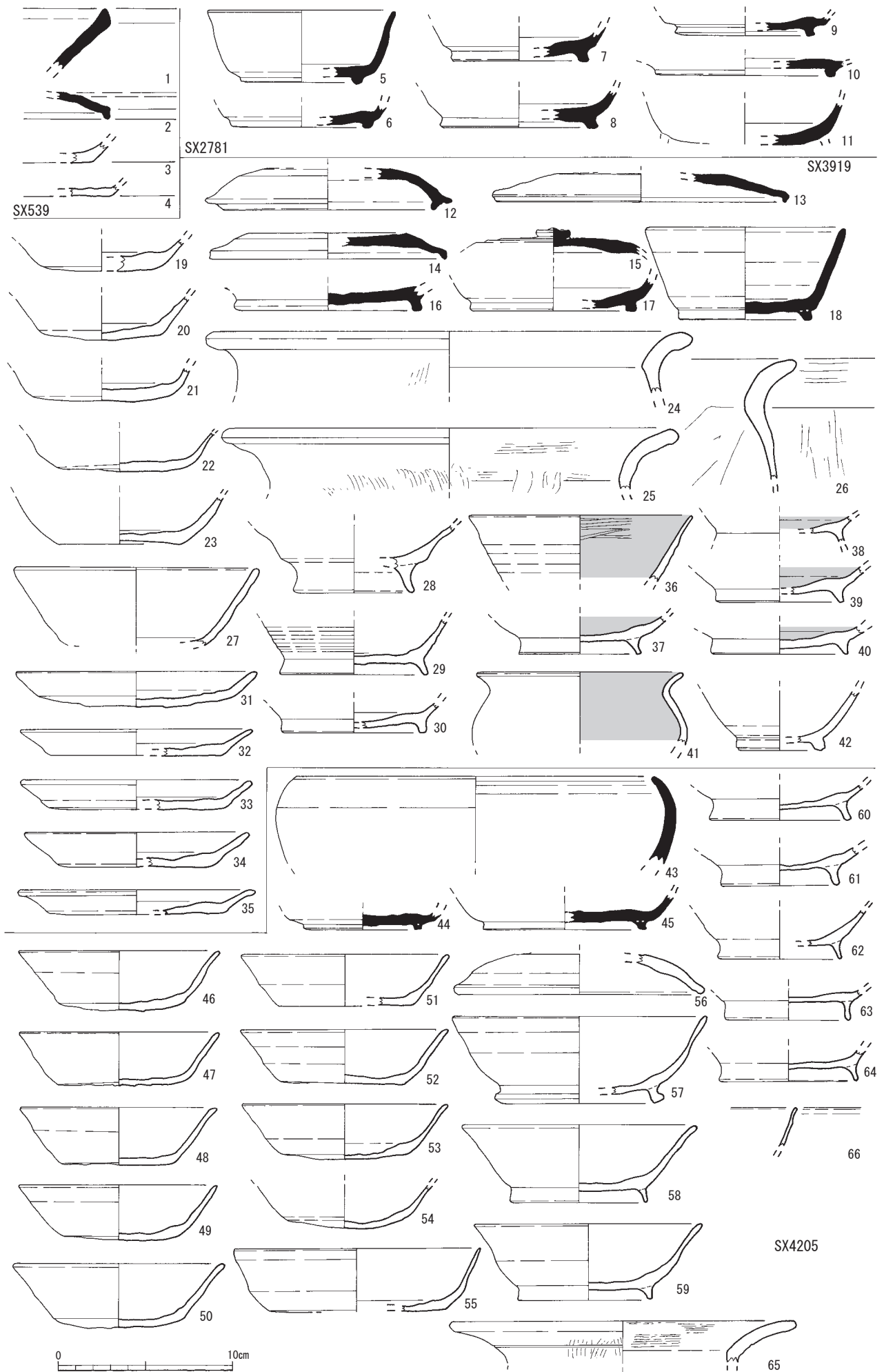


Fig.44 落ち込み状遺構出土土器実測図① (1/3)

土師器坏身(46～55) 平底で底・体部境が明瞭に屈曲し、口縁部が直線的に開く。ほとんどは口縁部径が12cm内外、器高が3～4cmで法量が近い資料群である。55のみやや大型。

土師器坏蓋(56) 天井部から緩やかに口縁部にかけて広がる坏蓋。端部を丸く収める。天井部に近い部分には回転ヘラケズリ調整痕が残る。

土師器椀(57～64) 57～59はほぼ全形が図示できる。58は平底で、底・体部境が明瞭に屈曲する。57・59は全体が緩やかに湾曲しながら開く。57の高台断面形は外に強く踏ん張りやや特殊な形状を持つ。60～64は高台部付近のみが残る小片で、全形は不明。

土師器甕(65) 中型の甕の口縁部片。頸部の締めりはほとんどなくバケツ状の器形を持つものであろう。口縁部は強く開く。

緑釉陶器碗(66) ごく小片で図示した形状には不安が残るが、碗の口縁部片として報告する。

SX4617 出土土器 (Fig.45, Tab.16, PL.24)

須恵器甕(1・2) 1は大型の甕の肩部～頸部片。肩は強く張り、球状の胴部を持つものであろう。胴部外面に平行タタキ、内面に青海波紋がよく残る。2は小型の甕の胴部片。肩部がやや強く張る。頸部は強く締まる。胴部外面に格子目タタキ、内面に青海波文を残す。

SX4617

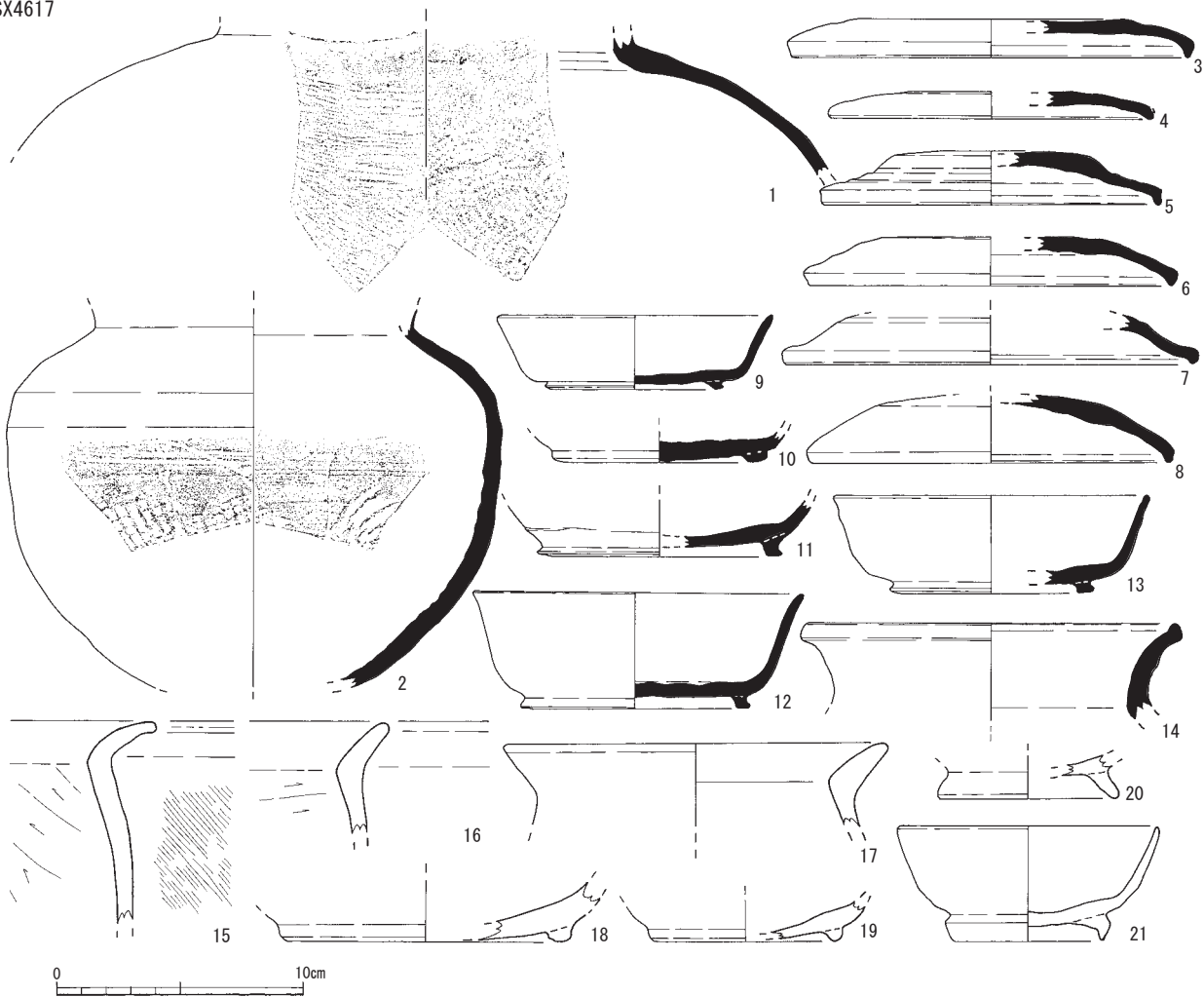


Fig.45 落ち込み状遺構出土土器実測図② (1/3)

須恵器坏蓋 (3～8) いずれも口縁端部を下方に折り曲げ嘴状に仕上げる坏蓋の口縁部片。天井部が遺存するものはなく摘みの有無は不明。体部下位に段を持つもの (5・7) と持たないものがある。天井部外面には回転ヘラケズリ痕が観察されるものが多い。ほかはナデ仕上げ。

須恵器坏身 (9～13) 高台を付す平底の坏身。9は小型品。13は全体的に丸みを帯びる。高台断面形が外に踏ん張る資料が多い。

須恵器甕(14) 甕の口縁部片。頸部はやや強く締まり、口縁部は緩やかに外湾しながら開く。

土師器甕 (15～17) 頸部の締まりが弱く、バケツ状の胴部を持つ甕であろう。15は口縁部が湾曲しながら開く。16・17は口縁部が屈曲部より細くなりつつ直線的に短く開く。

土師器壺 (18) 18は大型の器種で高台を持つ底部片。全形は不明だが、壺型土器の可能性を考えたい。全体的にナデ調整できれいに仕上げる。

土師器碗 (19・20) 高台を付す碗の底部片。19は高台が短い小片資料のため不安が残る。

灰釉陶器碗 (21) 高台を持つ碗。全体的にゆがみがひどく、焼成前の形状を推測しつつ図示している。高台断面形状が特徴的である。 灰釉陶器碗

② 鑄造関連遺構

SX3918 出土土器 (Fig.46, Tab.17)

須恵器坏身(1) 高台を付す坏身の、高台部付近の小片。平底で、底・体部境で屈曲して立ち上がるものか。高台断面形状はやや外に張る。

土師器皿 (2) 平底で、口縁部が短く、高台を持たない皿。内外面を丁寧なナデで仕上げる。

③ 土器埋納ピット

SP2926 出土土器 (Fig.47, Tab.18)

須恵器甕 (1)

大型の甕の底部片。上半部は削平により失われたものとみられる。丸底球胴で、器壁内面には格子を円弧状に配する特徴的な当て具痕が残る。外面の平行タタキ調整痕はカキメ調整によりおよそ消される。

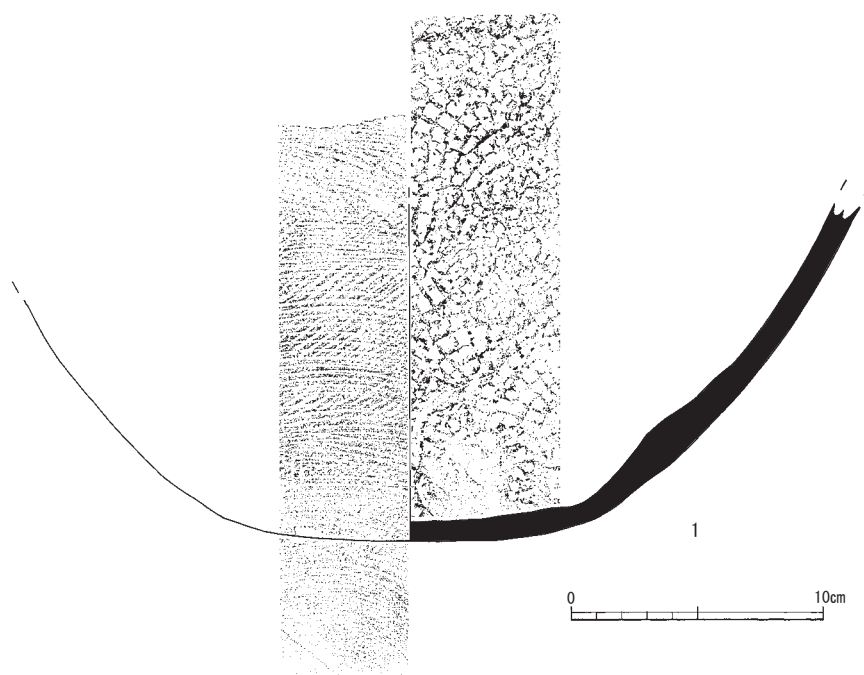


Fig.47 土器埋納ピット出土土器実測図 (1/3)

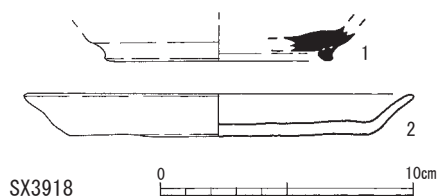


Fig.46 鑄造関連遺構出土土器実測図 (1/3)

④ その他のピット

29次調査 Pit 内出土土器 (Fig.48, Tab.18)

須恵器坏身(1～5) 平底で底部外面に高台を付す坏身。2・3は底・体部境が緩やかに湾曲し、また高台が外側により新相を示す。4・5はこれに対しやや古手のものか。

須恵器甕(6) 口縁部のみが残る資料。緩やかに外湾しながら立ち上がる。口縁端部を下方に引き伸ばす。

95次調査 Pit 内出土土器 (Fig.48, Tab.18)

土師器坏身(7) 平底で口縁部が短く開く坏身。底部がやや丸底気味に湾曲する。

須恵器坏身(8) 平底で底部に高台を付す坏身。底部はやや湾曲してやや上げ底気味となる。口縁部はわずかに外湾しながら立ち上がる。

96次調査 Pit 内出土土器 (Fig.48, Tab.18)

弥生土器壺(9) 外面に丹を塗った精製器種の壺の肩部片。肩がやや張り、頸部のしまりはやや弱い。頸部屈曲部外面に三角突帯を巡らせる。

133次調査 Pit 内出土土器 (Fig.48, Tab.18)

須恵器蓋(10) 大型の蓋で高坏などに対応するものか。口縁部の小片で径は不安が残る。

土師器坏身(11・12) 平底で高台を付さない坏身。11は口縁部の立ち上がりがやや急角度で、別の器種となる可能性もある。

土師器皿(13) 器高がごく低い皿。底部と体部の屈曲が明瞭ではない。

黒色土器椀(14) 口縁部のみが遺存する。内面に丁寧な磨きを施し黒色に焼成する黒色土器B類。

137次調査 Pit 内出土土器 (Fig.48, Tab.18, PL.24)

須恵器坏蓋(15) 天井部が平坦に伸び、口縁部下端を下方に引き出して嘴状とする。摘みは中央がやや突出する。

須恵器坏身(16～18) 16は底部に高台を付す坏身。全体に丸みを帯びた器形。17は平底で高台を付さないもの。底部外面に糸切り痕が残る。18は口縁部のみ資料。

157次調査 Pit 内出土土器 (Fig.48, Tab.18)

土師器坏身(19・20) 19は平底、20はやや丸みを帯びた底部を持つ。ともに高台は付さない。小片で全形は不明。

土師器高台付皿(21・22) 断面が「八」字状に開く高台を付す皿。22の高台はやや太く直立する。

須恵器坏蓋(23) 口縁端部のみ資料で全形は不明。小片で傾きもやや不安が残る。口縁端部を強く屈曲させる特徴的な形態を持つ。

166次調査 Pit 内出土土器 (Fig.48, Tab.18)

土師器甕(24) 布留式甕の口縁部片。頸部を強く屈曲させ、口縁部は直線的に開く。

167次調査 Pit 内出土土器 (Fig.48, Tab.18)

須恵器坏身(25) 口縁部が直立する坏身。高台部上の屈曲はやや緩やか。

175次調査 Pit 内出土土器 (Fig.48, Tab.18)

土師器椀(26) 球状の底部を持つ。椀としたが、小型の甕の底部片の可能性もある。

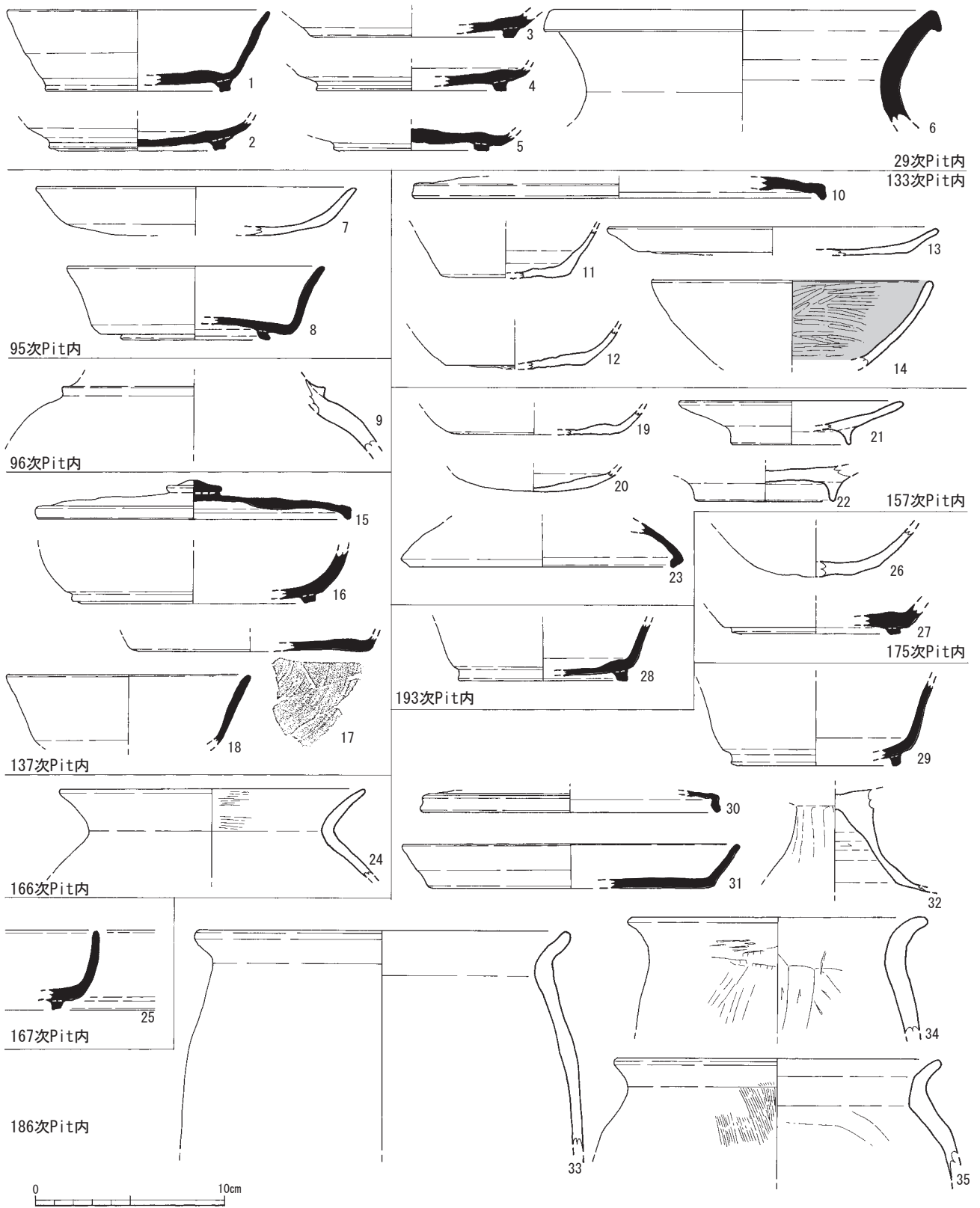


Fig.48 その他のピット出土土器実測図 (1/3)

須恵器坏身 (27) 平底で底部に高台を付す坏身。小片で全形は不明。

186次調査 Pit 内出土土器 (Fig.48, Tab.18)

須恵器坏身 (29) 高台を付す坏身。底部と口縁部は欠失する。

須恵器坏蓋 (30) 口縁部のみが残る。ごく小片で径はやや不安がある。端部を強く下方に折り曲げて伸ばす。

須恵器皿 (31) 平底で口縁部が短く開く。底部は平坦で全体に丁寧なナデ調整で仕上げる。

土師器高坏 (32) 坏底部の中央と脚のほとんどが残る。脚は下方で屈曲して開く。

土師器甕 (33～35) 33はやや大型の甕。34・35は中型の甕。33・34は頸部の締まりが緩くバケツ状に近い形状を持つ。35は頸部が強く締まり長卵形となるか。

193次調査 Pit 内出土土器 (Fig.48, Tab.18)

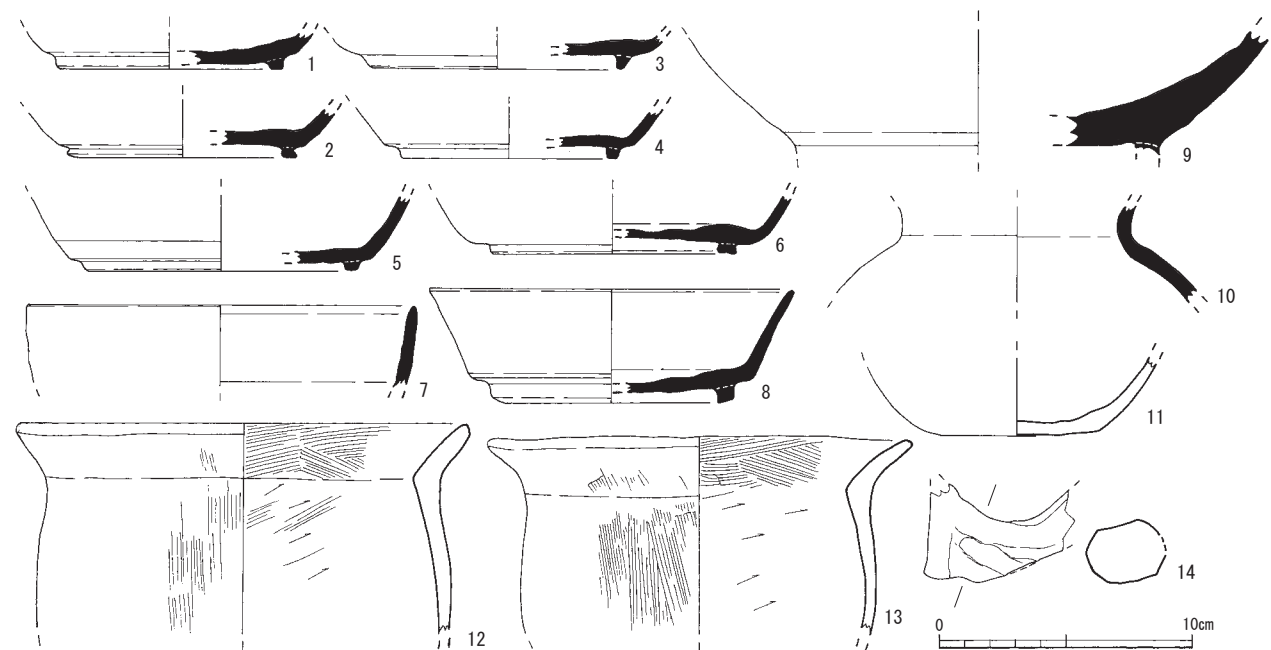
須恵器坏身 (28) 口縁端部以外が図上で完形に復元できる坏身。高台断面形はやや外に張り、底・体部境は明瞭に屈曲する。

⑤ 遺物包含層等

29次Cトレンチ暗茶灰色土出土土器 (Fig.49, Tab.19)

29次調査Cトレンチの土層図(前冊 Fig.19-1)における土層番号4層出土と考えられる資料群である。Cトレンチのほぼ全面にわたって堆積し、上層遺構面を形成しており、整地層と推測される。

須恵器坏身 (1～8) 平底で高台を付す坏身、またその可能性の高い一群である。7をのぞき底部が遺存し、1～6・8は底・体部境より内側に高台が付される。高台の断面形状は様々だが比較的しっかりしたものが多い。7は口縁部片で直立気味に立ち上がる。



29次Cトレンチ暗茶灰色土

Fig.49 遺物包含層等出土土器実測図① (1/3)

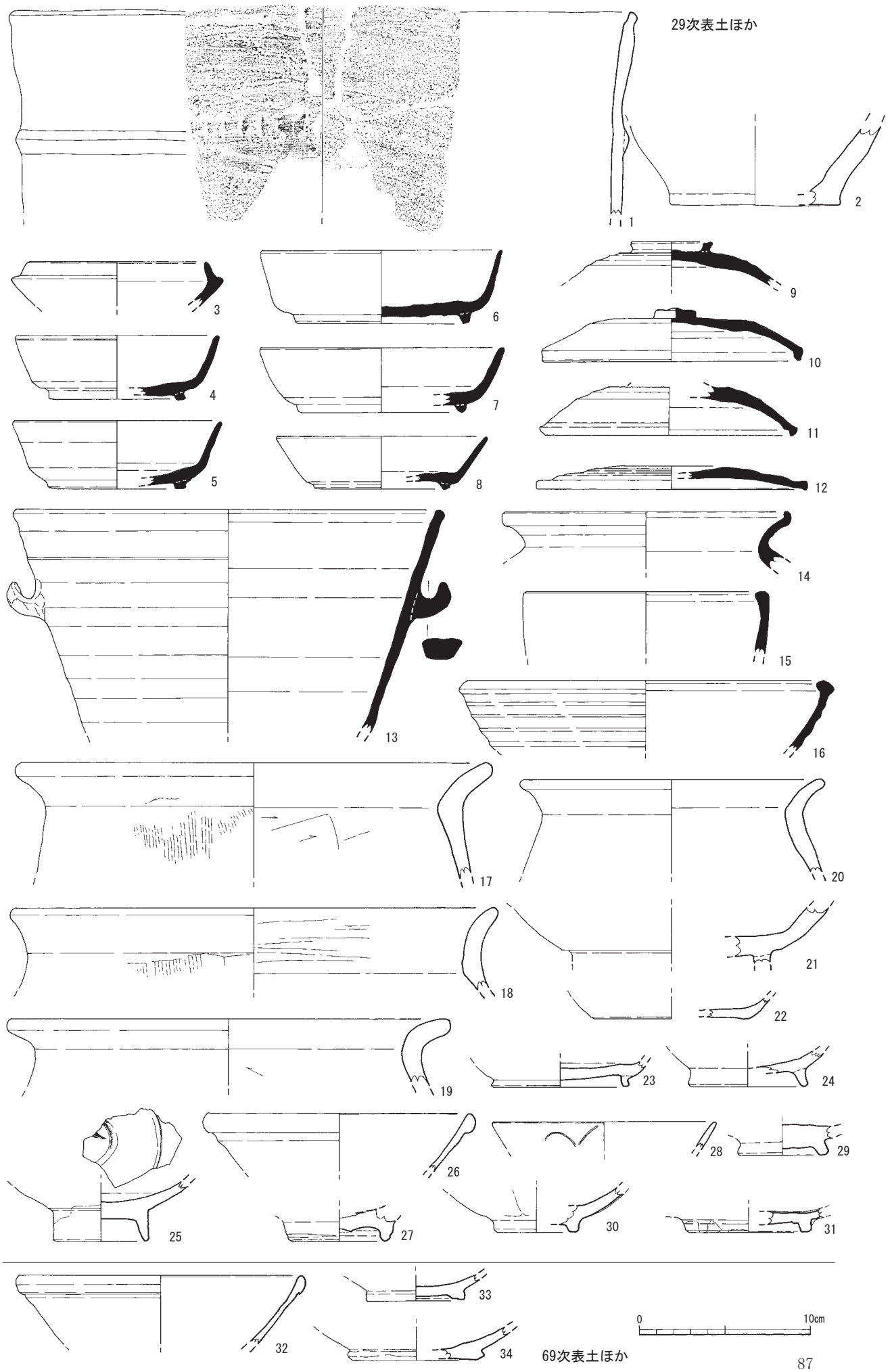


Fig.50 遺物包含層等出土土器実測図② (1/3)

須恵器壺(9) 平底で高台を付す壺の底部片。器壁が厚く大型の資料。胴部は丸みを帯びながら立ち上がるものか。

須恵器壺(10) 球胴で頸部がやや強く締まる器形を持つ壺か。胴部上半のみの資料。

土師器甕(11～13) 11は底部片。平底気味。12・13は胴部上半から口縁部までが残る。頸部の締めりは弱い明瞭に屈曲して反転し、内側に稜を形成する。

土師器把手(14) 甕などの把手か。やや細身で長く伸びる。断面はやや扁平につぶれる。
29次表土ほか出土土器 (Fig.50, Tab.19)

注記に表土と記された資料のほか、調査時に作成された土層図において黄褐色土(水田床土)、黒灰土、灰褐色砂質土(ともに上層遺構面の上位に堆積する層)など、上層遺構面より上位の堆積層より出土したことが判明する資料群を一括して報告する。また、「Aトレンチ暗茶褐色土」と注記に記された一群は該当する土層が記録中に見当たらないためここでまとめて報告する。

縄文・弥生土器甕(1・2) 1は刻目突帯文を胴上位に1条巡らせる甕の口縁部片。内・外面を貝殻で成形したのち条痕をナデ消す。2は甕の底部片。須玖式のやや新相に位置づけられるか。底径が大きく壺の底部となる可能性もある。

須恵器坏身(3～8) 3は口縁内側にカエリを持つ坏身である。小片で径や傾きにやや不安が残る。4～8は平底で高台を付す坏身である。

須恵器坏蓋(9～12) 9は輪状摘みを持つ坏蓋。口縁部は欠失する。10はボタン状摘みを持つ。11・12は天井部を欠失し摘みの有無は不明。

須恵器甕(13) 13は底部を欠失するが甕であろう。体部上位に1対の把手を持つ。把手の断面形状は扁平。

須恵器壺(14) 小型の壺の口縁部片。頸部が強く締め口縁部は短く外反する。口縁端部は内側に折り返すように湾曲させる。

須恵器鉢(15・16) とともに、口縁端部を肥厚させる鉢。15は小型で深く椀状になるか。

土師器甕(17～20) 17～19は大型の甕、20は中型の甕。いずれも口縁部を外湾させわずかに肥厚させるものが多い。小型で体部がバケツ状を呈する甕もあるが掲載していない。

土師器壺(21) 平底で高台を付す壺の底部片。底・体部境は大きく湾曲させる。

土師器坏身(22・23) 22は底部に高台を付さない坏身。23は断面がやや細長い直立する高台を付す坏身。

土師器椀(24) 体部が半球状をなす椀であろう。高台は伸びながら開く。

白磁碗(25～27) 25・27は底部片。25の高台が高く特徴的。26は口縁部を玉縁に仕上げる。

青磁碗(28～31) いずれも龍泉窯系青磁の碗。28は口縁部のみが残る。ごく小片で径と傾きには不安がある。外面に蓮弁文の一部が残る。29～31は底部片。

69次表土ほか土器 (Fig.50, Tab.19)

白磁碗(32) 口縁部を玉縁上に仕上げる白磁碗。底部は遺存しない。

青磁碗(33・34) いずれも越州窯系青磁の碗。底部のみ遺存する。

95次灰褐色土出土土器 (Fig.51, Tab.19, PL.24・25)

第95次調査で遺物包含層として調査された灰褐色土は、前冊では「整地層とみられる」とした。しかし、包含される遺物の中には比較的時期の降る資料が少なくない。本土層について

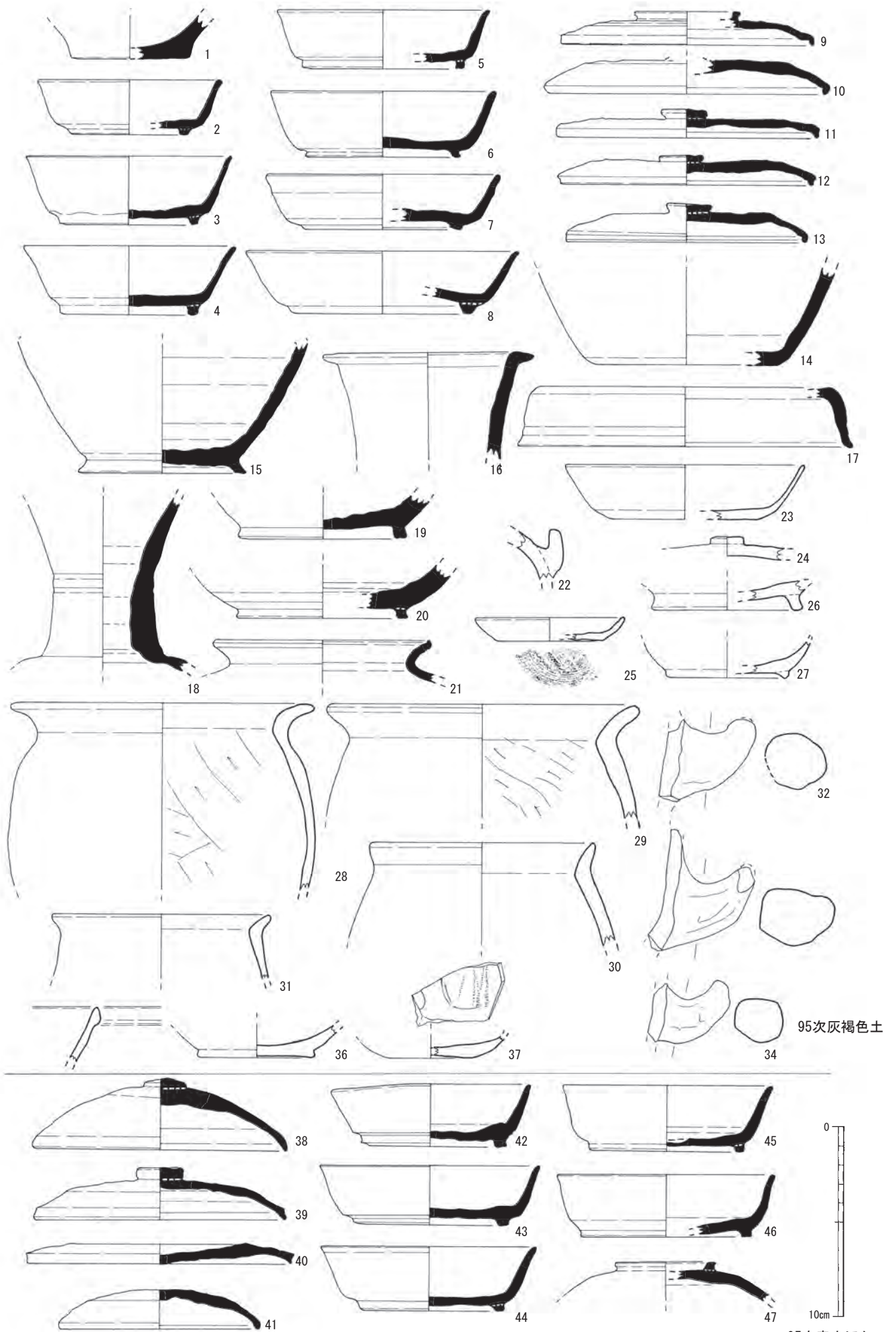


Fig.51 遺物包含層等出土土器実測図③ (1/3)

は概報において、「床土直下若干の灰褐色土層を除去すると遺構面となり…」とあり、また隣接する第96次調査区においても同様に「遺構面は花崗岩バイラン土で、その上に暗灰色土層、灰褐色土層が堆積していた」とある。よって、前冊の記述は報告者の錯誤であり本土層は遺構面を覆う遺物包含層であると訂正したい。遺物については念のためその他の遺物包含層等出土土器とは別に報告する。

弥生土器甕(1) 弥生時代中期須玖式土器の甕の底部片であろう。器壁は摩耗し調整は不明。

須恵器坏身(2~8) 平底で高台を付す坏身。おおよそ全形が提示できるもののみ揭示しており小片は多数出土している。

須恵器坏蓋(9~13) 9は輪状摘みの蓋。11~13はボタン状摘み。他に小片が多数出土している。

95次表土ほか

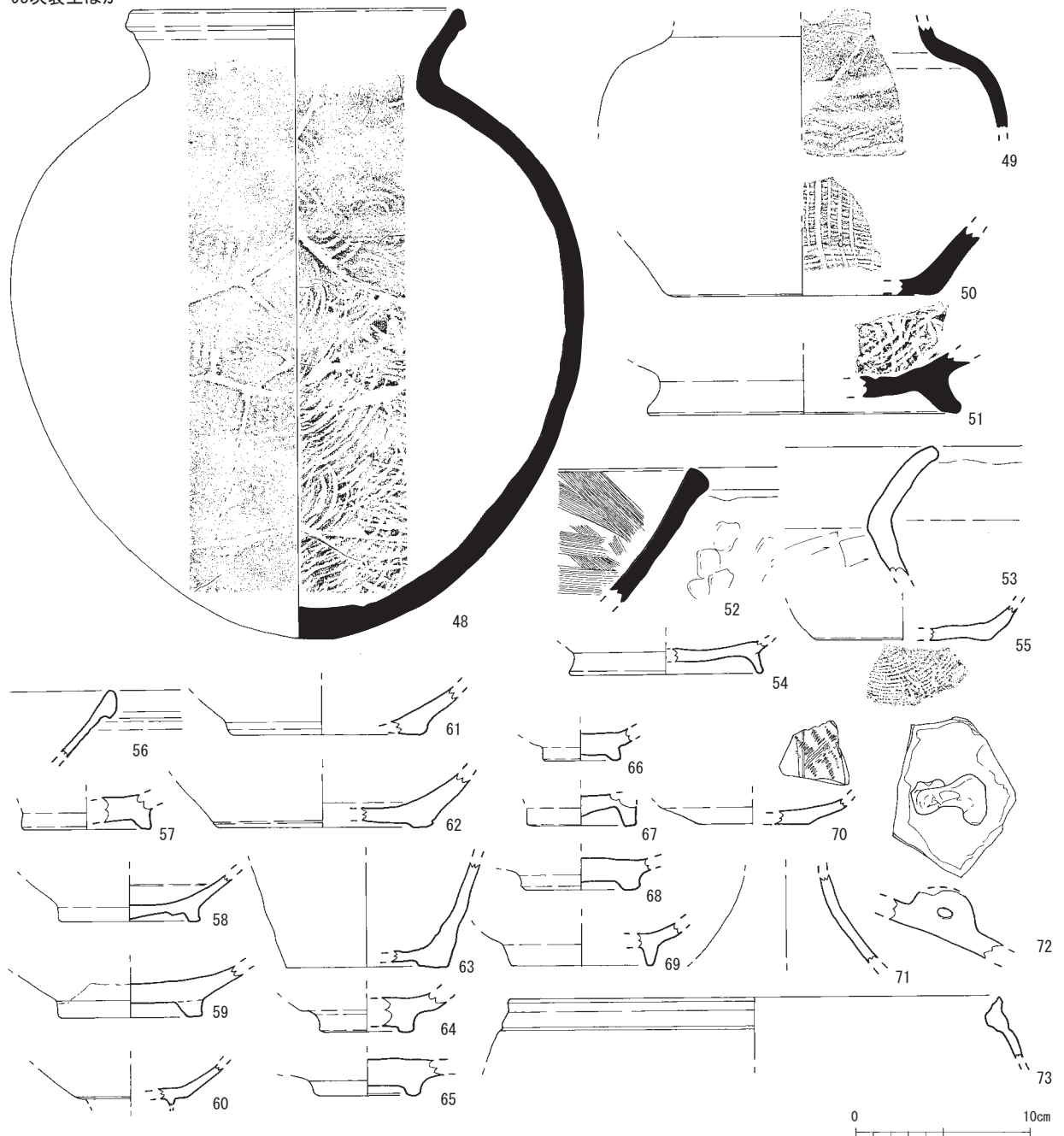


Fig.52 遺物包含層等出土土器実測図④ (1/3)

須恵器壺(14～22) 14は平底で高台を付さない壺の底部片。16・18は長頸壺。18は頸部片。17は壺蓋。15・19・20は高台をもつ壺の底部片。21はおそらく球胴の壺の口縁部片であろう。頸部が強く締まり口縁部は短く外反する。22は提瓶の把手部分。

土師器坏身(23) 平底で高台を付さない坏身。底・体部境は緩やかに湾曲する。

土師器蓋(24) ボタン状の摘みを持つ蓋。やや器壁が厚く大型品か。

土師器皿(25) 小型の皿。底部外面に糸切り後の板状圧痕が認められる。

土師器碗または皿(26・27) 底面に高台を付すもの。26は皿か。27は高台がごく低い碗。

土師器甕(28～31) 28・29は中型の甕の胴上位片。30・31は小型の甕。口縁部の締まりがほとんどなく口縁部はごく短い。

土師器把手(32～34) 甕などの把手部分であろう。32・33は大型で作りが粗い。34はやや小型。

白磁碗(35) 口縁部を玉縁に仕上げる碗。ごく小片で径も復元できず傾きも不安が残る。

青磁碗(36) 越州窯系青磁碗の底部片。釉の残りは悪い。内面に目土跡が残る。

青磁皿(37) 龍泉窯系青磁の皿。見込みに櫛状工具などを用いた文様が認められる。

95次表土ほか出土土器 (Fig.51・52, Tab.19, PL.25・26)

95次調査において出土した遺物のうち、表土を含む遺構面より上位の堆積層(上述の灰褐色土を除く)から出土したもの、また出土遺構等の記録が失われてしまったものなどを一括して報告する。

須恵器坏蓋(38～41) 口縁部を下方に折り曲げる坏蓋の一群。38・39は天井部をドーム状に成形し摘みを付す。40・41は天井部が遺存し、摘みを付さない。

須恵器坏身(42～46) 高台を付す坏身。42～46は平底で、口縁部は直線的に立ち上がる。

須恵器坏蓋(47) 輪状摘みを持つ坏蓋の天井部の小片。

須恵器甕(48) 図上で完形に復元できる資料。胴部はやや細長い球状で、頸部のしまりはやや弱い。口縁部は短い。体部外面に格子目タタキ、内面に青海波文を残す。

須恵器壺(49～51) 49は胴部上半が残る資料。肩が強く張り頸部は締まる。50は平底で高台を付さない壺の底部片。51は同じく高台を付す壺の底部片。

須恵器鉢(52) まっすぐに開く口縁部のみが残る資料。平底であろう。

土師器甕(53) 口縁部のみ資料だが大型のものであろう。

土師器坏身(54・55) 54は高台を付す坏身あるいは皿。55は高台を付さない坏身の底部片。底部外面に糸切り痕跡を残す。

白磁碗(56～60) 56は玉縁口縁が残る。小片で径は不明。57～60は底部片。いずれも高台を付す。

青磁碗(61・62・64～69) 62・63は越州窯系青磁碗の底部片。釉の残りは悪い。64～69は龍泉窯系青磁碗で、高台を付し釉がよく残る。

青磁水注(63) 63は龍泉窯系青磁の水注の底部片か。

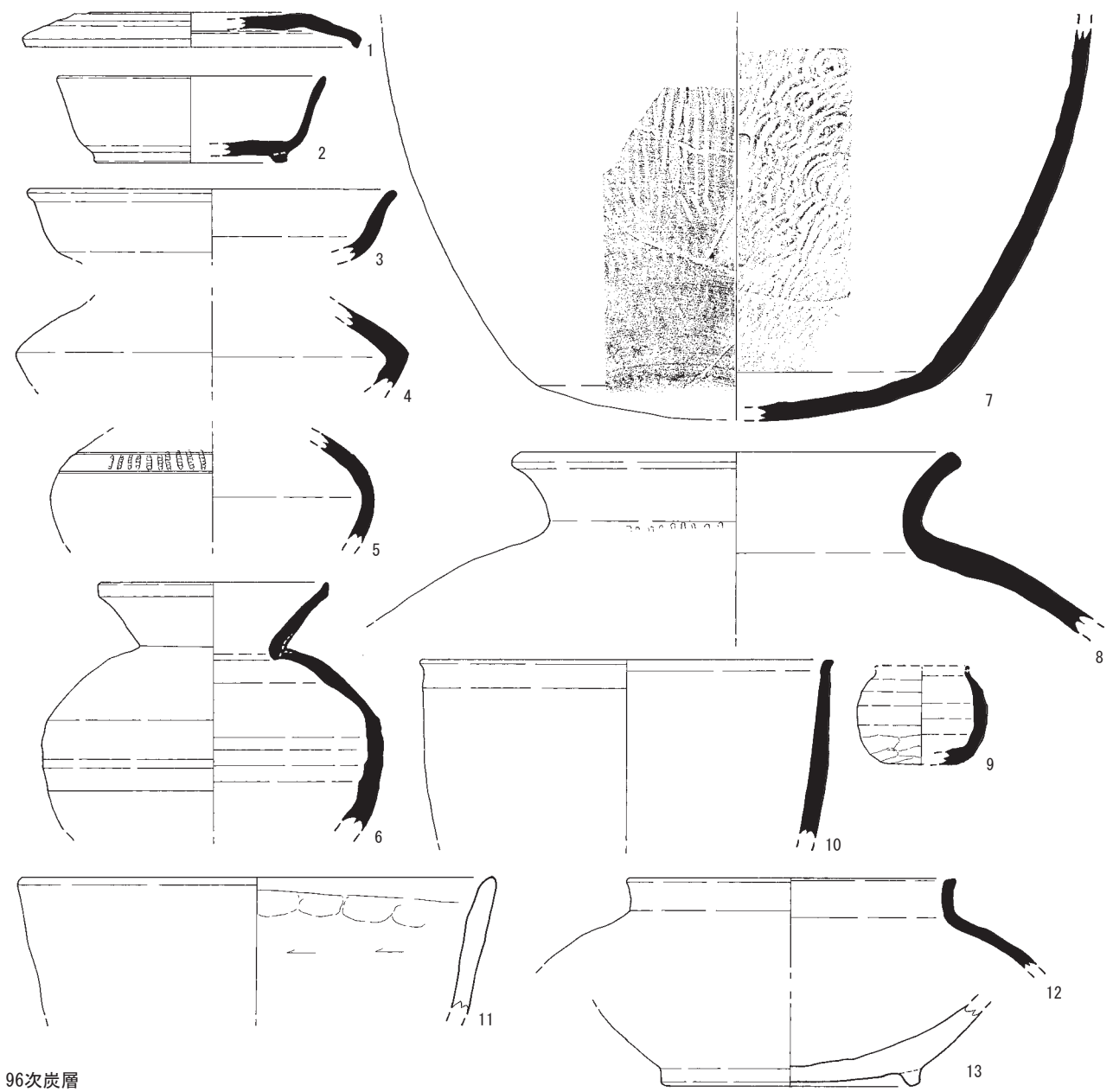
青磁水注

青磁皿(70) 龍泉窯系青磁の皿である。見込みに櫛状工具で草花文を描く。

褐釉陶器水注(71) 水注の頸部片であろうか。小片で傾き・径ともに自信がない。

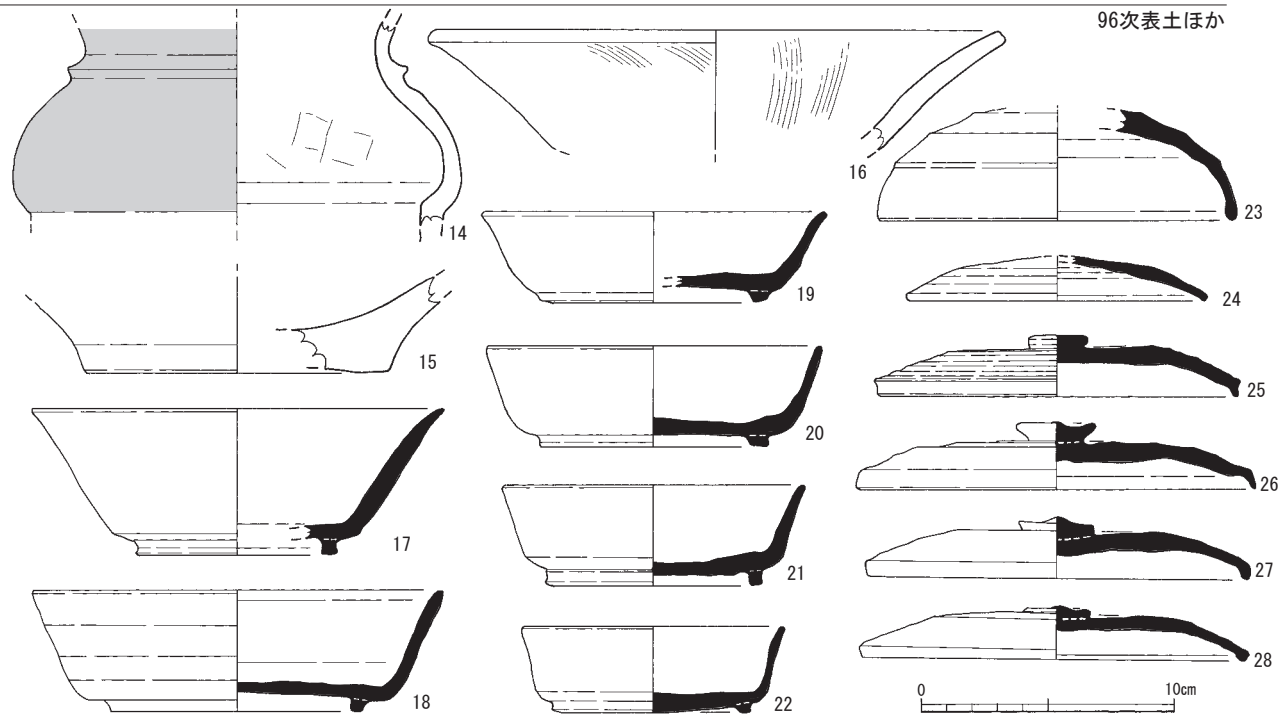
褐釉陶器

褐釉陶器壺(72) 四耳壺の耳(把手)部分であろうか。傾きには自信がない。



96次炭層

96次表土ほか



0 10cm

Fig.53 遺物包含層等出土土器実測図⑤ (1/3)

褐釉陶器甕(73) 甕の口縁部片であろう。口縁端部を肥厚させ、外側を上方に引き上げる特徴的な断面形態を示す。

96次炭層出土土器 (Fig.53, Tab.19)

96次調査出土遺物の中で、注記に「炭層」と記された一群である。出土した地点を細分地区番号から探すと調査区の南東部にあたる。当時の記録を見ると、その付近で「炭層」に該当しそうな記述として、SK2821の内部に「炭化物・焼土」という記載がある。但し、SK2821は深さ10cm程度とごく浅い土壌で、図に示したような大型の土器を大量に包含できるかどうか疑問が残る。本書ではこれらを、96次調査区の南東部で炭化物を含む包含層から出土した遺物群として報告し、この包含層がSK2821の埋土かどうかの判断は保留したい。

須恵器坏蓋(1) 天井部が平坦な坏蓋。口縁端部を下方に折り曲げる。天井部の中央を欠失し摘みの有無は不明。

須恵器坏身(2・3) 2は平底で高台を有する坏身。口縁部はわずかに外湾しながら伸びる。3は底部を欠失し高台がつくか不明。口径が大きい。口縁端部を外湾させる。

須恵器壺(4～6) いずれも小型の器種。4は肩が強く張って尖る。5は球胴ながらやや肩が張り、肩部外面に2本の沈線を刻んで内部を板状工具による刻み目で充填する。6は球胴で頸部が強く締まる壺。口縁部は直線的に開く。

須恵器甕(7・8) 7は平底気味で長胴の胴下半部のみ残る資料。8は肩が張り頸部が強く締まる上位が残る。

須恵器ミニチュア土器(9) 甕のミニチュア土器であろう。平底で胴が太く、口縁部はごくわずかに反転させる。

須恵器甕(10) 胴部上半が残る。口縁部は端部をわずかに外湾させる。

土師器甕(11) 胴部上半が残る。内面にケズリ痕跡が残る。

須恵器壺(12) 短頸壺の口縁部片。頸部は強く締まり口縁部はごく短く直立する。

土師器壺(13) 底部に高台を付す壺。球胴か。

96次表土ほか出土土器 (Fig.53～57, Tab.19, PL.26～28)

96次調査において出土した遺物のうち、表土を含む遺構面より上位の堆積層から出土したもの、また出土遺構等の記録が失われてしまったものなどを一括して報告する。資料の点数が多いため、原則として、同種の遺物が多量に出土している場合には全形を図示できるもののはかは多くを省略している。留意されたい。なお、出土量比では土師器の坏身や椀が最も多く、次いで須恵器の坏身や蓋が多い。陶磁器では、越州窯系青磁が最も多く、白磁もこれに近い量が出土している。龍泉窯系青磁はやや少なく、緑釉陶器が最も少ない。そのほか、褐釉陶器など分量が極端に少ないものは、図化できるものについてはすべて掲載した。

弥生土器壺(14・15) 14は瓢型壺。器表は摩耗が進んでいるが、外面に丹を塗布した痕跡が認められる。15は壺の底部片。これらはいずれも須玖Ⅱ式の範疇で理解できよう。

弥生土器高坏(16) 大きく開く口縁部のみが残存する。後期後葉頃の資料。

須恵器坏身(17～22) 平底で底部外面に高台を付す坏身。17は大型で、口縁部が緩やかに外に湾曲する。他は中～小型で、口縁部が直立あるいはわずかに内湾しながら立ち上がるものが多い。

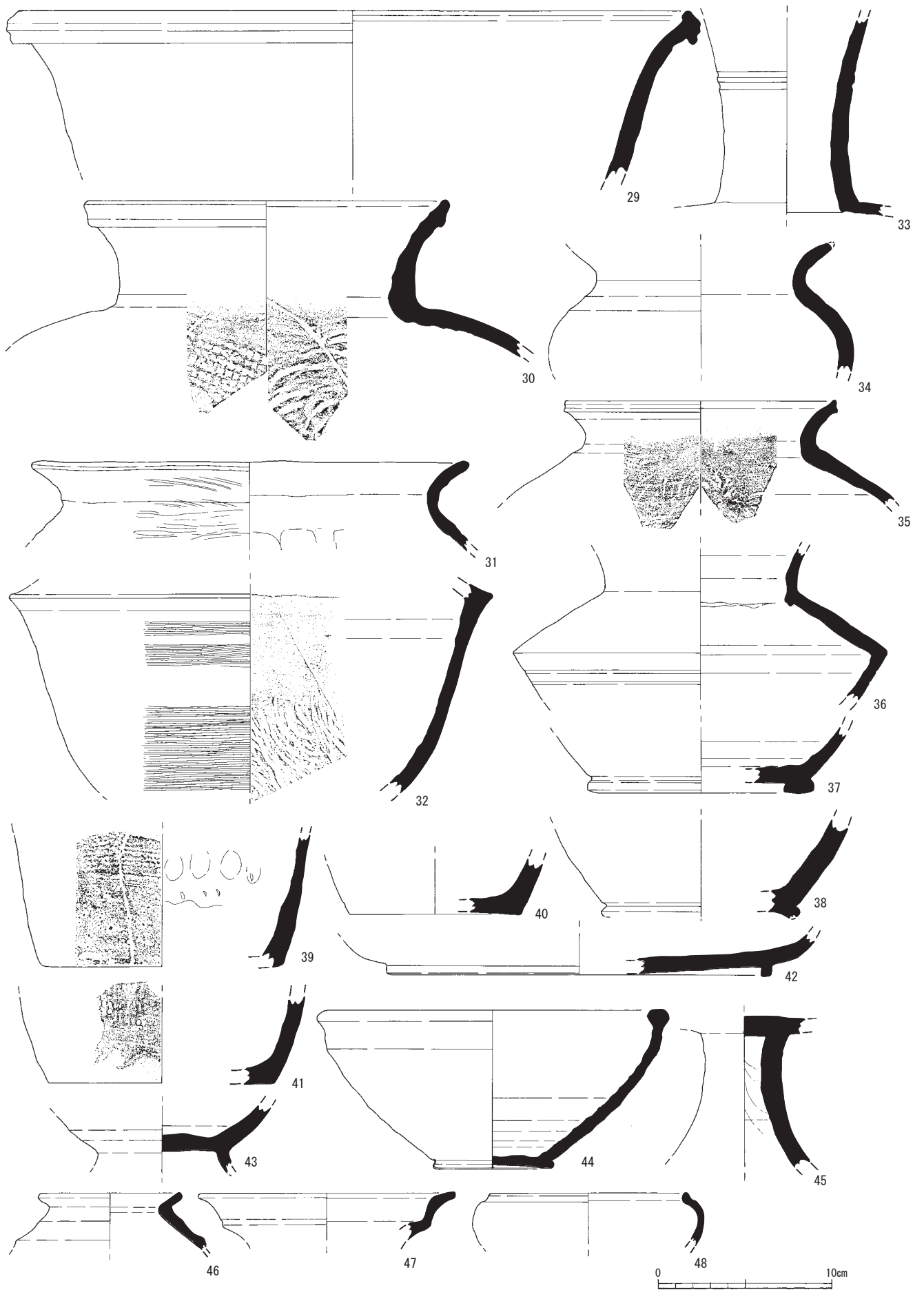


Fig.54 遺物包含層等出土土器実測図⑥ (1/3)

須恵器坏蓋(23～28) 23は半球形の坏蓋。口縁部より2cmほど上位の外面に段が認められる。6世紀代の資料。24は天井部から緩やかに湾曲しつつ開くもの。口縁端部を丸く収める。25～27は天井部にボタン状の摘みを付し、口縁端部を下方に鋭く折り曲げるもの。28は口縁端部を下方に突き出し嘴状に仕上げる。

須恵器甕(29・30) 29は大型の甕。口縁部のみが遺存する。口径は42.0cmをはかるものとして図化したがいややゆがみがあり誤差もあろう。30は中型の甕。肩部より上位が遺存する。頸部は強く締まり口縁部は外湾しながら開く。

須恵器壺(31～38) 31は頸部の締まりが弱い資料。32は肩部が強く屈曲するもの。33は長頸壺の頸部片。34・35は小型の壺または甕。球胴。36は胴部上位で鋭く屈曲する。37・38は平底で高台を持つ壺の底部片。39～41は平底で高台を持たない壺の底部片。

須恵器盤(42) 大きな平底と径の広い高台を持つ器形で、盤とした。

須恵器椀(43) 椀としたが、高台がやや長く伸び、全形は不明で自信はない。

須恵器鉢(44) 平底から緩やかに内湾しつつ開き、口縁部を玉縁にするもの。

須恵器高坏(45) 脚部上位と坏部底部が残る。坏底部は平坦で大きく開くものか。

須恵器小型壺(46～48) 46は頸部の締まりが緩く口縁部が短く開く。47は二重口縁壺の口縁部片。48は短頸あるいは無頸壺。

土師器坏蓋(49) 口縁内側にカエリを持つ坏蓋。カエリは退化してほとんど伸びない。

土師器坏身(50～62) 平底で、底・体部境が屈曲し、口縁部にかけて直線的に伸びながら開く坏身の一群。屈曲部がやや丸みを帯びるもの、口縁部がわずかに外湾するものなど形状にはやや幅がある。

土師器皿(63～66) 63は平底の器種の底部の周囲を円盤状に打ち欠いたもの。一応皿として報告しておく。底部外面に板状圧痕が認められることなどから、元の器種はおそらく高台を持たない坏身か。64～66は口径の小さな皿。

土師器脚付椀(67・68) 高台が長く伸び脚状を呈する器種。上位が失われており器形は不明だが暫定的に脚付椀としておく。

土師器椀(69～73) 底部に断面が「八」字状に開く高台を付す椀の一群。底部が平底のものや、底部から口縁部にかけて緩やかに湾曲しながら開くものなどがある。

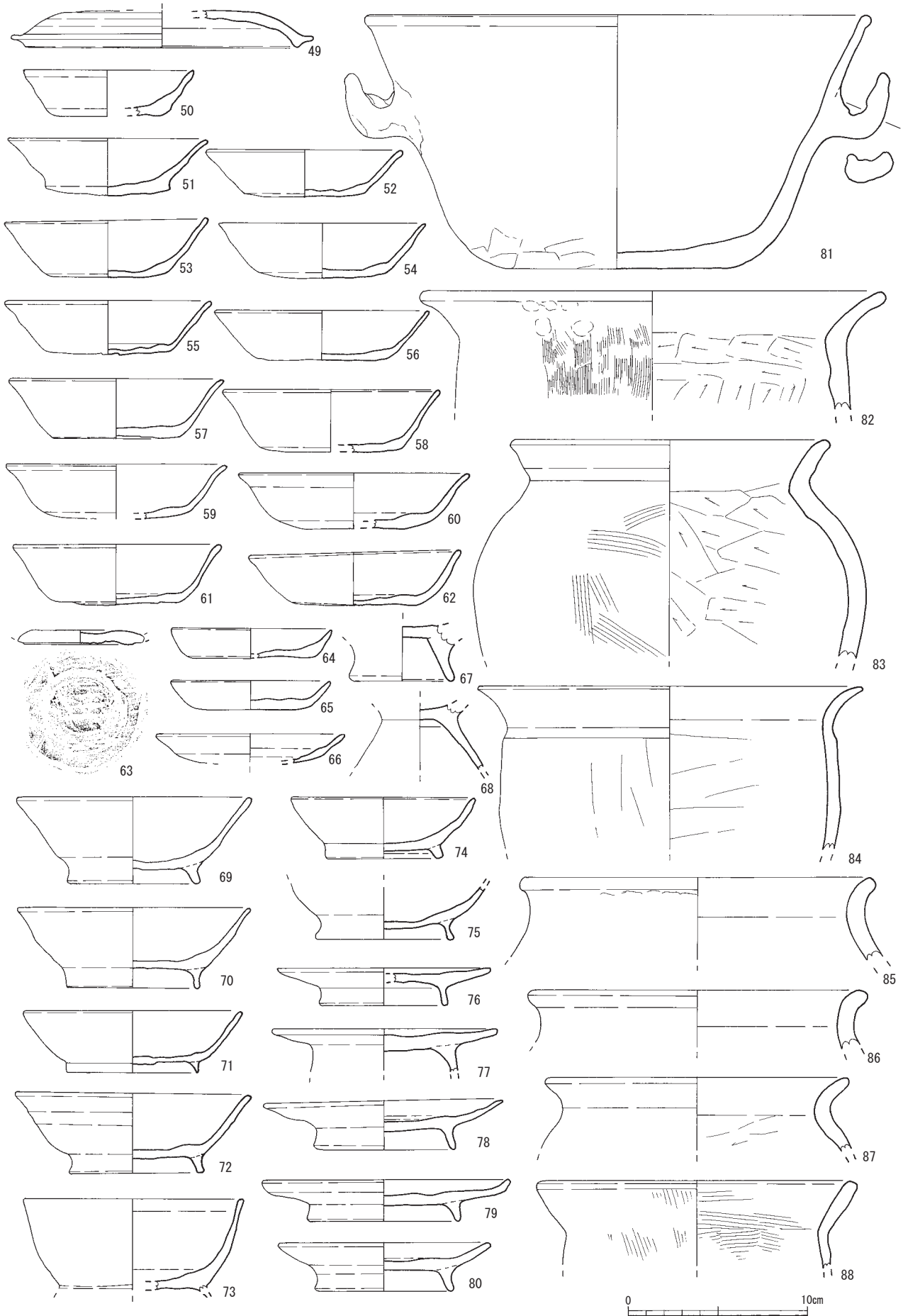
土師器高台付皿(76～80) 底部に断面が「八」字状に開く高台を付す皿の一群。ごくわずかに内湾しながら伸びて口縁部に至る形状を基本とし、79は口縁端部を上方に折り曲げる。

土師器把手付鉢(81) 平底から斜めに立ち上がり口縁部に至る器形を持つ鉢。把手は断面形状が平坦な特徴を持つ。

土師器甕(82～88) 83は頸部が強く締まり胴部が丸みを帯びたもの。85・87は口縁部から頸部にかけて強く湾曲し、胴部が長卵形になると思われるもの。他はバケツ状の器形となる。

土師器移動式カマド(89・90) 89は焚口の上部片。90は細片がまとまって出土しており同一個体の可能性が高いが、図化できる部位が少なく右側の脚部と焚口の右上位部を図化した。90は肩部の底に意図的な凹みを加工しており特徴的である。

土師器羽釜(91) 小片で全形は図示できないが羽釜と考えた。鏝の一部が注口状にくぼむ。



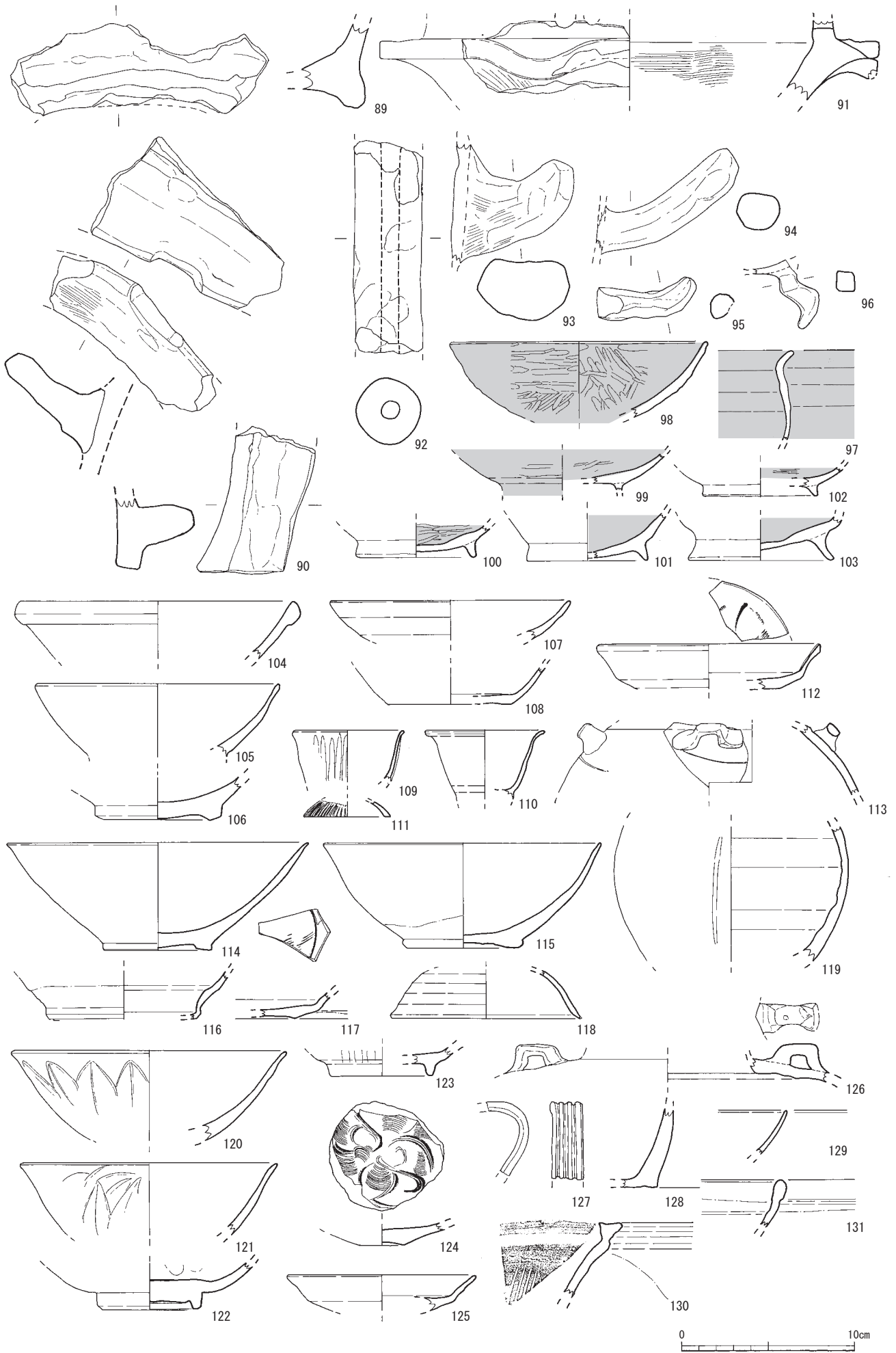


Fig.56 遺物包含層等出土土器実測図⑧ (1/3)

土師器高坏 (92) 高坏の脚部中位片。直線的に伸びる。

土師器把手 (93～95) 93は大型で太いもの。大きさには差があれ、同じような形状のものは他に数点あるが省略した。94・95は細長く伸びるもので例が少ない。

土師器脚 (96) おそらく三足鍋の脚とみられるが、脚部のみの資料であり確認はない。

黒色土器甕 (97) 内外両面にミガキ調整を施し、黒色に焼成した甕。小片で傾きには不安が残る。

黒色土器碗 (98～103) 98・99は内外両面を黒色に焼成したもの、ほかは内面のみ黒色に焼成したもの。黒色に焼成した部分の器壁はミガキ調整で整えている。

白磁碗 (104～106) 104は玉縁口縁、105は素口縁の資料。106は底部片。他に多くの出土例があるがおおよそ類似の器形であり省略した。

白磁皿 (107・108・112) 107は口縁部片。緩やかに内湾しながら開く。108は底部片。平底でわずかに上げ底状となる。112は底・体部境が屈曲する。高台を付すものか。本地区での出土例は他には少ない。

白磁杯 (109・110) 胴部～口縁部が残る資料。直線的に開き口縁端部を外湾させる。109は外面に片刃彫りで縦筋を刻む。

白磁蓋 (111) 口縁部が露胎であり蓋とした。ドーム状の器形で外面に縦筋状に凹凸を刻む精美なつくり。

白磁四耳壺 白磁壺 (113) 四耳壺の肩部分か。ごく小片で、傾きや径には自信がない。また釉が著しく劣化してほとんど残らない。

青磁碗 (114～116) 越州窯系青磁の碗。114・115と同型の資料は数多く出土した。116は体部に段を持つ珍しい器形で便宜的に碗としたが他の器種の可能性もある。

青磁皿 (117) 越州窯系青磁の皿。底部はわずかな上げ底で高台を付さない。

青磁蓋 (118) 口縁端部内側が露胎のため蓋と考えたが、蓋付の碗の可能性もあろう。

青磁壺 (119) 越州窯系青磁の壺胴部片。小片で、径、傾き、また上下にも不安が残る。

96次表土ほか

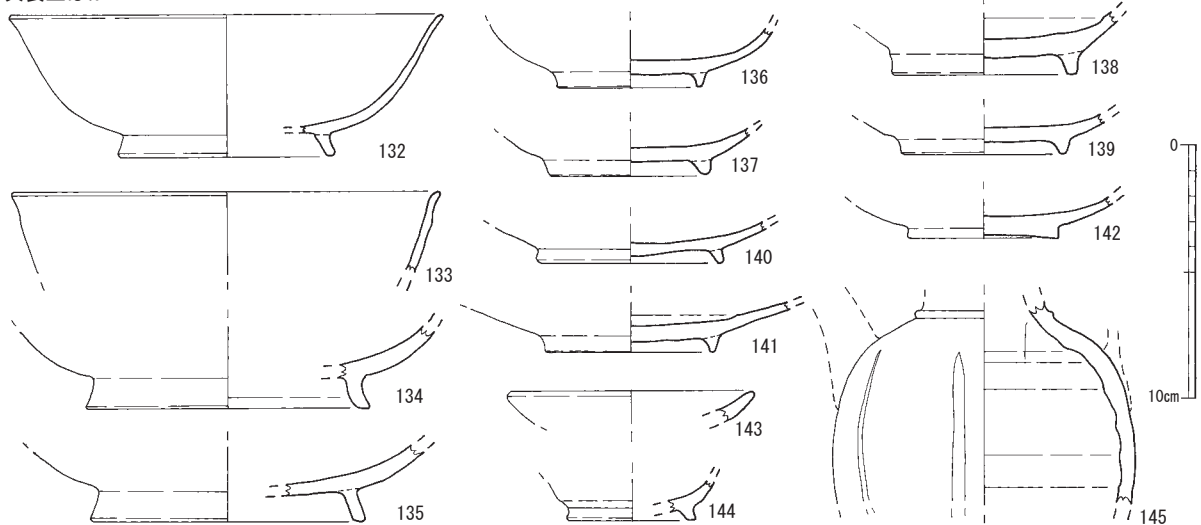


Fig.57 遺物包含層等出土土器実測図⑨ (1/3)

青磁碗（120～123） 龍泉窯系青磁の碗。底部片を中心として、ほかに多く出土した。

青磁皿（124・125） 124は底部のみ残る。上げ底状で、見込みに文様を刻む。125は口縁部から体部下位までが遺存する。

陶器壺（126） おそらく褐釉陶器で、四耳壺の耳（把手）部分である。小片で傾きや径などには不安が多い。 陶器四耳壺

陶器水注（127・128） 127は褐釉陶器の水注の把手部分とみたが不安も残る。4本の棒状部材を横に接合して丸く整形したような断面形状を持つ。128はやはり褐釉陶器の壺型土器の底部。小片で径は復元できない。四耳壺の可能性もある。 水注

陶器碗（129） 外面が茶色がかった黒色、内面は青を主体としたナマコ釉状の釉がかかった碗。鈞窯系の製品の可能性もあるが判断できない。 鈞窯か

陶器播鉢（130） 口縁部を断面三角形に成型する鉢。外面上位に茶色系統の釉がかかる。内面にはスリ目を刻む。

陶器鉢（131） 玉縁口縁の鉢。小片で径は復元できない。内・外面の上位、口縁部付近にのみ釉がかかる。

緑釉陶器碗（132～139） 高台を有し、体部が扁平な半球形を呈する碗。小片資料が多い。他にいくつか底部付近のみ図示できるものがあるが省略した。

緑釉陶器皿（140～143） 140・141は高台を有する皿。142は円盤状の高台を有する皿。143は小皿か。

緑釉陶器小碗（144） 小型の碗。全形は不明。

緑釉陶器水注（145） 胴部だけが遺存し、全形は不明だが水注と考えた。注口部分は接着痕跡を含め遺存しないが把手部分は接着痕が残る。 緑釉陶器水注

137次調査暗褐色土出土土器 (Fig.58, Tab.19)

概報において、調査区の南西部に整地層とみられる暗茶灰色ないし暗灰色土が広がるとされた（前冊掲載の土層図 (Fig.19-3) の観察よりこれを南東部の誤記ではないかとした）。本冊を作成中に、137次調査出土遺物の中に、出土位置が細分地区において調査区の南西部付近にあたる一群で、「暗褐色土」出土とされるものがあることに気が付いた。これが上述整地層を指すものである可能性があると考え、ここに示しておく。なお、前冊で「誤記」としたものは報告者の錯誤であること、前冊掲載土層図は調査区南面土層図であり図右側の方位記号は「N」ではなく「W」であることを付記し訂正しておく。

須恵器甕（1） 甕の口縁部片。斜めに広がるように開く。

須恵器坏身（2～4） いずれも坏身の口縁部片。底・胴部境はやや緩やかに湾曲し、口縁端部がわずかに外湾する。

土師器小皿（5） ごく小片で混入品であろうか。

157次表土ほか出土土器 (Fig.58, Tab.19, PL.28・29)

157次調査では、表土・耕作土の直下に黄褐色の遺物包含層が広がっており、これを掘り下げて遺構面に達している。この、表土から黄褐色土までの掘削の間に出土した遺物をまとめて報告する。

弥生土器甕（6） 須玖式土器の甕の口縁部片。いわゆる鋤先口縁で突帯を口縁下に2条付す。

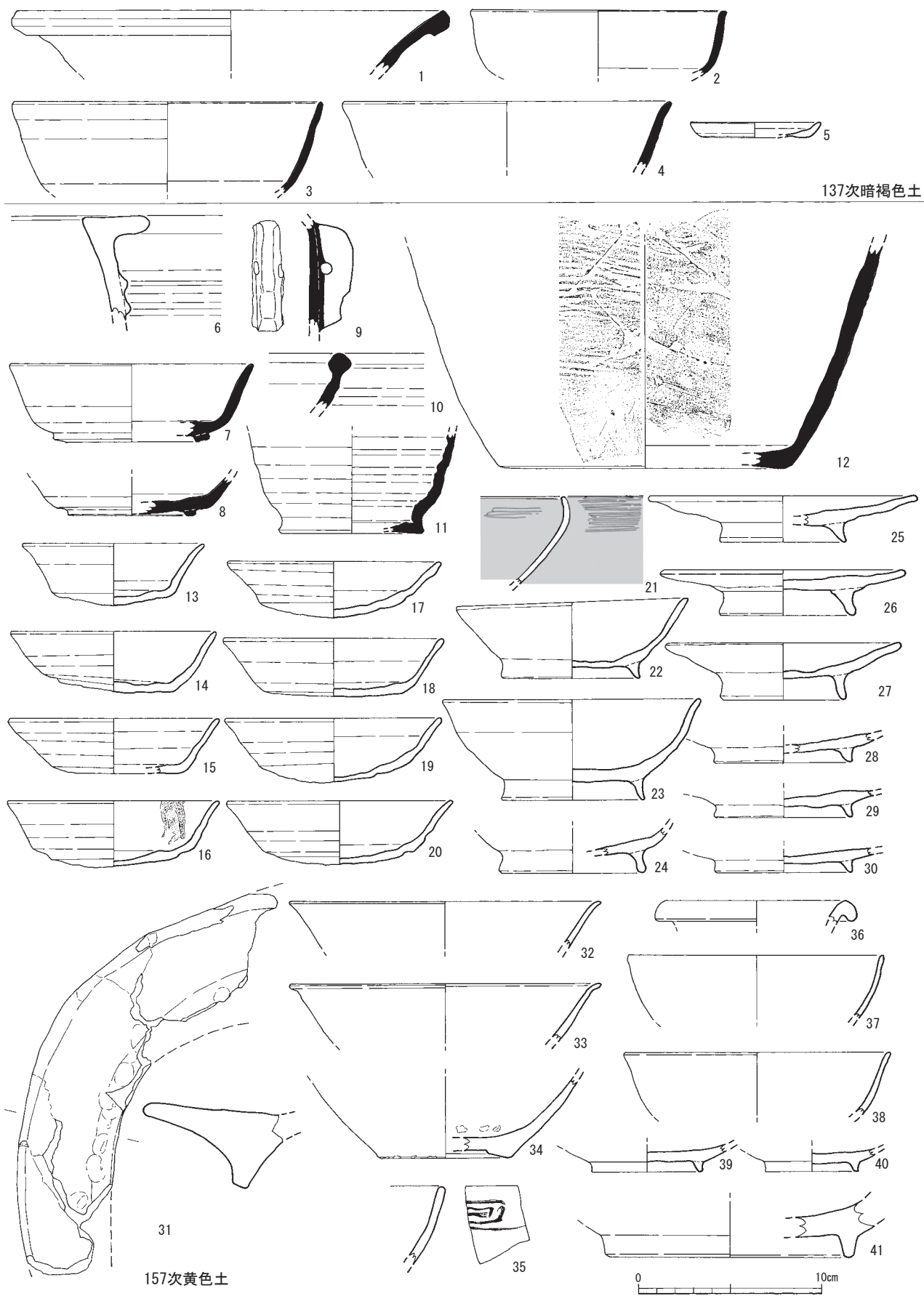


Fig.58 遺物包含層等出土土器実測図⑩ (1/3)

須恵器坏身(7・8) 平底で高台を付す坏身。高台はともに平坦で太い。

須恵器把手(9) 中央に1孔を穿つ把手。小片で傾きなどは不明。甕の肩部などにつくものか。

須恵器鉢(10) 玉縁の鉢の口縁部片。小片で詳細は不明。

須恵器壺(12) 12は大型の壺の底部片。平底で、肩が張る器形であろう。

灰釉陶器壺(11) 壺の底部片。細長い器形を持つものである。内・外面に水挽きの痕跡をよく残す。全体が露胎で釉は認められない。

土師器坏身(13～20) 平底で口縁部が開く器形を持つ坏身の一群。底・体部境が明瞭に屈曲するものと、緩やかに湾曲しながら底部から口縁部へと至るものがみられる。

黒色土器碗(21) 口縁部を強く内側に湾曲させる碗か。内・外面を横方向ミガキ後黒色に焼成しており、器壁に光沢を有する。

土師器碗(22～24) 21は半球状の器形を持つ碗。古墳時代後期のものか。内外面を平行ミガキで仕上げる。22～24は高台を付す碗。高台は断面形状が「八」字状に開く。

土師器高台付皿(25～30) 同じく断面形状が「八」字状に開く高台を持つ皿。

土師器移動式カマド(31) 焚口の左肩部付近の破片として図化した。

青磁碗(32～35) 32～34は越州窯系青磁の碗。口縁部にかけて直線的に開き端部をわずかに外湾させる。底部は低い高台を削り出す。内面に目土跡を残す。35は龍泉窯系青磁碗。小片で径は不明。

白磁壺(36) 口縁部片で全形は不明。端部を強く湾曲させ下方に折り曲げる。

緑釉陶器碗(37～40) 37・38は碗の口縁部片。39・40は碗または皿の底部片で高台を付す。41は高台を付す壺の底部片であろうか。

165次調査表土ほか出土土器 (Fig.59, Tab.19)

165次調査において、表土、水田床土、遺構面直上に堆積した遺物包含層である黄褐色土などから出土した遺物である。なお、調査区南東隅の狭い範囲に、SD4197溝を切るように浅い落ちが調査されているが、遺構としては図化されていないため報告していない。この落ちの中から出土した遺物も一括して報告している。

土師器碗または高台付皿(1～4) 底部に高台を有する碗または皿である。2は皿か。他は碗。4は高台がごく低い。

土師器坏身(5) 平底で高台を付さない坏身。底部の小片で全形は不明。

青磁壺(6) 越州窯系青磁の壺底部片としたが、小片で全形ほか詳細は不明。

青磁碗(7) 龍泉窯系青磁の碗。底部は平底に近く、底・体部境は強く湾曲する。

166次調査表土ほか出土土器

表土のほか「茶灰土」、「暗灰(粘)土」、「褐灰土」、「浅いくぼみ」と出土層位・位置が記された遺物を一括して報告する。概報には記述はないが、調査日誌によれば「茶灰土」は遺構面直上に堆積した遺物包含層とみられる。また「暗灰(粘)土」についても南北溝SD4215の検出時に25cm掘り下げていることから遺構面上に堆積した遺物包含層であろう。「褐灰土」・「浅いくぼみ」については、日誌・図面等のどこにも記載がなく不明。

須恵器坏蓋(8) 平坦な天井部からわずかに下がりつつ開く蓋。端部は丸く収める。

須恵器坏身(9～11) 9・10は底部に高台を付す坏身。ともに小片で全形は不明。11は

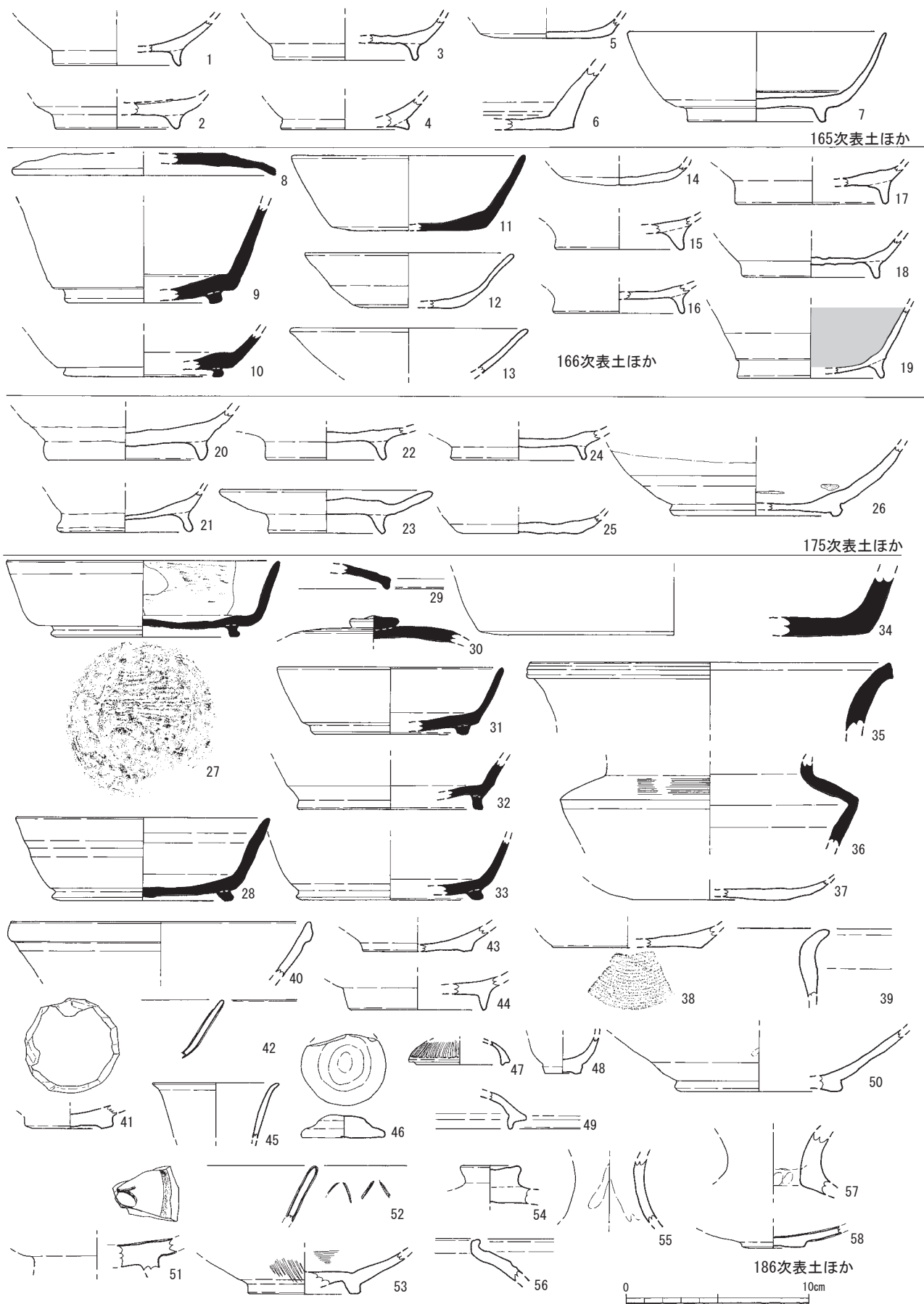


Fig.59 遺物包含層等出土土器実測図⑩ (1/3)

高台を持たない坏身。

土師器坏身(12～14) 平底で口縁部が直線的に開く坏身。13はやや内湾する。14は丸みを帯びる器形。

土師器碗または高台付皿(15～18) 断面が「八」字状に開く高台を持つ。15・16は皿の可能性が高いか。他は碗。

黒色土器碗(19) 断面が「八」字状に開く高台を持つ碗。器壁調整は摩耗により不明。内面を黒色に焼成する。

175次調査表土ほか出土土器 (Fig.59, Tab.19)

表土のほか、「暗灰」・「遺構検出時」と注記された遺物を一括して報告する。「暗灰」土に該当しそうなものは前冊に掲載した土層図 (Fig.20-2) を見るといくつか挙げられるが、比較的調査の早い段階で取り上げられており、表土のことを示す可能性が高い。「遺構検出時」とは、遺構面を露出させているときに出土したもので帰属遺構が不明なものを指すのであろうか。

土師器碗(20・21) 高く伸びつつ開く高台を持つ碗。大型のもの(20)と小型のもの(21)がある。

土師器高台付皿(22～24) 高く伸びつつ開く高台を持つ皿。23は全形を提示できる。

土師器坏身(25) 平底で斜めに開く口縁部を持つ坏身か。小片で全形は提示できない。

青磁碗(26) 越州窯系青磁の碗。高台は低くやや外に踏ん張る。内面に目土跡を残す。

186次調査表土ほか出土土器 (Fig.59, Tab.19, PL.29)

表土のほか、「遺構検出時」、「床土」、「黄褐色土上面」、「灰褐色土」、「褐色土」、「暗黄褐色土第1整地」と注記のある土器群を報告する。黄褐色土は遺構面上層に堆積した遺物包含層である。また暗黄褐色土第1整地については概報に、遺構検出面の上層に堆積した黄褐色土が一部整地されたように固くなっており、13世紀までの遺物を含むことが述べられており、これを指すものとみられる(実際出土遺物は概報においてもほかのものとともに包含層出土として一括で報告されている)。灰褐色土・褐色土については詳細不明である。

須恵器坏身(27・28・31・32) 平底で高台を付す坏身。小片資料は多量に出土したが図示できる範囲が多いもののみ掲載する。27は内面に横方向の短い墨痕が多く付着する。筆慣らしなどに用いたものか。底部外面の高台内側には板状圧痕が付着する。

須恵器坏蓋(29・30) 29は口縁部の小片で径が復元できない。口縁端部を下方に折り曲げる。30はボタン状の摘みを付す天井部付近の小片。

須恵器壺(34・36) 34は底部片。平底で高台を持たない。小片で全形は不明。36は肩が強く張るもの。

須恵器甕(35) 口縁部のみが残る資料。中型の甕か。

土師器皿(37・38) 37は口縁部が遺存せず全形は不明。坏身の可能性もある。38は平底の坏身または皿で底部外面に糸切り痕がよく残る。

土師器甕(39) 口縁部のみ的小片で詳細は不明。

白磁碗(40～44) 40は口縁部のみ資料。口縁端部を三角形状に肥厚させる。41は高台部を丸く打ち欠いたもの。42は小片で径を復元できない。43・44は底部片。43は高台がごく低い。44は高い。

白磁杯 (45・48) ともにごく小型器種。45 は口縁端部を外湾させる。48 は体部全体が丸みを帯びる。

白磁蓋 (46・47・49) 46 は円盤状を呈する小さな蓋状土製品。下面を除き釉がかかる。47 は精美なつくり。49 は口縁端部内側にカエリを持つ。

青磁碗 (50～53) 50 は越州窯系青磁碗の底部片。ごく低く外に張る高台を持つ。51～53 は龍泉窯系青磁碗。ともに文様を有する。

褐釉陶器 陶器 (54～56) 54 は蓋の摘み部か。茶褐色～黒色の釉が全体に厚くかかる。55 は瓶の頸部片か。56 は壺型土器の口縁部片。いずれも褐釉陶器であろう。

灰釉陶器壺 灰釉陶器壺 (57) 壺の頸部片。非常に強く締まり、口縁部に向けて湾曲しながら開く。

緑釉陶器皿 (58) 底部高台部が円盤状を呈する皿。

193次調査表土ほか出土土器 (Fig.60, Tab.19)

表土のほか、「黒色砂」、「暗(灰)色粘質土」、「南壁15層」の注記のある土器を一括して報告する。「黒色砂」はおそらく概報に掲載された土層図中の14層のことであろう。上層からの攪乱とみられる。「暗(灰)色粘質土」の表記に合致する土質は同じく10層・22層・31層・36層があるが、36層は地山であり除外される。残る3つについてどれかということになるが、出土した日付が調査着手日であることを考えると10層の耕作土が最も可能性が高いものとして挙げられよう。「南壁15層」は旧水田床土を指す。

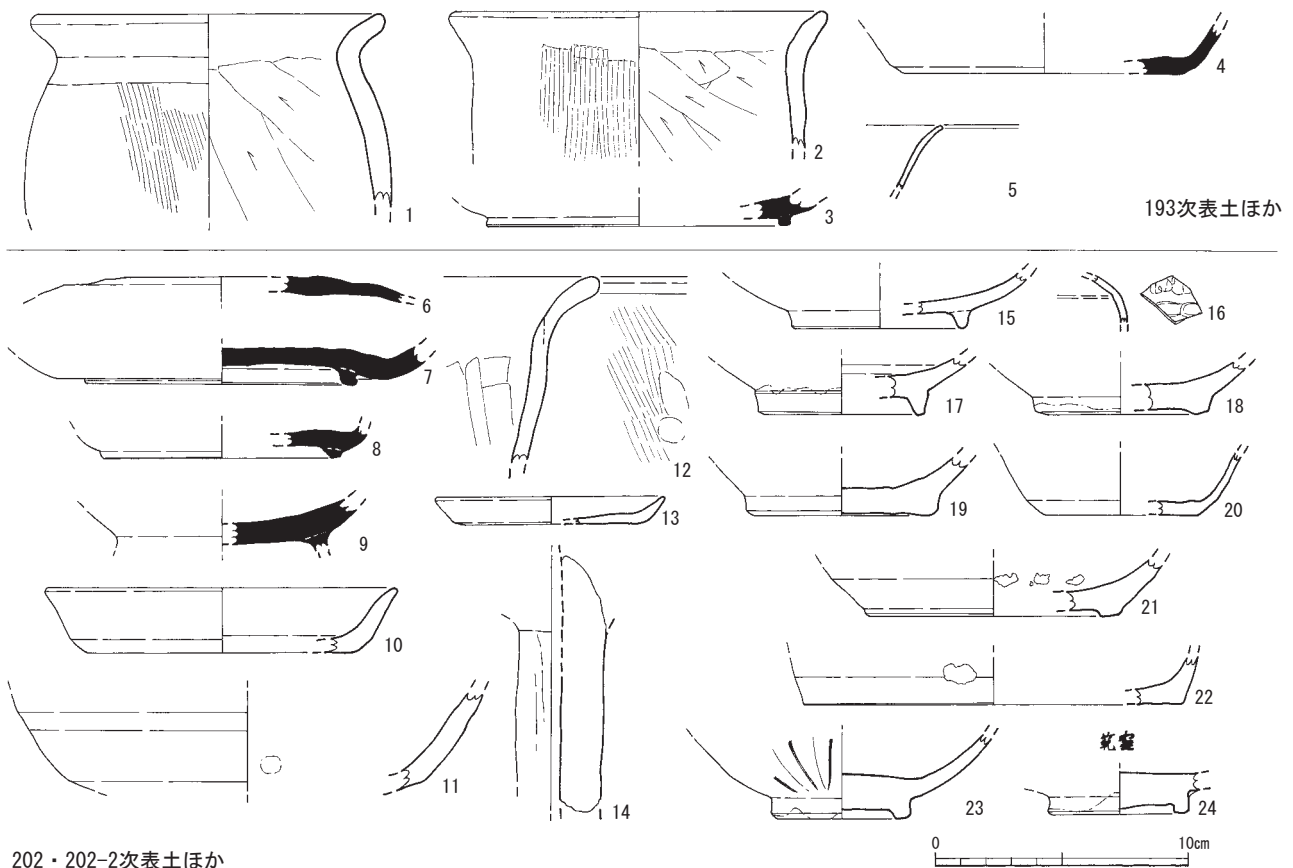


Fig.60 遺物包含層等出土土器実測図⑫ (1/3)

土師器甕（1・2）ともに中型の甕。1はやや頸部のくびれが強く胴部がふくらむ。2はバケツ状の器形を持つもの。

須恵器盤（3）平底で高台を持つ器種。高台径が大きく、盤とした。

須恵器坏身（4）平底で高台を持たない坏身。小片で径にはやや疑問が残る。

白磁椀（5）口縁部片で径は復元できない。

202次調査表土ほか出土土器（Fig.60, Tab.19）

202次調査では明確な遺構は検出されなかった。よって、トレンチ内から出土した土器をここでまとめて報告する。

須恵器蓋（6）天井部と口縁部を欠失するが蓋として図化した。

須恵器盤（7）平底で高台を持つ。底部が広く高台径は底部に比べて小さい。

須恵器坏身（8）平底で高台を持つ坏身の底部片。小片で径は自信がない。

須恵器壺（9）高台を持つ壺の底部片であろう。器壁が分厚い。底部はやや丸みを帯びる。

土師器坏身（10）平底で短く立ち上がる口縁部を持つ坏身。高台は付さない。

土師器鉢（11）やや丸みを帯びた底部を持つ器種。器壁が厚く大型品とみられることから鉢とした。

土師器甕（12）小片で口径が復元できないがおそらく中型品であろう。頸部のくびれがほとんどなくバケツ状の器形を持つ。

土師器皿（13）小型の皿。平底で、口縁部の立ち上がりはごく短い。

土師器高坏（14）高坏の脚部片である。まっすぐに伸びる。

瓦質土器椀（15）灰色の胎土で硬質の土器。丸みを帯びた底部に高台を付す。

青白磁蓋（16）内・外面に青白色の釉がかかり、草花状の浮文を施す。ごく小型で合子の蓋か。

白磁碗（17～19）いずれも底部片。高台が高い17、低い18、高台内側がほとんど掘り込まれない19と形態に差がある。

白磁皿（20）平底でわずかに上げ底状となるか。口縁部は欠失し全形は不明。

青磁碗（21）越州窯系青磁碗の底部片。大型の資料か。内面と高台下面に目土跡が残る。

青磁壺（22）越州窯系青磁の壺で底部片。高台は付さず平底状をなす。外面に目土跡が認められる。

青磁碗（23・24）ともに龍泉窯系青磁の碗。23は外面に鎬蓮弁が刻まれる。24は見込みに「範」「濱」の落款が押され「河濱遺範」のうちの2文字であろう。

河濱遺範

(3) 木製品 (Fig.61・62, 写真1, Tab.20, PL.30)

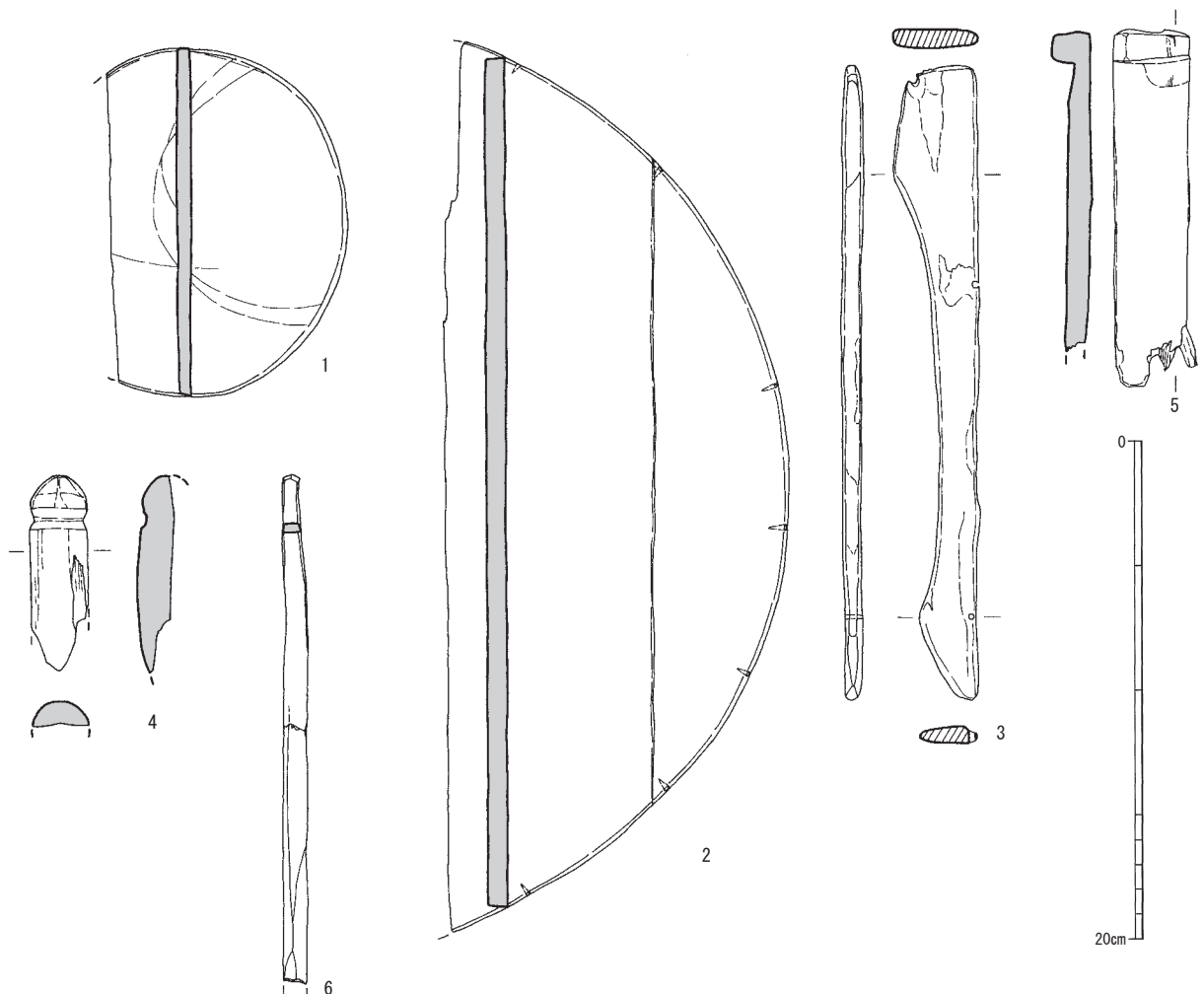
各調査区から出土した木製品を一括して報告する。

①容器

曲物(1・2) 1は側面に目釘孔がないことから、蓋としての用途が考えられる。法量は径15cm, 厚さ0.6cm, 平面形は正円に近い。表裏は工具で平滑に加工し, 側面は角を面取りしている。裏面には木取りの際の下書きの墨線と考えられる弧線が残る。2は1/2程度残存する底板で, 復元径38cm程度, 厚さ0.8cm, 平面形はほぼ正円に近いものである。側面には側板を取り付けるための目釘孔が木目を避けた位置で7ヶ所残されている。1・2はいずれも96次SE2845の中層から出土した。

②農工具

鎌柄(3) 3は鉄鎌の柄である。背部は直線的であるが, 把手部分は内湾して握りやすくしており, 柄の下端部は三角形に仕上げる。鉄鎌との接合部は厚さを若干減しながら方形に仕上げしており, 先端部の円形の切り込みは鎌を固定するための紐通し孔の痕跡の可能性がある。背部にも径2mmほどの孔が2ヶ所あるが, 端部に近い位置であり, 上方の孔が一部欠けているため, 紐通し孔として機能したかどうかは疑問がある。全体的に表面の残りが悪く, 加工痕や



鎌の装着痕は確認できない。法量は長さ 25.5cm，幅 3.4cm，厚さ 0.8mmを測る。96 次 SE2845 床面から出土した。

柄 (4) 身は丸く仕上げ，先端は工具による切り込みを入れ，頭は宝珠形に成形したものである。裏の割れ口中央に径 0.6cm程度の縦方向の孔が貫通していたと考えられることから，概報（『昭和 60 年概報』 P53）では工具の柄の可能性が指摘されている。しかし形状から考えれば陽物形の祭祀具となる可能性もあろう。残存長 7.8cm，幅 2.3cmを測る。96 次 SE2845 の中 陽物形か

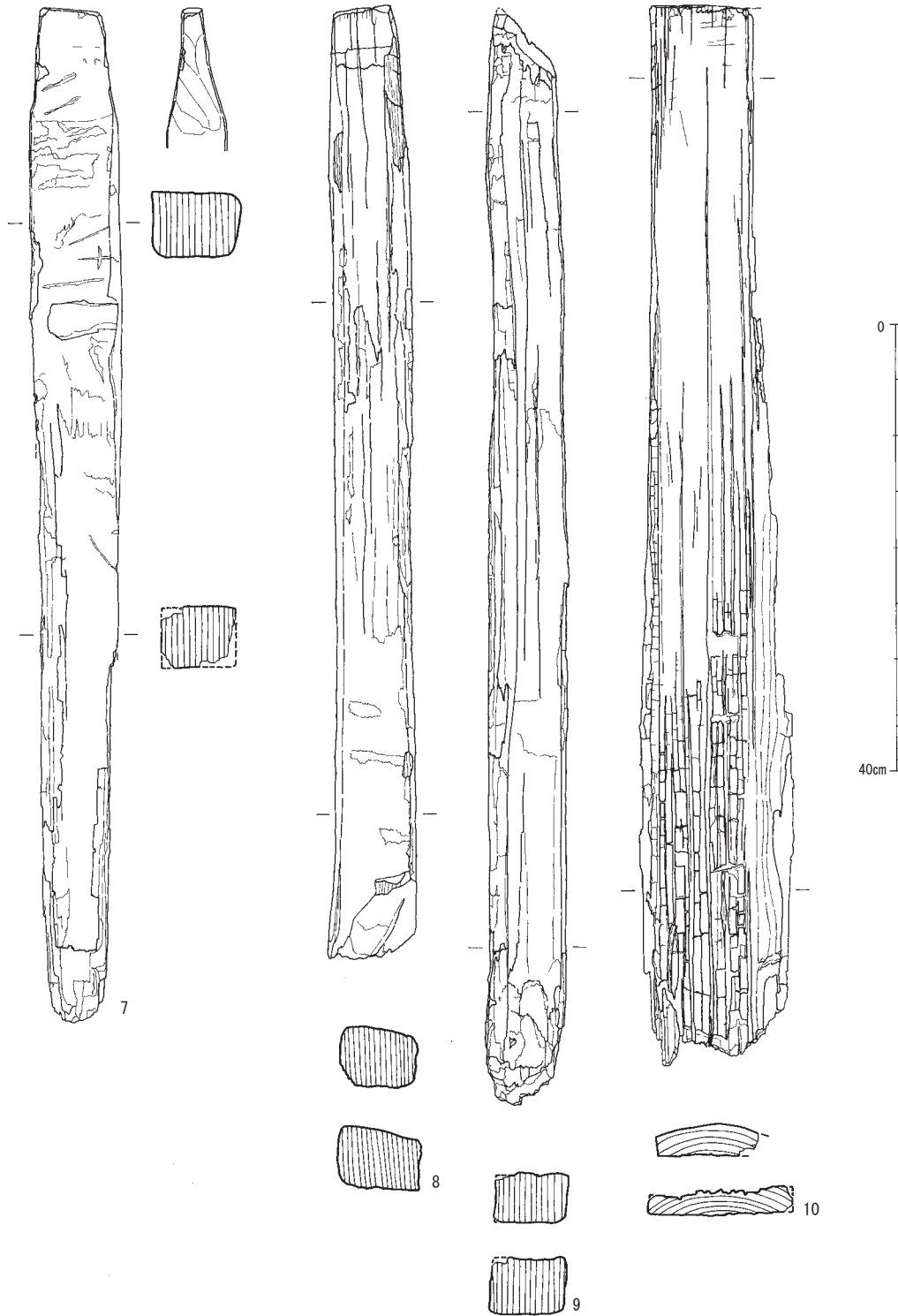


Fig.62 出土木製品実測図② (1/6)

層より出土した。

不明工具（5） 幅3cmの長方形の板の一端に突起と浅い切れ込みを入れたもので、工具の柄の可能性ある。残存長14.5cm。96次SE2845の中層より出土した。

③祭祀具

斎串状木製品（6） 上半分は断面方形の細長い棒状の一面を面取して台形状に仕上げ、下半分はもう一面も面取して断面三角形に仕上げる。先端は工具により加工している。下部を欠いており全形は提示できず、本来の長さも不明。残存長20.5cmを測る。96次SE2845の中層より出土した。

④部材

部材（7～10） 7～10は、96次SE2845の中層より出土した、何らかの部材と考えられる遺物である。いずれも自然乾燥のため、表面の凹凸が顕著で、ヒビ割れや歪みも認められる。SB2845の底面には井戸側が一段残存し、その上面には縦板の一部と出柄を持つ横棧が検出されているが、報告する4点には柄はないこと、また井戸中層という出土層位の注記から、井戸を埋め戻す際に井戸内に廃棄した部材の可能性が高い。7・8は幅9cm程度、厚さ6cm程度の角材の上端部の両面を削り、細く加工していることから、建築部材を杭に転用したものと考えられる。幅・厚さもほぼ同じことから、元々は一つの建築部材であった可能性もある。7の下端部は割れ口のままであるが、8の下端部は工具により斜めに削り取っている。残存長は、7が91.2cm、8は85.6cmを測る。いずれも針葉樹（スギ）か。9は上端部の片側のみ削り細くしたもので、7・8と同じく建築部材の角材を杭に転用した可能性がある。幅7.1cm、厚さ5.1cmと7・8に比べ若干サイズが小さい。残存長は99cmを測る。下端部は割れ口のままで、上半部は乾燥により湾曲する。針葉樹（スギ）か。10は板材で、再加工の痕跡は確認できない。下半部は乾燥により上方にめくれ上がり、全体的に丸く湾曲し、表面はヒビ割れが顕著である。上端部は平坦に加工し、側面は下半部のみ残存する。残存長95.1cm、幅13.9cm、厚さ2.3cmを測る。

⑤その他

96次SE2845の中層からは、奢侈品類である横櫛1点及び、墨痕が認められるものの文字の判読ができなかった木簡2点が出土した。ただし、いずれも今回現物を確認できなかったことから、横櫛については概報（『昭和60年概報』図版39-A）の写真と文章をそのまま掲載する。木簡については概報において詳細が掲載されていないことから、出土の記述に留める。

横櫛（写真1） 両面から交互に挽き出した横櫛である。棟の上縁は水平だが、肩部は湾曲する。棟の断面はアーチ形に丸く整える。歯の付け根は両面から斜めに挽き出すため、山形となる。高さは3.9cm、棟幅1cm、挽き通し線からの歯長3.2cm、歯数は2cmあたり22本、つけ材。



写真1 横櫛

(4) 金属製品

各調査区から出土した金属製品を一括して報告する。

①鉄製品 (Fig.63, Tab.21, PL.31)

板状鉄製品 (1) 下縁が片刃状の刃部様で、左端が切先状に尖る。ただし、下縁は断面蒲鉾状の丸味があり、鋭角ではないことから、利器の刃部とは考え難い。右端に径7mmの円孔が、上面側から穿たれている。器種は不明である。長さ8.1cm以上、最大幅3.2cm、重さ45.4gを測る。96次の床土出土。

棒状鉄製品 (2) 両端が欠損しているが、長さ18.7cm以上、最大径1.0cm、重さ48.2gを測る。全面が面取り状の凹凸になっており、銹化による剥離の可能性もあるが、意図的な加飾である可能性も否定できない。175次遺構検出時の出土。

鉄釘(3~6) 3~6はいずれも鉄釘であろう。3は頭部が少し厚くなる方柱状で、長さ7.15cm、頭部は一辺0.55cm程度、重さ5.8gを測る。96次灰褐色土出土。4はわずかに頭部が膨らむ。断面は長方形で、長さ3.2cm、重さ2.8gを測る。186次の床土(褐色土)出土。5は明確な頭部を持つ。長さ3.9cm以上で、断面は一辺4mmの方形を呈し、重さ2.5gを測る。175次S-166出土。6は頭部を失う。断面は一辺5mmの方形を呈し、長さ2.5cm以上である。96次の床土(灰

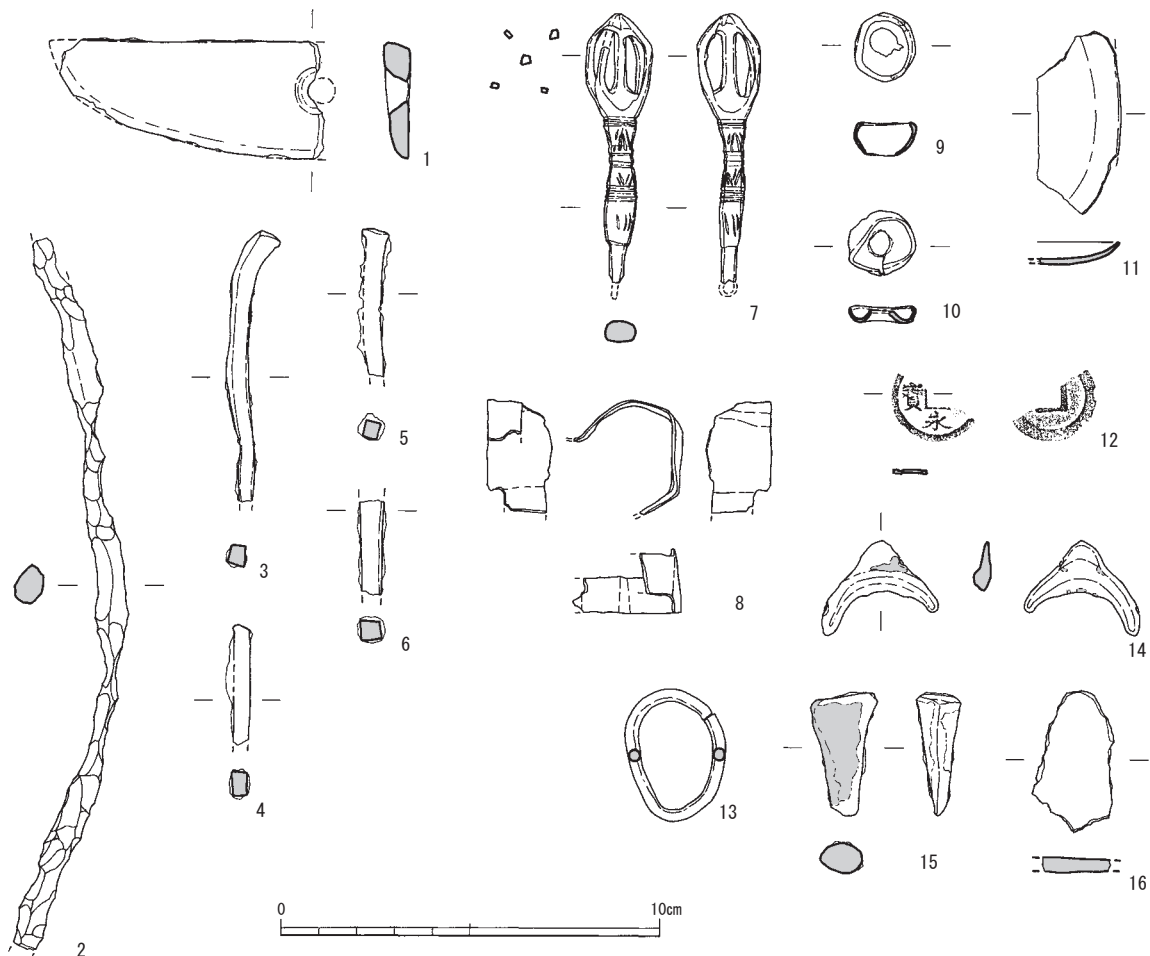


Fig.63 出土金属製品実測図 (1/2)

褐土) 出土。

②銅製品 (Fig.63, Tab.21, PL.31)

五鈷鈴 (7) 五鈷部は中鈷と脇鈷が繋がっており、鑄造後に粗く削って整えている。杷部は凹線によって文様帯が区切られ、各文様帯には退化した蓮弁文を施している。杷部より下側は一回り細くなり、下端は二又に分かれている。こうした特徴から、本資料は五鈷鈴とみられる。鈴杵別鑄で、杵の杷部より下の細くなった部分を鈴身に差し込み、下端は本来円環状になり舌を下げる形態となるものであろう。長さ 7.1cm 以上、重さ 18.5g を測る。96 次の耕作土中から出土した。

装具 (8) 破片資料ながら、断面形から六角形を呈していたと考えられる。小刀などの装具か。96 次の床土出土。

煙管 (9・10) いずれも煙管の火皿で、雁首から分離している。口縁部は内湾し、最大径はともに 1.8cm である。10 は上下に潰れているが、9 は高さ 0.9cm である。重さは 9 が 1.8g、10 が 1.5g を測る。9 は 95 次の床土出土、10 は 96 次の灰褐土出土。

銅皿 (11) 口径は不明であるが、器高 6mm を測る浅皿状を呈する。底部の厚みは 2mm、口縁部の厚みは 1mm である。重さ 7.0g を測る。96 次の灰褐土出土。

銅銭 (12) 表面の「□永□寶」の文字から寛永通宝とみられ、背面は無文である。96 次床土出土。

銅環 (13) 楕円形を呈する環状製品で、径 3.5mm の銅線を曲げて環状にしたものである。長径 3.5cm、短径 2.7cm、重さ 7.0g を測る。96 次の耕作土出土。

不明銅製品 (14) 三日月状を呈した弧状部の上に鱗状の突起を有するもので、鑄造による合わせ目を思わせる稜が巡っており、鑄銅製品か。重さ 5.7g。186 次の土坑 SK4547 出土。

脚状銅製品 (15) 全体は楔状を呈するが、上面がわずかに曲線を描いており、容器の脚の可能性もある。断面は凸レンズ状を呈し、両側面は稜をなす。長さ 3.3cm、重さ 16.4g を測る。186 次の黄褐色土上面出土。

板状銅製品 (16) 厚さ 4mm の板状を呈し、周囲は全て破面で本来の形状は不明である。長軸 3.7cm、短軸 2.1cm、重さ 5.4g を測る。166 次の土坑 SK4205 出土。

(5) 石器・石製品

各調査区から出土した石器・石製品を一括して報告する。

①石器 (Fig64・65, Tab.22, PL.32)

打製石鏃(1～10) 1は29次調査Cトレンチ出土の凹基式石鏃である。重さ0.7gをはかる。腰岳産黒曜石製。抉りがやや浅く、脚部も短いつくりである。2は193次調査黄灰色土(包含層)出土の凹基式石鏃である。重さ0.6gをはかる。腰岳産黒曜石製。脚部の側縁側に屈曲点を持つ。3は166次SD4215出土の凹基式石鏃である。重さ0.8gをはかる。安山岩製。風化がかなり進行している。4は186次調査のpit内出土の凹基式石鏃である。重さ0.9gをはかる。腰岳産黒曜石製。表裏共に剥離面が残る粗い押圧剥離によって製作されている。5は186次調査黄褐色土(遺構面上層の包含層か)中出土の凹基式石鏃である。重さ1.1gをはかる。針尾産黒曜石製。6は96次SX2837出土の凹基式石鏃である。重さ1.3gをはかる。腰岳産黒曜石製。表面右方向から左斜め下にかけて大きく押圧剥離される。7は175次調査出土(出土遺構不明)の凹基式石鏃である。重さ2.6gをはかる。腰岳産黒曜石製。右脚部には自然面が大きく残る。8は137次SK3948出土の微凹基式石鏃である。重さ1.8gをはかる。安山岩製。抉りの浅さからみて縄文後期以降の所産か。9は175次SX4337出土の凹基式石鏃である。重さ1.6gをはかる。安山岩製。風化がかなり進行している。10は95次SD2760上層出土の凹基式石鏃である。重さ1.4gをはかる。腰岳産黒曜石製。いわゆる鍬形鏃である。いずれも弥生時代以前の資料で古代の遺構等への混入品である。

ブランク(11) 11は175次SB4340出土。重さ5g。腰岳産黒曜石製。風化がかなり進行する。側面と腹面に連続的な剥離が入るためブランクとしたが、二次加工剥片の可能性もある。

楔形石器(12) 12は175次表採品。重さ1gをはかる。腰岳産黒曜石製。先端部と末端部に微細な剥離が観察される。

二次加工剥片(13～21) 13は175次調査出土で、出土遺構は不明。重さ2.2gをはかる。腰岳産黒曜石製。14は175次SD4345出土。重さ1.5gをはかる。安山岩製。風化がかなり進行している。15は175次調査のピット内出土。重さ4.3gをはかる。安山岩製。風化がかなり進行している。左側縁から右方向に向かう大きな押圧剥離が特徴的である。16は175次調査の遺構検出時出土。重さ6.3gをはかる。腰岳産黒曜石製。側縁部に細かな剥離が施される。19は193次SX4617灰色砂出土。重さ6.3gをはかる。腰岳産黒曜石製だが、石英・長石類の白色斑晶が多く含まれる。20は193次SX4617黒色砂質土上部出土。重さ23.9gをはかる。姫島産黒曜石製。表裏共に剥離面を大きく残す。21は96次出土。重さ33.8gをはかる。安山岩製。両側縁に押圧剥離や微細剥離の痕跡が観察されるため、サイドスクレイパーである可能性もある。

石匙(17・18) 17は175次調査の自然流路上面と注記され、SD4345の検出時の出土か。重さ14.2gをはかる。安山岩製。表裏共に丁寧な押圧剥離によって製作されている。18は96次灰褐色土出土。重さ32.9gをはかる。安山岩製。摘み部は作り出されるものの、表裏共に剥離面を大きく残す。

彫器(22) 22は175次調査の遺構検出時出土。彫器であろう。重さ6.7gをはかる。腰岳

産黒曜石製。先端部の左側縁に細かい切子状剥離が観察される。また側縁には微細な剥離痕が残る。

②石製品 (Fig65, Tab.22, PL.32)

勾玉 (23) 96次SB2825出土。重さ3.3gをはかる。滑石製。丁寧な削り出しによって製作される。

砥石 (24・25) 24は175次SD4345出土の砥石片。重さ61.5gをはかる。砂岩製。砥面はやや粗い。25は29次出土。重さ154.9gをはかる。砂岩製。表面中央部がやや凹んでおり、側面は研磨されたようにつるつるしているため砥石と判断した。

不明石製品 (26) 26は157次SK4119出土の不明滑石製品。底部中央に穿孔されており、

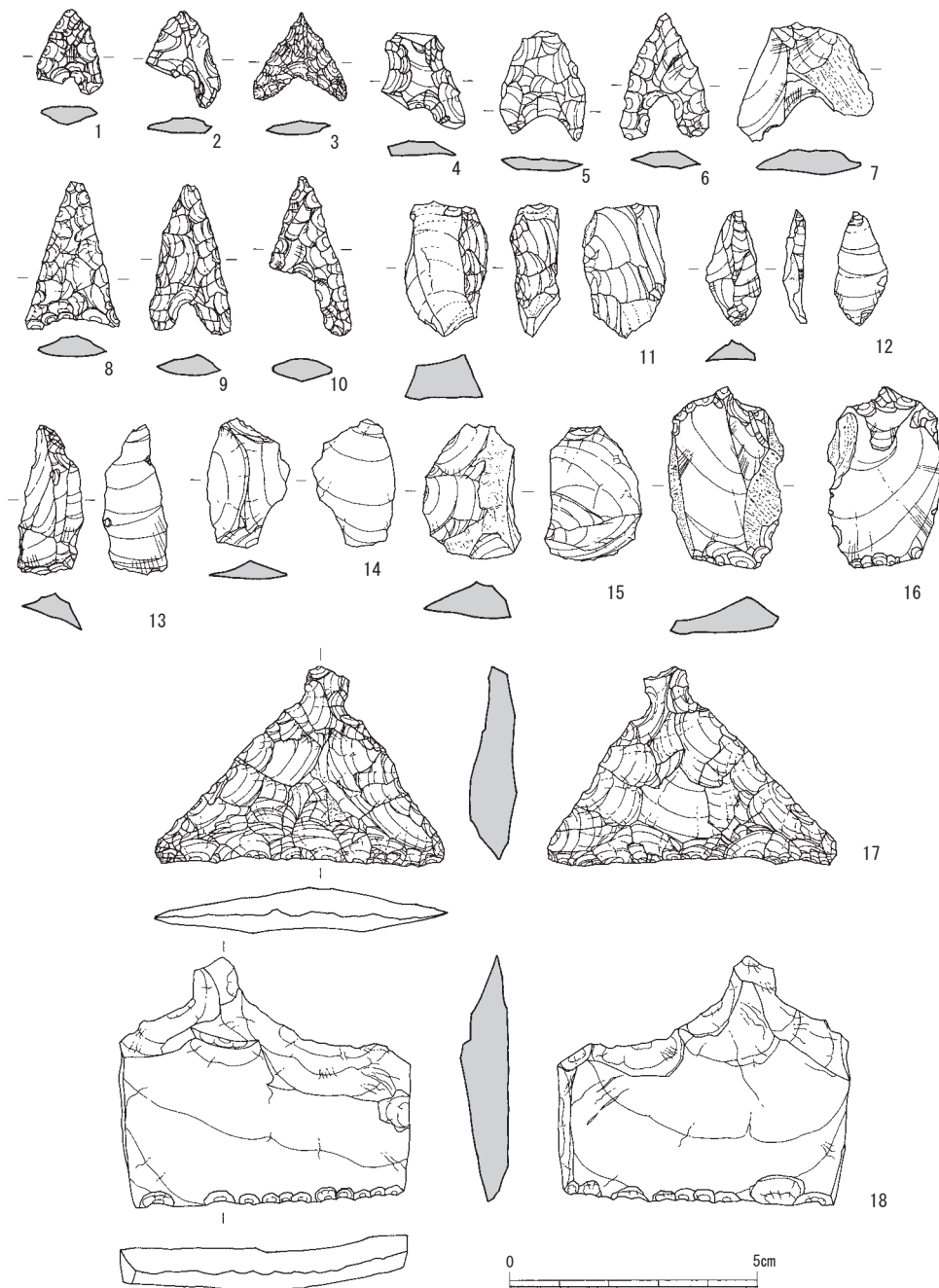


Fig.64 出土石器実測図 (2/3)

外面には短冊状に削り出された痕跡が残る。石鍋を転用したものだろうか。

紡錘車 (27) 27は96次灰褐土出土。重さ23.5gをはかる。緑色片岩製。磨れたためか、周縁部はやや丸みを帯びている。

石鍋 (28) 28は175次SX4347出土の滑石製石鍋片である。器高9.1cm、口径17.8cmをはかる。内外面共に縦横位の短冊状の削り出しによって調整されている。体部上位が最も張り、そこに鏝が作り出される。口縁は薄くやや直立気味に立ち上がる。また、外面の一部にはススが付着する。

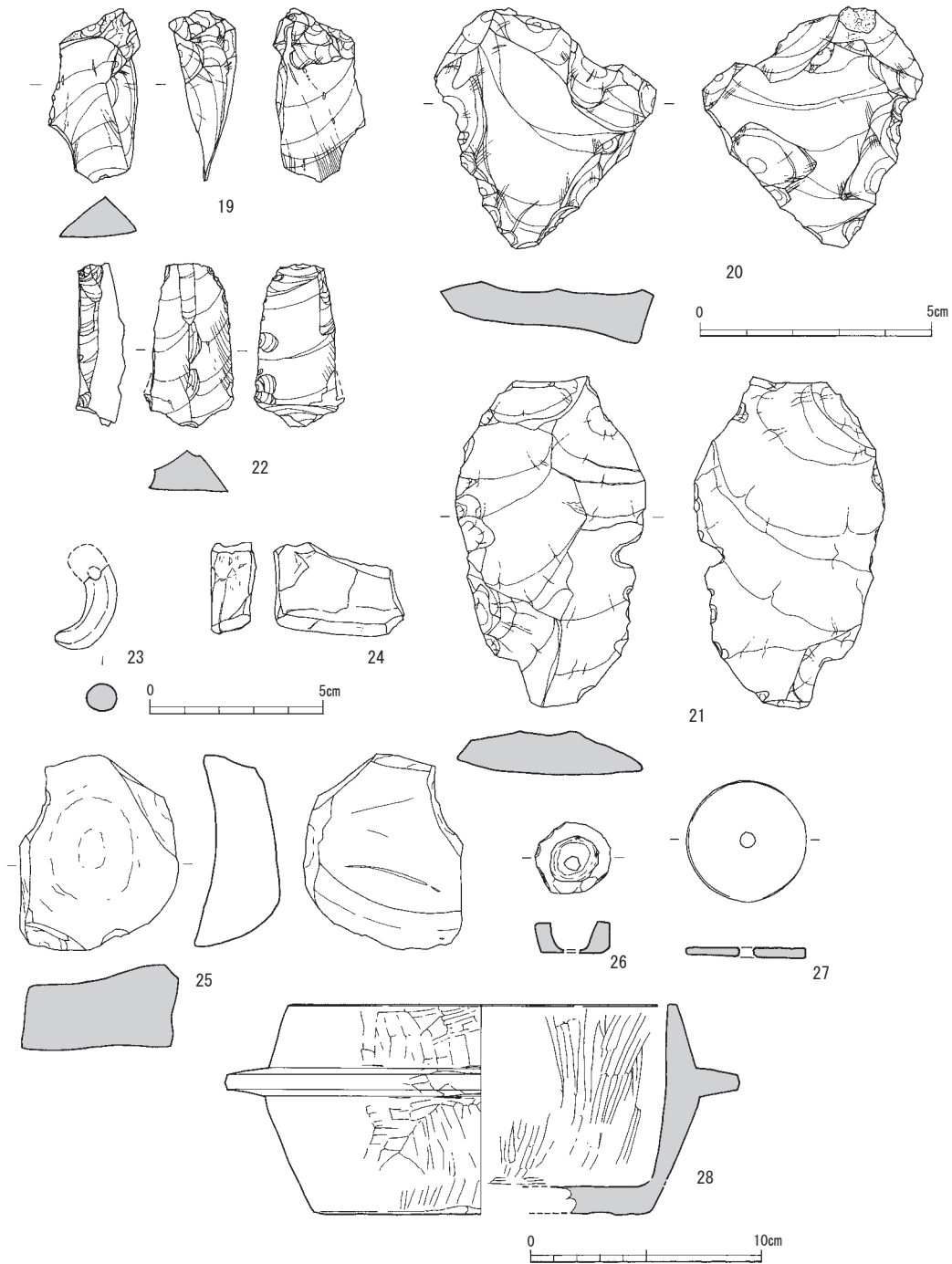


Fig.65 出土石器・石製品実測図 (19～22は2/3, 23は1/2, ほかは1/3)

(6) 土製品

各調査区から出土した土製品を一括して報告する。

①土製品 (Fig66, Tab.23, PL.33)

陽物形
土製品

陽物形土製品 (1) 土師器把手を陽物形状に仕上げたものである。まず丁寧なナデ調整を全体に行い、甕体部に貼り付け後、上面のみ面取り状のヘラケズリを施す。陽物形はヘラ状工具による沈線で尿道口と龟头を表現する。胎土は精良で、裏面には黒斑が認められる。96次SD2818から出土した。

棒状土製品 (2・3) 2は板ナデ調整後縦ナデを施した、断面四角形の用途不明の土製品である。焼成は極めて良好である。186次SK4547から出土した。3は土師質で、何かの脚になるものである。下端部に向かって徐々に細くなり、底部は平坦である。表面には縦ナデ痕が残る。175次SD4345から出土した。

土玉 (4) 径2.2cmを測るほぼ球形の玉で、重さは8.7g。96次床土から出土した。

紡錘車 (5・6) 5は2/3程度残存する、瓦を再加工した紡錘車で、凸面 (図では裏) の縄目タタキは残るが、凹面の布目痕は摩滅のため見えないことから、凹面を上で使用したと考えられる。側面は打ち欠いたままで、穿孔は凹面→凸面方向に施す。法量は4.7cm以上×5.5cm、厚さ1.7cm、孔径0.7cmを測る。175次SD4345から出土した。6は1/3程度残存する土師質のもので、復元径3.0cm程度と紡錘車としては小さすぎるため、紡錘車ではない可能性もある。孔径は0.3cm程度、29次ピット内から出土した。

不明土製品 (7) 7は底部に穿孔が認められる須恵質のものであるが、小片のため用途は不明である。133次ピットから出土した。

手づくね土器 (8～11) いずれも鉢形を呈するものである。8は復元口径3.4cm、器高2.9cm、9は口径2.9cm、器高1.7cmを測り、いずれも165次SK4198から出土した。9は体部と底部との境に稜がつく。また外面は二次加熱痕が認められる。10は内面に工具ナデ痕が明瞭に残る。193次SX4617から出土した。11の内面は丁寧なナデ調整であるが、外面は粗いナデ調整である。133次ピットから出土した。

土錘 (12～20) 12～16は重さ50～60gを超える大型のもの、17～19は重さ30g程度に復元できる中型のもの、20は重さ12g程度の小型の土錘である。いずれもナデ調整で成形し、孔径は1cm～0.7cm程度を測る。12は約90%の残存率ながら、重さ61.4gを測る大型品である。長さ8.2cm、幅3.5cm、厚さ2.8cm、孔径0.9cmを測る。15の上面はナデで面取りする。18は成形時棒を抜き取る際に孔が曲がってしまった可能性がある。20は全体的に黒斑が認められる。12～14・17～19は175次SD4345、15・16は175次SX4347、20は175次SD4335から出土した。

円板状土製品 (21～38) 21～35は瓦、36～38は土師器を打ち欠き、主に円形に仕上げた遊具と考えられるものである。側面は21・22・24・26～35、37・38が打ち欠き後研磨を施し、それ以外は打ち欠いたままである。研磨は一部のみ行うものや側面が摩滅により研磨したように平滑になった可能性があるものを含む。21・22・36～38は175次SD4345、23は29次床土、24は95次床土、25は142次SB3996、26は29次表土、27は96次床

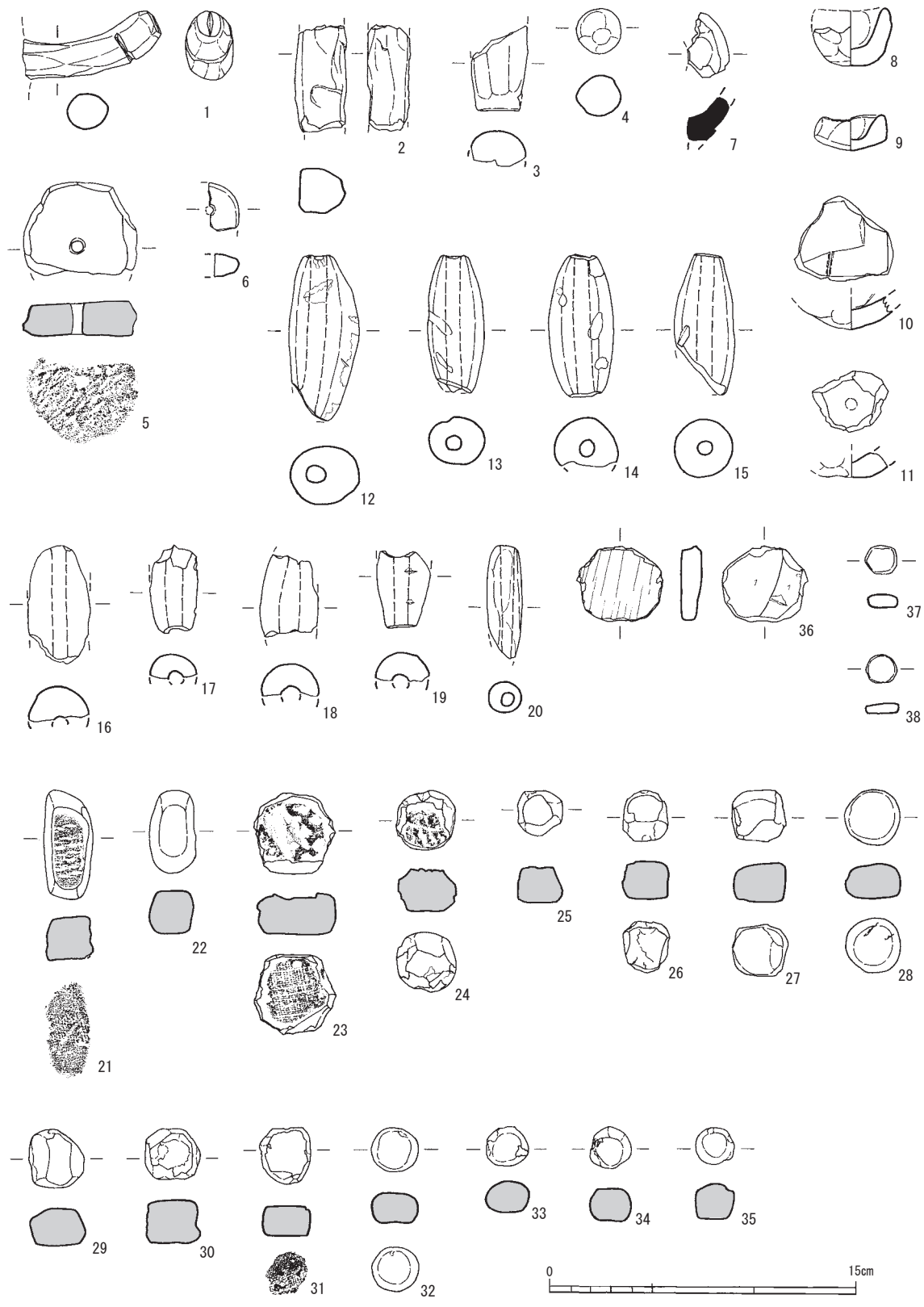


Fig.66 出土土製品実測図 (1/3)

土, 28・32は96次表土, 29は175次黄色土, 30は186次床土・褐色土, 31は133次SX3917, 33は157次SD4118, 34は157次SD4121, 35は157次黄色土から出土した。

21・22は側面を丁寧に研磨した長方形のもので, 21には縄目タタキ痕と布目痕が残る。重さは21は30.6g, 22は17.2gを測る。23は重さ34.8gを測る大型品で, 格子タタキと布目痕が明瞭に残る。24～31は重さが10～17g程度のもの。24・30・31は主に角のみ研磨する。24の表面には縄目タタキ痕が残る。28・32・33は角まで研磨し, 丸みを帯びている。32～35は重さ5～8g程度のものである。

36は土師器甕を再加工し, 円板状に仕上げたもの。重さ14gを測る。37・38は土師器腰部を再加工した小型品で, 37は重さ1.4g, 38は重さ1.2gを測る。

②壁土状土製品 (Fig.67, Tab.23, PL.33)

壁土状土製品 (1～8) 1～6は175次SB4340四面廂建物の柱穴掘方内, 7は同柱穴柱痕跡内から出土したものである。柱痕跡内には焼土や炭が入り, 建物が焼失した可能性が指摘されているが (『遺構編』P40), 7以外は掘方内出土であり, この建物に伴う可能性は低い。

1～4はスサ・砂粒を少量含む粗い橙褐色～灰褐色の粘土の上に, 厚さ1～1.5cm程度の灰黄色の精選された粘土を貼り付けたものである。精選された粘土の表面にはナデ調整が残り, また4の精選粘土表面には白色土～橙褐色土が付着し, 最終的な壁化粧土の可能性はある。

5は粗い粘土はなく, 精選された粘土のみであるが, 裏面にスサがみえる。

6・7は砂粒を非常に多く含む灰黄褐色～橙褐色の粘土塊で, 1～4の裏面の粗い粘土に近い質のものである。7の裏面には被熱痕があるが, 1～6は被熱痕がない。

8は175次SK4336出土の断面四角形状を呈するものである。SB4340を切る土坑内から出土したことから, 本来はSB4340に伴う可能性もある。胎土は精良で, 表面は剥離が顕著である。また表面にはスサが付着する。1～7とは異なり, 壁土状土製品ではなく土製品の可能性もあるが, SB4340に伴う可能性も想定されるため, 壁土状土製品と一連のものとしてここで報告する。

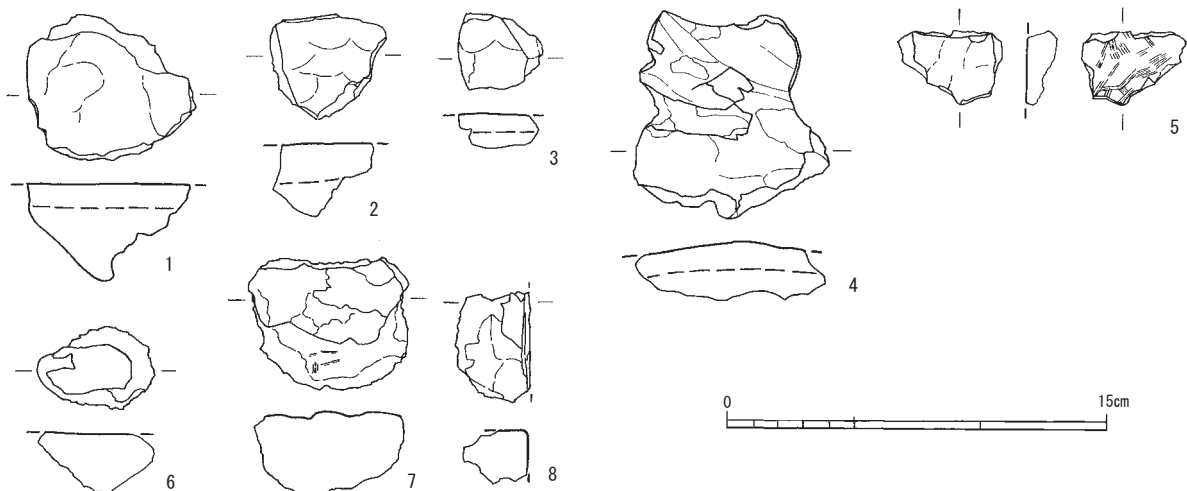


Fig.67 出土壁土状土製品実測図 (1/3)

(7) 文字関連資料

広丸地区官衙跡内の各調査区から出土した文字関連資料について、一括して報告する。

1) 定形硯

①陶硯 (Fig.68 ~ 71, Tab.24, PL.34・35)

広丸地区官衙跡では、8～9世紀代の定形硯 57 点と転用硯 68 点を確認した。遺構的には 175 次調査の溝 SD4345 から定形硯 8 点と転用硯 7 点、採土遺構 SX4344 から定形硯 8 点が出土している。定形硯の内訳は、圈足円面硯 49 点 (85.9%)、円形硯 5 点 (8.8%)、単面風字硯 2 点 (3.5%)、方形硯 1 点であった。当地区においても定形硯の大半を圈足円面硯が占めるが、円形硯も 8.8% と比較的高い数値を示す。なお、陶硯は 33 の風字硯 (黒色土器 B 類) を除きいずれも須恵質焼成でナデ調整を主体とする。胎土には砂粒をあまり含まず良好である。

転用硯の内訳は、坏蓋 41 点 (60.3%)、甕 19 点 (27.9%)、皿 4 点 (5.9%)、坏 2 点 (4.2%)、壺 1 点、鉄鉢形 1 点で、坏蓋と甕が多い点は大宰府政庁周辺官衙跡の他の地区と同様である。なお、陶硯総数に占める定形硯の比率は 45.6% であり、大楠地区官衙跡の定形硯比率 45.9% に比肩する。しかし、大楠地区官衙跡出土陶硯点数には東接する不丁地区官衙跡との境界をなす SD320 出土陶硯がカウントされていないので、定形硯比率はもう少し低くなるものとみられる。出土地等詳細については、定形硯及び転用硯一覧表 (Tab.24) を参照されたい。

I 類：円面硯 (1 ~ 27) いずれも圈足円面硯で、3 が唯一全体の形状が判る資料である。海部は深く、陸部との立ち上がりに墨が遺存している。外堤直下にシャープな三角凸帯を貼付し、脚部との境としている。スカシ孔は長方形で、16 個に復元した。脚部は裾広がりで、接地面は爪先立ち、よく擦れている。脚裾径は 19.4cm に復元した。

1・2・4・5・8 は外堤付近の破片で、1 は外堤直下に小さな三角凸帯を貼付する。脚部を欠損するが、長方形スカシ孔の切り込みが遺存しており、23 個に復元した。2 は外堤直下に太めの三角凸帯を貼付している。スカシ孔は長方形を呈し、1.3cm 程の密な間隔で空けており、33 個に復元した。4 の海部は 3 に比して浅めである。スカシ孔は長方形を呈するが、間隔が判らないので、個数は不明。5 は凸帯付近が遺存するが、凸帯は割合シャープである。スカシ孔は幅が狭い長方形を呈し、内外面から切り込んでいる。8 の脚部は海部の器壁に比して倍くらい厚く、壺などの底部にはなり得ないことから硯とした。残存部位に凸帯及びスカシ孔はみ

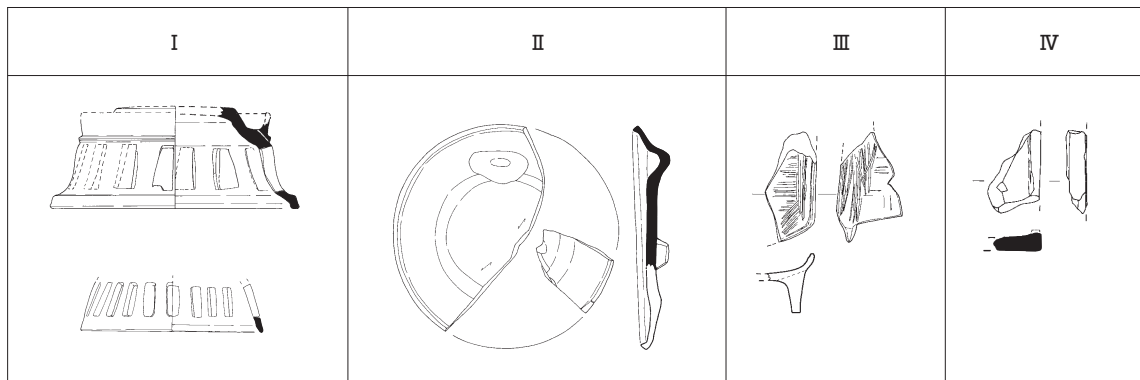
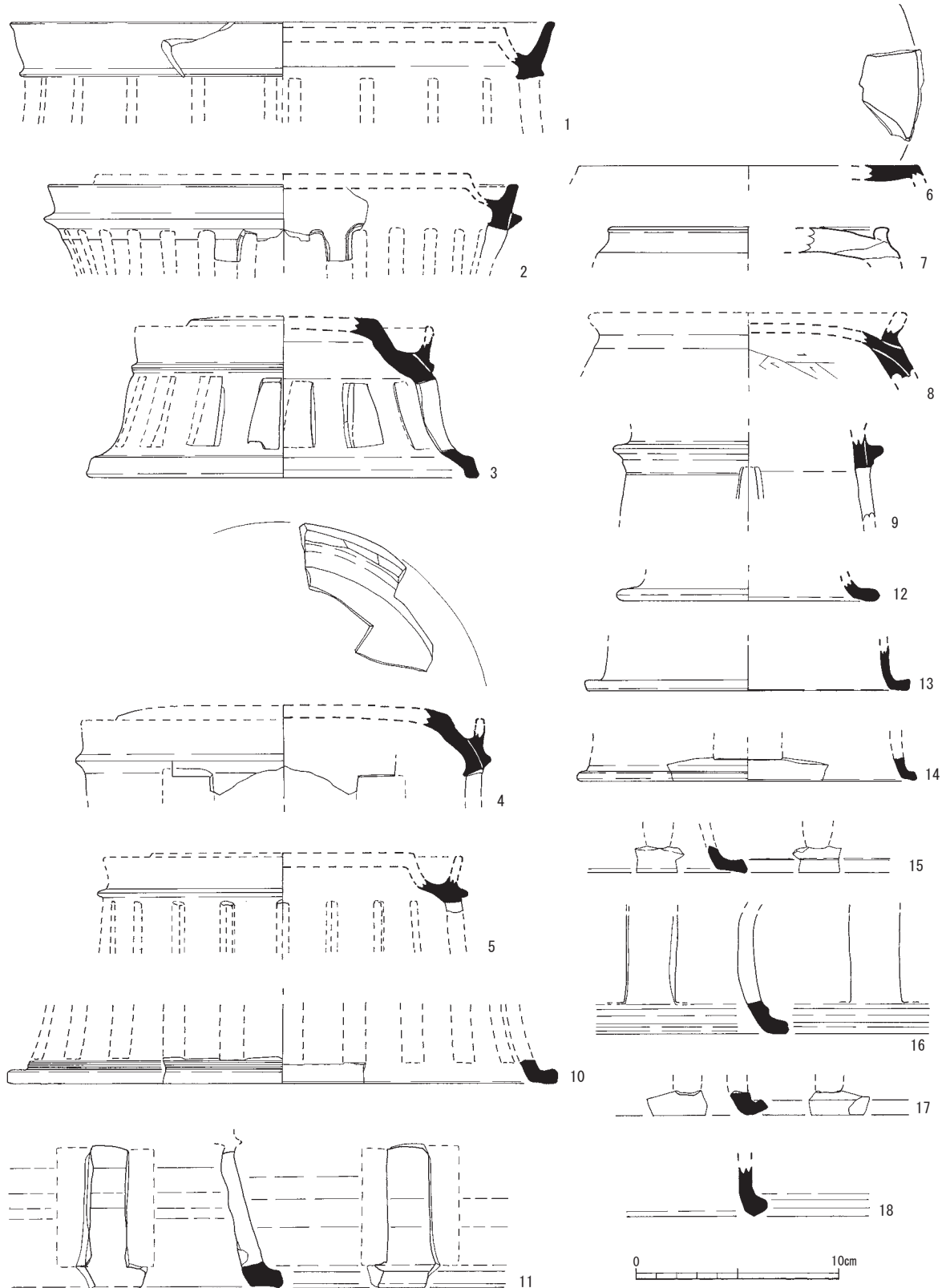


Fig.68 定形硯分類図 (1/6)

られない。内面は手持ちヘラケズリによる。外堤径は1が27.0cm，2は23.3cmに復元した。また，1の外堤及び2・5の内面には灰が被っており，硯面を下にして焼成したことが窺われる。

6は陸部の破片で，墨痕がみられず擦れてもいないが，壺の底部としては外面調整が極めて丁寧であり，器壁も薄いことから円面硯の陸部とした。7は土師器の円面硯で，陸部から外堤



付近にかけての破片。陸部に墨痕はみられないが、壺の底部にしては肉厚で、それに反して高台（外堤）が貧弱であることから硯とした。なお、土師器の円面硯は日吉地区官衙跡出土品に類例（『官衙Ⅱ』、Fig.81-2・3）がある。9は凸帯から脚柱部にかけての破片で、太めの三角凸帯を貼付している。スカシ孔は長方形を呈するようであるが、個数は不明。

10・12～15・17～23・25～27は脚裾部の破片で、12・13・15・22が逆L字形、

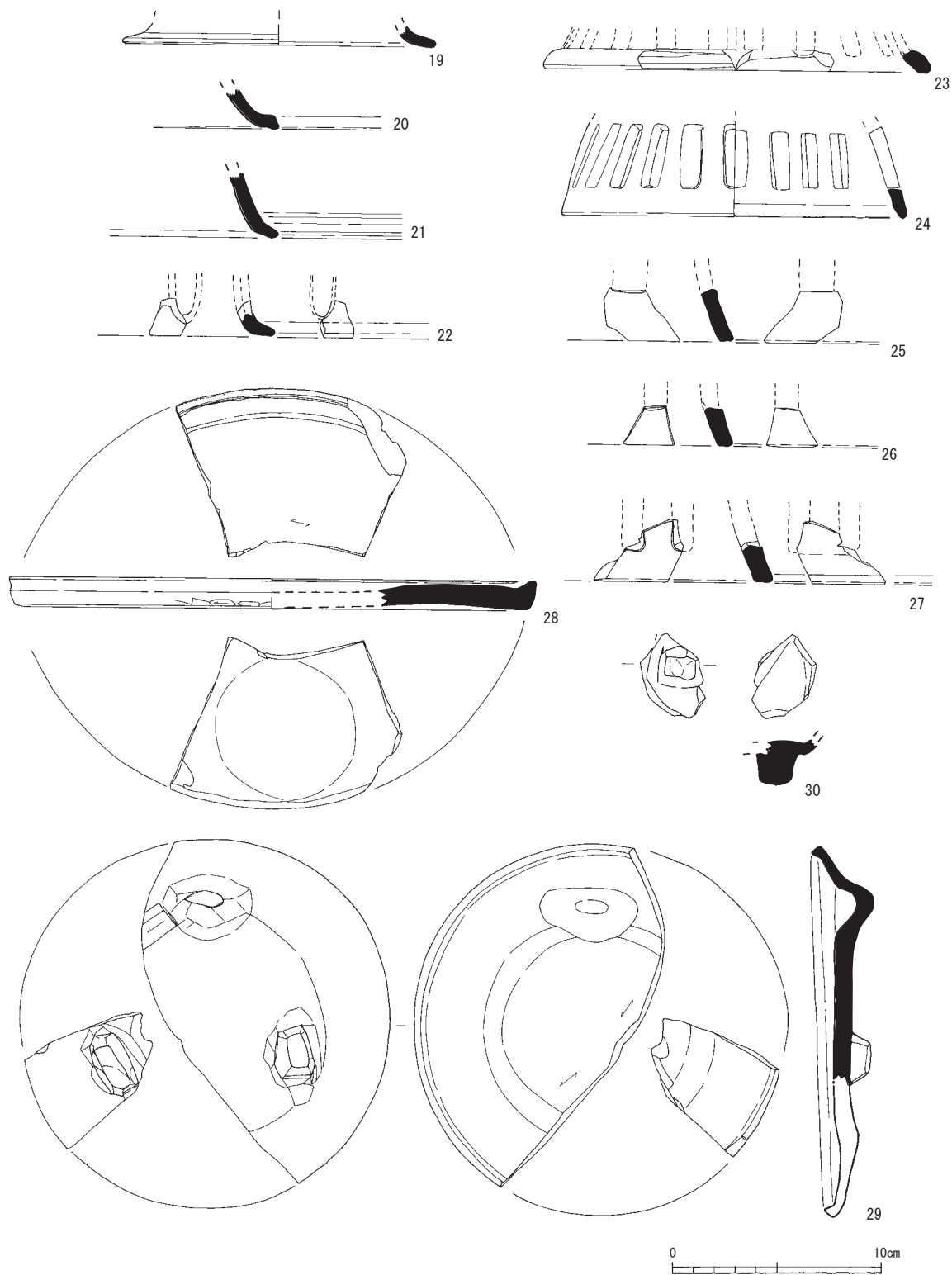


Fig.70 定形硯実測図② (1/3)

10・14・17が小さく外方に突出するもの、19～21が緩やかに外反するもの、18は端部が肥厚するもの、23は断面蒲鋒形、25～27は直線的に開くものである。スカシ孔は10・14・23・25～27が長方形、15・17・22は長円形を呈する。10は27～28個空けるものか。12・13・18～21は小破片であるためスカシ孔の形状すら判らない。脚裾径は10が27.2cm、12が13.0cm、13が16.1cm、14が16.8cm、19が15.0cm、23が18.6cmに復元した。

11・16・24は脚部破片で、11・16の裾部は外方に小さく突出する。24は直線的で、端部が爪先立つもの。スカシ孔はいずれも長方形で、24のスカシ孔は23個、脚裾径は16.6cmに復元した。10・13・17・19・21・25・26の内面には灰が被っており、硯面を下にして焼成したことが判る。また、11・14・15・20・21・23・25～27の接地面は擦れており、使用頻度が高かったことが窺われる。

円形硯 II類：円形硯(28～30) 28は円形硯の小破片で、端部は小さく立ち上がる。1/6程の破片で、径は25.2cmに復元した。口縁部ヨコナデ、内面ナデ、外底面は回転ヘラケズリによる。また、外底面は灰被りであるが、径7cm程の範囲で灰が被っておらず、上面に何か乗せて焼成した可能性がある。なお、平成3年度概報(第72図18)では、外天井面に灰が被っていたことから須恵器蓋と報告しているが、上面は平滑であり、ルーペによる観察で墨痕を確認しており、

風字硯 円形硯と訂正する。29は坏蓋形の円形硯で、96次調査の灰褐土と床土からの出土であるが、同一個体として実測した。器高3.0cmを測り、口径は17.8cmに復元した。脚は三足で、底面2ヶ所に方柱形の短い脚を貼付し、もう一ヶ所器面を窪めることにより海部兼用の脚としている。硯面は余り擦れていないが、ルーペによる観察で墨痕を確認している。30は脚部破片であるが、側縁が丸みを帯びていることから皿形の円面硯とした。脚は方柱形を呈し、高さは1.5cmを測る。残存部位では硯面は擦れておらず、墨痕も確認できない。

方形硯 III類：風字硯(31～33) 31は風字硯の側縁部小破片。硯面は擦れているものの墨痕は確認できない。底面には灰が厚く被り、硯面を下にして焼成している。焼成は堅緻で、暗灰色を呈する。32は右側縁端部の破片である。側縁の立ち上がりは、粘土板を切り込むことで作り出している。脚は三角形で、2ヶ所に切り込みを入れて山形としている。胎土に砂粒はほとんど含まず、緻密である。また、硯面は平滑であり、ルーペによる観察で墨痕を確認している。

石製風字硯 33は黒色土器の風字硯で、右側縁端部の破片。三角形の脚を貼付し、中央にV字形の切り込みを入れる。内外面とも細かいミガキを施しており、外縁の内側には沈線を巡らせている。胎土に石英・雲母を含むものの精良である。

IV類：方形硯(37) 方形硯の右側縁部の破片で、立ち上がりは欠損する。側縁の内側には工具による沈線がみられることから、粘土板を切り込んで作り出している。

②石硯 (Fig.71, Tab.24, PL.35・36)

風字硯(34～36) 34・36が滑石製、35は硬質砂岩製の風字硯。34・35は円頭で、34の海部は2.6cmと深い、35は1.5cmと浅い。34の硯面には墨が遺存し、接地面もよく擦れており、使用頻度が高かったことが窺われる。35の残存部位には墨痕はみられない。ともに9世紀後半代のSE2845出土で、大宰府跡における滑石製風字硯の出現をこの頃に求めることができる。36は左側縁部の破片。ルーペによる観察では、残存部位に墨痕はみられない。

2) 転用硯 (Fig.72 ~ 74, Tab.24, PL.36 ~ 38)

転用硯 68 点の内訳は、坏蓋 41 点 (60.3%)、甕 19 点 (27.9%)、皿 4 点 (5.9%)、坏 2 点 (2.9%)、それに壺と鉄鉢形が 1 点ずつ出土している。いずれも須恵器である。坏蓋・甕を多用している点は、他の周辺官衙跡と同様である。転用硯として確認した 68 点中 36 点を図示した。なお、墨痕の有無の確認には、25 倍のルーペを用いた肉眼観察で判断している。

1 ~ 18 は坏蓋, 19 は有高台坏, 20 は坏, 21 は壺, 22 ~ 24 は皿, 25 ~ 36 が甕。

1 は口縁部小片で、端部は鳥嘴状を呈する。天井部を欠くもの高め器形になろう。口縁部はヨコナデによる。口径は 14.2cm に復元した。焼成は堅緻で、内外面とも灰青色を呈する。内面はあまり擦れていないが、墨痕は明瞭で、筆ならしとみられる線状の痕跡がある。SB3945 掘方出土。2・3 は口縁端部が鳥嘴状を呈する蓋で、低平な器形。ともに天井部中央にボタン形の摘みを貼付する。口縁部ヨコナデ、外天井部回転ヘラケズリ、内面ナデによる。2 は完形品で、器高 2.1cm、口径 15.4cm、摘み径 3.0cm、3 は器高 2.4cm、口径 16.8cm、摘み径 2.7cm を測る。2 の内面はよく擦れており、墨痕も明瞭である。また、接地面となる摘み

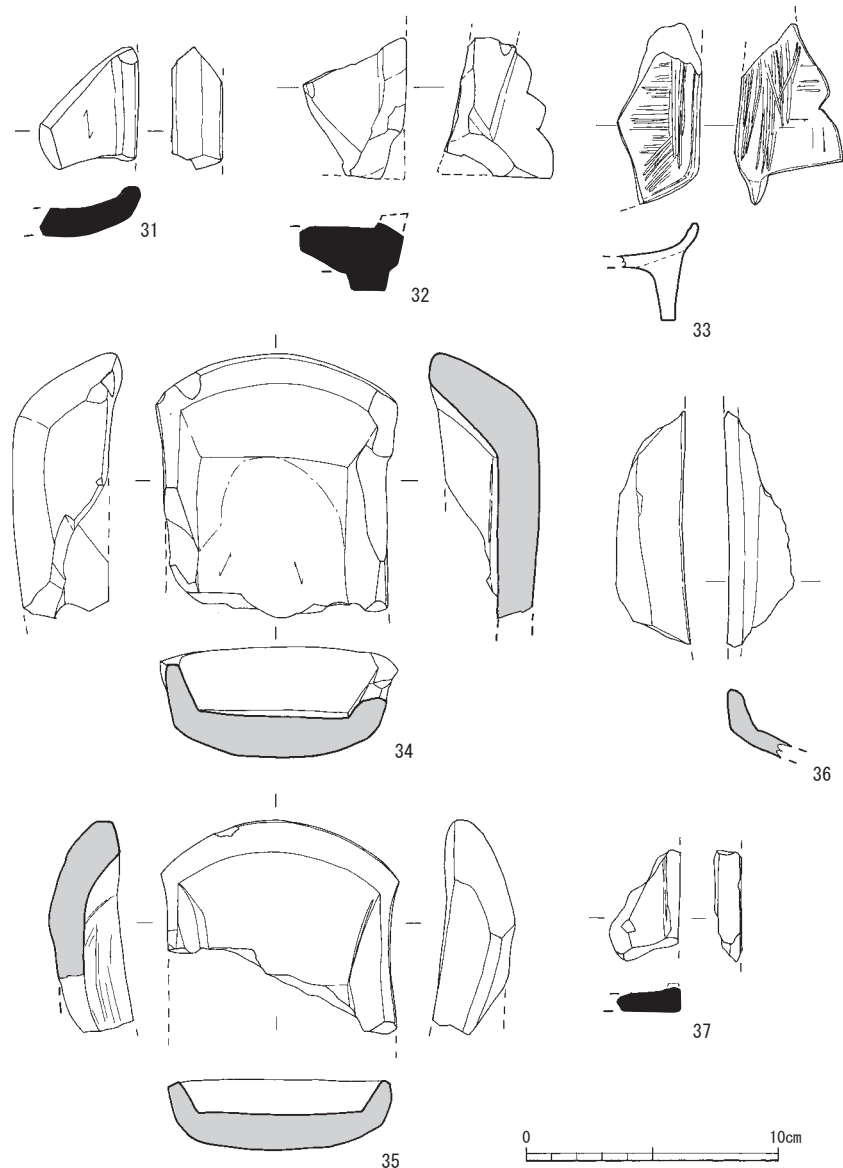


Fig.71 定形硯実測図③ (1/3)

の端部が擦れている。3の墨痕は明瞭であるが、あまり擦れていない。2がSD2760, 3はSD2785の出土。

4～6はSD4345出土の坏蓋で、口縁端部は僅かに立つ。4・5は低平な器形で、6の天井部は前者に比して高めで、5は押しボタン形、6は円筒状の摘みを貼付する。復元口径は4が

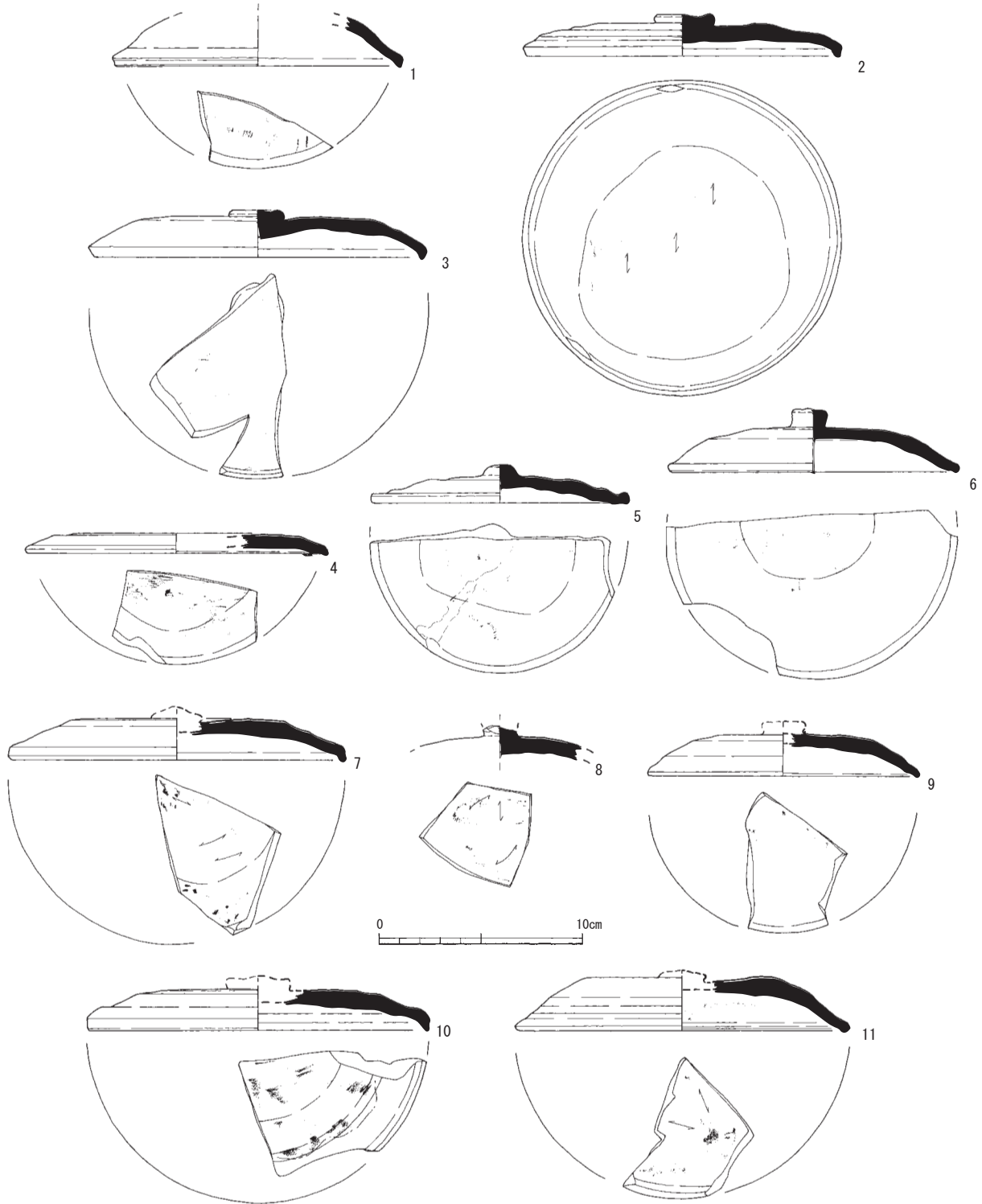


Fig.72 転用碗実測図① (1/3)

15.0cm, 5は12.6cmで, 6の口径は14.4cmを測る。いずれも口縁部ヨコナデ, 内外面ナデによる。4・6の焼成は堅緻で, 暗灰色を呈する。5は内外面に粘土のつなぎ目を残す。いずれも墨痕は明瞭で, 内面はよく擦れている。また, 5の外天井部, 6の摘み上部は, 使用に際しこすれている。7・8はSK535出土の坏蓋。7が口縁部から天井部にかけての破片で, 摘みを欠く。8は天井部の破片である。7の口縁端部は鳥嘴状を呈し, 低平な器形。口径は16.6cmに復元した。口縁部ヨコナデ, 外天井部回転ヘラケズリ, 内面不整方向ナデによる。墨痕は明瞭で, 内面はよく擦れている。また, 接地面となる外天井部もこすれていることから, 摘みを打ち欠いた可能性がある。8の内面はよく擦れており, 墨痕も明瞭。摘みは欠損しているがこすれており, 故意に打ち欠いた可能性が高い。

10・13・15・16は口縁端部が鳥嘴状を呈する蓋。10・13・15は摘みを欠くが, 16は扁平な摘みを貼付する。いずれも低平な器形で, 口径は10が16.8cm, 13が14.4cm, 15が17.0cm, 16が17.0cmに復元した。調整は口縁部ヨコナデ, 外天井部回転ヘラケズリ, 内面ナデを基調とする。10・15・16の墨痕は明瞭で, よく擦れている。13の内面はよく擦れているが, 墨痕はルーペによる観察で確認した。10がSK4547, 13がSX4617, 15が95次床土, 16が96-1次暗灰色土の出土である。11は口縁部破片で, 口唇部が小さく立つ器形。口径は16.0cmに復元した。口縁部外面は工具によるナデで, 器面の凹凸がみられる。墨痕は顕著で, 良く使用しており, 平滑になっている。SX3919の出土。12は口縁端部の立ち上がりが高い蓋で, 天井部には口径に比して大きめの擬宝珠形の摘みを貼付する。器高3.0cm, 復元口径15.4cm, 摘み径3.0cmを測る。口縁部ヨコナデ, 外天井部回転ヘラケズリ, 内面ナデによる。焼成は堅緻で, 色調は暗灰青色を呈する。墨痕は顕著で, 硯面はよく擦れている。SX4617の出土。14は口縁部の立ち上がりやや高め, 復元口径が21.6cmと大きく, 低平な器形であることから壺蓋の可能性が高い。墨痕は明瞭で, 内面はよく擦れている。また, 外天井部にも墨痕がみられる。96-2次調査灰褐色土の出土。17は口縁端部が小さく立ち上がる蓋で, 口唇部外面にヘラ沈線を1条巡らす。口縁部を若干欠くが, ほぼ完形品。摘みは内凹みの扁平なもの。器高1.5cm, 口径14.0cm, 摘み径2.4cmを測る。口縁部ヨコナデ, 外天井部回転ヘラケズリ, 内面ナデによる。内面中央には5×7cmの範囲で朱墨が遺存している。なお, 大宰府史跡において朱墨の転用硯は珍しいものである。95次調査灰褐色土の出土。18は天井部に輪状摘みを貼付した蓋で, 口縁部を欠く。摘み径は6.4cmに復元した。外面回転ヘラケズリ, 内面ナデによる。墨痕は不明瞭であるが, 内面はよく擦れている。95次調査灰褐色土の出土。

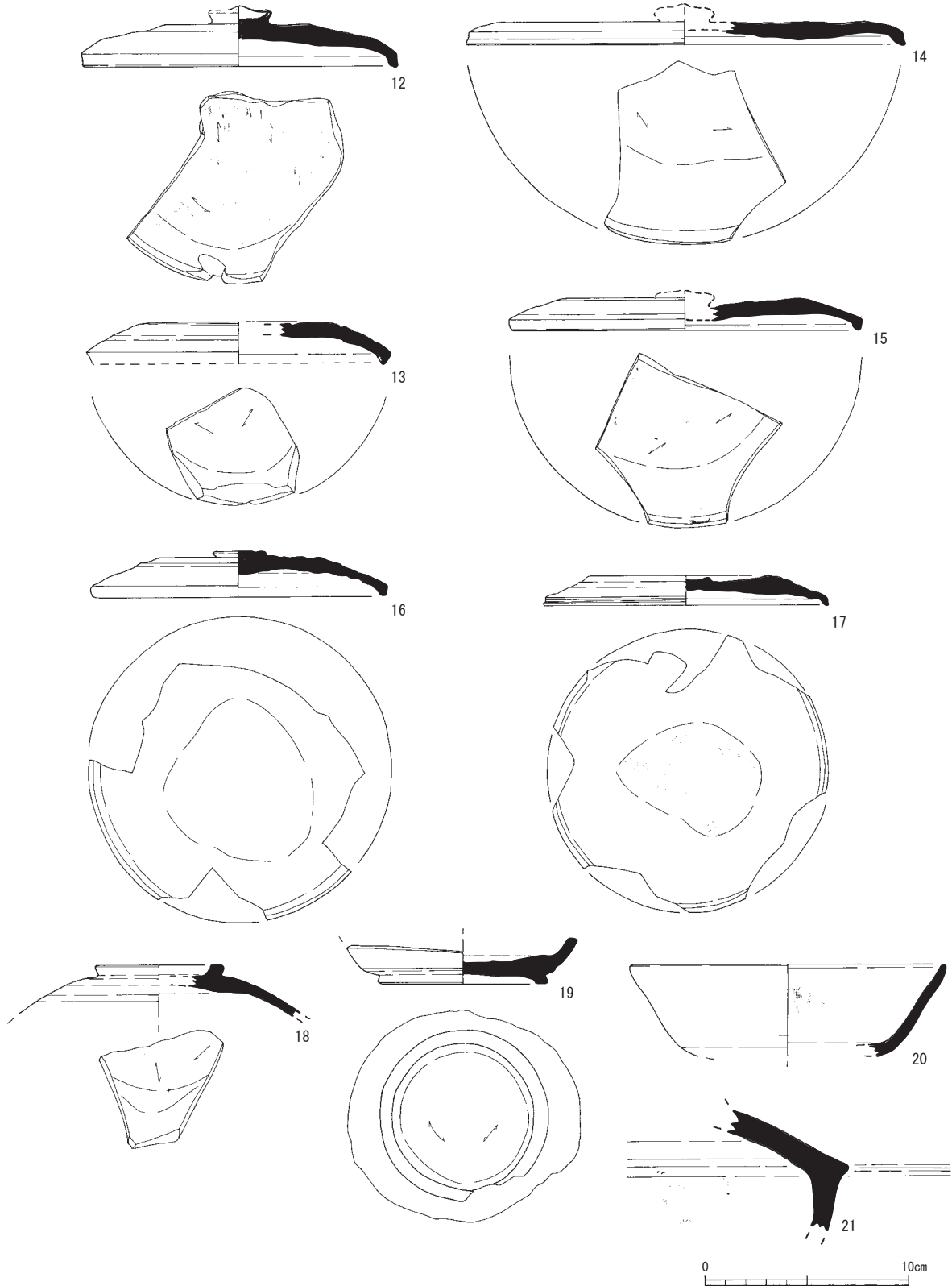
19は有高台坏の底部破片で, 高台は断面方形を呈し, 高台径8.3cmを測る。口縁部を打欠き, さらに研磨している。口縁部を逆さにすると高台が外堤の役目を果たす。高台内には墨痕がみられるもののあまり擦れておらず, 使用頻度が低かったか。SX4347の出土。

20は坏の口縁部破片で, 口唇部は丸く納める。口径は15.6cmに復元した。墨痕は体部内面にみられ, 器面も擦れている。また, 破断面にも墨痕がみられる。SX4617の出土。

21は壺の肩～体部片で, 体部は「く」字形に屈曲し, 屈曲部は凸帯状に突出する。外面ナデ, 内面回転ナデによる。墨痕は内面にみられるがさほど擦れていない。SX4334の出土。

22～24は皿の破片。24は口縁部を欠く。22は口縁部を引き出すため体部中位に稜を有する。器高2.2cm, 口径14.2cm, 底径11.5cmを測る。口縁部ヨコナデ, 外底面回転ヘラケズリ後ナデ,

内面ナデによる。内底面はよく擦れているが、墨痕はルーペにより確認した。23の体部は斜め上方に開き、口唇部はシャープな作り。器高2.0cmで、口径は15.8cm、底径12.4cmに復元した。口縁部ヨコナデ、内面ナデで、外面は未調整。墨痕は顕著で、硯面はよく擦れている。24は底部破片で、底径は11.0cmに復元した。墨痕は明瞭で、硯面もよく擦れている。また、接地



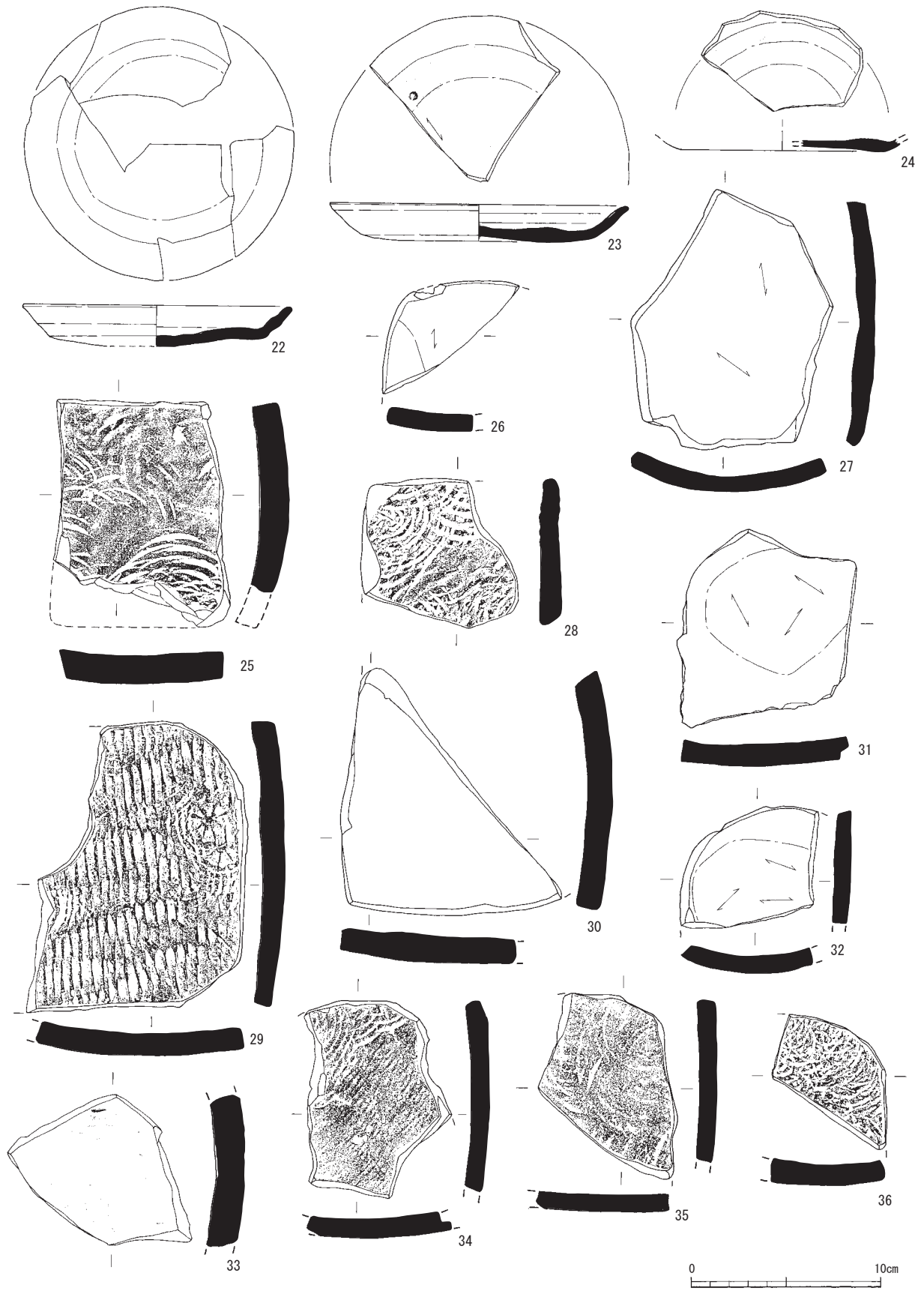


Fig.74 転用硯実測図③ (1/3)

面もよく擦れている。22がSX4317, 23がSD4345, 24はSB4550B柱穴掘方の出土。

25～36は甕の胴部破片を硯として転用したもので、26・28～30・32・36が側縁を打ち欠いたり研磨などの調整を施したいわゆる猿面硯にあたる。25は9×11cm大の長方形を呈し、側縁は打ち欠いたまま。外面は格子目タタキで、内面には円弧当て具痕がみられる。内面はよく擦れているが、墨痕はルーペで確認できる程度。26は側縁を丸く研磨している。外面ハケ目(3条/cm), 内面円弧当て具で、当て具痕が無くなる程に擦っている。27の外面は格子目タタキ後カキ目(7条/cm), 内面ナデによる。側縁は打ち欠いたままである。内面は擦れているが、墨痕は不明瞭。28は側縁を研磨しているが、内面は全く擦れておらず、墨痕も確認できなかったため未使用品と考えられる。外面擬格子目タタキ, 内面同心円当て具による。29は側縁を打ち欠いているが、角は丸く落としている。外面はハケ目状の細かいタタキで、内面には車輪文当て具と平行当て具がみられる。使用による研磨はなく、墨痕もみられないことから未使用品と考えられる。30は半欠品であるが、方形を呈するか。側縁を打ち欠いた後、研磨している。外面格子目タタキ, 内面平行当て具による。墨痕はみられるが、ほとんど擦れておらず、使用頻度が低かったか。31の側縁は打ち欠いたまま。外面格子目タタキ, 内面平行当て具による。内面は擦れているものの、墨痕はみられない。内面の研磨は使用時に支障となる当て具痕の凹凸を無くすために行ったものか。32は側縁を丸く打ち欠いた後、若干研磨している。外面平行タタキ, 内面ナデによる。内面はよく擦れており、墨痕は不明瞭ながらルーペで確認している。33の側縁は生きていない。外面格子目タタキ後カキ目, 内面は同心円文当て具による。墨痕は当て具痕の窪んだ箇所に遺存し、当て具痕が無くなるほどに擦っている。34～36の側縁は打5欠きによるが、36は丸く打ち欠いている。外面調整は34がハケ目(4条/cm), 35がカキ目(7条/cm), 36が平行タタキで、内面は34～36が円弧当て具による。34・36は未使用品。35はタタキ目が無くなるほど擦っているが、墨痕は不明瞭。25はSD4210, 26はSX2837, 27はSX4337, 28は95次調査灰褐土, 29はSX4334, 30は157次調査平瓦凹み, 31・32は96-1次調査灰褐土, 33は175次調査遺構検出時, 34・36は96-2次調査床土, 35は157次調査黄色土の出土である。

3) 墨書・刻書・墨痕土器 (Fig.75, Tab.25, PL.39・40)

本項では、8点の墨書土器と6点の刻書土器及び2点の墨痕土器を報告する。1～8が墨書土器で、9・10が墨痕土器, 11～16が刻書土器である。出土資料の大半は175次調査SD4345から出土している。

1はSK4119出土の土師器坏で、器高2.6cm, 復元口径12.2cmを測る。口唇部は外方に突出し、底部は丸みを帯びる。口縁部回転ナデ, 底部外面は手持ちヘラケズリによる。墨書は底部外面に3文字程あり、「下」の文字は判読できるが他は不明。習書であろうか。なお、平成6年度概報ではSD4118出土の高台皿(図版28-a)と報告しているが、坏と訂正しておく。

2～7はSD4345出土品。2は須恵器坏蓋の完形品で、器高2.6cm, 口径16.6cm, 摘み径2.05cmを測る。口唇部は小さく立ち上がり、低平な天井部にボタン形の摘みを貼付する。器面調整はナデによる。墨書は天井部外面の左側に2文字あり、1文字目は「乙」と判読できるが、2文字目は「口」字の下に「佳」様の文字があるものの縦棒が突き通っており、「佳」ではない

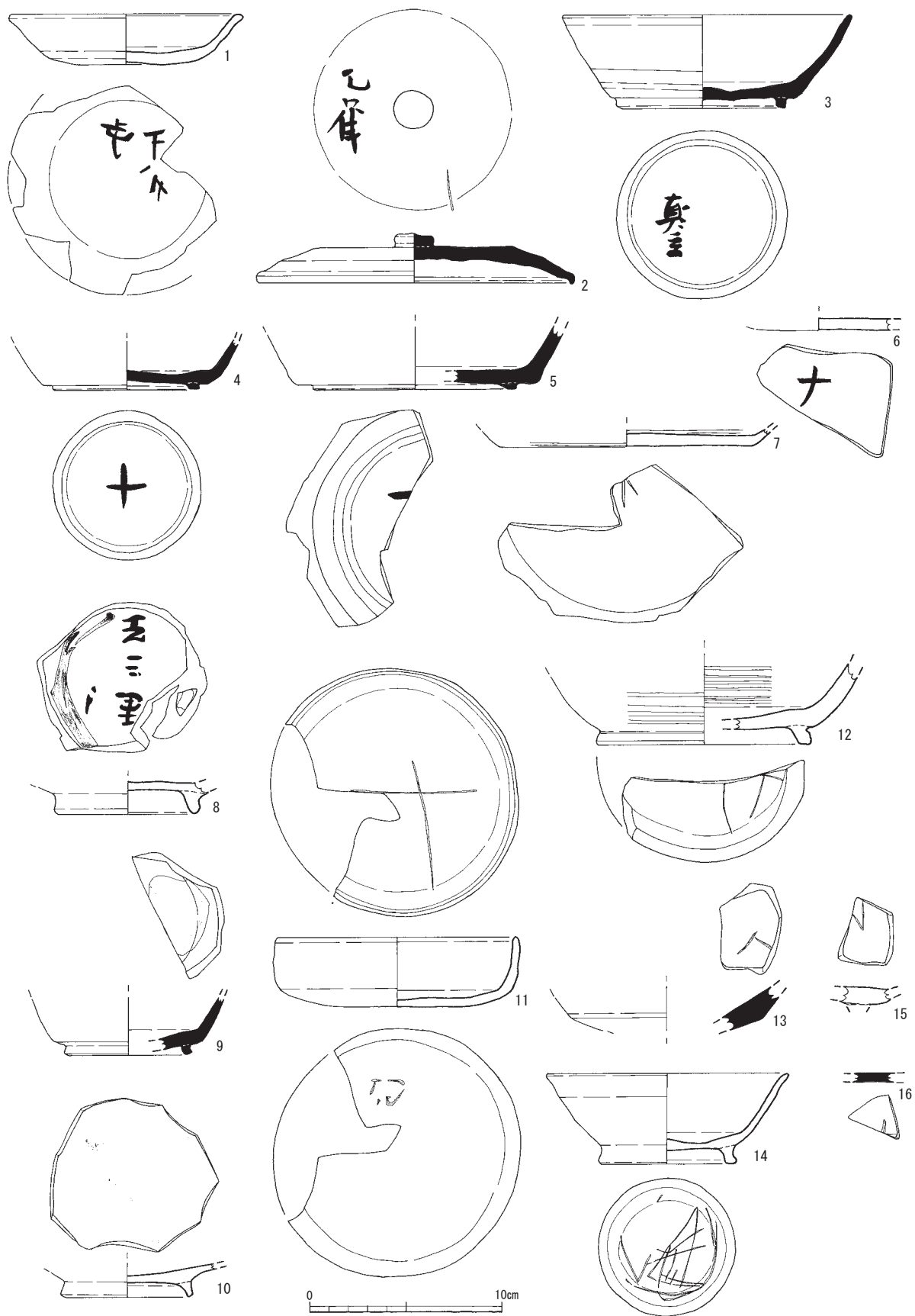


Fig.75 墨書・刻書・墨痕土器実測図 (1/3)

ため「乙□」としておく。3は須恵器の有高台坏で、器高4.9cm、復元口径15.1cm、高台径8.8cmを測る。体部はやや内湾気味に立ち上がり、口唇部を丸く納める。高台は断面方形を呈し、底部の端寄りに貼付している。ナデ調整を基調とするが、体部下半は回転ヘラケズリによる。焼成は堅緻で、灰色を呈する。墨書は高台内に2文字あり、「真主」と判読した。人名であろう。

4も須恵器の有高台坏で、口縁部を欠く。高台径は7.7cmを測る。内外面とも回転ナデにより、底部の端寄りに断面方形の高台を貼付している。墨書は高台内中央に1文字あり、「十」と記している。5も同じく須恵器有高台坏で、口縁部を欠く。体部は直線的に立ち上がり、底部との境に稜を有する。高台は低めの逆台形を呈し、底部端のやや内側に貼付している。高台径は10.6cmに復元した。墨書は高台内のやや上方に横棒があるが、周囲に文字らしきものがみられないことから「一」としておく。ただ、下に文字が来るのかは不明。

6は土師器の底部破片で、坏あるいは皿になるか。墨書は底部外面に1文字あり、縦棒が左に湾曲しているため片仮名の「ナ」様であるが、「十」と判読できる。7は皿の底部破片で、口縁端部を欠く。底径は13.2cmに復元した。体部外面から内面にかけてはヘラミガキで、外底面はヘラケズリによる。墨書は底部外面の中央にあるが、上部が欠損しているため判読できない。8は175次調査採土遺構SX4334出土の土師器高台部破片で、椀になるか。高台は「八」字状を呈し、接地面は丸く納める。高台径は7.5cmを測る。墨書は内底面に3文字程あるものの判読不明である。文字を六角形の圏線で囲んでいるようである。

9は須恵器有高台坏の底部破片で、高台径は6.6cmに復元した。体部はやや内湾気味に立ち上がり、底部との境に稜を有する。器面はナデ調整による。焼成は堅緻で暗灰色を呈する。内底面に3×4.5cmの範囲で墨痕がみられるが、器面は全く擦れておらず転用硯ではない。10は台付皿の底部破片で、高台径は6.9cmを測る。焼成は良好で、シャープな作り。内底面に墨痕がみられるものの、器面は全く擦れておらず、転用硯とは判断できない。

11～13・15はSD4345出土、14・16はSX4344の出土。11は土師器坏で、口縁部の一部を欠く。器高3.6cm、口径12.6cmを測る。体部は丸みを帯びた底部から直立し、口唇部を丸く納める。口縁部ヨコナデ、内面ナデ、外底面ヘラケズリによる。内底面には「十」の刻書、外底面には雁垂と「ル」状の刻書がみられるが、両者は離れており文字ではないかも知れない。なお、「卍」だと酒づきとなる。12は土師器有高台坏の底部破片で、高台径は11.2cmに復元した。器壁は厚めで、断面方形の太めの高台を底部端に貼付している。外面はヘラケズリ後ヘラミガキ、内面はヘラミガキによる。刻書は高台内に縦線2本と横線1本を刻むが、欠損しているため不詳である。「卍」になるか、あるいは単なるヘラ記号かも知れない。13は須恵質土器の細片で、一応坏として図示したが詳細は不明。内面に「人」字を刻書している。14は土師器椀で、体部は直線的に立ち上がり、口唇部は小さく突出する。器高4.7cm、復元口径12.6cm、高台径7.2cmを測り、器高に比して高台が太めのもの。器面調整はナデによる。高台内に10本程の線刻がみられるが、ZやVの記号が合わさったものか。文字ではなく、記号であろう。15は高台部の小破片で、盤あるいは台付皿になるか。内底面に「V」の刻書があるが、記号であろう。16は須恵器の底部小片で、器種は不明。外面に縦線と横線の一部があり、「十」あるいは「大」であろうか。

(8) その他の遺物

本項では、これまで述べてきた遺物に含まれない特殊遺物、また土器に何らかの物質が付着した資料などを種類別にまとめて報告する。製塩・漆製品・鍛冶・鑄造等の生産に関わる特殊遺物、また白色物質が付着した土器などが含まれる。

1) 製塩土器 (Fig.76 ~ 78, Tab.26, PL.41・42)

①形態分類

製塩土器は形態により大きく3類に大別し、内面の調整等により細分した。

I類：鹹水煎熬用の甕形土器で、タタキ成形による。いわゆる玄界灘式製塩土器と呼ばれるもので、口径23cm前後の大型品をA類、口径20cm以下のものをB類とした。

II類：円筒形を呈する丸底の型作りによる焼塩土器で、「六連式土器」と称されるもの。器面調整は外面が指オサエで、内面調整の違いによりa～f・z類に細分した。

a：内面調整がナデ・工具によるナデ・ケズリによるもの。

b：内面に布目痕を留めるが、縦15本×横14本/5mmと非常に細かいもの（極細布目）。

c：布目痕が縦6～8本×横8本/5mmと割合細かいもの（細布目）。

d：布目痕が縦4本×横5本/5mmと粗いもの（粗布目）。

e：貝殻腹縁による条痕を留めるもの。

f：口縁部内面の下位に粘土の隆起帯を有するもの。

z：布目痕を留めるものの、磨滅によりb～d類に分類できないもの。

III類：逆円錐形を呈する型作りによる焼塩土器で、底部から直線的に開く形態のものをA類とし、頸部で一端屈曲した後、口縁部が内湾するものをB類とした。

a～e・z：上記に同じ。

②概要

広丸地区官衙跡では、破片を含め総数177点の製塩土器を確認した。その内訳は、鹹水煎熬用の甕形土器（I類）33点・18.6%、型作りによる円筒形の土器（II類）41点・23.2%、逆円錐形の土器（III類）103点・58.2%であり、III類が全体の約6割を占める。遺構的には、SD4345（65点）・SK533（15点）・SE3910（13点）・SX4617（13点）が主立ったものであるが、中でもSD4345が約4割近くを占め、際立っている。製塩土器の掲載に際しては、形態分類を網羅するように47点を抽出し、そのうち46点を掲載した。なお、Tab.26の製塩

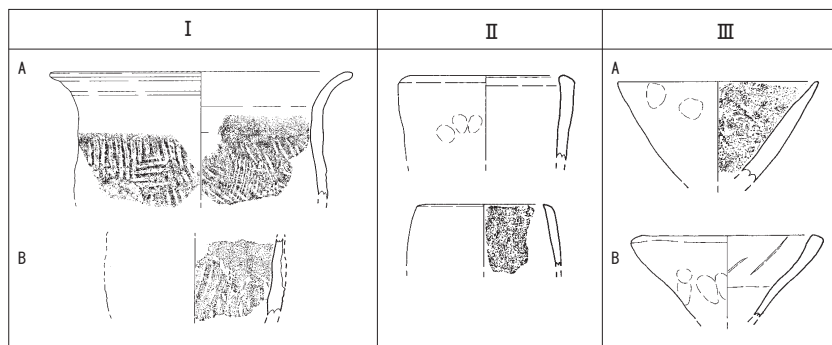


Fig.76 製塩土器分類図 (1/6)

土器出土遺構一覧表に、各遺構・土層からどのような形態の製塩土器が何点出土しているかを示している。参照されたい。

I A類 (1・3・5～13) 1は復元口径23.2cmを測る大型の土師器甕で、口縁部は締まりのない頸部から大きく外反する。体部外面は格子タタキで、内面には平行当て具痕がみられる。133次SE3910の出土。3・5～13は胴部の小片で、器壁の厚さ及びカーブの具合から一応A類としたが、傾きには自信がない。外面は3・5・6・8・9・12が擬格子タタキで、7・

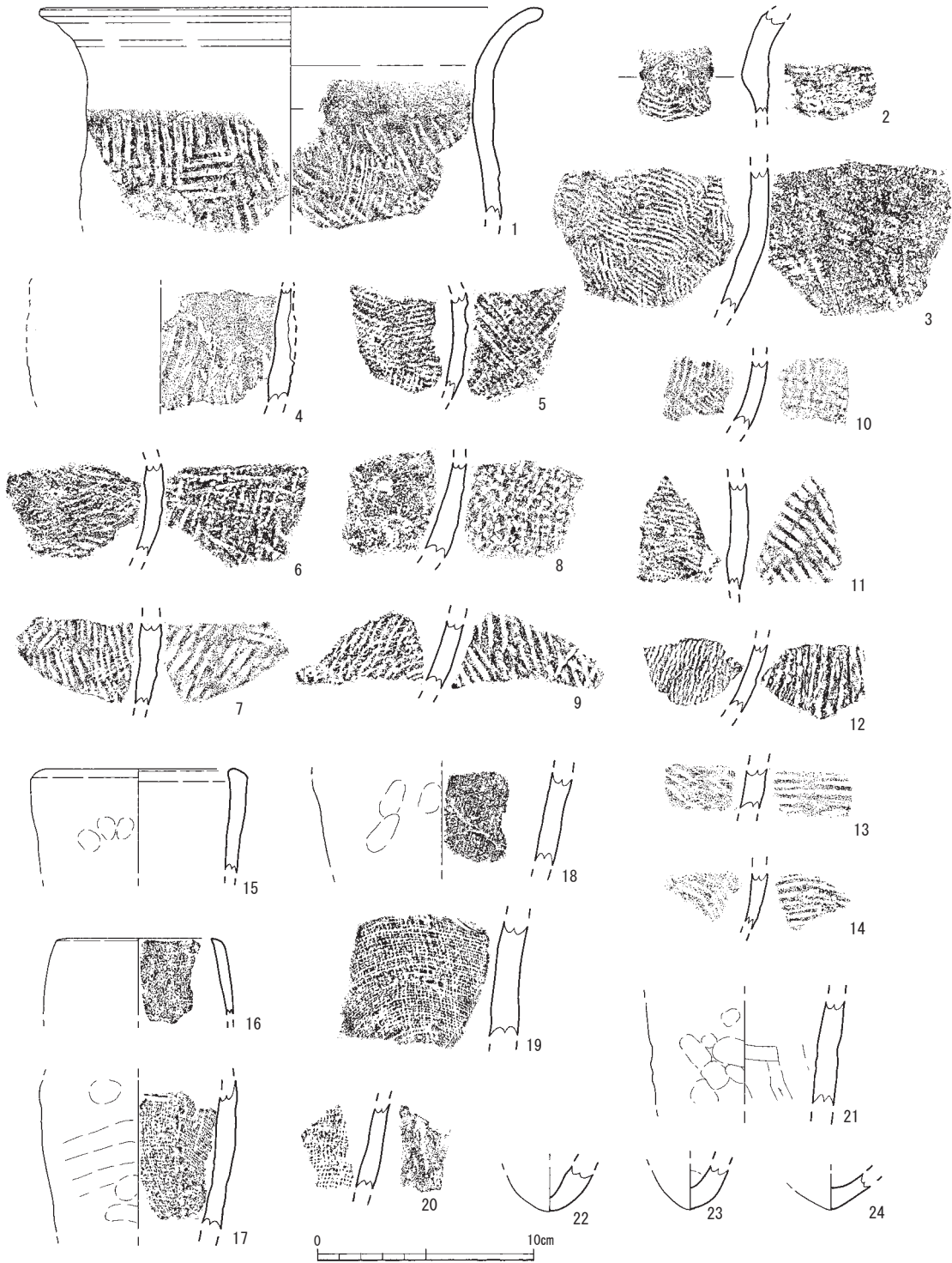


Fig.77 製塩土器実測図① (1/3)

11・13は平行タタキ、10は格子タタキにより、3・6～9・11・12の内面には円弧当て具痕、5は平行当て具痕がみられ、10・13は粗いハケ目による。いずれも胎土に砂粒を多く含み、器面がザラつく。また、8・10～12の外面にはススが付着している。3がSX3919、5・6・9・12はSE3910、7は96次床土、8はSD3921、10は186次包含層、11は96次灰褐色土、13はSD4543の出土。

I B類(2・4・14) 2は口縁から頸部にかけての破片で、体部は直立する。口縁部はヨコナデで、外面には格子タタキ、内面には円弧当て具痕がみられる。外面は二次被熱により赤変している。SD4345の出土。4は口縁から体部上位の破片で、口径は12cm程になろう。体部外面は擬格子タタキで、内面は弧状当て具による。外面は二次被熱により器面が剥落し、下半部にはススが遺存している。SD4345の出土。14は胴部の小破片。外面は平行タタキで、内面は粗いハケ目(3条/cm)による。いずれも胎土に石英を多く含み、器面がザラつく。186次 pit 出土。

II類(15～24) 15・16が口縁部、17～21が体部、22～24が底部破片。15はa類で、口縁端部は内側に突出する。口縁部ヨコナデ、外面ユビオサエ、内面ナデによる。口径は10.0cmに復元した。16はc類で、口縁端部は内側に小さく突出する。内面の布目痕は5mm中に縦7本・横4本と割に細かいもの。砂粒を多く含み、器面がザラつく。口径は7.6cmに復元した。17・19・20は内面の布目痕が5mm中に縦4本・横5本と粗いd類、18は内面の布目痕が非常に細かいb類。21の内面調整はケズリによるa類で、須恵器のように堅く焼成されている。22～24は尖底の底部破片であるが、24は開き気味であることからIII類の底部になるか。15は166次茶灰土、16はSB3905、17～19・21～23はSD4345、20はSK533、24はSX4617の出土。

III A類(25～32) 25・26は底部を欠く。体部は外湾気味に開き、口唇部はシャープである。ともに内面ナデ調整のa類。口径は25が12.4cm、26が13.0cmに復元した。27も底部を欠く。内面が剥落しているが、a類になろう。口縁部は体部から直線的に開く。胎土には砂粒をあまり含んでいない。復元口径は13.0cmを測る。28は口唇部と底部を欠損する。体部がやや内湾するもので、内面調整が工具ナデによるa類。二次被熱により器面があらわれている。29は口縁部の小片で、端部は三角形を呈する。外面はヘラミガキ・ユビオサエで、内面には横方向のハケ目がみられる。口径は9.0cmに復元した。30・31は体部が直線的に開くもので、30の内面には一部布目痕を留める。31は貝殻復縁による条痕がみられるe類。口唇部はシャープで、口径は11.0cmに復元した。32は体部中位で一端屈曲し、口縁部が開くもの。内面には貝殻復縁による条痕がみられる。また、外面は二次被熱により器面が剥離している。25・26はSD4345、27は29次調査 Pit 内、28は29次調査土坑、29はSB3940、30はSK533、31はSK3913、32は29次調査黒褐色土の出土。

III B類(33～46) 33～45は内面調整がナデあるいは工具ナデによるa類で、外面はいずれもユビオサエによる。33は底部を欠く。内面に体部との境の稜を有し、口縁部は肥厚することなく丸く納める。胎土に石英・赤褐色粒を多く含み、粉っぽい感じ。口径は11.2cmに復元した。34～39は口縁端部が肥厚するもので、いずれも底部を欠く。口径は34が12.2cm、35が13.0cm、36が14.1cm、37は11.0cm、39は12.2cmに復元した。40・44は口唇部と底

部を欠くが、口縁端部が肥厚しないものであろう。40の外面は二次被熱により器面が剥離している。41は口縁端部が鉤形を呈するもので、口径は11.6cmに復元した。外面は被熱によりピンク色に変色している。42は口縁部の内側を削り、体部との境に稜を有する。また、口唇部は極めてシャープである。復元口径は14.2cmを測る。43は口縁部が外反して開くもので、端部は肥厚する。45は口縁部と底部を欠く。器壁が厚く、粘土板を2枚貼り合わせている。46は貝殻復縁による条痕を留めるe類で、外面はユビオサエによる。口縁端部が肥厚しないものになろう。33がSK4547, 34～39・41・43・44がSD4345, 40は29次調査暗茶灰色土, 42は137次暗褐色土, 45はSX3919, 46は29次調査Pit内の出土。

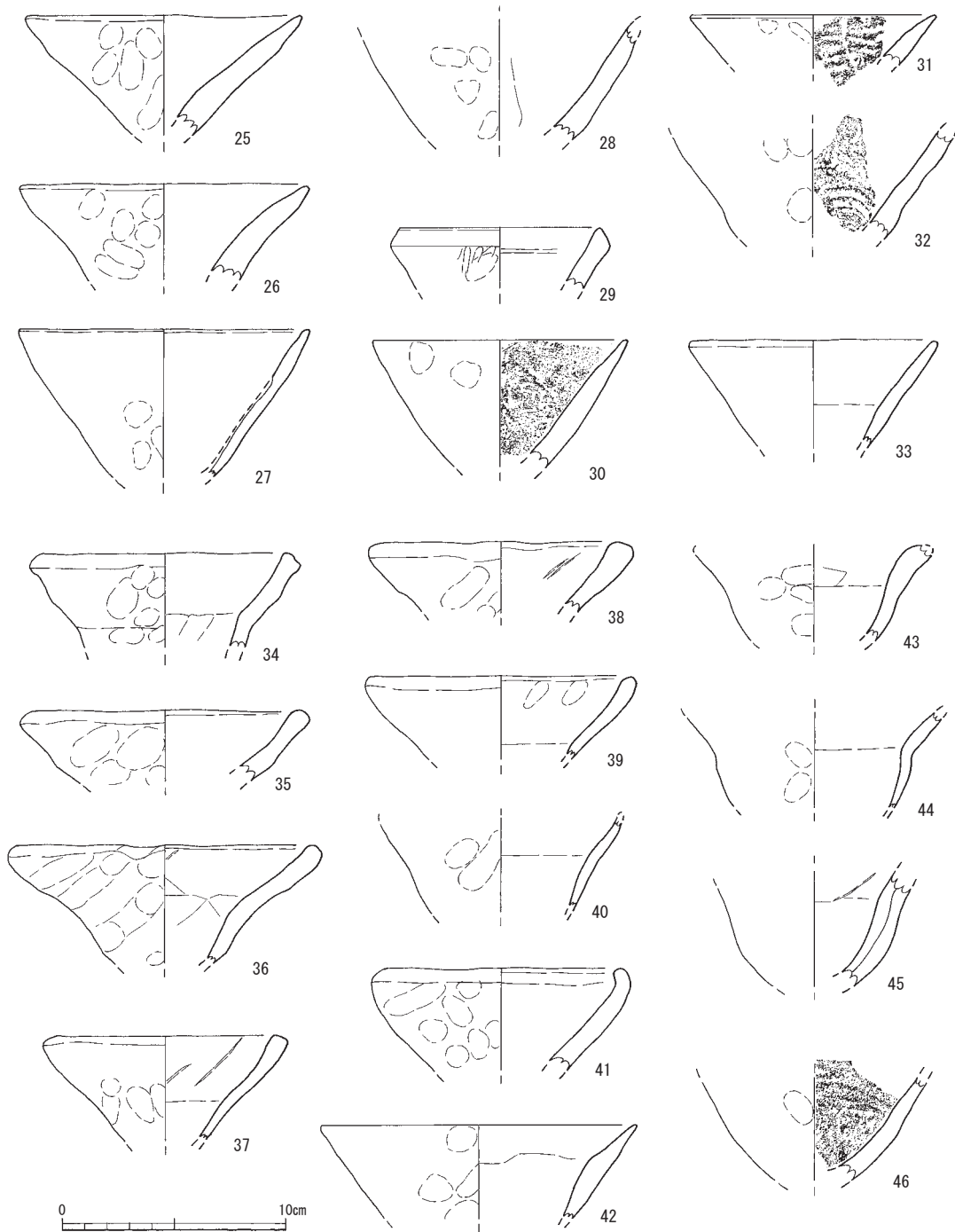


Fig.78 製塩土器実測図② (1/3)

2) 漆附着土器 (Fig.79 ~ 81, Tab.27, PL.43・44)

① 分類

漆附着土器とは、器の内外面及び破断面に漆膜が付着している土器のことで、器種・器形及び漆膜の付着状況により分類することが可能である。ここでは、まず用途によりⅠ～Ⅳ類に大別し、須恵器・土師器等の種別でA～H類に細分した。例えば、ⅠAa類は須恵器蓋のパレット、ⅡAb類は須恵器平瓶の運搬具などとなる。以下に、分類を示す。

Ⅰ類：漆器及び漆塗り製品を製作する際のパレットとして用いたもの。

A：須恵器… a：蓋， b：坏（無高台）， c：坏（有高台）・椀， d：皿， e：盤， f：鉢

B：土師器… a：蓋， b：坏， c：椀， d：皿

C：黒色土器… a：A類椀， b：B類椀

D：灰釉陶器… a：壺， b：皿

E：緑釉陶器

F：青磁… a：碗

G：白磁

Ⅱ類：漆の運搬容器として用いたもの。種別はⅠ類に同じ。

A：須恵器… a：長頸壺， b：平瓶， c：甕， d：壺（短頸壺・広口壺）

B：土師器… c：甕

D：灰釉陶器… a：壺， b：皿

Ⅲ類：土器の表面に漆を厚く塗布したもので、漆器模倣品とみられる。塗布の状況により1～3類に細分している。種別はⅠ類に同じ。

1：内外面とも塗布したもの。

2：内面のみ塗布したもの。

3：外面のみ塗布したもの。

Ⅳ類：いわゆる漆継ぎ土器で、接着剤としての漆膜が器面あるいは断面にみられるもの。

A：須恵器… a：長頸壺

F：青磁… a：碗

今回報告分としては、Ⅳ類の漆継ぎ土器は出土していないので、分類図ではⅠ・Ⅱ・Ⅲ類を示した。なお、将来的に器種の増加に伴い細分される可能性を有する。

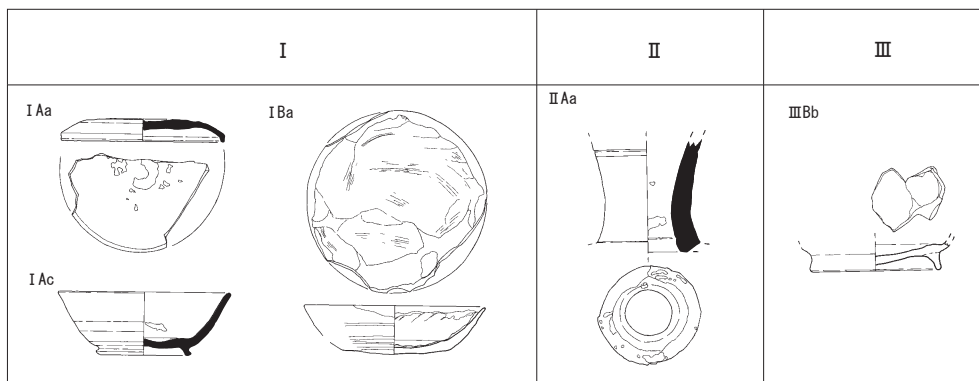


Fig.79 漆附着土器分類図 (1/6)

② 概要

広丸地区官衙跡においては、総数 39 点の漆附着土器と 2 点の漆膜片が確認された。遺構的には SD4345 が 11 点 (26.8%) と最も多く、SB3945・SD2760・SX4617 からは 2 点 (4.9%) の出土で、他は 96-1 次灰褐土・暗灰土、137 次暗褐土等の包含層からの出土である。

以下、説明を加えるが、詳細は漆附着土器の一覧表 (Tab.27) を参照されたい。

I 類 (1～24)

パレットとしては、I Bb 類の土師器坏が 8 点 (20.5%)、I Ac 類の須恵器有高台坏が 7 点 (17.9%) と多用され、次いで I Bc 類の土師器碗 (4 点・10.3%)、I Aa 類の須恵器坏蓋 (3 点・7.7%) が用いられる傾向にある。また、I Fa 類とした青磁碗も 2 点みられた。特徴としては、掌に収まる大きさの土器という点にある。

1・2 は須恵器坏蓋で、I Aa 類。1 は小型の蓋で、器高 1.5cm、復元口径 11.2cm を測る。口唇部は鳥嘴状を呈し、シャープな作り。天井部は低平で、摘みは貼付していない。口縁部ヨコナデ、内面ナデ、外天井面回転ヘラケズリによる。天井部中央にはヘラ記号「|」がみられる。漆膜は内面にあり、焦げ茶色を呈する。137 次暗褐土出土。2 は摘み部の破片で、ボタン形の摘みを貼付する。摘み径は 3.0cm。漆膜は内面に若干みられるが、ルーペによる観察で墨痕も確認しており、転用碗をパレットとして再転用している。SB3945 柱掘方出土。

3～8 は須恵器有高台坏で、I Ab 類。3 は器高 4.4cm で、口径は 12.0cm、高台径は 6.6cm に復元した。体部は緩やかに内湾し、口唇部は丸く納める。高台は断面杓形を呈し、内端部で接地する。口縁部ヨコナデ、外面回転ヘラケズリ、内面ナデによる。漆膜はほとんど剥落しているが、焦げ茶色を呈する。4～8 は底部破片で、4・6・7 の高台は断面杓形を呈し、内端部で接地する。8 の高台は断面方形を呈する。5 の高台は剥落している。高台径は 4 が 7.2cm、6 は 9.2cm、7 は 9.6cm、8 は 10.2cm に復元した。漆膜はいずれも内面にあり、焦げ茶色を呈するが、7 は酸化によるものか黒色を呈する。3 は SD4345、4 は SK4546、5 は SB2825、6 は 96 次床土、7 は SK4547、8 は SD2760 の出土。

9・10 は須恵器坏で、I Ab 類。9 は口縁部の一部を欠くが、ほぼ完形品。器高 3.8cm、口径 13.2cm、底径 10.5cm を測る。体部は平底の底部から直立気味に立ち上がり、口唇部はシャープな作り。口縁部ヨコナデ、内外面ナデ、外底面ヘラ切り後未調整。漆膜は焦げ茶色を呈する。大半が剥落しているが、附着していた箇所は変色し、漆膜が附着していたことが判る。96 次暗灰土出土。10 は体部と底部が接合しないが、同一個体として復元実測した。推定器高 3.7cm で、口径は 13.1cm、底径は 8.0cm に復元した。体部は平底の底部からやや内湾気味に立ち上がり、口唇部は丸く納める。内面には漆膜及び漆膜の剥落痕がみられ、色調は黒い焦げ茶色を呈する。SD4345 の出土。

11 は土師器蓋で、I Ba 類。口縁部と天井部の破片で、摘みは剥落している。両者は接合しないものの同一個体として実測した。復元口径は 20.6cm を測る。口径に比して天井は低めの器形である。口唇部は丸く納めている。口縁部ヨコナデ、内面ヘラミガキ、外面ヘラケズリの後ヘラミガキによる。精良な胎土で、砂粒をほとんど含まない。漆膜は口唇部と内面中央にあり、焦げ茶色を呈する。SX4617 の出土。

12～18 は土師器坏で、I Bb 類。12 は口縁部の一部を欠く。器高 3.6cm、口径 13.3cm、底径 7.8

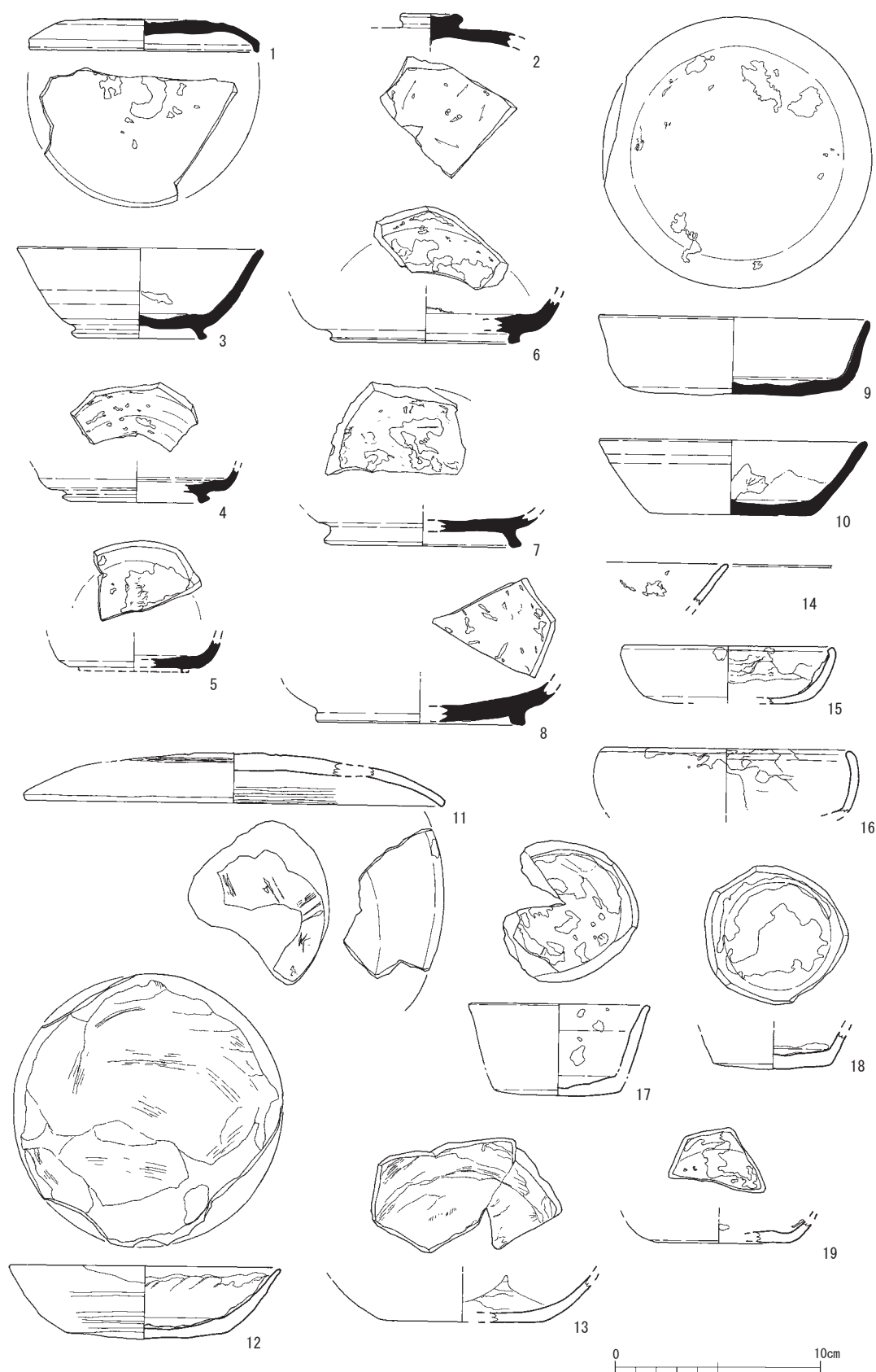


Fig.80 漆付着土器実測図① (1/3)

cmを測る。体部は丸みを帯びた底部から内湾して立ち上がる。口唇部を強くヨコナデしており、シャープになっている。体部外面へラケズリの後ミガキで、外底面はへラケズリによる。内面には漆膜が捲れ上がった状態で遺存しているが、漆膜には部分的にハケの痕跡を留める。13は体部下半部から底部にかけての破片で、底径は7.8cmに復元した。漆膜は内底面にあり、焦げ茶色を呈する。また、漆を掻き取った際のハケ痕跡がみられる。14は口縁部の小破片で、口唇部は丸く納める。内面に焦げ茶色の漆膜が遺存する。15・16は体部が内湾し、口唇部内面に段を持つ器形。体部は内外面ともナデで、外底面は手持ちへラケズリによる。口唇部から内面にかけて厚い漆膜がみられる。15は器高2.8cmで、口径は10.5cm、底径は8.2cmに復元した。16の復元口径は12.6cmを測る。17の体部と底部は接合しないが、同一個体として実測した。器高4.5cm、復元口径8.8cm、復元底径6.2cmを測る。体部は丸みを帯びた底部から直線的に開く。漆膜は内面にあり、赤褐色を呈する。18は口縁部を欠くが、底径が5.7cmを測り、17と同様な器形になろう。外底面はへラケズリによる。漆膜は内底面にあり、焦げ茶色を呈する。12・13・15～18はSD4345、14はSA3912の出土。

19は土師器皿の底部破片で、I Bd類。口縁部と底部中央を欠く。体部は丸みを帯びて立ち上がる。内外面ともナデで、底部はへら切りによる。底径は7.0cmに復元した。漆膜は内底面にあり、焦げ茶色を呈する。96次灰褐土の出土。

20・21は土師器碗で、I Bc類。ともに底部の破片。20の高台は直立し、復元高台径7.0cmを測る。内底面に漆膜が遺存するが、漆膜にはハケ目(8条/5mm)を顕著に留める。21の高台は「八」字形を呈し、10.8cmに復元した。漆膜は内面にあり、暗褐色を呈する。20が157次黄褐土、21はSD3941の出土。22は黒色土器A類碗の底部破片で、I Ca類。高台は僅かなもので、上げ底と言った感じ。高台径は6.8cmに復元した。漆膜は焦げ茶色を呈する。96次灰褐土の出土。

23・24は越州窯系青磁碗の底部破片で、I Fa類。23が157次黄色土、24は96次暗灰土の出土であるが、両者は手法・色調・胎土が類似する。また、96次調査区と157次調査区は隣接することから、同一個体の可能性がある。底部は平底であるが、底部と体部との境を削ることにより高台風としている。漆膜は内底面にあり、焦げ茶色を呈する。

II類(25～29)

漆液運搬具としては、II Ab類の須恵器平瓶が3点の出土で、II Aa類の須恵器長頸壺・II Ac類の須恵器甕及びII Ad類の須恵器壺が1点ずつの出土。また、II Bc類の土師器甕が1点出土している。

25は長頸壺の頸部破片で、II Aa類。内外面ともナデにより、口縁部下位にへら沈線を1条巡らす。内面に焦げ茶色の漆膜が遺存するが、体部との破面にも漆膜が付着している。SX4617の出土。26は体部下半の破片で、口縁部を欠くことからII Ad類の壺とした。外面は回転へラケズリ後ナデで、内面はナデによる。高台は「八」字形を呈し、内端部で接地する。高台径は9.0cmに復元した。漆膜の大半が剥落しているが、色調は焦げ茶色を呈する。SD3939の出土。27は肩部破片であるが、II Ab類の平瓶として実測した。外面には灰が厚く被るが、カキ目(7条/cm)による。内面の漆膜は上部が焦げ茶色で、下半部は黒色を呈する。また、外面及び破面にも漆膜が付着している。SB3945柱掘方の出土。28は胴部小片であるが、

外面格子目タタキ，内面円弧当て具痕がみられることからⅡ Ac 類の甕とした。漆膜は焦げ茶色を呈し，剥落した箇所は黒っぽく変色している。

29は土師器甕の頸部付近の破片。土師器甕の運搬具は珍しいが，Ⅱ Bc 類とした。肉厚の器形で，口縁端部を欠くが，小さく外反しよう。内外面ともナデによる。頸部内面に焦げ茶色の漆膜が遺存している。SK3908 の出土。

Ⅲ類 (30・31)

Ⅲ類は漆器模倣品で，2点出土している。

30・31は土師器の椀で，内面のみに黒漆を平滑に塗布していることからⅢ B2 類とした。30の高台は低く，断面三角形を呈し，高台径は6.8cmに復元した。31の高台は30に比して高めで，高台径は8.4cmに復元した。高台内には板状圧痕を留める。30が96次灰褐土，31はSD2817の出土である。

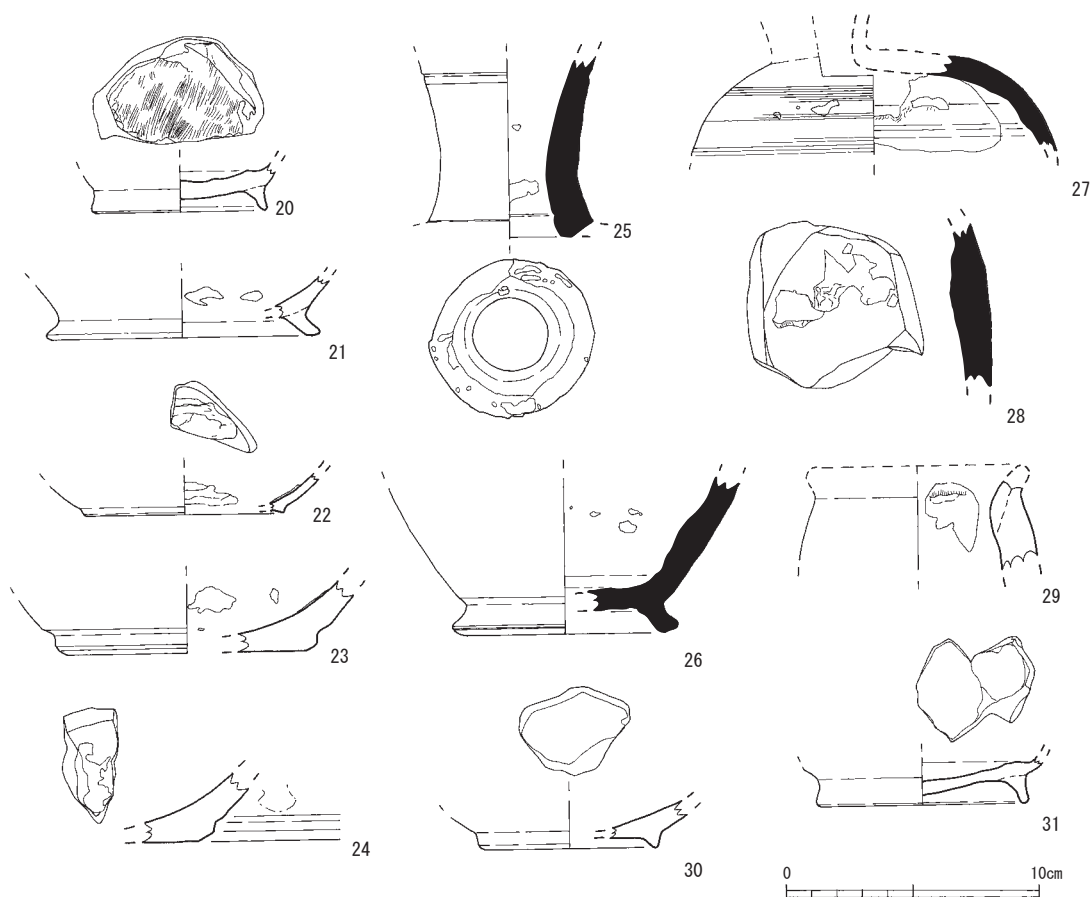


Fig.81 漆附着土器実測図② (1/3)

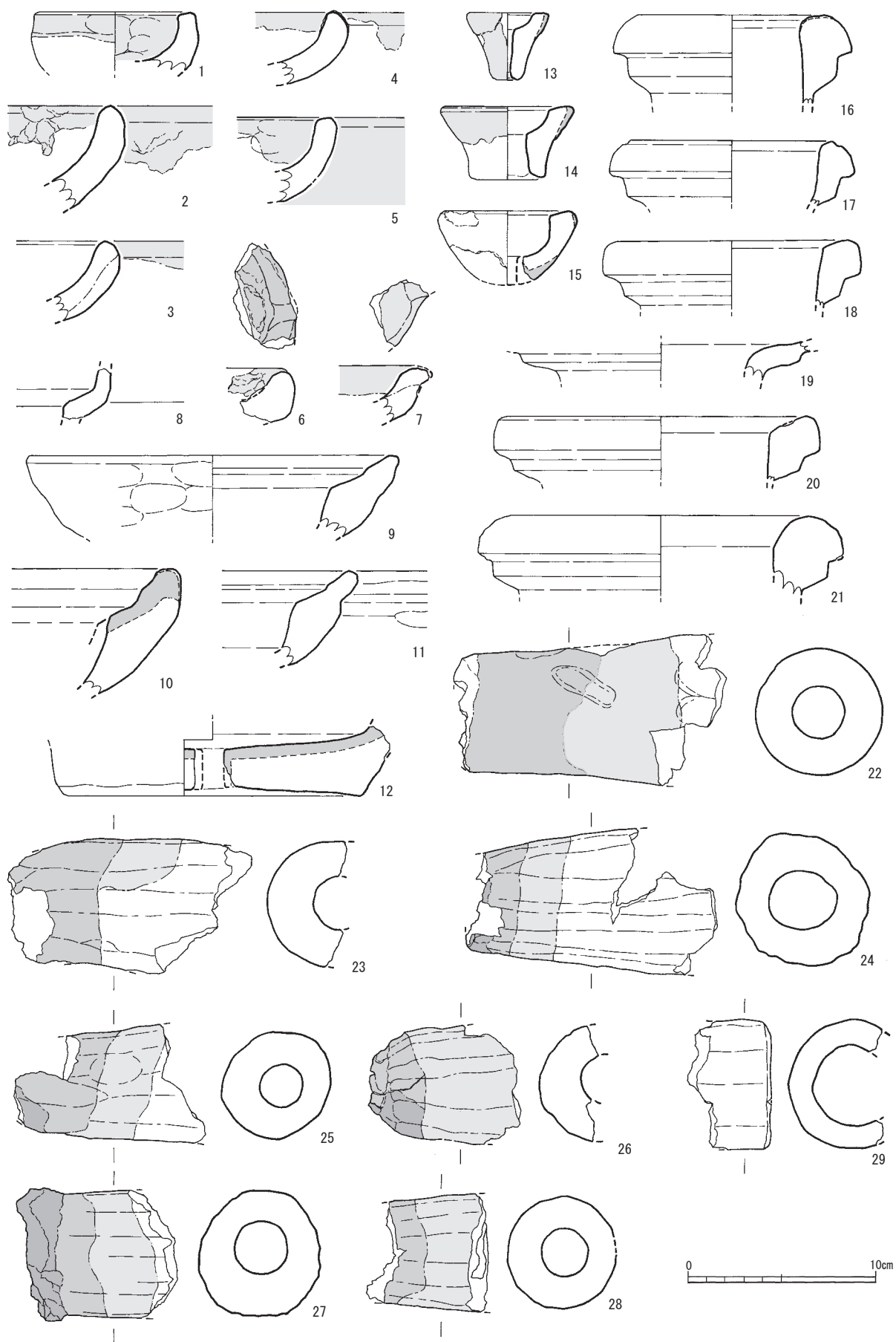


Fig.82 鍛冶・鑄造関連遺物実測図① (1/3)

3) 鍛冶・鋳造関連遺物 (Fig.82・83, Tab.28, PL.45・46)

広丸地区でも、ほかの政庁前面官衙地区と同じように、鍛冶・鋳造関連とみられる遺物が出土した。量的にはさほど多くはないが、ほとんどは破片資料である。出土した調査区や遺構などには比較的まとまりがみられるようで、特に 133 次調査 SX3919 とその周辺からは鋳型など多くの鋳造関連の遺物が出土している。

ここでは、広丸地区官衙跡の各調査区から出土した鍛冶・鋳造関連遺物についてまとめて報告する。

① 坩堝・取瓶 (Fig.82-1～7)

既往の報告書でも述べているように、破片資料である場合に坩堝と取瓶を見分けることは難しく、ここでは「坩堝・取瓶」として一括して報告する。

1 は復元口径 9.0cm, 残高 3.3cm である。器壁はナデ調整で仕上げ、口縁部は断面方形とする。口縁部上面と外面端部のみ被熱による還元がみられる。2 はやや器壁が厚く、口縁端部は丸く収める。口縁部の内外に銅滓が付着しているが、緑青はみられない。3 は 2 に比べて少し浅い皿状になると推定される。内面から口縁端部外面にかけて被熱を受けて、還元している。4 は 3 に似るが口縁部を断面三角形状につまむ。口縁部内外面に薄く滓が付着している。5 は口縁部が上方に強く内湾し、内面のみ被熱による還元が認められる。

6・7 は片口部が遺存している個体である。6 は内面に銅滓が付着しており、一部緑青がみられる。内外とも強い被熱により青灰色に還元している。7 は滓の付着はみられないが、内面から口縁端部外面にかけて被熱による還元がみられる。

② 鋳型 (Fig.82-8～21)

出土した鋳型は内型と外型がみられ、他にも図示できないほど小片になっている真土も出土している。点数は大宰府政庁周辺官衙跡の中でも少ない方ではないが、その多くはほとんど同じ形態の鋳型になるようで、種類は豊富ではない。ここでは比較的形状をよく残している資料について報告する。

外型

8 は内面が被熱しているため外型とみられるが、他の個体に比べて薄手である。胎土は精良である。9～11 は同一個体であるかは別として、同形品の外型である。9 は内径 18.9cm を測り、底部は丸味のある平底となるか。外面はナデ調整で、内面には屈曲面が認められる。胎土はやや粗く、仕上げ真土は剥離している。10 も内面に屈曲する段が 2 段認められるが、この部分は仕上げ真土が遺存している。外型の胎土は粗い。11 は形態的に 9 と似ているが、口縁部外面の少し下に細い縄等で固定するための凹みがめぐる。12 は唯一の底部片で、やや上げ底気味の平底である。胎土には若干粉殻が混じる粗真土で、内面には仕上げ真土が遺存している。底外径 16.0cm である。

内型

13～15 は小型品の内型である。13 は最大径 4.4cm, 高さ 3.6cm で、外面の一部に真土が残るが、中真土とみられる。内面は浅椀状を呈し、中央に径 6mm 程度のガス抜き孔がある。14

は 13 よりも一回り大きく、最大径 7.2cm、高さ 3.5cmを測る。外面上半に中真土の一部が残る。内面は椀状に窪み、中央に径 2cmほどのガス抜き孔がある。15 は、全体が厚い椀状を呈し、外面の上端と下半部に真土の一部が残る。最大径は 7.6cmで、高さは 4.0cmに復元できる。

16～21 は同形品の内形であるが、復元される口径からすると大・中・小の三段階程度の法量差が存在するようで、16～18 が小型、19・20 が中型、21 が大型に分類できる。

16 は最大径 13cmを測り、外面に段が 2 段ある。上端に中真土の一部が残るが、仕上げ真土は全く残っていない。17 は 16 よりも薄手で、最大径 13.2cmを測る。外面の真土は全て剥離している。18 は最大径 14.0cmで、中真土・仕上げ真土は全て剥離している。胎土は粗い。19 は薄手であるが、16 などの内型と同様の製品の鋳型とみられ、外面に少し被熱の痕跡が認められる。20 は最大径 17cmで、胎土が粗く、真土は全て剥離している。21 は出土資料の中で最も径が大きく、厚みもあり、最大径 19.7cmを測る。胎土は非常に粗く、外面の真土は全て剥離している。

③ 羽口 (Fig.83-22～29)

広丸地区官衙跡では小片も含めると 180 点の羽口が出土している。

22～28 は羽口先端部側の資料である。22 は残存長 14.7cm、内径 2.8cmで、外面はナデ調整で整える。23 は残存長 13.1cm、内径 2.9cmで、先端が少し曲がっていて、被熱による変色の在り方から下方に向かって曲がっていることがわかる。外面はタテ方向のナデ調整を行う。24 は残存長 13.5cm、内径 3.1～3.6cmで、外面はタテ方向に強いナデ調整を行い、先端の一部に滓が付着する。25 は残存長 10.2cm、内径 2.3cmで、外面はタテ方向のナデ調整を行う。26 は残存長 8.2cmで、内径は 2.7cm程度と推定される。外面はタテ方向の強いナデ調整を行う。27 は残存長 11.5cm、内径 3.6cmで、先端部に滓が付着する。外面はタテ方向のナデ調整である。28 は残存長 6.6cm、内径 2.5cmで、外面はタテ方向の強いナデ調整を行う。先端側は薄い皮膜状に滓が覆う。

29 は数少ない羽口基部の破片資料で、残存長 4.5cm、内径 4.3cmを測る。基部付近の破片ということもあるが、他の資料よりも薄手である。外面はタテ方向のナデ調整を行い端面は平坦にナデ仕上げされている。

④ 炉壁 (Fig.83-30～33)

いずれも炉壁内側の破片である。30 は内面全面に、炉壁の溶損に伴う厚さ 5mm程度の滓が付着しており、その色調は黒色を呈する。胎土は粗く、断面をみると全体的に明灰色で、上部は青灰色に還元している。31 も溶損に伴う厚さ 5～10mm程度の黒色の滓が、垂れ下がるように付着する。炉壁自体は赤紫色を呈し、外側は橙褐色を呈する。32 は厚さ 3mm程度の薄い滓が内面全体に付着する。断面をみると中央部は被熱により発泡化し、外側も灰色で還元しており、30・31 よりも高温化に置かれたことが窺える。33 は内面全面に、炉壁溶損に伴う滓が垂れ下がるように薄く付着している。下半部の破面には粗砂を含む胎土がみられ、炉床土が付着している可能性がある。

⑤ 滓類

椀形滓 (Fig.83-34～41)

いずれも磁着のある椀形滓で、似通った大きさであるが、40 のみ一回り大きい。

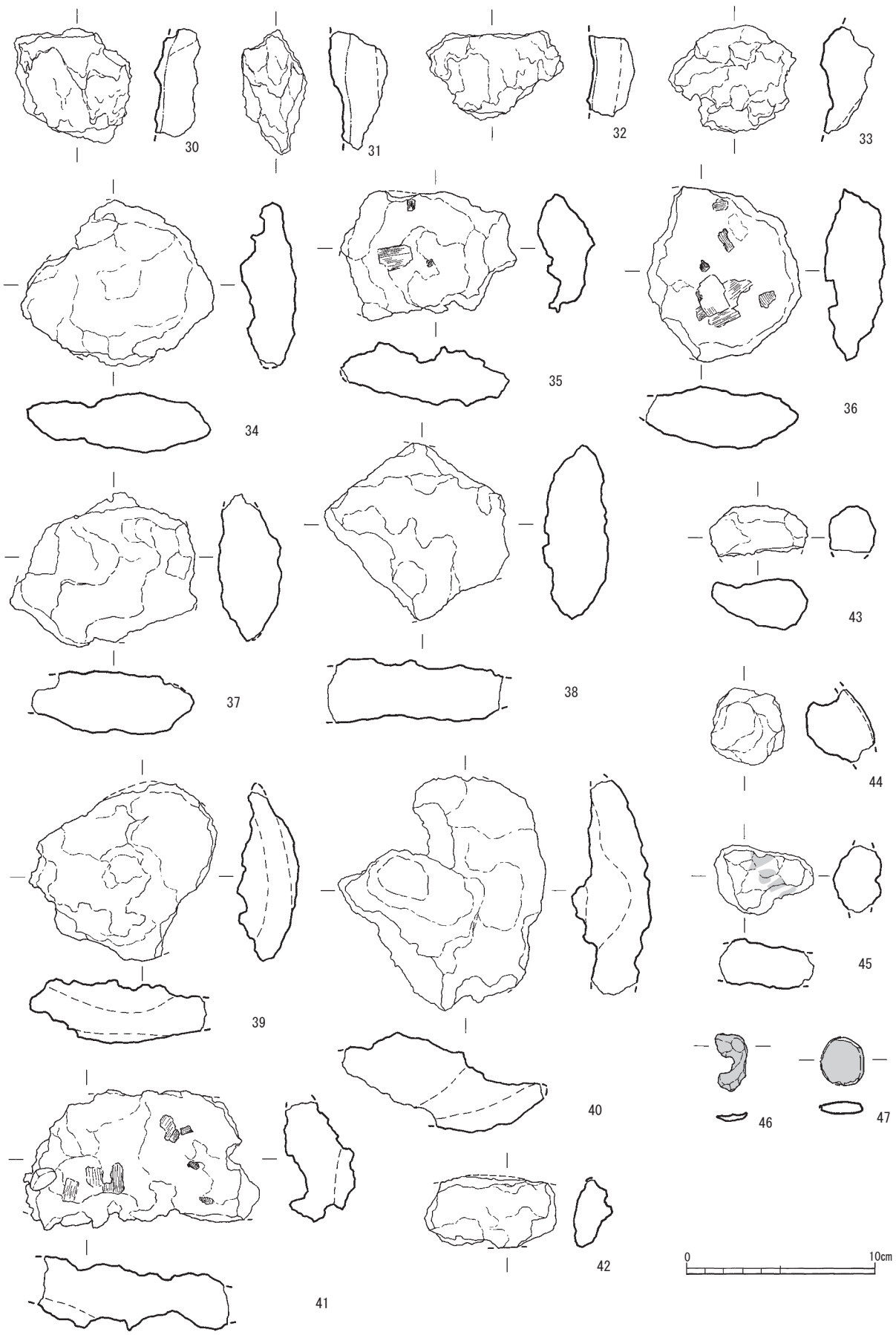


Fig.83 鍛冶・鑄造関連遺物実測図② (1/3)

34 は長さ 10.4cm で、幅は 8.9cm と推定される。底面は浅い皿状を呈する。重さは 280.4g である。35 は長さ 9.5cm、幅 7.0cm で、底面はやや凹凸があるが浅い皿状を呈する。上面には少量ながら木炭がみられる。重さは 192.5g である。36 は長さ 8.3cm 以上、幅 9.2cm を測り、底面は浅い皿状を呈する。上面には 1cm 未満の木炭片が付着するが、2cm 大の木炭痕もみられる。重さは 186.7g である。37 は長さ 10.0cm、幅 8.0cm 以上を測り、底面は整った浅い皿状を呈する。上面はやや左から右に向って動いた痕跡があり、左側に羽口があったとみられる。重さは 237.2g である。38 は長さ 9.9cm 以上、幅 9.3cm 以上で、横断面はレンズ状を呈するが、縦断面は平坦であることから、やや長い形態であったとみられる。重さは 468.6g である。39 は長さ 10.1cm 以上で、幅は 9.5cm 程度と推定される。破面の観察から三層程度の重層が確認できる。重さは 387.8 g である。40 は長さ 11.1cm、幅は 12.6cm 以上である。上面中央が盛り上がるように、大きく三層程度の重層が認められ、底面には炉床土が付着している。重層の様子からすると、左手が羽口側になるのか。重さは 328.5g である。41 は細長い形状をなし、流動滓の可能性もある。長さ 12.7cm 以上、幅 7.5cm 以上を測る。上面には木炭の付着が目立ち、若干重層しているようである。重さは 379.4g である。

流動滓 (Fig.83-42)

42 は長さ 7.1cm 以上、幅 3.5cm 以上の細長い形態を呈し、両端は破面となっている。表面は全体に金属質で、上面は緩やかに流れた痕跡がみられ、底面の横断面形は浅い皿状を呈する。磁着がある。重さは 73.7g である。

鉄塊系遺物 (Fig.83-43・44)

いずれも前述の椀形滓などよりも、磁着の程度が強く、法量の割に重量感がある。

43 は長さ 5.3cm、幅 2.7cm の破片資料で、重さ 49.8g を測る。ほぼ全面が破面とみられるが、側面の 1 つの割れは非常に新しい。44 は底面に薄く炉床土が付着する破片資料で、底面が弧を描いており、炉内滓状を呈するが、ガス孔などは確認できない。長さ 3.9cm、幅 4.1cm、重さ 58.2g を測る。

銅滓 (Fig.83-45～47)

いずれも鑄銅工程に伴う銅滓とみられる。

45 は長さ 5.3cm、幅 3.7cm、重さ 97.0g を測る。側面は全て破面で、側面の一部と上面にかけて部分的に緑青が吹いている。磁着があるが、それほど強くはない。46 は不整形な半弧状を呈し、長軸 3.1cm、短軸 1.7cm、重さ 6.7g を測る。上面がややくぼみ気味で、底面はわずかに丸味を帯びる。全面に緑青が吹いている。47 は直径 2.3～2.6cm、厚さ 0.7cm の小円盤状を呈し、重さは 16.5g を測る。両面とも緑青がみられる。銅滓としたが、整った形状をなしており、銅塊であろうか。

(4) 白色物質付着土器 (Fig.84, Tab.29, PL.47)

大宰府史跡の調査では、まれに、主に土器類の内面に白色の物質が固着している資料が出土する。既刊の『不丁地区一遺物編2一』でも述べているように、簡易的な蛍光X線分析により鉄(Fe)とアルミニウム(Al)を検出し、平城宮跡や藤原宮跡の類例も踏まえて、小便に由来する固着物の可能性も指摘されている。今後も科学的な手法を含む調査研究が必要であろう。

白色物質付着土器は、広丸地区官衙跡では8点が出土しており、うち1点はFig.84-1と同一個体とみられることから、7個体分が出土したことになる。

1は須恵器横瓶で、既述のように同一個体とみられる破片が1点ある。残存率が1/3程度であるため、とくに体部の法量については不明であるが、口径9.5cm、器高28.6cm、横幅27.2cm程度に復元できよう。外面は平行タタキの後、粗いナデで仕上げ、側面は回転ナデを行い、粘土円盤を貼り付けた部分はナデで仕上げる。内面は青海波の当て具痕が顕著で、側面に近い部分は回転ナデ調整を行う。粘土円盤はコビオサエで接合している。96次灰褐土出土。

2は須恵器の小片で、調整の在り方から横瓶の胴部片と考えられるが、1とは明らかに別個体である。焼成は堅緻で、胎土は精良である。色調は外面が暗灰色、内面はにぶい赤紫色を呈する。内面の青海波当て具痕と回転ヨコナデの在り方から胴部と側面との境付近の破片であることが窺える。外面をみても回転カキメと不定方向のカキメの範囲があり、前者は内面の回転ヨコナデの範囲と対応しており、部位の認定は蓋然性があると考えられる。白色物質は内面の当て具痕のへこみ部分を中心に固着しており、それ以外にも点々と固着する。同じ横瓶の1の固着状況をみると、体部でも下半部の破片かもしれない。175次の遺構検出時の出土。

3は須恵器壺の体部下半の破片である。焼成は良好で、胎土は密である。色調は外面が暗灰色、内面が明灰色を呈する。外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ヨコナデで仕上げる。白色物質は内面に広く点在する。133次の井戸SE3910出土。

4は須恵器壺の底部小片である。焼成は良好で、胎土は密である。色調は外面が灰色、内面が褐灰色を呈する。調整は、外底面がナデ、体部外面と内面は回転ヨコナデである。白色物質は内面のみに、やや面的に薄く固着する。133次の井戸SE3910上層からの出土。

5は須恵器壺底部片で、底径12.6cmを測る。焼成は良好で、色調は青灰色を呈する。体部外面は平行タタキの後、回転ヘラケズリで仕上げ、外底面は板状圧痕が顕著で、糊圧痕も認められる。体部内面は回転ヨコナデ、内底面は指オサエで仕上げる。白色物質は内面にやや分厚く固着している。193次のSX4617出土。

6は須恵器甕の胴部片で、外面の一部が顕著に磨滅していることから、底部片であろう。焼成は良好で色調は明灰色を呈する。外面は格子タタキの後、粗いナデで仕上げ、内面は青海波の当て具痕が残り、底部の中心側はナデを行う。白色物質は内面に薄く面的に固着している。96次灰褐土出土。

7も須恵器甕体部の小片である。焼成は良好で、色調は灰色を呈する。外面は格子タタキの後、粗いケズリを行い、内面は青海波の当て具痕が明瞭である。白色物質は当て具痕の凹み部分に固着している。96次炭層からの出土。

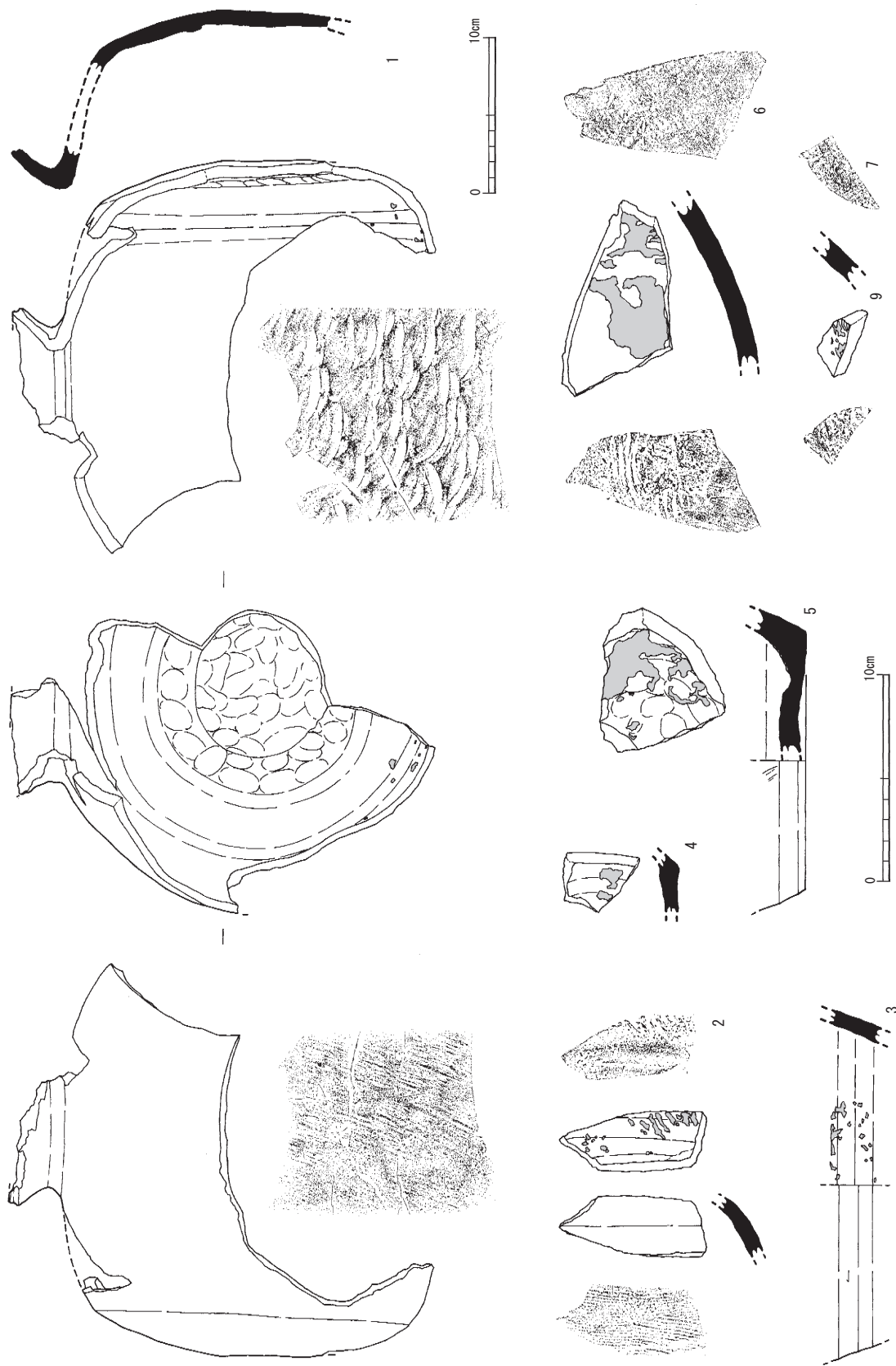


Fig.84 白色物質付着土器実測図 (1は1/4, ほかに1/3)

第IV章 総括

(1) 遺構とその変遷

本章では、「広丸地区遺構編」において報告した遺構の調査成果をもとに、広丸地区官衙の変遷と官衙の性格について言及する。なお、正式報告書の作成に際しては、すべての出土遺物の吟味及び遺構の検討を行った上で報告している。よって、今次報告と概報段階での見解が大きく異なる場合が生じるが、今回の正式報告書をもって最終見解とする。

1) 官衙の四至

前回の「大楠地区総括・図版編」では、SD530を広丸地区官衙との境界溝と仮定し、大楠地区官衙は2区画分を占めるとした。しかし、後述する通路側溝とみられるSD2785・2786の心は大楠官衙との境界をなすSD2680から135mの距離にあり、これは官衙3区画分(270m)の半数となることから、大楠地区官衙は1区画分(幅約90m)で、広丸地区官衙は3区画分を占めると訂正しておく。

広丸地区
官衙の範囲

この広丸地区官衙の東縁と仮定したSD530西肩部から90m西側の箇所には、南北SD2840が位置する。また、SD2680の後継境界溝SD2700から87m西側には南北溝SD3939があり、そこから87m西側には南北溝SD2834が位置する。ただ、SD530を除き溝幅が1m程で、浅いこともあってか、南側には延伸していない。西縁は御笠川の氾濫原となっており、南北溝等の区画施設は確認しておらず、官衙域の西限は判然としないが、SD2680から3区画分(270m)の位置に境界施設の存在を想定できる。北縁は来木地区官衙と接するとみられるが、両者の境界は定かではない。ただ、蔵司地区官衙南端には、東西方向の築地SA1410があり、その西側延長線上に境界を設定することは可能である。南縁に関しては、朱雀門礎出土地点から東西方向に延長した線(区画施設の推定線)が想定でき、その距離は約230mを測ることから、南北はおおよそ2区画半になる。

2) 建物・主要遺構の配置

広丸地区官衙においては、地区の北半部を主体に大小30棟の掘立柱建物を確認しているが、南西部は御笠川の氾濫原となっており、遺構は存在しない。また、94次(大楠)調査地と137次(広丸)調査地との60m間は未調査であり、建物本来の数はもっと増えるものと思われる。しかし建物同士の切り合いは少なく、他の前面官衙に比して閑散とした状況が窺える。

地区の東側においては、区画溝SD3939と重複して南北棟建物SB3940が位置し、SB3940→3945→3950へと変遷する。SD3939とSD2840の間には、東端に竪穴住居SI4220を囲むようにSB4225が位置し、またSB4556とも重複する。その5m西側には東西棟建物SB4550Aがあり、SB4550A→4550B→4551→4552と変遷するが、建物規模は小型化していく。さらに南側にも東西棟建物SB4555が位置する。SB2830は区画溝SD2840の9m西側に位置し、その7m南側に位置するSB2825とでL字形の配列をなす。

区画溝SD2840の7m西側には二面廂建物SB4000があり、先のSB2830との間に片廂建

二面廂建物

物かと思われるSB2835が占地する。SB4000の南側には2×3間程度の小型建物SB3995・

3996・3997・3998・3999 が位置し、井戸 SE2845 を伴う。区域の西端には四面廂建物 SB4340 と総柱建物 SB4200 が存在する。また、区域の南東部にも井戸を伴う小型建物 SB3925・3905（133 次）、SB3968（138 次）、SB4078（152 次）が占地している。

重複関係（→：切り合い（古→新）、⇔：重複）

SB2820 → SK2841 → SD2843
SD2760 → SB2825 → SA2822
SD2840 → SB2835, SA2831 → SB2830 → SA2829
SB2842 ⇔ SA2856・2869 ⇔ SD2833・2810
SD3921・3922 → SB3925 ⇔ SK3913・3924
SD3941 → SB3940 → SB3945 → SB3950 → SD3939
SD4001・4004 → SB3995 → SB3996 → SB3997
SB3998 → SB3999, SB4130 ⇔ SD4118・4121
SI4220 ⇔ SB4225 ⇔ SB4556
SB4340 → SD4335, SB4554 ⇔ SA4597
SB4550A → SB4550B → SB4551 → SB4552
SD4542 → SA4558 → SB4555 ⇔ SA4557・4595
↘ SB4553 ⇔ SA4596

建物・柵方位

- ①北及び北から東に 30 分振る建物：SB2820・3998・4550B
- ②北から東に 1 度～1 度 30 分振る建物・柵：SB3940・3945・3995, SA2831
- ③北から東に 2 度～3 度振る建物・柵：SB2825・2830・2835・2842・4130・4200・4552・4555・4556, SA2822・4597
- ④北から東に 4 度～5 度振る建物・柵：SB3958・3996・4000・4225・4551, SA2793・2856・2869・3912
- ⑤北から東に 6 度 30 分～7 度振る建物・柵：SB3997, SA2792
- ⑥北から東に 8 度 30 分～9 度 30 分振る建物・柵：SB4340・4553, SA3914・4595・4596
- ⑦北から東に 11 度振る建物：SB4598
- ⑧北から東に 38 度振る柵：SA4594
- ⑨北から西に 30 分～1 度振る建物・柵：SB3950, SA4211・4557・4593
- ⑩北から西に 2 度振る建物：SB4554
- ⑪東から北に 30 分～1 度振る建物・柵：SB3999, SA4128
- ⑫東から南に 1 度～1 度 30 分振る柵：SA3946・4127
- ⑬東から南に 2 度～2 度 30 分振る柵：SA2829・3947・4126・4558
- ⑭東から南に 4 度振る建物：SB3925
- ⑮東から南に 5 度 30 分振る柵：SA4116
- ⑯東から南に 7 度振る建物：SB3905・3997

以上、16 の方位がみられるが、大別すると A:北から東に 0～3 度振る建物・柵（①～③）、B:

北から東に 4～7 度振る建物・柵 (④・⑤), C:北から東に 8 度 30 分～9 度 30 分振る建物・柵 (⑥), D:北から東に 11 度振る建物 (⑦), E:北から東に 38 度振る柵 (⑧), F:北から西に 30 分～2 度振る建物・柵 (⑨・⑩), G:東から北に 30 分～1 度振る建物・柵 (⑪), H:東から南に 1～2 度 30 分振る柵 (⑫・⑬), I:東から南に 4～5 度 30 分振る建物・柵 (⑭・⑮), J:東から南に 7 度振る建物 (⑯) に分けられる。

出土遺物

次に出土遺物からみよう。SB2825 は柱掘方が円形に近い隅丸方形を呈し、掘方からは 8 世紀中頃の須恵器鉢と後半の坏蓋が出土しているが、築造時期は 8 世紀中頃とみられる。同建物と重複する柵 SA2822 からは 6 世紀後半の須恵器坏蓋・身が出土しているが混入品で、Fig.12-4・5 が柵の時期を示す。SB2825 の 7m 北側に位置し、同建物と柱筋を揃える SB2830 からは土師器甕が出土しているのみであるが、SB2825 と同時期におけよう。SB2830 の 3m 西側に位置する SB3835 の掘方は円形を呈し、9 世紀後半頃の土師器碗・皿が出土している。また、SB2835 の 4m 西に位置する SB4000 は二面廂建物で、柱掘方は隅丸方形を呈し、梁行中央掘方からは 8 世紀中頃の須恵器蓋・有高台坏が、身舎の東側隅柱から 2 番目の柱掘方からは土師器碗とともに黒色土器碗・白磁壺・青磁碗が出土しているが、これらは掘方と重複する別土坑(概報では SK3915)の出土品である。SB2842 の柱掘方は径 0.5m ほどの円形を呈し、土師器坏・碗・丸底碗、黒色土器 A 類碗が出土しており、10 世紀中頃におけよう。

広丸地区官衙の南東端部に位置する SB3905 の柱掘方からは須恵器坏蓋・坏、土師器皿が出土しており、8 世紀中頃と考えられる。そのすぐ南に位置する SB3925 柱掘方からは 8 世紀後半頃の土師器坏・鉢・甕と 9 世紀後半頃の土師器碗、黒色土器碗が出土しているが、建物規模が 2×3 間で、柱掘方は径 0.4cm ほどの円形を呈することから 9 世紀後半の築造と考えられる。また、同建物の 2m 東側に位置する SE3910 からも同時期の土器が出土している。

SB3940 は区域の北東部に位置し、SB3940 → 3945 → 3950 と前後関係を有する。出土土器から SB3940 が 8 世紀前半、SB3945 が 8 世紀中頃、SB3950 が 8 世紀末とみられる。これらの建物を切る区画溝 SD3939 からは 8 世紀中頃の土器が出土しているが、大楠地区官衙との西限をなす境界溝 SD2700 と対をなすことから 9 世紀代の掘削としておきたい。

SB3995・3998 は 2×3 間規模の小型建物で、柱穴からの出土遺物はないが、SB3995 の 2m 東側には 9 世紀後半の井戸 SE2845 があり、両者は密接な関係を有するものと考えられる。また、SB3995 に後出する SB3996・3997 の柱穴からは 10 世紀中頃の土器が出土している。SB4130 は 1×2 間の小型建物で、柱穴からは 9 世紀後半頃の土師器坏・碗が出土している。

区域の西側に位置する SB4200 は 3×2 間以上の総柱建物で、柱掘方は円形を呈し、土師器坏の底部破片が出土しているが、8 世紀後半か。SB4340 は広丸地区官衙における唯一の四面廂建物で、柱掘方からは 8 世紀後半の須恵器坏蓋が出土している。

SB4550A は東西棟建物で、4550A → 4550B → 4551 → 4552 と前後関係を有する。SB4550B の柱掘方からは 8 世紀前半～後半の土器が、SB4551 の柱掘方からは 8 世紀中頃～後半の土器が出土しているが、SB4550A・B の柱掘方は方形を呈し、SB4551 のそれは円形に近い隅丸方形を呈する。SB4552 に至っては円形を呈することからみて、SB4550A が 8 世紀前半頃で、SB4550B を 8 世紀中頃、SB4551 を 8 世紀後半、SB4552 を 9 世紀前半の築造と

しておきたい。SB4553は身舎2×3間の片廂建物であるが、建物方位は四面廂建物SB4340に近いことから9世紀前半頃であろうか。SB4555はSB4550Bの2m南側に位置する東西棟建物で、柱掘方は円形に近い隅丸方形を呈し、8世紀後半頃の須恵器が出土している。SI4220は8世紀中頃の竪穴住居で、それを囲むSB4225を関連施設とみると同時期と考えられよう。

3) 広丸地区官衙の変遷

I期(8世紀前半～8世紀末)

I a期: SB3940・4550A, SX 3959(足場), SD530?

I b期: SB2825・2830・3905・3945・4000・4550B・4620, SD540・2785・2786・4345, SE3955, SI4220

I c期: SB2820・3950・4200・4340・4551・4555, SD2810・2840, SA2822, 4211

I期は大楠地区官衙との境界溝SD2680の存続時期で、I a期を8世紀前半、I b期を8世紀中頃、I c期を8世紀後半～とした。大宰府政庁Ⅱ期の前半に該当する。

8世紀前半 I a期は広丸地区官衙の萌芽期で、区域の北東側に桁行8間以上の南北棟建物SB3940と中央部に東西棟建物SB4550Aが配される。なお、SX3959はSB4550Aの建設に伴う足場穴である。SD530はSD2680から西に約82mの地点にあり、SD2680と対をなすとみられる境界溝と想定したが、調査範囲が狭く、また西に湾曲していることから確証はない。

8世紀中頃 I b期は広丸地区官衙の発展期で、地区の北側に建物群が展開する。SD540は東西方向の溝で、不丁・大楠地区官衙で検出された東西方向の区画溝SD2350の西延長部にあたり、広丸地区官衙を南北に分割する区画溝とみられる。また、SD2785・2786は8世紀中頃の南北溝で、両者は6～7mの間隔で並走することから街路側溝の可能性が高く、SD2680との心々距離は135mであり、ちょうど3区画分の中央に位置することになる。ただ、その北側延長部には建物群が存在することから、北端はSD540との接続部で終焉するものとみられる。

建物は東側から桁行6間の南北棟建物SB3945、片廂の東西棟建物SB4550B、桁行7間以上の東西棟建物SB2825、南北棟建物SB2830、両面廂建物SB4000が並び、SB2825と2830はL字形に配される。SB3950の北側にはSB3958とそれに伴う井戸SE3955がある。SB3945とSB4550Bとの中間には、竪穴住居SI4220とSB4225が位置する。SB4225は概報段階ではSI4220を囲む柵としたが、その後の調査で梁行4間×桁行5間に復元される建物と判明したが、柱穴は径0.4m程で、柱間は1.4～1.7mと狭く、SI4220に伴う区画施設の可能性が考えられる。また、SB3958は1×1間規模で、竪穴部を削平された竪穴住居になるか。

当該期で注目されるのが東西溝SD540を境にした土地の利用状況である。SD540以北では大規模建物が展開し官衙の様相をみせるが、SD540以南においては官衙建物と言える大規模な建物は存在せず、小規模建物・溝・柵・土坑が存在する程度で、空閑地的な様相を呈する。

8世紀後半 I c期は官衙の拡充期で、前期に引き続き地区の北側に建物群が展開する。また、境界溝SD2680から2区画分西側の位置には玉石敷きの南北溝SD2840があり、SD2680・530・2840とで広丸地区官衙を3分割する。ただ、SD530は不確定要素が多く、SD2680と2840との間は一続きのエリアであった可能性を有する。SB3945の跡地にSB3950が、同じくSB4550Bの跡地にSB4551が建て替えられ、SB4551の東側にSB4556が、同じく南側に東

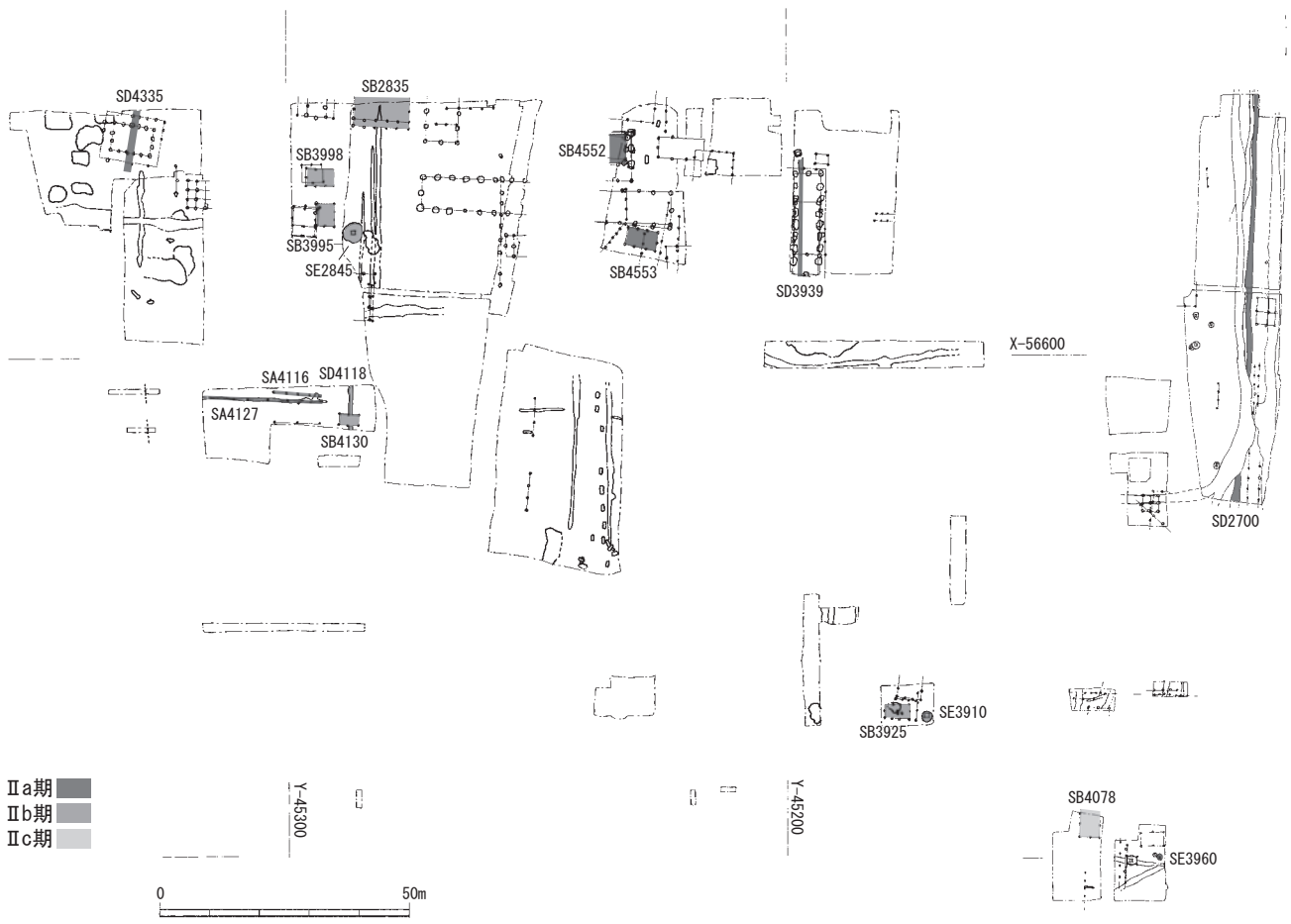


Fig.85 広丸地区官衙変遷図① (1/1,500)

西棟建物 SB4555 が配置する。四面廂建物 SB4340 と総柱建物 4200 は、SD2840 から 30 ～ 40 m 西側に位置し、一つのエリアを形成している。

II 期 (9 世紀前半～ 10 世紀前半)

II a 期：SB4552・4553, SD3939・4335

II b 期：SB2835・3925・3968・3995・3998・4130, SA4116・4127, SD4130, SE2845・3910

II c 期：SB4078

9 世紀前半
～
10 世紀前半

II 期は大楠地区官衙との境界溝 SD2700 の存続時期で、II a 期を 9 世紀前半～中頃、II b 期を 9 世紀後半～ 10 世紀初頭、II c 期を 10 世紀前半とした。大宰府政庁 II 期の後半に該当する。地区の東側には境界溝 SD2700 と対をなす区画溝 SD3939 が建物廃絶後に開鑿され、そこから西に 87 m の位置には南北溝 SD2834 が、ちょうど 90 m の位置には SD4118 が開鑿されるが、同溝は SB4130 と重複しているものの SB4130 にやや先行するか。

当該期から官衙は衰退期に入り、II a 期の建物としては SB4551 の跡地に SB4552 が、SB4555 の跡地に SB4553 が築造される程度である。次の II b 期には地区の北西部と南東部に建物が展開する。SB2835 は当該期で唯一大規模な片廂建物であり、その 8 m 南側には井戸 SE2845 を伴う 2 × 3 間規模の小型建物 SB3995・3998 が L 字形に配列する。地区の南東側には井戸 SE3910 を伴う 2 × 3 間規模の小型建物 SB3925 が位置する。III c 期には地区の南東部に SB4078 が築造されるのみで、北半部に新たな建物は築造されていない。



Fig.86 広丸地区官衙変遷図② (1/1,500)

Ⅲ期（10世紀中頃～11世紀前半）

Ⅲ a 期：SB2842・3996・3997

Ⅲ b 期：SB3999

Ⅲ期は境界溝 SD2700 の後継と考えられる SD2705 の存続時期で、Ⅲ a 期は 10 世紀中頃～後半、Ⅲ b 期が 10 世紀後半～11 世紀前半とした。大宰府政庁Ⅲ期の前半に該当する。Ⅲ期の建物は区域の北側にみられるが閑散としており、規模も小規模であることから、もはや官衙と呼べるものではなく、居宅的な様相を呈する。

Ⅲ a 期の SB2842 は片廂建物としたものの、桁行は 1 間分の検出であり、詳細はわからない。その北側には 2 × 3 間規模の SB3996・3997 が位置する。なお、SB3997 は 3996 の建て替えである。Ⅲ b 期の SB3999 はⅢ a 期建物 SB3997 の 5m 北側に位置する 2 × 2 間規模の倉庫的建物で、SB3997 と同時併存していた可能性がある。広丸地区官衙における最終期の建物で、これ以降建物は姿を消す。

Ⅳ期（11～12世紀代）

Ⅳ期：土壙墓・採土遺構

建物終焉後、広丸地区は墓地へと変容する。中でも SD2785・2786 間には 12 基の土壙墓が直線的に配列し、土壙墓群をなす。埋土中には須恵器・土師器片が含まれるもの SX2763 からは糸切りの土師器皿が出土しており、全てがそうでないにせよ、12 世紀代の所産とみたい。

黒灰色粘土を採掘した採土遺構は、広丸地区西側の 175 次調査区を中心に展開する。平面形は楕円形や土坑が連続した不定形をなす。一応、Ⅳ期としたが、埋土中には 10 世紀代あるいはそれ以降の遺物を包含し、掘削は 10 世紀に遡る可能性がある。大宰府政庁Ⅲ期建物に葺く瓦の製作に用いる粘土を採掘するために掘った穴であろうか。

（2）出土遺物からみた広丸地区官衙の特質

1) 文字関連資料

広丸地区官衙出土の文字関連資料としては、8 点の墨書土器と 6 点の刻書土器、および 57 点の定形硯と 68 点の転用硯を確認しているが、いずれも不丁地区官衙に比して極端に少ない。
墨書土器

墨書土器の大半が 175 次調査 SD4345（7 点）の出土であるが、他には SK4119 から 1 点、SX4334 から 1 点出土している程度である。また、96 次灰褐土からも出土している。墨書文字の内容的には、人名「乙□」「真主」、数字「十」を記しているが、広丸地区官衙の性格を特徴付けるものではない。

刻書土器

刻書土器も 6 点中 SD4345 出土が 4 点と大半を占めるが、SX4334 から 2 点出土している。内容的には「卍」「大」の文字を刻んでいるが、刻書土器からも官衙の性格は窺えない。

定形硯

広丸地区官衙においては、8～9 世紀代の定形硯 57 点を確認した。遺構的には SD4345 から 12 点、採土遺構 SX4347 から 6 点、SX4334 から 4 点、SX4344 から 3 点、SX4205 から

2点出土している。定形硯の内訳は、圈足円面硯 49点 (85.9%)、円形硯 5点 (8.8%)、単面風字硯 2点 (3.5%)、方形硯 1点であった。当官衙跡においても定形硯の大半を圈足円面硯が占めるが、円形硯も 8.8%と比較的高い数値を示す。また、定形硯の大半が須恵器であるが、黒色土器B類の単面風字硯は希有な例と言える。

転用硯

転用硯は 68点を確認した。遺構的には SD4345 から 7点、SX4617 から 4点、SK535 から 3点が多い部類であるが、建物 SB3940・3945・3950 の掘方からも各々 2点ずつ出土している。他は 95次灰褐土 (5点)、96次・同補足灰褐土 (8点) の出土が主なものであった。転用硯の内訳は坏蓋 41点 (60.3%)、甕 19点 (27.9%)、皿 4点 (5.9%)、坏 2点 (4.2%)、壺 1点、鉄鉢形 1点であり、坏蓋と甕が多い点は他の政庁周辺官衙跡と同様である。なお、陶硯総数に占める定形硯の比率は 45.6%であり、大楠官衙跡の定形硯比率 45.9%に比肩する。

文字関連資料は、区域東側の SB3940・3945・3950 付近と四面廂建物 SB4340 南側の東西溝 SD4345 に集中していることから、この二ヶ所が筆記実務を担当した部署と推測される。

2) 生産関連遺物

製塩土器

広丸官衙跡では、破片を含めた総数 177点の製塩土器を確認した。その内訳は、鹹水煎熬用の甕形土器 (I類) 33点・18.6%、型作りによる円筒形の土器 (II類) 41点・23.2%で、逆円錐形の土器 (III類) 103点・58.2%であり、III類が全体の約 6割を占める。遺構的には、SD4345 (65点)・SK533 (15点)・SE3910 (13点)・SX4617 (13点) が主なものであるが、中でも SD4345 が約 4割近くと際立っている。

漆附着土器

広丸地区官衙においては、総数 39点の漆附着土器と 2点の漆膜片を確認した。パレット (I類) としては、土師器坏が 8点 (20.5%)、須恵器有高台坏が 7点 (17.9%) と多用され、次いで土師器椀 (4点・10.3%)、須恵器坏蓋 (3点・7.7%) が用いられる傾向にある。漆液運搬具 (II類) には、須恵器平瓶が 3点の出土で、須恵器長頸壺・甕・壺が 1点ずつの出土。また、土師器甕が 1点出土している。漆器模倣品 (III類) には、土師器椀が 2点出土している。遺構的には SD4345 が 11点 (26.8%) と最も多く、SB3945・SD2760・SX4617 からは 2点 (4.9%) の出土で、他は 96-1次灰褐土・暗灰土、137次暗褐土等の包含層からの出土である。

(3) まとめ—成果と課題

今回注目した遺構が、29次調査 B Tr で検出した東西溝 SD540 である。不丁・大楠地区官衙を東西に貫く SD2350 の西側延長部に位置し、SD540 以北と以南では土地の利用形態が全く異なっており、溝の以北は官衙域と言えるが、以南は空閑地的様相を呈する。

次に注目されるのが、95次調査検出の南北溝 SD2785・2786 である。両者は 6～7m の間隔で並走することから通路側溝とみられ、大楠官衙との境界溝 SD2680 との心々距離が 135m を測る。この数値は、官衙一区画 (幅約 90m) の 1.5 倍にあたり、広丸地区官衙が 3

区画を占めていたとすると、丁度中心の位置に存在することになる。長さは30m程の確認であり、南端は削平を受けているが、恐らく御笠川まで延伸していたと推測される。この2点を重要視すると、SD540以北が官衙域であるが、陶硯の出土点数の多さからみて事務的官司に比することが可能である。しかし、SD540以南は空閑地的様相を呈し、その中央には御笠川まで延伸するとみられる通路が存在する。想像をたくましくすると、通路南端部の御笠川付近には船着き場が想定され、通路は種々の物資の搬入路であったとすることができよう。

広丸地区においては、掘立柱建物30棟、柵23列、区画溝14条、その他の溝19条、竪穴住居1軒、井戸3基、土坑72基、落込10基、鑄造遺構2基、採土遺構7基、土壙墓23基等を検出した。当地区は、従前より建物規模が他地区の建物と比して小規模であること、井戸を伴っていることから“官人居住域”とされてきた。しかし、前章でみてきたごとく、建物の規模・配列は官衙そのものであり、豊富な陶硯の存在は“官人居住域”とする評価を否定するものとなった。なお、広丸地区官衙の性格としては、当地区の北側には「匠司」に比定されている来木地区官衙（来木工房）が存在し、東西溝SD540までが一連の官司と捉えられる。そのように見ると、来木地区官衙が工房エリアで、広丸地区官衙が来木工房を統轄する事務的官司に比せられ、両者で「匠司」を構成するものと考えられる。

最後に、大宰府政庁は藤原純友によって灰燼に帰すが、その後再建されるものの政庁前面域に展開し大宰府の職制を担っていた日吉・不丁・大楠の官司群は姿を消す。広丸地区官衙も例外ではなく、府庁域には政庁Ⅲ期建物のみ存在するといった景観を呈する。もはや、大宰府Ⅲ期政庁を含めた府庁域は行政の場ではなく、政庁Ⅲ期建物は儀式を行うだけのシンボリックな存在へと変化したと推測される。

Tab.6 出土瓦一覽

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	注記	器種	型式等	掲載報告書	掲載図番号	登録番号
1	1	96	SE2845	VF57 S-73中層	軒丸瓦	066型式	S60概	P52 31図	16001
1	2	96	表土ほか	OP53 暗灰土	軒丸瓦	145 b 型式			16002
1	3	95	表土ほか	TB40 床土	軒丸瓦	223A型式			16003
1	4	166	SX4205	YF68 S-15	軒丸瓦	275A型式	H7概	P91 60図	16004
1	5	157	SD4121	QE62 S-5溝上層	軒丸瓦	275B型式	H6概	P44 27図	16005
1	6	96	SD2810	OR63 S-15	軒丸瓦	275B型式			16006
1	7	186	表土ほか	黄灰色土	巴文軒丸瓦		史跡II	P23 Fig.15-7	16007
1	8	95	灰褐色土	TC46 灰褐色土	軒平瓦	560B型式			16008
1	9	96	表土ほか	OG51 灰褐色土	軒平瓦	560B b ~C型式			16009
2	1	95	表土ほか	TD42 床土	熨斗瓦	縄目叩き			16010
2	2	175	SD4345	YH・YI 74・75・S-22埋土	熨斗瓦	縄目叩き			16011
2	3	29	SK533・SK534	CA1 S-1黒褐色土(土坑)	塼	無文			16012
4	1	193	SX4617	CA1 S-1黒褐色砂層	丸瓦	縄目叩き	史跡IV	P15 Fig.9-1	16013
4	2	96-2	SE2845	VF57 S-73井戸中(下層)	丸瓦	縄目叩き			16014
4	3	96-2	SE2845	VF57 S-73中層	丸瓦	縄目叩き			16015
4	4	96	表土ほか	VZ	丸瓦	格子目叩き			16016
4	5	96-2	SE2845	VF57 S-73中層	丸瓦	格子目叩き			16017
4	6	157	SD4123・SK4120	QE60 S-1・S-6	丸瓦	格子目叩き	H6概	P44 3図	16018
4	7	96	SD2828	VFD57 S-74	丸瓦	格子目叩き			16019
4	8	157	SD4123・SK4120	QE60 S-1・S-6	丸瓦	格子目叩き			16020
4	9	175	表土ほか	YO76・77 S-26灰色土	丸瓦	格子目叩き			16021
5	1	96-2	SE2845	VE58 S-73	平瓦	格子目叩き			16022
5	2	133	SB3925	NB21 S-27	平瓦	縄目叩き	H3概	図版69	16023
5	3	175	SD4345	YI75 S-22上層黒色土	平瓦	縄目叩き			16024
5	4	96-2	SD2800	VE54 S-86	平瓦	縄目叩き			16025
5	5	96	表土ほか	VZ	平瓦	格子目叩き			16026
5	6	193	表土ほか	CA1 S-1黒褐色砂層、D3 S-1 [^] 跡西黒褐色砂質土	平瓦	縄目叩き	史跡IV	P15 Fig.9-2	16027
5	7	175	SX4334	YN74 S-21下層	平瓦	格子目叩き			16028

Tab.7 掘立柱建物出土土器等一覽

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
6	1	96次	SB2825	VI48	S-1 柱穴	須恵器	坏蓋			1
6	2	96次	SB2825	VG50	S-11 掘方	須恵器	鉢	S60概	P43 24図 2	2
6	3	96次	SB2825	VI52	S-6 掘方	土師器	甕			3
6	4	96次	SB2830	VN50	S-20 掘方	土師器	甕	S60概	P43 24図 1	4
6	5	96次	SB2835	VM56	S-60	土師器	皿			18
6	6	96次	SB2835	VM56	S-41	土師器	皿			15
6	7	96次	SB2835	VM56	S-60	土師器	皿			19
6	8	96次	SB2835	VM56	S-56	土師器	坏身			6
6	9	96次	SB2835	VM56	S-60	土師器	坏身			20
6	10	96次	SB2835	VM55	S-62	土師器	椀	S60概	P44 25図 2	5
6	11	96次	SB2835	VM56	S-41	土師器	椀			13
6	12	96次	SB2835	VM54	S-63	土師器	椀			9
6	13	96次	SB2835	VM56	S-60	土師器	椀			16
6	14	96次	SB2835	VM54	S-63	土師器	椀			10
6	15	96次	SB2835	VM54	S-63	土師器	椀			11
6	16	96次	SB2835	VM56	S-56	土師器	椀			7
6	17	96次	SB2835	VM56	S-41	土師器	椀			14
6	18	96次	SB2835	VM56	S-60	土師器	椀			17
6	19	96次	SB2835	VM54	S-63	土師器	椀			12
6	20	96次	SB2835	VM55	S-61	土師器	椀			8
6	21	96次	SB2842	VC56	S-77	土師器	坏身			29
6	22	96次	SB2842	VC56	S-77	土師器	坏身	S60概	P44 25図 3	30
6	23	96次	SB2842	VC56	S-77	土師器	坏身	S60概	P44 25図 1	28
6	24	96次	SB2842	VB56	S-79	土師器	皿			35
6	25	96次	SB2842	OS56	S-10	土師器	皿			23
6	26	96次	SB2842	OS56	S-10	土師器	皿			22
6	27	96次	SB2842	OS56	S-10	土師器	椀			21
6	28	96次	SB2842	VC56	S-77	土師器	椀			26
6	29	96次	SB2842	VE56	S-78	土師器	椀			31
6	30	96次	SB2842	VE56	S-78	土師器	椀			33
6	31	96次	SB2842	VC56	S-77	土師器	椀			27
6	32	96次	SB2842	VE56	S-78	土師器	椀			32
6	33	96次	SB2842	VE56	S-78	土師器	椀			34
6	34	96次	SB2842	VB56	S-79	土師器	甕			36
6	35	96次	SB2842	OS56	S-10	黒色土器A類	椀			24
6	36	96次	SB2842	OS56	S-10	黒色土器A類	椀			25
7	1	133次	SB3905	NC19	S-14	須恵器	坏蓋			37
7	2	133次	SB3905	NC19	S-14	須恵器	坏身			38
7	3	133次	SB3905	NC19	S-14	土師器	皿			39
7	4	133次	SB3925	NC21	S-9	須恵器	坏身			40
7	5	133次	SB3925	NB21	S-27	土師器	坏身	H3概	P104 72図 1	53
7	6	133次	SB3925	NB21	S-27	土師器	坏身			50

Fig	図 番号	調査 回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載 報告書	掲載図番号	遺物 番号
7	7	133次	SB3925	NB21	S-27	土師器	坏身	H3概	P104 72図 2	52
7	8	133次	SB3925	NB21	S-27	土師器	椀	H3概	P104 72図 3	43
7	9	133次	SB3925	NB21	S-27	土師器	椀	H3概	P104 72図 4	44
7	10	133次	SB3925	NB21	S-27	土師器	椀	H3概	P104 72図 5	45
7	11	133次	SB3925	NB21	S-27	土師器	椀			48
7	12	133次	SB3925	NB21	S-27	土師器	椀			49
7	13	133次	SB3925	NB21	S-27	土師器	鉢	H3概	P104 72図 6	54
7	14	133次	SB3925	NB21	S-27	土師器	甕			55
7	15	133次	SB3925	NC21	S-9	土師器	甕			41
7	16	133次	SB3925	NC21	S-9	土師器	甕			42
7	17	133次	SB3925	NB21	S-27	黒色土器A類	椀	H3概	P104 72図 7	46
7	18	133次	SB3925	NB21	S-27	黒色土器A類	椀			51
7	19	133次	SB3925	NB21	S-27	黒色土器B類	椀	H3概	P104 72図 8	47
8	1	137次	SB3940	VJ26	S-36	須恵器	坏蓋			65
8	2	137次	SB3940	VI26	S-32	須恵器	坏身			63
8	3	137次	SB3940	VK26	S-38	須恵器	坏身			66
8	4	137次	SB3940	VJ26	S-35・36上層	須恵器	壺			64
8	5	137次	SB3940	VE26	S-41	須恵器	甕			69
8	6	137次	SB3940	VK26	S-38	土師器	椀			67
8	7	137次	SB3940	VK26	S-38	須恵器	椀			68
8	8	137次	SB3940	VF26	S-25柱掘方	土師器	甕	H4概	P101 72図 3	61
8	9	137次	SB3940	VH26	S-44	土師器	甕			70
8	10	137次	SB3940	VJ27	S-14	土師器	甕	H4概	P101 72図 2	60
8	11	137次	SB3945	VF28	S-3	須恵器	坏蓋			73
8	12	137次	SB3945	VG27	S-13柱掘方	須恵器	坏蓋	H4概	P101 72図 1	56
8	13	137次	SB3945	VE28	S-4	須恵器	坏蓋			76
8	14	137次	SB3940	VH28	S-13	須恵器	坏蓋			59
8	15	137次	SB3945	VE28	S-2	須恵器	坏蓋			71
8	16	137次	SB3945	VH26	S-43	須恵器	坏蓋			90
8	17	137次	SB3945	VE26	S-29掘方	須恵器	坏身			84
8	18	137次	SB3945	VE28	S-46	須恵器	坏身			86
8	19	137次	SB3945	VE26	S-22・23	須恵器	坏身			81
8	20	137次	SB3945	VG29	S-9	須恵器	坏身			77
8	21	137次	SB3945	VD27	S-47	須恵器	坏身	H4概	P101 72図 5	88
8	22	137次	SB3945	VH28	S-13	須恵器	甕			58
8	23	137次	SB3945	VE26	S-21	須恵器	甕			80
8	24	137次	SB3945	VG26	S-29掘方	土師器	坏身			85
8	25	137次	SB3945	VG27	S-13	土師器	椀			57
8	26	137次	SB3945	VE26	S-22	土師器	甕			82
8	27	137次	SB3945	VE26	S-22	土師器	甕			83
8	28	137次	SB3945	VF28	S-3	土師器	把手			74
8	29	137次	SB3945	VE28	S-2柱穴	土師器	移動式竈			72
8	30	137次	SB3950	VI27	S-37	須恵器	坏蓋			89
8	31	137次	SB3940	VG26	S-30	須恵器	坏身			62
9	1	142次	SB3996	WM59	S-9	土師器	小皿			92
9	2	142次	SB3996	WO60	S-18	土師器	小皿			103
9	3	142次	SB3996	WN59	S-7	土師器	皿			97
9	4	142次	SB3996	NO60	S-15	土師器	坏身			100
9	5	142次	SB3996	WN61	S-12	土師器	坏身			99
9	6	142次	SB3996	WO61	S-23	土師器	坏身			105
9	7	142次	SB3996	WN61	S-12	土師器	坏身			98
9	8	142次	SB3996	WN59	S-7	土師器	坏身			94
9	9	142次	SB3996	WN59	S-7	土師器	椀			95
9	10	142次	SB3996	WN59	S-7	土師器	椀			93
9	11	142次	SB3996	WO61	S-23	土師器	椀			106
9	12	142次	SB3996	WO59	S-24	土師器	椀			107
9	13	142次	SB3996	WO61	S-23	土師器	椀			104
9	14	142次	SB3996	WM59	S-9	土師器	椀			91
9	15	142次	SB3996	WO59	S-24	土師器	椀			108
9	16	142次	SB3996	WO60	S-18	土師器	椀			102
9	17	142次	SB3996	NO60	S-15	土師器	甕			101
9	18	142次	SB3996	WN59	S-7	黒色土器A類	坏身			96
9	19	142次	SB3996	WO59	S-24	黒色土器A類	椀			109
9	20	142次	SB3996	WO59	S-28	越州窯系青磁	碗			110
9	21	142次	SB3997	WN60	S-6	土師器	小皿			118
9	22	142次	SB3997	WO61	S-22	土師器	坏身			125
9	23	142次	SB3997	WN60	S-3	土師器	坏身			113
9	24	142次	SB3997	WN60	S-3	土師器	坏身			111
9	25	142次	SB3997	WN60	S-3	土師器	坏身または椀			112
9	26	142次	SB3997	WN60	S-6	土師器	坏身または椀			115
9	27	142次	SB3997	WN60	S-6	土師器	椀			116
9	28	142次	SB3997	WO61	S-13	土師器	椀			122
9	29	142次	SB3997	WM60	S-5	土師器	椀			114
9	30	142次	SB3997	WN60	S-6	土師器	椀			117
9	31	142次	SB3997	WO61	S-13	土師器	椀			123
9	32	142次	SB3997	WN60	S-6	土師器	甕			119
9	33	142次	SB3997	WO60	S-19	黒色土器A類	椀			124
9	34	142次	SB3996・SB3997	WM60	S-8	土師器	皿			121

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
9	35	142次	SB3996・SB3997	WM60	S-8	土師器	椀			120
9	36	142次	SB4000	WU59	S-33	須恵器	坏蓋			127
9	37	142次	SB4000	WU59	S-33	須恵器	坏身			126
9	38	142次	SB4000	WV59	S-35	土師器	皿			133
9	39	142次	SB4000	WV59	S-35	土師器	椀			131
9	40	142次	SB4000	WV59	S-35	土師器	椀			128
9	41	142次	SB4000	WV59	S-35	土師器	椀			132
9	42	142次	SB4000	WV59	S-35	黒色土器A類	椀			129
9	43	142次	SB4000	WV59	S-35	白磁	瓶			130
9	44	142次	SB4000	WV59	S-35	越州窯系青磁	碗			134
10	1	157次	SB4130	QD57	S-12PIT	土師器	坏身			140
10	2	157次	SB4130	QD57	S-7	越州窯系青磁	碗			137
10	3	157次	SB4130	QD57	S-11PIT	土師器	椀			139
10	4	157次	SB4130	QD57	S-7	土師器	椀			136
10	5	157次	SB4130	QD57	S-7	土師器	椀			135
10	6	157次	SB4130	QD57	S-11PIT	土師器	椀			138
10	7	166次	SB4200	YK68	S-4柱穴	土師器	坏身			141
10	8	175次	SB4340	YO71	S-104 柱痕	須恵器	坏蓋	H8概	P37 28図1	142
10	9	175次	SB4340	YL71	S-11	土師器	高坏			144
10	10	175次	SB4340	YN74 YO74	S-11・24a	土師器	坏身			145
10	11	175次	SB4340	YM73	S-10・14掘方	土師器	坏身			143
10	12	186次	SB4550A		S-108	土師器	甕			146
10	13	186次	SB4550B		S-96	須恵器	坏蓋			149
10	14	186次	SB4550B		S-107	須恵器	坏蓋	史跡Ⅱ	P14 Fig-8-2	158
10	15	186次	SB4550B		S-103	須恵器	坏蓋	史跡Ⅱ	P14 Fig-8-1	157
10	16	186次	SB4550B		S-103	須恵器	坏身			155
10	17	186次	SB4550B		S-103	須恵器	坏身	史跡Ⅱ	P14 Fig-8-3	156
10	18	186次	SB4550B		S-102	須恵器	坏身			154
10	19	186次	SB4550B		S-96下層	須恵器	坏身			151
10	20	186次	SB4550B		S-95	須恵器	壺			148
10	21	186次	SB4550B		S-102	須恵器	壺			152
10	22	186次	SB4550B		S-107	須恵器	鉢			159
10	23	186次	SB4550B		S-107	土師器	坏身			160
10	24	186次	SB4550B		S-95	須恵器	坏身			147
10	25	186次	SB4550B		S-102	土師器	坏身			153
10	26	186次	SB4550B		S-96	土師器	甕			150
11	1	186次	SB4551・SB4552		S-94・93	須恵器	坏蓋	史跡Ⅱ	P14 Fig-8-5	168
11	2	186次	SB4551		S-104	須恵器	坏蓋			166
11	3	186次	SB4551		S-101	須恵器	坏蓋			162
11	4	186次	SB4551		S-101	須恵器	坏蓋			164
11	5	186次	SB4551		S-101	須恵器	坏蓋			161
11	6	186次	SB4551		S-104	須恵器	坏身			167
11	7	186次	SB4551		S-101	須恵器	坏身			163
11	8	186次	SB4551		S-101	須恵器	坏身	史跡Ⅱ	P14 Fig-8-6	165
11	9	186次	SB4551・SB4552		S-104・105	土師器	甕	史跡Ⅱ	P14 Fig-8-7	169
11	10	186次	SB455・SB4552		S-104・105	土師器	甕			170
11	11	186次	SB4553		S-14	須恵器	蓋	史跡Ⅱ	P14 Fig-8-8	172
11	12	186次	SB4555	YF79	S-2	須恵器	坏蓋	史跡Ⅱ	P14 Fig-8-9	175
11	13	186次	SB4555	YF79	S-2	須恵器	坏蓋			173
11	14	186次	SB4555	YF79	S-2	須恵器	坏身			174
11	15	186次	SB4555		S-21	須恵器	坏身			178
11	16	186次	SB4555		S-7	土師器	甕			176

Tab.8 柵出土土器等一覽

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
12	1	96次	SA2822	VI47	S-14柱掘方	須恵器	坏蓋			204
12	2	96次	SA2822	VI47	S-14上層	須恵器	坏身			202
12	3	96次	SA2822	VG47	S-16柱掘方	須恵器	坏蓋			205
12	4	96次	SA2822	VI47	S-14上層	須恵器	坏蓋			201
12	5	96次	SA2822	VI47	S-14上層	須恵器	坏身			203
12	6	96次	SA2831	VN50	S-35	土師器	甕			206
12	7	96次	SA2869	OR56	S-12	土師器	坏身			209
12	8	96次	SA2869	OR56	S-12	土師器	坏身			208
12	9	96次	SA2869	OR56	S-11	土師器	椀			207
12	10	157次	SA4116	QF63	S-15	土師器	椀			212
12	11	157次	SA4116	QF62	S-13	土師器	椀			211
12	12	157次	SA4116	QF62	S-13	土師器	椀			210
12	13	157次	SA4116	QF63	S-15	土師器	椀			213
12	14	175次	SA4211		S-6	須恵器	坏身			214
12	15	186次	SA4558		S-70	須恵器	坏蓋	史跡Ⅱ	P14 Fig-8-10	216
12	16	186次	SA4558		S-37	須恵器	坏身			215

Tab.9 竪穴住居出土土器等一覽

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
13	1	167次	SI4220		S-5	須恵器	坏蓋			301
13	2	167次	SI4220		S-5	土師器	椀			302
13	3	167次	SI4220		S-5	土師器	甕			303

Tab.10 溝出土土器等一覽

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
14	1	29次	SD540	BA9	東西溝BTr	須恵器	坏身			1001
14	2	29次	SD540	BA10	東西溝BTr	土師器	坏身			1003
14	3	29次	SD540	BA8	東西溝	須恵器	坏身			1002
14	4	96-2次	SD2832	VD50	S-68下層(砂)	弥生土器	甕			1041
14	5	96-2次	SD2832	VD50	S-68下層(砂)	弥生土器	甕			1043
14	6	96-2次	SD2840	VM55	S-67	土師器	甕			1044
14	7	137次	SD3939	VF27	S-1	須恵器	坏蓋			1048
14	8	137次	SD3939	VK27	S-1	須恵器	坏蓋			1049
14	9	137次	SD3939	VH27	S-1	須恵器	坏身			1050
14	10	137次	SD3939	VH27	S-1	須恵器	坏身			1051
14	11	137次	SD3939	VE27	S-1	土師器	椀			1053
14	12	137次	SD3939	VH27	S-1	土師器	皿	H4概	P102 73図 4	1052
14	13	137次	SD3953	VF25	S-77	須恵器	高坏			1060
14	14	157次	SD4118	QE57	S-4溝	須恵器	坏蓋			1085
14	15	157次	SD4118	QE57	S-4溝	土師器	坏身			1086
14	16	157次	SD4118	QE57	S-4溝	土師器	椀			1087
14	17	157次	SD4118	QE57	S-4溝	土師器	椀			1088
14	18	157次	SD4123	QE62	東西溝	土師器	坏身	H6概	P42 26図 5	1089
14	19	157次	SD4123	QE61	東西溝新	土師器	坏身	H6概	P42 26図 6	1090
14	20	157次	SD4123	QE64	東西溝	土師器	坏身	H6概	P42 26図 7	1091
14	21	157次	SD4123	QE64	東西溝	土師器	坏身	H6概	P42 26図 8	1092
14	22	157次	SD4123	QE64	東西溝	土師器	坏身	H6概	P42 26図 9	1093
14	23	157次	SD4123	QE64	東西溝	土師器	坏身			1094
14	24	157次	SD4123	QF65	S-1	土師器	坏身			1095
14	25	157次	SD4123	QE64	東西溝	土師器	坏身			1096
14	26	157次	SD4123	QF64	S-1	土師器	坏身			1097
14	27	157次	SD4123	QE61	丸瓦列西東西溝新	土師器	坏身			1126
14	28	157次	SD4123	QE64	S-1	土師器	坏身			1122
14	29	157次	SD4123	QE63	東西溝	土師器	坏身			1098
14	30	157次	SD4123	QE60	S-1	土師器	坏身			1099
14	31	157次	SD4123	QE57	東西溝状	土師器	坏身			1102
14	32	157次	SD4123	QE57	東西溝状	土師器	坏身			1103
14	33	157次	SD4123	QF63	S-1	土師器	坏身			1104
14	34	157次	SD4123	QE60	S-1	土師器	椀			1117
14	35	157次	SD4123	QE57	東西溝状	土師器	椀			1109
14	36	157次	SD4123	QF63	S-1	土師器	椀			1105
14	37	157次	SD4123	QF63	S-1	土師器	椀			1106
14	38	157次	SD4123	QE63	東西溝	土師器	椀			1110
14	39	157次	SD4123	QE58	S-1溝	土師器	椀			1112
14	40	157次	SD4123	QE62	東西溝新	土師器	椀			1114
14	41	157次	SD4123	QE62	東西溝新	土師器	椀			1116
14	42	157次	SD4123	QE61	東西溝新	土師器	椀			1115
14	43	157次	SD4123	QE64	東西溝	土師器	椀			1120
14	44	157次	SD4123	QE64	東西溝	土師器	椀			1127
14	45	157次	SD4123	QF63	S-1	須恵器	椀			1123
14	46	157次	SD4123	QE64	東西溝	土師器	椀			1118
14	47	157次	SD4123	QE64	東西溝	土師器	椀			1119
14	48	157次	SD4123	QE63	東西溝	土師器	椀			1111
14	49	157次	SD4123	QE57	東西溝状	土師器	有高台皿			1107
14	50	157次	SD4123	QE64	東西溝	黒色土器A類	坏身			1129
14	51	157次	SD4123	QE64	東西溝	黒色土器A類	椀			1130
14	52	157次	SX4122	QE60	丸瓦列西東西溝	須恵器	坏身			2001
14	53	157次	SX4122	QE59	丸瓦列東東西溝	土師器	椀			2003
14	54	157次	SX4122	QE59	丸瓦列東東西溝	土師器	椀			2004
14	55	157次	SX4122	QE60	丸瓦列西東西溝	土師器	有高台皿			2006
14	56	157次	SX4122	QE60	丸瓦列西東西溝	黒色土器A類	坏身			2002
15	1	95次	SD2785	TH40	S-1	須恵器	坏身			1007
15	2	95次	SD2785	TC40	S-1	土師器	甕			1009
15	3	95次	SD2785	TC40	S-1溝	土師器	甕			1008
15	4	95次	SD2786	TJ42	S-10	須恵器	坏蓋			1010
15	5	95次	SD2786	TJ42	S-10	須恵器	坏蓋			1011
15	6	95次	SD2786	TD43	S-10	須恵器	坏蓋			1012
15	7	95次	SD2791	TF43	S-11	土師器	甕			1016
15	8	95次	SD2791	TE43	S-11	須恵器	坏蓋			1013
15	9	95次	SD2791	TF43	S-11	須恵器	坏身			1015
15	10	95次	SD2791	TE43	S-11	須恵器	坏身			1014
15	11	133次	SD3921	NC21	S-34	須恵器	坏身			1045
15	12	133次	SD3921	NC21	S-34	須恵器	坏身			1046
15	13	133次	SD3921	NB21	S-4	土師器	甕			1047
15	14	137次	SD3954	VJ24	S-68下層(砂)	須恵器	坏蓋			1061
15	15	137次	SD3957	VL27	S-61	須恵器	坏蓋			1062
15	16	137次	SD3957	VL27	S-61	須恵器	坏蓋			1063
15	17	137次	SD3957	VL27	S-63	須恵器	壺			1066
15	18	137次	SD3957	VL27	S-65	須恵器	坏身			1064
15	19	137次	SD3957	VL27	S-63	須恵器	坏身			1065

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
15	20	166次	SD4215	YI71	S-25	須恵器	坏身	H7概	P89 58図1	1167
15	21	166次	SD4215	YF71	S-25	須恵器	坏身	H7概		1168
15	22	166次	SD4215	YH71	S-25南北溝	土師器	椀	H7概	P89 58図3	1170
15	23	166次	SD4215	YH71	S-25南北溝	土師器	坏身			1171
15	24	166次	SD4215	YH71	S-25南北溝	土師器	坏身	H7概	P89 58図2	1169
15	25	166次	SD4215	YG71	S-25南北溝	土師器	甗			1172
16	1	175次	SD4335	YL72	S-9IV区	須恵器	坏蓋	H8概	P37 28図2	1177
16	2	175次	SD4335		S-9II区	須恵器	坏蓋			1184
16	3	175次	SD4335		S-9II区	須恵器	坏蓋			1183
16	4	175次	SD4335		S-9III区	須恵器	坏蓋			1186
16	5	175次	SD4335		S-9III区	須恵器	坏蓋			1187
16	6	175次	SD4335	YM72	S-9III区	須恵器	坏蓋			1188
16	7	175次	SD4335	YL72	S-9IV区	須恵器	坏蓋			1189
16	8	175次	SD4335	YM72	S-9III区	須恵器	坏蓋	H8概	P37 28図3	1178
16	9	175次	SD4335		S-9III区	須恵器	皿			1191
16	10	175次	SD4335	YM72	S-9III区	須恵器	皿	H8概	P37 28図7	1182
16	11	175次	SD4335		S-9II区	須恵器	坏身			1185
16	12	175次	SD4335		S-9II区	須恵器	坏身			1192
16	13	175次	SD4335	YN72	S-9II区	須恵器	坏身	H8概	P37 28図6	1181
16	14	175次	SD4335	YM72	S-9III区	須恵器	坏身	H8概	P37 28図5	1180
16	15	175次	SD4335	YL72	S-9IV区	須恵器	坏身			1194
16	16	175次	SD4335		S-9II区	須恵器	坏身			1190
16	17	175次	SD4335		S-9II区	須恵器	坏身			1193
16	18	175次	SD4335	YM72	S-9III区	須恵器	坏身	H8概	P37 28図4	1179
16	19	175次	SD4335	YL72	S-9IV区	須恵器	坏身			1195
16	20	175次	SD4335		S-9IV区	土師器	蓋			1197
16	21	175次	SD4335	YL72	S-9IV区	土師器	椀			1200
16	22	175次	SD4335		S-9V区	土師器	坏身			1199
16	23	175次	SD4335		S-9I区	土師器	小皿			1198
16	24	175次	SD4335	YL72	S-9IV区	土師器	甗			1203
16	25	175次	SD4335		S-9IV区	土師器	甗			1204
16	26	175次	SD4335	YL72	S-9IV区	土師器	甗			1202
16	27	175次	SD4335		S-9IV区	土師器	甗			1205
16	28	186次	SD4543		S-8	須恵器	坏蓋	史跡II	P20 Fig.13-1	1506
16	29	186次	SD4543		S-8	須恵器	坏蓋			1508
16	30	186次	SD4543		S-8	須恵器	坏蓋	史跡II	P20 Fig.13-2	1507
16	31	186次	SD4543	YB80	S-8	須恵器	坏身	史跡II	P20 Fig.13-3	1509
16	32	186次	SD4543		S-8	土師器	甗			1514
16	33	186次	SD4543		S-8	土師器	甗			1513
16	34	186次	SD4543		S-8	土師器	甗	史跡II	P20 Fig.13-7	1512
16	35	186次	SD4543		S-8	土師器	甗	史跡II	P20 Fig.13-6	1511
16	36	186次	SD4543		S-8	土師器	甗	史跡II	P20 Fig.13-5	1525
17	1	96次	SD2818	VD54	S-87	須恵器	托			1025
17	2	96次	SD2818	VD54	S-87	土師器	坏身			1017
17	3	96次	SD2818	VD54	S-87	土師器	椀			1018
17	4	96次	SD2818	VD54	S-87	土師器	椀			1019
17	5	96次	SD2818	VD54	S-87	黑色土器A類	甗			1022
17	6	96次	SD2818	VD54	S-87	黑色土器A類	甗			1023
17	7	96次	SD2818	VD54	S-87	黑色土器A類	椀			1021
17	8	96次	SD2818	VD54	S-87	黑色土器A類	椀			1020
17	9	96次	SD2818	VD54	S-87	越州窯系青磁	碗			1024
17	10	96次	SD2819	VE54	S-86	土師器	杯	S60概	P45 26図4	1030
17	11	96次	SD2819	VE54	S-86	土師器	杯	S60概	P45 26図2	1028
17	12	96次	SD2819	VE54	S-86	土師器	杯	S60概	P45 26図3	1029
17	13	96次	SD2819	VE54	S-86	土師器	杯	S60概	P45 26図1	1027
17	14	96次	SD2819	VE55	S-86	土師器	椀			1033
17	15	96次	SD2819	VE54	S-86	土師器	坏			1032
17	16	96次	SD2819	VE54	S-86	黑色土器A類	椀			1039
17	17	96次	SD2819	VE54	S-86	土師器	椀			1036
17	18	96次	SD2819	VE54	S-86	土師器	椀			1035
17	19	96次	SD2819	VE54	S-86	土師器	椀			1034
17	20	96次	SD2819	VE55	S-86	緑釉陶器	皿			1040
17	21	96次	SD2819	VE54	S-86	土師器	甗			1037
17	22	137次	SD3941	VE22	S-51	弥生土器	壺			1057
17	23	137次	SD3941	VE22	S-51	須恵器	皿	H4概	P102 73図5	1056
17	24	137次	SD3941	VE25	S-51	須恵器	坏身			1054
17	25	137次	SD3941	VE25	S-51	土師器	坏身			1055
17	26	137次	SD3944	VH25	S-54	須恵器	壺			1058
17	27	137次	SD3944	VI25	S-54	土師器	甗			1059
17	28	142次	SD4001C	WM60	S-27	土師器	壺			1068
17	29	142次	SD4005	WM60	S-10	須恵器	坏身			1082
17	30	142次	SD4005	WP60	S-20	土師器	把手			1077
17	31	142次	SD4005	WP60	S-20	土師器	椀			1072
17	32	142次	SD4005	WP61	S-20	土師器	椀			1076
17	33	142次	SD4005	WP60	S-20	土師器	椀			1073
17	34	142次	SD4005	WO61	S-20	土師器	坏身			1070
17	35	142次	SD4007	WM60	S-10	土師器	有高台皿			1083
17	36	166次	SD4201	YB67	S-16	須恵器	壺	H7概	P89 58図23	1132

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
17	37	166次	SD4201	YB67	S-16	土師器	椀			1133
17	38	166次	SD4203	YD67	S-16	土師器	椀	H7概	P89 58図 24	1134
17	39	166次	SD4203	YD67	S-14	土師器	椀			1136
17	40	166次	SD4206	YI69	S-12溝	須恵器	坏身			1137
17	41	166次	SD4209	YI68	S-30	弥生土器	高坏	H7概	P90 59図 3	1140
17	42	166次	SD4209	YI68	S-30	弥生土器	甕	H7概	P90 59図 1	1138
17	43	166次	SD4209	YI68	S-30	弥生土器	壺	H7概	P90 59図 2	1139
18	1	166次	SD4210	YI68	S-10東西溝	須恵器	坏蓋	H7概	P87 57図 2	1142
18	2	166次	SD4210	YI69	S-10下層	須恵器	坏蓋	H7概	P87 57図 1	1141
18	3	166次	SD4210	YI69	S-10下層	須恵器	坏身	H7概	P87 57図 3	1143
18	4	166次	SD4210	YI69	S-10下層	須恵器	壺	H7概	P87 57図 4	1144
18	5	166次	SD4210	YI67	S-10東西溝	土師器	坏身	H7概	P87 57図 5	1145
18	6	166次	SD4210	YI67	S-10東西溝	土師器	坏身	H7概	P87 57図 6	1146
18	7	166次	SD4210	YI68	S-10東西溝	土師器	坏身	H7概	P87 57図 7	1147
18	8	166次	SD4210	YI68	S-10東西溝	土師器	坏身	H7概	P87 57図 8	1148
18	9	166次	SD4210	YI68	S-10東西溝	土師器	坏身	H7概	P87 57図 9	1149
18	10	166次	SD4210	YI68	S-10東西溝	土師器	坏身	H7概	P87 57図 10	1150
18	11	166次	SD4210	YI68	S-10東西溝	土師器	坏身	H7概	P87 57図 11	1151
18	12	166次	SD4210	YI68	S-10東西溝	土師器	坏身	H7概	P87 57図 12	1152
18	13	166次	SD4210	YI68	S-10東西溝	土師器	坏身	H7概	P87 57図 13	1153
18	14	166次	SD4210	YI68	S-10東西溝	土師器	坏身	H7概	P87 57図 14	1154
18	15	166次	SD4210	YI68	S-10東西溝	土師器	坏身	H7概	P87 57図 15	1155
18	16	166次	SD4210	YI67	S-10東西溝	土師器	坏身	H7概		1156
18	17	166次	SD4210	YI67	S-10東西溝	土師器	坏身	H7概		1157
18	18	166次	SD4210	YI68	S-10東西溝	土師器	椀	H7概	P87 57図 16	1158
18	19	166次	SD4210	YI69	S-10東西溝	土師器	椀	H7概	P87 57図 18	1159
18	20	166次	SD4210	YI67	S-10東西溝	土師器	甕			1160
18	21	166次	SD4210	YI68	S-10東西溝	土師器	甕			1161
18	22	166次	SD4210	YI69	S-10東西溝	黒色土器A類	椀			1163
18	23	166次	SD4210	YI68	S-10東西溝	黒色土器B類	椀			1162
18	24	166次	SD4210	YI68	S-10東西溝	緑釉陶器	碗	H7概	P87 57図 19	1165
18	25	166次	SD4210	YI68	S-10東西溝	緑釉陶器	碗	H7概	P87 57図 20	1164
18	26	166次	SD4210	YI67	S-10東西溝	越州窯系青磁	碗	H7概	P87 57図 19	1166
18	27	175次	SD4330	YJ75	S-29内P1	須恵器	坏蓋			1173
18	28	175次	SD4330	YJ76	S-34(溝)	土師器	椀			1174
18	29	175次	SD4330	YJ75	S-29	土師器	椀			1175
19	1	175次	SD4345	YI75	S-22埋土灰色砂質土	須恵器	坏蓋	H8概	P38 29図 22	1226
19	2	175次	SD4345	YI75	S-22灰色砂質土	須恵器	坏蓋			1243
19	3	175次	SD4345	YI75・76	S-22灰色砂質土埋土	須恵器	坏蓋			1242
19	4	175次	SD4345	YI75・76	S-22灰色土	須恵器	坏蓋	H8概	P38 29図 13	1217
19	5	175次	SD4345	YI・YH75・76	S-22埋土・S-22灰色砂質土・S-22埋土	須恵器	坏蓋	H8概	P38 29図 10	1214
19	6	175次	SD4345	YI75	S-22灰色砂質土	須恵器	坏蓋	H8概	P38 29図 3	1209
19	7	175次	SD4345	YI76・77YI75・76	灰色砂質土	須恵器	坏身	H8概	P41 31図 31	1272
19	8	175次	SD4345	YI74~76	S-22上層・S-22灰色砂質土	須恵器	坏身	H8概	P40 30図 20	1262
19	9	175次	SD4345	YI74・75	S-22埋土・S-22灰色砂質土・S-22最下層	須恵器	坏身	H8概	P40 30図 4	1247
19	10	175次	SD4345	YI75	S-22灰色砂質土	須恵器	坏身	H8概	P40 30図 15	1257
19	11	175次	SD4345	YI75	S-22灰色砂質土	須恵器	坏身			1293
19	12	175次	SD4345	YI75	S-22灰色砂質土	須恵器	皿			1324
19	13	175次	SD4345	YI75・76	S-22灰色砂質土	須恵器	皿			1321
19	14	175次	SD4345	YI75・76	S-22灰色砂質土	須恵器	皿	H8概	P43 33図 63	1318
19	15	175次	SD4345	YI75・76	S-22灰色砂質土	須恵器	壺			1369
19	16	175次	SD4345	YI75	S-22灰色砂質土	須恵器	壺			1368
19	17	175次	SD4345	YI75・76	S-22灰色砂質土上層(砂質)	須恵器	壺			1361
19	18	175次	SD4345	YI75・76	S-22灰色砂質土	須恵器	壺			1370
19	19	175次	SD4345	YI74・75	S-22最下層	須恵器	壺			1360
19	20	175次	SD4345	YI75・76	S-22灰色砂質土	須恵器	壺			1362
19	21	175次	SD4345	YI75	S-22灰色砂質土	須恵器	高坏			1364
19	22	175次	SD4345	YI75・76	S-22灰色砂質土	土師器	坏身			1390
19	23	175次	SD4345	YI75・76	S-22灰色砂質土	土師器	坏身	H8概	P48 36図 18	1404
19	24	175次	SD4345	YI76・77	S-22最下層	土師器	甕			1473
19	25	175次	SD4345	YI75	S-22灰色砂質土・S-22上層黒色土	土師器	甕	H8概	P51 39図 16	1458
19	26	175次	SD4345	YI75	S-22灰色砂質土	土師器	把手	H8概	P52 40図 29	1479
19	27	175次	SD4345	YI74	S-22溝下層	須恵器	甕			1357
19	28	175次	SD4345	YI76・77	S-22下層	須恵器	坏蓋			1239
19	29	175次	SD4345	YI76・77	S-22下層	須恵器	坏蓋	H8概	P38 29図 19	1223
19	30	175次	SD4345	YI74	S-22溝下層	須恵器	坏蓋			1241
19	31	175次	SD4345	YH76・YI77	S-22下層	須恵器	坏身	H8概	P42 32図 37	1290
19	32	175次	SD4345	YI74	S-22溝下層	須恵器	坏身	H8概	P43 33図 55	1310
19	33	175次	SD4345	YI74	S-22溝下層	須恵器	坏身	H8概	P43 33図 60	1315
19	34	175次	SD4345	YI76・77	S-22下層	須恵器	皿			1323
19	35	175次	SD4345	YI76・77	S-22下層	須恵器	皿			1319
19	36	175次	SD4345	YI76・77	S-22下層	須恵器	皿			1329
19	37	175次	SD4345	YI74	S-22溝下層	土師器	坏身			1427
19	38	175次	SD4345	YI74	S-22溝下層	土師器	坏身			1422
19	39	175次	SD4345	YI74	S-22溝下層	土師器	坏身	H8概	P49 37図 34	1408

Fig	図 番号	調査 次数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載 報告書	掲載図番号	遺物 番号
20	40	175次	SD4345	YI74	S-22上層	須恵器	坏蓋	H8概	P38 29図 11	1215
20	41	175次	SD4345	YI74	S-22上層	須恵器	坏蓋			1232
20	42	175次	SD4345	YI74	S-22上層	須恵器	坏蓋			1233
20	43	175次	SD4345	YI74	S-22上層	須恵器	坏蓋			1234
20	44	175次	SD4345	YI74	S-22上層	須恵器	皿			1332
20	45	175次	SD4345	YI74	S-22上層	須恵器	坏身	H8概	P42 32図 45	1281
20	46	175次	SD4345	YI74	S-22上層	須恵器	坏身			1330
20	47	175次	SD4345	YI74	S-22上層	須恵器	坏身	H8概	P42 32図 36	1289
20	48	175次	SD4345	YI74	S-22上層	須恵器	坏身	H8概	P41 31図 30	1271
20	49	175次	SD4345	YI74	S-22上層	須恵器	坏身			1296
20	50	175次	SD4345	YI74	S-22上層	須恵器	坏身			1295
20	51	175次	SD4345	YI74	S-22溝上層黒色土	須恵器	坏身	H8概	P40 30図 10	1252
20	52	175次	SD4345	YI74	S-22上層	須恵器	坏身	H8概	P40 30図 16	1258
20	53	175次	SD4345	YI74	S-22上層	須恵器	坏身			1301
20	54	175次	SD4345	YI75・76	S-22上層(砂層)	須恵器	壺			1347
20	55	175次	SD4345	YI74	S-22上層	須恵器	椀			1294
20	56	175次	SD4345	YI74	S-22上層	土師器	甕			1475
20	57	175次	SD4345	YI74・YJ75	S-22上層S-22	土師器	鉢	H8概	P50 38図 4	1447
20	58	175次	SD4345	YI74	S-22上層	土師器	坏身	H8概	P49 37図 28	1414
20	59	175次	SD4345	YI74	S-22溝上層	土師器	坏身	H8概	P49 37図 25	1411
20	60	175次	SD4345	YI75	S-22溝上層(黒色土)	土師器	坏身			1425
20	61	175次	SD4345	YI74	S-22上層	土師器	坏身			1421
20	62	175次	SD4345	YI74	S-22上層	土師器	坏身	H8概	P48 36図 16	1402
20	63	175次	SD4345	YI74	S-22上層	土師器	椀			1379
20	64	175次	SD4345	YI74	S-22上層	土師器	椀	H8概	P48 36図 5	1386
20	65	175次	SD4345	YI74	S-22上層	土師器	椀			1393
20	66	175次	SD4345	YI75	S-22埋土	土師器	椀			1381
20	67	175次	SD4345	YI75・76	S-22上層(砂層)	土師器	甕			1449
20	68	175次	SD4345	YH74・YI75	S-22溝上層黒色土	須恵器	坏蓋	H8概	P38 29図 14	1218
20	69	175次	SD4345	YH・YI74・75	S-22埋土・S-22溝上層黒色土	須恵器	坏蓋	H8概	P38 29図 9	1213
20	70	175次	SD4345	YI74・YJ75	S-22溝上層黒色土	須恵器	坏蓋	H8概	P38 29図 5	1210
20	71	175次	SD4345	YI・YJ75	S-22埋土黒色土	須恵器	坏蓋			1231
20	72	175次	SD4345	YJ75	S-22黒色土	須恵器	坏蓋			1236
20	73	175次	SD4345	YI74	S-22上層黒色土	須恵器	坏蓋			1235
20	74	175次	SD4345	YI74	S-22溝上層黒色土	須恵器	坏蓋	H8概	P38 29図 15	1219
20	75	175次	SD4345	YI75	S-22溝上層黒色土	須恵器	坏身	H8概	P41 31図 34	1275
20	76	175次	SD4345	YJ75・YI74	S-22黒色土・S-22溝・S-22上層	須恵器	坏身	H8概	P41 31図 32	1273
20	77	175次	SD4345	YI75	S-22黒色土	須恵器	坏身	H8概	P42 32図 35	1288
20	78	175次	SD4345	YI75	S-22溝上層(黒色土)	須恵器	坏身			1299
20	79	175次	SD4345	YI74	S-22上層黒色土	須恵器	坏身	H8概	P40 30図 17	1259
20	80	175次	SD4345	YI75・76	S-22灰色砂質土・S-22上層黒色土	須恵器	坏身	H8概	P40 30図 14	1256
20	81	175次	SD4345	YI74	S-22溝上層黒色土	須恵器	坏身	H8概	P40 30図 11	1253
20	82	175次	SD4345	YI74・75	S-22上層黒色土・S-22灰色砂質土	須恵器	坏身	H8概	P40 30図 13	1255
20	83	175次	SD4345	YI74	S-22上層黒色土	須恵器	坏身			1297
21	84	175次	SD4345	YI75	S-22溝上層黒色土	須恵器	坏身	H8概	P40 30図 2	1245
21	85	175次	SD4345	YI75	S-22溝上層黒色土	須恵器	坏身	H8概	P40 30図 3	1246
21	86	175次	SD4345	YH・I75	S-22埋土・溝上層黒色土	須恵器	坏身	H8概	P40 30図 7	1249
21	87	175次	SD4345	YI75	S-22溝上層黒色土	須恵器	坏身	H8概	P40 30図 9	1251
21	88	175次	SD4345	YI75	S-22上層(黒色土)	須恵器	坏身			1302
21	89	175次	SD4345	YI75	S-22上層(黒色土)	須恵器	坏身			1304
21	90	175次	SD4345	YJ75	S-22黒色土	須恵器	坏身	H8概	P42 32図 42	1278
21	91	175次	SD4345	YI75	S-22溝上層(黒色土)	須恵器	坏身	H8概	P43 33図 52	1307
21	92	175次	SD4345	YJ75	S-22黒色土	須恵器	坏身	H8概	P43 33図 56	1311
21	93	175次	SD4345	YI75・76	S-22溝上層(黒色土・S-22灰色砂質土)	須恵器	坏身	H8概	P43 33図 58	1313
21	94	175次	SD4345	YI75	S-22上層黒色土	須恵器	坏身			1333
21	95	175次	SD4345	YJ75	S-22黒色土	須恵器	坏身			1337
21	96	175次	SD4345	YI75	S-22黒色土	須恵器	坏身	H8概	P42 32図 40	1276
21	97	175次	SD4345	YI75	S-22上層黒色土	須恵器	坏身	H8概	P42 32図 49	1285
21	98	175次	SD4345	YI74YI74	S-22埋土・S-22溝下層	須恵器	皿			1320
21	99	175次	SD4345	YI74	S-22溝上層(黒色土)	須恵器	皿			1322
21	100	175次	SD4345	YI75	S-22溝上層黒色土	須恵器	皿			1325
21	101	175次	SD4345	YI75	S-22黒色土	須恵器	皿			1328
21	102	175次	SD4345	YH・YI76・YI75	S-22埋土・S-22上層黒色土	須恵器	皿			1339
21	103	175次	SD4345	YI74	S-22上層黒色土	須恵器	皿			1341
21	104	175次	SD4345	YI75	S-22上層黒色土	須恵器	皿			1340
21	105	175次	SD4345	YH・YI74・75	S-22上層・S-22上層黒色土・S-22埋土・S-22埋土	須恵器	壺	H8概	P45 34図 2	1349
21	106	175次	SD4345	YI74	S-22上層	須恵器	壺			1363
21	107	175次	SD4345	YH・YI74・75	S-22溝下層・S-22埋土・S-22黒色土・S-22溝上層黒色土	須恵器	壺	H8概	P45 34図 4	1351
21	108	175次	SD4345	YH・YJ74・75	S-22黒色土・S-22上層・S-22・S-22上層黒色土	須恵器	壺	H8概	P46 35図 8	1355
21	109	175次	SD4345	YI74	S22埋土・上層	須恵器	壺	H8概	P45 34図 5	1352
22	110	175次	SD4345	YI74~77	S-22溝上層(黒色土)・S-22上層・S-22下層	須恵器	壺	H8概	P45 34図 3	1350
22	111	175次	SD4345	YH・I75	S-22埋土・S-22溝上層黒色土	須恵器	壺	H8概	P45 34図 1	1348
22	112	175次	SD4345	YJ75	S-22黒色土	須恵器	壺			1291

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
24	188	175次	SD4345	YI74	S-22埋土	土師器	坏身	H8概	P48 36図 20	1406
24	189	175次	SD4345	YH・YI74	S-22埋土	土師器	坏身			1432
24	190	175次	SD4345	YH74・75YI74・75	S-22埋土	土師器	坏身			1428
24	191	175次	SD4345	YH・YI74YH・YI75	S-22埋土	土師器	坏身			1420
24	192	175次	SD4345	YI74	S-22埋土	土師器	椀			1392
24	193	175次	SD4345	YI74	S-22埋土	土師器	椀			1383
24	194	175次	SD4345	YI75	S-22埋土	土師器	椀			1380
24	195	175次	SD4345	YH・YI76	S-22埋土	土師器	椀			1387
24	196	175次	SD4345	YI75	S-22埋土	土師器	椀			1384
24	197	175次	SD4345	YH・YI74	S-22埋土	土師器	壺	H8概	P50 38図 1	1444
24	198	175次	SD4345	YH・YI74	S-22埋土	土師器	皿			1433
24	199	175次	SD4345	YH・YI76	S-22	土師器	皿	H8概	P49 37図 38	1419
24	200	175次	SD4345	YI74	S-22上層	土師器	甕	H8概	P52 40図 26	1466
24	201	175次	SD4345	YI74	S-22埋土	土師器	甕	H8概	P52 40図 24	1464
24	202	175次	SD4345	YH・YI74	S-22埋土	土師器	甕	H8概	P52 40図 22	1462
24	203	175次	SD4345	YH・YI74・75	S-22埋土	土師器	甕			1470
24	204	175次	SD4345	YH・YI75	S-22埋土	土師器	甕			1472
24	205	175次	SD4345	YH・YI74	S-22埋土	土師器	甕			1469
24	206	175次	SD4345	YI74	S-22埋土	土師器	甕	H8概	P50 38図 5	1448
24	207	175次	SD4345	YH・YI75	S-22埋土	土師器	甕			1468
24	208	175次	SD4345	YH・YI74	S-22埋土	土師器	甕	H8概	P51 39図 14	1457
24	209	175次	SD4345	YI74	S-22埋土	土師器	甕			1467
24	210	175次	SD4345	YH・YI76	S-22埋土	土師器	甕			1474
24	211	175次	SD4345	YI75	S-22溝色土	土師器	甕	H8概	P51 39図 13	1456
24	212	175次	SD4345	YH・I74・75	S-22埋土	土師器	甕	H8概	P50 38図 10	1453
24	213	175次	SD4345	YI75	S-22埋土	土師器	甕	H8概	P50 38図 12	1455
25	214	175次	SD4345	YH・I74・75	S-22埋土	土師器	甕	H8概	P51 39図 17	1459
25	215	175次	SD4345	YI74	S-22埋土	土師器	甕	H8概	P51 39図 18	1461
25	216	186次	SD4544		S-32	須惠器	壺蓋	史跡Ⅱ	P20 13図 8	1518
25	217	186次	SD4544		S-34	須惠器	坏蓋			1516
25	218	186次	SD4544		S-31	須惠器	坏蓋			1515
25	219	186次	SD4544		S-31	須惠器	坏身			1517
25	220	186次	SD4544		S-33	土師器	高坏			1519

Tab.11 自然流路出土土器等一覽

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
26	1	96次	SD2760	0O52	池・下層荒砂	弥生土器	甕			3047
26	2	96次	SD2760	OQ54	下層砂	弥生土器	甕			3045
26	3	96次	SD2760	ON53	池・下層荒砂	弥生土器	高坏			3062
26	4	96次	SD2760	OQ49	下層砂	弥生土器	甕			3055
26	5	96次	SD2760	OQ49	下層砂	弥生土器	甕			3052
26	6	96次	SD2760	OP53	池・下層荒砂	弥生土器?	蓋			3050
26	7	96次	SD2760	QR-49	池・下層荒砂	弥生土器	甕			3065
26	8	96次	SD2760	OQ49	下層砂	弥生土器	甕			3054
26	9	96次	SD2760	VC52	S-86最下層	弥生土器	壺			3036
26	10	96次	SD2760	OP52	池・下層荒砂	弥生土器	壺			3046
26	11	96次	SD2760	OP55	池・下層荒砂	弥生土器	壺			3051
26	12	96次	SD2760	OO51	池・下層荒砂	弥生土器	壺			3056
26	13	96次	SD2760	OP50	池・下層荒砂	弥生土器	壺			3053
26	14	96次	SD2760	OP50	池・下層荒砂	弥生土器	蓋			3064
26	15	96次	SD2760	OQ49	池・下層荒砂	弥生土器	甕			3034
26	16	95次	SD2760	TN41	S-5下層(砂)	弥生土器	高坏	S60概	P36 20図 4	3068
26	17	95次	SD2760	TN42	S-5下層黒色土	弥生土器	高坏	S60概	P36 20図 2	3066
26	18	95次	SD2760	TN42	S-5下層黒色土	弥生土器	高坏			3067
26	19	96次	SD2760	VB52	S-86下層砂	弥生土器	壺	S60概	P57 36図 3	3032
26	20	95次	SD2760	TN42	S-5下層(砂)	弥生土器	甕			3043
26	21	95次	SD2760	TN41	S-5下層腐植土	弥生土器	椀	S60概	P36 20図 1	3048
26	22	95次	SD2760	TG42	S-5下層	須惠器	坏身			3071
26	23	96次	SD2760	OZ		土師器	甕			3038
26	24	95次	SD2760	TN44	S-5下層砂	土師器	甕	S60概	P32 17図 6	3033
26	25	95次	SD2760	TN44	S-5上層	須惠器	鉢			3024
26	26	95次	SD2760	TN44	S-5上層	須惠器	壺			3025
26	27	95次	SD2760	TN46	S-5上層	須惠器	高坏			3005
26	28	95次	SD2760	TO45	S-5上層	須惠器	壺			3026
26	29	95次	SD2760	TO44	S-5上層	須惠器	甕			3027
26	30	95次	SD2760	TO47	S-5上層	須惠器	坏蓋			3002
26	31	95次	SD2760	TN44	S-5上層	須惠器	坏蓋			3004
26	32	95次	SD2760	TN44	S-5上層	須惠器	坏蓋			3001
26	33	95次	SD2760	TO45	S-5上層	須惠器	坏身	S60概	P32 17図 5	3008
26	34	95次	SD2760	TO46	S-5上層	須惠器	坏身			3012
26	35	95次	SD2760	TO45	S-5上層	須惠器	坏身	S60概	P32 17図 2	3006
26	36	95次	SD2760	TN46	S-5上層	須惠器	坏身	S60概	P32 17図 4	3007
27	37	95次	SD2760	TN40	S-5上層	須惠器	坏身			3019
27	38	95次	SD2760	TN44	S-5上層	須惠器	坏身			3023

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
27	39	95次	SD2760	TN46	S-5上層	須恵器	坏身			3018
27	40	95次	SD2760	TO47	S-5上層	須恵器	坏身			3020
27	41	95次	SD2760	TF42	S-5上層	須恵器	坏身			3010
27	42	95次	SD2760	TM40	S-5上層	須恵器	坏身			3014
27	43	95次	SD2760	TO44	S-5上層	須恵器	坏身			3017
27	44	95次	SD2760	TN42	S-5上層	須恵器	坏身			3013
27	45	95次	SD2760	TN43	S-5上層	須恵器	坏身			3009
27	46	95次	SD2760	TN44	S-5上層	須恵器	坏身			3015
27	47	95次	SD2760	TO46	S-5上層	須恵器	坏身			3011
27	48	95次	SD2760	TN42	S-5上層	土師器	把手			3069
27	49	95次	SD2760	TN41	S-5上層	土師器	坏身			3030
27	50	95次	SD2760	TN41	S-5上層	土師器	甕			3035
27	51	95次	SD2760	TO45	S-5上層	土師器	甕			3042
27	52	95次	SD2760	TM40	S-5上層	土師器	有高台皿			3031
27	53	95次	SD2760	TN42	S-5上層	龍泉窯系青磁	碗			3072
28	1	96次	SD2800	OK53	S-1上層	土師器	椀			3169
28	2	96次	SD2817	VC54	S-85下層砂	土師器	甕			3108
28	3	96次	SD2817	VD57	S-74	須恵器	鉢			3130
28	4	96次	SD2817	VD57	S-74	土師器	甕			3104
28	5	96次	SD2817	VD55	S-74	土師器	椀			3107
28	6	96次	SD2817	VD57	S-74	土師器	椀			3099
28	7	96次	SD2817	VD57	S-74	土師器	椀			3098
28	8	96次	SD2817	VD57	S-85	土師器	椀			3090
28	9	96次	SD2817	VD54	S-74	土師器	椀			3101
28	10	96次	SD2817	VD57	S-74	土師器	椀			3092
28	11	96次	SD2817	VD56	S-85	土師器	椀			3094
28	12	96次	SD2817	VD56	S-85	土師器	椀			3089
28	13	96次	SD2817	VD57	S-74	土師器	椀			3095
28	14	96次	SD2817	VD57	S-74	土師器	椀			3102
28	15	96次	SD2817	VD56	S-85	土師器	椀			3103
28	16	96次	SD2817	VD56	S-85	土師器	椀			3097
28	17	96-2次	SD2828	VD57	S-85	土師器	椀			3100
28	18	96次	SD2817	VD55	S-74	土師器	椀			3096
28	19	96次	SD2817	VD57	S-74	土師器	甕			3109
28	20	96次	SD2817	VD57	S-74	土師器	移動式甕			3105
28	21	96次	SD2817	VD55	S-74	土師器	移動式甕			3106
28	22	96次	SD2817	VD57	S-74	黒色土器A類	甕			3115
28	23	96次	SD2817	VD55	S-74	黒色土器A類	甕			3116
28	24	96次	SD2817	VD55	S-74	黒色土器A類	椀			3111
28	25	96次	SD2817	VD55	S-74	黒色土器A類	椀			3112
28	26	96次	SD2817	VD56	S-85	黒色土器B類	椀			3117
28	27	96次	SD2817	VD56	S-74	黒色土器A類	椀			3110
28	28	96次	SD2817	VD57	S-85	黒色土器A類	椀			3113
28	29	96次	SD2817	VD57	S-74	緑釉陶器	碗			3155
28	30	96次	SD2817	VD57	S-74	緑釉陶器	碗			3140
28	31	96次	SD2817	VD55・57	S-74 S-74	緑釉陶器	碗			3153
28	32	96次	SD2817	VD57	S-74	緑釉陶器	碗			3154
28	33	96次	SD2817	VD56	S-74	緑釉陶器	碗			3145
28	34	96次	SD2817	VD57	S-74	緑釉陶器	皿			3164
28	35	96次	SD2817	VD57	S-74	緑釉陶器	皿			3158
28	36	96次	SD2817	VD57	S-74	緑釉陶器	皿			3156
28	37	96次	SD2817	VD57	S-74	緑釉陶器	皿			3150
28	38	96次	SD2817	VD55	S-74	緑釉陶器	皿			3131
28	39	96次	SD2817	VD55	S-74	陶磁器	皿			3122
28	40	96次	SD2817	VD57	S-74	緑釉陶器	皿			3149
28	41	96次	SD2817	VD56	S-74	緑釉陶器	皿			3147
28	42	96次	SD2817	VD57	S-74	緑釉陶器	皿			3157
28	43	96次	SD2817	VD57	S-74	緑釉陶器	皿			3159
28	44	96次	SD2817	VD55	S-74	越州窯系青磁	碗			3125
28	45	96次	SD2817	VD55	S-74	越州窯系青磁	碗			3121
28	46	96次	SD2817	VD55	S-74	越州窯系青磁	碗			3124
29	1	96次	SD2828	VD55	S-74	須恵器	甕			3077
29	2	96-2次	SD2828			須恵器	皿			3073
29	3	96-2次	SD2828			須恵器	坏身			3074
29	4	96-2次	SD2828			須恵器	坏身			3075
29	5	96-2次	SD2828			土師器	坏身	S60概	P45 26図 6	3078
29	6	96-2次	SD2828			土師器	坏身	S60概	P45 26図 7	3079
29	7	96-2次	SD2828			土師器	坏身	S60概	P45 26図 8	3080
29	8	96-2次	SD2828			土師器	坏身	S60概	P45 26図 9	3081
29	9	96-2次	SD2828			土師器	坏身			3083
29	10	96-2次	SD2828	VD54	S-74	土師器	坏身			3082
29	11	96-2次	SD2828			土師器	坏身			3084
29	12	96-2次	SD2828			土師器	有高台皿	S60概	P45 26図 5	3087
29	13	96-2次	SD2828	VD54	S-74	土師器	椀			3088
29	14	96次	SD2828	VD57	S-74	黒色土器A類	椀			3086
29	15	96-2次	SD2828			越州窯系青磁	碗	S60概	P45 26図 12	3118
29	16	96-2次	SD2828		S-74	越州窯系青磁	碗	S60概	P45 26図 14	3132
29	17	96-2次	SD2828			越州窯系青磁	碗	S60概	P45 26図 13	3119

Fig	図番号	調査次数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
29	18	96-2次	SD2828			越州窯系青磁	碗	S60概	P45 26図 16	3134
29	19	96-2次	SD2828			越州窯系青磁	碗	S60概	P45 26図 15	3133
29	20	96-2次	SD2828			灰釉陶器	壺			3076
29	21	157次	SD4121	QD60	S-5溝	須恵器	壺			3173
29	22	157次	SD4121	QE60・QE62	茶灰色土S-5B	須恵器	蓋			3170
29	23	157次	SD4121	QD57	S-5溝	須恵器	坏身			3171
29	24	157次	SD4121	QE60	S-5溝上層	土師器	坏身			3175
29	25	157次	SD4121	QE62	東西溝古	土師器	坏身			3174
29	26	157次	SD4121	QE63	S-5溝	土師器	碗			3180
29	27	157次	SD4121	QE60	溝上層	土師器	碗			3185
29	28	157次	SD4121	QD59	S-5溝	土師器	碗			3183
29	29	157次	SD4121	QD59	S-5溝	土師器	碗			3182
29	30	157次	SD4121	QD59	S-5溝	土師器	碗			3181
29	31	157次	SD4121	QE62	東西溝古	土師器	碗			3184
29	32	157次	SD4121	QE62	東西溝古	土師器	有高台皿			3177
29	33	157次	SD4121	QE62	東西溝古	土師器	有高台皿			3176
29	34	157次	SD4121	QE61	S-5溝上層	土師器	甗			3188
29	35	186次	SD4542		S-6東半	須恵器	坏蓋	史跡II	P14 Fig.8-26	1486
29	36	186次	SD4542		S-6	須恵器	坏蓋			1495
29	37	186次	SD4542		S-6東半	須恵器	坏蓋	史跡II	P14 Fig.8-27	1487
29	38	186次	SD4542		S-6東半	須恵器	坏	史跡II	P14 Fig.8-28	1490
29	39	186次	SD4542		S-6	須恵器	坏			1492
29	40	186次	SD4542		S-6東半	須恵器	坏			1499
29	41	186次	SD4542		S-6東半	須恵器	坏	史跡II	P14 Fig.8-30	1491
29	42	186次	SD4542		S-6東半	須恵器	坏	史跡II	P14 Fig.8-29	1489
29	43	186次	SD4542		S-6東半	須恵器	坏			1498
29	44	186次	SD4542		S-6	土師器				1502
29	45	186次	SD4542		S-6	土師器	甗	史跡II	P14 Fig.8-31	1503
29	46	186次	SD4542		S-6検出時	陶磁器	白磁			1504

Tab.12 土坑出土土器等一覧

Fig	図番号	調査次数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
30	1	29次	SK533・534	CA1	黒褐色土(土坑)	須恵器	甗			4010
30	2	29次	SK533・534	CA1	黒褐色土(土坑)	須恵器	坏蓋			4001
30	3	29次	SK533・534	CA1	黒褐色土(土坑)	須恵器	坏蓋			4003
30	4	29次	SK533・534	CA1	黒褐色土(土坑)	須恵器	坏蓋			4005
30	5	29次	SK533・534	CA1	黒褐色土(土坑)	須恵器	坏蓋			4004
30	6	29次	SK533・534	CA1	黒褐色土(土坑)	須恵器	坏身			4012
30	7	29次	SK533・534	CA1	黒褐色土(土坑)	須恵器	坏身			4006
30	8	29次	SK533・534	CA1	黒褐色土(土坑)	須恵器	坏身			4007
30	9	29次	SK533・534	CA1	黒褐色土(土坑)	須恵器	坏身			4008
30	10	29次	SK533・534	CA1	黒褐色土(土坑)	土師器	甗			4015
30	11	29次	SK533・534	CA1		土師器	甗	S48概	P34 29図 2	4017
30	12	29次	SK533・534	CA1	黒褐色土(土坑)	土師器	甗			4016
30	13	29次	SK533・534	CA1	黒褐色土(土坑)	土師器	甗			4014
30	14	29次	SK533・534	CA1	土坑	須恵器	坏身	S48概	P34 29図 6	4009
30	15	29次	SK535	CA4	土坑内	須恵器	坏蓋			4019
30	16	29次	SK535	CA4	土坑内	須恵器	皿			4024
30	17	29次	SK535	CA4	土坑内	須恵器	坏身			4021
30	18	29次	SK535	CA4	土坑内	須恵器	坏身			4020
30	19	29次	SK535	CA4	土坑内	須恵器	坏身			4022
30	20	29次	SK535	CA4	土坑内	須恵器	鉢			4023
30	21	29次	SK535	CA4		土師器	甗	S48概	P34 29図 1	4031
30	22	29次	SK535	CA4	土坑	土師器	甗			4029
30	23	29次	SK535	CA4	土坑	土師器	甗			4030
30	24	29次	SK535	CA4	土坑	土師器	甗			4027
30	25	29次	SK535	CA4	土坑内	土師器	甗			4026
31	1	95次	SK2780	TC41	S-25	須恵器	坏蓋			4306
31	2	95次	SK2780	TC41	S-25	須恵器	坏身			4305
31	3	95次	SK2780	TC41	S-25	須恵器	坏身			4304
31	4	95次	SK2780	TD41	S-25	土師器	甗	S60概	P33 18図 3	4308
31	5	95次	SK2782	TD41	S-26	須恵器	甗			4033
31	6	95次	SK2782	TD	S-26	須恵器	坏蓋			4032
31	7	95次	SK2782	TD41	S-26	土師器	甗			4034
31	8	95次	SK2784	TF39	S-6	須恵器	坏身			4037
31	9	95次	SK2795	TM47	S-24	須恵器	甗			4038
31	10	96次	SK2807	OK55	S-3下層(粗砂)	須恵器	坏身	S60概	P49 29図 1	4039
31	11	96次	SK2813	OS-55	S-8	土師器	坏身			4042
31	12	96次	SK2813	OS-55	S-8	土師器	坏身	S60概	P49 29図 2	4040
31	13	96次	SK2813	OS-55	S-8	土師器	坏身			4041
31	14	96次	SK2813	OS-55	S-8	土師器	碗			4045
31	15	96次	SK2813	OS-55	S-8	土師器	碗			4046
31	16	96次	SK2813	OS-55	S-8	土師器	碗			4047
31	17	96次	SK2813	OS-55	S-8	土師器	碗			4048
31	18	96次	SK2813	OS-55	S-8	土師器	碗			4044
31	19	96次	SK2813	OS-55	S-8	土師器	甗			4043
31	20	96次	SK2813	OS-55	S-8	緑釉陶磁	皿	S60概	P49 29図 3	4049
31	21	96次	SK2827	VK51	S-87	土師器	坏身			4051

Fig	図 番号	調査 回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載 報告書	掲載図番号	遺物 番号
31	22	96次	SK2827	VK51	S-87	土師器	椀			4050
31	23	96次	SK2827	VK51	S-87	土師器	椀			4053
31	24	96次	SK2827	VK51	S-87	土師器	椀			4054
31	25	96次	SK2827	VK51	S-87	土師器	椀			4052
31	26	96次	SK2838	VE58	S-75	土師器	椀			4055
31	27	96次	SK2838	VD57	S-75	土師器	椀			4056
31	28	96次	SK2838	VE58	S-75	土師器	椀	S60概	P49 29図 8	4062
31	29	96次	SK2838	VE57	S-75	土師器	有高台皿			4058
31	30	96次	SK2838	VE58	S-75	土師器	椀			4060
31	31	96次	SK2838	VE58	S-75	土師器	椀			4057
31	32	96次	SK2838	VD57	S-75	土師器	椀			4061
31	33	96次	SK2838	VE58	S-75	土師器	有高台皿	S60概	P49 29図 7	4063
31	34	96次	SK2838	VE57	S-75	土師器	椀			4059
31	35	133次	SK3907	NC19	S-33	土師器	椀			4066
31	36	133次	SK3907	NC19	S-33	土師器	椀			4067
31	37	133次	SK3908	NC19	S-15	須恵器	坏身			4068
31	38	133次	SK3908	NC19	S-15	須恵器	坏身			4069
31	39	133次	SK3908	NC19	S-15	土師器	甕			4070
31	40	133次	SK3911	ND19	S-16	須恵器	坏身			4072
31	41	133次	SK3911	ND19	S-16	須恵器	坏蓋			4071
31	42	133次	SK3911	ND19	S-16	須恵器	坏身			4073
31	43	133次	SK3913	NB20	S-37	須恵器	坏身			4075
31	44	133次	SK3913	NB20	S-37	須恵器	坏蓋			4074
31	45	133次	SK3916	NB21	S-1	土師器	椀			4077
31	46	133次	SK3916	NB21	S-1	土師器	坏身			4076
32	1	133次	SK3920	ND21	S-20	須恵器	坏蓋	H3概	P104 72図 9	4080
32	2	133次	SK3920	ND21	S-20	須恵器	坏身			4081
32	3	133次	SK3920	ND21	S-20	須恵器	坏身	H3概	P104 72図 10	4082
32	4	133次	SK3920	ND21	S-20	須恵器	坏身	H3概	P104 72図 11	4083
32	5	133次	SK3920	ND21	S-20	須恵器	坏身	H3概	P104 72図 12	4084
32	6	133次	SK3920	ND21	S-20	須恵器	坏身	H3概	P104 72図 13	4085
32	7	133次	SK3920	ND21	S-20	土師器	甕			4086
32	8	133次	SK3920	ND21	S-20	土師器	甕			4087
32	9	133次	SK3920	ND21	S-20	土師器	甕			4088
32	10	133次	SK3924	ND21	S-6	須恵器	坏蓋			4090
32	11	133次	SK3924	ND21	S-6	須恵器	坏身			4091
32	12	133次	SK3924	NC22	S-6	須恵器	坏身			4092
32	13	133次	SK3924	ND21	S-6	須恵器	坏身			4089
32	14	133次	SK3924	NC22	S-6	土師器	坏身			4093
32	15	133次	SK3924	NC21	S-6	黑色土器A類	椀			4094
32	16	137次	SK3942	VD21	S-53	須恵器	鉢	H4概	P102 73図 9	4096
32	17	137次	SK3942	VD21	S-53	土師器	甕	H4概	P102 73図 7	4097
32	18	137次	SK3942	VD23	S-53	土師器	甕	H4概	P102 73図 8	4098
32	19	133次	SK3951	VH26	S-59	龍泉窯系青磁	碗			4099
32	20	142次	SK4003	WN60	S-26	土師器	坏身			4101
32	21	142次	SK4006	WO60	S-14	土師器	坏身			4102
32	22	142次	SK4006	WO60	S-14	土師器	坏身			4103
32	23	142次	SK4006	WO60	S-14	土師器	椀			4108
32	24	142次	SK4006	WO60	S-14	土師器	椀			4106
32	25	142次	SK4006	WO60	S-14	土師器	椀			4107
32	26	142次	SK4006	WO60	S-14	土師器	椀			4104
32	27	142次	SK4006	WO60	S-14	黑色土器A類	甕			4109
32	28	142次	SK4008	WT61	S-29	土師器	甕			4110
33	1	157次	SK4119	QF57	S-9	須恵器	坏身			4111
33	2	157次	SK4119	QF57	炭化物溝	土師器	椀			4117
33	3	157次	SK4119	QF58	炭化物溝	土師器	椀			4118
33	4	157次	SK4119	QF58	炭化物溝	土師器	椀			4119
33	5	157次	SK4119	QF58	炭化物溝	土師器	椀			4127
33	6	157次	SK4119	QF57	炭化物溝	土師器	椀			4116
33	7	157次	SK4119	QF58	炭化物溝	土師器	椀			4123
33	8	157次	SK4119	QF58	炭化物溝	土師器	椀			4125
33	9	157次	SK4119	QF58	炭化物溝	土師器	椀			4126
33	10	157次	SK4119	QF57	S-9	土師器	坏身			4112
33	11	157次	SK4119	QF57	炭化物溝	土師器	皿			4113
33	12	157次	SK4119	QF58	炭化物溝	土師器	坏身			4114
33	13	157次	SK4119	QF57・58	炭化物溝	土師器	有高台皿	H6概	P42 26図 3	4132
33	14	157次	SK4119	QF57・58	炭化物溝	土師器	有高台皿	H6概	P42 26図 2	4131
33	15	157次	SK4119	QF58	炭化物溝	土師器	有高台皿			4122
33	16	157次	SK4119	QF57・58	炭化物溝	土師器	有高台皿			4121
33	17	157次	SK4119	QF58	炭化物溝	緑釉陶器	碗			4135
33	18	157次	SK4120	QE59	S-6	土師器	坏身	H6概	P42 26図 10	4138
33	19	157次	SK4120	QE59	S-6	土師器	坏身	H6概	P42 26図 11	4139
33	20	157次	SK4120	QE59	S-6	土師器	坏身	H6概	P42 26図 12	4140
33	21	157次	SK4120	QE59	S-6	土師器	坏身	H6概	P42 26図 13	4141
33	22	157次	SK4120	QE59	S-6	土師器	坏身	H6概	P42 26図 14	4142
33	23	157次	SK4120	QE59	S-6	土師器	坏身	H6概	P42 26図 15	4143
33	24	157次	SK4120	QE59	S-6	土師器	坏身	H6概	P42 26図 16	4144
33	25	157次	SK4120	QE59	S-6	土師器	坏身	H6概	P42 26図 17	4145
33	26	157次	SK4120	QE59	S-6	土師器	坏身			4146
33	27	157次	SK4120	QE59	S-6	土師器	坏身			4147

Fig	図 番号	調査 回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載 報告書	掲載図番号	遺物 番号
33	28	157次	SK4124	QD60	S-18	土師器	坏身			4150
33	29	157次	SK4125	QF61	S-20	土師器	坏身			4151
33	30	157次	SK4129	QE60	S-17	土師器	坏身			4153
33	31	157次	SK4129	QE60	S-17	土師器	坏身			4152
33	32	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	坏身			4156
33	33	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	坏身	H7概	P83 54図 1	4157
33	34	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	坏身			4191
33	35	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	椀			4180
33	36	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	椀			4188
33	37	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	椀			4184
33	38	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	椀			4182
33	39	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	椀	H7概	P83 54図 4	4160
33	40	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	椀			4175
33	41	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	椀	H7概	P83 54図 3	4159
33	42	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	椀			4181
33	43	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	椀			4183
33	44	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	椀			4186
33	45	165次	SK4119	P1	S-1	土師器	椀	H7概	P83 54図 2	4158
33	46	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	皿			4155
33	47	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿	H7概	P83 54図 17	4193
33	48	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿	H7概	P83 54図 18	4194
33	49	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿	H7概	P83 54図 20	4196
33	50	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿	H7概	P83 54図 19	4195
33	51	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿	H7概	P83 54図 16	4192
33	52	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿	H7概	P83 54図 15	4171
33	53	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿			4172
33	54	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿			4173
33	55	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿			4174
33	56	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿			4177
33	57	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿			4178
33	58	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿			4197
33	59	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿	H7概	P83 54図 5	4161
33	60	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿	H7概	P83 54図 6	4162
33	61	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿	H7概	P83 54図 7	4163
33	62	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿	H7概	P83 54図 8	4164
33	63	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿	H7概	P83 54図 9	4165
33	64	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿	H7概	P83 54図 10	4166
33	65	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿	H7概	P83 54図 11	4167
33	66	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿	H7概	P83 54図 12	4168
33	67	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿	H7概	P83 54図 13	4169
33	68	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿	H7概	P83 54図 14	4170
33	69	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿			4176
33	70	165次	SK4199	P1	S-1土坑	土師器	有高台皿			4189
33	71	175次	SK4329		SK7	須恵器	坏身			4200
33	72	175次	SK4336	YN73	S-13埋土中	須恵器	坏蓋	H8概	P56 43図 17	4203
33	73	175次	SK4336	YN73	S-13埋土中	須恵器	坏身			4204
33	74	175次	SK4336	YN73	S-13埋土中	土師器	坏身			4205
33	75	175次	SK4336	YN73	S-13埋土中	土師器	椀	H8概	P56 43図 18	4207
33	76	175次	SK4336	YN73	S-13埋土中	土師器	椀または有高台皿			4215
33	77	175次	SK4336	YN73	S-13埋土中	土師器	椀または有高台皿			4213
33	78	175次	SK4336	YN73	S-13埋土中	土師器	椀または有高台皿			4212
33	79	175次	SK4336	YN73	S-13埋土	土師器	椀または有高台皿	H8概	P56 43図 20	4209
33	80	175次	SK4336	YN73	S-13	越州窯系青磁	水注	H8概	P56 43図 21	4217
33	81	175次	SK4336	YN73	S-13	灰釉陶器	把手	H8概	P56 43図 22	4218
34	1	175次	SK4338	YM74	S-18埋土	土師器	坏身			4219
34	2	175次	SK4338	YM74	S-18埋土中	土師器	坏身			4227
34	3	175次	SK4338	YM74	S-18埋土	土師器	椀			4222
34	4	175次	SK4338	YM74	S-18埋土中	土師器	有高台皿			4223
34	5	175次	SK4338	YM74	S-18灰色土中	土師器	有高台皿	H8概	P59 43図 25	4226
34	6	175次	SK4338	YM74	S-18埋土中	土師器	椀			4224
34	7	175次	SK4338	YM74	S-18埋土	土師器	椀			4221
34	8	175次	SK4338	YM74	S-18灰色土中	土師器	椀	H8概	P59 43図 24	4225
34	9	175次	SK4338	YM74	S-18	土師器	脚	H8概	P59 43図 26	4228
34	10	175次	SK4339	YM73	S-16a	土師器	有高台皿			4233
34	11	175次	SK4339	YM73	S-16a	土師器	把手			4234
34	12	175次	SK4339	YM73	S-16a	越州窯系青磁	碗			4236
34	13	175次	SK4339	YM73	S-16a	越州窯系青磁	碗			4235
34	14	175次	SK4339	YM73	S-16a	染付	碗			4237
34	15	175次	SK4349	YM74	S-19一括	須恵器	甕			4273
34	16	175次	SK4342	YK・YL75	S-23	須恵器	坏身			4239
34	17	175次	SK4342	YK・YL75	S-23	土師器	坏身か			4240
34	18	175次	SK4342	YK・YL75	S-23	土師器	椀	H8概	P57 44図 1	4241
34	19	175次	SK4342	YK・YL75	S-23	土師器	椀	H8概	P57 44図 2	4242
34	20	175次	SK4342	YK・YL75	S-23	土師器	甕			4243
34	21	175次	SK4343	YK74・75	S-25灰色土	須恵器	坏蓋	H8概	P57 44図 3	4244
34	22	175次	SK4343	YK74・75	S-25灰色土	土師器	椀			4247
34	23	175次	SK4343	YK74・75	S-25灰色土	土師器	椀			4246

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
34	24	175次	SK4343	YK74・75	S-25灰色土	土師器	椀	H8概	P57 44図 4	4245
34	25	175次	SK4336	YN73	S-13埋土中	土師器	椀			4216
34	26	175次	SK4346	YN76	S-31埋土灰色土	須恵器	坏身	H8概	P57 44図 16	4250
34	27	175次	SK4346	YK76	S-31暗色土	須恵器	坏身			4254
34	28	175次	SK4346	YK76	S-31暗色土	須恵器	坏身			4253
34	29	175次	SK4346	YN76	S-31暗色土	須恵器	坏身	H8概	P57 44図 17	4255
34	30	175次	SK4346	YN76	S-31埋土灰色土	須恵器	坏身			4251
34	31	175次	SK4346	YK76	S-31埋土(暗色土)	須恵器	坏身			4252
34	32	175次	SK4346	YK76	S-31	須恵器	坏蓋			4249
34	33	175次	SK4346	YK76	S-31暗色土	土師器	椀			4259
34	34	175次	SK4346	YK76	S-31埋土(暗色土)	土師器	坏身			4256
34	35	175次	SK4346	YK76	S-31暗色土	土師器	椀			4258
34	36	175次	SK4348	YK75	S-24埋土	須恵器	壺			4265
34	37	175次	SK4348	YK75	S-24埋土	須恵器	坏蓋			4260
34	38	175次	SK4348	YK75	S-24埋土	須恵器	坏蓋			4261
34	39	175次	SK4348	YK75	S-24	須恵器	坏身			4262
34	40	175次	SK4348	YK75	S-24埋土	須恵器	皿か			4268
34	41	175次	SK4348	YK75	S-24	須恵器	壺	H8概	P59 45図 19	4263
34	42	175次	SK4348	YK75	S-24埋土	土師器	甕			4269
34	43	175次	SK4348	YK75	S-24	土師器	坏身	H8概	P59 45図 20	4266
34	44	175次	SK4348	YK75	S-24埋土	土師器	坏身			4267
34	45	175次	SK4349	YM74	S-19一括	須恵器	坏身			4270
34	46	186次	SK4545		S-3	須恵器	坏身	史跡Ⅱ	P14 Fig.8-15	4283
34	47	186次	SK4545		S-1北半	須恵器	坏身	史跡Ⅱ	P14 Fig.8-11	4274
34	48	175次	SK4349	YM74	S-19一括	土師器	椀			4272
34	49	175次	SK4349	YM74	S-19一括	土師器	椀			4271
34	50	186次	SK4545	YF79	S-1	土師器	甕			4276
34	51	186次	SK4545		S-1北半	土師器	甕	史跡Ⅱ	P14 Fig.8-12	4275
34	52	186次	SK4546		S-3	須恵器	坏蓋	史跡Ⅱ	P14 Fig.8-13	4277
34	53	186次	SK4546		S-3	須恵器	坏身	史跡Ⅱ	P14 Fig.8-14	4278
34	54	186次	SK4546		S-3	須恵器	皿か	史跡Ⅱ	P14 Fig.8-16	4281
34	55	186次	SK4546		S-3	須恵器	甕	史跡Ⅱ	P14 Fig.8-18	4279
34	56	186次	SK4546		S-3	須恵器	甕			4280
34	57	186次	SK4546		S-3	土師器	甕			4288
34	58	186次	SK4546		S-3	土師器	甕			4285
34	59	186次	SK4546		S-3	土師器	甕			4286
34	60	186次	SK4546		S-3	土師器	有高台皿か			4282
34	61	186次	SK4546		S-3	土師器	椀			4284
35	62	186次	SK4546		S-3 S-81	須恵器	甕			4303
35	63	186次	SK4547	YF76	S-4	須恵器	壺			4296
35	64	186次	SK4547	YC・YD78	S-4	須恵器	坏蓋	史跡Ⅱ	P14 Fig.8-20	4290
35	65	186次	SK4547		S-4	須恵器	坏蓋			4291
35	66	186次	SK4547	YF76	S-4	須恵器	坏蓋			4292
35	67	186次	SK4547		S-4	須恵器	坏身			4289
35	68	186次	SK4547		S-4	須恵器	坏身	史跡Ⅱ	P14 Fig.8-21	4294
35	69	186次	SK4547	YF76	S-4	須恵器	坏身	史跡Ⅱ	P14 Fig.8-22	4298
35	70	186次	SK4547	YF76	S-4	土師器	坏蓋	史跡Ⅱ	P14 Fig.8-24	4297
35	71	186次	SK4547	YF76	S-4	土師器	坏身			4300
35	72	186次	SK4547	YF76	S-4	土師器	坏身			4299
35	73	186次	SK4547	YF76	S-4	土師器	甕			4302
35	74	186次	SK4547	YF76	S-4	土師器	甕			4301

Tab.13 土壙墓出土土器等一覽

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
36	1	95次	SX2762	TA42	S-31	須恵器	坏身			5001
36	2	95次	SX2762	TA42	S-31	土師器	甕			5002
36	3	95次	SX2763	TA42	S-30	土師器	坏身			5003
36	4	95次	SX2764	TA40	S-19	須恵器	坏蓋			5004
36	5	95次	SX2767	TB40	S-15	須恵器	坏身			5006
36	6	95次	SX2768	TC40	S-14	土師器	甕			5010
36	7	95次	SX2768	TC40	S-14	須恵器	坏蓋			5007
36	8	95次	SX2768	TC40	S-14	須恵器	坏身			5009
36	9	95次	SX2768	TC40	S-14	須恵器	坏身			5008
36	10	95次	SX2769	TC40	S-13	須恵器	坏身			5012
36	11	95次	SX2769	TC40	S-13	須恵器	坏身			5013
36	12	95次	SX2771	TD40	S-12	須恵器	坏身			5017
36	13	95次	SX2773	TF41	S-3	須恵器	坏蓋			5018
36	14	95次	SX2773	TF41	S-3	土師器	坏身			5019
36	15	95次	SX2773	TF41	S-3	土師器	甕			5020
36	16	166次	SX4207	YC71	S-26	土師器	坏身			5024
36	17	166次	SX4207	YC71	S-26	土師器	坏身			5022
36	18	166次	SX4207	YC71	S-26	土師器	坏身			5023
36	19	166次	SX4207	YC71	S-26	緑釉陶器	壺			5025
36	20	166次	SX4212	YD71	S-31	須恵器	坏身	H7概	P90 59図 5	5029
36	21	166次	SX4212	YD71	S-31	須恵器	坏身			5028
36	22	166次	SX4212	YD72	S-31	須恵器	坏身			5027
36	23	166次	SX4212	YD72	S-31	須恵器	坏蓋			5026
36	24	166次	SX4212	YD72	S-31	土師器	椀			5030
36	25	166次	SX4212	YD72	S-31	土師器	甕			5031

Tab.14 井戸出土土器等一覧

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
37	1	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中(下層)	土師器	坏身	S60概	P47 27図 8	6005
37	2	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中(下層)	土師器	坏身	S60概	P47 27図 9	6006
37	3	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中(下層)	土師器	坏身	S60概	P47 27図 10	6007
37	4	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中(下層)	土師器	坏身			6009
37	5	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中(下層)	土師器	坏身			6008
37	6	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中(下層)	土師器	椀	S60概	P47 27図 12	6017
37	7	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中(下層)	土師器	椀	S60概	P47 27図 18	6021
37	8	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中(下層)	土師器	椀	S60概	P47 27図 13	6018
37	9	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中(下層)	土師器	椀			6027
37	10	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中(下層)	土師器	有高台皿	S60概	P47 27図 2	6034
37	11	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中(下層)	土師器	有高台皿	S60概	P47 27図 5	6035
37	12	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中(下層)	土師器	有高台皿	S60概	P47 27図 4	6033
37	13	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中(下層)	土師器	小皿			6015
37	14	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中(下層)	土師器	把手			6047
37	15	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中層	須恵器	壺			6002
37	16	96次	SE2845	VF57	S-73中層	須恵器	壺	S60概	P47 27図 20	6043
37	17	96次	SE2845	VF57	S-73中層	土師器	坏身			6011
37	18	96次	SE2845	VF57	S-73(中層)	土師器	椀	S60概	P47 27図 11	6016
37	19	96次	SE2845	VF57	S-73(中層)	土師器	椀			6029
37	20	96次	SE2845	VF57	S-73(中層)	土師器	椀	S60概	P47 27図 19	6025
37	21	96次	SE2845	VF57	S-73(中層)	黒色土器A類	椀	S60概	P47 27図 22	6023
37	22	96次	SE2845	VF57	S-73(中層)	黒色土器A類	鉢	S60概	P47 27図 23	6040
37	23	96次	SE2845	VF57	S-73中層	土師器	把手			6048
37	24	96次	SE2845	VF57	S-73中層	越州窯系青磁	碗	S60概	P48 28図 26	6052
37	25	96次	SE2845	VF57	S-73中層	越州窯系青磁	碗			6056
37	26	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中	越州窯系青磁	碗	S60概	P48 28図 24	6050
37	27	96次	SE2845	VF57	S-73中層	越州窯系青磁	碗			6053
37	28	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中層	越州窯系青磁	碗			6061
37	29	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中層	越州窯系青磁	碗			6059
37	30	96次	SE2845	VF57	S-73中層	越州窯系青磁	碗			6057
38	31	96次	SE2845	VF57	S-73	須恵器	壺			6001
38	32	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中	土師器	坏身	S60概	P47 27図 7	6004
38	33	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中	土師器	坏身	S60概	P47 27図 6	6003
38	34	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中	土師器	坏身			6013
38	35	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中	土師器	坏身			6012
38	36	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中	土師器	皿			6014
38	37	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中	土師器	椀	S60概	P47 27図 14	6019
38	38	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中	土師器	椀	S60概	P47 27図 15	6020
38	39	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中	土師器	椀	S60概	P47 27図 18	6022
38	40	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中	土師器	椀	S60概	P47 27図 16	6024
38	41	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中	土師器	椀			6026
38	42	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中	土師器	椀			6028
38	43	142次	SE2845	WN57	S-1	土師器	椀			6037
38	44	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中	土師器	椀	S60概	P47 27図 23	6030
38	45	96次	SE2845	VF57	S-73	黒色土器B類	椀			6049
38	46	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中	土師器	有高台皿	S60概	P47 27図 3	6032
38	47	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中	土師器	有高台皿	S60概	P47 27図 1	6036
38	48	96次	SE2845	VF57	S-73	土師器	有高台皿			6031
38	49	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中	土師器	有高台皿			6039
38	50	96次	SE2845	VF57	S-73	土師器	甗			6045
38	51	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中	須恵器	甗	S60概	P47 27図 21	6041
38	52	96次	SE2845	VF57	S-73井戸中	土師器	甗			6042
38	53	96次	SE2845	VF57・VD57	S-73井戸中 S-86	越州窯系青磁	碗	S60概	P48 28図 25	6051
38	54	96次	SE2845	VF57	S-73	越州窯系青磁	碗			6054
38	55	96次	SE2845	VF57	S-73	越州窯系青磁	碗			6055
38	56	142次	SE2845	WN57	S-1	緑釉陶器	碗			6063
38	57	96次	SE2845	VF57	S-73中層	土師器	移動式竈			6046
39	1	133次	SE3910	NB19	S-35上層	須恵器	坏身			6133
39	2	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	坏身			6102
39	3	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	坏身			6103
39	4	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	坏身	H3概	P102 70図 1	6068
39	5	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	坏身			6079
39	6	133次	SE3910	NB19	S-35上層	黒色土器B類	坏身			6115
39	7	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	坏身			6077
39	8	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	坏身			6076
39	9	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	坏身			6078
39	10	133次	SE3910	NB19	S-35上層	瓦器?	椀			6101
39	11	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	椀			6100
39	12	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	椀	H3概	P102 70図 4	6080
39	13	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	椀			6083
39	14	133次	SE3910	NB19	S-35B	土師器	椀			6096
39	15	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	椀			6085
39	16	133次	SE3910	NB19	S-35上層(砂)	土師器	椀			6099
39	17	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	椀			6086

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
39	18	133次	SE3910	NB19	S-35上層	瓦器?	椀			6091
39	19	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	椀			6090
39	20	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	椀			6092
39	21	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	椀			6084
39	22	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	椀			6089
39	23	133次	SE3910	NB19	S-35上層(砂)	土師器	椀			6098
39	24	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	椀			6087
39	25	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	椀			6088
39	26	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	甕	H3概	P103 71図 22	6105
39	27	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	甕			6108
39	28	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	甕	H3概	P103 71図 21	6104
39	29	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	把手			6114
39	30	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	移動式竈			6113
39	31	133次	SE3910	NB19	S-35上層	黒色土器A類	甕	H3概	P102 70図 9	6123
39	32	133次	SE3910	NB19	S-35上層	黒色土器A類	甕	H3概	P102 70図 10	6124
39	33	133次	SE3910	NB19	S-35上層	黒色土器A類	甕			6125
39	34	133次	SE3910	NB19	S-35上層	黒色土器A類	椀	H3概	P102 70図 7	6116
39	35	133次	SE3910	NB19	S-35上層	黒色土器A類	椀	H3概	P102 70図 6	6119
39	36	133次	SE3910	NB19	S-35上層	黒色土器A類	椀			6120
39	37	133次	SE3910	NB19	S-35B	黒色土器A類	椀			6121
39	38	133次	SE3910	NB19	S-35B	黒色土器A類	椀			6118
39	39	133次	SE3910	NB19	S-35上層	黒色土器A類	椀			6093
39	40	133次	SE3910	NB19	S-35上層	黒色土器A類	椀			6122
39	41	133次	SE3910	NB19	S-35上層	黒色土器A類	椀			6095
39	42	133次	SE3910	NB19	S-35	灰釉陶器	碗	H3概	P102 70図 11	6129
39	43	133次	SE3910	NB19	S-35上層	越州窯系青磁	碗	H3概	P102 70図 15	6128
39	44	133次	SE3910	NB19	S-35上層	白磁	碗	H3概	P102 70図 16	6132
39	45	133次	SE3910	NB19	S-35上層(砂)	越州窯系青磁	碗			6131
39	46	133次	SE3910	NB19	S-35上層	緑釉陶器	碗	H3概	P102 70図 12	6127
40	47	133次	SE3910	NB19	S-35B	須恵器	甕			6067
40	48	133次	SE3910	NB19	S-35B	土師器	坏身	H3概	P102 70図 2	6069
40	49	133次	SE3910	NB19	S-35B	土師器	坏身			6071
40	50	133次	SE3910	NB19	S-35B	土師器	坏身	H3概	P102 70図 3	6070
40	51	133次	SE3910	NB19	S-35B	土師器	坏身			6072
40	52	133次	SE3910	NB19	S-35B	土師器	坏身			6074
40	53	133次	SE3910	NB19	S-35B	瓦質土器	坏身			6073
40	54	133次	SE3910	NB19	S-35B	黒色土器A類	椀	H3概	P102 70図 8	6117
40	55	133次	SE3910	NB19	S-35B	土師器	椀	H3概	P102 70図 5	6081
40	56	133次	SE3910	NB19	S-35B	土師器	甕	H3概	P103 71図 23	6106
40	57	133次	SE3910	NB19	S-35B	土師器	甕	H3概	P103 71図 24	6107
40	58	133次	SE3910	NB19	S-35B	土師器	高坏			6111
40	59	133次	SE3910	NB19	S-35B	土師器	脚付椀			6097
40	60	133次	SE3910	NB19	S-35B	土師器	かまど	H3概	P103 71図 25	6112
40	61	133次	SE3910	NB19	S-35	越州窯系青磁	碗	H3概	P102 70図 14	6126
40	62	137次	SE3955	VL27	S-64	須恵器	坏蓋			6134
40	63	137次	SE3955	VL27	S-64	須恵器	坏蓋			6136
40	64	137次	SE3955	VL27	S-64	須恵器	坏身			6135
40	65	137次	SE3955	VL27	S-64上層	須恵器	坏身			6137
40	66	137次	SE3955	VL27	S-64上層	土師器	把手			6139
40	67	137次	SE3955	VL27	S-64	土師器	甕	H3概	P102 73図 6	6138

Tab.15 採土遺構出土土器等一覽

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
41	1	96-2次	SX2837	VD・VE56	S-76	須恵器	坏身			7001
41	2	96-2次	SX2837	VD56	S-76	土師器	坏身			7002
41	3	96-2次	SX2837	VD56	S-76	土師器	坏身			7003
41	4	142次	SX2837	WM56	S-2	土師器	坏身			7004
41	5	96-2次	SX2837	VD56	S-76	土師器	椀			7005
41	6	96-2次	SX2837	VD56	S-76	土師器	椀			7006
41	7	96-2次	SX2837	VD56	S-76	土師器	椀			7007
41	8	96-2次	SX2837	VD56	S-76	土師器	椀			7008
41	9	96-2次	SX2837	VD56	S-76	黒色土器A類	甕			7009
41	10	96-2次	SX2837	VD56	S-76	越州窯系青磁	碗			7014
41	11	96-2次	SX2837	VE56	S-76	越州窯系青磁	碗			7013
41	12	175次	SX4333	YO74	S-14埋土中	須恵器	壺			7018
41	13	175次	SX4333	YO74	S-14埋土中	須恵器	坏蓋			7016
41	14	175次	SX4333	YO74	S-14埋土中	須恵器	坏身			7017
41	15	175次	SX4333	YO74	S-14埋土中	土師器	坏身			7020
41	16	175次	SX4334	YN75	S-21 最下層	土師器	椀			7063
41	17	175次	SX4334	YN75	S-21埋土最下層	土師器	椀			7070
41	18	175次	SX4334	YN75	S-21 最下層	土師器	椀			7062
41	19	175次	SX4334		S-21 埋土最下層	土師器	椀			7061
41	20	175次	SX4334	YO74	S-21下層	須恵器	坏蓋			7023
41	21	175次	SX4334	YN74	S-21下層	須恵器	坏蓋	H8概	P56 43図 2	7021
41	22	175次	SX4334	YN75	S-21下層	須恵器	坏蓋	H8概	P56 43図 3	7022
41	23	175次	SX4334		S-21下層	土師器	坏身			7034
41	24	175次	SX4334	YN74	S-21埋土下層	土師器	坏身			7033
41	25	175次	SX4334	YN75	S-21埋土下層灰色土	土師器	坏身			7030
41	26	175次	SX4334	YO75	S-21埋土下層	土師器	坏身			7025
41	27	175次	SX4334	YN74	S-21埋土下層灰色土	土師器	坏身			7032
41	28	175次	SX4334	YN75	S-21埋土下層灰色土	土師器	坏身			7029
41	29	175次	SX4334	YN75	S-21埋土下層	土師器	椀			7071
41	30	175次	SX4334	YN74	S-21埋土下層	土師器	椀	H8概	P56 43図 5	7039
41	31	175次	SX4334	YO74	S-21下層	土師器	椀	H8概	P56 43図 6	7040
41	32	175次	SX4334	YO74	S-21下層	土師器	椀	H8概	P56 43図 7	7041
41	33	175次	SX4334	YN74	S-21下層	土師器	椀	H8概	P56 43図 8	7042
41	34	175次	SX4334		S-21埋土下層	土師器	椀			7046
41	35	175次	SX4334	YN75	S-21埋土下層灰色土	土師器	椀			7051
41	36	175次	SX4334	YN75	S-21埋土下層灰色土	土師器	椀			7053
41	37	175次	SX4334	YN74	S-21埋土下層灰色土	土師器	椀			7054
41	38	175次	SX4334	YO74	S-21埋土下層	土師器	椀			7065
41	39	175次	SX4334	YN74	S-21埋土下層	土師器	椀			7059
41	40	175次	SX4334	YN74	S-21埋土下層	土師器	椀			7060
41	41	175次	SX4334	YO74	S-21埋土下層	土師器	椀			7066
41	42	175次	SX4334	YO74	S-21埋土下層	土師器	有高台皿			7067
41	43	175次	SX4334	YN74	S-21埋土下層	土師器	有高台皿			7068
41	44	175次	SX4334	YN74	S-21埋土下層	土師器	有高台皿			7069
41	45	175次	SX4334	YN74	S-21埋土下層灰色土	土師器	有高台皿			7055
41	46	175次	SX4334	YN74	S-21下層	土師器	有高台皿	H8概	P56 43図 12	7044
41	47	175次	SX4334	YN74	S-21埋土下層	土師器	有高台皿			7045
41	48	175次	SX4334	YN75	S-21埋土下層	土師器	有高台皿			7052
41	49	175次	SX4334	YN75	S-21埋土下層	土師器	甕	H8概	P56 43図 13	7072
41	50	175次	SX4334	YN75	S-21下層	白磁	水注	H8概	P56 43図 16	7076
41	51	175次	SX4334	YN74	S-21下層	越州窯系青磁	碗	H8概	P56 43図 14	7078
41	52	175次	SX4334	YN75	S-21上層	土師器	皿	H8概	P56 43図 11	7031
41	53	175次	SX4334	YN75	S-21上層	土師器	坏身	H8概	P56 43図 10	7026
41	54	175次	SX4334	YN75	S-21埋土上層	土師器	坏身			7028
41	55	175次	SX4334	YN75	S-21埋土上層	土師器	坏身			7027
41	56	175次	SX4334	YN75	S-21埋土上層	土師器	椀			7047
41	57	175次	SX4334	YN75	S-21上層	土師器	椀	H8概	P56 43図 9	7043
41	58	175次	SX4334	YN75	S-21埋土上層	土師器	椀			7048
41	59	175次	SX4334	YN75	S-21埋土上層	土師器	椀			7050
41	60	175次	SX4334	YN75	S-21埋土上層	土師器	椀			7064
41	61	175次	SX4334	YN75	S-21埋土下層	土師器	椀			7049
41	62	175次	SX4334	YN74	S-21a	土師器	坏身			7036
41	63	175次	SX4334	YN74	S-21a	土師器	坏身			7037
41	64	175次	SX4334	YN74	S-21a	土師器	坏身			7035
41	65	175次	SX4334	YN74	S-21a	土師器	坏身			7038
41	66	175次	SX4334	YN74	S-21a	土師器	椀			7057
41	67	175次	SX4334	YN74	S-21a	土師器	椀			7056
41	68	175次	SX4334	YN75	S-21	灰釉陶器	碗	H8概	P56 43図 15	7074
41	69	175次	SX4334	YN75	S-21	緑釉陶器	碗			7073
42	1	175次	SX4337	YO76・77	S-26灰色土	須恵器	鉢			7080
42	2	175次	SX4337	YO76・77	S-26灰色土	須恵器	坏身			7091
42	3	175次	SX4337	YO76	S-26灰色土	須恵器	坏身			7079
42	4	175次	SX4337	YO76	S-26灰色土	土師器	坏身			7082
42	5	175次	SX4337	YO76・77	S-26灰色土	土師器	椀			7083
42	6	175次	SX4337	YO76・77	S-26灰色土	土師器	椀			7088
42	7	175次	SX4337	YO76・77	S-26灰色土	土師器	椀			7092

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
42	8	175次	SX4337	YO76・77	S-26灰色土	土師器	有高台皿			7084
42	9	175次	SX4337	YO76・77	S-26灰色土	土師器	有高台皿			7089
42	10	175次	SX4337	YO76・77	S-26灰色土	土師器	有高台皿			7087
42	11	175次	SX4337	YO76・77	S-26灰色土	土師器	有高台皿			7086
42	12	175次	SX4337	YO76・77	S-26灰色土	土師器	有高台皿			7085
42	13	175次	SX4337	YO76	S-26灰色土	土師器	皿	H8概	P56 43図 23	7081
42	14	175次	SX4337	YO76・77	S-26	緑釉陶器	碗			7090
42	15	175次	SX4341	YL・YM75	S-20	須惠器	壺	H8概	P56 43図 27	7092
42	16	175次	SX4341	YN76	S-20下層	須惠器	壺			7095
42	17	175次	SX4341	YM76	S-20下層	須惠器	坏蓋			7094
42	18	175次	SX4341	YM	S-20下層	土師器	坏身			7096
42	19	175次	SX4341	YM75	S-20下層	土師器	坏身			7097
42	20	175次	SX4341	YL・YM75	S-20埋土	土師器	坏身			7098
42	21	175次	SX4341	YM75	S-20下層	土師器	椀			7101
42	22	175次	SX4341	YM75	S-20下層	黒色土器A類	椀			7106
42	23	175次	SX4341	YL・YM75	S-20埋土	土師器	椀			7103
42	24	175次	SX4341	YL・YM75	S-20埋土	土師器	椀			7102
42	25	175次	SX4341	YL・YM75	S-20	土師器	椀	H8概	P56 43図 28	7099
42	26	175次	SX4341	YM76	S-20下層	土師器	椀			7105
42	27	175次	SX4341	YL・YM75	S-20埋土	土師器	椀			7104
42	28	175次	SX4341	YM75	S-20下層	土師器	椀	H8概	P56 43図 29	7100
42	29	175次	SX4341	YM75	S-20下層	土師器	脚	H8概	P56 43図 30	7107
42	30	175次	SX4344	YK75	S-30	須惠器	壺			7113
42	31	175次	SX4344	YK75	S-30	須惠器	坏蓋			7109
42	32	175次	SX4344	YK75	S-30	須惠器	坏身			7112
42	33	175次	SX4344	YJ・YK75	S-30灰色土	須惠器	坏身	H8概	P57 44図 5	7111
42	34	175次	SX4344	YK75	S-30	須惠器	坏身	H8概	P57 44図 6	7110
42	35	175次	SX4344	YK70	S-30	土師器	椀			7120
42	36	175次	SX4344	YJ・YK75	S-30灰色土	土師器	椀			7122
42	37	175次	SX4344	YJ・YK75	S-30灰色土	土師器	椀			7121
42	38	175次	SX4344	YK76	S-30	土師器	椀			7117
42	39	175次	SX4344	YJ・YK75	S-30灰色土	土師器	椀			7123
42	40	175次	SX4344	YK76	S-30	土師器	椀			7119
42	41	175次	SX4344	YK76	S-30	土師器	有高台皿			7118
42	42	175次	SX4344	YJ・YK75	S-30埋土上層	土師器	皿			7114
42	43	175次	SX4344	YJ・YK75	S-30埋土上層	土師器	坏身			7115
42	44	175次	SX4344	YN75	S-30	土師器	坏身			7116
42	45	175次	SX4347	YK77	S-33上層	須惠器	壺			7160
42	46	175次	SX4347	YJ・YK76・77	S-33灰色土	須惠器	壺	H8概	P59 45図 6	7161
42	47	175次	SX4347	YJ77	S-33	須惠器	甕			7193
42	48	175次	SX4347	YK77	S-33上層	須惠器	甕	H8概	P57 44図 11	7162
42	49	175次	SX4347	YJ77	S-33	須惠器	壺	H8概	P59 45図 5	7156
42	50	175次	SX4347	YK77	S-33上層	須惠器	坏蓋	H8概	P59 45図 2	7152
42	51	175次	SX4347	YK77	S-33上層	須惠器	坏蓋	H8概	P59 45図 1	7151
42	52	175次	SX4347	YJ・YK76・77	S-33上層	須惠器	坏蓋	H8概	P59 45図 3	7153
42	53	175次	SX4347	YJ・YK76・77	S-33上層	須惠器	坏身			7157
42	54	175次	SX4347	YJ・YK76・77	S-33上層	須惠器	坏身			7155
42	55	175次	SX4347	YK77	S-33上層	須惠器	坏身			7158
42	56	175次	SX4347	YJ77	S-33	須惠器	坏身			7159
42	57	175次	SX4347	YJ・YK76・77	S-33埋土上層	須惠器	坏身			7177
42	58	175次	SX4347	YJ76・77	S-33灰色土	土師器	坏身			7164
42	59	175次	SX4347	YK77	S-33上層	土師器	坏身			7163
42	60	175次	SX4347	YJ77	S-33	土師器	坏身			7165
42	61	175次	SX4347	YK77	S-33上層	土師器	椀			7169
42	62	175次	SX4347	YJ77	S-33	土師器	椀			7168
42	63	175次	SX4347	YK77	S-33上層	土師器	椀			7170
42	64	175次	SX4347	YK77	S-33上層	土師器	椀	H8概	P59 45図 7	7167
42	65	175次	SX4347	YJ77	S-33	土師器	椀			7179
42	66	175次	SX4347	YJ77	S-33	土師器	椀			7178
42	67	175次	SX4347	YK77	S-33上層	土師器	椀	H8概	P59 45図 8	7166
42	68	175次	SX4347	YK77	S-33上層	土師器	椀			7174
42	69	175次	SX4347	YK77	S-33上層	土師器	椀			7175
42	70	175次	SX4347	YK77	S-33上層	土師器	椀			7172
42	71	175次	SX4347	YK77	S-33上層	土師器	椀			7171
42	72	175次	SX4347	YK77	S-33上層	土師器	椀			7173
42	73	175次	SX4347	YJ・YK76・77	S-33埋土上層	土師器	椀			7176
43	74	175次	SX4347	YJ・YK76・77	S-33	土師器	移動式竈	H8概	P59 45図 11	7183
43	75	175次	SX4347	YJ76・77	S-33埋土下層	土師器	甕			7182
43	76	175次	SX4347	YK77	S-33上層	黒色土器B類	甕			7187
43	77	175次	SX4347	YJ76・77	S-33灰色土	黒色土器A類	椀			7186
43	78	175次	SX4347	YK77	S-33上層	黒色土器A類	椀			7184
43	79	175次	SX4347	YK77	S-33上層	黒色土器A類	椀			7185
43	80	175次	SX4347	YK77	S-33上層	緑釉陶器	皿	H8概	P59 45図 12	7189
43	81	175次	SX4347	YJ76・77	S-33灰色土	緑釉陶器	皿	H8概	P59 45図 13	7192
43	82	175次	SX4347	YJ・YK76・77	S-33埋土上層	緑釉陶器	碗			7194
43	83	175次	SX4347	YJ76・77	S-33上層	灰釉陶器	壺	H8概	P59 45図 15	7191
43	84	175次	SX4347	YJ77	S-33	越州窯系青磁	碗			7197
43	85	175次	SX4347	YJ76・77	S-33上層	越州窯系青磁	碗	H8概	P59 45図 14	7190
43	86	175次	SX4347	YJ77	S-33	黒色土器B類	甕			7188

Tab.16 落ち込み状遺構出土土器等一覧

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
44	1	29次	SX539	BB 11 BTr	暗灰色土	須恵器	鉢			8001
44	2	29次	SX539	BB 11 BTr	暗灰色土	須恵器	坏蓋			8002
44	3	29次	SX539	BB 11 BTr	暗灰色土	土師器	坏身			8004
44	4	29次	SX539	BB 11 BTr	暗灰色土	土師器	坏身または皿			8003
44	5	95次	SX2781	TB 44	S-32	須恵器	坏身			8005
44	6	95次	SX2781	TB 44	S-32	須恵器	坏身			8006
44	7	95次	SX2781	TB 44	S-32	須恵器	坏身			8007
44	8	95次	SX2781	TB 44	S-32	須恵器	坏身			8009
44	9	95次	SX2781	TB 44	S-32	須恵器	坏身			8008
44	10	95次	SX2781	TB 44	S-32	須恵器	坏身または皿			8010
44	11	95次	SX2781	TB 44	S-32	須恵器	坏身			8011
44	12	133次	SX3919	NC 21	S-2	須恵器	坏蓋			8018
44	13	133次	SX3919	NC 21	S-2	須恵器	坏蓋			8016
44	14	133次	SX3919	NC 21	S-2	須恵器	坏蓋	H3概	P104 72図 14	8015
44	15	133次	SX3919	NC 21	S-2	須恵器	坏身			8017
44	16	133次	SX3919	NC 21	S-2	須恵器	坏身または皿			8020
44	17	133次	SX3919	NB 21	S-2	須恵器	坏身			8021
44	18	133次	SX3919	NC 21	S-2	須恵器	坏蓋	H3概	P104 72図 16	8019
44	19	133次	SX3919	NC 21	S-2	土師器	坏身			8029
44	20	133次	SX3919	NB 21	S-2	土師器	坏身			8100
44	21	133次	SX3919	NC 21	S-2	土師器	坏身			8027
44	22	133次	SX3919	NB 21	S-2	土師器	坏身			8099
44	23	133次	SX3919	NC 21	S-2	土師器	坏身			8028
44	24	133次	SX3919	NC 21	S-2	土師器	甕			8033
44	25	133次	SX3919	NC 21	S-2	土師器	甕			8034
44	26	133次	SX3919	NC 21	S-2	土師器	甕			8035
44	27	133次	SX3919	NC 21	S-2	土師器	椀			8030
44	28	133次	SX3919	NB 21	S-2	土師器	椀			8101
44	29	133次	SX3919	NC 21	S-2	土師器	椀			8031
44	30	133次	SX3919	NC 21	S-2	土師器	椀			8032
44	31	133次	SX3919	NC 21	S-2	土師器	皿	H3概	P104 72図 19	8022
44	32	133次	SX3919	NC 21	S-2	土師器	皿			8025
44	33	133次	SX3919	NC 21	S-2	土師器	皿			8024
44	34	133次	SX3919	NC 21	S-2	土師器	皿			8026
44	35	133次	SX3919	NC 21	S-2	土師器	皿	H3概	P104 72図 17	8023
44	36	133次	SX3919	NC 21	S-2	黒色土器A類	椀			8039
44	37	133次	SX3919	NC 21	S-2	黒色土器A類	椀	H3概	P104 72図 20	8038
44	38	133次	SX3919	NC 21	S-2	黒色土器A類	椀			8037
44	39	133次	SX3919	NC 21	S-2	黒色土器A類	椀			8041
44	40	133次	SX3919	NC 21	S-2	黒色土器A類	椀			8036
44	41	133次	SX3919	NC 21	S-2	黒色土器A類	壺	H3概	P104 72図 21	8040
44	42	133次	SX3919	NB 21	S-2	白磁	碗	H3概	P104 72図 21	8042
44	43	166次	SX4205	YF 68	S-15	須恵器	鉢	H7概	P89 58図 8	8046
44	44	166次	SX4205	YG 68	S-15	須恵器	坏身	H7概	P89 58図 7	8045
44	45	166次	SX4205	YF 68	S-15	須恵器	坏身	H7概	P89 58図 6	8044
44	46	166次	SX4205	YG 68	S-15	土師器	坏身	H7概	P89 58図 12	8047
44	47	166次	SX4205	YG 68	S-15	土師器	坏身	H7概	P89 58図 11	8048
44	48	166次	SX4205	YF 69	S-15	土師器	坏身	H7概	P89 58図 10	8049
44	49	166次	SX4205	YF 68	S-15	土師器	坏身	H7概	P89 58図 9	8050
44	50	166次	SX4205	YF 68	S-15	土師器	坏身	H7概	P89 58図 16	8051
44	51	166次	SX4205	YE 69	S-15	土師器	坏身	H7概	P89 58図 15	8052
44	52	166次	SX4205	YE 69	S-15	土師器	坏身	H7概	P89 58図 14	8053
44	53	166次	SX4205	YE 69	S-15	土師器	坏身	H7概	P89 58図 13	8054
44	54	166次	SX4205	YE 69	S-15	土師器	坏身			8056
44	55	166次	SX4205	YE 69	S-15	土師器	坏身	H7概	P89 58図 17	8055
44	56	166次	SX4205	YF 68	S-15	須恵器	坏蓋	H7概	P89 58図 5	8043
44	57	166次	SX4205	YF 69	S-15	土師器	椀	H7概	P89 58図 19	8057
44	58	166次	SX4205	YF 68	S-15	土師器	椀	H7概	P89 58図 18	8058
44	59	166次	SX4205	YI 69	S-15	土師器	椀	H7概	P89 58図 17	8059
44	60	166次	SX4205	YE 69	S-15	土師器	椀	H7概	P89 58図 20	8060
44	61	166次	SX4205	YE 68	S-15	土師器	椀	H7概	P89 58図 22	8061
44	62	166次	SX4205	YE 69	S-15	土師器	椀			8063
44	63	166次	SX4205	YE 69	S-15	土師器	椀	H7概	P89 58図 1	8062
44	64	166次	SX4205	YE 69	S-15	土師器	椀			8064
44	65	166次	SX4205	YF 69	S-15	土師器	甕			8065
44	66	166次	SX4205	YF 68	S-15	緑釉陶器	碗			8066
45	1	193次	SX4617	O・P地区	S-1 黒色砂質土	須恵器	甕			8083
45	2	193次	SX4617	C4	S-1 黒褐色砂層	須恵器	甕			8081
45	3	193次	SX4617	C4	S-1 黒褐色砂層	須恵器	坏蓋	史跡IV	P13 Fig.8-2	8068
45	4	193次	SX4617	O・P地区	S-1 黒色砂質土	須恵器	坏蓋			8073
45	5	193次	SX4617	O・P地区D2	S-1 黒色砂質土下部	須恵器	坏蓋			8069
45	6	193次	SX4617	O・P地区D2	S-1 黒色砂質土下部～灰色砂	須恵器	坏蓋			8070
45	7	193次	SX4617	O・P地区E4	S-1 黒褐色土	須恵器	坏蓋			8072
45	8	193次	SX4617	O・P地区C4	S-1 黒褐色砂層	須恵器	坏蓋			8084
45	9	193次	SX4617	O・P地区F3	S-1 黒色砂質土	須恵器	坏身	史跡IV	P13 Fig.8-3	8085
45	10	193次	SX4617	O・P地区F3	S-1 黒色砂質土	須恵器	坏身			8075
45	11	193次	SX4617	O・P地区F3	S-1 黒色砂質土	須恵器	坏身	史跡IV	P13 Fig.8-6	8077
45	12	193次	SX4617	Tr2	S-1 黒色砂質土	須恵器	坏身	史跡IV	P13 Fig.8-5	8074

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
45	13	193次	SX4617	F4	S-1 黒色砂質土	須恵器	坏身	史跡Ⅳ	P13 8図 4	8076
45	14	193次	SX4617	C・P地区E3	S-1 黒色砂質土	須恵器	甕			8082
45	15	193次	SX4617	O・P地区C3	S-1 黒色砂質土下部	土師器	甕			8094
45	16	193次	SX4617	O・P地区C4	S-1 黒褐色砂層	土師器	甕			8092
45	17	193次	SX4617	C4	S-1 黒色砂質土	土師器	甕			8093
45	18	193次	SX4617	O・P地区	S-1 黒色砂質土	土師器	甕			8087
45	19	193次	SX4617	O・P地区	S-1 黒色砂質土上部	土師器	椀			8090
45	20	193次	SX4617	O・P地区D1	S-1 黒色砂質土	土師器	椀	史跡Ⅳ	P13 8図 10	8089
45	21	193次	SX4617	C3	S-1 黒色砂質土	灰釉陶器	碗	史跡Ⅳ	P13 8図 12	8097

Tab.17 鑄造関連遺構出土土器等一覧

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
46	1	133次	SX3918	NB 21	S-31	須恵器	坏身			9001
46	2	133次	SX3918	NB 21	S-31	土師器	皿			9002

Tab.18 その他のピット出土土器等一覧

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
47	1	96次	SX2826	VJ52	S-88	須恵器	甕			12001
48	1	29次	その他ピット	CA5	PIT内Ctr	須恵器	坏身			10152
48	2	29次	その他ピット	CA3	PIT内Ctr	須恵器	坏身			10155
48	3	29次	その他ピット	CA6	PIT内Ctr	須恵器	坏身			10156
48	4	29次	その他ピット	CA5	PIT内Ctr	須恵器	坏身			10154
48	5	29次	その他ピット	CA5	PIT内Ctr	須恵器	坏身			10153
49	6	29次	その他ピット	CA6	PIT内Ctr	須恵器	甕			10157
48	7	95次	その他ピット	TE43	S-23	土師器	皿			13002
48	8	95次	その他ピット	TA40	S-34	須恵器	坏身			13001
48	9	96次	その他ピット	QN55	S-7	弥生土器	甕			13004
48	10	133次	その他ピット	NC19	S-21	須恵器	蓋			13005
48	11	133次	その他ピット	NC21	S-7	土師器	坏身			13008
48	12	133次	その他ピット	NB22	S-3	土師器	坏身			13007
48	13	133次	その他ピット	NC20	S-18	土師器	皿			13006
48	14	133次	その他ピット	NC21	S-7	黒色土器A類	椀			13011
48	15	137次	その他ピット	VG22	S-55	須恵器	坏蓋			13012
48	16	137次	その他ピット	VL27	S-60	須恵器	坏身			13014
48	17	137次	その他ピット	VJ23	S-78	須恵器	坏身			13013
48	18	137次	その他ピット	VF22	S-55	須恵器	坏身			13015
48	19	157次	その他ピット	QF62	S-16	土師器	坏身			13021
48	20	157次	その他ピット	QF57	S-3	土師器	坏身			13020
48	21	157次	その他ピット	QF57	西南隅ピット	土師器	有高台皿			13022
48	22	157次	その他ピット	QF57	S-3	土師器	有高台皿			13023
48	23	175次	その他ピット		S-2	須恵器	坏蓋			13032
48	24	166次	その他ピット	YE67	S-21	土師器	甕			13026
48	25	167次	その他ピット		S-2	須恵器	坏身			13031
48	26	175次	その他ピット		S-2	土師器	坏身			13034
48	27	175次	その他ピット	YK76	S-31	須恵器	坏身			13033
48	28	193次	その他ピット	O・P地区C3	S-10	須恵器	坏身			13047
48	29	186次	その他ピット		S-87	須恵器	坏身	史跡Ⅱ	P20 Fig.13-11	13046
48	30	186次	その他ピット		S-29	須恵器	坏蓋	史跡Ⅱ	P20 Fig.13-9	13037
48	31	186次	その他ピット		S-87	須恵器	皿	史跡Ⅱ	P20 Fig.13-13	13038
48	32	186次	その他ピット		S-30	土師器	高坏	史跡Ⅱ	P20 Fig.13-14	13045
48	33	186次	その他ピット		S-77	土師器	甕	史跡Ⅱ	P20 Fig.13-17	13042
48	34	186次	その他ピット		S-92	土師器	甕	史跡Ⅱ	P20 Fig.13-16	13043
48	35	186次	その他ピット		S-23	土師器	甕	史跡Ⅱ	P20 Fig.13-18	13044

Tab.19 遺物包含層等出土土器等一覽

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
49	1	29次	Ctr暗茶灰色土	CA2	暗茶灰色土	須恵器	坏身			10133
49	2	29次	Ctr暗茶灰色土	Ctr	暗茶灰層(土坑)	須恵器	坏身			10146
49	3	29次	Ctr暗茶灰色土	CA5	暗茶灰色土	土師器	坏身			10141
49	4	29次	Ctr暗茶灰色土	Ctr	暗茶灰層(土坑)	須恵器	坏身			10147
49	5	29次	Ctr暗茶灰色土	CA6	暗茶灰色土	須恵器	坏身			10134
49	6	29次	Ctr暗茶灰色土	CA5	暗茶灰色土	須恵器	坏身			10136
49	7	29次	Ctr暗茶灰色土	CA5	暗茶灰色土	須恵器	坏身			10138
49	8	29次	Ctr暗茶灰色土	CA5	暗茶灰色土	須恵器	坏身			10135
49	9	29次	Ctr暗茶灰色土	CA5	暗茶灰色土	須恵器	壺			10137
49	10	29次	Ctr暗茶灰色土	Ctr	暗茶灰層(土坑)	須恵器	壺			10148
49	11	29次	Ctr暗茶灰色土	CA5	暗茶灰色土	土師器	坏身			10140
49	12	29次	Ctr暗茶灰色土	CA5	暗茶灰色土	土師器	甗			10145
49	13	29次	Ctr暗茶灰色土	CA5	暗茶灰色土	土師器	甗			10144
49	14	29次	Ctr暗茶灰色土	Ctr	暗茶灰層(土坑)	土師器	把手			10149
50	1	29次	表土ほか	CA4	黄褐色土	縄文土器	甗			10123
50	2	29次	表土ほか	AS8	床土	弥生土器	甗			10032
50	3	29次	表土ほか	BB11	床土	須恵器	坏身			10070
50	4	29次	表土ほか	AE2	灰褐砂質土	須恵器	坏身			10020
50	5	29次	表土ほか	CA1	黄褐色土	須恵器	坏身			10109
50	6	29次	表土ほか	CA2	黄褐色土	須恵器	坏身			10110
50	7	29次	表土ほか	AS4	暗灰色土	須恵器	坏身			10006
50	8	29次	表土ほか	AE2	灰褐砂質土	須恵器	坏身			10019
50	9	29次	表土ほか	AS3	床土	須恵器	坏蓋			10030
50	10	29次	表土ほか	CA2	黄褐色土	須恵器	坏蓋			10104
50	11	29次	表土ほか	AS2	床土	須恵器	坏蓋			10024
50	12	29次	表土ほか	CA4	黄褐色土	須恵器	坏蓋			10105
50	13	29次	表土ほか	AS9	暗茶褐色土	須恵器	把手付鉢			10011
50	14	29次	表土ほか	CA5	黄褐色土	須恵器	甗			10128
50	15	29次	表土ほか	BA3	床土	須恵器	鉢			10074
50	16	29次	表土ほか	BA1	床土	須恵器	鉢			10073
50	17	29次	表土ほか	Atr	暗茶褐色土	土師器	甗			10012
50	18	29次	表土ほか	AS9	床土	土師器	甗			10031
50	19	29次	表土ほか	Atr	暗茶褐色土	土師器	甗			10013
50	20	29次	表土ほか	CA4	黄褐色土	土師器	甗			10126
50	21	29次	表土ほか	CA5	黄褐色土	土師器	壺			10122
50	22	29次	表土ほか	BB13	床土	土師器	坏身			10079
50	23	29次	表土ほか	CA5	黄褐色土	土師器	坏身			10121
50	24	29次	表土ほか	AS4	暗灰色土	土師器	椀			10005
50	25	29次	表土ほか	AE1	表土	白磁	碗			10049
50	26	29次	表土ほか	AS8	表土	白磁	碗			10056
50	27	29次	表土ほか	AS2	床土	白磁	碗			10038
50	28	29次	表土ほか	CA5	黄褐色土	龍泉窯系青磁	碗			10131
50	29	29次	表土ほか	AS2	床土	龍泉窯系青磁	碗			10040
50	30	29次	表土ほか	AS3	床土	龍泉窯系青磁	碗			10035
50	31	29次	表土ほか	BB13	床土	龍泉窯系青磁	碗			10099
50	32	96次	表土ほか	OI51	床土	白磁	碗			10742
50	33	96次	表土ほか	OR55	床土	越州窯系青磁	碗			10835
50	34	96次	表土ほか	OS56	床土	越州窯系青磁	碗			10869
51	1	95次	灰褐色土	TG43	灰褐色土	弥生土器	甗			10233
51	2	95次	灰褐色土	TB41	灰褐色土	須恵器	坏身			10186
51	3	95次	灰褐色土	TB40	灰褐色土	須恵器	坏身	S60概	P35 19図 6	10184
51	4	95次	灰褐色土	TB40	灰褐色土	須恵器	坏身	S60概	P35 19図 8	10183
51	5	95次	灰褐色土	TI46	灰褐色土	須恵器	坏身	S60概	P35 19図 7	10200
51	6	95次	灰褐色土	TJ46	灰褐色土	須恵器	坏身			10202
51	7	95次	灰褐色土	TD	灰褐色土	須恵器	坏身			10194
51	8	95次	灰褐色土	TG42・TZ・Z	灰褐色土	須恵器	坏身			10197
51	9	95次	灰褐色土	TD41	灰褐色土	須恵器	坏蓋			10218
51	10	95次	灰褐色土	TD41	灰褐色土	須恵器	坏蓋			10177
51	11	95次	灰褐色土	TC41	灰褐色土	須恵器	坏蓋	S60概	P35 19図 4	10170
51	12	95次	灰褐色土	TI46	灰褐色土	須恵器	坏蓋	S60概	P35 19図 3	10169
51	13	95次	灰褐色土	TE41	灰褐色土	須恵器	坏蓋	S60概	P35 19図 2	10168
51	14	95次	灰褐色土	TG45	灰褐色土	須恵器	壺			10241
51	15	95次	灰褐色土	TL・TF43	灰褐色土 床土	須恵器	壺			10203
51	16	95次	灰褐色土	TJ46	灰褐色土	須恵器	高坏			10215
51	17	95次	灰褐色土	TD44	灰褐色土	須恵器	蓋			10206
51	18	95次	灰褐色土	TE46	灰褐色土	須恵器	壺			10214
51	19	95次	灰褐色土	TD44	灰褐色土	須恵器	壺			10196
51	20	95次	灰褐色土	TO41	灰褐色土	須恵器	壺			10193
51	21	95次	灰褐色土	TC40	灰褐色土	須恵器	壺			10212
51	22	95次	灰褐色土	TE45	灰褐色土	須恵器	壺			10213
51	23	95次	灰褐色土	TD41	灰褐色土	土師器	坏身			10219
51	24	95次	灰褐色土	TB40	灰褐色土	土師器	蓋			10217
51	25	95次	灰褐色土	TE46	灰褐色土	土師器	小皿			10220
51	26	95次	灰褐色土	TC44	灰褐色土	土師器	椀			10223
51	27	95次	灰褐色土	TN44	灰褐色土	土師器	椀			10224
51	28	95次	灰褐色土	TG42	灰褐色土	土師器	甗			10231
51	29	95次	灰褐色土	TD43	灰褐色土	土師器	甗			10230

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
51	30	95次	灰褐色土	TB41	灰褐色土	土師器	甕			10229
51	31	95次	灰褐色土	TM46	灰褐色土	土師器	甕			10235
51	32	95次	灰褐色土	TD47	灰褐色土	土師器	把手			10239
51	33	95次	灰褐色土	TC45	灰褐色土	土師器	把手			10238
51	34	95次	灰褐色土	TC40	灰褐色土	土師器	把手			10236
51	35	95次	表土ほか	TD46	灰褐色土	白磁	碗			10245
51	36	95次	表土ほか	TK42	灰褐色土	越州窯系青磁	碗			10250
51	37	95次	表土ほか	TD44	灰褐色土	龍泉窯系青磁	皿			10244
51	38	95次	表土ほか	Z	床土	須恵器	坏蓋			10260
51	39	95次	表土ほか	TE42	床土	須恵器	坏蓋			10257
51	40	95次	表土ほか	TC41	床土	須恵器	坏蓋			10255
51	41	95次	表土ほか	TB40	床土	須恵器	坏蓋			10254
51	42	95次	表土ほか	TC40	床土	須恵器	坏身	S60概	P35 19図 5	10265
51	43	95次	表土ほか	TB40	床土	須恵器	坏身	S60概	P35 19図 10	10264
51	44	95次	表土ほか	TN46	床土	須恵器	坏身	S60概	P35 19図 9	10266
51	45	95次	表土ほか	TZ	床土	須恵器	坏身			10268
51	46	95次	表土ほか	TB40	床土	須恵器	坏身			10263
51	47	95次	表土ほか	TB40	床土	須恵器	坏身または蓋			10261
52	48	95次	表土ほか	TH44・TE40	床土 灰色土	須恵器	甕			10216
52	49	95次	表土ほか	Z	床土	須恵器	壺			10272
52	50	95次	表土ほか	TE46	床土	須恵器	壺			10275
52	51	95次	表土ほか	TI42	床土	須恵器	壺			10267
52	52	95次	表土ほか	TF45	床土	須恵器	鉢			10280
52	53	95次	表土ほか	T地区	床土	土師器	甕			10278
52	54	95次	表土ほか	TO42	床土	土師器	椀			10277
52	55	95次	表土ほか	TM45	床土	土師器	坏身			10276
52	56	95次	表土ほか	TO45	床土	白磁	碗			10334
52	57	95次	表土ほか	TI44	床土	白磁	碗			10307
52	58	95次	表土ほか	TB42	床土	白磁	碗			10286
52	59	95次	表土ほか	TL43	床土	白磁	碗			10313
52	60	95次	表土ほか	TH44	床土	白磁	皿			10302
52	61	95次	表土ほか	TL43	床土	越州窯系青磁	碗			10317
52	62	95次	表土ほか	TJ45段落ち	黒褐色土	越州窯系青磁	碗			10167
52	63	95次	表土ほか	TC41	床土	越州窯系青磁	壺			10287
52	64	95次	表土ほか	TZ	床土	龍泉窯系青磁	碗			10337
52	65	95次	表土ほか	TJ45	床土	龍泉窯系青磁	碗			10309
52	66	95次	表土ほか	TZ	床土	龍泉窯系青磁	碗			10338
52	67	95次	表土ほか	T地区	床土	龍泉窯系青磁	碗			10336
52	68	95次	表土ほか	TO45	床土	龍泉窯系青磁	碗			10333
52	69	95次	表土ほか	Z		龍泉窯系青磁	碗			10343
52	70	95次	表土ほか	TL43	床土	龍泉窯系青磁	皿			10312
52	71	95次	表土ほか	TJ45	床土	褐釉陶器	壺			10311
52	72	95次	表土ほか	TH44	床土	褐釉陶器	壺耳			10306
52	73	95次	表土ほか		床土	褐釉陶器	壺			10321
53	1	96次	炭層	VG48	炭層	須恵器	坏蓋			11000
53	2	96次	炭層	VF48	炭層	須恵器	坏身	S60概	P49 29図 5	11001
53	3	96次	炭層	VF49	炭層	須恵器	坏身			11010
53	4	96次	炭層	VG48	炭層	須恵器	壺			11002
53	5	96次	炭層	VF48	炭層	須恵器	壺			11003
53	6	96次	炭層	VF49	炭層	須恵器	壺	S60概	P49 29図 6	11008
53	7	96次	炭層	VF48	炭層	須恵器	甕			11013
53	8	96次	炭層	VF49	炭層	須恵器	甕			11006
53	9	96次	炭層	VF49	炭層	須恵器	壺	S60概	P49 29図 4	11007
53	10	96次	炭層	VF49	炭層	須恵器	甕			11005
53	11	96次	炭層	VF49	炭層	土師器	甕			11011
53	12	96次	炭層	VF48	炭層	須恵器	壺			11004
53	13	96次	炭層	VF48	炭層	土師器	壺			11009
53	14	96次	表土ほか	OQ55	灰褐色土	弥生土器	瓢形土器			10417
53	15	96次	表土ほか	OP55	暗灰土	弥生土器	壺			10608
53	16	96次	表土ほか	OQ52	暗褐色	弥生土器	高坏			10693
53	17	96次	表土ほか	VB49	床土	須恵器	坏身			11020
53	18	96次	表土ほか	VE48	床土	須恵器	坏身			11025
53	19	96次	表土ほか	VB49	床土	須恵器	坏身			11019
53	20	96次	表土ほか	ON51	灰褐色土	須恵器	坏身	S60概	P51 30図 3	10348
53	21	96次	表土ほか	OR52	灰褐色土	須恵器	坏身	S60概	P51 30図 2	10349
53	22	96次	表土ほか	OJ52	床土	須恵器	坏身			10698
53	23	96次	表土ほか	VH47	床土	須恵器	坏蓋			11017
53	24	96次	表土ほか	VD49	床土	須恵器	坏蓋			11015
53	25	96次	表土ほか	OI53	灰褐色土	須恵器	坏蓋			10345
53	26	96次	表土ほか	ON50	灰褐色土	須恵器	坏蓋	S60概	P51 30図 1	10344
53	27	96次	表土ほか	O052	暗灰土	須恵器	坏蓋			10558
53	28	96次	表土ほか	O051	暗灰色土	須恵器	坏蓋			10557
54	29	96次	表土ほか	OS56	床土	須恵器	甕			10710
54	30	96次	表土ほか	OM51・ON52	暗灰土	須恵器	甕			10564
54	31	96次	表土ほか	VD51	灰褐色土	須恵器	甕			10926
54	32	96次	表土ほか	VD・VF49、VE51	灰褐色土 床土 床土	須恵器	壺			10929
54	33	96次	表土ほか	OM53	灰褐色土	須恵器	壺			10358
54	34	96次	表土ほか	ON53	暗灰土	須恵器	壺			10601

Fig	図 番号	調査 次数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載 報告書	掲載図番号	遺物 番号
54	35	96次	表土ほか	VD50	灰褐色土	須恵器	甕			10925
54	36	96次	表土ほか	VI47	床土	須恵器	壺			11032
54	37	96次	表土ほか	OQ54	灰褐色土	須恵器	壺			10351
54	38	96次	表土ほか	OH51	床土	須恵器	壺			10696
54	39	96次	表土ほか	VD57	黒灰土	須恵器	壺			10997
54	40	96次	表土ほか	OJ54	床土	須恵器	壺			10704
54	41	96次	表土ほか	OM52	床土	須恵器	壺			10705
54	42	96次	表土ほか	VE49	灰褐色土	須恵器	盤			10921
54	43	96次	表土ほか	VD49	床土	須恵器	坏身か			11023
54	44	96次	表土ほか	OR53	灰褐色土	須恵器	鉢	S60概	P51 30図 4	10355
54	45	96次	表土ほか	OR49	床土	須恵器	高坏			10712
54	46	96次	表土ほか	VC51	床土	須恵器	壺			11071
54	47	96次	表土ほか	VC56	床土	須恵器	壺			11030
54	48	96次	表土ほか	VH49	灰褐色土	須恵器	壺			10930
55	49	96次	表土ほか	VD51	灰褐色土	土師器	坏蓋			10931
55	50	96次	表土ほか	ON49	床土・灰褐色	土師器	坏身			10879
55	51	96次	表土ほか	OS56	灰褐色土	土師器	坏身	S60概	P51 30図 6	10360
55	52	96次	表土ほか	OR55	灰褐色土	土師器	坏身	S60概	P51 30図 7	10361
55	53	96次	表土ほか	OR55	灰褐色土	土師器	坏身			10373
55	54	96次	表土ほか	OR55	灰褐色土	土師器	坏身	S60概	P51 30図 9	10363
55	55	96次	表土ほか	OR55	灰褐色土	土師器	坏身	S60概	P51 30図 8	10362
55	56	96次	表土ほか	OR55	灰褐色土	土師器	坏身	S60概	P51 30図 10	10364
55	57	96次	表土ほか	OR55	灰褐色土	土師器	坏身	S60概	P51 30図 11	10365
55	58	96次	表土ほか	ON49	灰褐色土	土師器	坏身			10367
55	59	96次	表土ほか	OR52	床土	土師器	坏身			10713
55	60	96次	表土ほか	VB51	灰褐色土	土師器	坏身			10932
55	61	96次	表土ほか	VG57	床土	土師器	坏身			11039
55	62	96次	表土ほか	VC56	床土	土師器	坏身			11036
55	63	96次	表土ほか	OQ54	灰褐色土	土師器	皿			10368
55	64	96次	表土ほか	ON49	床土・灰褐色	土師器	小皿			10880
55	65	96次	表土ほか	OL50	床土	土師器	小皿			10716
55	66	96次	表土ほか	VC52	床土	土師器	小皿			11035
55	67	96次	表土ほか	VC52	灰褐色土	土師器	脚付椀			10959
55	68	96次	表土ほか	OP53	暗灰土	土師器	脚付椀			10590
55	69	96次	表土ほか	OR55	灰褐色土	土師器	椀	S60概	P51 30図 14	10379
55	70	96次	表土ほか	OR55	灰褐色土	土師器	椀	S60概	P51 30図 13	10378
55	71	96次	表土ほか	OR55	灰褐色土	土師器	椀	S60概	P51 30図 12	10377
55	72	96次	表土ほか	OO55	暗灰色砂互層	土師器	椀			10689
55	73	96次	表土ほか	OO55	暗灰土	土師器	椀			10580
55	74	96次	表土ほか	OK55	暗灰土	土師器	椀			10569
55	75	96次	表土ほか	OS55	灰褐色土	土師器	椀			10406
55	76	96次	表土ほか	OO55	暗灰土	土師器	有高台皿			10581
55	77	96次	表土ほか	OI54	落込み暗灰土	土師器	有高台皿			10687
55	78	96次	表土ほか	OO55	暗灰土	土師器	有高台皿			10584
55	79	96次	表土ほか	OS56	床土	土師器	有高台皿			10724
55	80	96次	表土ほか	VD57	黒灰土	土師器	有高台皿			10996
55	81	96次	表土ほか	DN5	暗灰土	土師器	把手付鉢			10595
55	82	96次	表土ほか	ON51	灰褐色土	土師器	甕			10416
55	83	96次	表土ほか	ON52	暗灰土	土師器	甕			10600
55	84	96次	表土ほか	ON51	暗灰土	土師器	甕			10598
55	85	96次	表土ほか	VG52	床土	土師器	甕			11053
55	86	96次	表土ほか	OR50	灰褐色土	土師器	甕			10418
55	87	96次	表土ほか	VE54	床土	土師器	甕			11051
55	88	96次	表土ほか	OR51	床土	土師器	甕			10726
56	89	96次	表土ほか	VE50	灰褐色土	土師器	移動式竈			10968
56	90	96次	表土ほか	OP55	暗灰土	土師器	移動式竈			10603
56	91	96次	表土ほか	OS48	床土	土師器	羽釜			10727
56	92	96次	表土ほか	OH52	耕土	土師器	高坏			10905
56	93	96次	表土ほか	OQ55	灰褐色土	土師器	把手			10423
56	94	96次	表土ほか	VD56	床土	土師器	把手			11057
56	95	96次	表土ほか	VB54	灰褐色土	土師器	把手			10958
56	96	96次	表土ほか	VD54	床土	土師器	脚			11059
56	97	96次	表土ほか	VD52	灰褐色土	黒色土器B類	甕			10971
56	98	96次	表土ほか	OJ54	床土	黒色土器B類	椀			10728
56	99	96次	表土ほか	VD56	床土	黒色土器B類	椀			11046
56	100	96次	表土ほか	ON49	床土・灰褐色	黒色土器A類	椀			10881
56	101	96次	表土ほか	OR55	灰褐色土	黒色土器A類	椀			10425
56	102	96次	表土ほか	VD53	床土	黒色土器A類	椀			11061
56	103	96次	表土ほか	VB52	灰褐色土	黒色土器A類	椀			10969
56	104	96次	表土ほか	VD49	床土	白磁	碗			11093
56	105	96次	表土ほか	OO55	暗灰土	白磁	碗			10658
56	106	96次	表土ほか	OQ51	床土	白磁	碗			10786
56	107	96次	表土ほか	ON50	床土・灰褐色	白磁	皿			10886
56	108	96次	表土ほか	VC53	床土	白磁	皿			11079
56	109	96次	表土ほか	OS48	床土	白磁	杯			10845
56	110	96次	表土ほか	ON50	床土・灰褐色	白磁	杯			10884
56	111	96次	表土ほか	VG50	床土	白磁	蓋			11152
56	112	96次	表土ほか	OO53	暗灰土	白磁	皿			10639

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
56	113	96次	表土ほか	ON51	灰褐色	白磁	四耳壺			10456
56	114	96次	表土ほか	OQ55	灰褐色	越州窯系青磁	碗	S60概	P51 30図 16	10528
56	115	96次	表土ほか	O055	暗灰土	越州窯系青磁	碗	S60概	P51 30図 21	10652
56	116	96次	表土ほか	ON52	灰褐色	越州窯系青磁	碗			10465
56	117	96次	表土ほか	OS56	床土	越州窯系青磁	皿			10864
56	118	96次	表土ほか	OI53	灰褐色	越州窯系青磁	蓋			10432
56	119	96次	表土ほか	OM54	暗灰土	越州窯系青磁	壺			10622
56	120	96次	表土ほか	OH51	灰褐色(段落ち)	龍泉窯系青磁	碗			10988
56	121	96次	表土ほか	OM55	灰褐色	龍泉窯系青磁	碗			10449
56	122	96次	表土ほか	OH51	灰褐色(段落ち)	龍泉窯系青磁	碗			10989
56	123	96次	表土ほか	OP54	灰褐色	龍泉窯系青磁	碗			10508
56	124	96次	表土ほか	VM46	床土	龍泉窯系青磁	皿			11167
56	125	96次	表土ほか	OQ53	床土	龍泉窯系青磁	皿			10795
56	126	96次	表土ほか	OG51	灰褐色(段落ち)	褐釉陶器	四耳壺			10984
56	127	96次	表土ほか	O055	暗灰土	陶磁器	把手			10657
56	128	96次	表土ほか	O052	灰褐色	陶器	壺			10486
56	129	96次	表土ほか	OM55	灰褐色	鈞窯系	碗			10447
56	130	96次	表土ほか	VE49	床土	陶磁器	掃鉢			11114
56	131	96次	表土ほか	OK54	灰褐色	陶磁器	鉢			10435
57	132	96次	表土ほか	OS55	灰褐色	緑釉陶器	碗	S60概	P51 30図 15	10535
57	133	96次	表土ほか	ON55	暗灰土	緑釉陶器	暗碗			10633
57	134	96次	表土ほか	OS55	灰褐色	緑釉陶器	碗			10547
57	135	96次	表土ほか	ON55	暗灰土	緑釉陶器	碗			10632
57	136	96次	表土ほか	O054	暗灰土	緑釉陶器	碗			10645
57	137	96次	表土ほか	OP54	暗灰土	緑釉陶器	碗			10670
57	138	96次	表土ほか	ON53	暗灰土	緑釉陶器	碗			10627
57	139	96次	表土ほか	OQ54	灰褐色	緑釉陶器	碗			10526
57	140	96次	表土ほか	VC52・5	灰褐色 床土	緑釉陶器	皿			10979
57	141	96次	表土ほか	OP53・54	暗灰土	緑釉陶器	皿			10666
57	142	96次	表土ほか	OP51	灰褐色	緑釉陶器	皿			10501
57	143	96次	表土ほか	OS54	暗灰土	緑釉陶器	皿			10684
57	144	96次	表土ほか	OG51	灰褐色(段落ち)	緑釉陶器	小碗			10985
57	145	96次	表土ほか	O055	暗灰土	緑釉陶器	水注	S60概	P51 30図 22	10653
58	1	137次	暗褐色土	VE26	暗褐色	須恵器	甕			11177
58	2	137次	暗褐色土	VE27	暗褐色	須恵器	坏身			11176
58	3	137次	暗褐色土	VE26	暗褐色	須恵器	坏身			11175
58	4	137次	暗褐色土	VE25	暗褐色	須恵器	坏身			11174
58	5	137次	暗褐色土	VD27	暗褐色	土師器	小皿			11178
58	6	157次	黄色土	QD56	地山直上黄色土	弥生土器	甕			11258
58	7	157次	黄色土	QE63	黄色土	須恵器	坏身			11180
58	8	157次	黄色土	QE63	黄色土	須恵器	坏身			11181
58	9	157次	黄色土	QD56	地山直上黄色土	須恵器	把手			11257
58	10	157次	黄色土	QD59	黄色土	須恵器	鉢			11183
58	11	157次	黄色土	QE65	黄色土	灰釉陶器	壺			11182
58	12	157次	黄色土	QE58・QD59	黄色土	須恵器	壺			11210
58	13	157次	黄色土	QF59	黄色土	土師器	坏身	H6概	P42 26図 20	11184
58	14	157次	黄色土	QE59	黄色土	土師器	坏身	H6概	P42 26図 21	11185
58	15	157次	黄色土	QE59	黄色土	土師器	坏身	H6概	P42 26図 22	11186
58	16	157次	黄色土	QE59	黄色土	土師器	坏身	H6概	P42 26図 23	11187
58	17	157次	黄色土	QE59	黄色土	土師器	坏身	H6概	P42 26図 24	11188
58	18	157次	黄色土	QE59	黄色土	土師器	坏身	H6概	P42 26図 26	11190
58	19	157次	黄色土	QE59	黄色土	土師器	坏身	H6概	P42 26図 25	11189
58	20	157次	黄色土	QE59	黄色土	土師器	坏身	H6概	P42 26図 27	11191
58	21	157次	黄色土	QD57	黄色土	黒色土器B類	椀			11212
58	22	157次	黄色土	Z	黄色土	土師器	椀			11207
58	23	157次	黄色土	QD56	床土	土師器	椀	H6概	P42 26図 32	11256
58	24	157次	黄色土	QE60	黄色土	土師器	椀			11197
58	25	157次	黄色土	QF58	黄色土下層	土師器	有高台皿	H6概	P42 26図 29	11253
58	26	157次	黄色土	QE62	黄色土	土師器	有高台皿	H6概	P42 26図 28	11199
58	27	157次	黄色土	QD60	黄色土	土師器	有高台皿			11194
58	28	157次	黄色土	QE60	黄色土	土師器	有高台皿			11196
58	29	157次	黄色土	QF60	黄色土	土師器	有高台皿			11203
58	30	157次	黄色土	QF58	黄色土下層	土師器	有高台皿			11252
58	31	157次	黄色土	QD57	黄色土	土師器	移動式壺			11211
58	32	157次	黄色土	QF59	黄色土	越州窯系青磁	碗			11232
58	33	157次	黄色土	QF60	黄色土	越州窯系青磁	碗			11234
58	34	157次	黄色土	Z	東南隅穴	越州窯系青磁	碗	H6概	P42 26図 18	11255
58	35	157次	黄色土	QE60	黄色土	龍泉窯系青磁	碗			11227
58	36	157次	黄色土	QF61	黄色土	白磁	壺			11237
58	37	157次	黄色土	QF62	黄色土	緑釉陶器	碗			11243
58	38	157次	黄色土	QE58	黄色土	緑釉陶器	碗			11220
58	39	157次	黄色土	QF60	黄色土	緑釉陶器	皿	H6概	P42 26図 31	11241
58	40	157次	黄色土	QF60	黄色土	緑釉陶器	皿	H6概	P42 26図 30	11236
58	41	157次	黄色土	QF63	黄色土	緑釉陶器	壺か	H6概	図版29 a	11246
59	1	165次	表土ほか	P1	S-2浅い落ち	土師器	椀			11267
59	2	165次	表土ほか	P1	S-2浅い落ち	土師器	椀			11266
59	3	165次	表土ほか	Z		土師器	椀			11259

Fig	図番号	調査回数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
59	4	165次	表土ほか	P1	S-2浅い落ち	土師器	椀			11268
59	5	165次	表土ほか	P1	S-2浅い落ち	土師器	椀			11265
59	6	165次	表土ほか	P3	床土	越州窯系青磁	壺			11272
59	7	165次	表土ほか	P4	黄褐色土	龍泉窯系青磁	碗	H7概	P83 54図 25	11262
59	8	166次	表土ほか	YF71	茶灰土	須恵器	坏蓋	H7概	P90 59図 7	11274
59	9	166次	表土ほか	YC71	茶灰土	須恵器	坏身			11275
59	10	166次	表土ほか	YF71	暗灰土壁	須恵器	坏身			11285
59	11	166次	表土ほか	YC71	茶灰土	須恵器	坏身			11279
59	12	166次	表土ほか	YB72	褐灰土	土師器	坏身	H7概	P90 59図 6	11283
59	13	166次	表土ほか	YD67	浅いくぼみ	土師器	坏身			11289
59	14	166次	表土ほか	YC71	茶灰土	土師器	坏身			11277
59	15	166次	表土ほか	YD67	浅いくぼみ	黒色土器A類	椀			11288
59	16	166次	表土ほか	YD71	暗灰粘	土師器	椀			11284
59	17	166次	表土ほか	YD67	浅いくぼみ	土師器	椀			11287
59	18	166次	表土ほか	YB69	茶灰土	土師器	椀	H7概	P90 59図 9	11281
59	19	166次	表土ほか	YB72	茶灰土	黒色土器A類	椀	H7概	P90 59図 8	11282
59	20	175次	表土ほか	YO75	遺構確認	土師器	椀			11304
59	21	175次	表土ほか	YN75	遺構確認	土師器	椀			11299
59	22	175次	表土ほか	YO76	遺構確認	土師器	有高台皿			11305
59	23	175次	表土ほか	YO75	遺構確認	土師器	有高台皿			11302
59	24	175次	表土ほか	YN75	遺構確認	土師器	有高台皿			11298
59	25	175次	表土ほか	YO75	遺構確認	土師器	坏身			11297
59	26	175次	表土ほか	YL75・YO77	暗灰色土・検出時	越州窯系青磁	椀	H8概	P60 46図 3	11309
59	27	186次	表土ほか		黄灰色土(包含層)	須恵器	坏身	史跡II	P20 13図 24	11341
59	28	186次	表土ほか	D4	床土・褐色土	須恵器	坏身	史跡II	P20 13図 21	11351
59	29	186次	表土ほか		褐色土(包含層)	須恵器	坏身			11326
59	30	186次	表土ほか	YA・YB80	黄灰色土	須恵器	坏身	史跡II	P20 13図 19	11343
59	31	186次	表土ほか	YB80	暗黄褐色土 第一整地	須恵器	坏身	史跡II	P20 13図 25	11338
59	32	186次	表土ほか		黄灰色土	須恵器	坏身	史跡II	P20 13図 26	11344
59	33	186次	表土ほか	YB・YC76・77	灰褐色土包含層	須恵器	坏身	史跡II	P20 13図 23	11316
59	34	186次	表土ほか		黄灰色土(包含層)	須恵器	壺			11340
59	35	186次	表土ほか		褐色土(包含層)	須恵器	甕			11328
59	36	186次	表土ほか		床土・褐色土	須恵器	壺	史跡II	P20 13図 28	11353
59	37	186次	表土ほか	YA78	黄褐色土・上面	土師器	坏身			11332
59	38	186次	表土ほか		床土・褐色土	土師器	坏身			11358
59	39	186次	表土ほか	B1	床土・褐色土	土師器	甕			11367
59	40	186次	表土ほか		床土・褐色土	白磁	碗	史跡II	P20 13図 35	11441
59	41	186次	表土ほか	C3	床土・褐色土	白磁	碗			11395
59	42	186次	表土ほか		褐色土(包含層)	白磁	碗	史跡II	P20 13図 33	11331
59	43	186次	表土ほか		床土・褐色土	白磁	碗			11459
59	44	186次	表土ほか		床土・褐色土	白磁	碗			11446
59	45	186次	表土ほか		床土・褐色土	白磁	杯	史跡II	P20 13図 34	11426
59	46	186次	表土ほか		床土・褐色土	土師器	蓋			11362
59	47	186次	表土ほか		褐色土(包含層)	白磁	蓋			11330
59	48	186次	表土ほか	C3	床土・褐色土	白磁	杯			11393
59	49	186次	表土ほか	C2	床土・褐色土	白磁	蓋			11383
59	50	186次	表土ほか	B1	床土・褐色土	越州窯系青磁	碗	史跡II	P20 13図 31	11363
59	51	186次	表土ほか		床土・褐色土	龍泉窯系青磁	碗			11425
59	52	186次	表土ほか		床土・褐色土	龍泉窯系青磁	碗	史跡II	P20 13図 32	11442
59	53	186次	表土ほか		床土・褐色土	龍泉窯系青磁	碗			11451
59	54	186次	表土ほか		床土・褐色土	褐釉陶器	蓋			11423
59	55	186次	表土ほか	E2	床土・褐色土	褐釉陶器	壺			11413
59	56	186次	表土ほか		床土・褐色土	褐釉陶器	壺			11454
59	57	186次	表土ほか	E3	床土・褐色土	灰釉陶器	壺	史跡II	P20 13図 20	11352
59	58	186次	表土ほか		黄灰色土	緑釉陶器	皿	史跡II	P20 13図 30	11346
60	1	193次	表土ほか	O・P地区	南壁15層	土師器	甕			11487
60	2	193次	表土ほか	O・P地区Tr.2	黒色砂質土	土師器	甕			11481
60	3	193次	表土ほか	O・P地区Tr.3	暗灰色粘質土	須恵器	坏身			11478
60	4	193次	表土ほか	O・P地区Tr.2	黒色砂質土	須恵器	坏身			11480
60	5	193次	表土ほか		暗色粘質土	白磁	碗	史跡IV	P13 8図 13	11479
60	6	202 2次	表土ほか	HT r	褐色砂	須恵器	坏蓋			11488
60	7	202 2次	表土ほか	GT r	褐色砂	須恵器	坏身	史跡VI	P15 9図 13	11523
60	8	202 2次	表土ほか	HT r	褐色砂	須恵器	坏身			11489
60	9	202 2次	表土ほか	ET r	白色砂	須恵器	壺	史跡VI	P15 9図 2	11525
60	10	202 2次	表土ほか	GT r	褐色砂	土師器	皿			11492
60	11	202 2次	表土ほか	FT r	灰白色砂	土師器	鉢			11529
60	12	202 2次	表土ほか	HT r	褐色砂	土師器	甕	史跡VI	P15 9図 5	11495
60	13	202 2次	表土ほか	HT r	褐色砂	土師器	小皿			11494
60	14	202 2次	表土ほか	HT r	褐色砂	土師器	高坏			11496
60	15	202 2次	表土ほか	HT r	褐色砂	瓦器	碗	史跡VI	P15 9図 6	11498
60	16	202 2次	表土ほか	ET r	褐色砂	青白磁	蓋	史跡VI	P15 9図 13	11502
60	17	202 2次	表土ほか	HT r	褐色砂	白磁	碗	史跡VI	P15 9図 12	11501
60	18	202 2次	表土ほか	HT r	褐色砂	白磁	碗	史跡VI	P15 9図 10	11499
60	19	202 2次	表土ほか	HT r	褐色砂	白磁	碗	史跡VI	P15 9図 11	11500
60	20	202 2次	表土ほか	GT r	褐色土(包含層)	白磁	皿	史跡VI	P15 9図 9	11524
60	21	202 2次	表土ほか	GT r	褐色砂	越州窯系青磁	碗	史跡VI	P15 9図 14	11503
60	22	202 2次	表土ほか	HT r	褐色砂	越州窯系青磁	壺	史跡VI	P15 9図 20	11508
60	23	202 2次	表土ほか	HT r	褐色砂	龍泉窯系青磁	碗	史跡VI	P15 9図 17	11505
60	24	202 2次	表土ほか	HT r	褐色砂	龍泉窯系青磁	碗			11506

Tab.20 出土木製品一覧

Fig.	図番号	調査回数	注記	遺構・層位名	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	登録番号
61	1	96	VF57 S-73 井戸中層	SE2845 中層	木製品	曲物	S60概	P53 32図4	80001
61	2	96	VF57 S-73 井戸中層	SE2845 中層	木製品	曲物	S60概	P53 32図5	80002
61	3	96	VF57 S-73 井戸底	SE2845	木製品	鎌柄			80003
61	4	96	VF57 S-73 井戸中層	SE2845 中層	木製品	柄	S60概	P53 32図1	80004
61	5	96	VF57 S-74 井戸中層	SE2876 中層	木製品	不明工具	S60概	P53 32図3	80005
61	6	96	VF57 S-73 井戸中層	SE2845 中層	木製品	斎串状木製品	S60概	P53 32図2	80006
61	7	96	VF57 S-73 井戸中層	SE2845 中層	木製品	部材			80007
61	8	96	VF57 S-73 井戸中層	SE2845 中層	木製品	部材			80008
61	9	96	VF57 S-73 井戸中層	SE2845 中層	木製品	部材			80009
61	10	96	VF57 S-73 井戸中層	SE2845 中層	木製品	部材			80010
61	写真1	96	VF57 S-73 井戸中層	SE2845 中層	木製品	横櫛	S60概	図版39-A	遺物なし

Tab.21 出土金属器・金属製品一覧

Fig.	図番号	調査回数	注記	遺構・層位名	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	登録番号
63	1	96	VI56 床土	床土	鉄製品	不明品			70004
63	2	175	YO75 遺構検出	遺構検出	鉄製品	棒状製品			70009
63	3	96	OM55 灰褐色土	灰褐色土	鉄製品	鉄釘			70002
63	4	186	C-2 床土褐色土	床土	鉄製品	鉄釘			70007
63	5	175	YM73 S-166	—	鉄製品	鉄釘			70006
63	6	96	床土灰褐色土	床土	鉄製品	鉄釘			70005
63	7	96	O地区 耕作土	耕作土	銅製品	五銖銖			71006
63	8	96	VF47 床土	床土	銅製品	装具			71008
63	9	95	床土	床土	銅製品	煙管火皿			71004
63	10	96	OP56 灰褐色土	灰褐色土	銅製品	煙管火皿			71011
63	11	96	ON53 灰褐色土	灰褐色土	銅製品	銅皿			71009
63	12	96	VC48 床土	床土	銅製品	銅銭			71010
63	13	96	O地区 耕作土	耕作土	銅製品	円環状製品			71007
63	14	186	S-4	SK4547	銅製品	不明品			71001
63	15	186	YF78 黄褐色土上面	黄褐色土	銅製品	不明品			71002
63	16	166	YE69 S-15	SX4205	銅製品	板状品			71012

Tab.22 出土石器・石製品一覧

Fig.	図番号	調査回数	注記	遺構・層位名	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	登録番号
64	1	29	CTr側溝	最下層粘土	石器	石鏃			50001
64	2	193	OP地区	黄灰色土	石器	石鏃	史跡IV	P16 Fig.10-8	50002
64	3	166	YH71 S-25 南北溝	SD4215	石器	石鏃	H7概	P91 61図	50003
64	4	186	S-30	Pit	石器	石鏃	史跡II	P23 Fig.15-11	50004
64	5	186	S-2南東際	黄褐色土中	石器	石鏃	史跡II	P23 Fig.15-12	50005
64	6	96	VE56 S-76	SX2837	石器	石鏃			50006
64	7	175	YM74 S-18	埋土一括	石器	石鏃			50007
64	8	137	VE23 S-52	SK3948	石器	石鏃			50008
64	9	175	S-26 Z	SX4337	石器	石鏃	H8概	P64 48図1	50009
64	10	95	TN46 S-5	SD2760上層	石器	石鏃			50010
64	11	175	YN・O74 S-11-246	SB4340	石器	ブランク	H8概	P64 48図5	50011
64	12	175	Z	表採	石器	楔形石器	H8概	P64 48図3	50012
64	13	175	Z	—	石器	二次加工剥片	H8概	P64 48図6	50013
64	14	175	YI75・76 S-22 96Z	SD4345	石器	二次加工剥片	H8概	P64 48図8	50014
64	15	175	YL74 S-15一括	Pit	石器	二次加工剥片	H8概	P64 48図7	50015
64	16	175	YN75 検出時	検出時	石器	二次加工剥片			50016
64	17	175	S-22下層 自然流路面上面	SD4345	石器	石匙	H8概	P64 48図4	50017
64	18	96	OQ53 灰褐色土	灰褐色土	石器	石匙			50018
65	19	193	OP S-1下 灰色砂	SX4617	石器	二次加工剥片			50019
65	20	193	OP E3 S-1 黒色砂質土	黒色砂質土	石器	二次加工剥片	史跡IV	P16 Fig.10-9	50020
65	21	96	VE67 床土	床土	石器	二次加工剥片			50021
65	22	175	YO74 検出時	検出時	石器	彫器	H8概	P64 48図2	50022
65	23	96	VI49 S-2上層 R-001	SB2825	石製品	勾玉	S60概	P54 33図1	50023
65	24	175	YI76・77 S22下層	SD4345	石製品	砥石	H8概	P64 48図9	50024
65	25	29	S-4 暗灰色土	暗灰色土	石製品	砥石			50025
65	26	157	QF58・57 炭化物溝 R-016	SK4119	石製品	不明滑石製品	H6概	P42 26図4	50026
65	27	96	VB51 灰褐色土 R-001	灰褐色土	石製品	紡錘車	S60概	P54 33図2	50027
65	28	175	YK77 S-33上層	SX4347	石製品	石鍋	H8概	P59 45図18	50028

Tab.23 出土土製品一覧

Fig.	図 番号	調査 次数	注記	遺構・層位名	種類	器種	掲載 報告書	掲載図番号	登録番号
66	1	96	VO55 S-85上層	SD2818	土製品	隔物形土製品	S60概	P45 26図11	19001
66	2	186	YF76 S-4	SK4547	土製品	棒状土製品	史跡Ⅱ	P23 Fig.15-10	19002
66	3	175	YI74 S-22 溝下層	SD4345	土製品	棒状土製品	—	—	19003
66	4	96	TL47 床土	床土	土製品	土玉	—	—	19004
66	5	175	YI24 S-22上層 黒色土	SD4345	土製品	紡錘車	H8概	P54 42図7	19005
66	6	29	CA-5 ビット内	ビット	土製品	紡錘車	—	—	19006
66	7	133	NB21 S-36	ビット	土製品	不明土製品	—	—	19007
66	8	165	P-2 S-4	SK4198	土製品	手づくね土器	H7概	P83 54図23	19008
66	9	165	P-2 黄褐色土	SK4198	土製品	手づくね土器	H7概	P83 54図22	19009
66	10	193	C4 S-1 黒色砂質土	SX4617	土製品	手づくね土器	—	—	19010
66	11	133	NB21 S-36	ビット	土製品	手づくね土器	—	—	19011
66	12	175	YI74 S-22埋土	SD4345	土製品	土錘	H8概	P54 42図1	19012
66	13	175	YI74 S-22埋土	SD4345	土製品	土錘	H8概	P54 42図3	19013
66	14	175	YI74 S-22	SD4345	土製品	土錘	H8概	P54 42図2	19014
66	15	175	YI77 S-33上層	SX4347	土製品	土錘	H8概	P59 45図16	19015
66	16	175	YJ77 S-33	SX4347	土製品	土錘	H8概	P59 45図17	19016
66	17	175	YI74 S-22上層 黒色土	SD4345	土製品	土錘	H8概	P54 42図6	19017
66	18	175	YI74 S-22上層 黒色土	SD4345	土製品	土錘	H8概	P54 42図4	19018
66	19	175	YI75 S-22	SD4345	土製品	土錘	H8概	P54 42図5	19019
66	20	175	Ⅲ区 S-9	SD4335	土製品	土錘	H8概	P37 28図9	19020
66	21	175	YI74 S-22	SD4345	土製品	土錘	H8概	P54 42図9	19021
66	22	175	YI75 S-22上層 黒色土	SD4345	土製品	土錘	H8概	P54 42図8	19022
66	23	29	BB-11 床土	床土	土製品	円板状土製品	—	—	19023
66	24	95	TE42 床土	床土	土製品	円板状土製品	—	—	19024
66	25	142	WO61 S-16	SB3996	土製品	円板状土製品	—	—	19025
66	26	29	E-1 表土	表土	土製品	円板状土製品	—	—	19026
66	27	96	OS66 床土	床土	土製品	円板状土製品	—	—	19027
66	28	96	Z 表土	表土	土製品	円板状土製品	—	—	19028
66	29	175	QF57 黄色土	黄色土	土製品	円板状土製品	—	—	19029
66	30	186	床土 褐色土	床土 褐色土	土製品	円板状土製品	—	—	19030
66	31	133	NB21 S-29	SX3917	土製品	円板状土製品	—	—	19031
66	32	96	Z 表土	表土	土製品	円板状土製品	—	—	19032
66	33	157	QE57 S-4溝	SD4118	土製品	円板状土製品	—	—	19033
66	34	157	QE62 S-5	SD4121	土製品	円板状土製品	—	—	19034
66	35	157	QD57 黄色土	黄色土	土製品	円板状土製品	—	—	19035
66	36	175	YI74 S-22溝下層	SD4345	土製品	円板状土製品	—	—	19036
66	37	175	YI74 S-22埋土	SD4345	土製品	円板状土製品	—	—	19037
66	38	175	YH-YI75 S-22埋土	SD4345	土製品	円板状土製品	—	—	19038
67	1	175	YO71 S-10-4	SB4340	壁土状土製品	—	—	—	19039
67	2	175	YO71 S-10-4	SB4340	壁土状土製品	—	—	—	19040
67	3	175	YO71 S-10-3 掘形	SB4340	壁土状土製品	—	—	—	19041
67	4	175	YO71 S-10-3 掘形	SB4340	壁土状土製品	—	—	—	19042
67	5	175	YO71 S-10-3 掘形	SB4340	壁土状土製品	—	—	—	19043
67	6	175	YO71 S-10-4 柱痕	SB4340	壁土状土製品	—	—	—	19044
67	7	175	YO71 S-10-4	SB4340	壁土状土製品	—	—	—	19045
67	8	175	YO71 S-13 埋土中	SK4336	壁土状土製品	—	—	—	19046

Tab.24 出土硯（定形硯・転用硯）一覧

Fig	図番号	調査次数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
70	1	175次	SD4345	YI74	S-22上層黒色土 R-001	須恵器	円面硯	H8概	P43 33図 64	13025
70	2	137次	SD3957	VL27	S-61	須恵器	円面硯			13016
70	3	137次	SD3957	VL27	S-63 R-009	須恵器	円面硯	H4概	P102 7図 15	13018
70	4	29次	表土ほか	BB11	暗灰色土	須恵器	円面硯			13002
70	5	175次	SK4346	YK76	S-31	須恵器	円面硯	H8概	P57 44図 18	13036
70	6	175次	SX4347	YJ・YK76・77	S-33上層	須恵器	円面硯			13048
70	7	29次	表土ほか	BB11	床土	須恵器	円面硯			13003
70	8	175次	SD4345	YH・YI76	S-22 R-003	須恵器	円面硯	H8概	P43 33図 65	13034
70	9	96次	表土ほか	OR55	灰褐色土	須恵器	円面硯			13008
70	10	175次	SB4200	YK68	S-4 R-004	須恵器	円面硯	H8概	P37 28図 8	13024
70	11	166次	表土ほか	YA71	茶灰色土	須恵器	円面硯			13022
70	12	29次	表土ほか	CA4	黄褐色土	須恵器	円面硯			13005
70	13	29次	SK533・534	CA1	黒褐色土(土坑)	須恵器	円面硯			13004
70	14	175次	SD4345	YI74	S-22上層黒色土	須恵器	円面硯			13028
70	15	175次	SX4334	YN75	S-21埋土最下層	須恵器	円面硯			13040
70	16	175次	SX4344	YJ・K 75	S-30灰色土 R-011	須恵器	円面硯	H8概	P57 44図 12	13045
70	17	96次	表土ほか	O051	灰褐色土	須恵器	円面硯			13007
70	18	186次	表土ほか	D2	床土(褐色土)	須恵器	円面硯			13060
71	19	175次	SD4345	YI75	S-22上層	須恵器	円面硯			13030
71	20	29次	表土ほか	AS-5	床土	須恵器	円面硯			13001
71	21	175次	SD4345	YI75・76	S-22上層(砂層) R-003	須恵器	円面硯	H8概	P43 33図 66	13032
71	22	175次	SK4341	YL・YM75	S-20下層	須恵器	円面硯			13044
71	23	157次	表土ほか	QE60	茶灰色土	須恵器	円面硯			13019
71	24	175次	表土ほか	YK74	検出時	須恵器	円面硯	H8概	P60 60図 7	13055
71	25	175次	SX4334	YO74	S21埋土下層	須恵器	円面硯			13039
71	26	166次	SX4205	YE69	S-15	須恵器	円面硯			13020
71	27	137次	SD3957	VL27	S-61	須恵器	円面硯			13017
71	28	133次	SX3919	NC21	S-2 R-003	須恵器	円形硯	H3概	P104 72図 18	13015
71	29	96次	表土ほか	OJ52・O050	床土・灰褐色土	須恵器	円形硯	S60概	P51 30図 5	13009
71	30	175次	175次ピット	YL74	S-15	須恵器	円形硯			13054
72	31	96次	表土ほか	ON49	床土・灰褐色土	須恵器	風字硯			13010
72	32	175次	表土ほか		検出時	須恵器	風字硯	H8概	P60 46図 8	13058
72	33	175次	SX4347	YJ・YK76・77	S-33 R-005	黒色土器B類	風字硯	H8概	P59 59図 9	13053
72	34	96次	SE2845	VF57	S-73中層	石硯	風字硯	S60概	P54 33図 3	13013
72	35	96次	SE2845	VF57	S-73	石硯	風字硯			13014
72	36	96次	SD2760	VD56	S-86	石硯	風字硯			13012
72	37	96次	96次床土	OQ50	床土	須恵器	風字硯			13011
73	1	137次	SB3945	VE28	S-2	須恵器	坏蓋			13134
73	2	95次	SD2760	TD44	S-5上層	須恵器	坏蓋	S60概	P32 17図 1	13105
73	3	95次	SD2785	TE40	S-1溝	須恵器	坏蓋			13106
73	4	175次	SD4345	YI76~77	S-22上層砂層	須恵器	坏蓋			13145
73	5	175次	SD4345	YI75	S-22灰色砂質土 R-039	須恵器	坏蓋	H8概	P38 29図 4	13147
73	6	175次	SD4345	YI76	S-22上層黒色土・灰色砂質土 R-035	須恵器	坏蓋	H8概	P38 29図 8	13149
73	7	29次	SK535	CA 4	土坑	須恵器	坏蓋			13101
73	8	29次	SK535	CA 4	土坑内CT r	須恵器	坏蓋			13103
73	9	166次	SX4205	YK68	S-15 R-001	須恵器	坏蓋	H7概	P89 58図 4	13142
73	10	186次	SK4547	YF67	S-4	須恵器	坏蓋	史跡II	P14 Fig.8 19	13158
73	11	133次	SX3919	NB21	S-2 R-004	須恵器	坏蓋	H3概	P104 7図 15	13130
74	12	193次	SX4617	D2区	S-1 黒色砂質土下層灰色砂	須恵器	坏蓋	史跡IV	P16 Fig.10 1	13162
74	13	193次	SX4617	O・P区 C 3	S-1灰色砂	須恵器	坏蓋			13160
74	14	96次	表土ほか	VF49		須恵器	坏蓋			13126
74	15	95次	表土ほか	TZ	床土	須恵器	坏蓋			13115
74	16	96次	表土ほか	O051	暗灰色土 R-001	須恵器	坏蓋	S60概	P51 30図 18	13116
74	17	95次	灰褐色土	TC43	灰褐色土 R-001	須恵器	坏蓋	S60概	P35 19図 1	13111
74	18	95次	灰褐色土	TC40	灰褐色土	須恵器	坏蓋			13109
74	19	175次	SX4347	YK77	S-33上層 R-003	須恵器	坏身			13167
74	20	193次	SX4617	C4区	S-1 黒色砂質土・同下層	須恵器	坏身			13168
74	21	175次	SX4344	YN74	S-21a	須恵器	壺			13166
75	22	193次	SX4617	D4区	S-1 灰色砂質土・黒色砂最上層	須恵器	皿	史跡IV	P13 Fig.8 7	13164
75	23	175次	SD4345	YI75	S-22溝上層(黒色土)	須恵器	皿			13146
75	24	186次	SB4550B		S-107	須恵器	皿	史跡II	P14 Fig.8 4	13157
75	25	166次	SD4210	YI68	S-10東西溝	瓦	平瓦			13140
75	26	96-2次	SX2837	VD56	S-76	須恵器	甕			13124
75	27	175次	SX4337	YO76・77	S-26 灰褐色土	須恵器	甕			13154
75	28	95次	灰褐色土	TC46	灰褐色土	須恵器	甕			13113
75	29	175次	SX4334	YN74	S-21 埋土下層	須恵器	甕			13151
75	30	157次	その他ピット	QF61	小ピット	須恵器	甕			13137
75	31	96次	表土ほか	OG54	灰褐色土	須恵器	甕			13118
75	32	96次	表土ほか	OG54	灰褐色土	須恵器	甕			13117
75	33	175次	表土ほか	YO76	検出時 R-002	須恵器	甕	H8概	P60 46図 9	13156
75	34	96-2次	表土ほか	VE54	床土	須恵器	甕			13129
75	35	157次	黄色土	QE57	黄色土	須恵器	甕			13139
75	36	96-2次	表土ほか	VC56	床土	須恵器	甕			13128

Tab.25 出土墨書・刻書土器一覽

Fig	図番号	調査次数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
76	1	157次	SD4118	QF58	炭化物溝	土師器	皿			12005
76	2	175次	SD4345	YI74	S-22	須恵器	坏蓋			12008
76	3	175次	SD4345	YH・YI74	S-22	須恵器	坏身	H8概	P41 31図 24	12009
76	4	175次	SD4345	YI74	S-22	須恵器	坏身			12014
76	5	175次	SD4345	YI74	S-22下層	須恵器	坏身			12013
76	6	175次	SD4345	YH・YI76	S-22	土師器	皿			12010
76	7	175次	SD4345	YI74	S-22上層黒色土	土師器	皿			12007
76	8	175次	SX4334			土師器	有高台皿			12016
76	9	137次	暗褐色土	VG24	暗褐色土	須恵器	坏身			12004
76	10	96-2次	SE2845	VF57	S-73中層	土師器	有高台皿			12003
76	11	175次	SD4345	YI74	S-22上層	土師器	坏身			12101
76	12	175次	SD4345	YI75	S-22上層(黒色土)	土師器	坏身			12102
76	13	175次	SD4345	YI74	S-22下層	須恵器	坏身			12103
76	14	175次	SX4334	YN75	S-21最下層	土師器	坏身			12105
76	15	175次	SD4345	YJ75	S-22黒色土	土師器	坏身			12104
76	16	175次	SX4344	YJ75・YK75	S-30	須恵器	不明			12106

Tab.26 出土製塩土器一覽

Fig	図番号	調査次数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
78	1	133次	SE3910	NB19	S-35B R-012	土師器	製塩土器	H3概	P103 71図 20	14015
78	2	175次	SD4345	YI75	S-22	土師器	製塩土器	H8概	P53 41図 1	14034
78	3	133次	SX3919	NC21	S-2 R-006	土師器	製塩土器	H3概	P104 72図 23	14018
78	4	175次	SD4345	YI75	S-22	土師器	製塩土器	H8概	P53 41図 2	14035
78	5	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	製塩土器			14014
78	6	133次	SE3910	NB19	S-35上層	土師器	製塩土器	H3概	P103 71図 19	14013
78	7	96次	表土ほか	OR55	床土	土師器	製塩土器			14009
78	8	133次	SD3921	NC21	S-34	土師器	製塩土器			14011
78	9	133次	SE3910	NB19	S-35上層 R-011	土師器	製塩土器	H3概	P103 71図 18	14012
78	10	186次	表土ほか	Z	床土(褐色土)	土師器	製塩土器	史跡II	P20 Fig.13 29	14046
78	11	186次	灰褐色土	OS55	灰褐色土	土師器	製塩土器			14008
78	12	133次	SE3910	NB19	S-35	土師器	製塩土器	H3概	P103 71図 17	14016
78	13	186次	SD4543		S-8	土師器	製塩土器	史跡II	P20 Fig.13 4	14043
78	14	186次	ピット		S-29	土師器	製塩土器	史跡II	P20 Fig.13 15	14045
78	15	166次	茶灰土	YD71	茶灰土	土師器	製塩土器			14022
78	16	133次	SB3905	NC19	S-14	土師器	製塩土器			14010
78	17	175次	SD4345	YI74	S-22 埋土	土師器	製塩土器	H8概	P53 41図 3	14023
78	18	175次	SD4345	YJ75	S-22 黒色土	土師器	製塩土器			14037
78	19	175次	SD4345	YI74	S-22 上層	土師器	製塩土器	H8概	P53 41図 5	14033
78	20	29次	SK533・534	CA1	黒褐色土 土坑	土師器	製塩土器			14002
78	21	175次	SD4345	YI74	S-22	土師器	製塩土器	H8概	P53 41図 4	14026
78	22	175次	SD4345	YJ75	S-22 黒色土	土師器	製塩土器	H8概	P53 41図 15	14038
78	23	175次	SD4345		S-22	土師器	製塩土器	H8概	P53 41図 16	14042
78	24	193次	SX4617	C4	S-1 黒褐色砂	土師器	製塩土器	史跡IV	P16 Fig.10 5	14047
79	25	175次	SD4345	YH・YI74	S-22	土師器	製塩土器	H8概	P53 41図 6	14040
79	26	175次	SD4345	YI74	S-22	土師器	製塩土器	H8概	P53 41図 7	14028
79	27	29次	ピット	CA5	ピット内	土師器	製塩土器			14005
79	28	29次	SK533・534	CA4	土坑内	土師器	製塩土器			14004
79	29	137次	SB3940	VJ26	S-35・36上層	土師器	製塩土器			14020
79	30	29次	SK533・534	CA1	土坑	土師器	製塩土器			14003
79	31	133次	SK3913	NC19	S-37	土師器	製塩土器			14017
79	32	29次	SK533・534	CA1	黒褐色土(土坑)	土師器	製塩土器			14001
79	33	186次	SK4547	YF76	S-4	土師器	製塩土器	史跡II	P14 Fig.8 5	14044
79	34	175次	SD4345	YI74	S-22	土師器	製塩土器	H8概	P53 41図 10	14025
79	35	175次	SD4345	YI74	S-22 上層	土師器	製塩土器	H8概	P53 41図 11	14032
79	36	175次	SD4345	YI74	S-22 上層	土師器	製塩土器	H8概	P53 41図 9	14031
79	37	175次	SD4345	YH・YI74・75	S-22	土師器	製塩土器	H8概	P53 41図 13	14041
79	38	175次	SD4345	YI74 R-009	S-22	土師器	製塩土器	H8概	P53 41図 12	14029
79	39	175次	SD4345	YH・YI74 R-015	S-22	土師器	製塩土器	H8概	P53 41図 14	14039
79	40	29次	Clr暗茶灰色土	CA5	暗茶灰色土	土師器	製塩土器			14007
79	41	175次	SD4345	YI75・76	S-22灰色砂質土	土師器	製塩土器	H8概	P53 41図 8	14036
79	42	137次	暗褐色土	VG25	暗褐色土	土師器	製塩土器			14021
79	43	175次	SD4345	YI74	S-22上層	土師器	製塩土器			14030
79	44	175次	SD4345	YI74	S-22	土師器	製塩土器			14027
79	45	133次	SX3919	NC21	S-2	土師器	製塩土器			14019
79	46	29次	その他ピット	CA5	ピット内	土師器	製塩土器			14006

Tab.27 出土漆附着土器一覽

Fig	図番号	調査次数	遺構・層位名	調査地区	注記(S番・土層名)	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	遺物番号
80	1	137次	暗褐色土	VF24	暗褐色土 R-001	須恵器	坏蓋	H4概	P103 73図 1	15022
80	2	137次	SB3945	VI26	S-33	須恵器	坏蓋			15019
80	3	175次	SD4345	YJ75、YH・YI74	S-22 黒色土・上層黒色土・埋土 R-053	須恵器	坏身	H8概	P40 30図 5	15026
80	4	186次	SK4546		S-3	須恵器	坏身	史跡II	P14 Fig.8 17	15039
80	5	96次	SB2825	VI52	S-6掘形	須恵器	坏身			15012
80	6	96次	表土ほか	OQ50	床土	須恵器	坏身			15011
80	7	186次	SK4547		S-4	須恵器	坏身	史跡II	P14 Fig.8 23	15040
80	8	95次	SD2760	TN42	S-5 上層	須恵器	坏身			15001
80	9	96次	表土ほか	ON51	暗灰土 R-001	須恵器	坏身	S60概	P51 30図 19	15009
80	10	175次	SD4345	YH・YI76	S-22 埋土	土師器	坏身			15028
80	11	193次	SX4617	OP地区C4	S-1 黒褐色砂層	土師器	坏蓋	史跡IV	P16 Fig.10 3	15042
80	12	175次	SD4345	YI76・77	S-22 下層 R-002	土師器	坏身	H8概	P49 37図 30	15037
80	13	175次	SD4345	YH・YI74・75	S-22 埋土	土師器	坏身	H8概	P49 37図 31	15027
80	14	133次	SA3912	NC20	S-19	土師器	坏身			15016
80	15	175次	SD4345	YJ75	S-22 黒色土 R-023	土師器	坏身	H8概	P49 37図 36	15036
80	16	175次	SD4345	YI75	S-22 上層黒色土	土師器	坏身			15033
80	17	175次	SD4345	YI75	S-22 上層黒色土	土師器	坏身			15034
80	18	175次	SD4345	YI74	S-22 埋土 R-085	土師器	坏身	H8概	P49 37図 37	15029
80	19	96次	表土ほか	OS55	灰褐色土	土師器	坏身			15007
81	20	157次	黄色土	QE57	黄色土	土師器	坏身			15025
81	21	137次	SD3941	VE22	S-51	土師器	坏身			15021
81	22	96次	表土ほか	OJ54	灰褐色土	黒色土器A類	碗			15003
81	23	157次	黄色土	QD57	黄色土	越州窯系青磁	碗			15024
81	24	96次	表土ほか	OP54	暗灰土 R-001	越州窯系青磁	碗			15010
81	25	193次	SX4617		S-1 黒色砂質土	須恵器	壺	史跡IV	P16 Fig.10 2	15041
81	26	137次	SD3939	VI27	S-1 R-001	須恵器	壺	H4概	P102 73図 3	15020
81	27	137次	SB3945	VG29	S-9	須恵器	壺			15018
81	28	95次	SD2760	TN46	S-5 上層	須恵器	甕			15002
81	29	133次	SK3908	NC19	S-15	土師器	甕			15017
81	30	96次	表土ほか	OQ55	灰褐色土	土師器	碗			15005
81	31	96次	SF2817	VD55	S-74	土師器	坏身			15013

Tab.28 出土鍛冶・鑄造関連遺物一覧

Fig.	図番号	調査回数	注記	遺構・層位名	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	登録番号
84	1	96	VI~VM50 床土	床土	坩堝・取鍋				72183
84	2	96	—	—	坩堝・取鍋				72186
84	3	137	VK26 S-38	SB3940	坩堝・取鍋				72182
84	4	137	VK26 S-38	SB3940	坩堝・取鍋		H4概	P101 72図 4	72188
84	5	96	VL51 S-23柱痕中上層	SB2830	坩堝・取鍋				72185
84	6	186	床土褐色土	床土	取瓶	片口			72189
84	7	133	NC21 S-9	SB3925	取瓶	片口			72184
84	8	133	NC21 S-2	SX3919	鑄型	外型			72196
84	9	133	NC21 S-2	SX3919	鑄型	外型			72210
84	10	133	NC22 S-6	SK3924	鑄型	外型	H3概	P106 73図 7	72219
84	11	133	NC21 S-7	ピット	鑄型	外型			72223
84	12	133	NB21 S-27	SB3925	鑄型	外型	H3概	P106 73図 8	72240
84	13	133	NC21 S-2	SX3919	鑄型	内型	H3概	P106 73図 1	72212
84	14	133	NB21 S-27	SB3925	鑄型	内型	H3概	P106 73図 2	72236
84	15	133	NB21 S-21	ピット	鑄型	内型	H3概	P106 73図 3	72226
84	16	133	—	—	鑄型	内型	H3概	P106 73図 4	72248
84	17	133	NC21 S-1	SK3916	鑄型	内型			72191
84	18	133	NB21 S-27	SB3925	鑄型	内型	H3概	P106 73図 5	72235
84	19	133	NC21 S-2	SX3919	鑄型	内型			72201
84	20	133	NC21 S-2	SX3919	鑄型	内型			72194
84	21	133	NB21 S-2	SX3919	鑄型	内型	H3概	P106 73図 6	72193
84	22	186	S-6東半	SD4542	羽口		史跡Ⅱ	P23 Fig.15-9	72120
84	23	133	NC21 S-2	SX3919	羽口		H3概	図版68	72055
84	24	137	VE22 S-53	SK3942	羽口		H4概	P102	72059
84	25	96	VJ55 S-67	SD2840	羽口				72001
84	26	175	YI74 S-22	SD4345	羽口		H8概	P54 42図 10	72095
84	27	186		SD4542	羽口		史跡Ⅱ	P23 Fig.15-8	72121
84	28	96	VE48 床土	床土	羽口				72038
84	29	96	VE48 床土	床土	羽口				72039
85	30	186	YF76 S-4	SK4547	炉壁				72693
85	31	95	T地区 床土	床土	炉壁				72690
85	32	186	S-3	SK4546	炉壁				72649
85	33	186	S-6	SD4542	炉壁				72670
85	34	186	S-6東半	SD4542	鍛冶滓	椀形滓			72335
85	35	186	S-8	SD4543	鍛冶滓	椀形滓			72344
85	36	137	VJ27 S-1	SD3939	鍛冶滓	椀形滓			72283
85	37	167	S-2	—	鍛冶滓	椀形滓			72321
85	38	96	VG47 床土	床土	鍛冶滓	椀形滓			72275
85	39	186	床土褐色土	床土	鍛冶滓	椀形滓			72366
85	40	186	S-27	SK4559	鍛冶滓	椀形滓			72349
85	41	186	S-6東半	SD4542	鍛冶滓	椀形滓			72333
85	42	137	VJ27 S-14	SB3940	鍛冶滓	流動滓			72610
85	43	137	VG26 S-29	SB3945	鍛冶滓	鉄塊系遺物			72595
85	44	137	VK26 S-38	SB3940	鍛冶滓	鉄塊系遺物			72592
85	45	96	VE49 灰褐色土	灰褐色土	鑄造滓	銅滓			72625
85	46	96	VD49 灰褐色土	灰褐色土	鑄造滓	銅滓			72628
85	47	96	OO53 暗灰土	暗灰土	鑄造滓	銅滓			72630

Tab.29 出土白色物質付着土器一覧

Fig.	図番号	調査回数	注記	遺構・層位名	種類	器種	掲載報告書	掲載図番号	登録番号
86	1	96	OO50 灰褐色土	灰褐色土	白色物質付着土器	須恵器横瓶			001
86	2	175	YO79 遺構確認	遺構確認	白色物質付着土器	須恵器横瓶			007
86	3	133	NB19 S-35上層	SE3910	白色物質付着土器	須恵器壺			006
86	4	133	NB19 S-35上層	SE3910	白色物質付着土器	須恵器壺			005
86	5	193	S-1黒色砂質土	SX4617	白色物質付着土器	須恵器壺			008
86	6	96	VE49 灰褐色土	灰褐色土	白色物質付着土器	須恵器甕			004
86	7	96	VF48 炭層	炭層	白色物質付着土器	須恵器甕			003

Administrative structures surrounding Kyushu's government headquarters
in the *Dazaifu*(大宰府) complex XI
— the *Hiomaru* (広丸) area —

Contents

Chapter I Excavated Articles

- (1) Roof tiles and Bricks
- (2) Pottery and Porcelain
- (3) Wooden Objects
- (4) Metal Objects
- (5) Stone Objects
- (6) Clay Objects
- (7) Finds related to written characters
- (8) Other remains

Chapter II Summary — the results and issues —

Summary

This volume is the official excavation report of the government offices in the *Hiromaru*(広丸) area in the west front of the main government offices of *Dazaifu*(大宰府) complex. This includes 23 trenches excavated by the **Kyushu Historical Museum**, which has undertaken work since 1973.

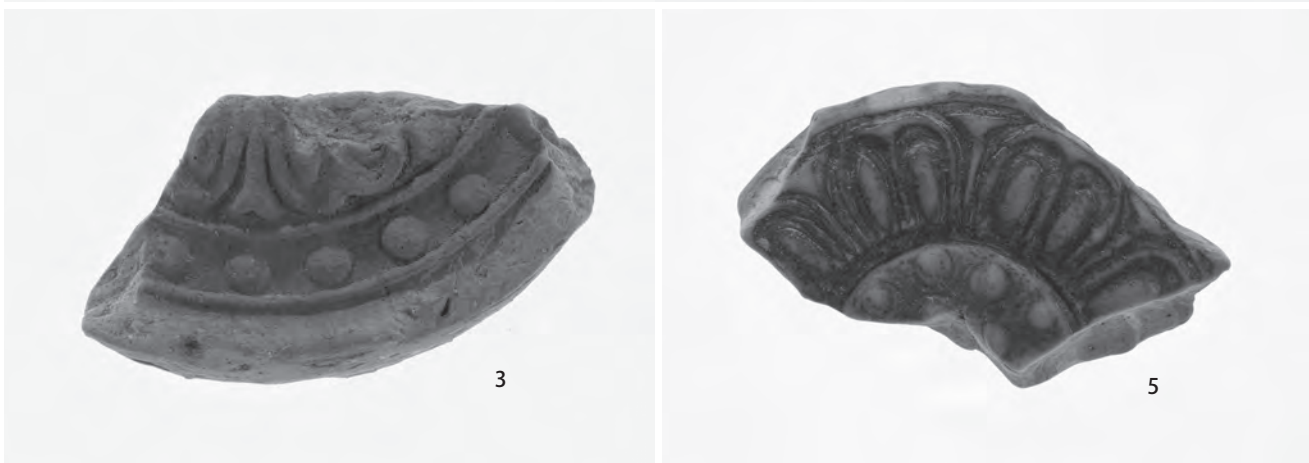
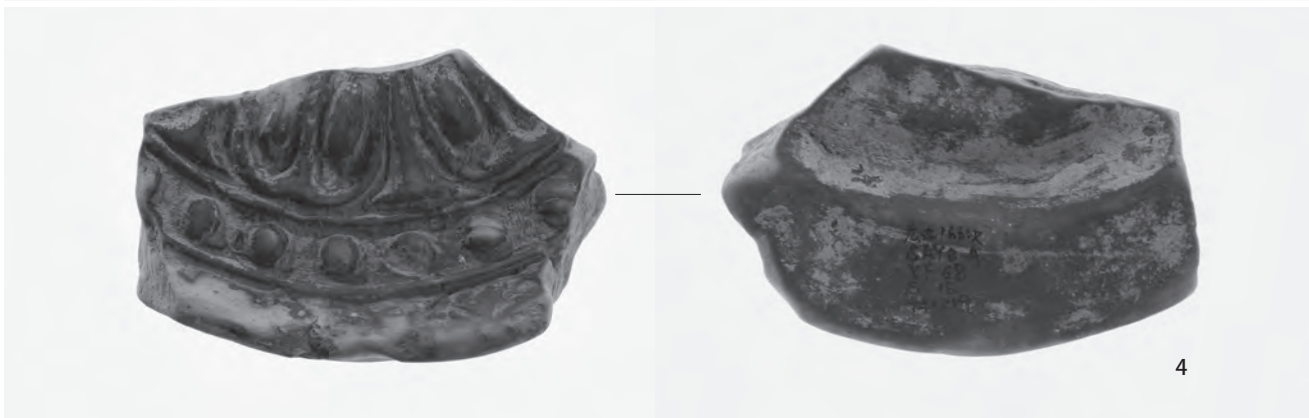
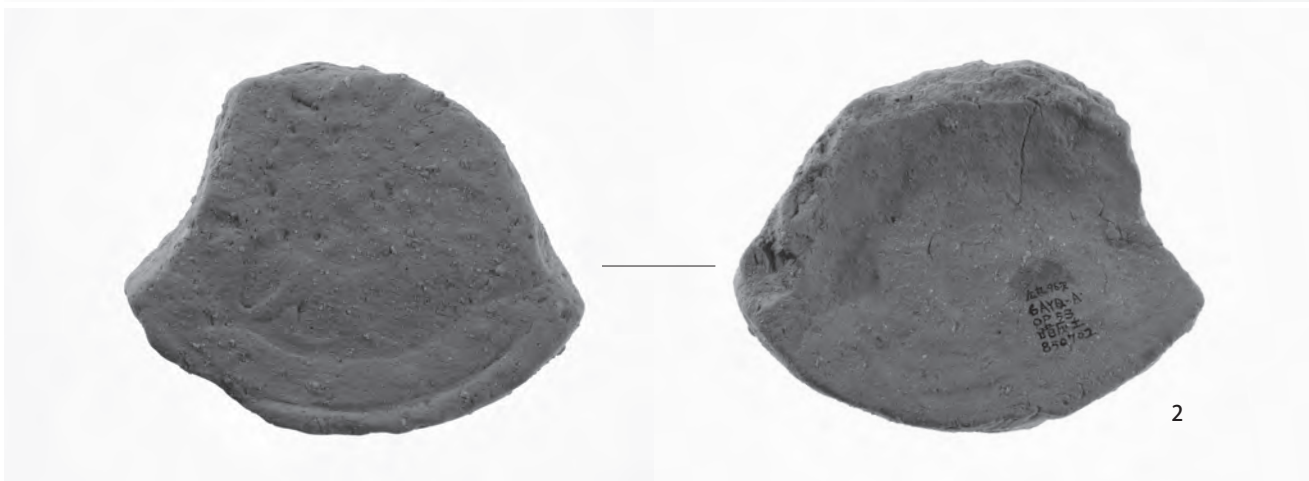
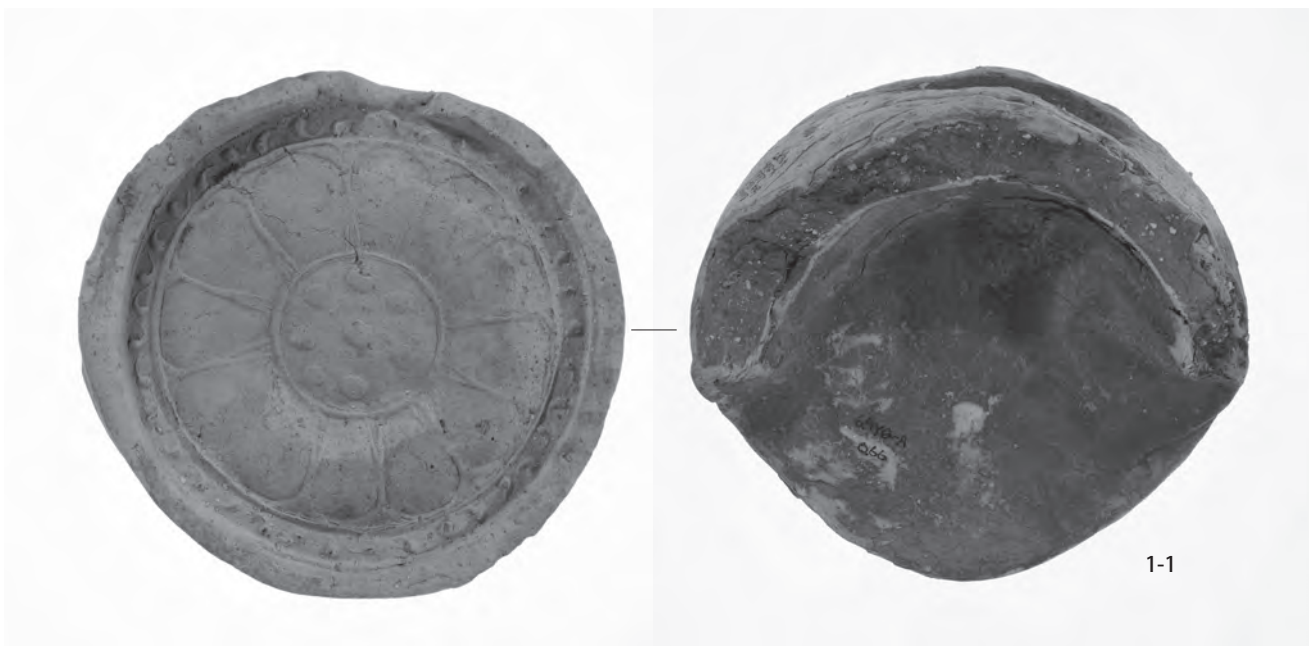
The excavation in this area unveiled 30 post-built structures, 23 palisades, 1 Pit dwellings, 14 boundary ditches, 49 compartment gullies, 23 burial holes, 3 wells, and many earthen pits and hollows. Those most part dated from the 8th century to the 10th century, it's parallel with continuation time of the main government offices of *Dazaifu* for the 2nd period. But, the phenomenon in which a building increases rapidly after the middle in the 8th century shows that maintenance of a real government office is behind schedule than other areas.

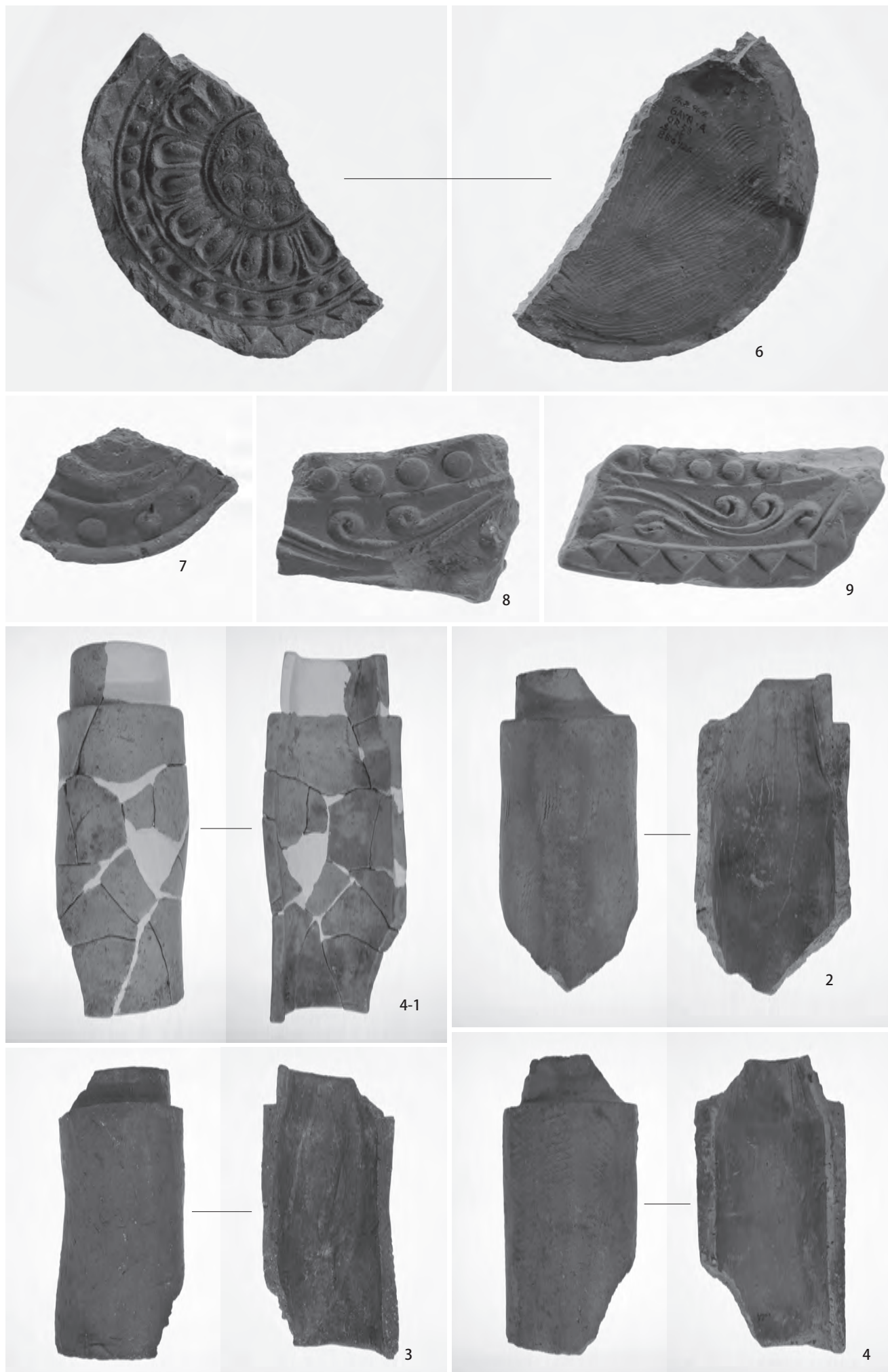
The characteristic remains found in this area is the Bureal Holes. These are positioned after roughly the 10th century. At the 3rd period of *Dazaifu*, it is known that the official zone which had spread to the front of the *Dazaifu* government agency area has shrunk greatly. These Bureal holes were made in response to the shrunk of the area front of the *Dazaifu* government agency area, which had used as the supplementary official area. It shows that land usage form had changed significantly.

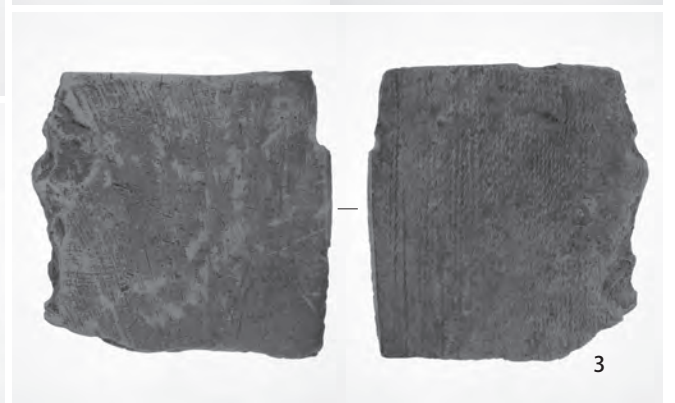
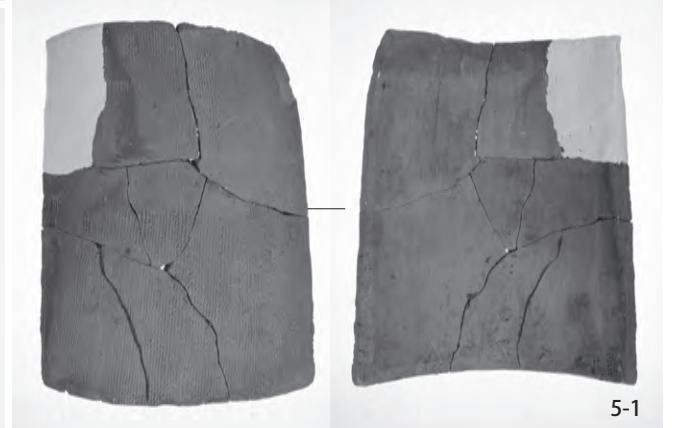
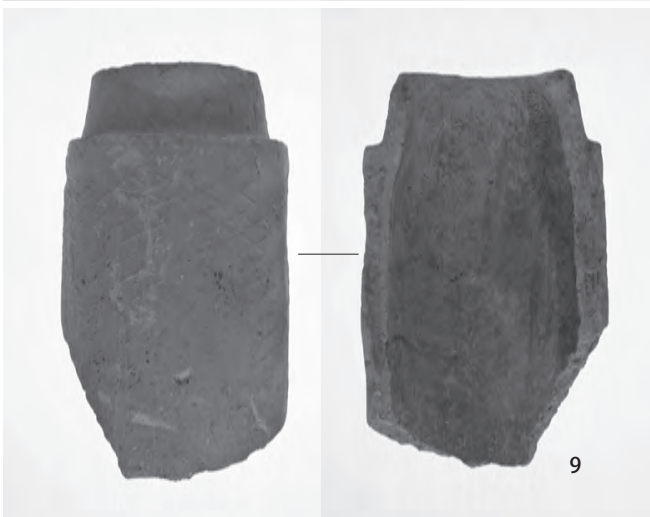
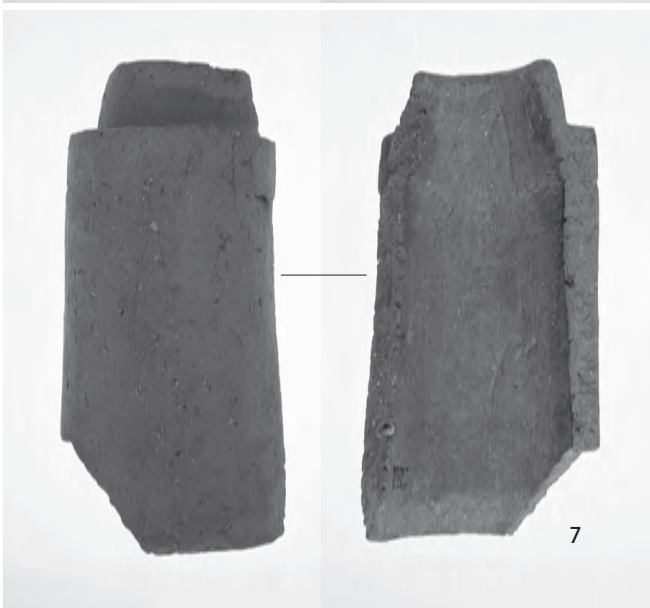
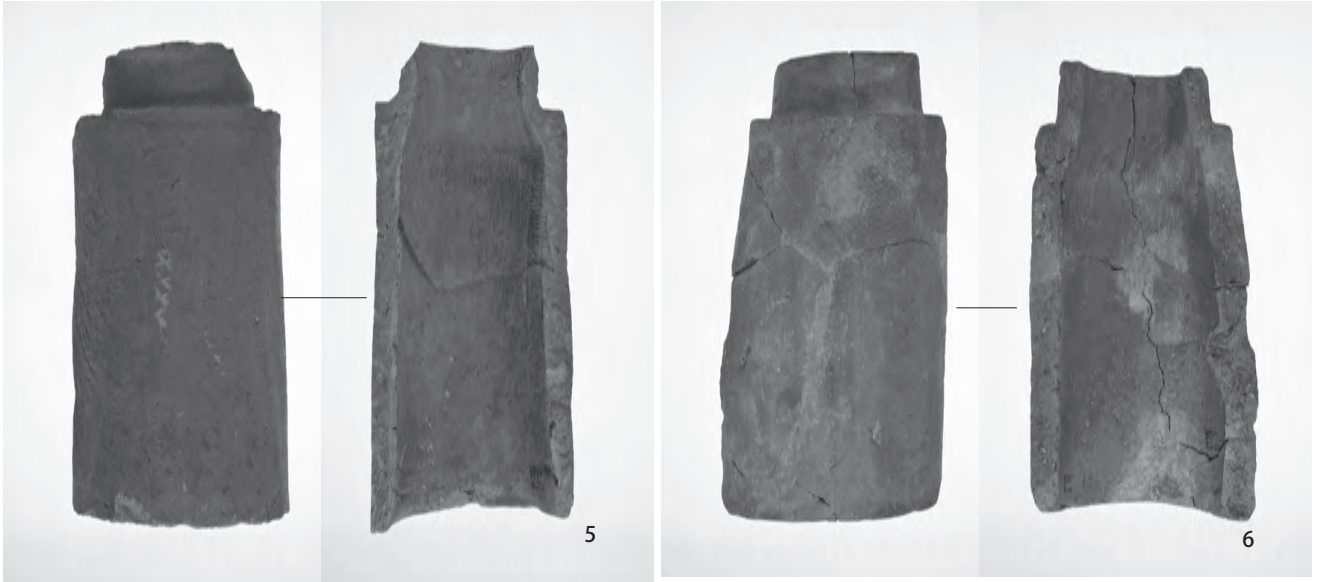
In terms of finds, Vast amounts of pottery and ceramics, roof tiles, wooden object, metal objects, stone objects, clay objects, finds related to written characters and production were recovered from a variety of features.

Much of the roof tiles are regarded as mixture from *Fuchou*(不丁), *Kuratsukasa*(蔵司) and *Raiki*(来木) areas, because there are few buildings using a roof tiles in *Hiromaru* Area. But the important material which decides about the age of each remains. Finds related to forging and casting show that maintenance and management in the buildings of this area were performed periodically.

PLATES









出土瓦④



6-2



28



31



4



7-5



9



7



10



8



23



9



掘立柱建物出土土器②，柵出土土器







13



6



14



8



16



9



17



17



19



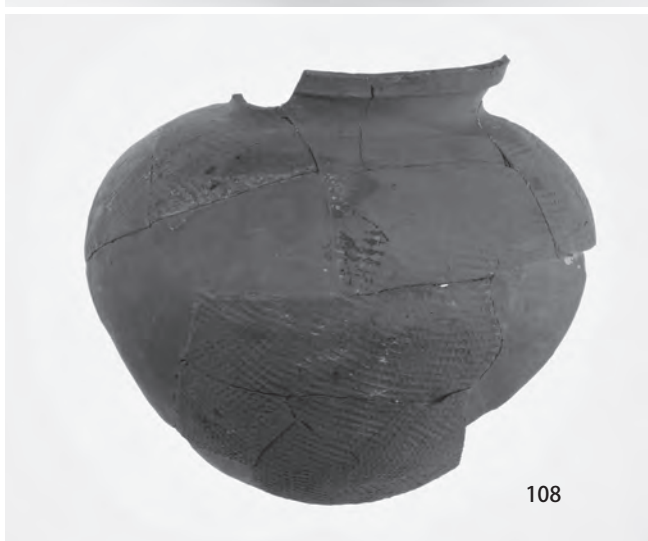
20



19-5



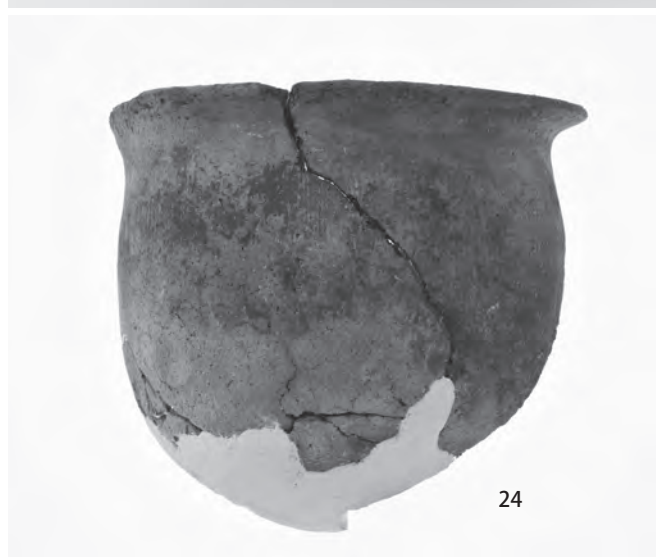




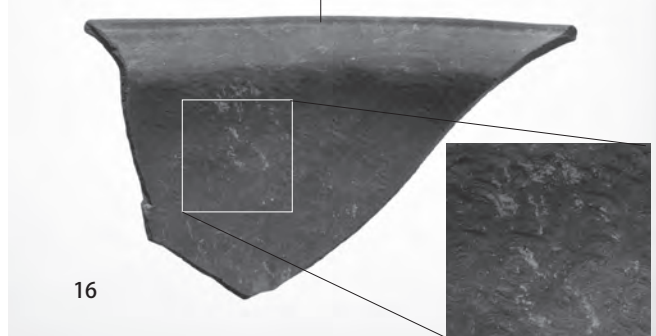














47



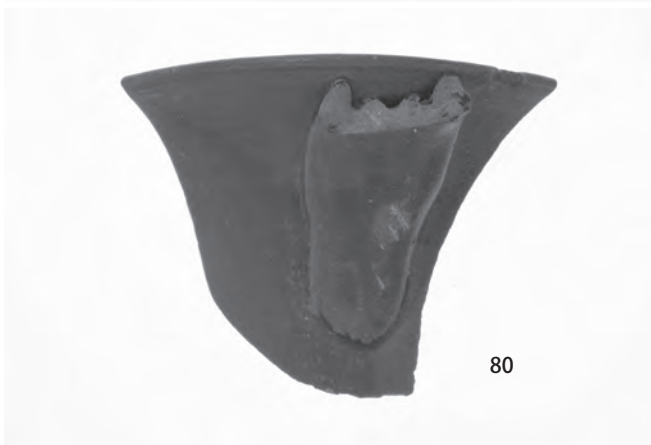
48



49



51



80



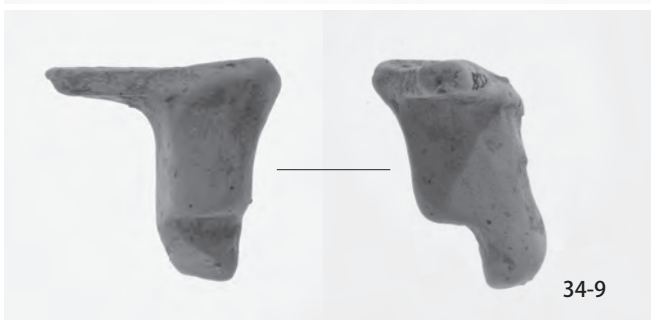
41



52



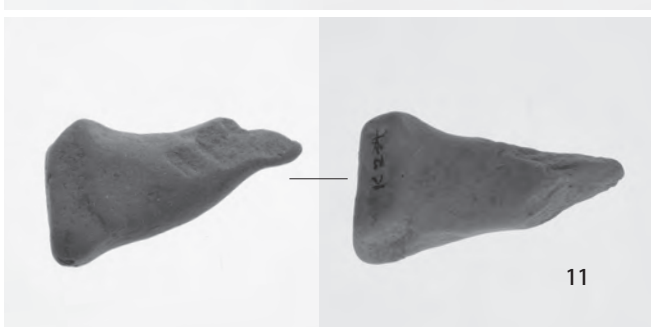
35-62



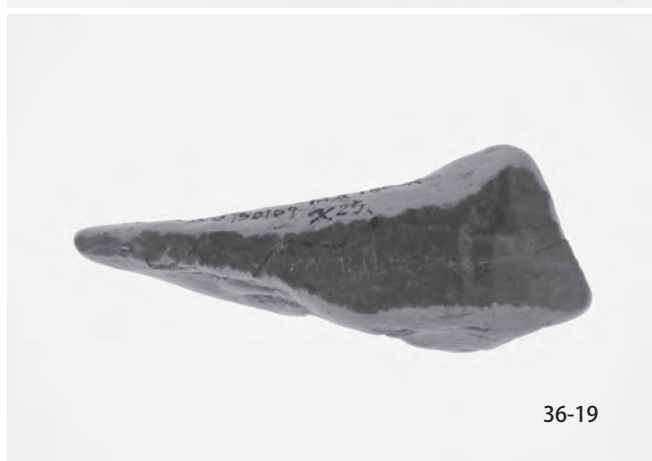
34-9



68



11



36-19

土坑出土土器④，土壙墓出土土器①



土壙墓出土土器②，并戸出土土器①



20



37



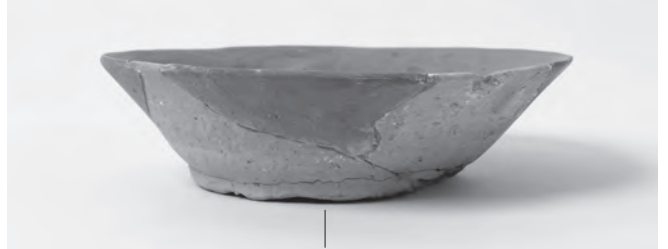
21



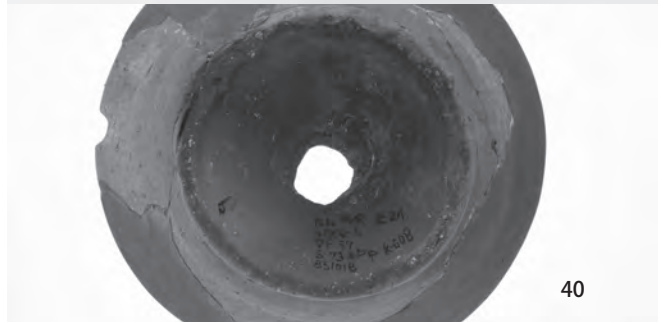
39



22



38-32



40



33



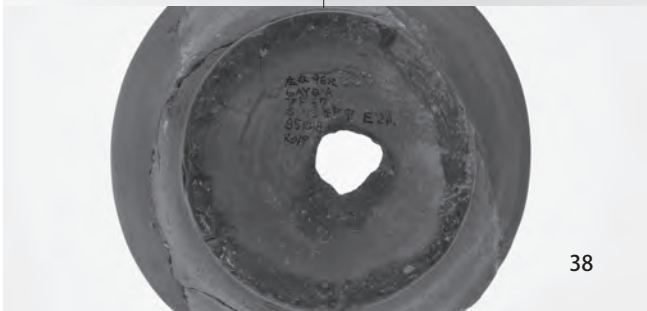
46



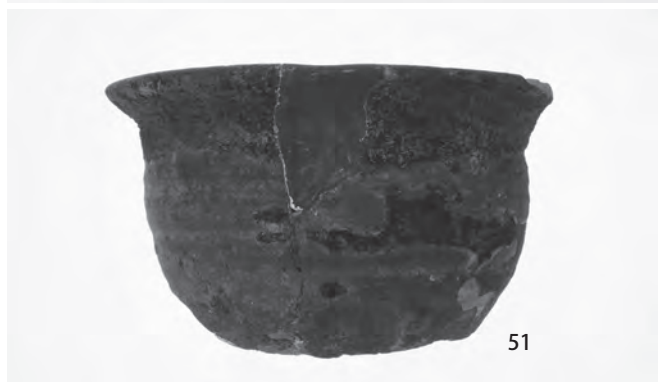
38



47



51





52



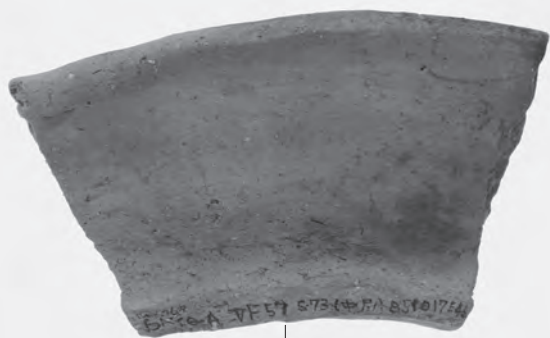
12



53



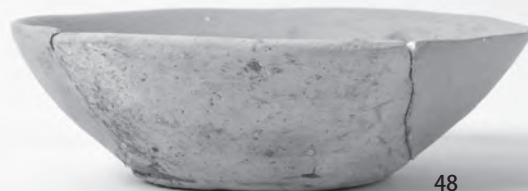
34



5360-A 7E57 573-057A 55101744



57



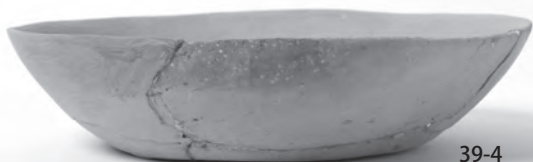
48



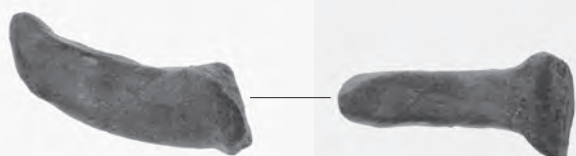
50



54



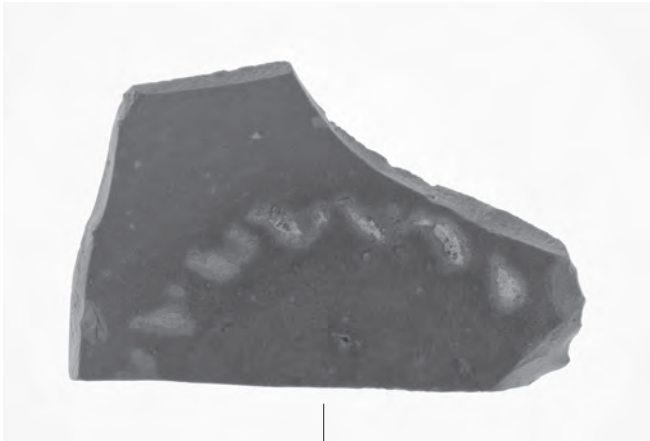
39-4



29



55



採土遺構出土土器，落ち込み状遺構出土土器①



落ち込み状遺構出土土器②, その他のピット出土土器, 遺物包含層等出土土器①



10



15



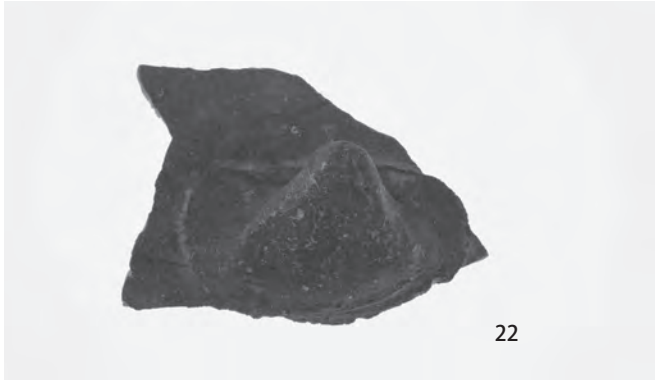
13



18



51-3



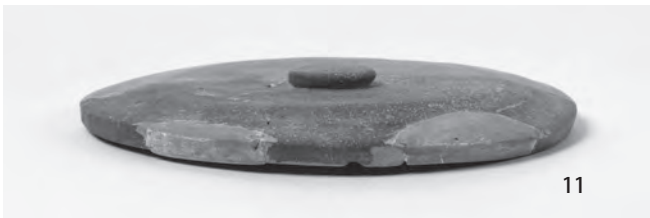
22



4



38



11



40



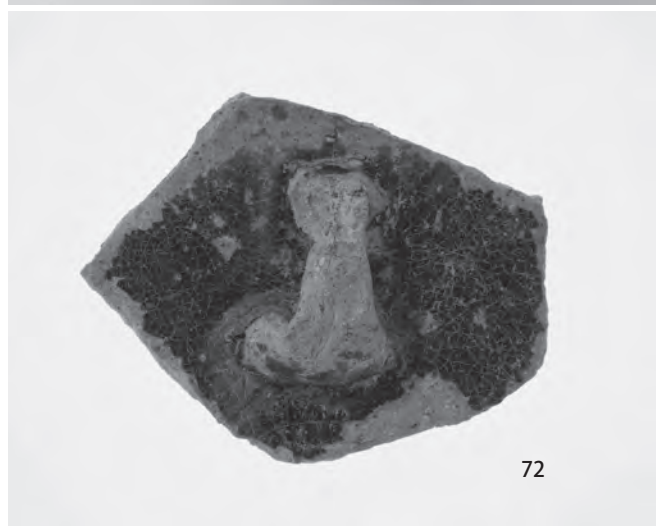
12

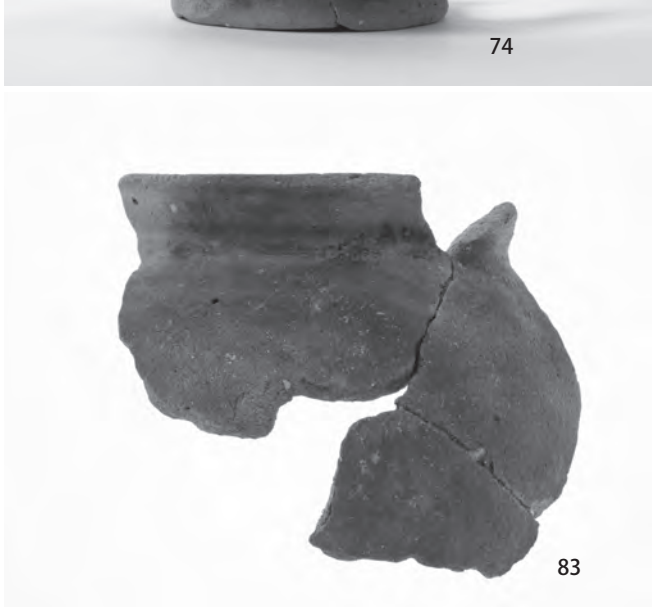


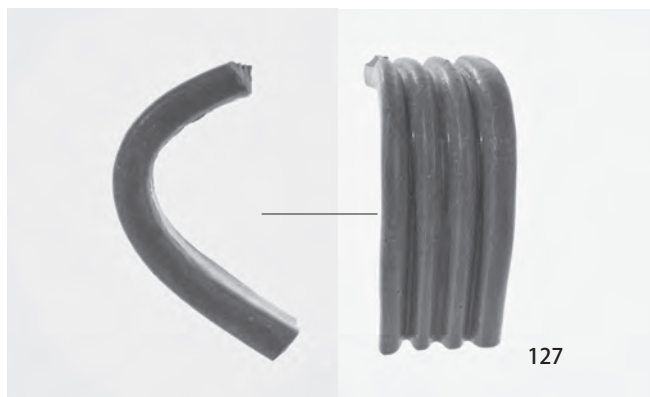
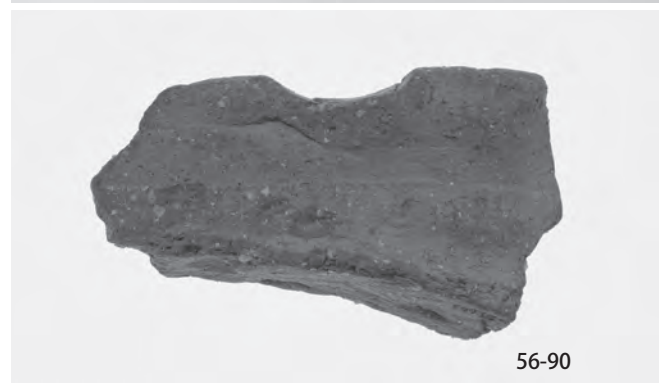
42

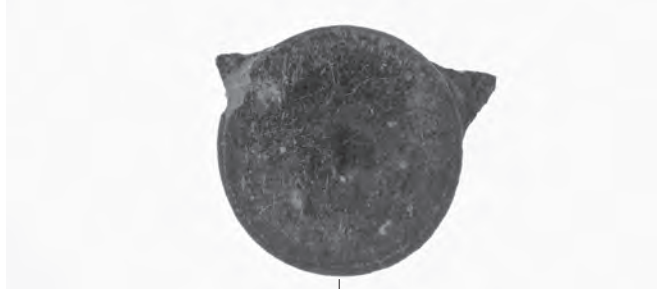
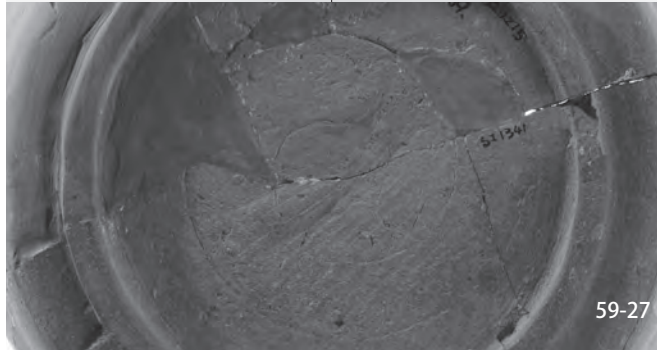
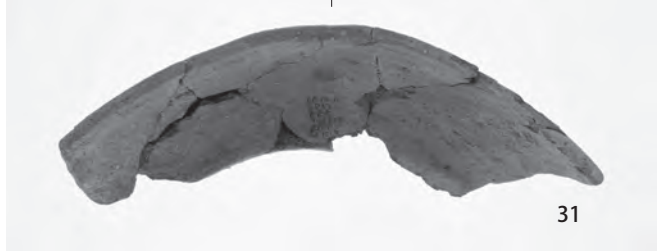


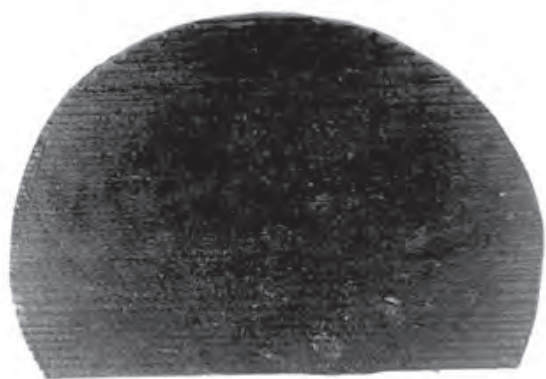
13



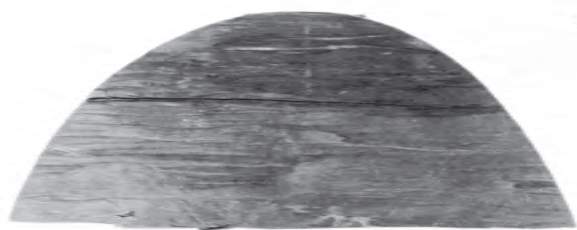








61-1



2



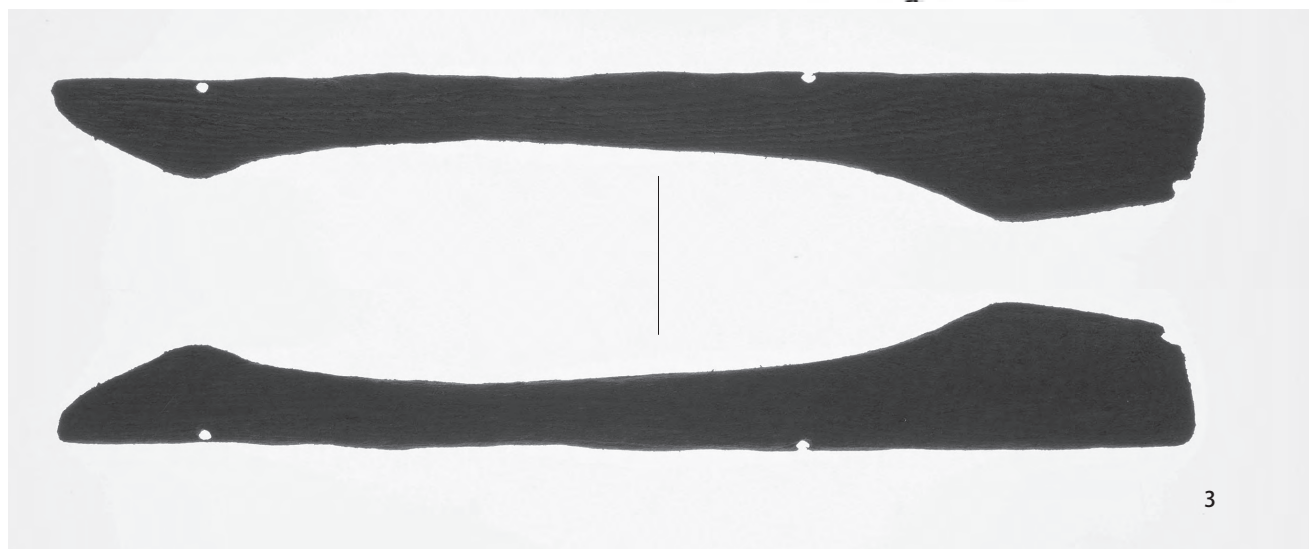
4



5



6



3



7



8

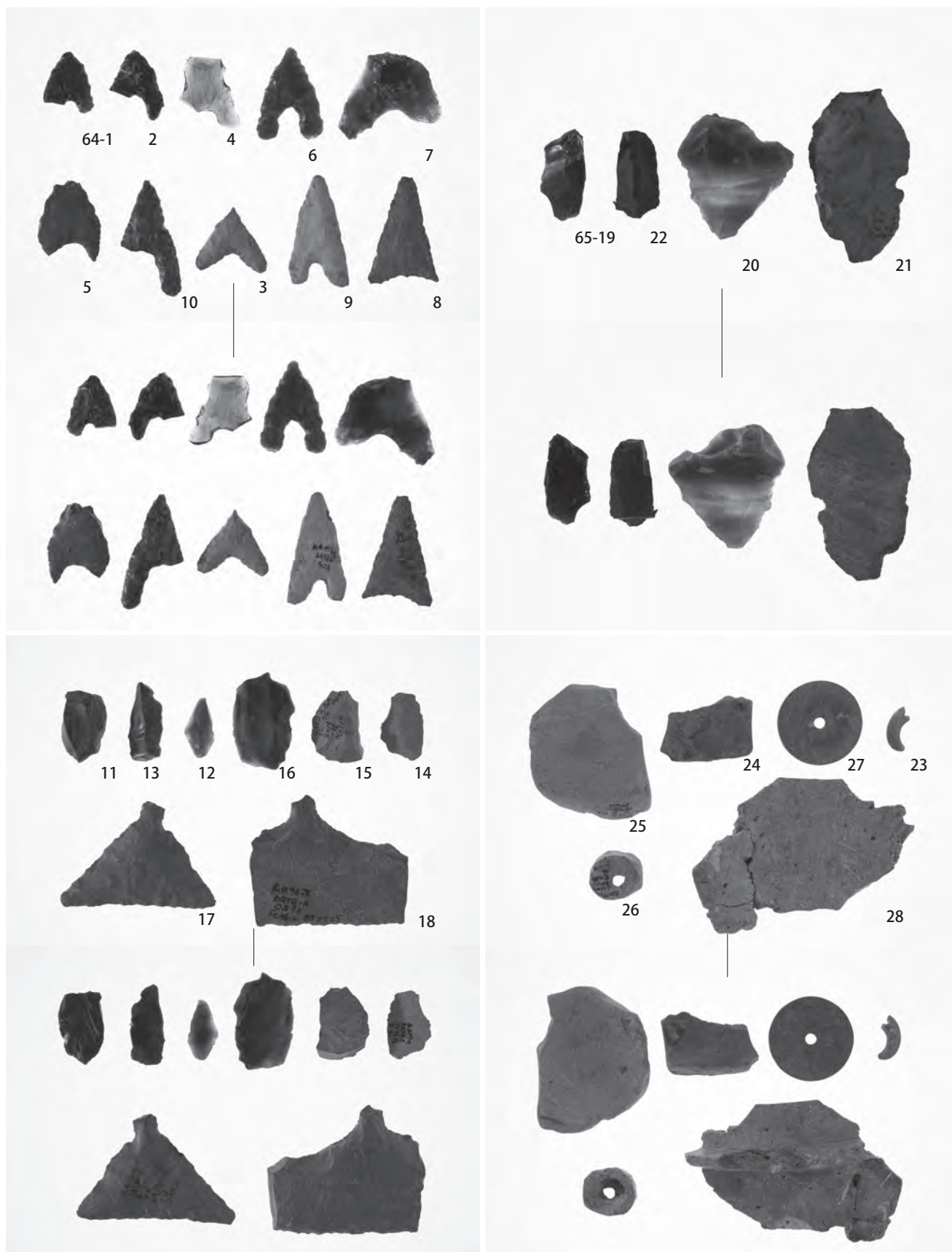


9

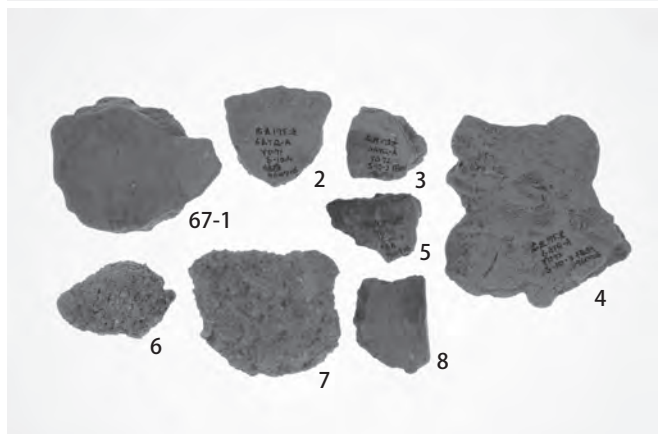
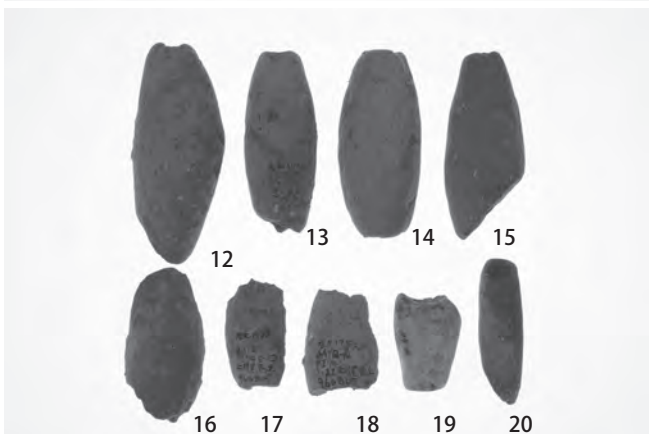
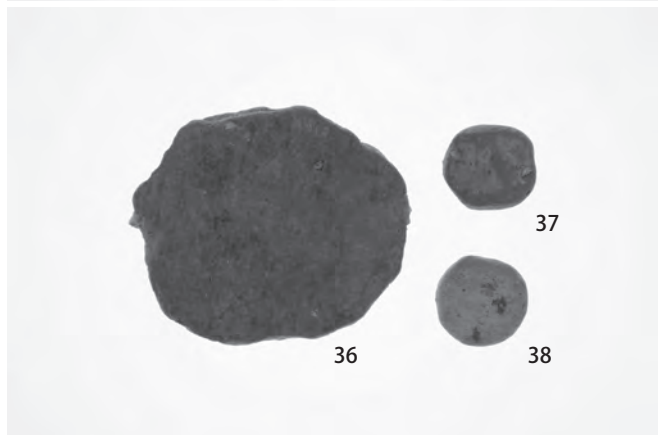
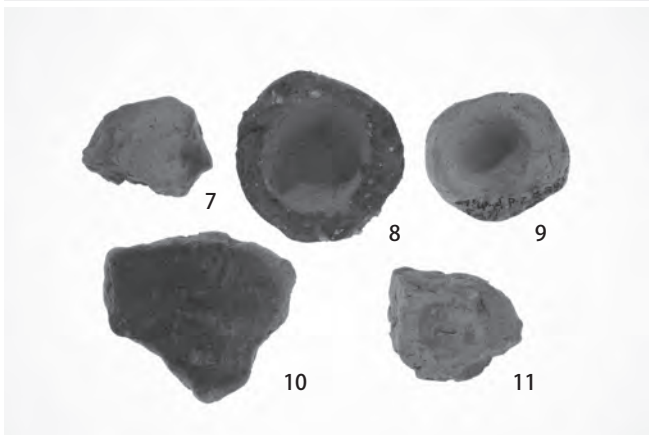
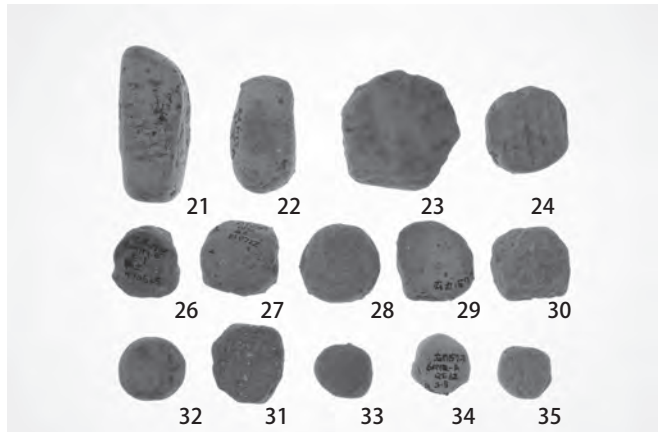
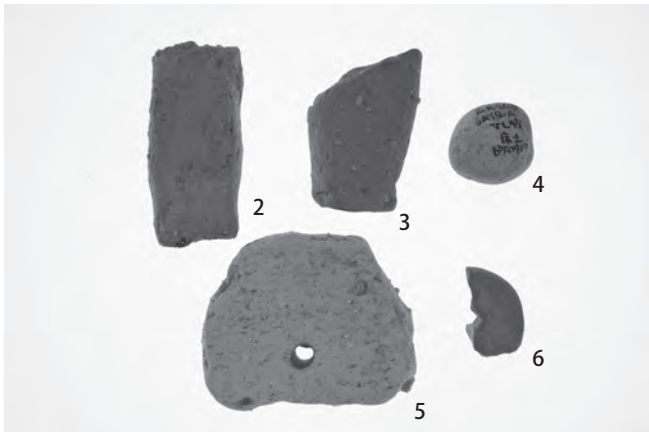


10

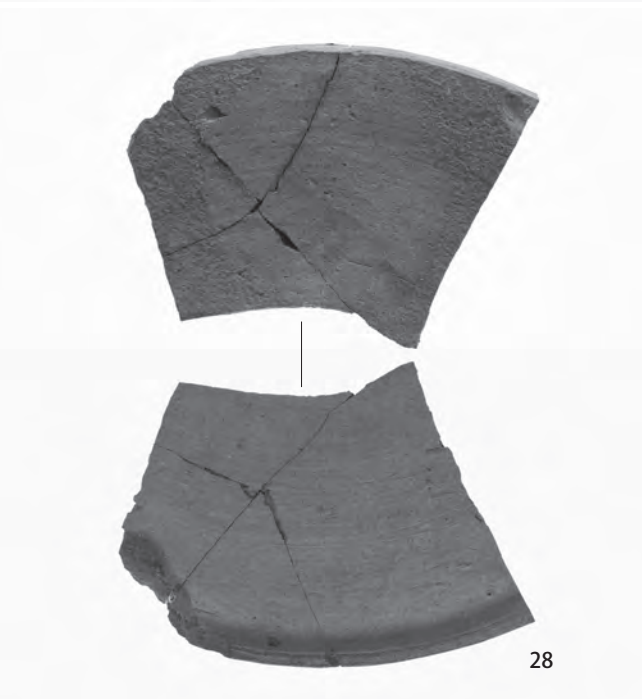
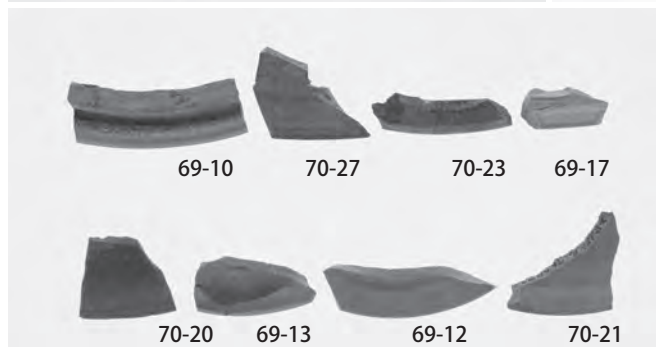
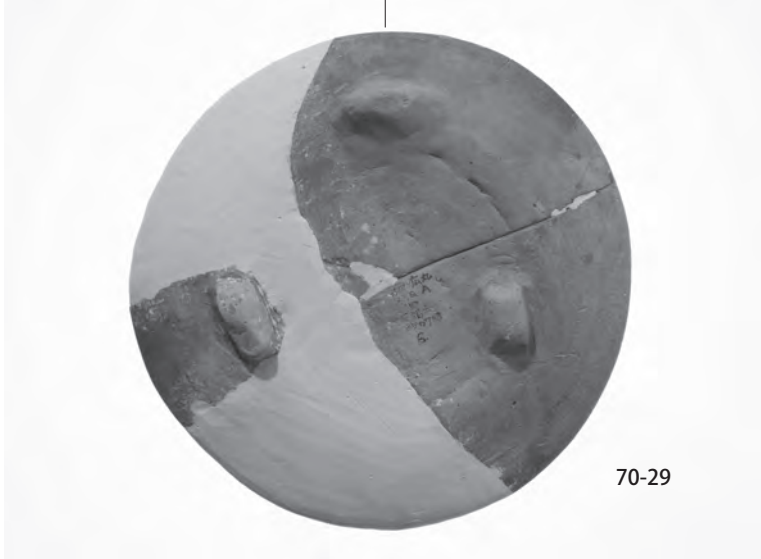




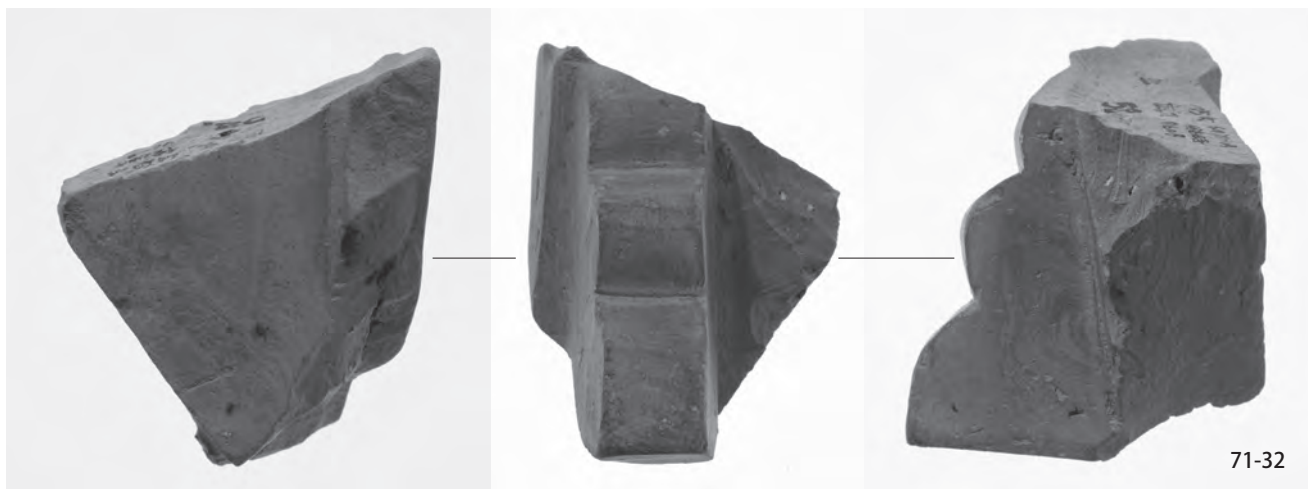
出土石器・石製品



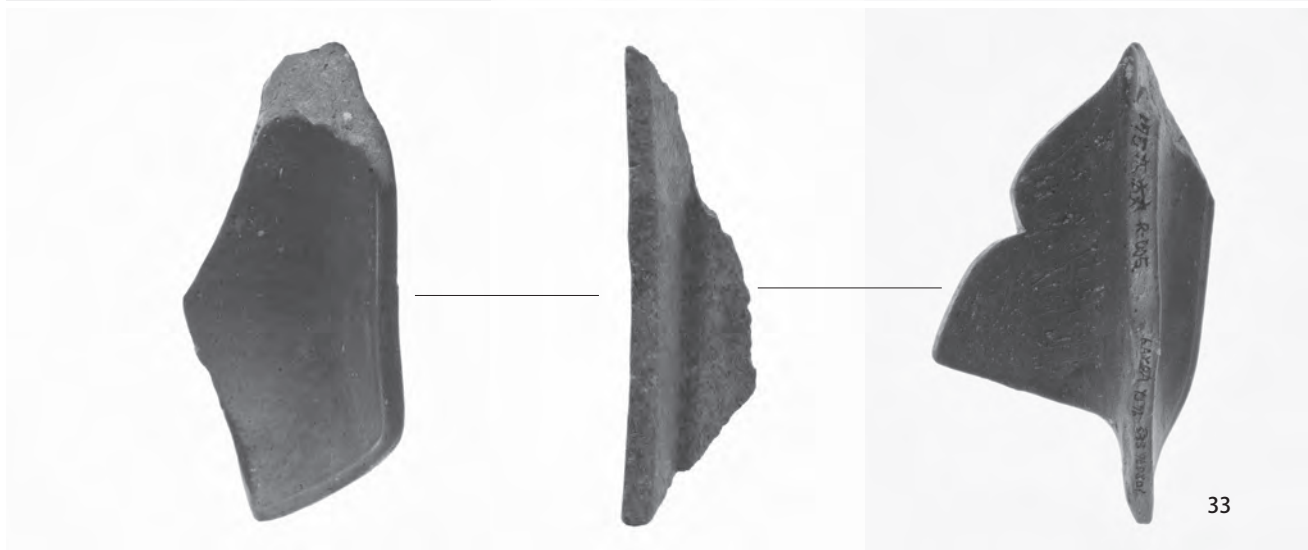
出土土製品



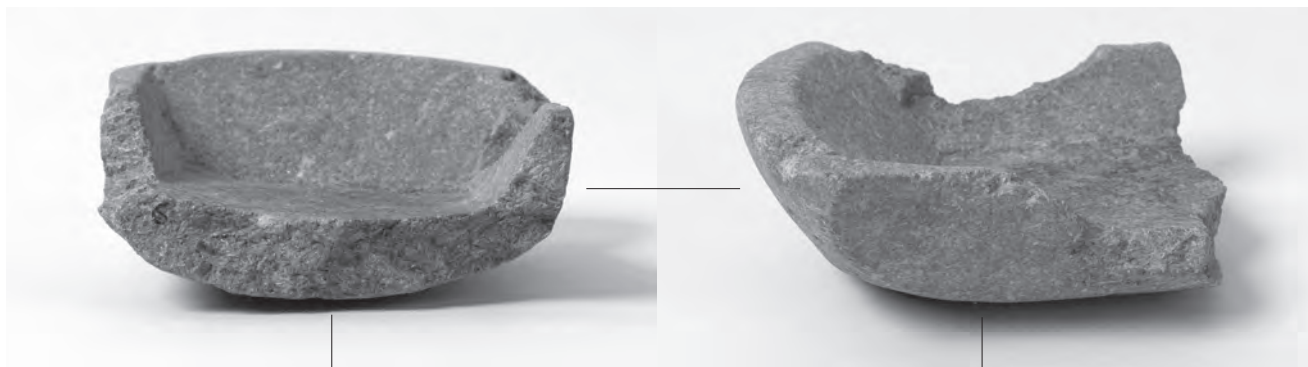
出土定形碗①



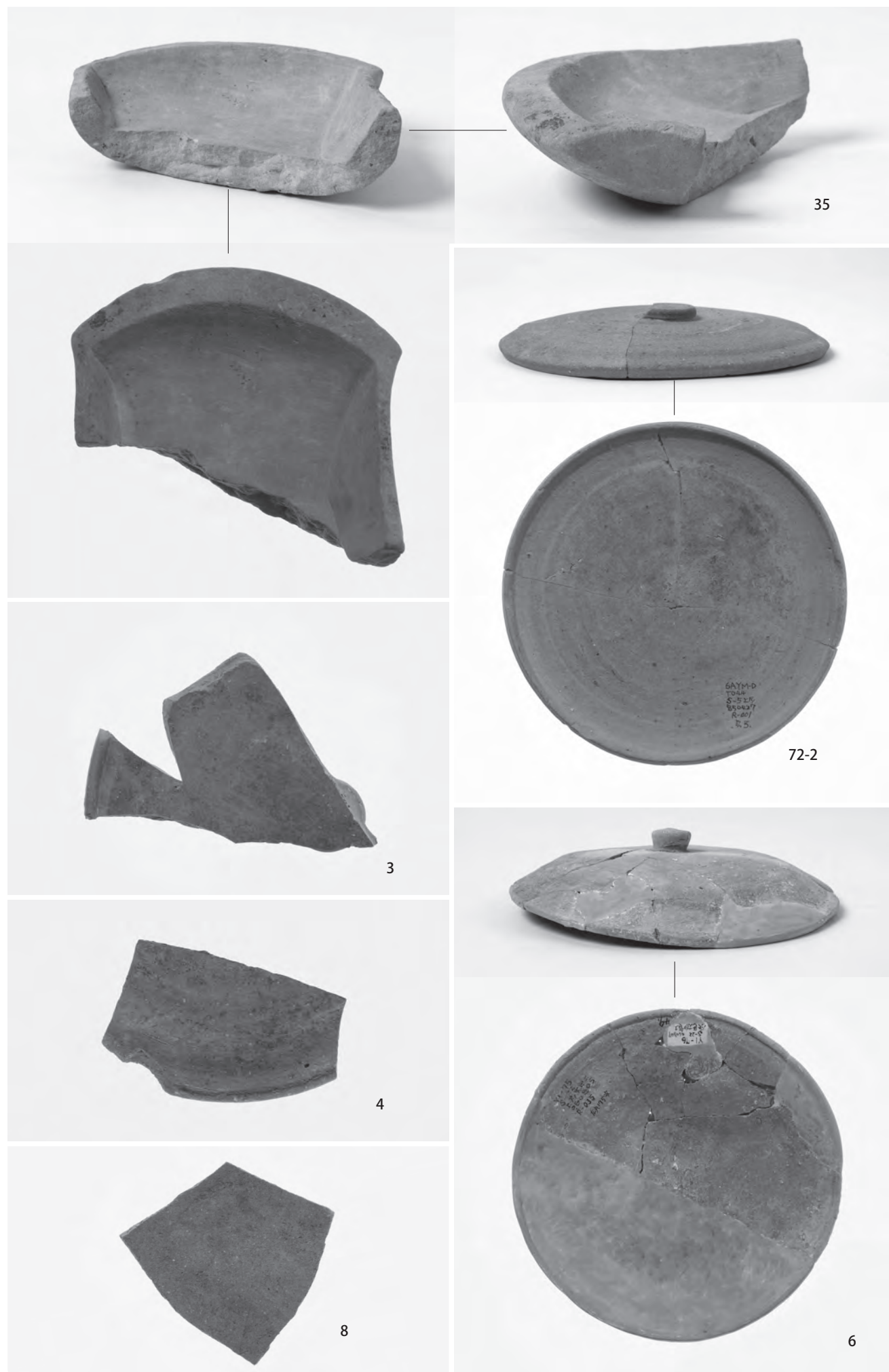
71-32



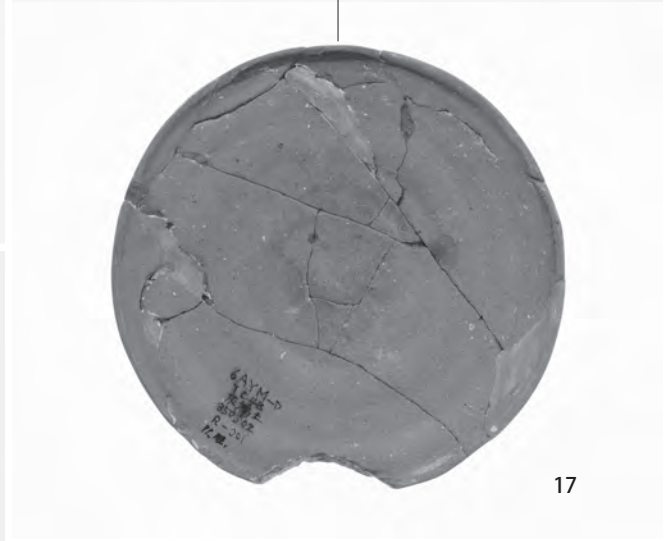
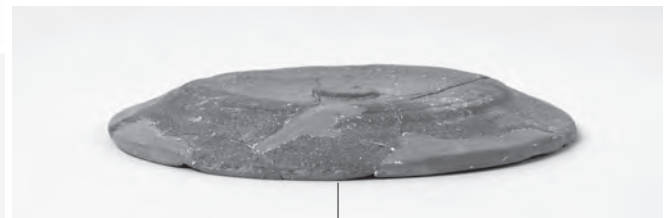
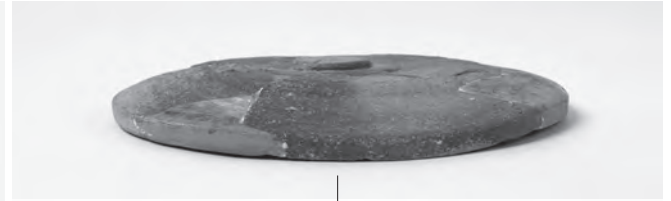
33

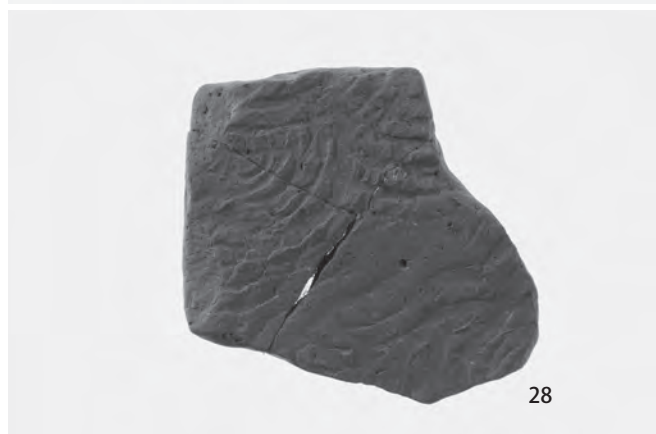
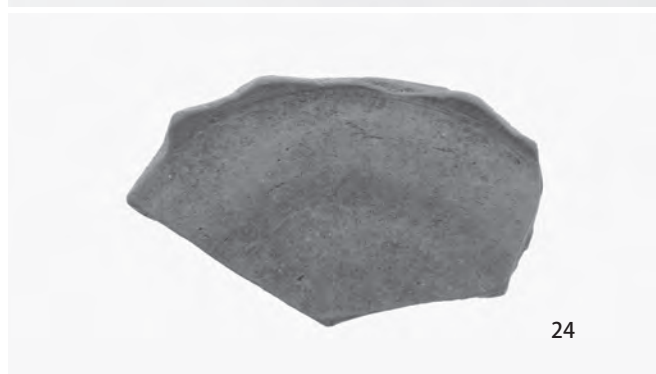
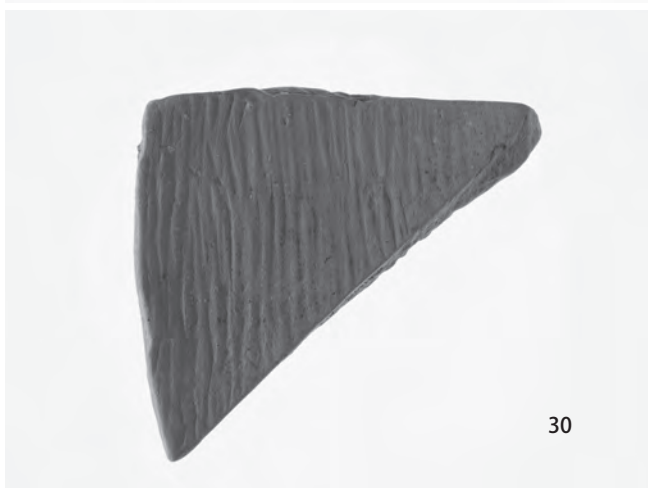


34

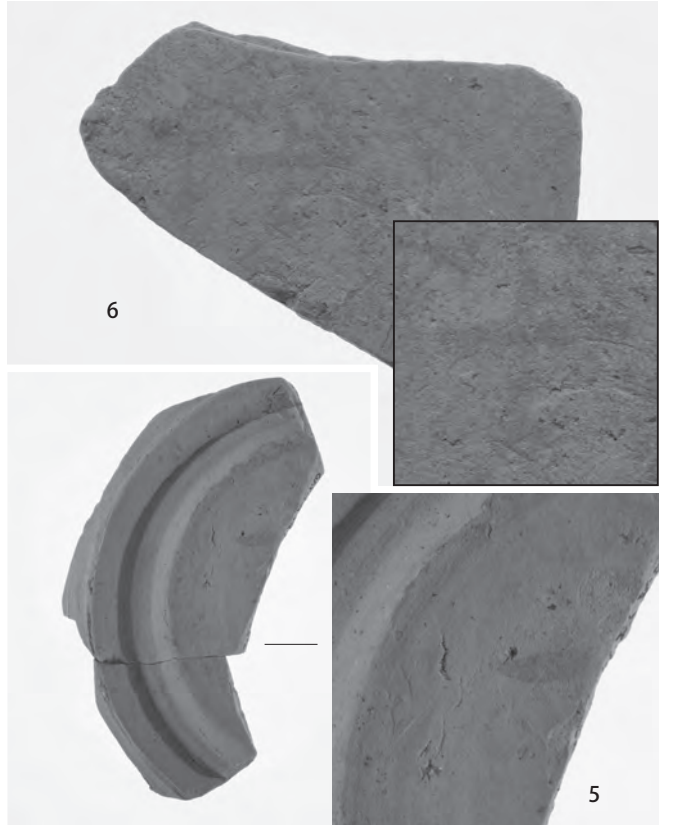


出土定形硯③，転用硯①

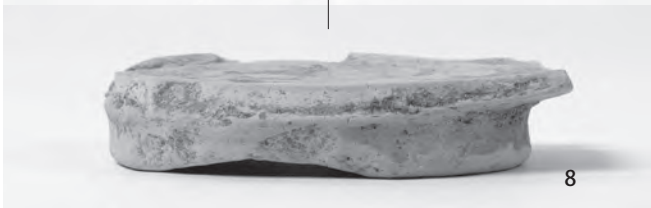




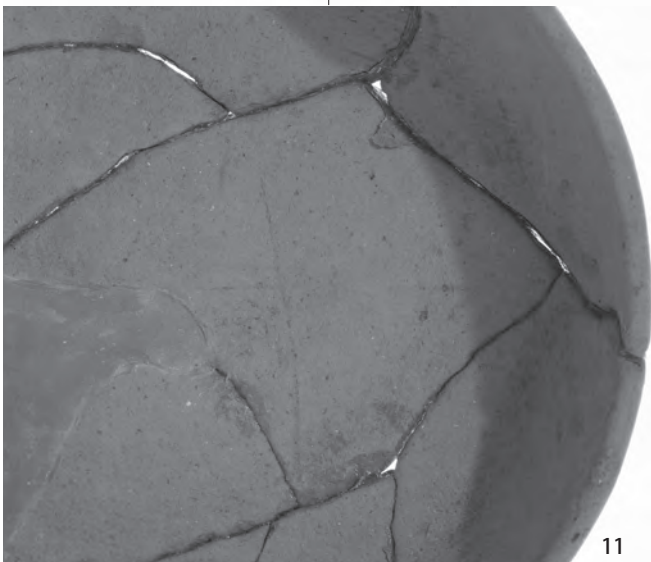
出土転用碗③



出土墨書土器・刻書土器①



8



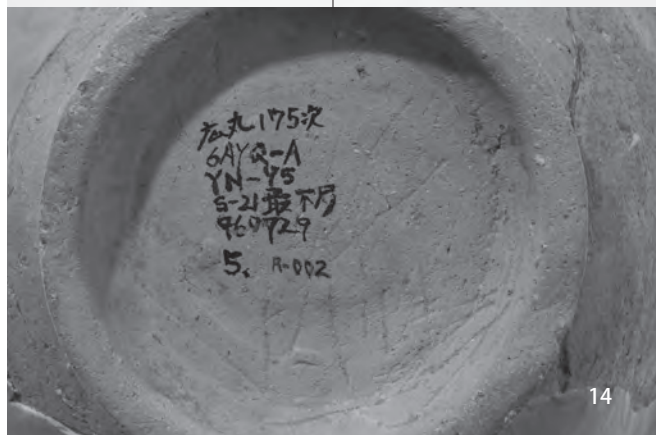
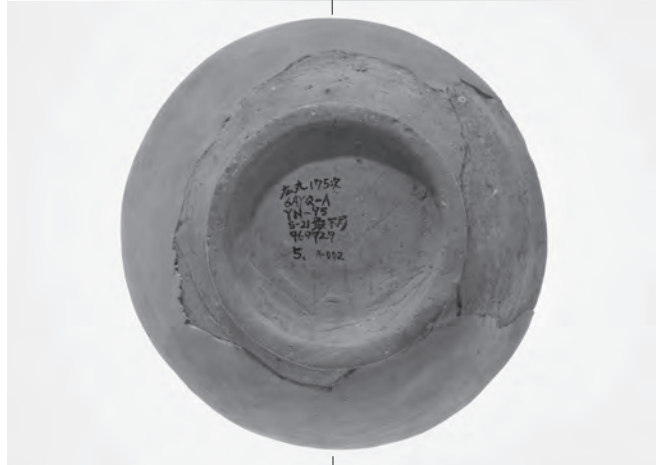
11



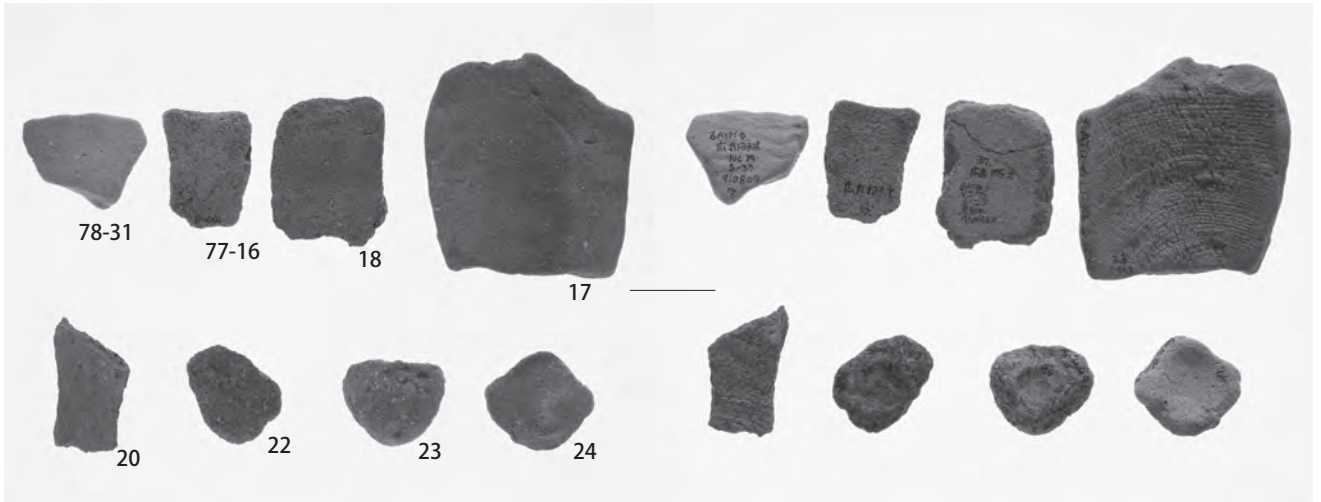
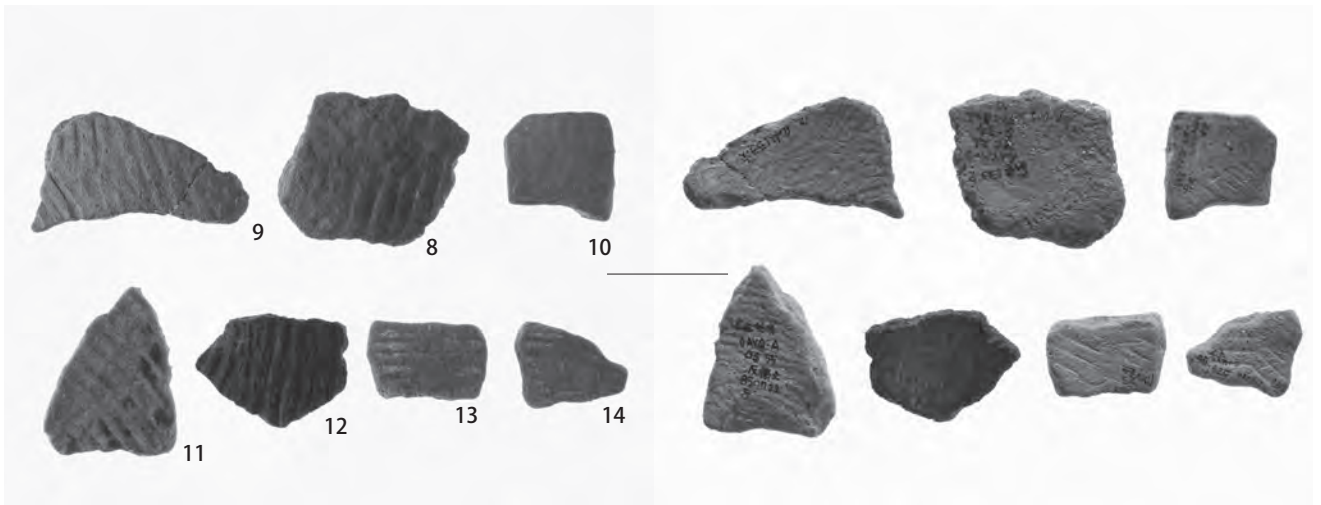
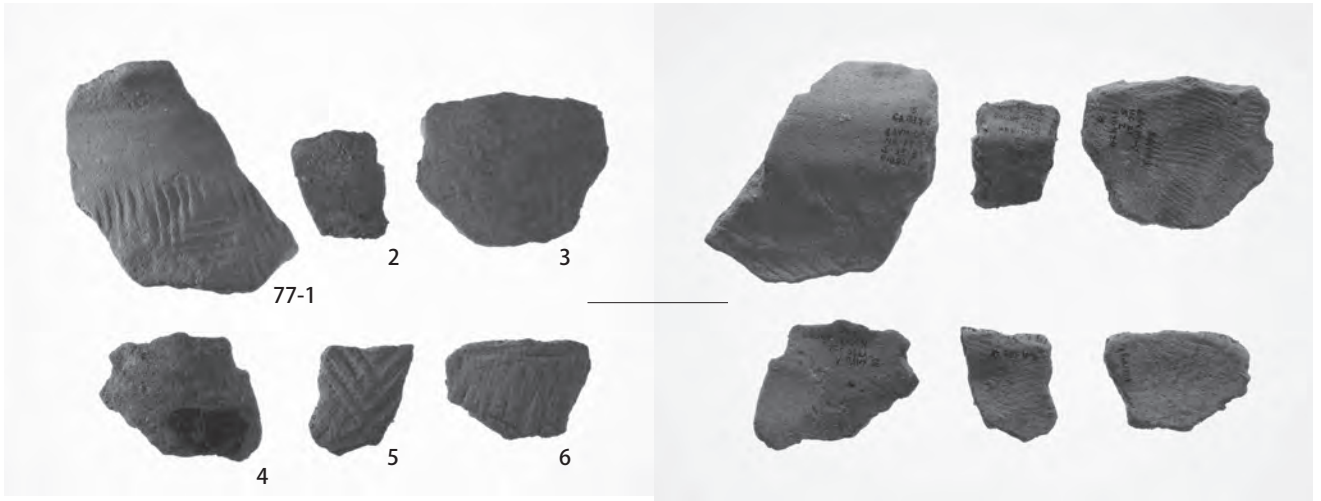
12



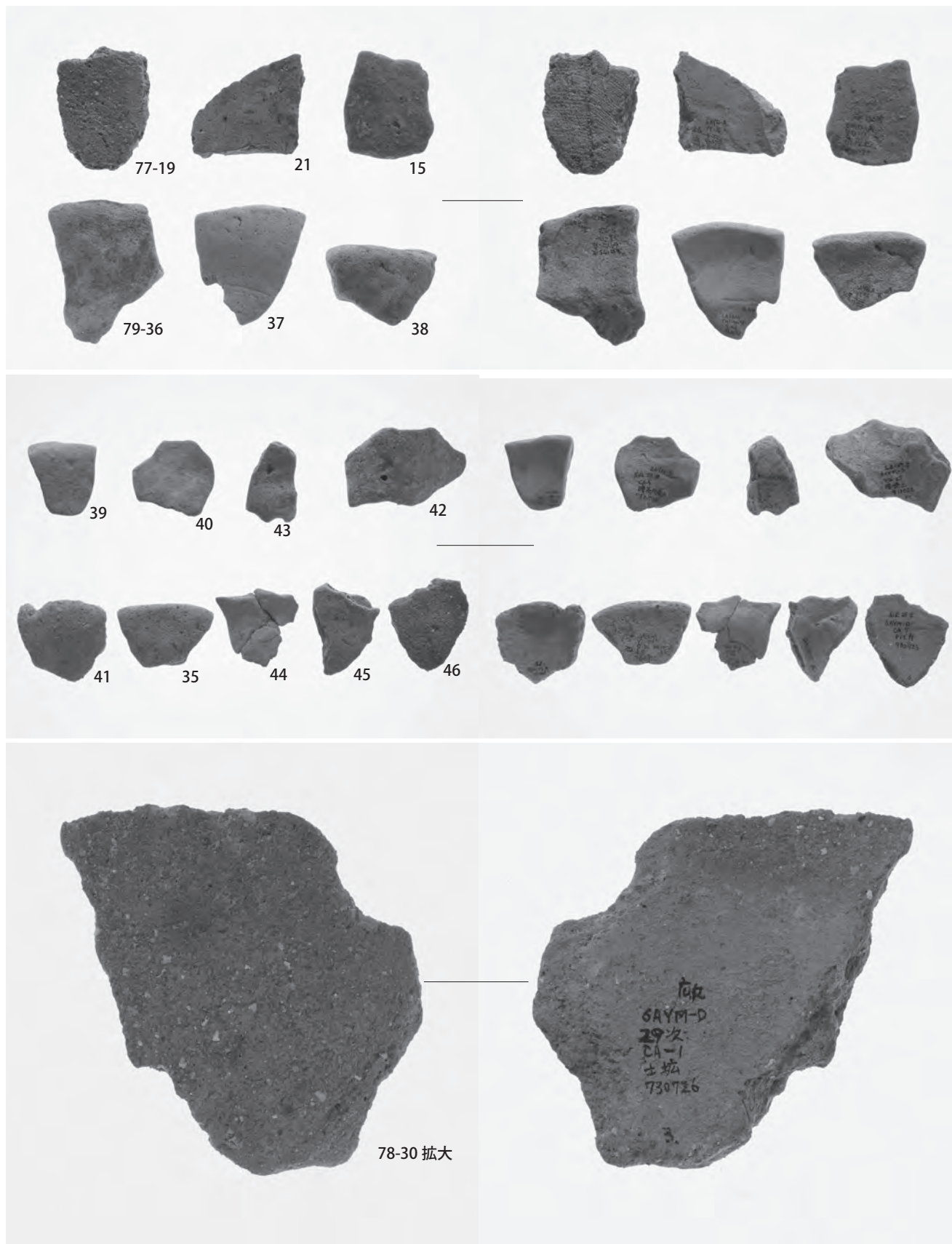
13



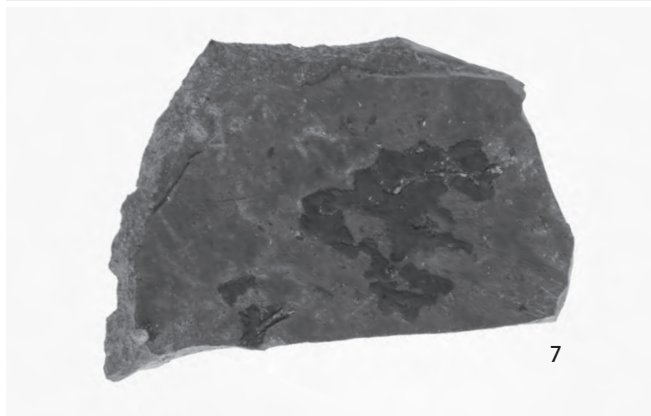
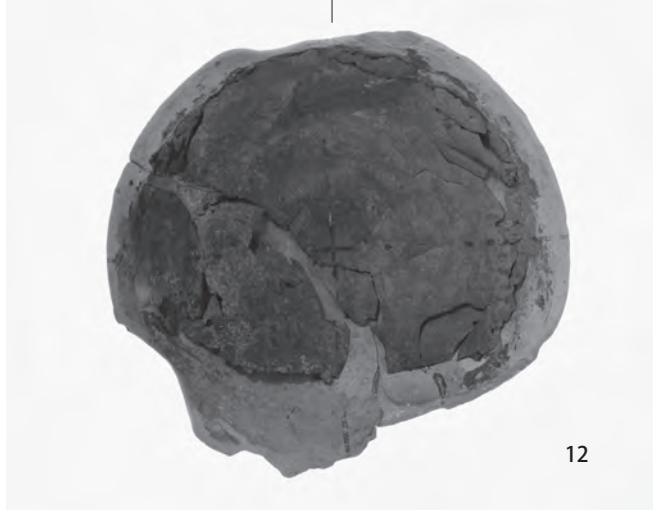
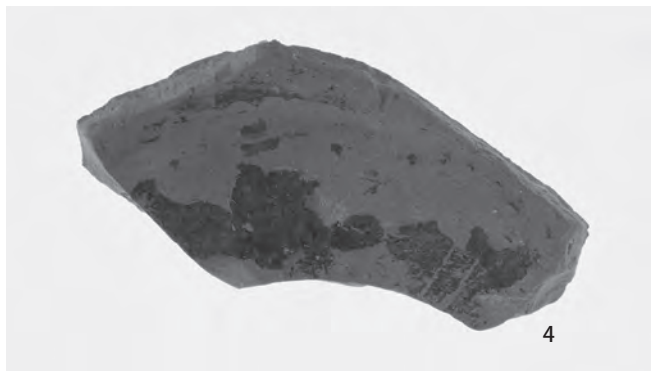
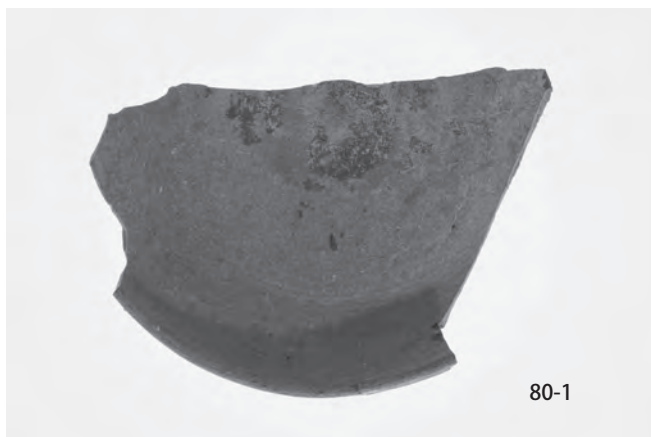
14



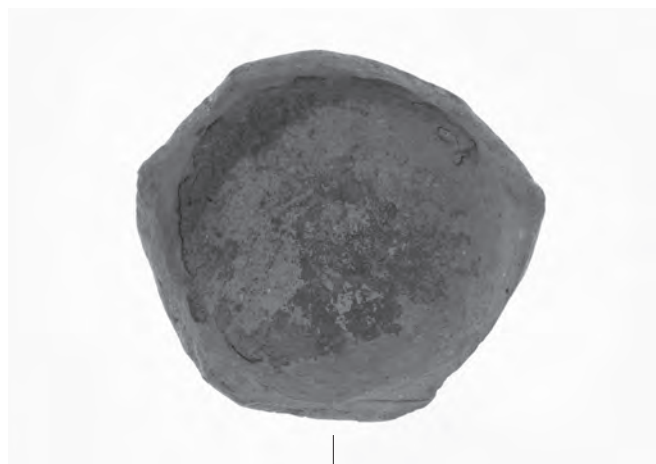
出土製塩土器①



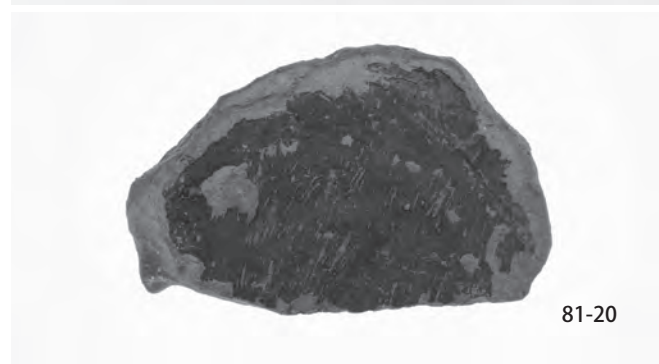
出土製塩土器②



出土漆附着土器①



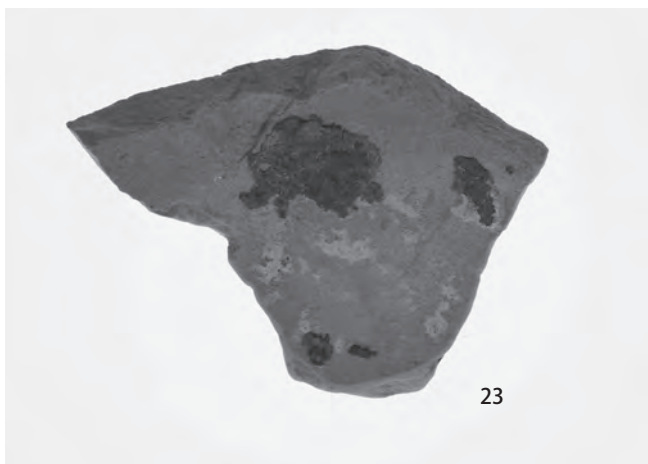
18



81-20



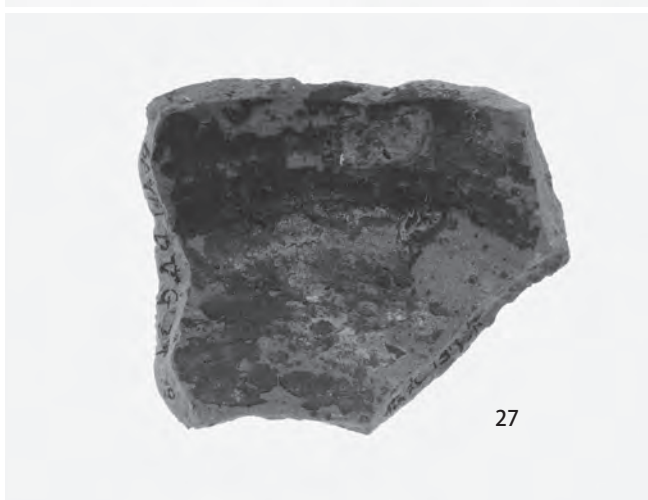
25



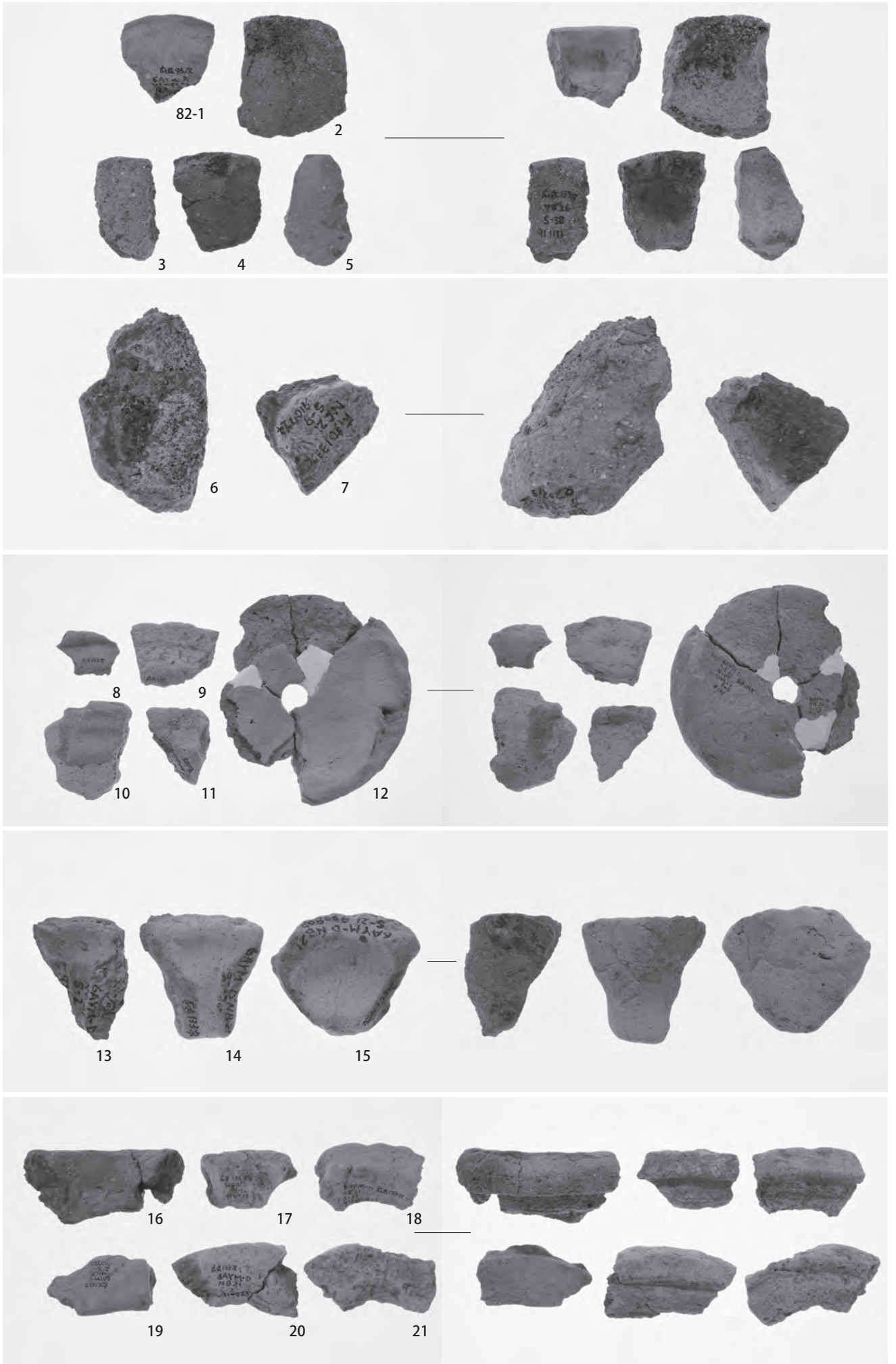
23



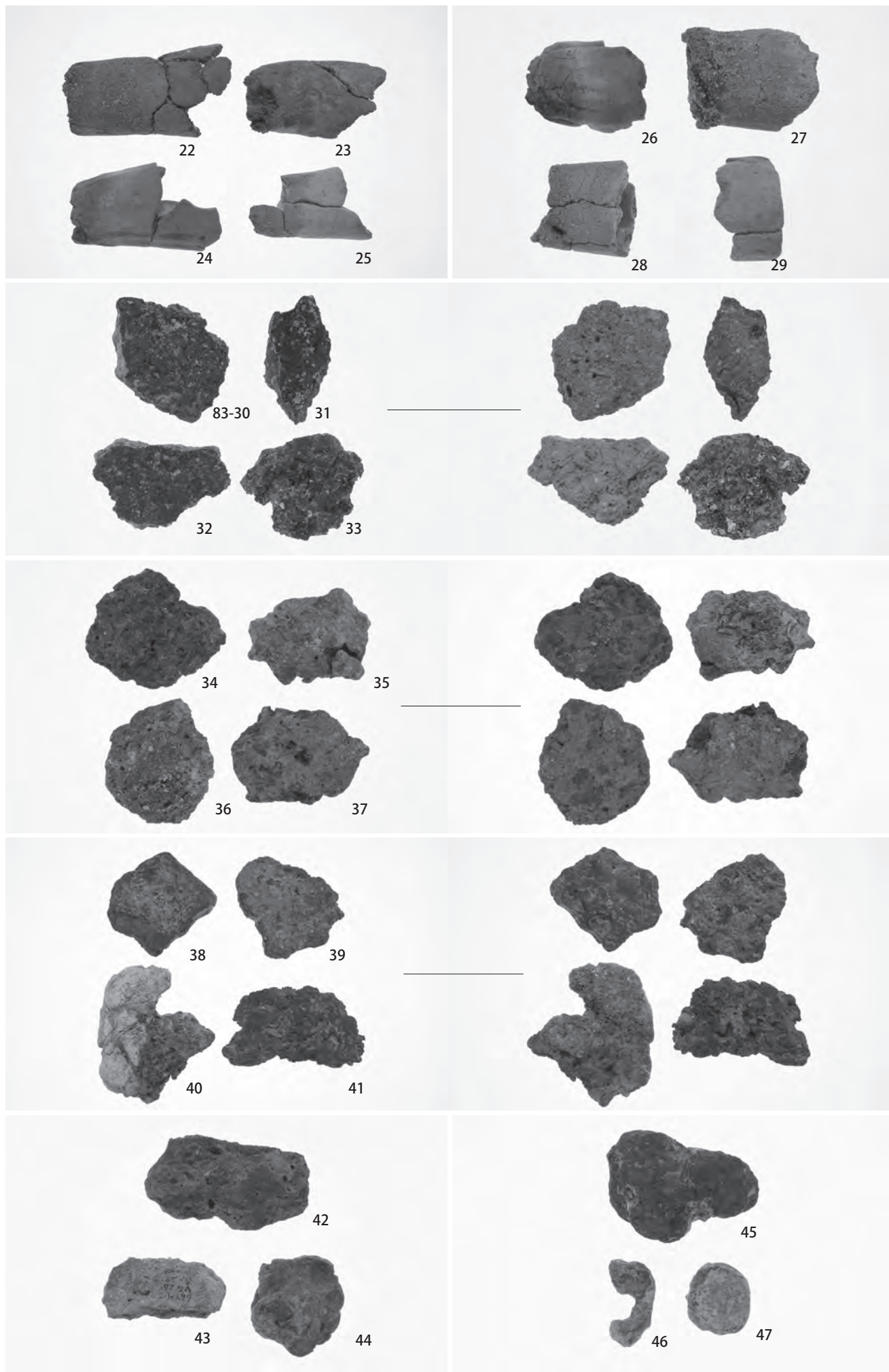
26

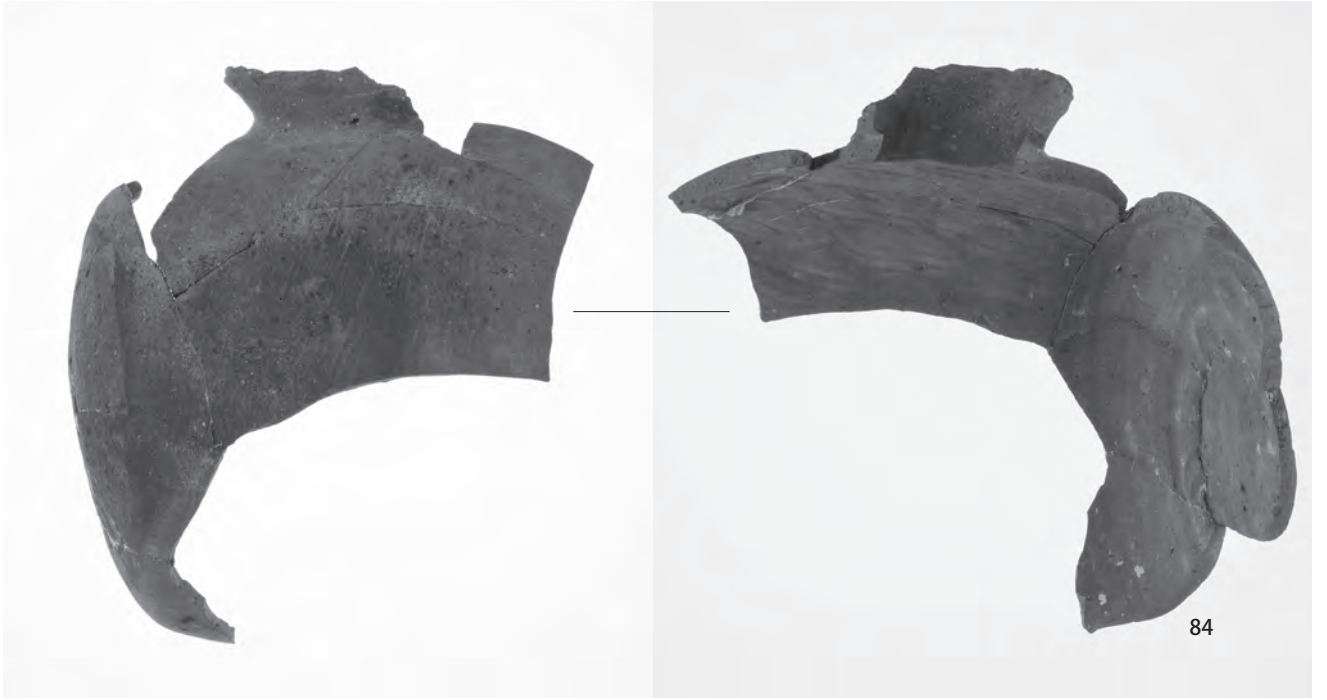


27



出土鍛冶・鑄造関連遺物①





出土白色物質付着土器

報告書抄録

ふりがな	だざいふせいちょうしゅうへんかんがあと							
書※名	大宰府政庁周辺官衙跡							
副書名	広丸地区 遺物編							
巻※次	XI							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	小田和利・大庭孝夫・下原幸裕・楮佐古幸謙・小澤佳憲（編集）							
編集機関	九州歴史資料館							
所在地	〒 838 - 0106 福岡県小郡市三沢 5208 - 3 Tel.0942 - 75 - 9575							
発行年月日	平成 30 (2018) 年 3 月 31 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
だざいふせいちょうしゅうへんかんがあと(ひろまるちく)	ふくおかけんだざいふしかんぜおんじ	40221	210316	33°	130°	19730620 ～ 20140626	7093	学術調査 住宅建設
大宰府政庁周辺官衙跡(広丸地区)	福岡県太宰府市 観世音寺 2 丁目 216 番地 他			30'	30'			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
大宰府政庁周辺官衙跡(広丸地区)	官衙	奈良～ 平安時代	掘立柱建物・柵・溝・井戸・土坑・土壙墓・ 鑄造関連・整地層	土器・陶磁器・瓦磚類・木製品・ 金属製品・土製品・石製品・ 生産関連遺物			多数の建物・井戸 条坊に対応する区画	
概要	<p>本報告書は、昭和 46 年度から九州歴史資料館が進めてきた大宰府史跡の発掘調査の中で、大宰府政庁の周辺に広がる官衙地区のうち、広丸地区に関する正式報告書の第 2 冊目にあたる。</p> <p>広丸地区には、多くの掘立柱建物が確認できるが、ほとんどは 8 世紀後半～ 10 世紀前半に収まるもので、井戸などの他の遺構についても同様の傾向にあることが判明した。また、10 世紀前半以降は建物群に代わり土壙墓群が営まれるようになるなど、土地利用形態の大きな変化を捉えることができた。こうした状況は、大宰府政庁Ⅲ期の段階に官衙としての機能を失っていることを示すが、東側の不丁地区や日吉地区などでも同様の状況が読み取れることから、少なくとも前面官衙域に共通した変化と捉えることができる。</p>							

既刊報告書一覧

- 『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅰ－政庁前面広場地区－』2009年3月
『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅱ－日吉地区－』2010年3月
『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅲ－不丁地区 遺構編－』2011年3月
『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅳ－不丁地区 遺物編－』2012年3月
『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅴ－不丁地区 遺物編2－』2013年3月
『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅵ－不丁地区 図版編－』2014年3月
『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅶ－大楠地区 遺構編－』2015年3月
『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅷ－大楠地区 遺物編－』2016年3月
『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅸ－大楠地区 総括・図版編－』2017年3月
『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅹ－広丸地区 遺構編－』2017年3月
『大宰府政庁周辺官衙跡ⅩⅠ－広丸地区 遺物編－』（本書）

福岡県行政資料	
分類番号 JH	所属コード 2117104
登録年度 30	登録番号 9

大宰府政庁周辺官衙跡ⅩⅠ －広丸地区 遺物編－

平成30（2018）年3月31日発行

発行 九州歴史資料館
福岡県小郡市三沢 5208－3
印刷 株式会社四ヶ所
福岡県朝倉市馬田 336